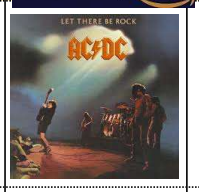
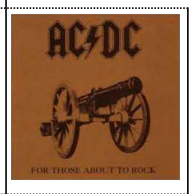
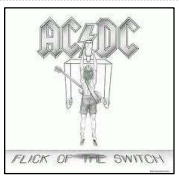
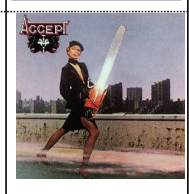
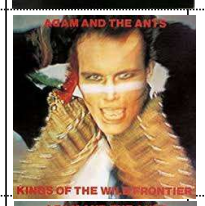
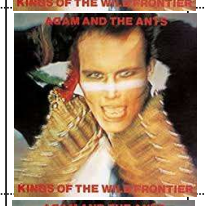
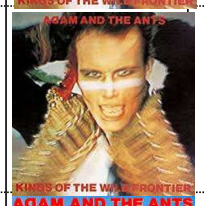
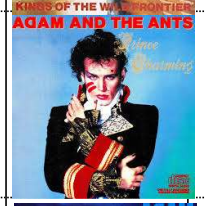
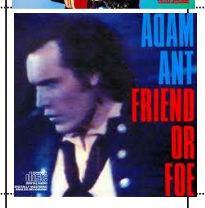
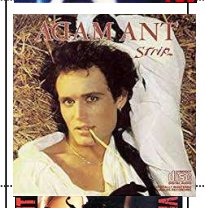
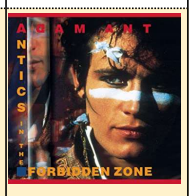
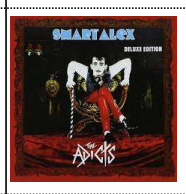
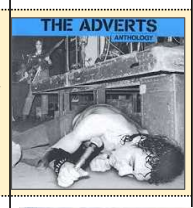
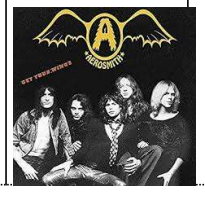
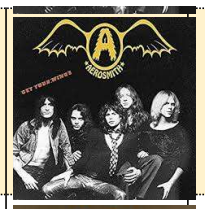
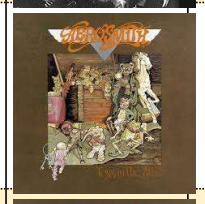
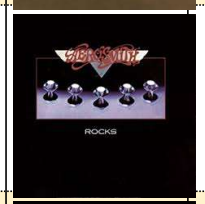
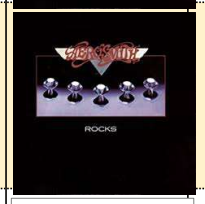
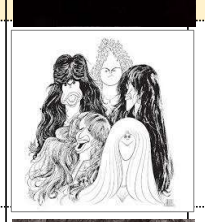
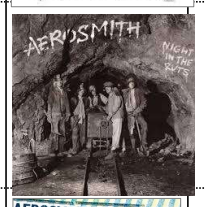
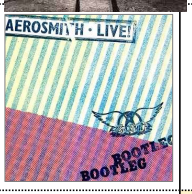
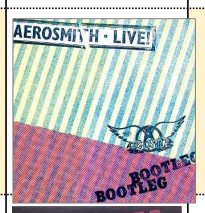
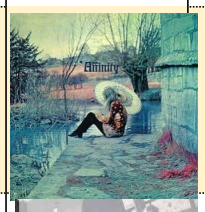
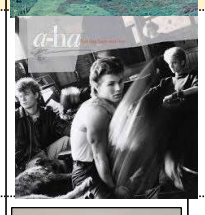
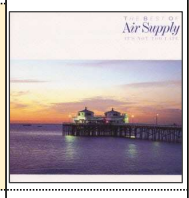
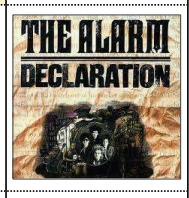
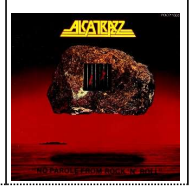
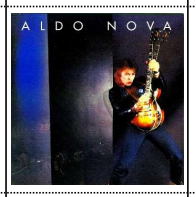
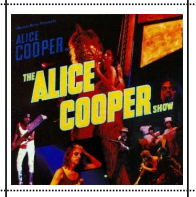
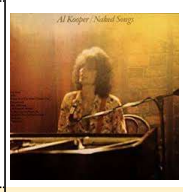
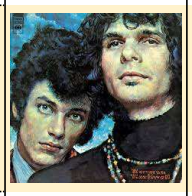
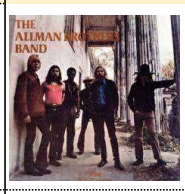
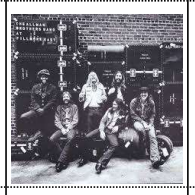
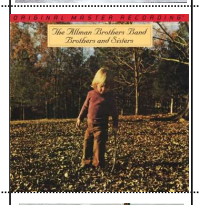
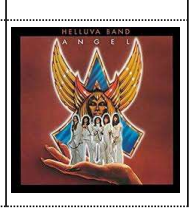
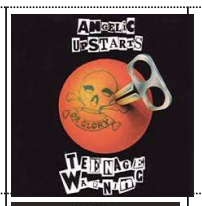
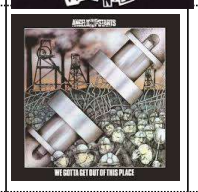
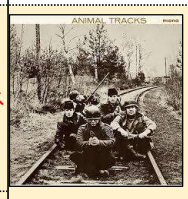
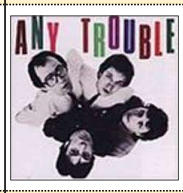
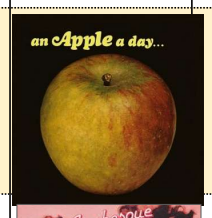
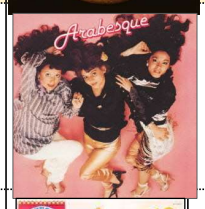
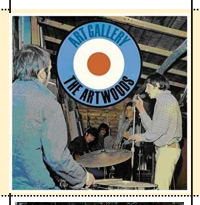
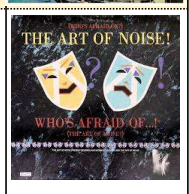
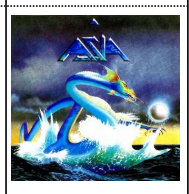
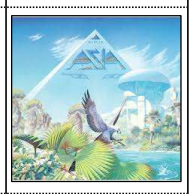
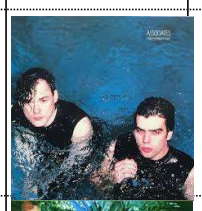
レコード LP 一覧(洋楽) A～I 順リスト

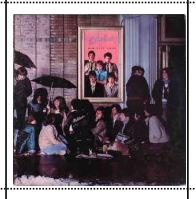
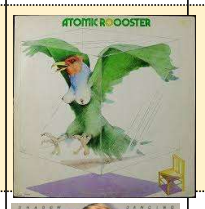
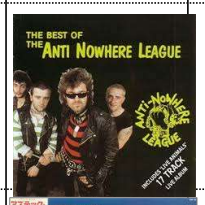
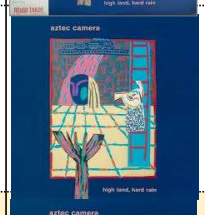
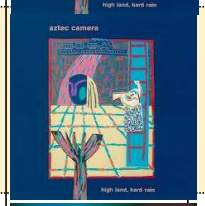
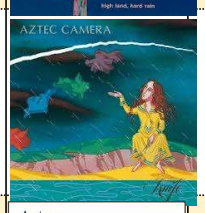
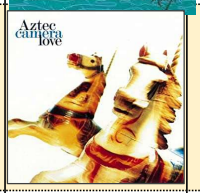
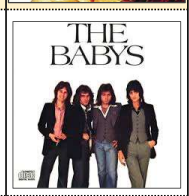
	アーティスト名	日本タイトル	ジャケット	発売日	ジャンル	レコードorCD	発売国	内容	収録曲	
A	ABBA	ヴーレ・ヴー		1979年	ポップス	レコード	日本	1979年リリースの6枚目のアルバム。全英1位、全米19位、日本でも1位を記録。アバのアルバムのみならず、ポップスの全アルバムの中でも屈指の傑作アルバムになっている。シングルカットされた「ヴーレ・ヴー」や「チキチータ」ももちろん名曲ですが、「エンジェルアイズ」や「キッシィズ・オブ・ファイア」といった目立たない位置にある曲も手を抜かずにつくられており、バラエティ溢れる名曲を揃えたアルバム。	**Side A** 1. アズ・グッド・アズ・ニュー 2. ヴーレ・ヴー 3. アイ・ハヴ・ア・ドリーム 4. エンジェルアイズ 5. ザ・キング・ハズ・ロスト・ヒズ・クラウン	**Side B** 1. ダズ・ユア・マザー・ノウ 2. イフ・イット・ワズント・フォー・ザ・ナイツ 3. チキチータ 4. ラヴァーズ 5. キッシィズ・オブ・ファイア
	ABBA	グレイテスト・ヒッツVol.2		1979	ポップス	レコード	日本	アバの代表曲14曲を収録したベスト盤。	**Side A** 1. Gimme! Gimme! Gimme! 2. Knowing Me, Knowing You 3. Take A Chance On Me 4. Money, Money, Money 5. Rock Me 6. Eagle 7. Angeleyes	**Side B** 1. Dancing Queen 2. Does Your Mother Know 3. Chiquitita 4. Summer Night City 5. I Wonder (Departure) 6. The Name Of The Game 7. Thank You For The Music
	ABBA	S.O.S.～ベスト・オブ・アバ		2001	ポップス	CD	日本	ビョルン・ウルヴァース(ギター)、ベニー・アンダーソン(ピアノ)、アグネタ・フォルツコグ(ヴォーカル)、フリーダ(アンニ・フリード)・リングスタッド(ヴォーカル)によるスウェーデンが生んだ人気グループのベスト・アルバム。	1. S.O.S 2. チキチータ 3. ダンシング・クイーン 4. ザッツ・ミー 5. テイク・ア・チャンス 6. イーグル 7. サマー・ナイト・シティー 8. ヴーレ・ヴー 9. ギミー! ギミー! ギミー!	10. ザ・ウィナー 11. オン・アンド・オン・アンド・オン 12. スーパー・トゥルーパー 13. ママ・ミア 14. マネー、マネー、マネー 15. ノウイング・ミー、ノウイング・ユー 16. きらめきの序曲 17. 悲しきフェルナンド 18. レイ・オール・ユア・ラヴ・オン・ミー 19. 恋のウォータールー
	ABC	ルック・オブ・ラブ		1982	ニューウェーブ	レコード	US	1980年代に一世を風靡したイギリスのニューロマンティック・バンドで、音楽ジャーナリストのマーティン・フライ(ボーカル)と、ヴァイス・ヴァーサというバンドが合体し結成。フライとマーク・ホワイト(ギター、キーボード)以外のメンバーは流動的。ABCのファーストアルバムで全英1位獲得。このアルバムから「涙まだまだ(Tears Are Not Enough)」(全英19位)「Poison Arrow」(全英6位)「ルック・オブ・ラブ」(全英4位)「我が心のすべてを(All Of My Heart)」(全英5位)と4曲のビッグヒットを含む傑作アルバム。	**Side A** 1. ショウ・ミー 04:02 2. ポイズン・アロウ 03:25 3. メニー・ハッピー・リターンズ 03:57 4. 涙まだまだ 03:31 5. バレンタイン・デイ 03:42	**Side B** 1. ルック・オブ・ラヴ (パート1) 03:27 2. デイト・スタンプ 03:52 3. 我が心のすべてを 05:12 4. 4エバー2ギャザー 05:30 5. ルック・オブ・ラヴ (パート4) 00:59
	ABC	ルック・オブ・ラブ		1982	ニューウェーブ	CD	日本			
	AC/DC	ロック魂		1977	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	US	1977年に発表したアルバム。オーストラリア盤オリジナルLPは「クラブソディー・イン・ブルー」を含む8曲入りの内容で、ジャケットはギターのネックの写真だが、インターナショナル盤では「クラブソディー・イン・ブルー」の代わりに「素敵な問題児」が収録されて、ジャケットも変更された。本作から外された「クラブソディー・ブルー」は、2009年発売のボックス・セット『Backtracks』に収録された。本作でイギリスやアメリカでもチャート・インを果たし、全英17位[1]・全米154位に達した。収録曲「ホール・ロッタ・ロジー」は、「AC/DCのレパートリーの中でも特に愛されている楽曲の一つ」と評されており、1980年代初期、『ケラング!』誌の読者投票による「オールタイム・フェイヴァリット・ヘヴィ・メタル・ソング」でトップに達した。本作は、マーク・エヴァンス在籍時としては最後のアルバム	**Side A** 1. ゴー・ダウン 2. 仲間喧嘩はやめようぜ 3. ロック魂 4. バッド・ボーイ・ブギ	Side B 1. 素敵な問題児 2. オーバードウス 3. 地獄は楽しい所だぜ 4. ホール・ロッタ・ロジー
	AC/DC	パワーエイジ		1978	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	US	オリジナルは78年作、AC/DCの通産5作目となったアルバムで、いよいよ彼等の横ノリの強靭なグルーヴが完成したー。前作のバンキッシュな乗りも初期の魅力ではありましたが、今迄になくキャッチーなオープニング、「Rock'n'Roll Damnation (地獄のロックン・ロール)」を始め、「地獄のハイウェイ」に続く大衆性がブンブン漂っています。もちろん時代への迎合や、媚などはありません。あくまでもAC/DCが金太郎飴的な味わいと、続ける事の美学を貫いたこそのアルバムで、パンク旋風が吹き荒れる中でも一定の評価を得られていたのだと思います。	**Side A** 1. 地獄のロックン・ロール 2. ダウン・ペイメント・ブルース 3. 必殺の弾丸 4. リフ・ラフ 5. 悪徳の街	Side B 1. ホワット・ネクスト・トゥ・ザ・ムーン 2. 狙いを外すな 3. アップ・トゥ・マイ・ネック・イン・ユー 4. キックド・イン・ザ・ティース
	AC/DC	ギター殺人事件		1978	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	日本	AC/DCの真骨頂はライヴにあり!初期のBEST OF AC/DCといっても過言ではない初のオフィシャル・ライヴアルバム。当時リリースされていたオリジナル・アルバムから満遍なく選曲され、『パワーエイジ』発売後に行われたワールド・ツアーの模様を余すところなく収録した本作品では、いまや伝説となったボン・スコットの鬼気迫る壮絶なライヴ・パフォーマンスが炸裂!	**Side A** 1. リフ・ラフ 2. 地獄は楽しい所だぜ 3. バッド・ボーイ・ブギ 4. ジャック 5. 素敵な問題児	**Side B** 1. ホール・ロッタ・ロジー 2. 地獄のロックンロール 3. ハイ・ヴォルテージ 4. ロック魂 5. 俺らはロッカー
	AC/DC	地獄のハイウェイ		1979	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	US	1979年に発表したアルバム。メジャーデビューから5作目にあたり、アメリカではビルボード最高位17位につけプラチナ・ディスクを、イギリスでもゴールド・ディスクを獲得した。 タイトル曲がヒット、そして発売の翌年2月に(メジャー・デビュー後の)初代ヴォーカリストであったボン・スコットが急死し遺作となったことから、バンドとしては重要な位置を占めるアルバムであり最高傑作。『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』に於いて、200位にランクイン	**Side A** 1. 地獄のハイウェイ 2. 女たちのリズム 3. 地獄の絆 4. タッチ・トゥー・マッチ 5. 闇から追い出せ	**Side B** 1. ショット・ダウン 2. 熱くやろうぜ 3. 流血の叫び 4. ハングリー・マン 5. 夜のプローラー
	AC/DC	バック・イン・ブラック		1980	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	US	1980年の発売。メジャー6作目。ボーカルのボン・スコットが泥酔中の事故で亡くなり、後任にブライアン・ジョンソンが加入して最初に制作されたアルバム。このアルバムの総売り上げは5,000万枚を超えており、アメリカでの総売上は2019年の時点で2,500万枚で(RIAAによる)、イーグルス『グレイテスト・ヒッツ 1971-1975』、マイケル・ジャクソン『スリラー』、イーグルス『ホテルカリフォルニア』に次ぐ世界で4番目に売れたアルバムとなった。ビルボードでは最高4位だが、131週チャートインのロングセラーとなった。タイトル・ナンバーのリフは、映画『スクール・オブ・ロック』など様々な所で断片的に用いられている。『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』に於いて、77位にランクインした。	**Side A** 1. 地獄の鐘の音 - Hells Bells - 5:12 2. スリルに一撃 - Shoot to Thrill - 5:17 3. 危険なハニー - 3:35 4. ロックン・ロール・ハリケーン- 3:31 5. 欲望の天使 - 4:15	**Side B** 1. バック・イン・ブラック- 4:15 2. 狂った夜 - 3:30 3. 死ぬまで飲もうぜ - Have a Drink on Me - 3:58 4. シェイク・ア・レグ - 4:05 5. ノイズ・ボルーション- 4:16
	AC/DC	悪魔の招待状		1981	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	US	1981年に発表したアルバム。プロデューサーは、3作連続となるロバート・ジョン・マット・ラング。 AC/DCのアルバムとしては初めて、全米チャートで1位を獲得。前作『バック・イン・ブラック』ほどのロングセラーとはならなかったが、アメリカだけで400万枚以上を売り上げた。第1弾シングル(3曲目)の「ゲット・イット・アップ」は全英13位・全米44位、第2弾シングル(1曲目)「悪魔の招待状」は全英15位に達した。「悪魔の招待状」は、曲の後半で大砲の音をフィーチャーしており、ライヴでも本物の大砲を使用。2曲目「フィンガー・オン・ユー(Put the Finger on You)」は、全米メインストリーム・ロック・チャート38位となり、この曲は、アルバムの中でも一番キャッチーな曲調。前作では、まだしっくり来てなかったブライアンのボーカルが、ゆったりとした曲調が多いこのアルバムでは、楽曲に上手く溶け込んでいる。 アルバムの出来は賛否両論に分かれるアルバム。	**Side A** 1. 悪魔の招待状 - 5:44 2. フィンガー・オン・ユー- 3:25 3. ゲット・イット・アップ - 3:54 4. 悪魔の一滴 - 3:30 5. スノウボール - 3:23	**Side B** 1. エヴィル・ウォークス- 4:23 2. C.O.D. - 3:19 3. 無法地帯 - 4:23 4. 長いナイフの夜- 3:25 5. 殺しの呪文 - "Spellbound" - 4:39
	AC/DC	征服者		1983	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	日本	83年作、ロバート・ジョン・マット・ランジとの強力タッグで3部作とも言えるバンドのピークを代表する作品が続きましたが、本作では初のセルフ・プロデュース、ジャケットも今までになく地味なものとなっています。それでもこれまでのAC/DC節をギュッと凝縮した傑作となっています。モーターヘッドばりのスピード・ナンバー、「ランドスライド」が新機軸とも言え、ブライアン・ジョンソンの力量の幅の広さが証明されました。また「ナーヴァス・シェイクダウン」や「ディープ・イン・ザ・ホール」では、王道とも言えるAC/DC節が炸裂、キャッチーなサビも健在です。 モンスター・アルバムが2枚続いただけに、どうしても目立たないアルバムだが傑作。	**Side A** 1. ライジング・パワー 2. 炎の館(やかた) 3. 征服者 4. ナーヴァス・シェイクダウン 5. ランドスライド	**Side B** 1. 殺しの報酬 2. ディープ・イン・ザ・ホール 3. ベッドラム・イン・ベルジャン 4. 悪魔の大陸 5. ブレイン・シェイク
	ACCEPT	殺戮のチェインソー		1979	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	ドイツ	79年作、アクセプトのデビュー・アルバム。印象的なジャケットと共に、彼等の存在は当時のシーンにおいてはかなり衝撃的だった。ジャーマン・メタルと言えばスコーピオンズというメタル・ファンの常識に、このアクセプトは、N.W.O.B.H.M.ブームの流れにリンクするには十分のインパクトを持っています。 ウド・ダークシュナイダーはまだ長髪で若く、その特徴的な声もすでに独特の存在感を放っていますが、ユーライア・ヒープの様なコーラス・ハーモニーも手伝いどこかヘタウマ的な魅力が新鮮に聴こえます。 シングルとなった「Lady Lou」のリフは完全なる黄金のN.W.O.B.H.M.節となっており、シンプルかつキャッチー、同時代のサクソンの様な男臭さと哀愁感が目立ちます。湿った欧州的涙腺崩壊バラード、「Seawinds」は先輩格のスコーピオンズ譲りと思わせたり、スピード・ナンバーの「That's Rock 'n Roll」ではロブ・ハルフォードを彷彿させる等、しっかりと当時の王道を押さえつつ、全体的にはかなり粗削り、ドタバタしたドラムもご愛敬といったところですが、恐るべき才能をそこかしこに感じさせます。以降5作目のアルバムで、彼等の人気絶頂期を代表する1枚です。	**Side A** 1. レディー・ルー 2. 限りなき戦い 3. シーウインズ 4. 侵略 5. 銃をとれ	**Side B** 1. 自由への逃避 2. 最後の叙情詩 3. ロックンロール 4. ヘルドライヴァー 5. ストリート・ファイター
	ACCEPT	メタル・ハート		1985	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	日本	スコーピオンズと共にジャーマン・メタルの雄として本格的パワー・メタルを80年代初頭から聴かせてくれたバンドですが、本作において装飾過多とも思えるドラマチック路線を強化しています。 メタッハーと連呼されるアルバム・タイトル曲にインパクトは、今聴いても色褪せていません。 導入部はチャイコフスキーの「スラヴ行進曲」、そしてギター・ソロはベートーヴェンの「エリーゼのために」を大胆に再現しています。 彼等の場合、クラシックはあくまで演出の一部で、一歩間違えればギャグにも成りかねないギリギリの所でキャッチーなメタル・ソングとして昇華させているのが特徴です。 日本では人気コミックに名前が使われる程の知名度を誇るウド・ダークシュナイダーのキャラが、このバンドのイメージを決定付けているわけですが、彼の個性とバンド・サウンドの徹底した大袈裟な誇張が、81年代のメタル・シーンと見事マッチしています。	**Side A** 2. メタル・ハート 2. ミッドナイト・ムーヴァー 3. アップ・トゥ・ザ・リミット 4. 正邪の選択 5. スクリーミング・フォー・ア・ラヴバイト	**Side B** 1. 飢えた奴ら 2. ドッグス・オン・リーズ 3. 生存闘争 4. リヴィング・フォー・トゥナイト 5. バウンド・トゥ・フェイル
	ACCEPT	ライブ・イン・ジャパン		1986	ハードロック&ヘビィメタル	レコード	日本	1986年発表。初のジャパンツアーとなった1985年9月19日の名古屋公演をライヴ録音したもの。荒々しい鋼のような演奏とライヴならではの異常な熱狂ぶりが楽しめる貴重なドキュメンタリー。全6曲とフル・ライヴアルバムではないもののたたみ掛ける構成は圧巻の一言。オーヴァーダブなしのほぼ一発録りの本作は臨場感に溢れ、スタジオテイクを上回る迫力ある音が心地よい。間奏で「エリーゼのために」を取り入れたHMアンセム的な曲"メタル・ハート"に始まり、バンド史上最もポップな曲"スクリーミング・フォー・ア・ラブバイト"など、このバンドの魅力をうまくあらわしておりバランスの良い選曲。演奏も全盛期時なので、非の打ち所がありません。	**Side A** 1. メタル・ハート 2. スクリーミング・フォー・ア・ラブバイト 3. アップ・トゥ・ザ・リミット	**Side B** 1. ヘッド・オーバー・ザ・ヒールズ 2. ラブ・チャイルド 3. リビング・フォー・トゥナイト

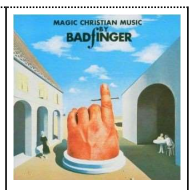
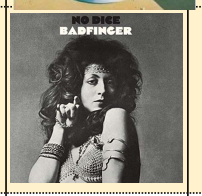
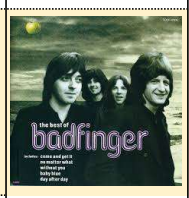
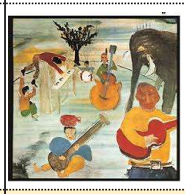
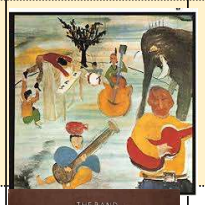
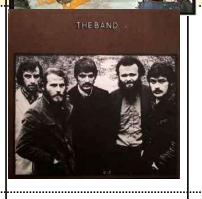
	ADAM AND THE ANTZ			1979	パンク	レコード	UK	1979年にリリース。全英16位とまずまずのヒットとなり、ゴールドディスクを獲得。1980年代にニューロマンティックムーブメントを作り出したイギリスのニュー・ウェイヴ/ポストパンクバンド。アダム・アントをリーダーとして1977年に結成し1978年にデビュー。シンプルで曲によっては性急なポストパンク的ロックにグラマラスなビジュアルを織り交ぜた1STアルバム。マルコムと組む以前のインディー時代のダークな傑作。「Cartrouble (Part 1&2)」を含む全11曲収録。本格的にデビューする前のマネージャーはマルコム・マクラーレンだったが裏切られ、バンドメンバーをすべて引き抜かれ、そのバンドメンバーは、後にバウ・ワウ・ワウを結成する。	**Side A** 1. Cartrouble (Parts 1 & 2) 2. Digital Tenderness 3. Nine Plan Failed 4. Day I Met God 5. Tabletalk 6. Cleopatra	**Side B** 7. Catholic Day 8. Never Trust A Man (With Egg On His Face) 9. Animals And Men 10. Family Of Noise 11. The Idea
	ADAM AND THE ANTZ	アダムの王国		1980	ニューウェイブ	レコード	UK	1980年10月に先行シングル「ドッグ・イート・ドッグ」が（全英4位、全米15位）。アルバムは全英10週連続1位となり（プラチナディスク）、1981年に最も売れたアルバムとしてブリット・アワードで最優秀ブリティッシュ・アルバムを獲得。このアルバムで一気に人気が爆発し、ファーストアルバムから一気に路線変更しその原住民族的（ジャングルビート）なサウンドや西部劇風と曲が病みつきになる。また、メンバー全員が海賊ルックに着飾った独特のビジュアルが全ロック・ファンを打ちのめし一世を風靡した。 間違いなく**アダムアントの最高傑作！**	**Side A** 1. ドッグ・イート・ドッグ 2. アント・ミュージック 3. ライオンの餌食　Feed Me To The Lions 4. ロス・ランチェーロス 5. 蟻の侵略　Ants Invasion 6. ザ・キラー　Killer In The Home	**Side B** 1. 略奪の凱歌　Kings Of The Wild Frontier 2. 五人の英雄　The Magnificent Five 3. マジになるな　Don't Be Square 4. ジョリー・ロジャー 5. 歴史を刻む　Making History 6. 人間　The Human Beings
	ADAM AND THE ANTZ	アダムの王国		1980	ニューウェイブ	レコード	US			
	ADAM AND THE ANTZ	アダムの王国		1980	ニューウェイブ	レコード	日本			
	ADAM AND THE ANTZ	プリンス・チャーミング		1981	ニューウェイブ	レコード	日本	通算3枚目のアルバム。アダム・アントの経歴の中で最もヒットしたシングル「スタンド・アンド・デリバー」を含む1981年発売の「プリンス・チャーミング」。 前作に続き本作も大ヒット。白人ラップの先駆けのAnt Rapなど、よりポップになったアルバムで、アルバム自体売れたが1982年にあっけなくアダム＆ジ・アンツは解散。バンド形態としては最後のアルバム。	**Side A** 1. スコーピオ 2. 巨匠ピカソ 3. プリンス・チャーミング 4. ファイヴ・ガンズ・ウェスト 5. ヴードゥーの呪い	**Side B** 1. スタンド・アンド・デリバー 2. マイル・ハイ・クラブ 3. アント・ラップ 4. モウホーク 5. S.E.X.
	ADAM ANT	フレンド・オア・フォウ（敵か! 味方か!）		1982	ニューウェイブ	レコード	US	解散後ギターのマルコ・ピローニと共に活動をして行く。1982年にソロ第1弾としたアルバム。ロカビリーやファンクといった要素を取り入れて、音楽性の幅は広がっているが、アクの強いキャラはさすがにスポイルされる事なく、彼の妖しさタップリの個性が生かされている。アンツ時代よりもバラエティに富んだ曲調が並ぶ事により、80's NEW WAVEの引き立て役としてかなりの貢献をしたアルバムだ。元々彼が持っていたパンキッシュな資質も透けて見える様になり、それがまたどうもいかがわしいロックとして本作を演出している。今聴いてもウキウキしてしまうビートは、時代の徒花として終わらせるにはもったいない魅力を持っている。アルバムは全英5位、全米16位と売れ、シングル「Goody Two Shoes」も（当初のクレジットはADAM AND THE ANTS名義）全英1位、全米12位とソロとして最高のセールスを記録。その他「riend or Foe」も全英9位、「Desperate but not Serious」は全英で33位、全米66位のヒット曲が含まれるアルバム。	**Side A** 1. Friend Or Foe3:21 2. Something Girls3:50 3. Place In The Country 2:48 4. Desperate But Not Serious 4:12 5. Here Comes The Grump 3:33 6. Hello, I Love You2:37	Side B 1. Goody Two Shoes 3:28 2. Crackpot History And The Right To Lie 2:44 3. ade Of Money3:28 4. Cajun Twisters2:57 5. Try This For Sighs 3:03 6. A Man Called Marco 3:26
	ADAM ANT	ストリップ		1983	ニューウェイブ	レコード	US	アダムアンツのソロでの2枚目のアルバム。ソロ1作目の『Friend or Foe』はほぼアダム＆ジ・アンツの路線を踏襲しながらよりポップに寄せた作りで、「Goody Two Shoes」は比較的よく知られたヒット曲となったが、ここに来てようやくワンパターンから脱却した。出て来たのは意外にもイギリス人らしい品のいいポップソングに仕上がっておりヒットとはならないが非常に良い出来になっている。	**Side A** 1. Strip 3:49 2. Baby, Let Me Scream at You 4:07 3. Libertine 4:20 4. Spanish Games 3:00 5. Vanity 4:07	Side B 1. Puss 'n Boots 3:52 2. Playboy 3:51 3. Montreal 4:23 4. Navel To Neck 3:41 5. Amazon 3:51
	ADAM ANT	ヴィヴ・ル・ロック		1985	ニューウェイブ	レコード	日本	1985年の大きくイメージチェンジしたアダムアントのソロ3作目。プロデュースはトニー・ビスコンティ。ギターロック満載。すべての楽曲が捨て曲無しで、メロディが特に素晴らしい。ポップでキャッチーなメロディに彩られた作品でアメリカでは人気があったらしい。チープな感じとグラマラスな感じが最終的にゴージャスな雰囲気を醸し出しています。ジグジグスパトニックに似ていて、品があり。彼の前向きな姿勢が出ている意欲作。	**Side A** 1. ヴィヴル・ロック 2. ミス・シリング 3. レイザー・キーン 4. リップ・ダウン 5. スコーピオン・ライジング	Side B 1. アポロ9 2. ヘルズ・エイト・エイカーズ 3. ピンナップ・ボーイズ 4. ノー・ザップ 5. P.O.E.
	ADAM ANT			1990	ニューウェイブ	レコード	US	80年代初期に、一時はイギリスの国中にセンセーショナルを巻き起こしたアントミュージック。アダム・アント率いるジ・アンツとアダム・アントのソロ活動でのヒット曲満載のベストアルバム。本当に病みつきになったこの音楽をもう一度聴いて欲しい！	1. Zerox 2. Whip In My Valise 3. Car Trouble 4. Kick! 5. Kings Of The Wild Frontier 6. Antmusic 7. Dog Eat Dog 8. Los Rancheros 9. Killer In The Home 10. Stand And Deliver	11. Beat My Guest 12. Prince Charming 13. Ant Rap 14. Desperate But Not Serious 15. lace In The Country 16. Friend Or Foe 17. Goody Two Shoes 18. Strip 19. Puss 'n Boots 20. Apollo 9 21. Vive Le Rock
	ADICTS	ソング・オブ・プレイス		1981	パンク	レコード	UK	UKが生んだピエロ姿マンキーが率いるThe Adicts（ジ・アディクツ）」の1981年発売のデビューアルバム「Songs of Praise」。パンクと言ってもポップな感じのパンクで分かり易い曲調が多い。アディクツといえばこのアルバムが最高傑作。	**Side A** 1. England 2. Hurt 3. Just Like Me 4. Tango 5. Telepathic People 6. Mary Whitehouse 7. Distortion 8. Get Addicted	**Side B** 1. Viva la Revolution 2. Calling Calling 3. In the Background 4. Dynasty 5. Peculiar Music 6. Numbers 7. Sensitive 9. Songs of Praise
	ADICTS	スマート・アレックス		1985	パンク	レコード	UK	1985年RAZORからリリースされた3rdアルバム。ヒットシングル"BAD BOY"の他、白塗りジョーカーメイクのボーカリストMonkey 率いるパンク史上最高のエンターテイメントバンド。全般的にキャッチーでアップテンポで音もクリーンで聴きやすいポップパンク。Toy Dolls と並び称されるキャッチーな80'sポップパンクサウンド。 名曲「Bad Boy」「Tokyo」「Ode To Joy」等収録。	**Side A** 1. Ode to Joy 2. Smart Alex 3. Troubador 4. Tokyo 5. California 6. Crazy	**Side B** 1. Bad Boy 2. Jelly Baby 3. Maybe or Maybe Not 4. Rockin Wrecker 5. Runaway 6. You're All Fools
	ADVERTS	クロッシング・ザ・レッド・シー		1978	パンク	レコード	UK	TV Smith（Vo.＋G）が修道女学院から追放されて来たガールフレンド、女性ベーシスト「ゲイ・アドバート」と結成した4人組バンド「アドバーツ」の大名作のファーストアルバム。「ワン・コード・ワンダーズ」「ゲイリー・ギルモアの瞳」のシングル2曲を含む名曲揃いの初期ロンドン・パンク。ブライト・レコードよりリリースしたファースト・アルバム。プロデュースはジョン・レッキー。	**Side A** 1. One Chord Wonders 2. Bored Teenagers 3. New Church 4. On The Roof 5. New Boys 6. Bombsite Boy	**Side B** 1. No Time To Be 21 2. Safety In Numbers 3. Drowning Men 4. On Wheels 5. Great British Mistake 6. Gary Gilmores Eyes
	ADVERTS	アドヴァーツ アンソロジー		2003	パンク	CD	UK	UK/ロンドン出身の70's PUNKバンドADVERTSのベスト盤。奇才TV smithと紅一点のGaye Advertが中心になって結成され見た目のインパクトも加えてオンリーワンの存在は正にCOOL。暗く陰鬱なサウンドとひっくり返るようなヴォーカルがクセになるNEW WAVEとはまた違うテクスチャー。2枚のアルバム、シングル曲、JOHN PEEL SESSIONから選曲された本編。1978年のライヴ『NOT LIVE AT THE ROXY』もセットとなった2枚組。鬱々しながらもエネルギッシュな名演。未発表の写真もイカすヒストリー集。	**DISC 1** 1.One Chord Wonders 2.Quickstep 3.Gary Gilmore's Eyes 4.Bored Teenagers 5.Safety in Numbers 6.We Who Wait 7.No Time to Be 21 8.New Day Dawning 9.Drowning Men	**DISC 2** 1.Safety in Numbers 2.New Boys 3.One Chord Wonders 4.On the Roof 5.New Day Dawning 6.Great British Mistake 7.Bombsite Boy 8.No Time to Be 21 9.Quickstep
	AEROSMITH	野獣生誕		1973	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	1973年1月発売したエアロスミスのファーストアルバム。発売当初は商業的に苦戦を強いられたものの、シングル・カットされた「ドリーム・オン」が3年の月日をかけて全米6位とヒットする。徐々にその実力が認められ、最終的には最高位21位を記録。ダブル・プラチナムにも輝いた不屈のロング・セラー。若き日の荒々しいメンバーの衝動を捉えたまさに原点たる作品。	**Side A** 1. メイク・イット （3:39） 2. サムバディ （3:45） 3. ドリーム・オン （4:26） 4. ワン・ウェイ・ストリート (7:01)	**Side B** 1. ママ・キン （4:25） 2. ライト・ミー （4:10） 3. ムーヴィン・アウト (5:02) 4. ウォーキン・ザ・ドッグ (3:12)
	AEROSMITH	野獣生誕		1973	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	日本			
	AEROSMITH	飛べ!エアロスミス		1974	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	エアロスミスが1974年に発表したセカンド・アルバム。のちに"6人目のメンバー"とまで言われたジャック・ダグラスを初めてプロデューサーに迎えて制作。日本では本作がデビュー・アルバムとして紹介され、翌年に「闇夜のヘビィ・ロック」、そして「野獣生誕」の順でリリースされたため、エアロスミスのイメージもこのアルバムによって決定付けられた感があります。イアン・ハンターのサジェストがあったというモノクロのジャケットが異様にカッコ良く、本作限りのお披露目となった旧型バンド・シンボル・マークは見れば見るほどいやらしいものとなっています。 何よりも重要だったのが6人目のエアロスミスと呼ばれる事になる、ジャック・ダグラスと手を組んだ事により、彼等のバンド・サウンドのダイナミズムを効率よくパッケージする事に成功した点です。 ゴツゴツした金属的な響きと、ジョーとブラッドの絡み合うツイン・リードの個性が強調され、70年代エアロスミスの骨格をここで完成させています。 「エアロスミス難解のテーマ」と無理やりな邦題が冠せられた「Same Old Song And Dance」、「エアロス	**Side A** 1. セイム・オールド・ソング・アンド・ダンス (3:43) 2. 支配者の女 （4:15） 3. 四次元飛行船 （4:22） 4. 黒いコートを着た女 （5:47）	Side B 1. S.O.S （2:52） 2. トレイン・ケプト・ア・ローリン （5:34） 3. 折れた翼 （5:33） 4. パンドラの箱 （5:37）

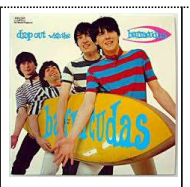
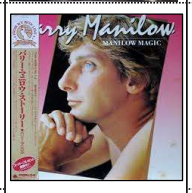
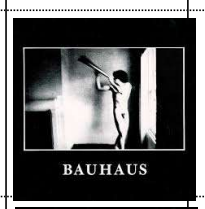
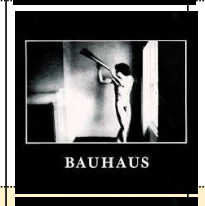
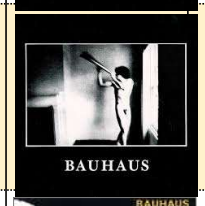
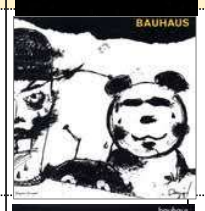
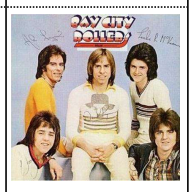
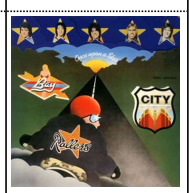
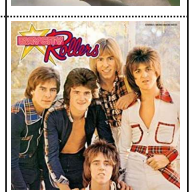
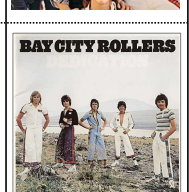
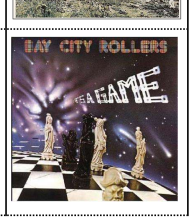
AEROSMITH	飛べ!エアロスミス		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD	日本			
AEROSMITH	闇夜のヘヴィ・ロック		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	エアロスミスが1975年に発表した通算3枚目にして、世界的な成功を収めるごとになった初期の代表作であり、彼等の確固たる地位を築き上げた重要作。 アメリカン・ハード史の中では、次作の「ロックス」の方が評価が高い感もありますが、本作を未だ最高傑作として挙げる人は少なくないと思われます。彼等のライヴ・バンドとしての荒々しさと、ソング・ライティング・センスがいよいよ的確にパッケージされ、ドラッグ、アルコールの匂いをプンプンと振り撒きながら、説明のしようのない高揚感が各曲に詰め込まれています。ロックが妖しく危険なものである事を、本作は正確に少年少女に教えてくれたのでした。 超スタンダード曲として今も愛されるナンバーの他に、隠れ名曲としても名高いラスト3曲の完成度は、今聴いても震えが走る程です。ドロドロしたファンクから、異色のカヴァー、そしてせつなすぎるバラードまで、構成も完璧です。 ロックとラップを初めて融合させたと言われるファンキーな「ウォーク・ディス・ウェイ」他、ライブでの曲も	**Side A** 1. 闇夜のヘヴィ・ロック (3:06) 2. ソルティおじさん (4:10) 3. アダムのリンゴ (4:34) 4. (ウォーク・ディス・ウェイ (3:40) 5. ビッグ10インチ・レコード (2:14)	**Side B** 1. スウィート・エモーション (4:34) 2. 戻れない (4:34) 3. 虚空に切り離されて (5:05) 4. 僕を泣かせないで (5:12)
AEROSMITH	闇夜のヘヴィ・ロック		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD	US			
AEROSMITH	ロックス		1976	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	エアロスミスが1976年に発表した、1970年代を代表するモンスター・アルバムでもある通算4枚目。まさにアメリカン・ハード・ロックの頂点に上り詰めた瞬間を切り取った作品であり、異様なまでに張り詰めたテンションのなか縦横無尽に暴れまくるバンドが作りあげた完全無比の最高傑作！ 今や世界的ロック・バンドとしてストーンズと肩を並べる存在なわけですが、本作におけるエアロスミスは毒気と獣の様な荒々しさとしなやかさがだけが目立っていると思います。ライヴ・バンドとしての強靭なバネはここで完璧に再現され、オープニングから怒涛の勢いで新たなアメリカン・ハードの歴史の開幕を宣言しているかの様です。 「Back In The Saddle」、「Rats In The Cellara」のヘヴィさと疾走感を、このバンドの最高の魅力と信じる人は本当に多いのではないでしょうか。 生き急ぐかの様な緊迫感の後に訪れる、「Home Tonight」での優しくせつない包容力によって、一気に解放されるカタルシスも本作ならではです。	**Side A** 1. バック・イン・ザ・サドル (4:40) 2. ラスト・チャイルド (3:26) 3. 地下室のドブねずみ (3:39) 4. コンビネイション (3:40)	**Side B** 1. シック・アズ・ア・ドッグ (4:12) 2. ノーバディズ・フォールト (4:25) 3. ゲット・ザ・リード・アウト (3:43) 4. リック・アンド・ア・プロミス (3:05) 5. ホーム・トゥナイト (3:18)
AEROSMITH	ロックス		1976	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD	日本			
AEROSMITH	ドロー・ザ・ライン		1977	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	本作は77年度作品。5thアルバム。全米最高位11位/200万枚突破。前作で『ロックス』という金字塔的先品を生み出すも、メンバーはドラッグやアルコールに溺れるという最悪の状況の中、半年以上もの長い制作期間と巨額の制作費を投じてようやく完成。シングル・カットされた表題曲の「Draw The Line」(最高位42位)はジョーのスライドが唸る、今もなおライヴ定番曲としてジョーの見せ場になっているエアロの代表曲の一つ。一方でこちらもファンには人気の哀愁漂う「Kings And Queens」(最高位70位)はジョー抜きで録音。バンド内部が崩壊へと向かっていく中で録音された。危機感と緊張感が全編に漂う作品。エアロ最初の黄金期の立役者、ジャック・ダグラスによるプロデュース作品は一旦終わる。	**Side A** 1. ドロー・ザ・ライン 3:22 2. アイ・ワナ・ノウ・ホワイ 3:08 3. クリティカル・マス 4:50 4. ゲット・イット・アップ 4:01 5. ブライト・ライト・フライト 2:19	**Side B** 1. キングズ・アンド・クイーンズ 4:53 2. ザ・ハンド・ザット・フィーズ 4:21 3. サイト・フォー・ソア・アイズ 3:51 4. ミルク・カウ・ブルース 4:12
AEROSMITH	ナイト・イン・ザ・ラッツ		1979	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	79年度作品。オリジナルとしては通算6作目。全米最高位14位/100万枚突破。プロデューサーは長年共に名盤を作ってきたジャック・ダグラスから、ゲイリー・ライオンズに交代。スティーヴンとジョーの確執が決定的となり、ジョーが7月末に脱退。残った4人でレコーディング。シャングリラスの「Remember」(最高位67位)、ヤードバーズの「Think About It」など全9曲中3曲がエアロのルーツ的な楽曲のカヴァー。「Mia」は当時生まれたスティーヴンの娘ミアに捧げられた美しいバラード。	**Side A** 1. ノー・サプライズ 4:25 2. チキータ 4:24 3. リメンバー (ウォーキング・イン・ザ・サンド) 4:04 4. チーズ・ケーキ 4:15	**Side B** 1. スリー・マイル・スマイル 3:41 2. リーファー・ヘッド・ウーマン- 4:01 3. ボーン・トゥ・ボーン - 2:59 4. シンク・アバウト・イット- 3:34 5. ミア- 4:15
AEROSMITH	ライヴ・ブートレッグ		1979	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	78年リリース作。エアロスミスの初のライヴ・アルバム。大胆なタイトルと粗雑なジャケットながら、その内容は実に興味深いものとなっています。収録は一部を除き77年から78年に掛けてのツアーからとなり、70年代の全盛期の最後をパッケージしたものとなっています。彼等の荒れたライフスタイルが反映されたのか、演奏も荒く、音質もけっして良くないのですが、それが逆に当時のエアロスミスの毒気とギラツキぶりをうかがわせる事に成功しています。 6人目のエアロスミス、ジャック・ダグラスの手腕もあるのでしょうが、妙にこもった音質も妖しさ、いかがわしさを演出している様にも思えます。自身も出演した映画への提供曲、「Come Together」のライヴ・ヴァージョン、そしてアルバム未収録曲ながら彼等のクラシックと化した「Chip Away The Stone」が初披露となり、スタジオ・アルバムにはなかった音楽性の幅が広がっているのもユニークです。 ジミー・リード、ヤードバーズで知られる「I Ain't Got You」、ジェイムズ・ブラウンの「Mother Popcorn」のみ73年の音源で、当初からエアロスミスがこんなにもファンキーであった事に驚かされます。	**DISK 1** **Side A** 1. バック・イン・ザ・サドル 2. スイート・エモーション 3. 支配者の女 4. 闇夜のヘビー・ロック **Side B** 1. ラスト・チャイルド 2. カム・トゥゲザー 3. ウォーク・ジス・ウェイ 4. シック・アズ・ア・ドッグ	**DISK 2** **Side A** 1. ドリーム・オン 2. チップ・アウェイ・ザ・ストーン 3. サイト・フォー・ソア・アイズ 4. ママ・キン 5. エアロスミスS.O.S. **Side B** 1. アイ・エイント・ガット・ユー 2. マザー・ポップコーン 3. ドロー・ザ・ライン
AEROSMITH	ライヴ・ブートレッグ		1979	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD	日本			
AEROSMITH	ダン・ウィズ・ミラーズ		1985年	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	1985年リリースの8枚目のアルバム。脱退していた「ジョー・ペリーとブラッド・ウィットフォード」が1984年にエアロスミスに復帰しての第一弾のアルバム。 ジョー・ペリー・プロジェクトの『熱く語れ』で始まる全9曲は、ジャック・ダグラス時代のヘヴィさも、ブルース・フェアバーン時代のポップさもなく、ストレートでごきげんなハードロックを聞かせてくれて「『ロックス』以来の傑作」「後のアルバムと違い、エアロスミスの名曲の核を作りだしていた要素が作品にパワーを与えている」と評している。ストレートなハードロックがぎっしり詰まっているので、初期のAerosmithが好きな人にはお勧めのアルバム。本作からの第1弾シングル「熱く語れ」は、ジョー・ペリー・プロジェクトのアルバム『熱く語れ!』(1980年)収録曲を改作したもの	**Side A** 1. 熱く語れ (Let the Music Do the Talking) 3:46 2. マイ・フィスト、ユア・フェイス 4:21 3. シェイム・オン・ユー 3:20 4. リーズン・ア・ドッグ 4:12	**Side B** 1. シーラ 4:24 2. ジブシー・ブーツ 4:15 3. シーズ・オン・ファイア 3:45 4. ザ・ホップ 3:41 5. ダークネス 3:45
AFFINITY	アフィニティ		1970	プログレ	CD	日本	アフィニティーの1970年発売のデビューアルバムにして唯一作。紅一点シンガー、リンダ・ホイルを擁し、ジャズ、ブルース、プログレッシヴロックを融合させたスリリングなサウンドで70年初頭のシーンに衝撃を与えた英国ロックバンド。キーフの手による幻想的なジャケットが非常に印象的だが、たった一枚しかアルバムを発表していないのにも関わらず、非常に人気の高いグループだ。 メンバーは、リンダ・ホイル(vo)、リントン・ネイフ(k)、マイク・ジョップ(g)、モ・フォスター(b)、クラント・サーベル (dr) でなるほど現在まで多くのセッション／グループで名前を目にする猛者も含まれている。彼らの他にジョン・ポール・ジョーズらのアレンジよるブラス隊も参加しており、重圧かつ豪華なサウンドを聞かせている。プロデュースはジョン・アンソニーでプログレ・ファンには馴染み深い人物だろう。 1．は豪快なブラスを導入したブルース／ジャズ・ロック。2．はフォーク／ブルース風のバラードとこの2曲だけでも彼らの実力／人気は難無く計り知れる。楽曲／演奏が優れているのはもちろんだが、演奏そのもののコクというか味というか、にじみ出る魅力が強く感じられる。リンダのヴォーカルはもちろん、	1. I Am and So Are 2. Night Flight 3. I Wonder If I'll Care As Much 4. Mr. Joy 5. Three Sisters 6. Coconut Groove 7. All Along the Watchtower 8. Eli's Coming 9. United States of Mind	
A〜HA	ハンティング・ハイ&ロウ		1985	ニュー ウェーヴ	レコード	日本	ノルウェー出身の3人組ユニットのデビューアルバム。キャッチーなイントロの<1>を引っさげて登場。アニメーションを駆使した画期的な手法のビデオクリップは、斬新でエンタテイメント性にとみ、MTVなどでは連日オンエアされ、大きな話題を集めた。それが視聴者の購買意欲を刺激し、結果、チャート1位を獲得する大ヒットとなった。一躍アイドルに祭りあげられたものの、彼らのソングライターとしての正当な評価は陰に隠れてしまった。まずはかつての虚飾を排除して聴くと、優れたアーティスト集団であることがよくわかる1枚だ。	**Side A** 1. テイク・オン・ミー 2. ストレンジャー・トレイン 3. ハンティング・ハイ・アンド・ロウ 4. ザ・ブルー・スカイ 5. ボーイズ・アドヴェンチャー	**Side B** 1. シャイン・オン・TV 2. アンド・ユー・テル・ミー 3. ラヴ・イズ・リーズン 4. ドリーム・マイセルフ・アライヴ 5. フェイス・ザ・レイン
A〜HA	スカウンドレル・デイズ		1986年	ニュー ウェーヴ	レコード	日本	1986年に発表したセカンド・アルバム。1枚目からサウンドがガラッと変わり、流麗なシンセ音と壮大なメロディー構成で、クオリティーの高さを見せ付け、アダルトで硬派な新たなイメージを植えつけた。全10曲収録。 彼らのアルバムが10作以上出しているにも関わらずライヴでこの2作目のアルバムからチョイスされる曲が4曲「1)scoundrel days、2)the swing of things、3)I've been losing you、5)manhattan skyline、6)cry wolf」もあると言うこともあり曲の充実度が高い。現に過去のアルバムの中でもトップ3に入る傑作だ。もし、a-haを初めて聴く人にはこのアルバムから聴いてもいいのではというほど一押し。やはりレコーディング当時のモートンの20代後半ののびやかなボーカルは力強さ、滑らかさ、表現豊かで素晴らしい。	**Side A** 1. スカウンドレル・デイズ 2. スイング・オブ・シングス 3. ルージング・ユー 4. オクトーバー 5. マンハッタン・スカイライン	**Side B** 1. クライ・ウルフ 2. ルッキング・フォー・ザ・ホエールズ 3. ウエイト・オブ・ザ・ウインド 4. メイビー・メイビー 5. 四月にソフト・レイン
AIR SUPPLY	イッツ・ノット・トゥ・レイト〜ベスト・オブ・エア・サプライ		1992/12/16	フュージョン	CD	日本	エア・サプライのベストアルバム。オーストラリア のポップ・バンド。1980年代に多くの全米ヒットを放った。1980年に「ロスト・イン・ラブ」が大ヒット。その後も「シーサイド・ラブ」(原題：The One That You Love)、「さよならロンリー・ラブ」(原題：Even the Nights Are Better)、「渚の誓い」(原題：Making Love Out of Nothing at All)といったヒット曲を連発し、日本でも夏のイメージで大ヒットを放った。 サウンドは、甘く、切なく、そしてアメリカのバンドとは一味もがったさわやかさ。エアサプライの音楽はどれもそんな表現がぴったり。タイプの異なる2人の優秀なシンガーが生み出す美しいメロディとハーモニーは世界中のカップルの素敵なワンシーンを演出してくれるマストアイテムである事請け合い。青い海、青い空、さわやかな潮風を想起させる彼らの音世界は普遍。③⑤を聞けば、ありふれた日常が、ドラマの1シーンのように見えてくるでしょう。リスナーのイメージを変えてしまうほどの素晴らしい名曲です。	1. イッツ・ノット・トゥー・レイト 2. ロスト・イン・ラヴ 3. さよならロンリー・ラヴ 4. シー・サイド・ラヴ 5. 渚の誓い 6. スウィート・ドリームス	7. あなたのいない朝 8. オール・アウト・オブ・ラヴ 9. ときめきの愛を 10. ヒア・アイ・アム 11. チャンセズ 12. レイト・アゲイン(ライヴ・ヴァージョン
ALARM	アラーム宣言		1984	ニュー ウェーヴ	レコード	日本	1983年リリースのセカンドアルバム。このアルバムが出た時は久しぶりに不屈のロッカーが現れたといった感じで、クラッシュの後継者として話題となった。クラッシュほど強い政治色のあるパンクではないものの、掻き鳴らすフォークギターとストレートな熱い叫びはクラッシュの情熱を思わせる。アルバムのタイトル『Declaration』(宣誓)の通り、42秒の宣誓からこのアルバムは始まり「Marching On」に流れ込んでいく。全12曲がフォークパンクロックで突っ走るこのアルバムは、リリースから数十年経った今でも熱い思いが伝わってくる。残念ながら90年前半に解散した。	**Side A** 1. 宣誓 2. マーチング・オン 3. 嵐の中で 4. 闇に棲む光 5. 68ガンズ 6. 太陽の地	**Side B** 1. シャウト・トゥ・デビル 2. ブレイズ・オブ・グローリー 3. テル・ミー 4. 偽りの世界 5. スタンド 6. 荒野をわたる風
ALCATRAZZ	アルカトラス		1984	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	83年作。アルカトラズの衝撃的なデビュー作となった1枚。リード・シングルの「ISLAND IN THE SUN」は、確かに新たなヒーローとしてのインパクトがありました。 RAINBOW、MSGでそれぞれ1枚ずつ大名盤を残してスーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットがいよいよリーダーとして立ち上げたバンドとして当時かなり話題になり、ジャケットに書かれた「NO PAROLE FROM ROCK 'N' ROLL」の文字が、当初アルバム・タイトルとも誤解されていました。ただ日本盤は、タイトル名が変更されています。伝説的アメリカン・プログレ・ハード・バンド、ニュー・イングランドのメンバーとグラハムの合体、そしてなんと言ってもイングヴェイ・マルムスティーンが加入した事でもハード・ロック史の事件であったと思います。 超絶テクのギターと、レインボーを勝る様式美、そしてグラハムの熱いヴォーカルの融合が見事に結実した大傑作です。	**Side A** 1. アイランド・イン・ザ・サン 2. ジェネラル・ホスピタル 3. ジェット・トゥ・ジェット 4. ヒロシマ・モナムール 5. クリー・ナクリー	**Side B** 1. インキュバス 2. トゥー・ヤング・トゥ・ダイ、トゥー・ドランク・トゥ・リヴ 3. ビッグ・フット 4. スターカー・レーン 5. サファー・ミー

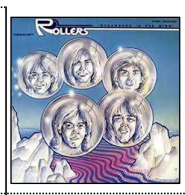
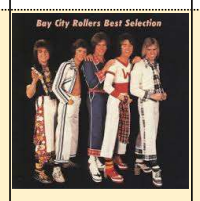
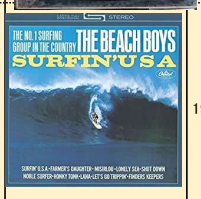
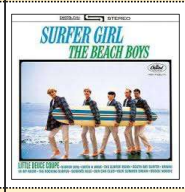
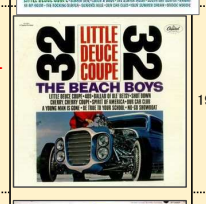
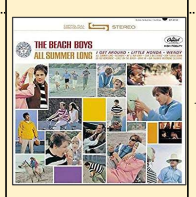
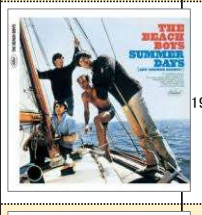
	ALCATRAZZ	ディスタービング・ザ・ピース		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	85年作、グラハム・ボネット率いた伝説的バンド、アルカトラスのセカンド・アルバムです。 ファーストアルバムでは、イングヴェイを世に知らしめ、本作ではフランク・ザッパの門下生、スティーヴ・ヴァイの衝撃的な登場を手助けした1枚となっています。グラハムの圧倒的な声量と、ハード・ロックに留まらない個性的なギターとメロディが、以前のアルカトラスとは全く違うサウンドが衝撃的でした。 ホワイトスネイクでの自己主張ぶりも凄かったですが、やはりここでのスティーヴ・ヴァイが一番インパクトがあったと思います。80年代メタル史上においても、もっと再評価がされていい1枚	**Side A** 1. ゴッド・ブレスト・ヴィデオ 2. マーシー 3. ウィル・ユー・ビー・ホーム・トゥナイト 4. ワイアー・アンド・ウッド 5. デザート・ダイアモンド	**Side B** 1. ストリッパー 2. ペインテッド・ラヴァー 3. ライター・シェード・オブ・グリーン 4. サンズ。アンド・ラヴァーズ 5. スカイファイア 6. ブレイキング・ザ・ハート・オブ・シティ
	ALDO NOVA	ナイト・ファンタジー		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作。アルド・ノヴァのデビュー盤。カナダのマルチ・プレイヤーとして知られ、数々のセッション、ソング・ライティングで他アーティストと共演してきた名人的裏方として有名な人ですが、ハード・ポップ、メロディアス・ハードの隠れ大名盤として今も語り継がれるアルバム。 ジョン・ボン・ジョヴィとも親交が深く、後に彼の助力によってアルバムもリリースしています。 とにかく80年代的なキラキラしたメロディ、ウキウキする様なハード・ポップ感覚に優れた人で、本作もラヴァーボーイや、トライアンフと共にカナディアン・ハードの名声を高めた。 シングル・ヒットした「ファンタジー」のスペイシーなイントロも最高。	**Side A** 1. ファンタジー 5:04 2. ホット・ラヴ 3:55 3. イッツ・トゥー・レイト 3:20 4. ボール・アンド・チェイン 4:01 5. ハート・トゥ・ハート 3:42	**Side B** 1. フーリン・ユアセルフ 3:35 2. アンダー・ザ・ガン 3:48 3. ユア・マイ・ラヴ 3:33 4. チャント・ストップ・ラヴィン・ユー 3:57 5. シーザ・ライト 3:56
	ALICE COOPER	キラー		1971	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	1971年に発表した4作目のアルバム。前作『エイティーン』の正常進化的作品で、よりスケール感がアップした大傑作。奇抜なコスチュームで視覚的に訴えるパフォーマンスと、それに呼応するような唯一無二の“ショックロック”の世界観が凝縮された一枚。アルバムの聴きどころは、児童虐待（又はネグレクト）を扱った「デッド・ベイビーズ」、 絞首刑にされる男を歌った「キラー」だ。マガジンのハワードディヴォートはデビュー当時に「これまで見た中ではアリスの『キラーツアー』がベストライブだ」と語っていた。ツアーが世界各地で大反響を起した結果だった、このアルバムそしてツアーの反響の大きさは、次作以降の作品を、世界規模の大ヒットに持ちあげていく。	**Side A** 1. 俺の回転花火 “Under My Wheels” 2:51 2. ビー・マイ・ラヴァー 3:21 3. ヘイロー・オブ・フライ 8:22 4. 無法者 “Desperado” 3:30	**Side B** 1. 勇気づけて “You Drive Me Nervous” 2:28 2. イエー・イエー・イエー 3:39 3. デッド・ベイビーズ 5:44 4. キラー 6:57
	ALICE COOPER	スクールズ・アウト		1972年6月	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	1972年に発表した5作目のアルバム。全米2位、全英では20週チャート・インし最高4位。『エイティーン』、『キラー』とたてつづけにロック史に残る傑作をリリースしてきたアリス・クーパー。それら傑作を上回る最高傑作が『スクールズ・アウト』。当時のロック・アンセムとなったタイトル曲を中心に、エキセントリックな“ショックロック・ワールド”が炸裂。このLPは学校の机を模して開閉できる変形ジャケットとなっており、レコード盤は紙のパンティに包まれ、発売されたことも大きな話題となった。サウンドにもアートワークにも、アリス・クーパーのクリエイティビティが凝縮された歴史的名盤。	**Side A** 1. スクールズ・アウト 3:30 2. ルニー・テューン 3:43 3. ガター・キャット対ジェッツ 4:40 4. ストリート・ファイト 0:53 5. ブルー・ターク 5:33	**Side B** 1. マイ・スターズ 5:49 2. パブリック・アニマル#93:54 3. アルマ・メイター 4:27 4. グランド・ファイナル4:26
	ALICE COOPER	ライヴ!!アリス・クーパー・ショー		1977	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	7年リリース作。アリス・クーパーの初のライヴ盤。 シアトリカル・ロックの帝王たる姿がジャケットでもいくつか紹介されていますが、本来はその場で、もしくは映像で楽しむべきショーだと思います。それでもアメリカン・ハード、メタルの元祖と自負するアリスらしい、実に聴き応えのあるロック・ライヴとなっています。当時の彼はバンドとしてのアリス・クーパーを解散、ソロ名義のアリスをキャラクターとして浸透させ、意外な程ロマンティックなバラード、「I Never Cry」や「You And Me」といったシングル・ヒットを飛ばし、新たな魅力を振りまいていた時期でした。 英国パンク・シーン勃発、更には本国ではKISSへの影響も与えた初期の代表曲も含め、70年代の彼の絶頂期をまとめたセットリストも魅力的です。ヴォーカリストとしての器用な表現力もライヴならではの醍醐味があり、曲の良さが生かされています。	**Side A** 1. 俺の回転花火 2:35 2. エイティーン 4:58 3. 血を流す女 5:55 4. シック・シング 0:59 5. ボディ 2:35 6. 俺は泣かない 2:48	**Side B** 1. ビリオン・ダラー・ベイビーズ 3:17 2. 悪魔の供物 / ブラック・ウィドー 5:50 3. ユー・アンド・ミー 2:25 4. アイ・ラヴ・ザ・デッド / 地獄へ行く / お前がここに居てくれたら 6:36 5. スクールズ・アウト 2:39
	ALIEN SEX FIEND	アシッド・バス		1984	パンク	レコード	日本	ポジティブパンクの旗手として華々しくデビューした、80’S UKゴシック/ポジティブパンクの代表バンド、エイリアン・セックス・フィーンドが84年にリリースした名盤セカンドアルバム！ 攻撃的なビートと絶妙なポップさのバランスが病みつきの代表作。	**Side A** 1. In God We Trust (In Cars We Rost？) 2. Dead and Re-Buried 3. She’s a Killer 4. Hee-Haw (Here Come the Bone People)	**Side B** 1. Smoke My Bones 2. Breakdown and Cry (Lay Down and Die - Goodbye) 3. E. S. T. (Trip to the Moon) 4. Attack !!!!!! #2
	AL KOOPER	アイ・スタンド・アローン		1969	ロック	レコード	日本	1969年リリース。ブルース・プロジェクトで65年にデビュー、68年のブラッド・スウェット＆ティアーズ、マイク・ブルームフィールドらとのスーパー・セッションを経て発表された初のソロ作。当時「ニューロック」とは、革新的なロックというほどの意味で（レコード会社サイドが拡販目的で勝手に付けたジャンル名）、そのニューロックの旗手と呼ばれ、当時、もてはやされたのが、Al Kooperだ。そのロック変革期にさまざまなアプローチでその可能性を切り拓いてきた彼が満を持して発表した記念すべきファースト。 初作にしてすでにシンガー・ソングライター然としたスタイルを見せるなかで、ハリー・ニルソン、トラフィック、ビル・モンローらのカヴァーも収録し、そのマルチな音楽的嗜好の趣くままを表現したバラエティに富んだ内容。自由の女神に自分の顔をアレンジした印象的なジャケットで、彼のユーモアセンス、音楽センスがジャケットやライナーノーツなどのアルバム全体から感じられる名盤。	**Side A** 1. 序曲 - Overture 4:39 2. アイ・スタンド・アローン 3:37 3. カミール 2:54 4. ワン 2:53 5. カラード・レイン 3:01 6. 月面軟着陸（Soft Landing on the Moon） 4:01	**Side B** 1. アイ・キャン・ラヴ・ア・ウーマン 3:28 2. ケンタッキーの青い月 (Blue Moon of Kentucky) 2:14 3. トウ・ホールド 3:53 4. ライト・ナウ・フォー・ユー 2:33 5. ヘイ、ウエスタン・ユニオン・マン 3:43 6. アンボーン・チャイルドに捧げる歌と踊り (Song and Dance for the Unborn, Frightened Child) 4:31
	AL KOOPER	赤心の歌		1973	ロック	レコード	日本	アル・クーパーの最高傑作との呼び声も高い、73年発表のソロ6作目。タイトルどおり虚飾のない、彼の内面を吐露したような、生々しくも魅力的な作品だ。サウンドも自身による弾き語りがメインのシンプルなものだが、地味というより余計なものが削ぎ落とされたという印象だ。深夜に1人繰り返し聴くたびに味が出るようなアルバムである。ゴスペル風味の<1>や、グルーヴィなオルガンが魅力的な<9>など、名曲・名演ぞろいだ。だが、やはり彼の代表曲である世紀の名曲<3>が、なんといってもすばらしすぎる。	**Side A** 1. 自分自身でありなさい 2. 時の流れるごとく 3. ジョリー 4. ブラインド・ベイビー 5. ビーン・アンド・ゴーン	**Side B** 1. サム・ストーン氏の場合には 2. ピーコック・レディ 3. 聖衣に触れて 4. 君はどこへ… 5. 人生は不公平
	AL KOOPER MIKE BLOOMFIELD	フィルモアの奇跡		1968	ロック	CD	日本	1968年作品。アル・クパーの残したセッション・アルバムの中でも最高傑作と言われる。サンフランシスコにあったフィルモア・ウェストで3日間にわたって行われたライヴを収録。当時最も進歩的なブルース/ロック・ギタリストのひとりとして高く評価されていたマイク・ブルームフィールドと、ボブ・ディランとの共演で独創的なオルガンが脚光を浴びたマルチな才 人アル・クーパー。2人がステージでぶつかり合った本作は、ブルース、リズム&ブルース、ロック、そしてジャズが飛び交い、即興演奏がほとばしる偉大な記録だ。エルヴィン・ビショップ、カルロス・サンタナの両ギタリストのゲスト出演にも注目。	**Disc: 1** 1. マイク・ブルームフィールドのオープニング・スピーチ 2. フィーリン・グルーヴィー 3. アイ・ワンダー・フー 4. 神聖にして犯すべからず 5. ウエイト 6. メリー・アン 7. 愛の終る日まで 8. ザッツ・オール・ライト 9. グリーン・オニオン	**Disc: 2** 1. アル・クーパーのオープニング・スピーチ 2. サニー・ボーイ・ウィリアムスン 3. 寂しい夜はいらない 4. ディア・ミスター・ファンタジー 5. 激しい恋はもうたくさん 6. 終曲 (フィナーレ)/逃亡者
	ALLMAN BROTHERS BAND	オールマン・ブラザーズ・バンド		1969年11月	アメリカンロック	レコード	US	1969年発表のファースト・アルバム。1曲目はスペンサー・デイヴィス・グループのカヴァー。いきなり鋭いギターで幕を明ける。 このファースト・アルバムでは当時のブリティッシュ・ロックの影響も感じる。以後のアルバムに比べると演奏やアレンジはかなり荒削りであり、グレッグの歌いっぷりも、やや力みすぎだが、すでに単なるブルース・ロック・バンドではないスケールが感じられる。名曲「ドリームス」、「ウイッピング・ポスト」がすでにここにある。ツイン・ギター、ツイン・ドラムをフィーチャーした骨太なブルース・ロックで注目を集めた。若い情熱の込められた骨太・硬派のロック。オールマンズの栄光の歴史がここから始まったのですがそれを予感させるに十分な作品でロックファンなら必聴のアルバム。すべての楽曲が後期オールマンズのライヴの定番曲になりましたが1曲目からラストまで本当に興奮の一語で特にラストのウィッピングポストは何回聴いても鳥肌もので凄い曲、素晴らしい演奏	Side A 1. ステイツボロ・ブルース - 4:17 2. 誰かが悪かったのさ “Done Somebody Wrong” - 4:33 3. ストーミー・マンデイ - 8:44 **Side B** 1. ユー・ドント・ラヴ・ミー - 19:15	**Side C** 1. アトランタの暑い日 - “Hot ‘Lanta”- 5:17 2. エリザベス・リードの追憶 “In Memory of Elizabeth Reed”- 13:04 **Side D** 1. ウィッピング・ポスト - 23:03
	ALLMAN BROTHERS BAND	フィルモア・イースト・ライヴ		1971	アメリカンロック	レコード	US	1971年に発表したライブ・アルバム。1971年3月12日から13日にかけてニューヨークのフィルモア・イーストで1日に2回ずつ公演を行い、それらの4公演から抜粋されたライブ音源を本作に収録した。7曲中4曲は前2作のスタジオ・アルバムに収録されておらず。3月13日の2回目の公演で演奏された「ドランケン・ハーテッド・ボーイ」にはエルヴィン・ビショップ（ギター、ボーカル）、スティーヴ・ミラー（ピアノ）、ボビー・コールドウェル（パーカッション）がゲスト参加しているが[2]、この曲はオリジナル・バージョンには収録されず。プロデューサーは前作に続きトム・ダウドが担当した。本作はアメリカビルボードで3位に達し、1971年10月にゴールドディスク、1992年8月にプラチナ・ディスクに認定された。		
	ALLMAN BROTHERS BAND	ブラザーズ＆シスターズ		1973	アメリカンロック	レコード	日本	1973年発表。メンバーを相次いで事故で失うという悲劇を乗り越えて放った、オールマンズのスタジオ録音代表作。バンド最大のヒットとなったカントリー・タッチの「ランブリン・マン」や名インスト「ジェシカ」など、ディッキー・ベッツが自身のハイライトとなる楽曲を数々提供。グレッグ・オールマンも持ち前のブルージーでファンキーな妙味を如何なく発揮。初のアルバム全米1位を達成する。さらに本作からのシングル「ランブリン・マン」が全米2位、「ジェシカ」が全米65位。 ディッキーベッツはデュアン、オークリーの悲劇の中でコツコツ作業を続けていた。それだけ、オールマンブラザースの金銭事情が恵まれてなかったのだろう。実際、フイルモア以外は、そんなにセールス的にもよくない。 その結果、ブルースバリバリの泥臭いサザンロックというより、キャッチーでポップなジェシカなどカントリーロック路線のアルバムが完成したのだろう。	**Side A** 1. むなしい言葉 2. ランブリン・マン 3. カム・アンド・ゴー・ブルース 4. ジェリー・ジェリー	**Side B** 1. サウスバウンド 2. ジェシカ 3. ポニー・ボーイ
	Altered Images	ハッピー・バースデイー		1981年	ニューウェーブ	レコード	日本	1981年にリリースされたALTERED IMAGESのデビュー・アルバムで全英1位となった。紅一点、クレア・グローガンことクレアちゃんは1980年代初頭のイギリスでも大人気で、ファッション・リーダー的な存在でもあった。そのコケティッシュなヴォーカルと、一度聴いたら忘れられない超ポップなメロディは、エレ・ポップの印象もありましたが、UKニュー・ウェイヴを先導するネオ・サイケの名盤となっています。プロデュースはスージー＆ザ・バンシーズのスティーヴ・セヴェリン。暗めの曲でもクレアのヴォーカルによって、一気にカラフルになってしまうのがユニーク。バンド・サウンドも実にクールで、当時の英国ロックが好きな方にはたまらない1枚だと。Steve Severinの「Dead Pop Stars」「Sentimental」を収録した。 1981年10月の英国でNo2に3週間チャートインし、その年にNME「Best New Group」とSmash Hits「Best Newcomer Award」を獲得した。アルバムのタイトル曲が大ヒット。	**Side A** 1. イントロ～ハッピーバースデー 2. ラブ・アンド・キッシーズ 3. リアル・トーイズ 4. アイドルズ 5. リジオネール 6. フェイスレス 7. ベッコニング・ストリングス	**Side B** 1. ハッピーバースデー 2. ミッドナイト 3. ア・デイズ・ウェイト 4. リーブ・ミー・アローン 5. インセクト 6. アウトロ～ハッピーバースデー
	AL STEWART	オレンジ		1972年	ロック	レコード	日本	1945年に英国王家の名門に生まれたイギリスを代表するシンガー・ソングライター。哀愁をおびた歌声は多くの人をひきつけている。この『オレンジ』は、’72年の作品で4枚目のアルバム、代表作の一枚である。それまでの3枚は、どちらかというと弾き語りっぽくフォーク色が強いものでした。この「オレンジ」になるとブリンズリー・シュワルツやリック・ウェイクマン、ティム・レンウィックの参加でロック色がやや強まっています。その後、アルは『Modern Times』『Year Of Thre Cat』『Time Passenger』などの傑作を生みだし不動の人気を獲得します。	**Side A** 1. 知りもしないで（You Don’t Even Know Me） 2. アムステルダム 3. 土から生まれた曲（Songs Out Of Clay） 4. スペインからの便り （The News From Spain）	**Side B** 1. アイ・ドント・ビリーヴ・ユー 2. オレンジ (Once An Orange, Always An Orange) 3. アイム・フォーリング 4. 5月4日の夜（Night Of The 4th Of May）
	ANGEL	天使の美学		1975	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	75年作。KISSのジーン・シモンズに見出され、KISSの弟分的なバンドとしてデビューしたファースト・アルバム。純白の衣装とグラマラスなルックスは、当時クイーンとも比較され、特に日本の女の子に指示されアイドル的人気が先行した。後にGiuffriaやHouse Of Loadsで才能を開花させるグレッグ・ジェフリアの幻想的なキーボードを中心に、全員が見栄えのするヴィジュアルながら、サウンドは意外にもブリティッシュの影響を隠さない新しいプログレ・ハードを展開。後期はハード・ポップ的展開したが、ここではかなりキーボードを主体にしながら、バンド・サウンドはあくまでもメタリックな質感を伴っていた。B級感覚が溢れるチープなヴォーカルも逆に個性となって、ドラマチックなメロディも重々しく感じさせない親しみやすさを生んでいるのもユニーク。当時のカンサス、スティクス等にも劣らない緻密な構成力も見事で、見かけばかりが目立っていたせいか、正当評価がされなかったのは残念。以降徐々にポップなサウンドがバンドの人気を盛り上げていきますが、彼等の本当にやりたかったのはここで提示されたブリティッシュ・ハード プログレを より華麗に見せる新たなハード・ロックだったのではないか？70年代	**Side A** 1. タワー 2. ロング・タイム 3. ロックン・ローラーズ	**Side B** 4. ブロークン・ドリームズ 5. マリーナー 6. サンデイ・モーニング 7. オン&オン 8. エンジェルのテーマ
	ANGEL	華麗なる貴公子		1976	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	76年作。エンジェルのセカンド・アルバム。メンバー全員が後のLAメタルを彷彿させるロング・ヘア、純白のコスチュームにより、まさに天使のイメージそのものを押し出していただけに、アイドル的人気が先行した感もありますが、壮大なキーボード主導によるドラマティックなメロディ、初期はブリティッシュ・ハード、プログレからの影響も隠さなかったサウンドはB級バンドとして終わらせるには、あまりにももったいない気がします。アメリカン・プログレ・ハードの初期型とも言える重厚さと同時に、後に開花するパワー・ポップ的センスに溢れた「ANYWAY YOU WANT IT」の様なナンバーが聴きものとなっています。	**Side A** 1. フィーリン・ライト 2. ザ・フォーチュン 3. エニウェイ・ユー・ウォント・イット 4. ドクター・アイス	**Side B** 1. ミラーズ 2. フィーリングス 3. プレッシャー・ポイント 4. チキン・スープ 5. エンジェルのテーマ

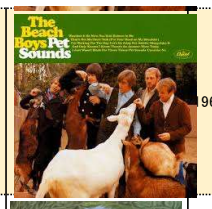
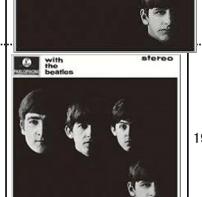
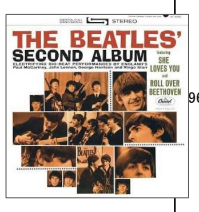
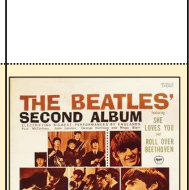
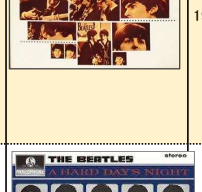
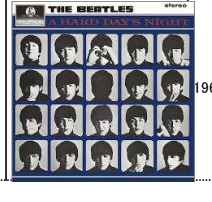
	ANGELIC UP STARTS	ティーンネイジ・ワーニング			パンク	レコード	UK	エンジェリック・アップスターツの1stアルバム。1977年の夏、クラッシュの「ホワイト・ライオット・ツアー」にインスパイアされ結成。イングランドは北東部のサウス・シールズで1977年に結成されたストリート/Oi!パンクバンド。元々は本物の労働者（炭坑夫からパンクに成り上がる）であったメンバーによる、労働者階級から熱い支持を得た、真のワーキング・クラス・パンク・ロック。オリジナル・メンバーはトーマス’メンジ’メンズフォース(Vo)、レイモンド’モンド’カウイー(Gu)、スティーヴ・フォーステン(Ba)、デッカ・ウェイド(Ds)。同年、制作/流通共にDIYなやり方でシングル「The Murder Of Liddle Towers」をリリース。1000枚のみのプレスで、ライブ会場と小さなレコードショップのみで販売した。その後、ドラムがキース’スティクス’ワーリントンにチェンジし、シャム69のジミー・パーシーをプロデューサーに迎え、79年にワーナーからシングル「I’m an Upstart」、夏には本アルバムとシングル「Teenage Warning」をリリース。本物のアングリーハングリーメンのパワーが炸裂する大名作。特にタイトル曲は必聴!!	**Side A** 1. TEENAGE WARNING 2. STUDENT POWER 3. THE YOUNG ONES 4. NEVER AGAIN 5. WE ARE THE PEOPLE 6. LIDDLE TOWERS	**Side B** 1. I’M AN UPSTART 2. SMALL TOWN SMALL MIND 3. YOUTH LEADER 4. DO ANYTHING 5. LET’S SPEED 6. LEAVE ME ALONE
	ANGELIC UP STARTS	朝日のない街（ゲット・アウト・オブ・ディス・プレイス）			パンク	レコード	日本	イングランドは北東部のサウス・シールズで結成された、アンジェリック・アップスターツの2ndアルバム。ジャケットは炭鉱で働いていたメンシの脳裏に焼き付いている炭鉱現場の光景だと推測される。前作よりシンガロングになった楽曲と、変わることなくワーキング・クラスを歌ったストリート・パンクロック!!	**Side A** 1. ネヴァー・アンド・ナッシン 2. ポリスの暴 POLICE OPPRESSION 3. ロンリー・マン・オブ・シュパンダウ 4. 何が何でも生き残れ THEIR DESTINY IS COMING 5. ショットガン・ソリューション 6. キング・コール	**Side B** 1. 指図は無用 OUT OF CONTROL 2. イカしたロニー RONNIE IS A ROCKER 3. リッスン・トゥ・ザ・ステップ 4. 蘇る伝説 CAN’T KILL A LEGEND 5. キャピタル・シティ 6. 朝日のない街WE GOTTA GET OUT OF THIS PLACE
	ANIMALS	アニマルズ		1964	ブリティッシュビート	レコード	UK	アニマルズの1964年10月に発売されたデビューアルバム。アメリカのブルースに根ざした作風が特徴的で、ロックシーンにも多大な影響をもたらした。比類なきホワイト・ブルース・シンガー、エリック・バードンと英国を代表するパフォーマー兼コンポーザーのアラン・プライスを擁したアニマルズが1964年に発表したファースト・アルバム。全体的にはエリック・バードンのブルージーなボーカルは迫力満点。彼らの特徴である、オルガンの音を全面的に出しておるし、このアラン・プライスのキーボード奏者としての音楽的才能の高さとアレンジは素晴らしい。	**Side A** 1. ストーリー・オブ・ボ・ディドリー 2. ベリー・マイ・ボディ 3. ディンプルズ 4. アイヴ・ビーン・アラウンド 5. アイム・イン・ラヴ・アゲイン 6. ザ・ガール・キャント・ヘルプ・イット	**Side B** 1. アイム・マッド・アゲイン 2. シー・セッド・イエ 3. ザ・ライト・タイム 4. メンフィス 5. ブーン・ブーン 6. アラウンド・アンド・アラウンド
	ANIMALS	アニマル・トラックス（ペーパースリーブ仕様）		1965	ブリティッシュビート	CD	日本	65年発表のセカンド。ブリティッシュ・ブルーズ/R&Bの真髄! 2作目にして円熟の域に達したオリジナル・ラインナップによる事実上のラスト・アルバム。⑩以外はすべてR&B~ブルースの名曲のカヴァーで、気合いの入ったブレイ&シャウトが満載だ。これらのレパートリーは、黒人音楽のカヴァーが圧倒的に多く、その筋の愛好家にはお馴染みの曲が多い。	1. メス・アラウンド 2. ハウ・ユーヴ・チェンジド 3. ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー 4. アイ・ビリーヴ・トゥ・マイ・ソウル 5. ワーリード・ライフ・ブルーズ 6. ロバータ 7. アイ・エイント・ガット・ユー 8. ブライト・ライツ・ビッグ・シティ 9. レット・ザ・グット・タイムズ・ロール 10. フォー・ミス・コウカー 11. ロードランナー	以下、ボーナス・トラック 12. 悲しき願い 13. クラブ・ア・ゴー・ゴー 14. 悲しき叫び 15. 朝日のない街 16. アイ・キャント・ビリーヴ・イット 17. イッツ・マイ・ライフ 18. アイム・ゴナ・チェンジ・ザ・ワールド 19. ドント・ウォント・マッチ
	ANIMALS	コンプリート アニマルズ			ブリティッシュビート	CD	日本	ブリティッシュ白人R＆Bバンド、アニマルズ、最初期EMI時代(1964-1965)の音源を「ほぼ」網羅した編集盤。内容的には、エリック・バードン(ヴォーカル)のコクが有って、なおかつ荒々しい歌唱がバッチリ楽しめる物になっています。もちろん、演奏面でのバックアップもバッチリ。彼らの代表的である“朝日のあたる家”は、ディランが1stで採り上げていた伝承曲。アニマルズはそれを聴いていたのか？また、“悲しき叫び”は、「悲しき」シリーズの第二弾ですが、もちろん原曲とは無関係な邦題。ソウル・シンガー、サム・クックの1962年のシングル・ヒットがオリジナル。 “シー・セッド・イエ”もストーンズが採り上げていた曲。アニマルズはこの後、デッカに移籍して一枚アルバムを出すのですが、その後、解散してしまいます。結局、バードン以外のメンバーを入れ替えて、エリック・バードン＆アニマルズとして活動を再開、1968年まで活動を続けることになります。	**ディスク:1** 1. ブーン・ブーン 3:20 2. トーキン・アバウト・ユー 7:06 3. ブルーな気持 2:32 4. ディンプルズ 2:53 5. ベイビー・レット・ミー・テイク・ユー・ホーム 2:22 6. ゴナ・センド・ユー・バック・トゥ・ウォーカー 2:29 7. ベイビー・ホワッツ・ロング 2:50 8. 朝日のあたる家 4:22 9. ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー 2:15	**ディスク:2** 1. メンフィス 3:08 2. 悲しき願い 2:25 3. クラブ・ア・ゴー・ゴー 2:19 4. ロードランナー 2:49 5. ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー 2:49 6. ドント・ウォント・マッチ 3:22 7. アイ・ビリーヴ・トゥ・マイ・ソウル 3:28 8. レット・ザ・グッド・タイムズ・ロール 1:57 9. メス・アラウンド 2:23 10. ハウ・ユーヴ・チェンジド 3:15
	ANY TROUBLE	いかしたあの娘		1980	ニューウェーヴ	レコード	UK	マンクニアのシンガーソングライター、クライブ・グレッグソンが前面に立つ80年代のパブロック/ニューウェーブバンドのデビュー・アルバム。パンクブームの余波を感じさせるシンプルでスピーディなR＆Rでクライヴのペンによる楽曲はどれも親しみやすく、すんなり耳に入ってくる。初期のエルビスコステロを彷彿とさせる傑作盤。ギターやアコギがジャングリーにマイナーキーを多様した疾走8ビートが気持ちよく、哀愁メロディーも満載で好アルバム。	**Side A** 1. Second Choice 2. Playing Bogart 3. Foolish Pride 4. Nice Girls 5. Turning Up The Heat	**Side B** 1. Romance 2. The Hurt 3. Girls Are Always Right 4. Honolulu 5. (Get You Off) The Hook
	APPLE	アップルの一日		1969	ロック	CD	日本	英国'60年代カルト・サイケ・ポップ・グループ「アップル」の1969年唯一作にして、隠れた全11曲入り傑作アルバム。 現在では、60年代のサイケポップスの名盤として再評価され、現在ではオリジナルLPが高値で取引されメガトン級のレア・アイテムになっている。 サイケデリックな雰囲気がちらほらで、甘酸っぱい泣きメロの表現力は群を抜いています。特にギターとピアノが響き渡る(3)、ドライヴ感がたまらない(2)と深さは無いですが感情に直接訴えてくる音は素晴らしい。 また、後半のカバー曲3曲が、ジェフベックグループのカバーRock Me Baby、ヤードバーズのカバーPsycho Daisies、ラヴィンスプーンフルもカバーしているSporting Lifeの3曲がそれぞれ手くカバーされているのに感動します。	1. ライン川を下って旅をしよう 2:59 2. ドクターロック 3:08 3. ジ・アザー・サイド 3:18 4. ミスター・ジョーンズ 2:51 5. メイビルライン 2:55 6. クイーン・オブ・ハーツ・ブルース 2:30 7. ロック・ミー・ベイビー 3:30 8. バッファロー・ビリーカン 3:05	9. フォトグラフ 4:11 10. サイコデイズ 2:24 11. スポーツライフ 5:52 12. プリティガール私はあなたを愛して 2:43 13. Let’s Take A Trip Down The Rhine 3:05 14. バッファロー・ビリーカン ((Single Ver) 3:08 15. ドクター・ロック ((Single Ver) 3:12 16. The OtherSide (Single Ver) 3:20
	ARABEQUE	アラベスク・ファースト		1978	ディスコ	レコード	日本	1978年発表ファースト・アルバム。西ドイツ（当時、現ドイツ）出身の女性3人組グループ。「ハローMrモンキー」の大ヒットをきっかけにヒット曲を出し続けたアラベスク。彼女たちは発売するシングルすべてを日本で大ヒットさせ単にダンス・フロアだけの人気アーティストでなく、日本国内の洋楽市場最大のポップ・アーティストに成長した。そして世界の音楽シーンで彼女たちは多くのフォロワー（彼女たちを真似て登場したアーティストたち）を生み後にいわゆる「キャンディ・ポップ」という名称で括られるようになり文字通り一世を風靡する。	**Side A** 1. ハロー・ミスター・モンキー 2. フライ・ハイ 3. 貴方を待って 4. マン・ウィズ・ザ・ガン 5. シックス・タイムズ・ア・デイ	**Side B** 1. バギー・ボーイ 2. フライデイ・ナイト 3. キャッチ・ミー・タイガー 4. ギブ・イット・アップ 5. 愛のゲーム
	ARABEQUE	グレイテストヒッツ		1981年	ディスコ	レコード	日本	アラベスク初のベストアルバム。	**Side A** 1 In For A Penny, In For A Pound 2 Make Love Whenever You Can 3 Roller Star 4 Friday Night 5 Jingle Jangle Joe 6 High Life 7 Hello Mr. Monkey	**Side B** 1 Midnight Dancer 2 Peppermint Jack 3 Fly High Little Butterfly 4 Parties In A Penthouse 5 Rock Me After Midnight 6 Buggy Boy 7 Marigot Bay
	ART GALLERY	アートウッズ		1966	ロック	CD	日本	英国MODS名作！60年台のロンドンきってのヒップR&Bバンドの唯一作。ディープ・パープルのジョン・ロード、ブルースブレーカーズのキーフ・ハートリー、ロン・ウッド（ローリングストーンズ）の実兄であるアーサー・ウッド等によるR&Bグループ、アートウッズがデッカから1966年にリリースした唯一のアルバム。全曲カヴァーによる熱い演奏はオリジナル・モッズの名作として人気が高い1枚。アート・ウッドの荒くも痺れるヴォーカルがイカすモッド・バンド。スローナンバーである「Stop And Think It Over」も見事に歌い、歌唱力の高さを見せつけてくれる。ジョン・ロード、キーフ・ハートレイなど実力派揃いのバンド。やはりジョン・ロードの抜群にうまいオルガンプレイは際立っていて、後々全開するクラシカルな要素もちらほらと聞き取ることができます。。「Routine」はピアノプレイが素晴らしく、コールドプレイ等のUK叙情ピアノメロを超えてます。	1. Can You Hear Me 2. Down In The Valley 3. Things Get Better 4. Walk On The Wild Side 5. Keep Forgettin 6. Keep Lookin 7. One More Heartache 8. Work Work Work 9. Be My Lady 10. If You Gotta Make A Fool Of Somebody 11. Stop And Think It Over	以下、CDボーナストラック 13. Sweet Mary 14.If I Ever Get My Hands On You 15. Goodbye Sisters 16. She Knows What To Do 17. Take What I Want 18. I Feel Good 19. What Shall I Do 20. In The Deep End 21. These Boots Are Made For Walkin 22. A Taste Of Honey
	ART OF NOISE!	「誰がアート・オブ・ノイズを…		1984	エレクトロニクス	レコード	US	アート・オブ・ノイズの1stフルアルバム。前年に発売されたミニLP"Into Battle With The Art Of Noise"から「ビート・ボックス」「モーメンツ・イン・ラブ」2曲を残し、英国チャート8位を記録した「クローズ（トゥ・ザ・エッジ）」を始めとする新曲と差し替わっている。またこのアルバムリリース時に初めてメンバーの正体が発表となっている。 レコーディングは実質アン・ダドリー、J.J.ジェクザリク、ゲーリー・ランガンの3人を中心に行われた。にもかかわらず、トレヴァー・ホーンにばかり脚光が当たることを不服とした3人は1985年にZTTからチャイナ・レコードに移籍。後にミスター・マリックのテーマで有名となった「レッグス」(1985)、バーチャルDJ、マックスヘッドルームをヒューチャーした「パラノミア」(1986)、グラミー賞受賞曲「ピーターガン」(1987)、トム・ジョーンズの復活作でプリンスのカーバー「キス」(1988)など次々にヒットを飛ばすこととなる。途中1987年にゲーリー・ランガンが多忙を理由に脱退、1990年にバンドは解散する。	**Side A** 1. タイム・トゥ・フィア 2. ビート・ボックス 3. スナップショット 4. クローズ 5. フーズ・アフレイド	**Side B** 6. モーメンツ・イン・ラブ 7. モーメント 8. ハウ・トゥ・キル 9. リアライゼイション 10. クローズ・アップ
	ASIA	詠時感～時へのロマン～		1982	プログレ	レコード	日本	82年作。まさに時代を変えた1枚と言える大ヒット作にして名盤、エイジアのデビュー・アルバム。 プログレのポップ化、コンパクトなコマーシャル性は、全てここから始まった。YES、KING CRIMSON、EL&P、そして更にUK、BUGGLESといった名バンドの集合体が、ここまでのサウンドを完成させると、一体どれ程の人が予想できたのか。彼等の残した大きな影響は、70年代プログレの生き残り方法を提示しただけではなく、他の多くのビッグ・バンドを刺激したとも言えるかもしれません。「ヒート・オブ・ザ・モーメント」や「時へのロマン」のシングル・ヒットは、ジャーニーやフォリナー、スティクスといったアメリカン・プログレ・ハードの隆盛にも貢献したと思います。 本作で見られたポップ性ももちろん革新的でしたが、ロジャー・ディーンのアートワーク、SF的なコンセプトを持った歌詞世界、そして随所に見られるプログレ的サウンドの片鱗は、まさに彼等でしか成し得なかった芸術性をも確立しています。 ジョン・ウェットン、スティーヴ・ハウ、カール・パーマーという超大物勢の中で、一人新鮮なメロディアス・ロック感覚を持ち込んでいたジェフリー・ダウンズの貢献も忘れる事はできない。	**Side A** 1. ヒート・オブ・ザ・モーメント 2. 時へのロマン “Only Time Will Tell” 3. 孤独のサヴァイヴァー “Sole Survivor” 4. ワン・ステップ・クローサー 5. タイム・アゲイン	**Side B** 1. この夢の果てまで “Wildest Dreams” 2. ウィズアウト・ユー 3. 流れのままに “Cutting It Fine” 4. ときめきの面影 “Here Comes The Feeling”
	ASIA	アルファ		1983年7月26日	プログレ	レコード	日本	大ヒットしたファースト・アルバムから更にソング・オリエンテッドな方向性を志向した、1983年発表のセカンド・アルバム。本作もヒットを記録したが、前作ほどの巨大なセールスをあげることはできなかった。メンバーはデビュー時と変わらず、音楽性も前作の成功を踏襲している。よりポップでキャッチーな作風が展開され、ほとんどプログレッシブ・ロックの面影はない。シングルでは「ドント・クライ」と「偽りの微笑み」がヒットした。スティーブ・ハウの曲が採用されず、ギターの音が前作に比べて控えめになっている。 しかし、エイジアにとっては本作が最後のヒットになり、その後はメンバー・チェンジなどが激しくなり、バンドは不安定な状態に入る。	Side A 1. ドント・クライ 2. :嘘りの微笑み 3. ネヴァー・イン・ア・ミリオン・イヤーズ 4. マイ・オウン・タイム 5. ザ・ヒート・ゴーズ・オン	**Side B** 1. 悲しみの瞳 2. 時の旅人 3.トゥルー・カラーズ 4.ミッドナイト・サン 5. 永遠の輝き
	ASSOCIATES	碧い幻		1981	ニューウェイブ	レコード	ドイツ	1981年作のアソシエイツ。シングル集となる2ndアルバム『フォース・ドゥロワー・ダウン』。 スコットランド出身のシンガー、ビリー・マッケンジーとマルチ・インスト奏者アラン・ランキンによって1976年に結成されたポストパンク～ニュー・ロマンティック系カルト・バンド。一般的には次のきらびやかなエレポップ名盤のSulkが有名だが、こちらも間違いなく名盤で、実際には当時のシングルをまとめたアルバムだったが、とにかく邦題のとおり暗黒で美しいエレポップで、不思議にリピートしたくなる麻薬のようなアルバムである。国内盤レコードが出た当時は、バウハウスやエコバニなど、イギリスの今でいうゴシックロックがちょっとしたブームとなっていた。	**Side A** 1. White Car In Germany 2. A Girl Named Property 3. Kitchen Person 4. Q Quarters	**Side B** 1. Tell Me Easter’s On Friday 2. The Associate 3. Message Oblique Speech 4. An Even Whiter Car
	ASSOCIATES	サルク		1982	ニューウェイブ	レコード	日本	アソシエイツの1982年作の3rdアルバム『サルク』はアソシエイツらしさが最もよくでたラスト・アルバム。ヒット曲「Party Fears Two」「Club Country」「18 Carat Love Affair」を含む彼らの最も成功したアルバム。アソシエイツは、1980年代初頭のチャートを揺るがしたニュー・ポップ革命の中心部にいて、ポスト・パンク勢の味気ないモノトーンの音楽に対しスタイリッシュに反抗した。ニューロマンティックなシンセ・ポップ・サウンドにダークでシュールなキャバレー風要素が融合した彼らのサウンドの最高到達点的作品とも呼べそうなこのアルバムは、全英アルバム・チャートのTOP10に輝き、メロディ・メイカー誌の”アルバム・オブ・ジ・イヤー“を獲得した。その後、マッケンジーは1997年に自殺しまうが、生前彼は「『SULK』は真の解放だった。ありのままの自分の本質がここに反映されている。自分で自分の太陽を作り出すことができると気づいた作品なんだ」と言っていた。	**Side A** 1. It’s Better This Way 2. Party Fears Two 3. Club Country 4. Love Hangover 5. 18 Carat Love Affair	**Side B** 1. Arrogance Gave Him Up 2. No 3. Skipping 4. White Car In Germany 5.Gloomy Sunday 6. The Associate
	ATHLETICO SPIZZ 80			1980	ニューウェイブ	レコード	US	1970年代後半のイギリス、ヴォーカル＆ギターのスピッツ（本名ケネス・スピアーズ）を中心に結成（SPIZZ → SPIZZ OIL → SPIZZENERGI と次々に名前を変えいった）されたのが、ラフ・トレードからシングルを5枚リリースするが、本作は1980年に彼らが「ATHLETICO SPIZZ 80」名義で大手A&Mから出したデビュー・アルバム『DO A RUNNER』。ねじれた演奏がギクシャクと暴れる「European Heroes」、ダンサンブルなニューウェーブ・ファンク・グルーヴが交錯する「New Species」など、DEVOにも通じる屈折サウンドは、今聴いても新鮮だ。原始的なテクノ・ポップ風鍵盤もありのポスト・パンクで、歌メロがまるでジェットコースターのように上下するのが特徴。強いて言えば、バリー・アンドリューズが在籍した初期XTCに近いニュアンス。	**Side A** 1. Touched 2:40 2. New Species 2:21 3. Intimate 2:00 4. Effortless 3:00 5. European Heroes 2:10 6. Energy Crisis 4:38	**Side B** 1. Red And Black 3:48 2. The Rhythm Inside2:30 3. Personimpersonator 2:40 4. Clocks Are Big 0:32 5. Airships 8:41

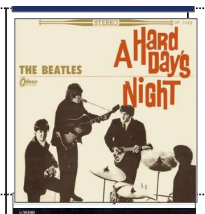
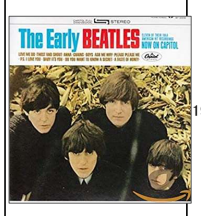
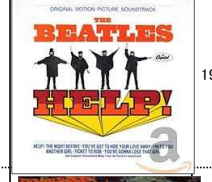
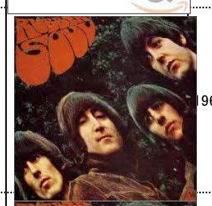
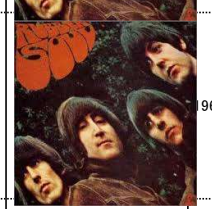
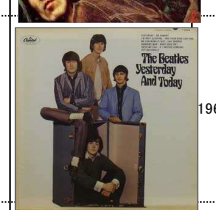
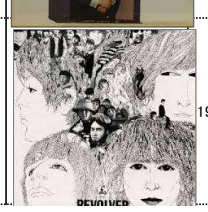
ATLANTICS	青春の叫び		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	76年にボストンで結成した5人組アトランティックスのファーストアルバムで唯一のアルバム。エネルギッシュでストレートなロックンロールは、まさにまるで現代の世界を反抗するように、自分たちの青春のエネルギーとして、体中で発散させるようなサウンドで、ちょっぴりメジャー寄りな感じなメロディでパワーポップの隠れた名盤だ。とにかく全曲が素晴らしく、かなりハードでドライブのかかったロックンロールこそ、アトランティスの真の魅力と思える。特に1曲目「ワン・ラスト・ナイト」からエンジン全開で飛ばしていく。続く「青春の叫び」や最後の「ビッグ・シティ・ロック」をはじめ佳曲揃いで最後まで突っ走っていくメロディは素晴らしいが、オーソドックスすぎたのか売れなかったが、とにかく惜しまれるバンドだ。その後、一部で評価されライブアルバムも発売したらしい。もしじかした80年以降に出ていたらもっと売れたんでは？	**Side A** 1. ワン・ラスト・ナイト2:59 2. 青春の叫び When You're Young 2:32 3. テレビジョン・ガール 2:53 4. 恋にショック I Can't Help It 3:14 5. モダン・タイム 5:53	**Side B** 1. ノー・ホエア・トゥ・ラン 3:29 2. あの娘に夢中 Waiting For My Baby 2:34 3. ソー・ロング 3:32 4. 悩める十代 Teenage Flu 2:32 5. ビッグ・シティ・ロック 3:27
ATLANTICS	青春の叫び		1979	ニューウェイブ	レコード	US			
ATOMIC ROOSTER	アトミック・ルースター・ファースト・アルバム		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ヴィンセント・クレイン率いるアトミック・ルースターの1970年発表のデビュー・アルバム。カール・パーマー、ニック・グレアムとの3人編成にて、ハード・ロックとプログレッシヴ・ロックをブレンドさせた記念すべき作品。基本、ナイス、EL&P、やクォーターマス同様のキーボードのトリオですが、グラハムはかなりの曲でギターも披露しており、ブルーズ・ベースのハード・ロック的感触が強いです。グラハムがギターを操るときは、ヴィンセントがベース・ペダルを踏んでいるのでしょう。硬質なオルガンと錆錆のギター、あの感じです。音楽的中心はヴィンセントで、クレイジー・ワールド・オヴ・アーサー・ブラウン時代から直結するメロディが出てきたりします。ジョン・メイオールのアンニョイな歌 BROKEN WINGS がおもいっきりダイナミックにカヴァーされています。「いざ出陣のとき！今城門は開かれる！」な巨編スペクタクルなブラス群に導かれ、グラハムは野獣のようにブルーズをがなり立てます。ゆっくりと高揚する展開が圧巻。	**Side A** 1. Friday The Thirteenth 2. And So To Bed 3. Broken Wings 4. Before Tomorrow	**Side B** 1. Banstead 2. S.L.Y. 3. Winter 4. Decline & Fall
ATOMIC ROOSTER	(ペーパースリーブ仕様)アトミック・ルースター・ファースト・アルバム		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
ANDY GIBB	シャドー・ダンシング		1978	ポップス	レコード	UK	全米アルバム・チャート7位。(1978年)全米シングル・チャート1位「シャドー・ダンシング」、同5位「永遠の愛」、同9位「愛をすてないで」収録のセカンド・アルバム!1978年4月に2NDアルバム『シャドウ・ダンシング』を発表。このアルバムのタイトル・トラック(ギブ4兄弟によって書かれた曲)はシングルとして発売されると、アメリカで7週連続1位となり、プラチナレコードを記録した。ビルボード・ホット100で3曲連続でナンバー1ヒットを記録する、アンディは初めてのソロ・シンガーとなった。このアルバムには他にトップ10ヒットが2曲(「永遠の愛」(最高5位)、「愛を捨てないで」(最高9位))が収録され、このアルバムもミリオン・セラーとなった。	**Side A** 1. シャドー・ダンシング 2. ホワイ 3. フール・フォー・ア・ナイト 4. 永遠の愛 5. 愛をすてないで	**Side B** 1. 夢のほほえみ 2. 愛のメロディ 3. アイ・ゴー・フォー・ユー 4. グッド・フィーリング 5. 愛するキミを待って
ANTI NOWHERE LEAGUE	ウィ・アー・ザ・リーグ			パンク	レコード	UK	ボーカルのAnimal(アニマル)ことNick Culmer(元、暴走族)の野太い唄声とワイルド＆ダーティーな噎せ返る程に男臭いサウンドが詰まった'82年リリースの歴史的名盤ファーストアルバム。シンプルなコード進行の曲にメロディは結構ポップで、そこへアニマルの野生的な野太い声がハードで曲にマッチし、これぞパンクといった感じで高速な曲が行きつく暇も無く連続で炸裂する。ピストルズからの影響が強く感じ、ピストルズが好きな人には是非お勧めで聴いていただきたいアルバムだ。特に曲が素晴らしく捨て曲なしで、パンクアルバムの中でも5本の指に入ってもいい傑作アルバムだ。 その中でも、拳もハートも熱くなる「Street Of London」やメタリカがカバーした「So What」、メテオスがカバーした「I Hate...People」がお勧めで全12曲収録。また、初回プレスで問題となった、A-2「Animal」の歌詞が「私は児童性的虐待者です」をセカンドプレスで「私はあなたの隣人です」に差し替えられた。	**Side A** 1. We're The League 2. Animal 3. Woman 4. Can't Stand Rock 'N' Roll 5. (We Will Not) Remember You 6. Snowman	**Side B** 1. Streets Of London 2. I Hate... People (remix) 3. Reck-A-Nowhere 4. World War III 5. Nowhere Man 6. Lets Break The Law
ANTI NOWHERE LEAGUE	ウィ・アー・ザ・リーグ			パンク	レコード	UK	ギグは地元のカーニバルで行われ、バンドメンバーが逮捕されるという悲惨な結果に終わる。1981年11月にシングルで「ラルフ・マクテル」のStreets of Londonのカバーを出す。後にこの曲は彼らの「ソー・ワット」のB面に収録される。 その後、デビューアルバムWe Are...The League.をリリース。しかし、アニマルが3FTもの斧を持ち歩いていた為、危険とされ、レコードストアーからアルバムは全て回収、ラジオ局からも撤去される。1983年に「ギリー」(本名：マーク・ギリハム)が追加のギタリストとしてバンドに加わる。理由は、Magoo(マグー)が度々、飲み過ぎによりギターを弾けなくなった為とのこと。同年ライブアルバムを制作「ライブ・イン・ユーゴスラビア」をリリース。1984年にPJ(ピー・ジェー)が首になり、理由はバンドのメンバーのアルコールとドラッグのライフスタイルに馴染めなかった為。1985年に「マイケル・ベッテル」がドラマーとして加わる。1986年にJB(ジョナサン・ビリック)が次いで入る。同年に「GWRレコード」と契約が決まり「パーフェクト・クライム」を制作。しかし、またもや問題発生で、バンドはついに1978年に解散。その後、マイケル・ベッテルが脳腫瘍により41歳にて死去。1992年に再結成する。	以下、ボーナスシングル **Side A** 1. ROCKER	**Side B** 1. SO WHAT
ANTI NOWHERE LEAGUE	ザ・ベスト・オブ・アンティ・ノー・ウェアリーグ			パンク	レコード	UK	1996年にリリースされたコンピレーションアルバムでありベスト盤。METALLICAがカバーした A① 1981年のデビューシングル "Streets Of London"ロンドン橋落ちた』で始まる曲はポップでダーティ。A② "So What"はMETALLICAがカバーした曲などロンドンパンクが炸裂。B面に入ると若干ヴォーカルスタイルが変わり B⑥ "On The Waterfront"なんかポストパンクというかニューウェーブっぽい良い曲等、全14曲にボーナスのシングルディスクはライブテイク2曲収録。	**Side A** 1. Streets Of London 2. So What 3. I Hate People 4. We Are The League 5. Let's Break The Law 6. Animal 7. Woman 8. Rocker	**Side B** 1. For You 2. Ballad Of JJ Decay 3. Out On The Wasteland 4. We Will Survive 5. Queen And Country 6. On The Waterfront 以下、ボーナスシングル Side C：Let The Country Feed You (Live) Side D：Going Down (Live)
AZTEC CAMERA	君に捧げる青春風景		1983	ネオアコ	レコード	日本	アズテック・カメラはシンガー・ソングライター/ギターのロディ・フレイムが中心となって1980年に結成された。翌年にはスコットランドのインディ"ポストカード"からシングル2枚をリリース。そして83年には"ラフ・トレード"からデビュー・アルバムにして歴史に残る名作である『ハイ・ランド、ハード・レイン』を発表。アズテック・カメラはネオアコ¨ギターポップの重要バンドで、ジャズ、ラテン～ソウルなど生ざまなジャンルを融合させたサウンドで衝撃のデビューアルバムでありネオアコの大名盤。 1曲目の「思い出のサニー・ビート(原題：Oblivious)」はラフ・トレードからの第二弾シングルで、彼らの代表曲のひとつ。青春映画のタイトルトラックとしても使えそうな、トロピカルムードあふれる軽快なナンバーで、後の渋谷系ミュージシャンたちにも大きな影響を与えた。3曲目の「ウォーク・アウト・トゥ・ウインター」は、ネオアコ全体を代表する名曲中の名曲。他にも「ピラー・トゥ・ポスト」や「バック・オン・ボード」など、アズテック・カメラの代表曲というだけでなく、ネオアコの代表曲がいっぱい詰まっている。彼らのエレガントで躍動感あふれる透明な瑞々しいサウンドとポップセンスと哀愁が漂う感じがたまりません。	**Side A** 1. 思い出のサニー・ビート Oblivious 2. ザ・ボーイ・ワンダーズ 3. ウォーク・アウト・トゥ・ウィンター 4. ザ・ビューグル・サウンズ・アゲイン 5. ウィ・クッド・センド・レターズ	**Side B** 1. ピラー・トゥ・ポスト 2. リリース 3. ロスト・アウトサイド・ザ・トンネル 4. バック・オン・ボード 5. ダウン・ザ・ディップ
AZTEC CAMERA	君に捧げる青春風景		1983	ネオアコ	レコード	UK			
AZTEC CAMERA	君に捧げる青春風景		1983	ネオアコ	CD	ドイツ		以下、CD 11. ヘイワイアー 12. オーキッド・ガール 13. クィーンズ・タトゥーズ	
AZTEC CAMERA	ナイフ		1984	ネオアコ	レコード	日本	アズテック・カメラの2作目。Roddy Frameのこれからの可能性を示唆する本能的なすばらしさが見られた最初の作品である。『High Land, Hard Rain』で当代で最もヒッピー的なスターとして鮮烈なデビューを飾った彼は、このアルバムではMark Knopflerをプロデューサーに迎え、これまで以上にファッショナブルに仕上がりになった。このアルバムを聴くと、Frameはまだ若く、進歩的であること、今後も期待できることが分かる。『Knife』は、巨匠たちがアコースティックでやっていたことをエレキでやってのけたものであり、『High Land, Hard Rain』のときのような不安定さを克服した良いアルバムではあるが、評価は高くない。第1曲目の『Still On Fire』は、Jackson Fiveの『I Want You Back』のようなリズム感があり、Frameのベストシングルになろうとしている。他にもバラードの『Just Like the USA』や、『Head Is Happy (Heart's Insane)』を聴くと、Roddy Frameの音楽は大胆で、いずれにしても過小評価されるということが分かるだろう。	**Side A** 1. Still On Fire 2. Just Like The USA 3. Head Is Happy 4. Backdoor To Heaven	**Side B** 1. All I Need Is Everything 2. Backwards And Forwards 3. Birth Of The True 4. Knife
AZTEC CAMERA	ラヴ		1987	ネオアコ	CD	日本	"ネオ・アコースティック・ムーヴメント"の牽引者、アズテック・カメラが初めて行ったアメリカ・レコーディング。 「イン・マイ・ハート」、「ハウ・メン・アー」に代表される珠玉のヒットを収録したソウルフルな傑作3rdアルバム。 スコティッシュ風味で、全英3位を獲得した(5)や、"Oblivious" in LA Styleといったかんじの(1)、ロディー節としか言いようのない伸びやかなメロディーの中にHi Sound 好きが顔を出す(4)などがやはり聴き所です。そして、ラストは名曲"Killermont Street"です。フォーク・ロックとソウル・ミュージックが融合された感じの傑作アルバム。 初期のいかにもネオアコ然とした瑞々しさを愛するファンからは、売れ線に走った作品とも捉えられがちですが、本作や次作『Stray』での試行錯誤があったからこそ、『Dreamland』以降、本当の意味でのオリジナリティーを確立できたのだと思います。	1. ディープ・アンド・ワイド 2. ハウ・メン・アー 3. エヴリバディ 4. モア・ザン・ア・ロー 5. イン・マイ・ハート 6. ワーキング・イン・ゴールドマイン 7. ワン&ワン 8. パラダイス 9. キラーモント・ストリート	
BABYS	ベイビーズ		1976	ハードロック	レコード	UK	1976年発表の1stアルバム。ストライダーのドラム、トニー・ブロックが1976年にボーカルのジョン・ウェイトがベースも兼任。ギター、キーボード、ドラムの4人編成。ジョン・ウェイトはハンブル・パイのスティーブ・マリオットやフリーのポール・ロジャースに傾倒しているらしく、「ダイイング・マン」にように全般的にソウルフルな歌い方だ。イギリス特有の影があり、明るい曲は少ない。結成したバンド。全員イギリス人なのでブリティッシュ・ロック。後にソロやバッド・イングリッシュで活躍したJ・ウェイトも在籍した「ベイビーズ」の記念すべきデビュー作。"If You've Got The Time"がアメリカ・チャート入り。J・ウェイトというスーパー・ボーカリストがいるのみならず、ギターとドラムはその後R・ステュアートのバンドメンバーともなるなど実は辣腕揃い。ギターを中心としたパワーポップの走りとしても、もっと再評価されてしかるべき作品。	**Side A** 1. Looking for Love – 4:43 2. If You've Got the Time – 2:38 3. I Believe in Love – 4:17 4. Wild Man – 3:29 5. Laura – 5:02	**Side B** 1. I Love How You Love Me – 2:21 2. Rodeo (John Waite) – 2:58 3. Over and Over – 4:47 4. Read My Stars – 2:43 5. Dying Man – 6:30
BAD COMPANY	バッド・カンパニー		1974	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK	元フリーのボーカリスト ポール・ロジャースを中心に、同じフリーから、ドラムのサイモン・カークを引き連れ、モット・ザ・フープルのギタリスト、ミック・ラルフス、そして、キング・クリムゾンを首になったベーシスト、ボズ・バレルという強力な布陣で臨んだバッド・カンパニーは、メンバーの豪華さからスーパー・バンドと騒がれ、記念すべきファースト・アルバムにして歴史的大名盤。FREEの様にブルースを直接的に取り入れるのではなく、あくまでもブルージーでありながらメロディはキャッチー、聴きようによってはかなりポップであったのが新鮮だったのだと思います。 本国イギリスよりアメリカで大きな支持を受けたのは、このロずさめる大衆性があったからでしょう。 バンドの基本もしっかりとしたリズム隊に色気のあるギターが絡み、巧いヴォーカルが乗っかるという極めてオーソドックスなものながら、この味こそがロックの不変の黄金比であった気がします。 ソウルフルでありながら、けっして感情過多にならない、良く言われる煮えきらないヴォーカルも、何度聴いても飽きないものになっています。小粒ながら収録曲全てが、シングル・カット可能だった完成度の高さも見逃せません。そのシンプルなジャケットのデザインと同様、無駄な飾りは一切無い、純度100%のブリティッシュ・ハードとなっています。 ハード・ロックという言葉がこれ程似合うアルバムも無いと思いますが、週に1回は絶対聴きたくなる大衆性が本当に見事な1枚です。大ヒット曲「キャント・ゲット・イナフ」収録。1974年作品。	**Side A** 1. キャント・ゲット・イナフ 2. ロック・ステディー 3. レディ・フォー・ラヴ 4. ドント・レット・ミー・ダウン	**Side B** 1. バッド・カンパニー 2. ザ・ウェイ・アイ・チューズ 3. ムーヴィン・オン 4. シーガル
BAD COMPANY	バーニング・スカイ		1976	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	76年作、バッド・カンパニーの通産4枚目となったアルバムで、日本人にとってははっぴとハチマキをしたポール・ロジャースの姿が親しみ深い1枚です。パンクの嵐が吹き荒れる中、彼等の人気も下降をたどりましたが、内容はけっして悪くありません。これぞバドカン節と言うべきアルバム・タイトル曲から始まり、緩急のバランスが見事な構成となっています。 合間に挟まれるスロー・ナンバーと、今までになくポップな曲調が目立つナンバー等、バラエティ豊かな傑作です。	**Side A** 1.バーニン・スカイ 2.モーニング・サン 3.リーヴィング・ユー 4.ライク・ウォーター 5.燃えるヤング・ラヴ	**Side B** 1. ハートビート 2. ピース・オブ・マインド 3. パッシング・タイム 4. トゥー・バッド 5. マン・ニーズ・ウーマン 6. マスター・オブ・セレモニー

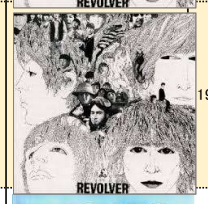
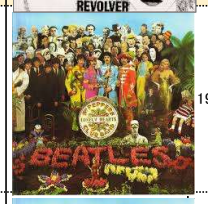
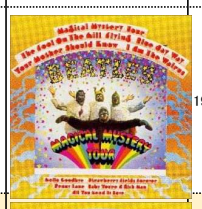
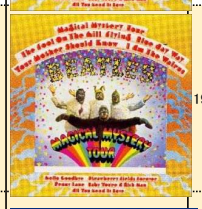
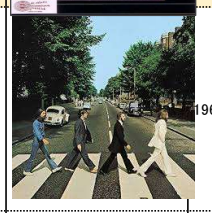
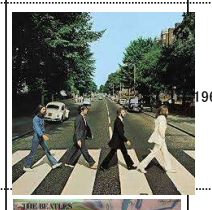
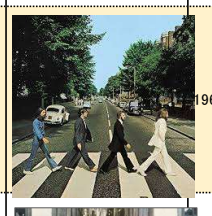
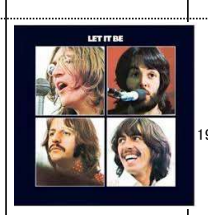
	BADFINGER	マジック・クリスチャン・ミュージック		1970年1月9日	ロック	レコード	UK	70年作、ブリティッシュ・ポップの永遠の二番手、バッドフィンガーの記念すべきファースト・アルバムです。 彼等の名前はパワー・ポップという甘美な響きのする言葉がロックの世界に存在し続ける限り、ずっと語られ続けると思います。アイヴィーズからバンド名を変更し、アップル・レコードからビートルズの弟分として再デビューとなった本作はジャケットも変更して発売。そのメオディーは甘さとせつなさが詰まった大名盤となっています。プロデュースも手掛けたポール・マッカートニー提供作の「Come and get it」すらも色褪せて見えるポップ・センスがまばゆいばかり、と言ってしまうのは大袈裟でしょうか。後のグラム・ロックへと繋がるトニー・ヴィスコンティのキラキラした仕事も見逃せません。悲劇的な運命を辿るバンドですが、改めて聴くとその影がちらついているかの様に響く哀愁感が何とも言えません。	**Side A** 1. マジック・クリスチャンのテーマ Come and Get It (Paul McCartney) 2:21 2. クリムゾン・シップ 3:42 3. いとしのアンジー – Dear Angie 2:39 4. フィッシャマン 2:24 5. ミッドナイト・サン 2:46 6. 美しく青く – Beautiful and Blue 2:40	**Side B** 1. ロック・オブ・オール・エイジス 3:16 2. 明日の風 – Carry on Till Tomorrow 4:47 3. 愛のとりこに – I'm in Love 2:26 4. 雨の散歩道 – Walk Out in the Rain 3:27 5. アンジェリーク 2:28 6. ノッキン・ダウン・アワ・ホーム 3:40 7. ギヴ・イット・ア・トライ 2:31 8. メイビー・トゥモロウ 2:51 ※3. 4. 6. 9. 11. 12. 14. はアイヴィーズ名義の
	BADFINGER	(ペーパースリーブ仕様) マジック・クリスチャン・ミュージック		1970年1月9日	ロック	CD	日本			
	BADFINGER	(ペーパースリーブ仕様)ノー・ダイス		1970年11月	ロック	CD	日本	バッドフィンガーの1970年にリリースしたサードアルバム。バンド名を"アイヴィーズ"から変更してからは、2作目のアルバム。ジョーイ・モーランドが新ギタリストとして加入して、トム・エヴァンスは本作から主にベースを担当するようになった。大部分の曲では、ビートルズとの仕事で知られるジェフ・エメリックがプロデューサーを務めたが、「嵐の恋」と「ビリーヴ・ミー」は、ビートルズのロード・マネージャーであったマル・エヴァンスがプロデュースし。本作からシングル・カットされた「嵐の恋」は、全英5位・全米8位に達した。また、収録曲「ウィズアウト・ユー」は、後にハリー・ニルソンやマライア・キャリーによるカヴァー・ヴァージョンが大ヒットして、スタンダード・ナンバーとなった。	1. アイ・キャント・テイク・イット 2:54 2. アイ・ドント・マインド 3:13 3. ラヴ・ミー・ドゥ 2:57 4. ミッドナイト・コーラー 2:48 5. 嵐の恋 No Matter What 2:59 6. ウィズアウト・ユー 4:42	7. ブラッドウィン 3:24 8. ベター・デイズ 3:59 9. イット・ハッド・トゥ・ビー 2:57 10. ワットフォード・ジョン 3:21 11. ビリーヴ・ミー 2:58 12. ウィアー・フォー・ザ・ダーク 3:51
	BADFINGER	ストレート・アップ		1971年12月	ロック	レコード	US	71年リリースの4枚目のアルバム。ブリティッシュ・ポップ・ファンにとっては、現在でもせつなく甘いバンドであるバッドフィンガーの3作目にして、最高傑作と呼ばれる1枚です。ビートルズの恩恵を受け、そしてその直系のサウンドを引き継いできたバンドとして有名であり、彼等の名は永遠のパワー・ポップ・バンドとして語られています。色んなバンドがパワー・ポップ・サウンドから受けてきた影響は説明するまでも無く明らかに大きいはずで、歴史を紐解く時、このバンドの存在を無視するわけにはいきません。 本作のプロデュースはジョージ・ハリスンとトッド・ラングレンという、今では叶わぬ黄金タッグです。ビートルズ譲りのメロディから、現在にまで繋がる胸キュン系パワー・ポップ・ナンバーが堪能できます。 哀愁感も漂う美しいメロディは、このバンドの悲劇的な運命を予期しているかの様にも響きますが、とにかく曲の良さは奇跡的だと思います	**Side A** 1. テイク・イット・オール 4:26 2. ベイビー・ブルー 3:36 3. マネー – Money 3:29 4. フライング – Flying 2:35 5. アイド・ダイ・ベイブ 2:33 6. ネイム・オブ・ザ・ゲーム 5:19	**Side B** 1. スーツケース 2:52 2. スウィート・チューズデイ・モーニング 2:29 3. デイ・アフター・デイ 3:10 4. サムタイムズ 2:51 5. パーフェクション 5:07 6. イッツ・オーヴァー 3:24
	BADFINGER	(ペーパースリーブ仕様 アス		1973	ロック	CD	日本	1973年リリースの5枚目のアルバム。残念なことにこのアルバムでバッドフィンガーはアップルを離れてしまう。ご存じのようにアップル内部の ごたごたのせいでメリー・ホプキンや彼らのような有能なアーチストは居場所がなくなってしまった。 そんなアップルに別れを告げるM−1は唯一前作までのビートらしさが感じられる。 レーベル移籍に悩んだリーダーのピート・ハムに精彩がなく、代わりにジョーイ・モランドが大活躍している。これは英国人がアメリカンロックをやったらどうなるかという一つの解答みたいなアルバムだ。 M−2～4、6、9とジョーイの曲が半数を占め、前作に比べキーボードよりギター主導のハードなプレイが目立つ。そんな中トム・エヴァンスのM−7がとてもチャーミングでメロディが美しい。	1. アップル・オブ・マイ・アイ 2. ゲッタウェイ 3. アイシクルズ 4. ザ・ウィナー 5. ブラインド・アウル	6. コンシティチューション 7. ホエン・アイ・セイ 8. カウボーイ 9. アイ・キャン・ラヴ・ユー 10. タイムレス 以下、CDボーナストラック 11. ドゥ・ユー・マインド
	BADFINGER	涙の旅路		1974年	ロック	レコード	日本	1974年リリースのバッドフィンガーの6枚目のアルバム。名曲揃いの中期の大傑作。感傷的な1. でしっかりと心を掴みながら、開放的な2. で思いっきりブチのめしてくれる、名曲揃いのワーナー移籍第一弾。個人的にはバッドフィガーで一番の愛聴盤です。73年末にはアップル最後になる「ASS」を発表し、翌74年はワーナーへ移籍して本作と「WISH YOU WERE HERE」と2枚のアルバム発表と、最も精力的な活動を行なっていた時期の作品で、おまけにタイトルはグループ名そのものの「BADFINGER」(国内盤は「涙の旅路」)。自信が強く感じられます。実際にもベスト・オブ・バット・フィンガーというオフィシャル編集盤には1. 2. 4. 10. 11. の5曲が収録されるほどの作品です。エレピがいい味を出している一押し8. はメロウでありながらちょっぴり寂し気なバッドフィンガーらしい佳曲。捨て曲無しの名盤です。シングルヒット曲が含まれていないせいかセールスは良くなかったらしいですが、曲の随所にバッド・フィンガーらしさというか、バラエティに富んだ中にもメロディメーカーとしてのピート・ハムの良さとプロデュースしたクリス・トーマスのセンスが魅力のアルバムとなっています。全米131位	**Side A** 1. 涙の旅路 2. シャイン・オン 3. ラヴ・イズ・イージー 4. 夢はいずこへ 5. ホワイ・ドント・ウィ・トーク 6. アイランド	**Side B** 1. マッテッド・スパム 2. さすらいの道 3. マイ・ハート・ゴーズ・アウト 4. ロンリー・ユー 5. ギヴ・イット・アップ 6. アンディ・ノリス
	BADFINGER			1974	ロック	レコード	UK	ワーナー時代に発表した『BADFINGER』と『WISH YOU WERE HERE』の2枚から曲を1枚分だけ抜粋したアルバム。1曲目のP.HAMが作った「I Miss You」は「WITHOUT YOU」に匹敵する名曲だと思います。シンプルなアレンジだからこそ美しさがわかるバラード。さらに続くP.HAMとT.EVANSが作ったタイトル曲「SHINE ON」はカントリーフレーバーが漂う名曲。このアルバムの中でも1位2位を争うくらいの曲。アレンジも素晴しいですし、何よりものびのびとした雰囲気が彼等らしくて、聴いていて嬉しくなる曲なんです。 やはりこのバンドはP.HAMとT.EVANSが作り出すサウンドが全てのような気がします。そういう意味ではJ.MOLLANDが作った「Love Is Easy」は悪くないのですが、ヴォーカルの弱さとツメの甘さが出てしまっています。同じ事が「Andy Norris」「Island」でも言えてきます。やたらギターの音が前に出てしまってヴォーカルが見えてきません。「Island」は曲としてはバッド・カンパニー風で、いい雰囲気ではあるのであと一歩前にでていたら良かったのにと思います。「Song for a Lost Friend」などP.HAMの特長がよく出た佳曲なんですけど、プロデューサーがクリス・トーマスじゃなく、ジョージ・マーティンだったらもっと曲が生きていてのではないでしょうか。このアルバムにはそういう曲が幾つかあって、もう一度取り直してほしかったです。T.EVANSの「Why Don't We Talk」はバックでエレキギターがジャカジャカなっていて、曲の素晴しさが打ち消されてしまっています。エレキがアコギに変わっただけで印象は良くなると勝手に思っているのですが・・・。このアルバムにはP.HAMが作った曲(共作)が7曲入っているのですが、タイトル曲や「I Miss You」と共に素晴しいのが「Lonely You」です。こうやって素晴しい曲を聴くと、彼等の才能の凄さをあらためて認識させられま。「Know One Knows」なんですが曲の途中で日本人の女性が「誰も知らない、誰も知らない・・・」と言っているが、この女性はサディスティック・ミカ・バンドのミカで	**Side A** 1. I Miss You 2:32 2. Shine On 2:47 3. Love Is Easy 3:06 4. Song For A Lost Friend 2:53 5. Why Don't We Talk? 3:41 6. Island 3:38	**Side B** 1. Lonely You 3:43 2. Andy Norris 2:59 3. In The Meantime, Some Other Time 6:44 4. Just A Chance 2:56 5. Know One Knows 3:13 6. Dennis 5:17
	BADFINGER	ガラスの恋人		1979	ロック	レコード	日本	ジョーイ・モランドとトム・エヴァンスに加えアンディ・ニューマーク(ds.)らセッション・マンの協力を得た完成を見た再結成アルバム。	**Side A** 1. エアーウェイヴズ 2. ルック・アウト・カリフォルニア 3. 美しき愛のゆくえ /Lost InSide Your Love 4. ガラスの恋人 /Love Is Gonna Come At Last 5. シンパシー	**Side B** 1. ザ・ウィナー 2. ザ・ドリーマー 3. カム・ダウン・ハード 4. セイル・ワウェイ
	BADFINGER	ザ・ベスト・オブ バッドフィンガー		1995	ロック	CD	日本	ザ・ビートルズが設立したアップルに残した4枚のアルバム(70~74年)から選曲されたベスト。中心メンバーの2人が75年と83年に自殺するという悲劇を思うと、特に美しいコーラスの曲など、涙、だ。各アルバムから年代順にバランスよく収録されている。特に、10曲目の「ウィズ・アウト・ユー」はニルソンがカバーしてヒットして有名だが、その後マライアキャリーもカバーして全米1位を記録した名曲。「嵐の恋」「デイ・アフター・デイ」「ベイビーブルー」など名曲を収録。	1. マジック・クリスチャンのテーマ 2. メイビー・トゥモロウ 3. ロック・オブ・オール・エイジス 4. いとしのアンジー 5. 明日の風 6. 嵐の恋 7. ビリーヴ・ミー 8. ミッドナイト・コーラー 9. ベター・デイズ 10. ウィズアウト・ユー	11. テイク・イット・オール 12. マネー 13. フライング 14. ネイム・オブ・ザ・ゲーム 15. スーツケース 16. デイ・アフター・デイ 17. ベイビー・ブルー 18. ホエン・アイ・セイ 19. アイシクルズ 20. アイ・キャン・ラヴ・ユー 21. アップル・オブ・マイ・アイ
	BANANARAMA	キューティー・ハート		1983年3月7日	ニューウェーブ	レコード	日本	英国3人組ガールバンドのデビューから実に一年半程経過し1983年にリリースされたバナナラマのファーストアルバム。イギリスのパンク～New Waveシーンから飛び出たアイドル・グループの彼女達のデビュー・アルバム。投げやりにユニゾンで歌う歌い方は新鮮で、次々とシングル・ヒットを重ねていった。日本だけでリリースした「ハート・ワクワク」など、ユーロビート路線以前の彼女達の姿が堪能出来る。キャッチーなポップナンバー茶目っ気と甘酸っぱさが同居したポップアルバムの名盤。全英アルバムチャートでは8位を記録。	**Side A** 1. シャイ・ボーイ 3:16 2. ドクター・ラブ 3:42 3. ホワット・ア・シャンブルズ 3:34 4. ハート・ワクワク(He's Got Tact) (日本盤ボーナストラック) 2:57 5. リアリー・セイイング・サムシング 2:45 6. バナナドリーム 3:31	Side B 1. アイ・ア・ムアナ 3:36 2. ヤング・アット・ハート 3:13 3. ナナ・ヘイ・ヘイ・キス・ヒム・グッバイ 3:30 4. ヘイ・ヤング・ロンドン 3:55 5. ボーイ・トラブル 3:14 6. ハイ!ダーリン 3:41 ※オリジナル盤はB面1の「アイ・ア・ムアナ」がA面の6曲目で、B面2の「ヤング・アット・ハート」がB面1曲目になる。
	BAND	ミュージック・フロム・ビッグ・ピンク		1968	アメリカンロック	レコード	US	1968年に発表したデビュー・アルバム。サイケデリックブーム真っ盛りの1968年初めにレコーディングされた。しかしその流れとは正反対に、ザ・バンドのメンバーは従来のR&Bやゴスペルなどの黒人音楽と、カントリーやトラディショナルソングなどの白人音楽とが融合したサウンドを作り上げた。「ビッグ・ピンク」とは、ザ・バンドとボブ・ディランが一時借りていた住居の通称である。住居の側壁がピンク色に塗装されている事に由来している。アルバム・タイトルは、本作の音楽がビッグ・ピンクで録音されたものという印象を与えるが、実際にはニューヨークのA&Rスタジオとロサンゼルスのゴールド・スター・スタジオで録音が行われている。ビッグ・ピンクは所有者を変え、現在も往時の外観を留め現存している。	**Side A** 1. 怒りの涙 Tears of Rage 5:23 2. トゥ・キングダム・カム 3:22 3. イン・ア・ステイション 3:34 4. カレドニア・ミッション 2:59 5. ザ・ウェイト 4:38	**Side B** 1. ウィ・キャン・トーク 3:06 2. ロング・ブラック・ベール 3:06 3. チェスト・フィーバー 5:18 4. 悲しきスージー "Lonesome Suzie" 4:04 5. 火の車 "This Wheel's on Fire" 3:14 6. アイ・シャル・ビー・リリースト 3:19
	BAND	ミュージック・フロム・ビッグ・ピンク		1968	アメリカンロック	CD	日本	ザ・バンドは、4名のカナダ人と1名のアーカンソー州出身者から成る5人組。	1. 怒りの涙 2. トゥ・キングダム・カム 3. イン・ア・ステイション 4. カレドニア・ミッション 5. ザ・ウェイト 6. ウィ・キャン・トーク	7. ロング・ブラック・ベール 8. チェスト・フィーバー 9. 悲しきスージー 10. 火の車 11. アイ・シャル・ビー・リリースト
	BAND	ザ・バンド		1969年	アメリカンロック	レコード	日本	俗に"ブラウン・アルバム"として知られている本作は、ザ・バンドという偉大なグループを語る際には、真っ先に名前が挙がるアルバムだ。このセカンド・アルバムは、彼らの他のどんなスタジオ・レコーディングよりも親しみやすい内容を持っている。全12曲のすべていいが、後にジョーン・バエズがヒットさせた「The Night They Drove Old Dixie Down」や、「Across the Great Divide」、「Up on Cripple Creek」などは特に際立ったものと言える。知名度の低いオリジナル曲、痛ましい美しさを感じさせる「Whispering Pines」や、ぶっきらぼうな「Unfaithful Servant」も重要なナンバーで、この1969年の名盤にユニークな味わいをもたらしている。本作、そしてさらに見事な内容を誇る1968年の前作『Music from Big Pink』での高水準ぶりを見れば、ザ・バンドがレコーディング・グループとして早い時期からピークに達したことは驚くにあたらない。	**Side A** 1. ロッキー越えて 2. ラグ・ママ・ラグ 3. オールド・ディキシー・ダウン 4. ホエン・ユー・アウェイク 5. クリプル・クリーク 6. ウィスパリング・パインズ	**Side B** 1. ジェミマ・サレンダー 2. ロッキン・チェアー 3. ルック・アウト・クリーブランド 4. ジョーボーン 5. アンフェイスフル・サーヴァント 6. キング・ハーヴェスト
	BAND	ラスト・ワルツ		1978	アメリカンロック	レコード	日本	1976年11月25日にザ・バンドがサンフランシスコのウィンターランドで解散コンサートを行った時のライヴアルバム。ザ・バンドの解散コンサートの模様を収めたライブ盤。このために作ったワルツ風のテーマソングの物悲しい響きが郷愁を誘う。このイベントは、ザ・バンドのリーダーでありギタリストであったロビー・ロバートソンと、ザ・バンドのマネージャー・チームが独断で物事を進めていた。事の発端は、ロバートソンがツアー生活に疲れたため、豪華なゲストを招いたライブを行い、そのライブでライブ活動を終了し、以後はレコーディング活動のみ行って行きたいと決断したのが始まりであった。しかし、ロバートソン以外のメンバーはその考えに賛同できなかった。特に、ドラム、ボーカルのリヴォン・ヘルムは、「そんなもの全くやりたくなかったし、まだツアーを続けたかった」と後で話している。結果、ゲストにメンバーの憧れの存在であったマディ・ウォーターズを呼ぶことで事なきを得たが、この事によってロバートソンと他のメンバーの間に確執が生まれてしまい、後の再結成の際には、ロバートソンは参加しなかった。豪華なゲスト・ミュージシャンは、ボブ・ディラン、ニール・ヤング、エリック・クラプトン、マディ・ウォーターズ、ヴァン・モリソン、ドクター・ジョン、ジョニ・ミッチェル等、錚々たるメンバーだった。	**Side A** 1. ラスト・ワルツのテーマ 2. クリプル・クリーク 3. フー・ドゥー・ユー・ラヴ 4. ヘルプレス 5. ステージフライト **Side B** 1. コヨーテ 2. 涙をふきとばせ! 3. 同じことさ! 4. サッチ・ア・ナイト 5. オールド・ディキシー・ダウン 6. ミステリー・トレイン 7. マニッシュ・ボーイ	**Side E** 1. ザ・シェイプ・アイム・イン 2. ダウン・サウス・イン・ニュー・オーリンズ 3. オフェリア 4. アイルランドの子守歌 5. キャラバン 6. カーニバル **Side F** 連れてってよ 1. アイ・ドント・ビリーヴ・ユー 2. いつまでも若く 3. 連れてってよ(リプライズ) 4. アイ・シャル・ビー・リリースト 5. ザ・ウェル
	Barclay James Harvest	神話の中の亡霊		1975	ロック	レコード	日本	バークレイ・ジェームス・ハーヴェストの1975年に発表した9thアルバム。「イン・マイ・ライフ」「スウィート・ジーザス」「タイトルズ」収録。前作以上にポップな方向へ洗練され、ポリドール移籍後のこのバンドのスタイルが完全に固まった良盤。物柔らかで牧歌的、フォーク的、キーボード類によるシンフォニックなアレンジも無駄な大仰さがなく、品があって素晴らしい。そして何より、いつも通りに優しく甘美なメロディーが素晴らしく、心地良い。高品質のブリティッシュロック。いかにも「ああ…ブリティッシュだなあ」と感じるサウンドなのだが、それでいて妙にアメリカンな部分もある。 牧歌的であっても緩くないのがこの時期の彼ら。ポリドール移籍後の彼らはアレンジ的にも洗練され、演奏／ヴォーカル共に張りが出た印象がある。楽曲的にも洗練されてきていることは間違いないが、それらの技術的部分が楽曲そのものをより魅力的に聞かせていることは間違いないと思う。	**Side A** 1. イン・マイ・ライフ 4:30 2. スウィート・ジーザス 3:24 3. タイトルズ 3:41 4. ジョナサン 4:34 5. 墓の彼方 Beyond The Grav e3:57	**Side B** 1. ソング・フォー・ユー 5:10 2. 子供達の賛歌 Hymn For The Children 3:32 3. ムーンガール 4:39 4. ワン・ナイト 5:08

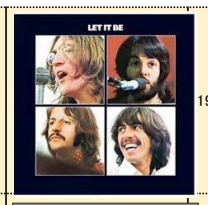
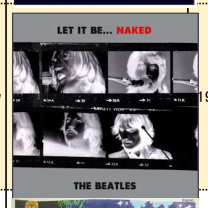
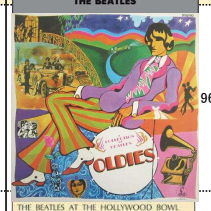
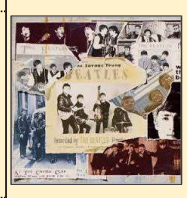
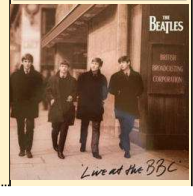
	BARRACUDARS	バラクーダスとドロップアウト!		1981	パンク	レコード	US	Jeremy Gluck (Vo), Robin Wills (Gu), David Buckley (Ba),Nick Turner (Dr), によりロンドンで結成。シンプルな楽曲とコーラス・ワークが最高!81年の1stアルバム。60年代の憧れと愛情、ロックへの純粋な衝動が見事なまでマッチした、陽気でちょっぴり切ないメロディの青春ポップ・パンク!!1980年には♪バ～ババババ・・・♪コーラスに参加希望者多数続出間違いナシの～Summer Fun～ がU.K.チャートのトップ10ヒットに!!ドラムのNickは後にStiv Bators(元DEAD BOYS)、Brian James(元DAMNED)、Dave Tregunna(元SHAM 69)と共にLORDS OF THE NEW CHURCHを結成。	**Side A** 1. プリテンド 2. 暴力青春 3. ドント・レット・ゴー 4. コデイン 5. 俺の出番じゃない 6. 昨夜も今夜も眠れない 7. いっそアウトサイド	**Side B** 1. サマー・ファン 2. 最後の夏 3. サーファーズ・バック 4. 誰か 5. キャンパス・トランプ 6. オン・ザ・ストリップ 7. 悲劇のカリフォルニア 8. 65年よもう一度
	BARRY MANILOW	ヒア・カムズ・ザ・ナイト		1982	ポップス	レコード	日本	いままでの内省的な曲が多い構成ではなく、全体に楽しく仕上がったロック色が強いアルバム。1曲目の "I Wanna Do It With You" はモータウン系、"Some Girls"、"Oh Julie"、「手紙でも書こう」などはオールディーズを思わせるポップで、ちょっと冒険的でもあります。アルバムからシングルカットした曲が6曲あり、 1恋はドゥ・イット！！(全英8位)、3メモリー(全米39位)、6君は恋フレンド(全米26位、全英48位、カナダ13位)、7手紙でも書こう(全英36位)、9OH!ジュリー(全米38位)、11夜明けまで愛して(全英23位)とヒット曲が多く含まれベスト盤の様な出来。アルバム・チャートでも全英7位、全米32位をマーク。6曲目がCMソングに使用されました。 聴きやすい軽快なナンバーからバラードまで、気持ちが良い楽曲が満載。	**Side A** 1. 恋はドゥ・イット！！ 2. ヒア・カムズ・ザ・ナイト 3. メモリー 4. レッツ・ゲット・オン 5. 素敵なサム・ガール	**Side B** 1. .君は恋フレンド 2. 手紙でも書こう 3. 想い出はてしなく 4. OH!ジュリー 5. ハート・オブ・スティール 6. 夜明けまで愛して
	BARRY MANILOW	バリー・マニロウ・ストーリー		1983	ポップス	レコード	日本		**SIDE A** 1. 悲しみのマンデイ 2. ニューヨーク・シティ・リズム 3. 思い出の中に(Looks Like We Made It) 4. コパカバーナ 5. 愛に生きる二人 (Ready To Take A Chance Again) 6. フィーリング (Tryin' To Get The Feeling Again) 7. 悲しみをこえて (I Made It Through The Rain)	**SIDE B** 1. 恋はマジック(Could It Be Magic) 2. 涙色の微笑(Can't Smile Without You) 3. ニューヨーク・イングランドの週末 (Weekend In New England) 4. 愛は奇跡のように(It's A Miracle) 5. オール・ザ・タイム 6. バミューダ・トライアングル 7. 歌の贈り物(I Write The Songs)
	BARRY MANILOW	君はルッキン・ホット(グレイテスト・ヒッツⅡ)		1983	ポップス	レコード	日本	バリー・マニロウのベスト盤第二弾。ヒット曲「君はLookin HOT」のニューヴァージョンをはじめ「君は恋フレンド」や話題のミュージカル「キャッツ」のテーマ曲「メモリー」等、バリーマニロウのビッグヒットの全てと、最新シングル曲「涙のレター」を含めたベストアルバム。	**Side A** 1. 人生の航海(シップス) 2. 君は恋フレンド(Some Kind Of Friend) 3. 悲しみをこえて (I Made It Through The Rain) 4. 涙のラストレター(Read'em And Weep) 5. 二人のジュークボックス (Put A Quarter In The Jukebox) 6. きっと、どこかで (Somewhere Down The Road)	**Side B** 1. ワン・ヴォイス 2. 二人のオールドソング (The Old Songs) 3. レッツ・ハング・オン 4. メモリー 5. 君はLookin HOT (You're Lookin' Hot Tonight)
	BAUHAUS	暗闇の天使(イン・ザ・フラット・フィールド)		1980	ニューウェイブ	レコード	UK	80年に発表されたこのファースト・アルバムは、パンクの熱が冷めはじめた時期に、その影響を受けて新しい音楽を作ろうとしたピーター・マーフィーら4人の実験の記録。演奏技術が高いとはお世辞にも言えないが、それまでのロック/ポップのルール・ブックを"ちゃら"にするところから組み立てた音楽は、いまも斬新に響く。ダニエル・アッシュのギターはU2のエッジに影響を与えていることをあらためて確認した。 グラム・ロックをベースにしながらも、他のどのバンドとも似ていない独特のダークなセンスで80年代前半を一気に駆け抜けたバウハウスのデビュー作。25年前のアルバムだが、今聴いても古びていない尖った音だ。	**Side A** 1. ダブル・デアー 2. イン・ザ・フラット・フィールド 3. ゴッド・イン・アン・アルコーブ 4. ダイブ 5. スパイ・イン・ザ・キャブ	**Side B** 1. スモール・トーク・スティンクス 2. セイント・バイタス・ダンス 3. スティグマタ・マーター 4. ナーブス
	BAUHAUS	暗闇の天使(イン・ザ・フラット・フィールド)		1980	ニューウェイブ	レコード	日本		**Side A** 1. ダブル・デアー 2. イン・ザ・フラット・フィールド 3. ゴッド・イン・アン・アルコーブ 4. ダイブ 5. スパイ・イン・ザ・キャブ	**Side B** 1. スモール・トーク・スティンクス 2. セイント・バイタス・ダンス 3. スティグマタ・マーター 4. ナーブス
	BAUHAUS	暗闇の天使(イン・ザ・フラット・フィールド)		1980	ニューウェイブ	CD	日本		**以下、CDボーナストラック** 10. ダーク・エントリーズ 11. テレグラム・サム 12. ローズガーデン・フューネラル・オブ・ソーズ 13. テラー・カップル・キル・コロネル	14. スコープス 15. アンタイトルド 16. ゴッド・イン・アン・アルコーブ (フレキシディスク・バージョン) 17. クラウズ
	BAUHAUS	マスク		1981	ニューウェイブ	レコード	UK	ヨーロッパの憂鬱と当時流行のテクノ的ビート・センスがほどよい地点で折り合いをつけ、彼らの人気を徐々に高めた代表作。エフェクターを使用し、前作以上に躍動感あふれるサウンドと、ピーター・マーフィーの咆哮が聴きもの。バウハウスの人気を決定的にした作品。 ある意味でピーク。メンバーの創作意欲の高まり。それに伴う4人の個性のぶつかり合いから、生まれた曲の数々。peter,daniel,david,kevinの4人が激しく化学反応を起こし、衝突しても、4人が同じ方向へ進む一体感がここにあります。比較的に他の作品よりポップですが、ここでも彼らの美学はつらぬかれています。ポップに聴こえるのはダンサンブルな楽曲が多いためでしょうか.....。ダニエルのギターはさらに音響的なサウンドになりピーターのVoもさらに力強く、シアトリカルに変化しています。全8曲、捨て曲がないです。ジャケットのイラストはギターのダニエル・アッシュによるもの。	**Side A** 1. ヘア・オブ・ザ・ドッグ 2. パッション・オブ・ラバーズ 3. オブ・リリーズ・アンド・リメインズ 4. ダンシング 5. ホロウ・ヒルズ	**Side B** 1. キック・イン・ジ・アイ 2. イン・フィアー・オブ・フィアー 3. マッスル・イン・プラスチック 4. マン・ウィズ・ジ・エックスレイ・アイズ 5. マスク
	BAUHAUS	スカイズ・ゴーン・アウト		1982	ニューウェイブ	レコード	UK	本作は82年に名門レーベル<Beggars Banquet>から発表した3rdアルバム『ザ・スカイズ・ゴーン・アウト』！通算3枚目。このころになると、シングルで発売されたボウイのカバー、「ジギー・スターダスト」のヒットで、メディアにも露出し、認知度も上がり、小さいながらも商業的成功を手にすることが出来ます。しかし、このアルバムに、前作「マスク」に漂っていた"一体感"は、もうありません.....。個々の曲としてとらえると、クオリティは高いのですが、実験的要素の強い曲が増え、全体的にまとまりの無さを感じる。 解散後のピーター・マーフィーのインタビューで「このころは、各メンバーがアルバムに、自分の作った曲を入れたがっていた、それぞれが曲に対して所有欲を強く持ち出していた.....。成功と引き替えに手に入れたものは、自分たちが思っていたものとは違っていたし、そのことにどんどん影響されていった.....。」と、話していた。全英チャートで4位、シングル「Spirit」が全英42位を獲得し、商業的にも成功を収めた作品となった。	**Side A** 1. アンクル 2. サイレント・ヘッジズ 3. イン・ザ・ナイト 4. スウィング・ザ・ハートエイク 5. スピリット	**Side B** 1. スリー・シャドウズ・パート1 2. スリー・シャドウズ・パート2 3. スリー・シャドウズ・パート3 4. オール・ウィ・エバー・ウォンテッド・ワズ・エブリシング 5. エクスクィジット・コープス
	BAUHAUS	スカイズ・ゴーン・アウト		1982	ニューウェイブ	CD	日本	(1)のイーノのカバーはほんとうに原曲以上に素晴らしい。(もちろん原曲もいいのですが) (2)は再結成時にも演奏されたサイケデリックなアコースティックチューンでこのアルバムで比較的ハードな(3)へとながれていきます。(4)はヘヴィーなサウンドでピーターの歌声とダニエルのギターがひかる曲です。当時、マクセルのCMにピーターが出演していて(13)のプロモでみられるスーツ姿のいでたちを見たとき、随分とバンドは変化しはじめたのだと思いました。(6)～(8)は組曲形式になっており興味深いです。そしてボーナストラック(11)でヒットチャートをかけのぼっていきます。こちらのカバーも良いです。	**以下、CDボーナストラック** 11. ジギー・スターダスト 12. パーティ・オブ・ザ・ファースト・パート 13. スピリット 14. ウォッチ・ザット・グランダッド・ゴー	
	BAUHAUS	バーニング。・フロム・ジ・インサイド		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	バウハウスの4枚目のアルバムで最後の作品。名曲、She's in partysではじまるラストアルバム。前作より表面化した、曲作りにおいてメンバー間の対立、不和等がより表面化してきた時期です。ここで聴かれるのは過去3枚のどのアルバムよりも多彩な音楽。製作途中でピーターが参加できないということもあったためか、のちのLove&RocketsにつうじるサウンドやTones on tailで聴かれたサウンドがアルバムを占め、ダニエルの美しい歌声とギター、デビッドの歌も聴かれます。意外と評価されていないアルバムですが、後の彼らの歩みをみるとバウハウスというバンドの柔軟性が垣間見られる名曲揃いの作品です。このアルバムは、それでボピュラリティを獲得した後、潔く解散に向かった最後の瞬間。音のダイナミズムが半端ないです。暗闇の底から響く重厚なベースに、ビシバシと鞭でひっぱたくようなドラム、ナイフで切り裂くような紙やすりで引っ掻くようなギター、叫び声のようなボーカル。 4から5の流れはいつ聴いてもトリハダもの。絶望的に体を切り刻むようなタイトル曲9の後、最後の10では未来への希望を感じさせるHope。演劇的。良くできてます名盤。	**Side A** 1. シーズ・イン・パーティーズ 2. アントニン・アルタウド 3. ワスプ 4. キング・ボルケイノ 5. フー・キルド・ミスター・ムーンライト	**Side B** 1. スライス・オブ・ライフ 2. ハネムーン・クルーン 3. キングダムズ・カミング 4. バーニング・フロム・ジ・インサイド 15. ホープ
	Bay City Rollers	エジンバラの騎士		1974	ロック	レコード	日本	1974年にスコットランドのバンド、ベイ・シティ・ローラーズがリリースした最初のアルバム。このアルバムには、全英シングル・チャートでヒットした3曲、「想い出に口づけ (Remember)」、「ベイ・シティ・ローラーズのテーマ (Shang-a-Lang)」、「太陽の中の恋 (Summerlove Sensation)」が収められており、また、イギリスではヒットしなかったものの後にアメリカ合衆国でチャートの首位に立つスマッシュ・ヒットとなる「サタデー・ナイト (Saturday Night)」が収録されていた。	**Side A** 1. ベイ・シティ・ローラーズのテーマ Shang-a-Lang" 3:07 2. 青春のささやき "Give It to Me Now" 3:48 3. エンジェル・エンジェル 2:27 4. ビー・マイ・ベイビー 3:27 5. ジャスト・ア・リトル・ラブ 2:57 6. 想い出に口づけ "Remember 2:33	**Side B** 1. サタデー・ナイト 2:57 2. 不思議な気持 "Ain't It Strange" 2:10 3. ひとりにしないで "Please Stay" 3:54 4. 踊ろよ ジェニー "Jenny Gotta Dance"3:06 5. さよならベイビー "There Goes My Baby" 3:18 6. 太陽の中の恋 "Summerlove Sensation" 3:12
	Bay City Rollers	噂のベイ・シティ・ローラーズ		1975	ロック	レコード	日本	ベイ・シティ・ローラーズの2枚目のスタジオ・アルバム。1975年5月にリリースされたこのアルバムは、全英シングルチャート首位に立ったシングル「バイ・バイ・ベイビー」を収録し、セッション・ミュージシャンに頼らず、メンバー自身が自分たちの音楽を演奏した初めてのアルバムであった[2]。 もともとノビー・クラークがボーカルだった1971年に、アルバム未収録のシングルとして発売されていた「朝まで踊ろう」も、レスリー・マッコーエンのボーカルで改めて録音され、このLPに収録された。	**Side A** 1. バイ・バイ・ベイビー 2:50 2. ディスコ・キッド "The Disco Kid" 3:16 3. いとしのジュネ "La Belle Jeane" 4:01 4. 青春の誓い "When Will You Be Mine" 2:32 5. エンジェル・ベイビー "Angel Baby" 6. 朝まで踊ろう "Keep On Dancing" 2:42	**Side B** 1. 想い出のスター "Once Upon a Star" 3:00 2. 恋のレッツ・ゴー "Let's Go 3:28 3. マリーナの微笑み "Marlina" 3:01 4. ひとりぼっちの十代 "My Teenage Heart" 2:31 5. ロックン・ロール・ハネムーン 2:45 6. 夢見る恋人 "Hey! Beautiful Dreamer" 3:49
	Bay City Rollers	青春のアイドル		1975	ロック	レコード	日本	3枚目のスタジオ・アルバム。イギリスでは1975年の遅い時期にLPが発売されたこのアルバムは、グループの音楽的方向が変化したことを示すもので、1曲を除いてすべての楽曲がバンド自身によって作曲されていた。唯一、グループ外から提供された曲である「恋をちょっぴり (Give a Little Love)」は、イギリスでスマッシュ・ヒットとなった。このアルバムには、大きな手紙という形で個々のメンバーのカラー写真冊子が封入されており、バンド全員の写真がアルバム・ジャケットを飾った。このアルバムの楽曲のうち7曲は、アリスタ・レコードがアメリカ合衆国だけでリリースしたアルバム『ロックン・ロール・ラブレター』にも収録されたが、アルバム・ジャケットの写真やデザインなども、そのまま流用された。	**Side A** 1. ダンスはゴキゲン I Only Wanna Dance With You 2:59 2. レッツ・ゴー・ミュージック 2:49 3. 恋のシャンハイ Shanghai'd in Love 3:29 4. 恋はすてき Love Is... 2:38 5. アイム・ア・フール 3:55 6. 若さでロックン・ロール Too Young to Rock & Roll 2:17	**Side B** 11. 恋をちょっぴり Give a Little Love 3:28 2. 二人でいつまでも Wouldn't You Like It? 3:14 3. .恋のフィーリング Here Comes That Feeling Again 3:41 4. 君に会いたくて Lovely to See You 3:57 5. イーグルス・フライ 3:04 6. 愛のメッセージ Derek's End Piece 2:34
	Bay City Rollers	青春に捧げるメロディー		1976	ロック	レコード	日本	1976年9月に発表されたベイ・シティ・ローラーズのアルバム。彼らにとって4枚目のオリジナル・スタジオ・アルバムであり、1976年はじめにバンドが世界的な人気の絶頂に達して以降、最初に出された新しいアルバムであった。 結成時のメンバーだったアラン・ロングミュアーは、このアルバムのレコーディング・セッションの前にイアン・ミッチェルと交代していた。このメンバー交代に伴い、ミッチェルがリズムギターとなり、スチュアート・ウッディ・ウッドがリズムギターからベースに回った。ミッチェルは、アルバムのタイトル曲「青春に捧げるメロディー (Dedication)」のボーカルも担当した。しかし、ミッチェルは同年のうちにバンドを脱退したため、それ以降にプレスされたアルバムではレスリー・マッコーエンがボーカルをとったバージョンに音源が差し替えられ、また、その後にリリースされたシングルもそちらのバージョンがリリースされた。	**Side A** 1. レッツ・プリテンド 2. すてきな君 "You're a Woman" 3. ロックン・ローラー 4. ドント・ウォリー・ベイビー 5. イエスタデイズ・ヒーロー	**Side B** 1. マイ・リサ 2. マネー・ハニー 3. ロックン・ロール・ラブレター 4. 愛をこめたレター "Write A Letter" 5. 青春に捧げるメロディー "Dedication"
	Bay City Rollers	恋のゲーム		1977	ロック	レコード	日本	5枚目のスタジオ・アルバムで、デヴィッド・ボウイを手掛けて成功していたハリー・マスリン(英語版)がプロデュースした。このアルバムはアメリカ合衆国でゴールド・ディスクを獲得。「夢の中の恋 (You Made Me Believe in Magic)」がアメリカで10位。アメリカ以外の国では「恋のゲーム (It's a Game)」をシングルで発売し各国でトップテン以上を獲得したが本国イギリスでは初めて10位以内に入らなかったシングルとなった。パット・マグリンに交代した。マグリンはバンドとともにツアーし、『恋のゲーム』の録音セッションにも当初から参加していたが、程なくしてバンドから追われた。完成したアルバムは、4人編成のバンドとしてのローラーズの作品とされており、完成したアルバムにはマグリンが参加した痕跡は見出せない	**Side A** 1. 恋のゲーム "It's a Game" 2. 夢の中の恋 You Made Me Believe in Magic" 3. ハートで歌おう "Don't Let the Music Die" 4. ラヴ・パワー 5. 愛をささやくとき "The Way I Feel Tonight"	**Side B** 1. ラヴ・フィーバー 2. スイート・バージニア 3. 孤独の涙 "InSide a Broken Dream" 4. ダンス・ダンス・ダンス 5. 炎の反逆 "Rebel Rebel"

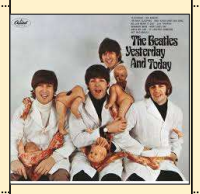
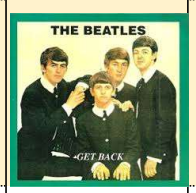
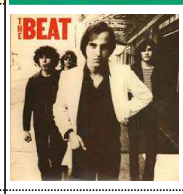
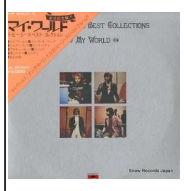
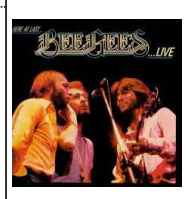
	Bay City Rollers	風のストレンジャー		1978	ロック	レコード	日本	1978年発表の6枚目の。結成当初のメンバーのアラン・ロングミュアーが復帰し、再び5人編成となった。プロデューサーのハリー・マスリンの起用は、デヴィッド・ボウイのファンであるエリックのたっての希望でエリックの趣味と主張が色濃く反映された作品で、Faulkner/Woodの作品が収録10曲中6曲を占めている。「哀しみの涙」と「冷たいあの娘」は英国フォークロックのサザーランド・ブラザースのカバー曲で、エリックの好きだったグループで、ヒット・アルバム「DOWN TO EARTH」からの影響が大きい作品。BCRの弾けた明るさやポップさが薄れているが、じっくり聴き込むとじんわりと良さが伝わってくるアルバム。綺麗なストリングスで始まる「雨のニューヨーク」と「愛はいつまでも」が日本では大ヒットする。	**Side A** 1. 雨のニューヨーク 2. 世界は恋してる 3. 愛はいつまでも 4. バック・オン・ザ・ストリート 5. 風のストレンジャー	**Side B** 1. 恋はマジカル・シング 2. 恋人になりたい 3. 哀しみの涙 4. ハリウッド黄金時代 15. 冷たいあの娘
	Bay City Rollers	ニュー・ベスト		1976	ロック	レコード	日本	『ニュー・ベスト』は、1976年に日本独自編集で発表されたベイ・シティ・ローラーズのコンピレーション・アルバム。1976年8月20日に、アリスタ・レコードのレーベルで、東芝EMIから日本だけにリリースされた。取り上げられた楽曲は、『エジンバラの騎士 (Rollin')』(1974年)から4曲(A3、A6、B1、B5)、『噂のベイ・シティ・ローラーズ (Once Upon a Star)』(1975年)から3曲(A5、B2、B4、B7)、『青春のアイドル (Wouldn't You Like It?)』(1975年)から2曲(A2、A4)、『青春に捧げるメロディー (Dedication)』(1976年)から2曲(A1、A7)、アルバム未収録シングル曲2曲(B2、B6)という構成であった。ジャケット写真は、イアン・ミッチェル在籍時のものとなっている。	**Side A** 1. ロックン・ロール・ラブレター 2. 恋をちょっぴり Give a Little Love 3. ベイ・シティ・ローラーズのテーマ Shang-a-Lang 4. ダンスはゴキゲン I Only Wanna Dance With You 5. エンジェル・ベイビー 6. 太陽の中の恋 Summerlove Sensation 7. マネー・ハニー	**Side B** 1. サタデー・ナイト 2. ラブ・ミー・ライク・アイ・ラブ・ユー 3. ひとりぼっちの十代 My Teenage Heart 4. 朝まで踊ろう Keep On Dancing 5. 想い出にロづけ Remember 6. 明日に恋しよう All Of Me Loves All Of You 7. バイ・バイ・ベイビー
	Bay City Rollers	ベスト・セレクション		1994	ロック	CD	日本	イギリス・スコットランドのエディンバラ出身のポップ・ロック・バンド。1970年代半ばから若い女性を中心に人気になったアイドル・グループ。1974年にレスリー・マッコーエン(リード・ボーカル)、エリック・フォークナー(リード・ギター)、スチュアート・ウッディ・ウッド(サイド・ギター後にベース)、アラン・ロングミュアー(ベース)、デレク・ロングミュアー(ドラム)による5人編成になってから、「バイ・バイ・ベイビー」(1975年)、「サタデー・ナイト」(1976年)などのヒット曲を生み出し、本国イギリスを皮切りに、その後アメリカや日本など、世界中で人気を博し一世を風靡した。世界中に "タータンチェック旋風" を巻き起こした。特に、ここ日本でも異常な人気が過熱した。ヒット曲を連発しアルバムもヒットした。 『Keep On Dancing』全英9位)、「Saturday Night」が全米1位、⑤「イエスタデイズ・ヒーロー」(米54位)、⑦「マネー・ハニー」(米9位／英3位)、⑧「ロックン・ロール・ラヴ・レター」(米28位)、⑩「青春に捧げるメロディー(アルバム・ヴァージョン)」(米60位)、⑪「二人だけのデート」(米12位／英4位)、⑫「ラヴ・ミー・ライク・アイ・ラヴ・ユー」(英4位)を収録。	1. 朝まで踊ろう(オリジナル・ヴァージョン) 2. 思い出にロづけ 3. ベイ・シティ・ローラーズのテーマ 4. 太陽の中の恋 5. バイ・バイ・ベイビー 6. サタデイ・ナイト 7. 恋をちょっぴり 8. 一人ぼっちの十代 9. マネー・ハニー 10. ロックン・ロール・ラヴ・レター	11. ラヴ・ミー・ライク・アイ・ラヴ・ユー 12. 二人だけのデート 13. ロックン・ローラー 14. イエスタデイズ・ヒーロー 15. 青春に捧げるメロディ 16. 夢の中の恋 17. ハートで歌おう 18. 愛をささやくとき 19. 愛はいつでも 20. 雨のニューヨーク 21. 恋するラジオ
	BEACE BOYS	サーフィン・サファリ		962年10月29日	アメリカンロック	レコード	US	1962年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのデビューアルバム。本作発表当時はザ・ビーチ・ボーイズが後にアメリカを代表するバンドに成長することを示唆するものはほとんど見られなかった。 1961年の秋にブライアン・ウィルソンとそのいとこのマイク・ラブは「サーフィン」を作曲した。ブライアンは弟のデニスとカール、高校の友人アル・ジャーディンを引き入れバンドを結成した。ブライアンはドラムを担当し、カールがリードギター、アルがベース、マイクはフロント・ヴォーカルを担当した。後にアルは学業に専念するため一時脱退、本作のレコーディングでは代役のデヴィッド・マークスがサイドギターで全面的に参加している。デヴィッドはベースが弾けなかったため、ブライアンがベースに転向し、デニスがドラムスを演奏することとなった。 アナログ盤はモノ・ミックス及び、これを擬似ステレオ化したデュオフォニック・ミックスで発売された。	**Side A** 1. サーフィン・サファリ 2'05" 2. カウンティ・フェアー 2'15" 3. テン・リトル・インディアンズ 1'26" 4. チャガ・ラガ 1'59" 5. リトル・ガール 2'04" 6. 409 1'59"	**Side B** 1. サーフィン 2'10" 2. 君の勝ち 2'17" 3. サマータイム・ブルース 2'09" 4. カッコー時計 2'08" 5. ムーン・ドーグ 2'00 6. シフト 1'52"
	BEACE BOYS	サーフィン・サファリ		962年10月29日	アメリカンロック	CD	日本		1. Surfin' Safari 2. County Fair 3. Ten Little Indians 4. Chug-A-Lug 5. Little Girl (You're My Miss America) 6. 409	7. Surfin' 8. Heads You Win-Tails I Lose 9. Summertime Blues 10. Cuckoo Clock 11. Moon Dawg 12. Shift
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) サーフィン・U.S.A.		1963年3月25日	アメリカンロック	CD	日本	1963年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのセカンドアルバム。チャック・ベリーの「スウィート・リトル・シックスティーン」を改作したタイトル・トラックの「サーフィン・U.S.A.」や「シャット・ダウン」といったロック・ナンバーの他、出色のバラード「ロンリー・シー」など、ビーチ・ボーイズのキャリアにおける最初のブレークとなり、同時にブライアン・ウィルソンの優れた作曲能力を広く知らしめることとなった。公式にはニック・ヴェネットがプロデューサーとしてクレジットされたが、実質的にアルバムはブライアンによって作り出された。サーフィン・本作の特色としては12トラックの内5曲がサーフ・インストゥルメンタルであることが挙げられる。「ストウクト」はこの後ブライアンが数多く創り上げることとなるインスト曲の最初の一曲であった。「サーフ・ジャム」は当時まだ16歳であったカールの最初の曲であった。 「サーフィン・U.S.A.」はアメリカにおけるビーチ・ボーイズの最初の大ヒット曲となった。同曲はアルバムをトップ10入り、ゴールド・アルバムを獲得させ、チャートでの最高位は2位であった。1965年のイギリスにおける再発では17位に到達した。ミュージックの王者としての彼らの人気を決定づけた。	1. サーフィン・U.S.A. 2'27 2. ファーマーズ・ドーター 1'49 3. ミザルー 2'03 4. ストウク 1'59 5. ロンリー・シー 2'21 6. シャット・ダウン 1'4	7. ノーブル・サーファー 1'5 8. ホンキー・トンク 2'01 9. ラナ 1'39 10. サーフ・ジャム 2'10 11. レッツ・ゴー・トリッピン 1'57 12. ファインダーズ・キーパーズ 1'38 ボーナス・トラック 13. ザ・ベイカー・マン
	BEACE BOYS	サファーガール		1963年9月23日	アメリカンロック	レコード	US	1963年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズのアルバム。ブライアン・ウィルソンがプロデューサーとしてクレジットされた最初のアルバム。本作からブライアンは外部のセッション・ミュージシャンを多用することとなっていく。ジャケット写真はサーフボードを抱えるメンバー(左からデニス・ウィルソン、デヴィッド・マークス、カール・ウィルソン、マイク・ラヴ、ブライアン・ウィルソン)。デビュー・アルバムの『サーフィン・サファリ』にも使用された1962年のフォト・セッションでの写真。 「サウス・ベイ・サーファー」にはアル・ジャーディンがクレジットされるが、彼は1963年に公演旅行に疲労したブライアンの代わりに再加入した。したがってデヴィッド・マークスとアル・ジャーディンの両名が共に短期間グループに在籍することとなった。	**Side A** 1. サーファー・ガール 2'26 2. キャッチ・ア・ウェイヴ 2'07 3. サーファー・ムーン 2'1 4. サウス・ベイ・サーファー 1'45 5. ロッキング・サーファー 2'00 6. リトル・デュース・クーペ 1'38	**Side B** 1. イン・マイ・ルーム 2'11 2. 夢のハワイ 1'59 3. サーファーズ・ルール 1'54 4. 僕らのカークラブ 2:22 5. ユア・サマー・ドリーム 2'27 6. ブギ・ウディ 1'56
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) サファーガール		1963年9月23日	アメリカンロック	CD	日本		1. サーファー・ガール 2'26" 2. キャッチ・ア・ウェイヴ 2'07" 3. サーファー・ムーン 2'11" 4. サウス・ベイ・サーファー 1'45" 5. ロッキング・サーファー 2'00" 6. リトル・デュース・クーペ 1'38" 7. イン・マイ・ルーム 2'11"	8. 夢のハワイ 1'59 9. サーファーズ・ルール 1'54 10. 僕らのカークラブ 2:22" 11. ユア・サマー・ドリーム 2'27" 12. ブギ・ウディ 1'56" ボーナス・トラック 13. イン・マイ・ルーム(ドイツ語版) 14. アイ・ドゥ
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) リトル・デュース・クーペ		1963年10月21日	アメリカンロック	CD	日本	1963年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの4枚目アルバム。ホット・ロッドをテーマとしたコンピレーション・アルバムで、新曲8曲はわずか一日で録音された。1963年夏、キャピトル・レコードは「ホット・ロッド」コンピレーション・アルバム『シャット・ダウン』を編集した。同アルバムにはビーチ・ボーイズの「シャット・ダウン」「409」が、メンバーの同意無しに収録された。ブライアンは彼が録音中の数曲を速やかに準備し、バンドは『リトル・デュース・クーペ』をレコード店のラックに並べるために大急ぎで録音を行った。『サーファー・ガール』リリース後わずか一ヶ月のことであった。8曲は新曲であったが、「リトル・デュース・クーペ」「僕等のカークラブ」「シャット・ダウン」「409」は発表済みの曲であった。 本作はデヴィッド・マークスが参加した最後のアルバムとなった。オリジナル・メンバーであったアル・ジャーディンは本作のセッションに先立って復帰し、マークスはそのすぐ後にバンドを離れた。	1. いかしたクーペ 1:38 2. バラード・オブ・オール・ベッツィ 2:15 3. ビー・トゥルー・トゥ・ユア・スクール 2:06 4. カー・クレイジー・キューティ 2:47 5. チェリー・チェリー・クーペ 1:47 6. 409 1:58	7. シャット・ダウン 1:48 8. スピリット・オブ・アメリカ 2:23 9. 僕等のカークラブ 2:21 10. ノー・ゴー・ショーボート 1:54 11. ア・ヤング・マン・イズ・ゴーン 2:15 12. カスタム・マシーン 1:38
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) シャット・ダウン・ヴォリューム2		1964年3月23日	アメリカンロック	CD	日本	1964年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの5枚目アルバム。本作が「ヴォリューム2」とされるのは、キャピトルが1963年にリリースしたコンピレーション・アルバム『シャット・ダウン』の続編と位置づけられたためである。『シャット・ダウン』には「シャット・ダウン」「409」の二曲が収録されたが、ビーチ・ボーイズのアルバムではなかった。なお、『シャット・ダウン』は1997年に日本のみでCD化されたが現在では廃盤である。 当時はちょうど「ブリティッシュ・インヴェイジョン」がアメリカに到達し始めていた頃であった。ビーチ・ボーイズは本作によってアメリカにおける地位を固めるつもりであったが、ビートルズ旋風の勢いは非常に強く、本作はそれほど注目を集めることなくチャートでは13位に到達しただけであった(結局後にゴールド・アルバムを獲得した)。 伝えられるところによればブライアンは、ビートルズの出演した『エド・サリヴァン・ショー』を見た後、本作を廃棄しようとした。しかしながらイギリスのスターに打ち負かされるよりも、ビーチ・ボーイズをより高い位置へ押しあげようと決心することとなった。	1. ファン・ファン・ファン 2:03 2. ドント・ウォリー・ベイビー 2:47 3. 恋のバーキン・ロット 2:01 4. ラヴ対ウィルソン Cassius" Love Vs. 3:30 5. 太陽あびて The Warmth Of The Sun 2:51 6. ディス・カー・オブ・マイン 1:35	アナログはここからB面 7. 恋はくせもの Why Do Fools Fall In Love 2:07 8. ボム・ボム・ブレイ・ガール 1:30 9. キープ・アン・アイ・オン・サマー 2:21 10. シャット・ダウン・パート2 2:07 11. ルイ・ルイ 2:17 12. デニーズ・ドラムス 1:56
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) オール・サマー・ロング		1964年7月13日	アメリカンロック	CD	日本	1964年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの6枚目アルバム。ビートルズを始めとする「ブリティッシュ・インヴェイジョン」の後に発表された本作は、ビーチ・ボーイズの大きな転機となった。初の全米1位をとった「アイ・ゲット・アラウンド」が収録されている。 本作の製作途中にビーチ・ボーイズの内部構造に大きな変化があった。マネージャーを務めたウィルソン兄弟の父親、マレー・ウィルソンの解雇であった。マレーは2年以上もバンドを支配下に置いていたが、彼らは限界点に達していた。4月の「アイ・ゲット・アラウンド」のヴォーカル・セッション時にブライアンは父親を解雇した。マレーは悲嘆に暮れ何週間も病床に付いた。	1. アイ・ゲット・アラウンド 2:12 2. オール・サマー・ロング 2:06 3. ハッシャバイ 2:40 4. リトル・ホンダ 1:52 5. ウィル・ラン・アウェイ 2:00 6. カールのビッグ・チャンス Carl's Big Chance 2:25	アナログはここからB面 7. ウェンディ 2:16 8. 覚えているかい - Do You Remember? 1:37 9. 浜辺の乙女 - Girls on the Beach 2:24 10. ドライヴ・イン 1:51 11. 楽しいレコーディング Our Favorite Recording Sessions 1:59 12. ドント・バック・ダウン 1:44
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ		1965年3月8日	アメリカンロック	CD	日本	1965年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの8枚目アルバム。当時本アルバムの重要性を感じた者はほとんどいなかったが、バンドの経歴とブライアン・ウィルソンの個人的生活に於いて本作は重要な転機となった。 1964年はストレスの大きかった年で、年末までにビーチ・ボーイズは4つのアルバムを発表した。ブライアンは肉体的、精神的に疲れ果てた状態であったが、増大するビートルズの人気とその影響からたゆまず歩き続けなければならなかった。その年の12月23日、ブライアンはノイローゼから公演旅行に出ることをあきらめなければならないと自覚した。 『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』は1965年1月に録音されたが、ブライアンはツアーへの参加を断り、スタジオに一人留まって録音を行った。ビーチ・ボーイズはブライアンの代わりのベーシストとしてグレン・キャンベルを起用したが、彼はバンドになじめず間もなくブルース・ジョンストンが参加することとなった。	1. 踊ろよ、ベイビー Do You Wanna Dance? 2:19 2. グッド・トゥ・マイ・ベイビー 2:16 3. 元気をお出し Don't Hurt My Little Sister 2:07 4. パンチで行こう - When I Grow Up 2:01 5. ヘルプ・ミー・ロンダ 3:08 6. ダンス・ダンス・ダンス 1:59	アナログはここからB面 7. プリーズ・レット・ミー・ワンダー 2:45 8. アイム・ソー・ヤング 2:30 9. キス・ミー・ベイビー 2:35 10. 知ってるあの娘 She Knows Me Too Well 2:27 11. イン・ザ・バック・オブ・マイ・マインド 2:07 12. ビッグ・ダディと一緒に Bull Session With The "Big Daddy 2:10
	BEACE BOYS	サマーデイズ		1965年7月5日	アメリカンロック	レコード	日本	1965年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの9枚目アルバム。本作は『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』に続く作品として進歩的な一面が見られたが、反面ビーチ・ボーイズの持つ「太陽」「夏」「サーフィン」といったイメージへの執着も見られる作品であった。『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』のB面で、高度に洗練された劇的な変化が見られた後、ブライアン・ウィルソンはマイク・ラヴとキャピトル・レコードからその音楽的意図に対する質問がなされ、もっと「ビーチ・ボーイズ的」な音楽を作るように励まされた。バンドの次回作として紋切り型作品のリリースを要求されていることは明白だった。彼の音楽的欲求とバンドの方向性は乖離し、ブライアンは衝突が不可避であると感じていたが、結局本作が製作された。当時加入したばかりのブルース・ジョンストンもフォト・セッションに参加していたが、ブルースはコロムビア・レコードとの契約が残っていたため、彼の写った写真は採用されなかった。『ザ・ビーチ・ボーイズ・トゥディ』より『ワイルド・ハニー』までは、ブライアンの右耳の聴力の悪化により、発売当時アルバムはモノ・ミックスのみで制作され、ステレオ盤は擬似ステレオだった。	**Side A** 1. ニューヨークの娘 The Girl From New York City 1:54 2. アミューズメント・パークス・U.S.A. 2:29 3. あの娘にキッス Then I Kissed Her 2:15 4. ソルト・レイク・シティ 2:00 5. ガール・ドント・テル・ミー 2:19 6. ヘルプ・ミー・ロンダ 2:46	**Side B** 1. カリフォルニア・ガールズ 2:38 2. レット・ヒム・ラン・ワイルド 2:20 3. 素敵な君 You're So Good To Me 2:14 4. 恋の夏 Summer Means New Love 1:59 5. アイム・バッグド・アット・マイ・オール・マン 2:17 6. アンド・ユア・ドリーム・カムズ・トゥルー 1:04
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) サマーデイズ		1965年7月5日	アメリカンロック	CD	日本		1. ニューヨークの娘 The Girl From New York City 1:54 2. アミューズメント・パークス・U.S.A. 2:29 3. あの娘にキッス Then I Kissed Her 2:15 4. ソルト・レイク・シティ 2:00 5. ガール・ドント・テル・ミー 2:19 6. ヘルプ・ミー・ロンダ 2:46	アナログはここからB面 7. カリフォルニア・ガールズ 2:38 8. レット・ヒム・ラン・ワイルド 2:20 9. 素敵な君 You're So Good To Me 2:14 10. 恋の夏 Summer Means New Love 1:59 11. アイム・バッグド・アット・マイ・オール・マン 2:17 12. アンド・ユア・ドリーム・カムズ・トゥルー 1:04
	BEACE BOYS	ペットサウンズ		966年5月16日	アメリカンロック	レコード	US	1966年にリリース。ビーチボーイズの10枚目のアルバム。本質的にはブライアンのソロ作品で、多くの音楽評論家が最良のポップ・アルバムやロックの名盤と評価。彼はツアーを取りやめ、腕利きのスタジオ・ミュージシャンたちと共に一人、スタジオでの録音に集中した。ブライアンは、ビーチ・ボーイズによる美しいハーモニーに、バズ・オルガンやハープシコード、フルートに加え自転車のベルやテルミン、犬笛と言った変わった道具での音響効果を多重録音により付け加え、作品を創り上げた。またプロの作詞家、トニー・アッシャーを作詞に起用し、曲のイメージを伝え、詞に起こす作業を任せた。従って、本作のレコーディングにおいてブライアン以外のメンバーはほぼボーカルとコーラスのみでの参加となっている。本作のレコーディングでは「グッド・ヴァイブレーション」の初期ヴァージョンも作られたが、ブライアン自身の意向により『ペット・サウンズ』への収録は見送られ、アルバム発表後に手を加えられて11月にシングルとして発表された。なお本作は、ビートルズの『ラバー・ソウル』から影響を受けて作ったとブライアンは明言。『ペット・サウンズ』は現在でこそロック史上に残る名盤として扱われているものの…	**Side A** 1. 素敵じゃないか Wouldn't It Be Nice 2:22 2. 僕を信じて You Still Believe in Me 2:30 3. ザッツ・ノット・ミー 2:27 4. ドント・トーク 2:51 5. 待ったこの日 I'm Waiting for the Day 3:03 6. 少しの間 Let's Go Away for Awhile 2:18 7. スループ・ジョン・B 2:56	**Side B** 1. 神のみぞ知る God Only Knows 2:49 (ステレオ・ヴァージョンではブライアンのリード・ヴォーカルがカールのものに差し替え) 2. 救いの道 I Know There's an Answer 3:08 3. ヒア・トゥデイ 2:52 4. 駄目な僕 I Just Wasn't Made for These Times 3:11 5. ペット・サウンズ… 3:20

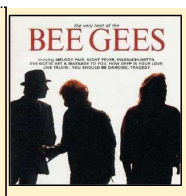
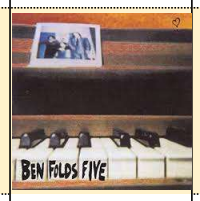
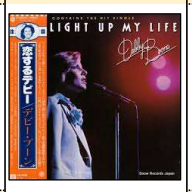
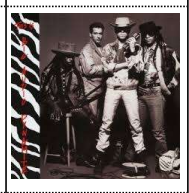
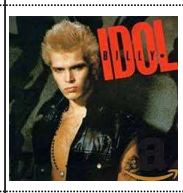
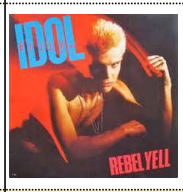
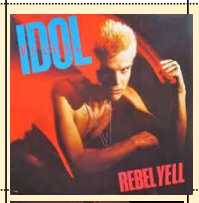
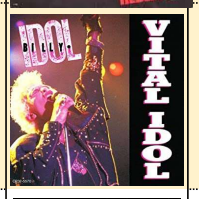
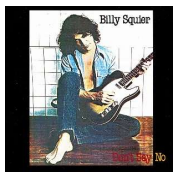
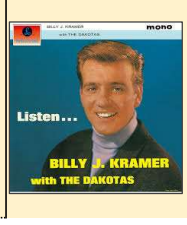
	BEACE BOYS	ペットサウンズ		966年5月16日	アメリカンロック	CD	US	他のメンバーからは賛否両論で、アル・ジャーディンとマイク・ラヴからは「(特に)歌詞の内容が理解出来ない」とレコーディングの段階から批判され、デニス・ウィルソンとカール・ウィルソン、ブルース・ジョンストンは反対に当時からその内容に好意的だった。それまでのビーチ・ボーイズにあったサーフィンやホット・ロッドといった言葉が全く登場せず、ブライアンの心情を吐露したような複雑な内容から、アメリカではあまり受け入れられなかった。一方、イギリスでは全英アルバムチャートで26週連続トップ10入りする大ヒットを記録した。	1. 素敵じゃないか 2. 僕を信じて 3. ザッツ・ノット・ミー 4. ドント・トーク 5. 待ったこの日 6. 少しの間	7. スループ・ジョン・B 8. 神のみぞ知る 9. 救いの道 10. ヒア・トゥデイ 11. 駄目な僕 12. ペット・サウンズ 13. キャロライン・ノー
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) スマイリー・スマイル		1967年9月11日	アメリカンロック	レコード	日本	1967年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの11枚目のオリジナルアルバム。1966年の秋から1967年の春にかけて、音楽界ではビーチ・ボーイズの『ペット・サウンズ』に続く作品『スマイル』が待望視されていた。1966年後半の世界的なヒットとなった「グッド・ヴァイブレーション」も新しいアルバムへの期待を増加させた。しかし、『スマイル』のリリースは1967年5月に急遽キャンセルとなり、モンタレー・ポップ・フェスティバルへの出演も断ることとなった。そんな中、制作が滞っている『スマイル』の代替品として本作がリリースされた。これは発売済みのシングルと、『スマイル』制作途中の断片を再利用して急拵えで仕立て上げたものだったが、『スマイル』の残滓的な内容にもかかわらず、カルト的な人気を博するようになった。 後に、ブライアン・ウィルソンが、アルバムに対する過度の期待が重圧となり、ストレスによる薬物使用とノイローゼにより『スマイル』の制作を放棄したことが明らかになった。その後、ブライアンの音楽活動は徐々に低迷していくこととなる。	**Side A** 1. 英雄と悪漢 – Heroes and Villains 3:37 2. ヴェジタブル 2:07 3. フォール・ブレイクス・アンド・バック・トゥ・ウィンター 2:15 4. シーズ・ゴーイン・ボールド 2:13 5. リトル・パッド 2:30	**Side B** 1. グッド・ヴァイブレーション 3:36 2. ウィズ・ミー・トゥナイト 2:17 3. ウインド・チャイムズ 2:36 4. ゲッティン・ハングリー 2:27 5. ワンダフル 2:21 6. ホイッスル・イン 1:04
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) スマイリー・スマイル		1967年9月11日	アメリカンロック	CD	日本		1. 英雄と悪漢 – Heroes and Villains 3:37 2. ヴェジタブル 2:07 3. フォール・ブレイクス・アンド・バック・トゥ・ウィンター 2:15 4. シーズ・ゴーイン・ボールド 2:13 5. リトル・パッド 2:30	6. グッド・ヴァイブレーション 3:36 7. ウィズ・ミー・トゥナイト 2:17 8. ウインド・チャイムズ 2:36 9. ゲッティン・ハングリー 2:27 10. ワンダフル 2:21 11. ホイッスル・イン 1:04
	BEACE BOYS	(ペーパースリーブ仕様) ワイルド・ハニー		1967年12月11日	アメリカンロック	CD	日本	1967年にリリースされたザ・ビーチ・ボーイズの12枚目のアルバム。前作『スマイリー・スマイル』から3ヶ月後に発表されたが、本作はカール・ウィルソンが主導権を握り完成させた。ノイローゼ状態にあったブライアン・ウィルソンはグループのリーダーシップにもはや興味を持っていなかったが、アルバムの大半の曲はマイク・ラヴと共に作り出された。彼らが緊密に作曲を行ったのは『サマー・デイズ』以来のことであった。スタジオではブライアンに曲への見解が求められたが、他のメンバー達が録音に大きな役割を担い始めていたのが大きな変化であった。「すてきなブーガルー」は、ブライアンが作曲に関わらなかった初のヴォーカル入りオリジナル曲である。本作ではカール・ウィルソンが大半の曲のリード・ヴォーカルを担当した。興味深い曲は「ママ・セズ」である。これは『スマイル』用に録音された「ヴェジタブル」の一部であった。これが後に出回ることとなった『スマイル』セッションの最初であった。 ジャケット写真は、実際にステンドグラスを特注で製作して撮影されたものである。	1. ワイルド・ハニー 2:37 2. うれしくないかい Aren't You Glad 2:16 3. 愛するあの娘に I Was Made to Love Her 2:05 4. カントリー・エアー 2:20 5. ア・シング・オア・トゥー 2:40 6. ダーリン 2:12 7. アイド・ラヴ・ジャスト・ワンス・トゥ・シー・ユー 1:48	8. ヒア・カムズ・ザ・ナイト 2:41 9. 風を吹かせろ Let the Wind Blow 2:19 10. すてきなブーガルー How She Boogalooed It 1:56 11. ママ・セズ 1:05 ボーナス・トラック 12. 心には春がいっぱい Their Hearts Were Full of Spring
	BEACE BOYS	ゴッド・メイド・ザ・ラジオ～神の創りしラジオ		2012年6月5日	アメリカンロック	CD	US	ザ・ビーチ・ボーイズが2012年に発表したスタジオ・アルバム。新曲により構成されたアルバムとしては20年ぶりの作品に当たる。89年の『Still Cruisin'』以来23年振りにブライアンが参加した作品。実はその『Still Cruisin'』は新曲と過去のヒット曲を組み合わせた半編集盤で、その中の新曲のブライアン参加曲はブライアンのソロ用に録音されていた音源にメンバーが手を加えたものであり、厳密には"ブライアン参加"とは言い難いものであった。したがって本格的にブライアンが参加した作品ということになると85年の『The BEACH BOYS』ということになり、実際には27年振りということになる。更にブライアン参加の影に隠れてしまっているが、デビュー・アルバム『サーフィン・サファリ』から『リトル・デュース・クーペ』あたりまで参加していたデヴィッド・マークスの参加もファンには涙ものの事件だろう。ラインナップは、ブライアン・ウィルソン、マイク・ラヴ、アル・ジャーディン、ブルース・ジョンストン、デヴィッド・マークスのメンバーで再結成によりメジャー・デビュー50周年を記念してリリース。アルバムの内容は、物悲しいコーラス・ハーモニーを聞かせる1. から始まりちょっぴり不安になるものの、必殺のロッカ・バラードの2. が始まると一気に幸福感に満たされる。メロディ・ラインとアレンジを含めた全てがブライアンが参加していた80年代のビーチボーイズそのままで、明らかにブライアンのソロとは違った雰囲気を感じさせている。これをマジックを言わずに何と言えばいいのか！大半の楽曲はブライアンとJ. トーマスの共作となっているが、マイク・ラブも7. を単独で提供する他、8. では久々にブライアンとの共作まで果たしている。突き抜けるかのような爽やかさを感じさせる近年の鬱憤を晴らすかのような快作である。	1. あの頃に…Think About the Days 1:27 2. ゴッド・メイド・ザ・ラジオ ～神の創りしラジオ～ 3:18 3. 今がその時 Isn't It Time 3:45 4. スプリング・ヴァケーション 3:06 5. ビルとスーの私生活 The Private Life of Bill and Sue 4:17 6. シェルター 3:02	7. 海に輝く夜明け Daybreak Over the Ocean 4:20 8. 心のビーチ Beaches in Mind 2:38 9. ストレンジ・ワールド 3:03 10. バック・アゲイン 3:23 11. パシフィック・コースト・ハイウェイ 1:47 12. 過ぎゆく夏 Summer's Gone 4:42
	BEATLES	プリーズ・プリーズ・ミー		1963	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	1963年3月22日にモノラル盤、4月26日にステレオ盤が、それぞれ発売された。シングルとして発売された4曲を除く全10曲を、1963年2月11日にレコーディングするという短期間で制作された。2作目のシングル『プリーズ・プリーズ・ミー』(1963年1月11日発売)のヒットを受けて急遽制作された。当初はキャヴァーン・クラブでライヴ録音を計画。キャヴァーン・クラブが録音する環境としては良くなかった為、アビー・ロード・スタジオでスタジオ・ライヴ形式でレコーディングが行なう。時間と予算が限られ1日でアルバムを完成させた。ほとんどの曲は原則一発録りで制作された。また、収録曲14曲中6曲は、ビートルズがライヴで演奏していたアメリカのR&Bなどのカヴァーで占められている。「ホールド・ミー・タイト」もこのセッションで録音されたが、次のアルバム『ウィズ・ザ・ビートルズ』に回された。録音当日、ジョンは風邪をひいており、その影響でヴォーカルがやや鼻声になっている。ジョージ・マーティンはジョンの喉への負担を考慮し、「ツイスト・アンド・シャウト」の録音はセッションの最後に行い2テイク録音し第1テイクを採用。発売から6週目の全英アルバムチャートで最高位1位を獲得。	**Side A** 1.アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア Paul 2:55 2.ミズリー John,&Paul 1:49 3.アンナ John 2:55 4.チェインズ George 2:23 5.ボーイズ Ringo 2:24 6.アスク・ミー・ホワイ John 2:24 7.プリーズ・プリーズ・ミー John,&Paul 1:59	**Side B** 1.ラヴ・ミー・ドゥ John,&Paul 2:21 2.P.S.アイ・ラヴ・ユー Paul 2:04 3.ベイビー・イッツ・ユー John 2:40 4.ドゥ・ユー・ウォント・トゥ・ノウ・ア・シークレット George 1:56 5.蜜の味(A Taste Of Honey) Paul 2:03 6.ゼアズ・ア・プレイス John,&Paul 1:51 7.ツイスト・アンド・シャウト John 2:32
	BEATLES	プリーズ・プリーズ・ミー		1963年3月22日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビートルズ		1963年11月22日	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	1963年11月22日に発売されたビートルズの2作目。ジョージ・ハリスン初の作詞作曲「ドント・バザー・ミー」を含む8曲の自作曲とカバー6曲が収録され、収録曲のほとんどがモータウンもしくはR&Bナンバーとなっている。先行シングル曲を収録せず、すべてアルバム用に曲を用意している。日本では来日記念盤として『ステレオ! これがビートルズ Vol.2』と題して曲順替えされたものがリリースされ、アメリカでは本作の収録曲は『ミート・ザ・ビートルズ』『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』に分解してリリースされ、含まれる曲も異なり、1987年のCD発売までリリースされなかった。1963年7月18日から10月23日までの3ヶ月間に行なわれた7回のセッションに渡って録音された。 ジャケットは、白黒写真で、彼らの顔に片側からライトを当てて、光の当たらない側半分を影にして撮影するという当時としては画期的な手法(通称:ハーフ・シャドウ)が用いられた。メンバーはハンブルク巡業時代に知り合った友人のアストリッド・キルヒャーが撮影していた写真をロバート・フリーマンに見せて、同様のものにしてほしいと要請。このアルバムジャケット以降、レコード・ジャケットがアート作品として注目されるきっかけになる。 30週連続で第1位を獲得していた前作『プリーズ・プリーズ・ミー』を抜いて第1位を獲得。	**Side A** 1. イット・ウォント・ビー・ロング John 2:13 2. オール・アイヴ・ゴット・トゥ・ドゥ John 2:02 3. オール・マイ・ラヴィング Paul 2:07 4. ドント・バザー・ミー George 2:28 5. リトル・チャイルド John,&Paul 1:46 6. ティル・ゼア・ウォズ・ユー Paul 2:14 7. プリーズ・ミスター・ポストマン John 2:34	**Side B** 1. ロール・オーバー・ベートーヴェン George 2:45 2. ホールド・ミー・タイト Paul 2:32 3. ユー・リアリー・ゴッタ・ホールド・オン・ミー John,&George 3:01 4. アイ・ウォナ・ビー・ユア・マン Ringo 1:59 5. デヴィル・イン・ハー・ハート George 2:26 6. ナット・ア・セカンド・タイム John 2:07 7. マネー John 2:49
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビートルズ		1963年11月22日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビートルズ		1963	ブリティッシュビート60'S	CD	日本			
	BEATLES	ミート・ザ・ビートルズ		1964年1月20日	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	1964年1月にアメリカ合衆国で発売されたビートルズの2作目のアルバム。キャピトル・レコードにおけるファースト・アルバムである。ファースト・アルバム『プリーズ・プリーズ・ミー』のアメリカにおける発売権はヴィージェイ・レコードが持っていたため、本作は『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録曲を中心に編集された。ジャケット写真も同作のものに青みを持たせたものとなっている。大ヒットした「抱きしめたい」をオープニングに据え、イギリスとは違った編集で発表初期の12曲が収録されている。アメリカでは「アルバムの販売枚数を伸ばすために、ヒットしたシングル曲は直後のアルバムに収録する」、「アルバムの収録曲は12曲程度である」[注釈 1]といったアメリカ独自の音楽産業の通例、また「アルバム数を水増させ、その分さらなるセールスを獲得する」という販促方針から、ビートルズのオリジナル・アルバムを独自に編集しリリースし続けた。こうした措置は1966年リリースの『リボルバー』まで続けられた。『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録の全14曲中、本作未収録の5曲は、1964年4月発売の『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』に収録された。 ビートルズの本格的なアメリカ・デビュー・アルバムとあって、ビートルズ本人たちの意向とは別の意味でアメリカの聴衆にとっては非常に思い入れ深いアルバムであった。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは11週連続第1位を獲得し、1964年度年間ランキングでは第8位、そして、1965年度年間ランキング31位を記録している。また『キャッシュボックス』誌でも11週連続第1位を獲得し、こちらでは1964年度年間ランキング第1位に輝いている。アメリカだけで500万枚以上のセールスを記録。	1. 抱きしめたい (I Want to Hold Your Hand) 2:24 2. アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア (I Saw Her Standing There) 2:50 3. ジス・ボーイ 2:11 4. イット・ウォント・ビー・ロング 2:11 5. オール・アイヴ・ゴット・トゥ・ドゥ 2:02 6. オール・マイ・ラヴィング 2:07	アナログはここからB面 7. ドント・バザー・ミー 2:28 8. リトル・チャイルド 1:46 9. ティル・ゼア・ウォズ・ユー 2:14 10. ホールド・ミー・タイト 2:32 11. アイ・ウォナ・ビー・ユア・マン 1:59 12. ナット・ア・セカンド・タイム 2:07
	BEATLES	セカンドアルバム		964年4月10日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1964年4月10日、キャピトルは『The Beatles' Second Album』というあまり詩心のない題名のレコードを発売。これは『Meet The Beatles!』の発売から3カ月も経たないうちに発売されている。しかし、この『The Beatles' Second Album』は「セカンド・アルバム」とタイトルで謳っているが、実のところザ・ビートルズの米国盤アルバムとしては3枚目にあたるものだった。アメリカでの人気が爆発したこの年の初め、そこに便乗したアルバム『Introducing…The Beatles』がヴィージェイ・レーベルから出ていたのである(これは曲目が異なる2種類のヴァージョンが存在する)。しかも、イギリスで先行していたザ・ビートルズ・ブームに追いつくため、『The Beatles' Second Album』もまた『Meet The Beatles!』と同じく寄せ集めの内容になっていた。『The Beatles' Second Album』が全米チャートに初登場したとき、『Meet The Beatles!』はまだ悠々と首位に留まっていた(最終的な記録は11週連続首位)。『The Beatles' Second Album』が出るまでは、『With The Beatles』(イギリスで出た2枚目のアルバム)の収録曲のうち5曲は米国盤未収録だった。その5曲が、この『The Beatles' Second Album』でついに入手可能になったのである。『The Beatles' Second Album』の他の収録曲は、「Thank You Girl」や「You Can't Do That」といった英国盤シングルのB面曲、さらにはヒット曲「She Loves You」、そのB面の「I'll Get You」といった選曲になっていた。 さらに目を引いたのが、「Long Tall Sally」と「I Call Your Name」である。この2曲はまもなく英国盤EP『Long Tall Sally』に収録されたが、この時点ではイギリスでもまだ未発表だった。「Long Tall Sally」はリトル・リチャードの作品。また「I Call Your Name」はのちにママス・アンド・パパスがカヴァーしている。ちなみにこの『The Beatles' Second Album』では、キャピトルが全曲をリミックスし、アメリカ・マーケット向けにエコーとリヴァーブを加えていた。この点は発売当時からかなり話題になっていた。	**Side A** 1. ロール・オーバー・ベートーヴェン 2:44 2. サンキュー・ガール 2:01 3. ユー・リアリー・ゴッタ・ホールド・オン・ミー 2:58 4. デヴィル・イン・ハー・ハート 2:28 5. マネー 2:47 6. ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:39	**Side B** 1. ロング・トール・サリー 2:00 2. アイ・コール・ユア・ネーム 2:09 3. プリーズ・ミスター・ポストマン 2:35 4. アイル・ゲット・ユー 2:05 5. シー・ラヴズ・ユー 2:20
	BEATLES	ウィズ・ザ・ビートルズ		1963年11月22日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム		1964年4月10日	ブリティッシュビート61'S	CD	日本	1964年4月にアメリカ合衆国で発売されたビートルズの3作目のアルバム『ザ・ビートルズ・セカンド・アルバム』は『ミート・ザ・ビートルズ』に続く、米キャピトル・レコードの編集アルバムである。本作からキャピトルは1アルバムにつき11曲収録することに統一している。『ミート・ザ・ビートルズ』から3か月も経たない期間で発売された。 本作には、『ウィズ・ザ・ビートルズ』収録曲中、『ミート・ザ・ビートルズ』に未収録となったカバー5曲に加え、スワン・レコード(英語版)がリリース権を持っていた「シー・ラヴズ・ユー」、「アイル・ゲット・ユー」、ヴィージェイ・レコードがリリース権を持っていた「サンキュー・ガール」[注釈 1]、当時英国では未発表となっていた「ロング・トール・サリー」「アイ・コール・ユア・ネーム」が収録されている。なお、いずれの収録曲もアメリカ市場向けに、エコーとリバーブがかけられている。 『ビルボード』誌アルバム・チャートでは『ミート・ザ・ビートルズ』に代わって5週連続第1位を獲得した[3][4]し、最終的に55週にわたってチャートインした[2]。『キャッシュボックス』誌では4週連続第1位を獲得[5]。アメリカだけで205万枚以上のセールスを記録している[6]。	1. ロール・オーバー・ベートーヴェン 2:44 2. サンキュー・ガール 2:01 3. ユー・リアリー・ゴッタ・ホールド・オン・ミー 2:58 4. デヴィル・イン・ハー・ハート 2:28 5. マネー 2:47 6. ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:39	アナログはここからB面 7. ロング・トール・サリー 2:00 8. アイ・コール・ユア・ネーム 2:09 9. プリーズ・ミスター・ポストマン 2:35 10. アイル・ゲット・ユー 2:05 11. シー・ラヴズ・ユー 2:20
	BEATLES	ハード・デイズ・ナイト		1964年7月10日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	イギリスで1964年7月10日に発売されたビートルズの3作目。彼らにとっては初主演作となる映画『ハード・デイズ・ナイト』のサウンドトラックでもある。邦題は映画と同じく「ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!」。A面は初主演映画『ビートルズがやって来るヤァ!ヤァ!ヤァ!』の収録曲7曲、B面には新しくレコーディングされたナンバー6曲が収録されている。ビートルズのオリジナル・アルバムとして初の全曲オリジナルで唯一の「全曲レノン＝マッカートニーによるオリジナル曲で構成されたアルバム」。発売当時からアナログLP時代を通じて、ステレオ盤とモノラル盤の両方がリリースされていた。日本ではこのアルバムからイギリスと同内容での発売が行われるようになったが、アルバムジャケットは日本独自のデザインが使われ、イギリス盤と同じデザインでリリースされたのは1976年の再発時だった。	**Side A** 1.ア・ハード・デイズ・ナイト 2:34 2.恋する二人 (I Should Have Known Better)2:43 3.恋におちたら (If I Fell) 2:19 4.すてきなダンス (I'm Happy Just To Dance With You) 1:56 5.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:30 6.テル・ミー・ホワイ 2:09 7.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:12	**Side B** 1.エニイ・タイム・アット・オール 2:11 2.ぼくが泣く (I'll Cry Instead) 1:45 3.今日の誓い (Things We Said Today) 2:35 4.家に帰れば(When I Get Home)2:17 5.ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:35 6.アイル・ビー・バック (I'll Be Back) 2:24

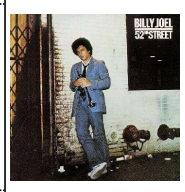
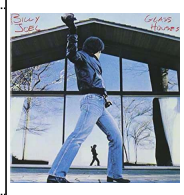
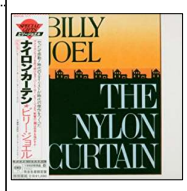
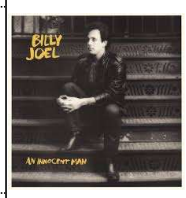
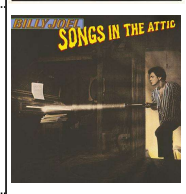
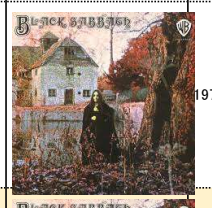
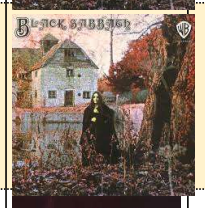
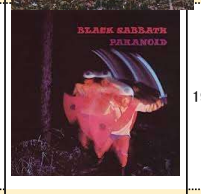
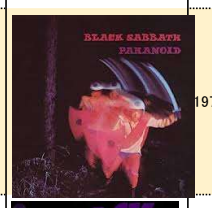
	BEATLES	ビートルズがやって来る ヤア！ヤア！ヤア！		1964	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	64年9月5日は、映画「ビートルズがやって来るヤァ！ヤア！ヤァ！」のサウンド・トラック盤。本国UKで3枚目、国内でも同じく3枚目のLPで、国内では初のステレオ、初のオリジナルと同一内容のLPの発売となりました。但し、カヴァー写真は日本独自の写真を使用しています。76年の国旗帯より、UKかノジナル・カヴァーと同じデザインのカヴァーに変更されましたが、日本語LPタイトルや収録曲は全く同じですので、同一LPとして取り上げます。最初期の日本盤は、オデオンのレーベルだったが、その後の再プレスで、アップルレーベルとなる。この『A HARD DAY'S NIGHT』はデザインも少し変わり、ジャケット上部の【stereo】の文字が無くなった。	Side A 1.ア・ハード・デイズ・ナイト 2:34 2.恋する二人 （I Should Have Known Better)2:43 3.恋におちたら（If I Fell） 2:19 4.すてきなダンス （I'm Happy Just To Dance With You） 1:56 5.アンド・アイ・ラヴ・ 2:30 6.テル・ミー・ホワイ 2:09 7.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:12	Side B 1.エニイ・タイム・アット・オール 2:11 2.ぼくが泣く（I'll Cry Instead） 1:45 3.今日の誓い（Things We Said Today） 2:35 4.家に帰れば（When I Get Home） 2:17 5.ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:35 6.アイル・ビー・バック 2:24
	BEATLES	サムシング・ニュー		1964年7月20日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1964年7月20日アメリカ発売／1970年9月25日日本発売 「ビルボード」誌全米アルバム・チャート最高位2位（9週）／トップ100在位38週マルチ・プラチナディスク×2（＝200万枚／1997年1月10日認定） 映画のサントラ盤がユナイテッド・アーティスツから出たため、キャピトルはこのアルバムを独自に編集しました。 イギリス盤「ハード・デイズ・ナイト」からタイトル曲などを省いた8曲と、ロックンロールのカバー「スロウ・ダウン」「マッチボックス」、そして「抱きしめたい」のドイツ語バージョンが収められています。 「エド・サリヴァン・ショー」出演時のショットが使われたジャケットは、4人の使用楽器やステージでの立ち位置が一目瞭然。	Side A 1.ぼくが泣く(I'll Cry Instead） 1:49 2.今日の誓い(Things We Said Today） 2:39 3.エニイ・タイム・アット・オール 2:13 4.家に帰れば(When I Get Home） 2:18 5.スロウ・ダウン 2:55 6.マッチボックス 1:58	Side B 1.テル・ミー・ホワイ 2:10 2.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:32 3.すてきなダンス （I'm Happy Just To Dance With You） 1:58 4.恋におちたら（If I Fell） 2:22 5.抱きしめたい（ドイツ語） （Komm, Gib Mir Deine Hand） 2:19
	BEATLES	サムシング・ニュー		1964年7月20日	ブリティッシュビート61'S	CD	日本	1964年7月にアメリカ合衆国で発売されたビートルズの5作目のアルバム。『サムシング・ニュー』は米キャピトル・レコードの編集アルバムである。ジャケットにはエド・サリヴァン・ショーでのステージ写真が用いられた。映画『ビートルズがやって来る ヤァ!ヤァ!ヤァ!』のサウンドトラック『A Hard Day's Night』は映画会社ユナイテッド・アーティスツから発売され、キャピトルは"A Hard Day's Night"をタイトルにしたアルバムを発売できない契約だったため『サムシング・ニュー』として編集し、発売した。 イギリス盤『ハード・デイズ・ナイト』収録曲からの8曲と、EP『ロング・トール・サリー』に収録されている「スロウ・ダウン」「マッチボックス」、「抱きしめたい（ドイツ語）」の計11曲が収録された。しかしその一方、「ア・ハード・デイズ・ナイト」、「恋する二人」、「キャント・バイ・ミー・ラヴ」の3曲は未収録となった[注釈 1]。 『ビルボード』誌のアルバム・チャートでは9週連続最高位2位だった[2]。アメリカだけで200万枚以上のセールスを記録している	1.ぼくが泣く（I'll Cry Instead） 1:49 2.今日の誓い （Things We Said Today） 2:39 3.エニイ・タイム・アット・オール 2:13 4.家に帰れば」(When I Get Home） 2:18 5.スロウ・ダウン （Slow Down） 2:55 6.マッチボックス 1:58	1.テル・ミー・ホワイ 2:10 2.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:32 3.すてきなダンス （I'm Happy Just To Dance With You） 1:58 4.恋におちたら（If I Fell） 2:22 5.抱きしめたい（ドイツ語） （Komm, Gib Mir Deine Hand） 2:19
	BEATLES	ビートルズ '65		1964年12月15日	ブリティッシュビート61'S	CD	日本	本作はキャピトル・レコードが『ビートルズ・フォー・セール』を改変した作品で、一部収録曲をカットし、アメリカで発売された『ハード・デイズ・ナイト』で未収録となっていた「アイル・ビー・バック」と、シングル曲「アイ・フィール・ファイン」と「シーズ・ア・ウーマン」を追加収録した作品となっている。『ビートルズ・フォー・セール』収録曲のうち、本作への未収録曲は『ビートルズ VI』に収録された。 アルバム・タイトル、ジャケットなどが英国オリジナル盤と同様のキャピトル編集盤『Rubber Soul (Capitol)』、キャピトル編集盤『Revolver (Capitol)』の2種類を除けば、国内でリリースされなかった唯一のキャピトル編集盤であったが、2004年リリースのボックス・セット『ザ・ビートルズ '64 BOX』(『THE CAPITOL ALBUMS VOL. 1』)に収録され、40年ぶりに日本で陽の目を見ることとなった。 『ビルボード』誌のTop LPsチャートでは、9週連続第1位を獲得[2]。アメリカだけで300万枚以上のセールスを記録	1.「ノー・リプライ」(No Reply) ジョン・レノン2:15 2.「アイム・ア・ルーザー」(I'm A Loser) ジョン・レノン2:31 3.「ベイビーズ・イン・ブラック」(Baby's In Black) ジョン・レノンポール・マッカートニー 2:04 4.「ロック・アンド・ロール・ミュージック」(Rock And Roll Music)チャック・ベリージョン・レノン 2:31 5.「アイル・フォロー・ザ・サン」(I'll Follow The Sun) ポール・マッカートニー1:49	アナログB面 1.「ハニー・ドント」(Honey Don't)カール・パーキンスリンゴ・スター2:57 2.「アイル・ビー・バック[注釈 1]」(I'll Be Back) ジョン・レノン2:24 3.「シーズ・ア・ウーマン[注釈 2]」(She's A Woman) ポール・マッカートニー3:03 4.「アイ・フィール・ファイン[注釈 3]」(I Feel Fine) ジョン・レノン2:20 5.「みんないい娘」(Everybody's Trying to Be My Baby)カール・パーキンスジョージ・ハリスン
	BEATLES	ビートルズ・フォー・セ		1964年12月4日	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	イギリスにおいて1964年12月4日に発売されたビートルズの4作目。パーロフォンが発売。アルバムは作詞者としてのレノン＝マッカートニーにとってターニングポイントとなり、特にジョン・レノンは自叙的な曲を作ることに興味を示した。「アイム・ア・ルーザー」は、レノンがボブ・ディラン[6]の影響下にあることを初めて示した曲である。アルバム・タイトルは訳すると「ビートルズ売り出し中」で、クリスマスセールに引っ掛けたもの。アメリカにおいては、『ビートルズ '65(Capitol)』と『ビートルズ VI』として初めて発売した。日本では1965年に『ビートルズ '65』という日本語題で発売した。このアルバムはクリスマス用ということで、自分たちの新曲だけでアルバムを作ることができず、アルバム用の数曲をカバー曲で補うこととなった。そのカバー曲にはメンバーが敬愛するチャック・ベリーの「ロック・アンド・ロール・ミュージック」とバディ・ホリーの「ワーズ・オブ・ラヴ」、そしてカール・パーキンスの2つの曲、ジョージ・ハリスンが歌った「みんないい娘」とリンゴ・スターが歌った「ハニー・ドント」。	A面 1.ノー・リプライ 2:15 2.アイム・ア・ルーザー 2:30 3.ベイビーズ・イン・ブラック 2:04 4.ロック・アンド・ロール・ミュージック 2:31 5.アイル・フォロー・ザ・サン 1:49 6.ミスター・ムーンライト 2:38 7.カンサス・シティ/ヘイ・ヘイ・ヘイ・ヘイ 2:38	B面 1.エイト・デイズ・ア・ウィーク 2:43 2.ワーズ・オブ・ラヴ 2:04 3.ハニー・ドント 2:57 4.エヴリー・リトル・シングー 2:04 5.パーティーはそのままに 2:33 6.ホワット・ユー・アー・ドゥーイング 2:30 7.みんないい娘(Everybody's Trying To Be My Baby） 2:26
	BEATLES	ビートルズ・フォー・セ		1964年12月4日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	アーリー・ビートルズ		1965年3月22日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	米国キャピトル・レコード企画で制作された1965年のアルバム。R&B色の強い初期作品を集めた編集盤。1965年3月22日アメリカ発売／1970年9月25日日本発売。イギリスでのデビュー・アルバム「プリーズ・プリーズ・ミ」収録曲は、アメリカでは当初ヴィー・ジェイ・レコードが販売権を得て、アルバム「イントロデューシング・ザ・ビートルズ」として発売されていました。その後、キャピトルが権利を獲得したことで、このアルバムが出されることになったが、前年のビートルズ・フィーバー時にヴィー・ジェイ盤が9週連続全米2位と売れに売れていたため、このアルバムはヒットしませんでした。 アルバム「プリーズ・プリーズ・ミ」から「アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア」「ミズリー」「ゼアズ・ア・プレイス」を除いた11曲で構成されています。「アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア」は、キャピトル第一弾のアルバム「ミートザ・ビートルズ」に収録されていたのでわかるが、「ミズリー」「ゼアズ・ア・プレイス」を省いた事により、アメリカのファンはこの二曲を、1980年の「レアリティーズ Vol.2」の発売まで幻のビートルズ曲となります。アルバムのジャケットはイギリス本国のアルバム「ビートルズ・フォー・セール」の裏写真が使用された。 「ビルボード」誌全米アルバム・チャート最高位43位（1週）／トップ100在位14週プラチナディスク（＝100万枚／1997年1月10日認定）	A面 1.ラヴ・ミー・ドゥ 2:19 2.ツイスト・アンド・シャウト2:33 3.アンナ(Anna 3:00 4.チェインズ 2:55 5.ボーイズ 2:28 6.アスク・ミー・ホワイ 2:24	B面 1.プリーズ・プリーズ・ミー1:59 2.P.S.アイ・ラヴ・ユー 2:04 3.ベイビー・イッツ・ユー 2:41 4. 蜜の味(A Taste Of Honey） 2:05 5.ドゥ・ユー・ウォント・トゥ・ノウ・ア・シークレッ 1:59
	BEATLES	ビートルズ NO.5		1965年5月5日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	ビートルズの日本における5作目のアルバムである。1965年5月5日に東芝音楽工業より発売された。当時英国盤・米国盤共にアルバム未収の「シー・ラヴズ・ユー(ドイツ語）」を含んだ『ビートルズ No.2!』に続く日本独自に企画構成されたアルバムである(最後の日本編集盤)。ジャケットは米国盤「Beatles '65」のデザインを転用し、一部を変更している。曲順も日本独自のもの。初リリース以来、モノラル盤のみの発売であり、本アルバムのステレオ盤はない。これは「アイ・フィール・ファイン」と「シーズ・ア・ウーマン」など一部の曲のリアル・ステレオ・ミックスがまだ公式に発表されていなかったため、アルバム全体をモノラル・ミックスで統一する必要があったからである。	A面 タイトル 作詞・作曲 リード・ボーカル時間 1.のっぽなサリー(Long Tall Sally） エノトリス・ジョンソン（英語版）ロバート・ブラックウェル（英語版）リチャード・ペニーマン ポール・マッカートニー2:03 2.シー・ラヴズ・ユー(ドイツ語）」(Sie Liebt Dich) レノン＝マッカートニー 2:20 3.アンナ(Anna (Go To Him） アーサー・アレキ	B面 1.アイ・フィール・ファイン(I Feel Fine） ジョン・レノン 2:20 2.抱きしめたい(ドイツ語）」(Komm, Gib Mir Deine Hand） レノン＝マッカートニー 2:27 3.チェインズ(Chains） ジェリー・ゴフィンキャロル・キング ジョージ・ハリスン 2:23 4.スロー・ダウン(Slow Down） ラリー・ウィリアムズ ジョン・レノン 2:56 5.オール・アイヴ・ゴット・トゥ・ドゥ(All I've Got To Do)
	BEATLES	ヘルプ!		1965年8月6日	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	ビートルズの5作目。映画『ヘルプ!4人はアイドル』のサウンドトラック盤でもある。イギリスにおいて1965年8月6日に発売された。旧邦題は「4人はアイドル」。A面にはビートルズ主演の映画『ヘルプ!4人はアイドル』で使用された楽曲、B面には「イエスタデイ」やカバー曲を含む新曲が収録されている。タイトル曲「ヘルプ!」は、映画のタイトルに合わせてジョンが作った曲である。デビュー録音（「ラヴ・ミー・ドゥ」、「P.S.アイ・ラヴ・ユー」）で外部ミュージシャンのアンディ・ホワイトをドラムス、バーカッション役に起用したが、以降はマーティンが手を貸すことはあってもビートルズのレコーディングに際し外部ミュージシャンが参加することはなかったが、本作の「悲しみはぶっとばせ」及び「イエスタデイ」のレコーディングにおいてデビュー録音以来、外部ミュージシャンを起用したことは注目される。本作には、ジョン・レノン作の「悲しみはぶっとばせ」などボブ・ディランの影響が見られる楽曲のほか、ポール・マッカートニー作の「夢の人」に見られるカントリー風味の楽曲が収録されている。	A面 1.ヘルプ! 2:39 2.ザ・ナイト・ビフォア 2:36 3.フロム・ミー・トゥ・ユー・ファンタジー 2:08 4.悲しみはぶっとばせ(You've Got To Hide Your Love Away） 2:12 5.アイ・ニード・ユー 2:31 6.イン・ザ・チロル 2:26	B面 1.アナザー・ガールー 2:08 2.アナザー・ハード・デイズ・ナイト 2:31 3.涙の乗車券(Ticket To Ride） 3:07 4.ザ・ビター・エンド / ユー・キャント・ドゥ・ザット」 2:26 5.恋のアドバイス」(You're Going To Lose That Girl） 2:19 6.ザ・チェイス 2:31
	BEATLES	ヘルプ!		1965年8月6日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	ヘルプ！		1965年8月6日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	アメリカでの9作目のアルバムである。米キャピトル・レコードによる編集盤である。純粋なサウンドトラック盤様に仕上げられた本作は、実際に映画で使用された楽曲のみが収録され、その他に映画で使用されたケン・ソーンの音楽が収められている。これにより、『4人はアイドル』のB面に収録された7曲が本作から外された。これらの楽曲のうち、「ユー・ライク・ミー・トゥ・マッチ」「テル・ミー・ホワット・ユー・シー」「ディジー・ミス・リジー」の3曲は『ビートルズ VI』、「イッツ・オンリー・ラヴ」「夢の人」の2曲は『Rubber Soul (Capitol)』、「アクト・ナチュラリー」「イエスタデイ」の2曲は『イエスタデイ・アンド・トゥデイ』に収録されている。(ケン・ソーンの映画音楽は、ケン・ソーンと彼のオーケストラによる演奏）アメリカでは9週連続第1位を獲得。	A面 1.ヘルプ!(Help! 2:39 2.ザ・ナイト・ビフォア 2:36 3.フロム・ミー・トゥ・ユー・ファンタジー 4.悲しみはぶっとばせ(You've Got To Hide Your Love Away） 2:12 5.アイ・ニード・ユー 2:31 6.イン・ザ・チロル 2:26	B面 1.アナザー・ガール 2:08 2.アナザー・ハード・デイズ・ナイト 2:31 3.涙の乗車券(Ticket To Ride） 3:07 4.ザ・ビター・エンド / ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:26 5.恋のアドバイス(You're Going To Lose That Girl） 2:19 6.ザ・チェイス(The Chase） 2:31
	BEATLES	ラバー・ソウル		1965年12月3日	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	1965年12月3日に発売された、ビートルズの6作目。このアルバムで初めてジョージが持ち込んだインドの楽器シタールが、「ノルウェーの森」で演奏されている。ジョンとポール双方の作品も質・数ともにバランスが取れはじめ、ジョージも佳作を出し始めてきた時期の作品。10月12日から11月15日の約1ヶ月にわたってレコーディング・セッションが行われ、ビートルズとジョージ・マーティンは、「ノルウェーの森」ではシタールを、「ミッシェル」「ガール」ではシャンソン風のギター・ラインを、「嘘つき女」でファズを利かせたベースを、そして「イン・マイ・ライフ」ではバロック音楽風のピアノ・ソロを使用するなどして、従来のリバプール・サウンドから脱却したアルバムを制作した。ジョン・レノンは「ラバーソウルは大麻アルバムで、リボルバーはLSDアルバムだ」と1972年に説明している。当時フォークロックの旗手であったバーズとボブ・ディランからの影響が大きい。本作では通常のバンド編成で使われる楽器から使う楽器の幅を広げている。特に代表的な「ノルウェーの森」では、ヤードバーズやキンクスがすでに自身の音楽でインドの楽器を使ってはいたのだが、本格的な導入としてはこの曲がポップ・ミュージックにおける最初の例とされる。以降、1960年代中盤に新しい楽器を使う流行を生み出し、今では一般的に「ワールドミュージック」と呼ばれる分野の先駆けの1曲として認識されていて、西洋の音楽の中に西洋ではない音楽の影響を入れるトレンドの歴史的なきっかけとなった。ハリスンは、バーズのデヴィッド・クロスビーにインドの歴史的音楽とシタールを紹介され、すぐにのめり込み、シタールのレッスンをラヴィ・シャンカルから受ける。打楽器では、リンゴ・スターのバック・ビートやマラカス、タンバリンの使用頻度が増えた。	A面 #タイトル作詞・作曲リード・ボーカル時間 1.ドライヴ・マイ・カー(Drive My Car） ポール・マッカートニージョン・レノン 2:25 2.ノルウェーの森(ノーウェジアン・ウッド)(Norwegian Wood (This Bird Has Flown)) ジョン・レノン 2:01 3.ユー・ウォント・シー・ミー(You Won't See Me) ポール・マッカートニー 3:18 4.ひとりぼっちのあいつ(Nowhere Man） ジョン・レノン 2:40 5.嘘つき女」(Think For Yourself） ジョージ・ハリスン 2:16 6.愛のことば」(The Word） ジョン・レノン 2:41 7.ミッシェル」(Michelle） ポール・マッカートニー 2:40	B面 #タイトル作詞・作曲リード・ボーカル時間 1.消えた恋」(What Goes on） レノン＝マッカートニー＝スターキー リンゴ・スター 2:47 2.ガール」(Girl） ジョン・レノン 2:30 3.君はいずこへ」(I'm Looking Through You) ポール・マッカートニー 2:23 4.イン・マイ・ライフ」(In My Life） ジョン・レノン 2:24 5.ウェイト」(Wait） ジョン・レノンポール・マッカートニー 2:12 6.恋をするなら」(If I Needed Someone） ジョージ・ハリスン2:20 7.浮気娘」(Run For Your Life） ジョン・レノン 2:18
	BEATLES	ラバー・ソウル		1965年12月3日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	イエスタデイ・アンド・トゥデイ		1966年6月20日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	アメリカ発売は1966年6月20日。4人がバラバラの人形や肉塊を身にまとった「ブッチャー・カバー」は驚くほどの高値で取引。そのブッチャーもオリジナル、「トランク」を上から貼り付けたもの、貼り付けた「トランク」を剥がしたものと3種類あり、剥がし方の出来不出来でまた値段が上下する。 このアルバムにはアメリカ用に作られた別ミックスがいくつかあるが、日本の国内盤ではUSマスターを使用せず、手持ちのUKミックスを同じ曲順に並べて使用しているため、見た目は同じでも中身は全く違います。 1.モノラル盤 2.ステレオ盤 I （UK「Revolver」の3曲が疑似ステレオ） 3.ステレオ盤 I´ （上記のうち1面のみリアル・ステレオ） 4.ステレオ盤 I´´ （上記のうち2面のみリアル・ステレオ） 5.ステレオ盤 II （3曲ともリアル・ステレオ）	A面 1.ドライヴ・マイ・カー 2:25 2.アイム・オンリー・スリーピング 2:58 3.ひとりぼっちのあいつ(Nowhere Man） 4.ドクター・ロバート 2:14 5.イエスタデイ 2:04 6.アクト・ナチュラリー 2:27	B面 7.アンド・ユア・バード・キャン・シング 2:02 8.恋をするなら(If I Needed Someone） 2:19 9.恋を抱きしめよう(We Can Work It Out) 2:10 10.消えた恋」(What Goes On） リンゴ・スター 2:44 11.デイ・トリッパー」(Day Tripper） 2:47
	BEATLES	リボルバー		1966年8月5日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1966年8月5日に発売されたビートルズの7作目。初めてジョージ・ハリスンの自作曲が3曲収録され、ハリスンの作曲家としての成長も見られるアルバムでもある。また、当時の技術的制限下では、コンサートでは再現できない楽曲が多く、『リボルバー』発表後『リボルバー』の曲がビートルズのライヴで演奏されることはなかった。ライヴ・バンドからレコーディング・バンドへと変化する過渡期の作品。マッカートニーは、当時イギリスで流行していた前衛美術からインスピレーションを受け、本作収録曲でその影響が見られる。レコーディング・エンジニアのジェフ・エメリックが参加し、ボーカルをレスリー・スピーカーに通すことでドップラー効果を与えたほか、バスドラムにメンバーが着用していたセーターを詰め込んで録音、テープ・エフェクトを多用するなど、録音技術の革新が見られた。なお、ひとつの音源を微妙にずらして重ねるArtificial Double Tracking(=ADT)という技術が初めて導入された、ロック史の中でも重要な一枚でもある。なお、本作のレコーディング・セッションにてシングルとして発売された「ペイパーバック・ライター」や「レイン」も録音されたが、本作には未収録となった。余談、余談ともにチャート	A面 1.タックスマン 2:36 2.エリナー・リグビー2:11 3.アイム・オンリー・スリーピング2:58 4.ラヴ・ユー・トゥ 3:00 5.ヒア・ゼア・アンド・エヴリホエア2:29 6.イエロー・サブマリン 2:40 7.「シー・セッド・シー・セッド 2:39	B面 1.グッド・デイ・サンシャイン 2:08 2.アンド・ユア・バード・キャン・シング 2:02 3.フォー・ノー・ワン 2:03 4.ドクター・ロバー 2:14 5.アイ・ウォント・トゥ・テル・ユー 2:30 6.ゴット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ 2:31 7.トゥモロー・ネバー・ノウズ 3:00

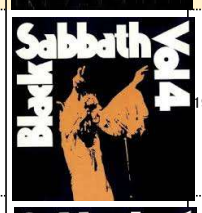
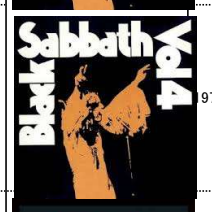
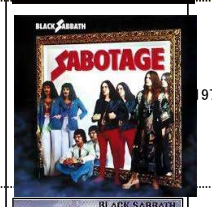
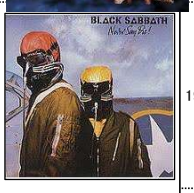
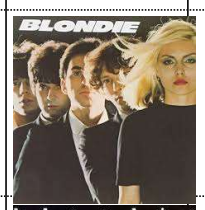
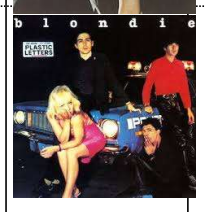
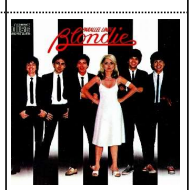
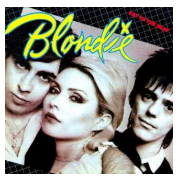
	BEATLES	リボルバー		1966	ブリティッシュビート60'S	CD	日本		
	BEATLES	リボルバー		1966年8月5日	ブリティッシュビート60'S	CD	日本		
	BEATLES	サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド		1967年6月1日	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	1967年6月1日に発売されたビートルズの8作目。マッカートニーは「架空のバンドのショー」というコンセプトを思いつき[19]、マル・エヴァンズとの会話から「サージェント・ペパー」という名前と人物像が決められた。本作のコンセプトは「架空のバンドのショー」であり、オープニングにバンドのテーマ曲「サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド」で始まり、続けて「ウィズ・ア・リトル・ヘルプ・フロム・マイ・フレンズ」が演奏され、最後にテーマ曲がもう一度演奏された後、アンコールの「ア・デイ・イン・ザ・ライフ」で幕を閉じるという構成になっている。ただし、上記のコンセプトはアルバムの全曲にわたって徹底されているわけではなく、レノンは「僕が『サージェント・ペパー』に提供した曲は、どれもサージェント・ペパーと彼のバンドというアイデアとは何も関係がない。でもそれが成立しているのは、僕らが成立しているからと言ったから、アルバムがそんな外見をしているからだ」と語っている。本作はビートルズ中期の実験的なサウンドの集大成として語られることが多く、リスナーから「サマー・オブ・ラブ」のサウンドトラックとして認識された。また、ビーチ・ボーイズの『ペット・サウンズ』に影響を受けたとされておりし	A面 1.サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド 2:02 2.ウィズ・ア・リトル・ヘルプ・フロム・マイ・フレンズズ 3:28 3.ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイアモンド 3:28 4.ゲッティング・ベター 2:48 5.フィクシング・ア・ホール 2:36 6.シーズ・リーヴィング・ホーム 3:35 7.ビーイング・フォー・ザ・ベネフィット・オブ・ミスター・カイト 2:37	アナログB面 1.ウィズイン・ユー・ウィズアウト・ユー 5:04 2.ホエン・アイム・シックスティ・フォー 2:37 3.ラヴリー・リタ 2:42 4.グッド・モーニング・グッド・モーニング 2:41 5.サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド 1:19 6.ア・デイ・イン・ザ・ライフ 5:39
	BEATLES	サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド		1967年6月1日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本		
	BEATLES	ザ・ビートルズ（ホワイト・アルバム）		1968年11月22日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1968年11月22日に発売されたビートルズの10作目。2枚組30曲入り、総収録時間は90分超というヴォリュームでかつ多種多様な楽曲が収録されており、現代音楽の全ての要素が詰まっていると評されるほど多彩な作品が集められている。前作までではみられたサイケデリックな雰囲気は薄くなり、バンド・サウンドを活かしたシンプルなアレンジが施された楽曲が多くなった。しかしながらソロ作品の集合体といった趣もあり、全体としてのまとまりに欠けると評されることもある。レコーディング開始当初はそれまでと同じ4トラック・レコーダーを2台連動させる方法で録音していたが、途中から8トラック・レコーダーが導入されたことにより、4人が同時に演奏する必要が無くなり、メンバーが個別[注釈 4]にレコーディングしたものが多くなる。また、プロデューサーのジョージ・マーティンは、『収録曲を絞って、1枚のアルバムで出した方がいい』という考えだったが、最終的にはメンバーの主張が押し通された。ジョージ・ハリスンの作品「ホワイル・マイ・ギター・ジェントリー・ウィープス」にはエリック・クラプトンがリードギターで参加した。また、レコーディングの期間中リンゴ・スターが一時レコーディングをボイコットしたエピソードがあったことから、ビートルズ崩壊の始まりと言われる作品でもある。イギリス「ミュージック・ウィーク」誌では、、計8週間第1位を獲得。アメリカの「ビルボード」誌では、計9週間第1位を獲得アメリカでの売り上げ枚数は2400万枚（1200万セット）で、歴代4位として認定されている。	A面 1.バック・イン・ザ・U.S.S.R2:43 2.ディア・ブルーデンス 3:56 3.グラス・オニオン 2:18 4.オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ 3:08 5.ワイルド・ハニー・パイ 0:52 6.ザ・コンティニューイング・ストーリー・オブ・バンガロー・ビル 3:14 7.ホワイル・マイ・ギター・ジェントリー・ウィープス 4:45 8.ハッピネス・イズ・ア・ウォーム・ガン 2:43 B面 9.マーサ・マイ・ディア 2:28 10.アイム・ソー・タイアード 2:03 11.ブラックバード 2:18 12.ピッギーズ 2:04 13.ロッキー・ラックーン 3:33 14.ドント・パス・ミー・パイ 3:51 15.ホワイ・ドント・ウィ・ドゥ・イット・イン・ザ・ロード 1:41 16.アイ・ウィル 1:46	C面 1.バースデイ 2:42 2.ヤー・ブルース 4:01 3.マザー・ネイチャーズ・サン 2:48 4.エブリボディーズ・ゴット・サムシング・トゥ・ハイド・エクセプト・ミー・アンド・マイ・モンキー 2:24 5.セクシー・セディー 3:15 6.ヘルター・スケルター 4:29 7.ロング・ロング・ロング 3:06 D面 8.レボリューション 4:15 9.ハニー・パイ 2:41 10.サボイ・トラッフル 2:54 11.クライ・ベイビー・クライ 3:02 12.レボリューション9 8:22 13.グッド・ナイト 3:13
	BEATLES	マジカル・ミステリー・ツアー		1967年11月27日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1967年に発売した2枚組EP及びLP（スタジオ・アルバム）で、同年に放送されたテレビ映画『マジカル・ミステリー・ツアー』のサウンドトラック盤である。アメリカでは1967年11月27日にLPとして、イギリスでは1967年12月8日に2枚組EPとして発売された。『マジカル・ミステリー・ツアー』のコンセプトは様々な「普通の」人々（ジョン・レノンの叔父、チャーリーを含む）が観光バスに乗り込んで旅行し、予測できない「マジカル」な冒険をするというものであった[10][11]。そうした制作コンセプトのため脚本とプロの映画監督無しという状況で撮影は行われたが、エプスタインの判断が無い結果として無秩序な映画制作となった。映画の評判は芳しいものではなく、イギリスではテレビで2回放送されたが、発表したことへの非難が集まった。また、アメリカではABCで放送するという予定がキャンセルされ、公には1976年まで見ることが出来なかった。映画とは対照的にサウンドトラックは非常に好意的に受け入れられ、9作目のオリジナル・アルバムの位置に順番付けられている。	アナログA面 1.マジカル・ミステリー・ツアー 2:48 2.フール・オン・ザ・ヒル 2:59 3.フライング 2:16 4.ブルー・ジェイ・ウェイ 3:54 5.ユア・マザー・シュッド・ノウ 2:33 6.アイ・アム・ザ・ウォルラス 4:35	B面 1.ハロー・グッドバイ 3:24 2.ストロベリー・フィールズ・フォーエバー 4:05 3.ペニー・レイン 3:00 4.ベイビー・ユーアー・ア・リッチ・マン 3:07 5.愛こそはすべて 3:57
	BEATLES	マジカル・ミステリー・ツアー		1967年11月27日	ブリティッシュビート60'S	CD	日本		
	BEATLES	イエロー・サブマリン		969年1月17日	ブリティッシュビート60'S	CD		1999年に完全版としてリニューアル公開されたアニメ映画『イエロー・サブマリン』のサウンドトラック・アルバム。1969年にリリースされたサントラ盤には、ビートルズのオリジナル曲とジョージ・マーティンによるオーケストラ曲がほぼ半数ずつ収録されていたが、ここには映画に使われたビートルズの演奏のみすべてが集められ、リミックスされ、デジタル・リマスタリングされて収録されている。	1.イエロー・サブマリン 2:38 2.ヘイ・ブルドッグ 3:14 3.エリナー・リグビー2:06 4.ラヴ・ユー・トゥ3:01 5.オール・トゥゲザー・ナウ 2:10 6.ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイアモンズ 3:28 7.嘘つき女 2:18 8.サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド 2:02	9.ウィズ・ア・リトル・ヘルプ・フロム・マイ・フレンズ 2:44 10.ベイビー・ユーアー・ア・リッチマン 3:03 11.オンリー・ア・ノーザン・ソング3:27 12.愛こそはすべて 3:57 13.ホエン・アイム・シックスティ・フォー 2:37 14.ひとりぼっちのあいつ 2:44 15.イッツ・オール・トゥ・マッチ 6:25
	BEATLES	イエローサブマリン オリジナルMFSLマスター		1969年1月17日	ブリティッシュビート60'S	CD	UK	ビートルズのアルバム「Yellow Submarine」の貴重な高音質オリジナルMFSLマスター音源を高品位マスタリングにより収録したUltradisc Ⅱ/Supersonic from Gain system盤。現行オフィシャルその他音源とはミックスも質感も全く異なる、高音質オリジナルマスター/高品位マスタリング音源ならではの、音に厚みと奥行きのある、鮮度と音圧感に優れた迫力ある非常に高品位な豊かで素晴らしい音質になっている。		
	BEATLES	アビイロード		1969年9月26日	ブリティッシュビート60'S	レコード	UK	1969年9月26日に発売されたビートルズ12作目。事実上頓挫した「ゲット・バック・セッション」の後にビートルズ解散が危惧される状況のなか制作されたアルバム。覇気のない「ゲット・バック・セッション」から一変し、ビートルズが「最後にアルバムを1つ制作しよう!」と覇気に満ちたアルバム制作を果たした。本作は、ブルース、ポップ、プログレッシブ・ロックなど様々なジャンルを取り入れたアルバムで、モーグ・シンセサイザーとレスリースピーカーが特徴的に使用されている。アルバムの評価としては、B面の大部分を占めるメドレーへの評価が非常に高い。このメドレーについてレノンは「A面は良いけどB面はちょっとね。あれはジャンク（ガラクタ）を集めただけだと思うよ」と述べているが、ポール・マッカートニーとリンゴ・スターは「B面のメドレーは僕らの最高傑作のひとつ」と発言している。マッカートニーは解散後のソロ・コンサートにおいてもメドレー「ゴールデン・スランバー～キャリー・ザット・ウェイト～ジ・エンド」をコンサート終盤にしばしば演奏している。イギリスの「ミュージック・ウィーク」誌では17週連続[3][4]、アメリカの「ビルボード」誌では11週連続1位を獲得。全世界で3100万枚以上の販売を記録。	A面 1.カム・トゥゲザー 4:20 2.サムシング 3:02 3.マックスウェルズ・シルヴァー・ハンマー 3:28 4.オー!ダーリン 3:27 5.オクトパス・ガーデン 2:51 6.アイ・ウォント・ユー 7:47	B面 1.ヒア・カムズ・ザ・サン 3:06 2.ビコーズ 2:46 3.ユー・ネヴァー・ギヴ・ミー・ユア・マネー 4:03 4.サン・キング 2:26 5.ミーン・ミスター・マスタード 1:06 6.ポリシーン・パン 1:13 7.シー・ケイム・イン・スルー・ザ・バスルーム・ウィンドー 1:59 8.ゴールデン・スランバー 1:31 9.キャリー・ザット・ウェイト 1:36 10.ジ・エンド 2:22 11.ハー・マジェスティ 0:25
	BEATLES	アビイロード		1969年9月26日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本		
	BEATLES	アビイロード		1969年9月26日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本		
	BEATLES	アビイロード		1969年9月26日	ブリティッシュビート60'S	CD	日本		
	BEATLES	ヘイ・ジュード		970年2月26日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1970年2月26日アメリカ発売／1970年4月21日日本発売 『ビルボード』誌全米アルバム・チャート最高位2位（4週）／トップ100在位25週 マルチ・プラチナディスク×3（＝300万枚／1991年12月26日認定） 『アビイ・ロード』と『レット・イット・ビー』の狭間の70年2月、キャピトルの編集アルバムに未収録だったシングル曲を集めて発売された、準ベスト盤的作品集。全10曲ながら、曲の選択範囲は64年の「キャント・バイ・ミー・ラヴ」から69年の「ジョンとヨーコのバラード」までと非常に広い。 この時期にはすでにモノ盤は市場から姿を消しており、ステレオ盤のみがリリースされた。解散が既成事実となりつつあった時期にリリースされたこともあり、初期プレスのレーベルに記されたアルバム・タイトルは企画時の仮題のまま『THE BEATLES AGAIN』と記されている。 日本では70年4月に発売。79年5月にはイギリス・ブレス盤も出回った。アメリカ編集アルバムがイギリスのカタログ入りしたのは76年の『マジカル・ミステリー・ツアー』以来2枚目で、「準オリジナル・アルバム」と呼んでもいいほどの人気ぶりだったことがうかがえる。	A面 1.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:12 2.恋する二人 2:43 3.ベイバー・バック・ライター 2:19 4.レイン 3:02 5.レディ・マドンナ 2:18 6.レボリューション 3:25	B面 7.ヘイ・ジュード 7:08 8.オールド・ブラウン・シュー :18 9.ドント・レット・ミー・ダウン 3:35 10.ジョンとヨーコのバラード 3:00
	BEATLES	レットイットビー		1970年5月8日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	ビートルズが事実上解散してから約1か月後の1970年5月8日に発売された作品。同名のドキュメンタリー映画のサウンドトラックとなっており、ビートルズが事実上解散してから約1か月後の1970年5月8日に発売された。全英アルバムチャートやBillboard 200をはじめとした多くのアルバムチャートで第1位を獲得。アルバム『アビイ・ロード』制作前の1969年1月に行われたレコーディング・セッションを基に制作が行なわれ、アルバム『ゲット・バック』（Get Back）として発売するにあたり、エンジニアのグリン・ジョンズによって1969年5月と1970年1月にミキシング作業が行なわれたが、メンバーはいずれも却下。その後セッションのテープを委託されたフィル・スペクターによって編集が行なわれ、『レット・イット・ビー』として仕上げられた。 1969年1月2日、いわゆる「ゲット・バック・セッション」が始まった。セッション開始当初はメンバーも多少なりとも手ごたえを感じていた様子だったが、セッションが進むにつれて慣れない映画スタジオでの作業、公開コンサートまで時間が短いこと、メンバー以外の人間がいる中で常に撮影されていることなど、緊張と不満が原因となり軋轢が生まれ、覇気がなくなっていった。7日にはマッカートニーとジョージ・ハリスンが対立し、10日にはジョン・レノンとの衝突が原因でハリスンがセッションを放棄するという事件が起こる。	A面 1.トゥ・オブ・アス 3:36 2.ディグ・ア・ポニー 3:54 3.アクロス・ザ・ユニバース 3:48 4.アイ・ミー・マイン 2:26 5.ディグ・イット 0:50 6.レット・イット・ビー 4:03 7.マギー・メイ 0:40	B面 1.アイヴ・ガッタ・フィーリング 3:37 2.ワン・アフター・909 2:54 3.ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード 3:38 4.フォー・ユー・ブルー 2:32 5.ゲット・バック 3:09

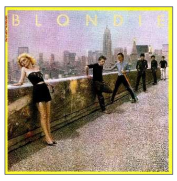
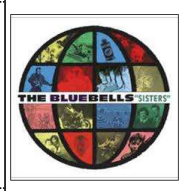
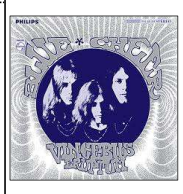
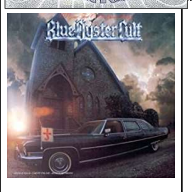
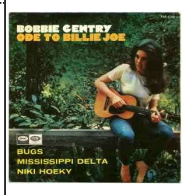
	BEATLES	レットイットビー		1970年5月8日	ブリティッシュビート60'S	CD	日本			
	BEATLES	レット・イット・ビー…　ネイキッド		1970年5月8日	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	アルバム『レット・イット・ビー』のオリジナル・ヴァージョンが30年以上の時を越え、ついに登場。フィル・スペクターの手によるオーケストラ、コーラスや、サウンド・エフェクトなどをそぎ落とし、ビートルズの演奏の部分だけを残しリミックスされている。これによって、ザ・ビートルズがいかに素晴らしい演奏をしていたかが再確認できる。 メンバーの会話、「ディグ・イット」「マギー・メイ」をカットし、「ドント・レット・ミー・ダウン」を新たに収録。 1970年にリリースされた『レット・イット・ビー』とは異なる内容の全11曲を収録。 CDに封入されるブックレットには、レコーディング・セッションの歴史的な写真、そして1970年のアルバム・リリース当時のオリジナル・ブックレットに掲載されていたバンドの会話が挿入される。	1ゲット・バック 2:34 2. ディグ・ア・ポニー 3:38 3. フォー・ユー・ブルー 2:27 4. ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード 3:34 5. トゥ・オブ・アス 3:20 6. アイヴ・ガッタ・フィーリング 3:30 7. ワン・アフター・909 2:44	8. ドント・レット・ミー・ダウン 3:18 9. アイ・ミー・マイン 2:20 10. アクロス・ザ・ユニバース 3:38 11. レット・イット・ビー 3:53 別CD 1. フライ・オン・ザ・ウォール 21:56
	BEATLES	オールディーズ		966年12月10日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本			
	BEATLES	ザ・ビートルズ・スーパー・ライヴ!		1977年5月6日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1964年8月と1965年8月にロサンゼルスのハリウッド・ボウルで行われたライブ演奏が収録された。本作はビートルズの初の公式ライブ・アルバムとなっている。当初は録音状態が悪く、発売されず蔵入りになった。その後1971年に、当時ジョン・レノンやジョージ・ハリスンのアルバムをプロデュースしていたフィル・スペクターへ、アルバム完成をさせるべく検証のためにマスターテープが渡されたが、この時スペクターが作業結果に満足しなかったか、そもそもテープすら試聴されなかったのか真相は不明のまま、発売するまでには至らず、更に6年もの間放置された。その後、デビュー直後のビートルズが出演したハンブルクのスタークラブに於いて一般家庭用のテープレコーダーで録音された音質の悪いライブ盤『デビュー! ビートルズ・ライヴ'62』が発売される事を知ったキャピトル・レコードの社長バスカー・メノンは、再びキャピトルの倉庫からマスターテープを取り寄せ、ジョージ・マーティンにリプロデュースを依頼した。マーティンはエンジニアのジェフ・エメリックとともに、3トラックテープをマルチ・トラックに移し、両日のベスト・トラックを選び出してリミックス、フィルタリングを施してサウンドを整えた。作業はロンドン	アナログA面 1.ツイスト・アンド・シャウ 1:33 2.シーズ・ア・ウーマン 2:53 3.ディジー・ミス・リジー 3:39 4.涙の乗車券 2:51 5.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:14 6.今日の誓い(Things We Said Today 2:18 7.ロール・オーバー・ベートーヴェン 2:53	アナログB面 1.ボーイズ 2:08 2.ア・ハード・デイズ・ナイト 3:13 3.ヘルプ! 2:46 4.オール・マイ・ラヴィング 2:15 5.シー・ラヴズ・ユー 2:31 6.ロング・トール・サリー 2:18
	BEATLES	ザ・ビートルズ 1962年～1966年 （赤盤）		973年4月19日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1973年4月19日にアナログLP2枚組で発売されたビートルズのベスト・アルバム。本来『AΩ（ビートルズ・アルファ・オメガ）』という4枚組120曲入りの海賊盤コンピレーション・アルバムが出回ったことへの対抗措置として企画されたもの。その外見から「赤盤」の愛称で親しまれている。1967年から1970年までの代表曲を集めた『ザ・ビートルズ1967年～1970年』（通称『青盤』）と同時にリリースされた。デビュー・シングルのA面「ラヴ・ミー・ドゥ」（1962年）からアルバム『リボルバー』（1966年）までの楽曲で構成されている。発売当初、ジョージ・ハリスンが選曲を行ったとされたが、実際は当時のビートルズのマネージャーであるアラン・クレインが手掛けた。イギリスでは最高位第3位を獲得。アメリカでも最高位第3位。アメリカだけで700万セット以上のセールスを記録し、全世界では2,000万セット以上をセールス。	A面 1.ラヴ・ミー・ドゥ 2:19 2.プリーズ・プリーズ・ミー 2:01 3.フロム・ミー・トゥ・ユー 1:57 4.シー・ラヴズ・ユー 2:22 5.抱きしめたい 2:26 6.オール・マイ・ラヴィング 2:09 7.キャント・バイ・ミー・ラヴ 2:13 B面 1.ハード・デイズ・ナイト 2:34 2.アンド・アイ・ラヴ・ハー 2:31 3.エイト・デイズ・ア・ウィーク 2:44 4.アイ・フィール・ファイン 2:20 5.涙の乗車券 3:11 6.イエスタデイ 2:05	C面 1.ヘルプ 2:20 2.悲しみはぶっとばせ 2:11 3.恋を抱きしめよう 2:16 4.デイ・トリッパー 2:49 5.ドライヴ・マイ・カー 2:28 6.ノルウェーの森 2:05 D面 1.ひとりぼっちのあいつ 2:44 2.ミッシェル 2:42 3.イン・マイ・ライフ 2:27 4.ガール 2:31 5.ペイパーバック・ライター 2:19 6.エリナー・リグビー 2:08 7.イエロー・サブマリン 2:39
	BEATLES	ザ・ビートルズ 1967年～1970年 （青盤）		973年4月19日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	1973年4月19日にアナログLP2枚組で発売されたビートルズのベスト・アルバム。その外見から「青盤」の愛称で親しまれている。アルバムでは『サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド』（1967年）からラスト・アルバムの『レット・イット・ビー』（1970年）までの楽曲で構成されている。イギリスの全英アルバムチャートでは最高位第2位を獲得[3]。アメリカのBillboard 200では最高位第1位を獲得。アメリカだけで800万セット以上のセールスを記録し、全世界では2,100万セット以上のセールスを記録している。メンバーの成長と共に音楽性も変化し、ストリングスやブラスバンドを大胆に取り入れるなど、実験的な曲も目立つ。サイケデリック志向の作品も多く、ジョン・レノンの作品は複雑で文学的なものやメッセージ性の強いものが増えている。ポール・マッカートニーも実体験をもとにした歌や作家的な曲作りに磨きがかかっている。また、ジョージ・ハリスンの作品も4曲収録されており、第3のソングライターとしての実力を見せている。コンサート・ツアーを休止してレコーディングに専念して制作しただけあって、初期とは異なる作風・完成度を見せる楽曲が並んでいる。	A面 1.ストロベリー・フィールズ・フォーエバー 4:08 2.ペニー・レイン 3:01 3.サージェント・ペパーズ・ロンリー・ハーツ・クラブ・バンド 2:02 4.ウィズ・ア・リトル・ヘルプ・フロム・マイ・フレンズ 2:44 5.ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイアモンズ 3:29 6.ア・デイ・イン・ザ・ライフ 5:07 7.愛こそはすべて 3:48 B面 1.アイ・アム・ザ・ウォルラス 4:35 2.ハロー・グッドバイ 3:29 3.フール・オン・ザ・ヒル 3:00 4.マジカル・ミステリー・ツアー 2:49 5.レディ・マドンナ 2:18 6.ヘイ・ジュード 7:11	C面 1.バック・イン・ザ・U.S.S.R. 2:46 2.ホワイル・マイ・ギター・ジェントリー・ウィープス 4:46 3.オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ 3:11 4.ゲット・バック 3:12 5.ドント・レット・ミー・ダウン 3:35 6.ジョンとヨーコのバラード 3:01 7.オールド・ブラウン・シュー 3:21 D面 1.ヒア・カムズ・ザ・サン 3:05 2.カム・トゥゲザー 4:19 3.サムシング 3:03 4.オクトパス・ガーデン 2:52 5.レット・イット・ビー 3:52 6.アクロス・ザ・ユニバース 3:49 7.ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード 3:40
	BEATLES	ロックンロール・ミュージック		1976年6月11日	ブリティッシュビート60'S	レコード	日本	ビートルズのコンピレーション・アルバム（アナログLP2枚組）である。アメリカでは1976年6月4日にキャピトル・レコード（規格品番：SKBO-11537）から、イギリスでは4日後の6月11日にパーロフォン（規格品番：PCSP-719）から発売された[2]。ビートルズの楽曲からロックンロール・ナンバーを集めた作品となっている。ビートルズのロックンロールのルーツおよびそのジャンルへの貢献を捉えることを目的に発売された[3]。本作には「ドライヴ・マイ・カー」、「レボリューション」、「ゲット・バック」のほか、他アーティストのカバー曲も含まれている。シングル『ヘルプ!』のB面曲「アイム・ダウン」が、本作のアルバム初収録となる。また、発売から4年後の1980年10月には、『ロックン・ロール・ミュージック Vol.1』、『ロックン・ロール・ミュージック Vol.2』の2作に分けて発売された。これらのジャケットは1964年にビートルズがアメリカ初上陸した際の情景をモチーフにしたイラストに変更されている 全英アルバムチャートでは最高位11位、Billboard 200では最高位4位を獲得した。現在はビートルズのカタログから存在が抹消されている。	A面 1.ツイスト・アンド・シャウ 2:31 2.アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア 2:56 3.ユー・キャント・ドゥ・ザット 2:38 4.アイ・ウォナ・ビー・ユア・マン 1:59 5.アイ・コール・ユア・ネーム 2:09 6.ボーイズ 2:28 7.ロング・トール・サリー 2:00 B面 1.ロック・アンド・ロール・ミュージック 2:30 2.スロウ・ダウン 2:54 3.カンサス・シティ / ヘイ・ヘイ・ヘイ・ヘイ 2:35 4.マネー 2:47 5.バッド・ボーイ 2:20 6.マッチ・ボックス 2:28 7.ロール・オーバー・ベートーヴェン 2:00	C面 1.ディジー・ミス・リジー 2:53 2.エニイ・タイム・アット・オール 2:13 3.ドライヴ・マイ・カー 2:29 4.みんないい娘 2:26 5.ザ・ナイト・ビフォア 2:37 6.アイム・ダウン 2:32 7.レボリューション 3:25 D面 1.バック・イン・ザ・U.S.S.R 2:44 2.ヘルター・スケルター 4:30 3.タックスマン 2:39 4.ゴット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ 2:31 5.ヘイ・ブルドッグ 3:11 6.バースデイ 2:43 7.ゲット・バック 3:09
	BEATLES	パストマスター1		1988	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	オリジナル・アルバム未収録のシングル曲やEP曲等を全て収録した二枚組編集盤。 オリジナル・アルバムに収録されなかったシングル曲やEP曲等を集めた2枚組編集盤。ドイツ語ヴァージョン他レア音源も収録。	1.ラヴ・ミー・ドゥ 2.フロム・ミー・トゥ・ユー 3.サンキュー・ガール 4.シー・ラヴズ・ユー 5.アイル・ゲット・ユー 6. 抱きしめたい 7. ジス・ボーイ 8. 抱きしめたい(ドイツ語版) 9. シー・ラヴズ・ユー(ドイツ語版)	10. ロング・トール・サリー 11.アイ・コール・ユア・ネーム 12.スロウ・ダウン 13.マッチボックス 14.アイ・フィール・ファイン 15.シーズ・ア・ウーマン 16.バッド・ボーイ 17.イエス・イット・イズ 18.アイム・ダウン
	BEATLES	パストマスター2		1988	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	1965年12月発売の両A面シングル「恋を抱きしめよう」「デイ・トリッパー」から、1970年のイギリス・ラスト・シングル「レイト・イット・ビー（シングル・ヴァージョン）」「ユー・ノウ・マイ・ネイム」まで全15曲収録!	1.デイ・トリッパー 2.恋を抱きしめよう 3.ペイパーバック・ライター 4.レイン 5.レディ・マドンナ 6.ジ・インナー・ライト 7.ヘイ・ジュード	8.レボリューション 9.ゲット・バック 10.ドント・レット・ミー・ダウン 11.ジョンとヨーコのバラード 12.オールド・ブラウン・シュー 13.アクロス・ザ・ユニバース 14.レット・イット・ビー 15.ユー・ノウ・マイ・ネーム
	BEATLES	ビートルズ 1		2000	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	ビートルズのシングル中、アメリカのビルボード誌、もしくはイギリスのレコードリテイラー誌のヒットチャートで1位を獲得した曲は全部で27曲！その27曲を1枚のCDで聴けるようにまとめたのがこのアルバムだ。 　当然、定番中の定番曲が次々と飛び出してくるので、聴いていて楽しくないわけがない。24ビットデジタルリマスターされた音も聴きどころで、音質にやや難ありだった初期のヒット曲も実にクリアな音で楽しめる。	1ラヴ・ミー・ドゥ 2フロム・ミー・トゥ・ユー 3シー・ラヴズ・ユー 4抱きしめたい 5キャント・バイ・ミー・ラヴ 6ビートルズがやって来るヤァ！ヤァ！ヤァ！ 7アイ・フィール・ファイン 8エイト・デイズ・ア・ウィーク 9ティケット・トゥ・ライド(涙の乗車券) 10ヘルプ 11イエスタデイ 12デイ・トリッパー 13恋を抱きしめよう 14ペイパーバック・ライター 15イエロー・サブマリン	16エリナー・リグビー 17ペニー・レイン 18オール・ユー・ニード・イズ・ラヴ(愛こそはすべて) 19ハロー・グッドバイ 20レディ・マドンナ 21ヘイ・ジュード 22ゲット・バック 23ジョンとヨーコのバラード 24サムシング 25カム・トゥゲザー 26レット・イット・ビー 27ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード
	BEATLES	アンソロジー(1)		1995/11/22	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	ビートルズの偉大な歴史を振り返る一大プロジェクトの一環として、95年にリリースされた2枚組3セットの第1弾。ジョン・レノンが遺したデモテープに、ほかの3人が手を加える形で実現した25年ぶりの新曲DISC1<1>が、発売当初話題を呼んだ。 　しかし、本当の目玉は、CDのキャパいっぱいに詰め込まれたその他のレアトラックだ。58年にビートルズの前身クオリーメンが自主制作したレコードに始まり、人気絶頂期の64年までの彼らの足どりを音でたどれる伝記的1枚。	1フリー・アズ・ア・バード 2スピーチ:ジョン・レノン 3ザット・ビー・ザ・デイ (モノーラル録音) 4イン・スパイト・オブ・オール・ザ・デインジャー (モノーラル録音) 5スピーチ:ポール・マッカートニー 6ハレルヤ、アイ・ラヴ・ハー・ソー (モノーラル録音) 7ユール・ビー・マイン (モノーラル録音) 8カイエンヌ (モノーラル録音)	
	BEATLES	アンソロジー 2		2013/11/6	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	『ヘルプ！』から『マジカル・ミステリー・ツアー』までの時代のセッションで録音された未発表曲や別テイク、ライヴを中心に収録したアルバム。	1リアル・ラヴ 2イエス・イット・イズ 3アイム・ダウン 4悲しみはぶっとばせ (MONO) 5イフ・ユーヴ・ガット・トラブル 6ザット・ミーンズ・ア・ロット 7イエスタデイ 8イッツ・オンリー・ラヴ (MONO) 9アイ・フィール・ファイン (MONO) 10涙の乗車券 (MONO)	
	BEATLES	アンソロジー 3		2013/11/6	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	俗に“ホワイト・アルバム”と呼ばれる『The Beatles』から解散に至るまでの末期ビートルズはギクシャクしていたが、そんな中でも彼らは驚くべき曲をいくつか生み出し、ますますその非凡さを際立たせていった。 ビートルズの業績を振り返るアンソロジー・シリーズ第3弾。1968年~1970年の解散まで、。『ホワイト・アルバム』から『アビイ・ロード』『レット・イット・ビー』に至る音源を年代順に収録。「ピコーズ」の歌唱部分のみのテイクなど、楽曲の成立過程が推測できる未発表音源を含む。	1ア・ビギニング 2ハッピネス・イズ・ア・ウォーム・ガン (MONO) 3ヘルター・スケルター (MONO) 4ミーン・ミスター・マスタード 5ポリシーン・パン 6グラス・オニオン 7ジャンク 8ピッギーズ (MONO) 9ハニー・パイ 10ドント・パス・ミー・バイ	
	BEATLES	ライヴ!! アット・ザ・BBC		1994年12月	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	「ア・ハード・デイズ・ナイト」「涙の乗車券」「オール・マイ・ラヴィング」と言ったおなじみの楽曲から、レノン＝マッカートニーのオリジナル曲「アイル・ビー・オン・マイウェイ」の珍しいパフォーマンスまで、60年代にはレコード化さえなかったお宝音源が30曲収録されている。●1962年～1965年、英国BBC放送に残したスタジオ・ライヴ音源からベスト選曲56曲（収録音源69曲）を収録!!　エグゼクティヴ・プロデューサーにジョージ・マーティン、“ソニック・ソリューション”システムによるデジタル・リマスター音源。BBCのDJとメンバーとのトークも13ヶ所に収録。	1ビートルズ・グリーティングス(Speech) 2フロム・アス・トゥ・ユー 3ライディング・オン・ア・バス(Speech) 4アイ・ゴット・ア・ウーマン 5トゥ・マッチ・モンキー・ビジネス 6キープ・ユア・ハンズ・オフ・マイ・ベイビー 7アイル・ビー・オン・マイ・ウェイ / I'll Be On My Way 8	

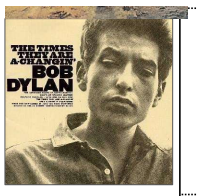
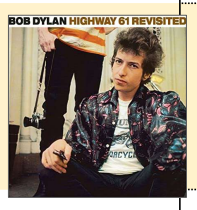
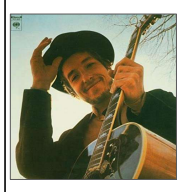
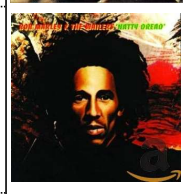
	BEATLES	オン・エア~ライヴ・アット・ザ・BBC Vol.2			ブリティッシュビート60'S	CD	日本	公式未発表曲＆音源を含むBBCライヴの第2集。ビートルズがライヴ・バンドとしてもっとも輝いていた60年代前半に英国BBCラジオで演奏した貴重な音源をCD化！ ロック史上屈指のエネルギッシュでパワーみなぎるパフォーマンスはビートルズのライヴ・バンドとしての類まれなる実力を証明してくれます。また、番組司会者とのユニークで時にいたずらっぽいやりとりは、彼等が旧来の型にとらわれない自由な発想で音楽、さらには社会までも変えてしまう存在となったことを再認識させてくれます。若いエネルギーが放つまぶしいほどの輝きに満ちたまるで宝石のような瑞々しい音源が、半世紀の時を経てさらに輝きを増し登場します。1音1音の動きがリアルに感じとれるライヴ・レコーディングは、自立的な響きの中に、どんなアイディアも消化してしまう音楽の激しい細胞分裂の瞬間を留めている。そのぶん、どんなに聴き慣れていても音楽は瑞々しい清新さを纏って耳に飛び込んでくる。	1アンド・ヒア・ウィ・アー・アゲイン（メンバー会話）（モノラル録音） 2ワーズ・オブ・ラヴ（モノラル録音） 3ハウ・アバウト・イット、ゴージャス?（メンバー会話）（モノラル録音） 4ドゥ・ユー・ウォント・トゥ・ノウ・ア・シークレット（モノラル録音） 5ルシール（モノラル録音） 6ヘイ、ポール...（メンバー会話）（モノラル録音） 7アンナ（モノラル録音） 8ハロー、リトル・ガール（メンバー会話）（モノラル録音）	
	BEATLES	ライヴ・アット・スタークラブ・イン・ハンブルグ		2000	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	1962年のデビューシングルLove me do発表の2ヶ月後の12月下旬、ドイツ、ハンブルグのスタークラブでの実況録音。家庭用のレコーダーの無指向性マイク1本で録られているので、音は遠くあまり良くありません。しかしパンクバンドとしての荒々しく迫力のある演奏はしっかりと記録され、ビートルズのアイドルとしてでは無く、ロッカーとしての本質が収録されている貴重な録音。いまだに権利関係がはっきりせず、各社からゲリラ的に発売されている本盤ですが、正しい曲順完全ノーカット盤の発表がまたれる歴史的録音です。ただ本盤制作のリマスター時に40分ほどのテープを駄目にしてしまったとの話もあり、もしそれが本当なら悲しいことです。本盤に収録されている正式レコーディング前のビートルズナンバーはI saw her standing there/Roll over beethoven/Twist and shout/Mr moonlight/Taste of honey/Kansas city/Ask me why/Everybodys trying to be my baby/Match box/Longtall sallyです。欠点としては全体的に少しピッチが早いのと12曲目のHully gullyはホーンセクションが入っているのでビートルズでは無さそうです。結論、、、CDのアンソロジーには収録されず映像版でのみ断片が紹介された貴重な録音、マニアは避けて通れません。	1. Intro 2. I Saw Her Standing There 3. Roll Over Beethoven 4. Hippy, Hippy Shake 5. Sweet Little 16 6. Lend Me Your Comb 7. Your Feets Too Big 8. Twist & Shout 9. Mr. Moonlight 10. A Taste of Honey 11. Kansas City Hey Hey Hey 12. Hully Gully	13. Ask Me Why 14. Red Sails in the Sunset 15. Everybody's Trying To Be My Baby 16. Matchbox 17. I'm Talking About You 18. Shimmy Shake 19. Long Tall Sally 20. I Remember You 21. Nothin Shaking 22. Falling In Love Again 23. Little Sheila 24. To Know Her is To Love Her
	BEATLES				ブリティッシュビート61'S	CD		アメリカで独自編集されたアルバム「イエスタデイ・アンド・トゥデイ」の初期ジャケット。このアルバムには「4人はアイドル」「ラバー・ソウル」「リボルバー」という3枚のアルバムと、シングル「恋を抱きしめよう／デイ・トリッパー」の収録曲が混在していた。このジャケットのデザインが白衣を着たメンバー4人が笑いながら手にしているのは、バラバラになった赤ちゃんの人形と動物の肉片でグロテスクなデザインで回収された。（別名ブッチャー（精肉店）カバーといい。ここから取られた。） 1966年に75万枚がプレスされたが、事前配布された試聴盤を見たDJや販売店からクレームが殺到。発売予定日の5日前に当たる6月10日、販売元のキャピトル・レコードが自主回収を通知した。 現在残っているのはフライング販売されたり、回収要請に応じなかった店で売られたりした物のみ。実際に何枚が流通したのかは不明だ。すでに絶大な人気を誇っていたロックバンドが、なぜこんなグロテスクな写真を採用したのか。たぶん理由は、「この時期、ビートルズはアイドル的な存在として、特に女性層の人気がすごかった。しかし、4年近くもずっと模範的な青年像を演じることに苦痛を感じ始めていた		
	BEATLES	ノット・ギルティ			ブリティッシュビート62'S	CD		SESSIONS』がらみの流出音源をもとに制作されたものだろう。同時期にリリースされた『NOT FOR SALE』とともに大きな反響を呼んだ1枚だった。ジョージの未発表曲であったタイトル曲は存在は知られていて、以前紹介した『INDIAN ROPE TRICK』ではソング・リストに加えられてはいたものの無関係の音源が収録されていた。ここで初めてしっかりとしたビートルズ・バージョンがリリースされたわけだ。でも内容はけっこうお粗末で、今さらという感じのフェイク・レア音源が入っていたりする。タイトル曲とB面の‘AROUND THE BEATLES’の歓声無しのライブ・マスターの衝撃度を考えれば、赦してもいいかな。		
	BEATLES	ゲット・バック（ブートレグ）		1993	ブリティッシュビート61'S	CD	US	ブートレグ。	this CD is a DIGITAL CLONE of Ultra Rare Trax Vol.4 CD by the label The Swingin' Pig. Apple Studios, London, United Kingdom. 27th January 1969: 1. One After 909 3:17 EMI Studios, London, United Kingdom. 11th February 1963: 2. A Taste Of Honey (take 7) 2:17 EMI Studios, London, United Kingdom. 18th October 1964: 3. I Feel Fine (take 9) 2:40	
	BEAT	ミート・ザ・ビート		1979	ニューウェイブ	レコード	US		**Side A** 1. Rock N Roll Girl 2:16 2. I Don't Fit In 2:46 3. Different Kind Of Girl 3:23 4. Don't Wait Up For Me 3:02 5. You Won't Be Happy 2:20 6. Walking Out On Love 1:44	**Side B** 1. Work-A-Day World 2:54 2. U.S.A. 2:12 3. Let Me Into Your Life 2:35 4. Working Too Hard 1:57 5. You And I 2:47 6. Look But Don't Touch 3:09
	BE BOP DELUXE	モダン・ミュージック			ニューウェイブ	レコード	UK	76年発表の4作目。前作でギター・バンドとしてのビ・バップ・デラックスは終わり、本作からはトータルなバンド・サウンドを目指す・・・という発言からも分かるように本作はアルバムとしての完成度を更に意識したものになっており、時に凄まじいギター・ソロで引っぱっていた部分をストリングス・マシンやアコギ、他の楽器のバランスで置き換えているようだ。よってややギターのソロは減ったが、後半7～12.のモダン・ミュージック・メドレーなどを含めて流れを意識したアルバム作りがされているようだ。ネルソンのヴォーカルも非常に穏やかでマイルドな印象。まとまりが良い分、前作ほどのインパクトはないが、楽曲のクオリティはいつも通り極上であり、滑らかな曲展開を考えると本作が彼らの代表作というのは妥当だろう。 1．は彼らにしては珍しいアコギを導入したフォーク・ロックっぽい佳曲。シンプルだが、それだけにメロディの良さが伝わりやすい。3．はカリブソの風味も加えたポップな曲。1．でも聞かれたジェット・サウンドが焼かい い。5．もメロディアスなフォーク・ロック調の曲。美しいコーラス・ハーモニーが聞き物。10cc	**Side A** 1. バビロンの幽閉者 2. 月光に寄せる想い 3. 妖しき月の女神 4. 魅せられし者の運命 5. 黄金の虹の彼方に 6. 情念の残り火 7. モダン・ミュージック	**Side B** 1. 月影の舞踏会 2. ハネムーンは火星で 3. 虚飾世界への訣別 4. ヒューマノイド・サム 5. モダン・ミュージック 6. 恋人たちの密会 7. ターミナル街の出来事 8. ミュージックは魔法の調べ
	BEE GEES	ビー・ジーズ・ファースト		1967	ポップス	レコード	日本	ビー・ジーズの記念すべきファーストにして、永遠に色あせることがない名作！バリー、ロビン、モーリスのギブ三兄弟によるポップ・グループ、ビー・ジーズが、オーストラリアでの活動を経てイギリスに帰国し、ポリドール・レコードと契約して67年に発表したファースト・アルバム。初期の彼らでしか味わえない、瑞々しくて愁いのあるメロディ・ラインと、兄弟ならではの美しいハーモニー・ワールドを存分に味わうことができる名作であり、この世界観が色あせることは永遠にないだろう。ラジオから聞こえてくるビージーズの「ニューヨーク炭坑の悲劇」を「ビートルズだと思った」人がたくさんいたそうです。しかし、アルバム全体を聞けば、誰でもビージーズの個性に気づくでしょう。スケールの大きいロック「ターン・オブ・ザ・センチュリー」マイナーな佳曲「ワン・ミニット・ウーマン」バリーがオーティス・レディングのために作り、世界中の歌手から歌われている「ラヴ・サムバディ」ニーナ・シモンも歌った「プリーズ・リード・ミー」もろにビートルズの影響を受けた「ライオン・ハーテッド・マン」「想い出の赤い椅子」「イン・マイ・オウン・タイム」と、一度は聞いてほしいポップスの金字塔的なアルバムです。独特の美しいメロディとハーモ	**Side A** 1. Turn Of The Century 2. Holiday（全米16位） 3. Red Chair, Fade Away／想い出の赤い椅子 4. One Minute Woman 5. In My Own Time 6. ライオン・ハーテッド・マン 7. ロイヤル・アカデミー・アーツのクレイズ・フィントン	**Side B** 1. ニューヨーク炭鉱の悲劇（全米14位、全英12位） 2. Cucumber Castle 3. ラブ・サムバディ（全米17位、全英41位） 4. I Close My Eyes／瞳を閉じて 5. I Can't See Nobody／誰も見えない 6. Please Read Me 7. Close Another Door
	BEE GEES	チルドレン・オブ・ザ・ワールド		1976年	ポップス	レコード	日本	1976年リリース。『ホリゾンタル』から『ライフ・イン・ア・ティン・キャン』までアリフマーディンのプロデュースだったが、起用が叶わず、カール・リチャードソンとアルビー・ガルートンとの共同プロデュースで本作を作り上げた。いっきにソウルミュージックへ脱皮した記念すべきアルバムでかえってプロデューサーがアリフマーディンで無かったのが好結果か？前作はまだ旧来のイメージも感じられたが、本作は振り切ってブラック・ミュージックに正面から取り組んだ感じだ。数あるアルバムの中で、最も黒いのが本作だ。バリーのファルセットは益々磨きがかかって文句を言わせない。当然、リード・ヴォーカルも彼の独壇場となっていく。ダンス・ビートを多彩に取り入れ新しいビー・ジーズ・サウンドを確立した作品。全米No. 1シングル「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」、同3位「偽りの愛」収録。全米8位。	**Side A** 1. ユー・シュッド・ビー・ダンシング 2. 愛の侵入者 3. 偽りの愛 4. 恋人同士 5. 悲しませることなんてできないよ	**Side B** 1. ブーギ・チャイルド 2. ラヴ・ミー 3. サブウェイ 4. 返りこぬ日々 5. チルドレン・オブ・ザ・ワールド
	BEE GEES	失われた愛の世界		1979	ポップス	レコード	日本	Bee Geesが1979年にリリースした15枚目（1965年のマイナー・デビュー時から通算して）のスタジオ・アルバム。全英・全米アルバムチャートの第1位を獲得しシングルカットされた3曲も全米第1位を獲得し前作アルバム『Saturday Night Fever』から続く連続第1位の記録を『6曲』に伸ばしました。全米第1位を獲得した3曲『Too Much Heaven：失われた愛の世界』『Tragedy：哀愁のトラジディ』『Love You Inside Out』以外にも秀逸な曲が有ります。アルバムタイトル曲になっている楽曲『Spirits（Having Flown）』、美しいバラードの楽曲『Until』等です。アルバム全体としてもまとまりがあり最高傑作。意外にもビージーズのアルバムの中で唯一、英米両国で第1位を獲得したレコードと言うのも以外。アップテンポな曲、優しい曲ありと70年代のビージーズを楽しめる。	**Side A** 1. 哀愁のトラジディ 2. 失われた愛の世界 3. ラヴ・ユー・インサイド・アウト 4. リーチング・アウト 5. 愛のパラダイス	**Side B** 1. 愛の祈り 2. ストップ 3. リヴィング・トゥゲザー 4. アイム・サティスファイド 5. アンティル
	BEE GEES	ベスト・コレクション / my world		1972	ポップス	レコード	日本		**Disc 1 Side A** 1,MASSACHUSETTS（マサチューセッツ） 2,NEW YORK MINING DISASTER（ニューヨーク炭鉱の悲劇） 3,TURN OF THE CENTURY 4,WORLD 5,WORDS 6,TO LOVE SOMEBODY **Side 2** 1,MELODY FAIR 2,I.O.I.O. 3,I STARTED A JOKE 4,DON'T FORGET TO REMEMBER（想い出を胸に） 5,HOLIDAY 6,FIRST OF MAY（若葉の頃）	**Disc 2 Side A** 1,IN THE MORNING 2,LONELY DAYS 3,COUNTRY WOMAN 4,TWO YEARS ON 5,MAN FOR ALL SEASONS（恋のシーズン） 6,DON'T WANNA LIVE INSide MYSELF（過ぎ去りし愛の夢） **Side B** 1,MY WOELD 2,ISRAEL 3,TRAFALGAR 4,LION IN WINTER 5,一テルローに戻ろう 6,傷心の日々
	BEE GEES	サタデイ・ナイト・フィーバー		1977	ポップス	レコード	UK	1977年に公開され、ディスコ・ムーブメントの象徴的な作品となった映画『サタデー・ナイト・フィーバー』。映画とともに大ヒットしたサウンド・トラック。すでに、ディスコ・フレイバーのナンバーでヒットを飛ばし始めていたビージーズの音楽が大フィーチャーされた映画『サタデー・ナイト・フィーバー』。そしてそのサウンド・トラックは、ビージーズの6曲のナンバーを収録した彼らの準オリジナル・アルバムともいえる作品であり、このアルバムに収録された「愛はきらめきの中に」(1stシングル)を皮切りにビージーズはシングル6枚連続で全米No.1という偉業を達成する。そして2ndシングル「ステイン・アライヴ」そして3rdシングルの「恋のナイト・フィーバー」という全米No.1を獲得した3枚に加えて、すでに全米No.1に輝いていた、「ジャイブ・トーキン」「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」の2曲も含む文字通りビージーズのディスコ黄金時代の到来を象徴した超強力なアルバムがこのサウンドトラックである。 1979年グラミー賞アルバム・オブ・ザ・イヤー受賞!	**Disc 1 Side A** 1. ステイン・アライヴ（ビージーズ） – 4:45 2. 愛はきらめきの中に（ビージーズ） – 4:05 3. 恋のナイト・フィーヴァー（ビージーズ） – 3:33 4. モア・ザン・ア・ウーマン（ビージーズ） – 3:17 5. アイ・キャント・ハヴ・ユー（イヴォンヌ・エリマン）– 2:57 **Side B** 1. 運命'76（ウォルター・マーフィー） – 3:03 2. モア・ザン・ア・ウーマン（タヴァレス） – 3:17 3. マンハッタン・スカイライン（デヴィッド・シャイアー） – 4:44 4. カリブソ・ブレイクダウン（ラルフ・マクドナル	**Disc 1 Side C** 1. 禿山の一夜（デヴィッド・シャイアー）– 5:12 2. Open Sesame″（クール・アンド・ザ・ギャング） – 4:01 3. ジャイヴ・トーキン（ビージーズ） – 3:43 4. ユー・シュッド・ビー・ダンシング（ビージーズ） – 4:14 5. ブギー・シューズ（KC&ザ・サンシャイン・バンド） – 2:17 **Side D** 1. サルセイション（デヴィッド・シャイアー） – 3:50 2. ケイジー（MFSB） – 4:13 3. ディスコ・インフェルノ（トランプス） – 10:51
	BEE GEES	グレイテスト・ライブ		1977年	ポップス	レコード	US	76年12月20日、LAフォーラムでのライブ。「メイン・コース」でカムバックし「チルドレン・オブ・ザ・ワールド」を発売してのツアーからです。つまりSNF発売以前ですが、アメリカでは大人気の頃で歓声もすごいですが、何よりまだ20代で若かった彼ら、特にバリーの力強いヴォーカル、3人のハーモニーが素晴らしいです。もちろん後でバリーのヴォーカルを一部差し替えたり（ファルセットのやつ）ベースを入れ直す等の修正は加えられていますが、ビー・ジーズが当時日本では依然としてラブ・サウンドのイメージ（事実前記の2枚のアルバムも日本ではヒットせず）が抜け切れていない中で、ソウルフルなパワー溢れるステージの模様を聴いて内心ビックリした音楽評論家が多かったのでは？また、60年代の大ヒット曲「獄中の手紙」「ワーズ」「ラブ・サムバディ」等もアレンジを変えて歌われており、現在も価値のあるライブアルバムと考えます。最後に今でもよく聴くのはオリビア・ニュートン・ジョンにもカバーされた「カム・オン・オーバー」です。彼らのハーモニーは本当にグレイトです。	● SideA 1. 獄中の手紙 2. 偽りの愛 3. 宇宙の片隅 4. カム・オン・オーヴァー 5. 悲しませることなんてできないよ ● Side B 1. ニューヨーク炭鉱の悲劇 2. ラン・トゥー・ミー 3. ホリデイ 4. 傷心の日々 5. ラヴ・サムバディ	● Side A 1. ユー・シュッド・ビー・ダンシング 2. ブーギ・チャイルド 3. ダウン・ザ・ロード 4. ワーズ ● Side B 1. ウィンド・オブ・チェンジ 2. ブロードウェイの夜 3. ジャイヴ・トーキン 4. ロンリー・デイ
	BEE GEES	グレイテストヒッツ		1979	ポップス	レコード	日本	1978年の公開と同時にディスコ・ブームの盛り上がりのきっかけとなった映画『サタデー・ナイト・フィーバー』でも大きなブレイクを果たしたビー・ジーズ。 今回登場するグレイテスト・ヒッツは、まさに、ビー・ジーズがディスコ、R&Bで大旋風を巻き起こし、ムーヴメントのシンボルとしてシーンを真ん中から牽引した1975年から1979年の凝縮されたナンバーを一挙に収録した2枚組の大ヒット・アルバム。楽曲収録 4作品『1975年:メイン・コース、1976年:チルドレン・オブ・ザ・ワールド、1979年:失われた愛の世界、1977年:オリジナルサウンド・トラック『サタデー・ナイト・フィーバー』から選ばれた極上のナンバーばかり。 そして、このグレイテスト・ヒッツには、「愛はきらめきのように」「ステイン・アライヴ」「恋のナイト・フィーバー」「失われた愛の世界」「哀愁のトラジディ」「ラヴ・ユー・インサイト・アウト」とまさに偉業というべき、6枚連続で達成したNo.1シングルと「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」「ジャイヴ・トーキン」といったNo.1も含め合計8曲の全米No.1シングルが含まれた時代を凝縮した超強力アルバムで、全米でもっとも売れたビー・ジーズのアルバム。	**Disc 1** **Side A** 1. ジャイヴ・トーキン 2. 恋のナイト・フィーバー 3. 哀愁のトラジディ 4. ユー・シュッド・ビー・ダンシング 5. ステイン・アライヴ **Side B** 1. 愛はきらめきの中に 2. 偽りの愛 3. 失われた愛の世界 4. 愛をすてないで 5. ファニー	**Disc 2** **Side A** 1. アイ・キャント・ハヴ・ユー 2. 愛の侵入者 3. ラヴ・ミー 4. モア・ザン・ア・ウーマン 5. レスト・ユア・ラヴ・オン・ミー **Side B** 1. ブロードウェイの夜 2. 愛のパラダイス 3. ラヴ・ユー・インサイド・アウト 4. ウィンド・オブ・チェンジ 5. チルドレン・オブ・ザ・ワールド

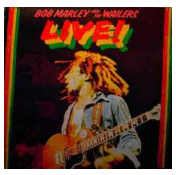
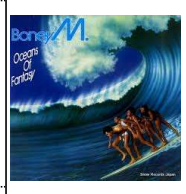
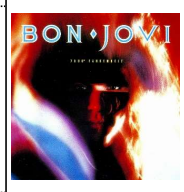
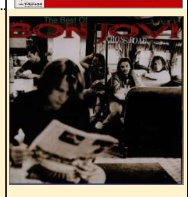
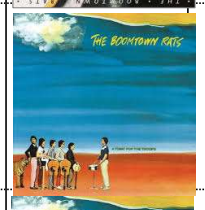
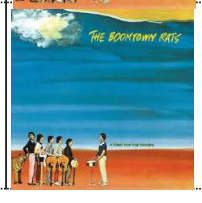
	BEE GEES	ベリー・ベスト・オブ・ビー・ジーズ		1995	ポップス	CD	日本	美しいメロディとコーラス・ワークを生かしたポップ・ロック・サウンドで人気を集め、「マサチューセッツ」('67年/全米11位、全英1位)、「獄中の手紙」(原題:I've Gotta Get A Message To You/'68年/全米8位・全英1位)、「ジョーク」(原題:I Started A Joke/'68年/全米6位)、「若葉のころ」(原題:First Of May/'69年/全英6位)、「傷心の日々」(原題:How Can You Mend A Broken Heart/'71年/全米1位)をはじめとする世界的ヒットを数々飛ばした後、1975年以降はディスコ路線を突き進み、1975年アルバム『メイン・コース』(全米14位)から「ジャイヴ・トーキン」('75年/全米1位)、「ブロードウェイの夜」(原題:Nights on Broadway/'75年/全米7位)、「ファニー」('76/全米12位)が大ヒット。続く1976年アルバム『チルドレン・オブ・ザ・ワールド』(全米8位)からは「ユー・シュッド・ビー・ダンシング」('76/全米1位)、「偽りの愛」(原題:Love So Right/'76/全米3位)、「ブーギ・チャイルド」('77/全米12位)が次々とヒット。そして極め付けに1977年の『「サタデー・ナイト・フィーバー」サウンドトラック』(全米1位)からは、「愛はきらめきの中に」(原題:How Deep Is Your Love'77/全米1位)、「ステイン・アライヴ/アイ・キャント・	1ニューヨーク炭鉱の悲劇 2ラヴ・サムバディ 3マサチュー・セッツ 4ワールド 5ワーズ 6獄中の手紙 7メロディ・フェア 8若葉のころ 9想い出を胸に 10救いの鐘	11ラン・トゥ・ミー 12ジャイヴ・トーキン 13ブロードウェイの夜 14ユー・シュッド・ビー・ダンシング 15愛はきらめきにの中に 16モア・ザン・ア・ウーマン 17ステイン・アライヴ 18恋のナイト・フィーヴァー 19失われた愛の世界 20哀愁のトラジディ
	BELLE STARS	ベル・スターズ		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	ベルスターズのファーストアルバム。		
	BEN FOLDS FIVE	ベン・フォールズ・ファイヴ		1995年8月8日	ロック	CD	US	95年発表のファーストアルバム。ベン・フォールズ(vo、p)、ロバード・スレッジ(b)、ダーレン・ジェジー(dr)というギター・レス、ピアノ・トリオのデビュー・アルバム。この時代はグランジなるつまらない音楽が猛威を振るっており、次世代のグループはもとより、前世代のグループまでがギターのノイズで曲の悪さをごまかしたかのような音楽を生み出していた。ベン・フォールズ・ファイヴはトリオ編成を活かしたシンプル・イズ・ベスト、そして楽曲重視という本来なら主流を行くべき音楽性を打ち出しており、特にこの時代のギターのノイズにうんざりしていた音楽ファンの救世主のような存在にもなっていたと思う。彼らのスタイルは古くはエルトン・ジョンなどたくさんのアーティストがやってきたことではあるが、この時代においては特に新鮮だった。強力なタッチのピアノに爆音ベース、音数こそは多いものの熱くならずに土台をしっかりと支えるドラムスにフレッシュな歌声を伴った瑞々しい楽曲群は今聞いたとしても強いインパクトと感動を与えてくれるはずである。ギター・レスというのが信じられないほど硬質なサウンドを生み出しており、トリオ故の型にはまらない奇想天外で自由な演奏は前のめりに疾走していくような感覚	1. ジャクソン・カナリー 3:23 2. フィロソフィー 4:36 3. ジュリアンヌ 2:30 4. ホエアーズ・サマーB? 4:07 5. アリス・チャイルドレス 4:34 6. アンダーグラウンド 4:11 7. スポーツ＆ワイン 2:58 8. アンクル・ウォルター 3:51 9. ベスト・イミテーション・オブ・マイセルフ 2:38 10. ヴィデオ 4:07	
	DEBBY BOONE	恋するデビー		1977年	ポップス	レコード	日本	父パットブーンの娘であるデビー・ブーンのデビューアルバム。「恋するデビー」全米で10週連続No.1獲得。シングル曲が大ヒットしたため急遽アルバムを発売することとなり間に合わせのために大半が他人のカバー・バージョンだが、選曲がよく良質のアルバムに仕上がっていることと、シングル盤の大ヒットの影響もあり、アルバム自体も全米6位と大ヒットした。デビーのボーカルもなかなかのもので、容姿に合わないやや低めの声質が魅力となっています。B面3曲目の「恋のキラキラ星」はデビー・ブーンの4姉妹で結成した「ザ・ブーンズ」が以前にシングルで出した曲の別テイクがこのアルバムに収録している。(因みに、この時の別テイクを収録したのか新しく再録音したかは不明。また、ザ・ブーンズとして日本でもシングル盤を発売していた)	**Side A** 1. 恋するデビー(You Light Up My Life) 2. わたしのロックン・ロール(A Rock And Roll Song) 3. ミコールのテーマ(Micol's Theme) 4. いつか幸福が(It's Just A Matter Of Time) 5. ヘイ・エヴリボディ 6. 愛を見つめて(When I Look At You)	**Side B** 1. フロム・ミー・トゥ・ユー 2. ベイビー・アイム・ユアーズ 3. 恋のキラキラ星(When The Love Light Starts Shining Through His Eyes) 4. この世の果てまでも(End Of The World) 5. 愛がさめたあと(Your Love Broke Through) 6. 落ち葉のメロディ(Hasta Manana)
	DIANA ROSS	ワン・ウーマン ダイアナ・ロス・コレクション		1993	ポップス	CD	日本	シュープリームス時代からソロ以降まで、満遍なく収録されたベスト。『恋はあせらず』や『Theme from Mahogany』『Endless love』安室ちゃんがサンプリング使用した『Baby Love』やドラマで使用された『If We Hold On Together』まで 耳にしたことがある名曲の数々。ダイアナロスの歌声は、言葉の壁を越えて心に突き刺さる。滑らかで澄んでいるのに、泣きたくなるような感情を齎される。まさに天才。長い歴史のある彼女のヒット曲を、コンパクトに一枚で聴ける。	1愛はどこに行ったの 2ベイビー・ラヴ 3恋はあせらず 4リフレクション 5リーチ・アウト・アンド・タッチ 6エイント・ノー・マウンテン・ハイ・イナフ 7タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング 8ラヴ・ハングオーヴァー 9アイム・スティル・ウェイティング 10アップサイド・ダウン	11マホガニーのテーマ 12エンドレス・ラヴ 13恋はくせもの 14チェイン・リアクション 15恋のプレリュード 16ワン・シャイニング・モーメント 17イフ・ウィ・ホールド・オン・トゥゲザー 18ザ・ベスト・イヤーズ・オブ・マイ・ライフ 19ユア・ラヴ 20レッツ・メイク・エヴリ・モメント・カウント
	BIG STAR			1972	ロック	レコード	ヨーロッパ	1971年にメンフィスの腕利きの若者だった「Alex Chilton」と「Chris Bell」の2人が中心となりBig Starを結成した。これがBig Starのデビュー・アルバム。彼らはブリティッシュ・インヴェイジョンのポップの技巧を様々なアメリカン・ハードロックと混ぜ合わせ、勢いある"Feel"からアコースティックで心を打つ"Thirteen"までを収録した。当時はレコードがヒットまでいかなかったが、後にR.E.M.やThe Replacements、Elliott Smithなどが影響を受けたとし、**隠れ名盤**となっている。		
	BIG AUDIO DYNAMITE	ビッグ・オディオ・ダイナマイト		1985	ニューウェイブ	レコード	US			
	BIG COUNTRY	インナ・ビッグ・カントリー		1983	ニューウェイブ	レコード	UK			
	BIG COUNTRY	インナ・ビッグ・カントリー		1983	ニューウェイブ	レコード	日本			
	BILLY IDOL	ビリー・アイドル		1982	ニューウェイブ	レコード	日本	70年代パンクバンドで活躍後、アメリカに渡りセックスシンボルとして持ち上げられ80年代に大ブレイク。	Side A 1. Come On, Come On 4:00 2. White Wedding - Part 1 4:12 3. Hot In The City 3:34 4. Dead On Arrival 3:54 5. Nobody's Business 4:06 Side B 1. Love Calling4:58 2. Hole In The Wall4:14 3. Shooting Stars4:30 4. It's So Cruel5:30	
	BILLY IDOL	反逆のアイドル		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	ビリー・アイドルが1983年に発表した2作目。このアルバムで全米6位となり大ブレイクする。本作からのシングル「反逆のアイドル」が46位、「フレッシュ・フォー・ファンタジー」が29位、「アイズ」が4位、「キャッチ・マイ・フォール」が50位に達した。前作『ビリー・アイドル』(1982年)でも一部の楽曲の作曲に関与したスティーヴ・スティーヴンスが、本作では「キャッチ・マイ・フォール」を除く全曲をアイドルと共作した。レコーディングが開始された当初はドラマーが不在だったが、スティーヴ・スティーヴンスとキース・フォーシーの提案により、スキャンダルのメンバーであったトミー・プライスが新ドラマーとして参加した。スティーヴ・ヒューイはオールミュージックにおいて本作を「ビリー・アイドルの最もキャッチーで、最もシンセサイザー主導のニュー・ウェイヴ・ポップとハードロック・ギターの爆発(スティーヴ・スティーヴンスのお蔭である)の融合が首尾一貫した作品」と評している。 1曲目の"REBEL YELL"はストレートで疾走感がある彼の代表曲の一つで、特にイントロのリフもすごく印象的で最高。現在も活躍する"ロック"ギタリストのスティーヴ・スティーヴンスを発掘したことが極め	Side-A 1 Rebel Yell 反逆のアイドル 2 Daytime Drama 3 Eyes Without A Face 4 Blue Highway Side-B 1 Flesh For Fantasy 2 Catch My Fall 3 Crank Call 4 (Do Not) Stand In The Shadows 5 The Dead Next Door	
	BILLY IDOL	反逆のアイドル		1983	ニューウェイブ	CD	日本			
	BILLY IDOL	バイタル・アイドル		1985	ニューウェイブ	CD	日本	「ビリー・アイドル:12インチ・ヒット・コレクション」ビリー・アイドルのリミック集。全米アルバムチャート10位、100万枚以上売り上げプラチナ・アルバムに	01 White Wedding (Part I & II)(Shotgun Mix) 02 Mony Mony (Hung Like A Pony Mix) 03 Hot In The City (Exterminator Mix) 04 Dancing With Myself (Uptown Mix) 05 Flesh For Fantasy (Below The Belt Mix) 06 To Be A Lover (Mother Of Mercy Mix) 07 Love Calling (Rub A Dub Dub Mix) 08 Catch My Fall (Remix Fix) 09 Shakin All Over (Live) 10 Mony Mony (Live)	
	BILLY SQUIER	ハード・ライダーの美学		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	80年代初頭、まだナイト・レンジャーもボン・ジョヴィも現れていなかった頃、この人の活躍によってハード・ロックのダイナミズムがポップにシーンに行き渡ったと思います。 元々はチープ・トリックとほぼ同期にデビューしたパイパーというバンドで活動していましたが、商業的成功はソロ第二弾となった81年作の本作でした。 シングル・カットされた妖しげなハード・ポップ・チューン、「イン・ザ・ダーク」のヒットにより一躍有名になります。 そのしなやかなソング・ライティングとセクシーな声は、フォリナー、ジャーニーといった産業ロック系のバンドの持つ甘さだけではない男臭さを教えてくれたのでした。		
	BILLY SQUIER	あの娘はスーパー・スター		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作、ビリー・スクワイアのサード・アルバムにして、大ブレイク作となった1枚です。 ジャケット・アートはアンディ・ウォーホール、共同プロデュースにはクイーンとの仕事で有名なマックが関わり、力の入れ具合もわかるというものです。 フォリナーが80'sニュー・ウェイヴと合体した様な大ヒット・シングル、「EveryBody Wants You」は、当時ラヴァーボーイの「それいけ！ウィークエンド」と共にハード・ロック・ファンの少年少女の心を捕らえたのでした。 ちなみに日本ではこの曲は「あの娘はスーパー・スター」というすごい邦題でリリースされていました。 クイーンのフレディ・マーキュリー、ロジャー・テイラーがアルバム・タイトル曲でバック・コーラスで参加した事も話題となり、80年代を代表する1枚にもなっています。 この人のクセのあるハスキーな声と、しなやかなソング・ライティングがハード・ロックとハード・ポップの間のギリギリのラインを保っていて、80's メタル勃発前のロック・シーンにおいてはかなり頼もしい存在		
	BILLY J.KRAMER with THE DAKOTAS	(ペーパースリーブ仕様) リッスン		1963	ブリティッシュビート60'S	CD	日本	ジョン・レノンにステージ・ネイムを与えられたブライアン・エプスタインの秘蔵っ子、ビリー・J・クレイマーが、同時代の最高のビート/R&Bコンボ、ザ・ダコタスの演奏とジョージ・マーティンのプロデュースを得て発表したアルバム。ビリー・J・クレイマーとザ・ダコタスがイギリスで発表した唯一のアルバム(63年発表)の全曲に、全英1位のヒット曲「バッド・トゥ・ミー」などレノン/マッカートニー作品6曲ふ含む22曲を収録。	1.ダンス・ウィズ・ミー 2.プライド 3.アイ・ノウ 4.イエス 5.ザ・トゥエルフス・オア・ネヴァー 6.シュガー・ベイブ 7.ダー・ドゥー・ロン・ロン 8.イッツ・アップ・トゥ・ユー(恋のアイドル) 9.グレート・ボールズ・オブ・ファイア(火の玉ロック) 10.テル・ミー・ガール 11.エニシング・ザッツ・パート・オブ・ユー 12.ビューティフル・ドリーマー(夢見る佳人)	13.スティル・ウォーターズ 14.アイ・コール・ユア・ネイム (レノン＆マッカートニー)15.ドゥ・ユー・ウォント・トゥ・ノウ・ア・シークレット(レノン＆マッカートニー) 16.アイル・キープ・ユー・サティスファイド(レノン＆マッカートニー) 17.バッド・トゥ・ミー(レノン＆マッカートニー) 18.アイル・キープ・ユー・サティスファイド(レノン＆マッカートニー) 19.リトル・チルドレン 20.ゼイ・リマンド・ミー・オブ・ユー 21.フロム・ア・ウィンドウ(レノン＆マッカートニー) 22.セカンド・トゥ・ノン

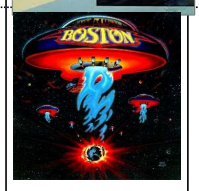
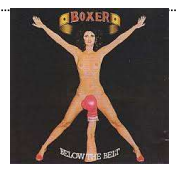
B	BILLY JOEL	ピアノ・マン		1973	ポップス	レコード	UK	1973年作品。初のヒットナンバー「ピアノ・マン」を生んだCBS移籍第一弾で、ソロとしてはセカンド・アルバムになります。前作が思うように売れず、LAでは"ビリー・マーティン"の名でピアノの弾き語りをしながら暮らしていました。その時の想いを元に、孤独な人々の集まる、土曜の9時頃のバーでの人間模様を描いた自伝的な歌が、この「ピアノ・マン」で、優しさや心の温もりが伝わってくる名曲に仕上がりました。他に「僕の故郷」「愛する言葉に託して」「キャプテン・ジャック」を収録。アルバムは全米27位まで上昇、売上は50万枚を突破しゴールド・ディスクを獲得しました。そうした成功が評価され、キャッシュ・ボックス誌で最優秀新人男性歌手賞を受賞。ビリーの輝かしいソロ・キャリアの第一歩となったのです。	1.流れ者の祈り 00:04:16 2.ピアノ・マン00:05:39 3.悪くはないさ00:03:19 4.僕の故郷00:03:13 5.さすらいのビリー・ザ・キッド00:05:43	6.陽気な放浪者00:03:15 7.ネバダ・コネクション00:03:55 8.愛する言葉に託して00:03:34 9.小雨降るパリ00:03:20 10.キャプテン・ジャック
	BILLY JOEL	ニューヨーク物語		1976	ポップス	レコード	日本	1976年発表の通算4枚目のアルバム。ニューヨークの想いなど初期の名曲が含まれていて、天才的なメロディーメーカー、アーティストとしての幕開けを予感させてくれる一枚。一般に天才ビリージョエルの才能がブレイクしたのはアルバム「The Stranger」という事になっているが、実際はこの「Turnstiles」で間違いなく大爆発している。セールス面では雲泥の差がついてしまったが、このアルバムは「The Stranger」と同等かそれ以上のとんでもない大傑作アルバムである。	Side A 1. さよならハリウッド 2. 夏、ハイランドフォールズにて 3. 踊りたい 4. ニューヨークの想い	Side B 1. ジェイムズ 2. プレリュード/怒れる若者 3. 楽しかった日々 4. マイアミ2017
	BILLY JOEL	ストレンジャー		1977	ポップス	レコード	日本	1977年に発表された本作は、ビリー・ジョエルという70～80年代のアメリカを象徴するシンガー・ソングライターの魅力を端的に伝える代表作。ニューヨークを舞台にした現代人の孤独をソフィスティケイトされたメロディと映像的なリリックで表現し尽くした傑作だ。 この作品の成功は、プロデューサーであるフィル・ラモーンによるところが大きい。それまでのビリー・ジョエルといえば、「ピアノ・マン」に代表されるように「詩的でフォーキーなソングライター」というイメージが強かったのだが、本作では力強いバンド・サウンドを導入することで音楽のスケールを大きく広げるとともに、表現における自由度を飛躍的にアップさせている。そして、多様な音楽的アイデアを提案することで、彼の才能を最大限に引き出したのが、この作品以降も共同作業を続けることになるフィル・ラモーンだった、というわけだ。フォーク、カントリーといったアメリカン・ミュージックのルーツを洗練されたサウンドのなかで再現することで、新しいポップスのフォームを生みだしたという点でも、きわめて重要な作品。<1><2><3>など、彼のキャリアを代表する名曲も数多く収録されている。	01ムーヴィン・アウト 02ストレンジャー 03素顔のままで 04イタリアン・レストランで	05ウィーン 06若死にするのは善人だけ 07シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン 08最初が肝心 09エヴリバディ・ハズ・ア・ドリーム
	BILLY JOEL	ニューヨーク52番街		1978	ポップス	レコード	日本	前作の大成功に引き続き、「オネスティ」「マイ・ライフ」「ビッグ・ショット」などヒットを連発した78年の6thアルバム。ジャズ的な要素をアルバム作りに持ち込んでいるのも魅力だ。 ビリー・ジョエルの名盤の数々を初の紙ジャケ仕様にて限定リリース！今作は' 78年発表。前作の大成功に続き、フィル・ラモーンとの絶妙なコンビネーションで作り上げた6thアルバム。「オネスティ」「マイ・ライフ」「ビッグ・ショット」など大ヒット連発。ビリーのテーマ曲ともいえる「マイ・ライフ」には当時シカゴのメンバーだったピーラー・セテラなどが参加。	01. ビッグ・ショット 02. オネスティ 03. マイ・ライフ 04. ザンジバル 05. 恋の切れ味 (スティレット)	06. ロザリンダの瞳 07. 自由への半マイル 08. アンティル・ザ・ナイト 09. ニューヨーク52番街
	BILLY JOEL	グラス・ハウス		1980	ポップス	レコード	US	今作は80年発表。ビリー自身が「聞いていて一番楽しいアルバム」と語るR&Rテイスト、ライヴ感覚溢れる7thアルバム。初の全米ナンバーワンに輝いた「ロックンロールが最高さ」の他、「ガラスのニューヨーク」(最高位7位)「ドント・アスク・ミー・ホワイ」(最高位19位)、「真夜中のラブコール」(最高位36位)と大ヒットシングル収録。アルバムチャートは6週連続No.1！プラチナ獲得、600万枚以上のビッグセールスを記録。3作連続グラミー賞獲得！第23回グラミー賞で最優秀男性ロック・ヴォーカル賞を受賞した。 日本では「ガラスのニューヨーク」が1980年 SONY"METAL365カセット" のCMソングとして使用された。 ビリーは"Just The Way You Are"(1977年)や"Honesty"(1979年)などからソフトなイメージがあった。 それを打破すべく、本作からの最初のシングルは強いロックの"You May Be Right"で、セカンド・シングルは"It's Still Rock And Roll To Me"だった。効果的である。"It's Still Rock And Roll To Me"の歌詞はユーモラスで、良く出来ている。パンクやニューウェイヴなどよりもロックンロールの方がいいという内容だが、「自分の車のタイヤを"white wall tires"に変えるというのか」という部分がある。これは恐らくピ	1 ガラスのニューヨーク 2 真夜中のラブコール 3 ドント・アスク・ミー・ホワイ 4 ロックンロールが最高さ 5 レイナ	6 孤独のマンハッタン 7 チャンスに賭けろ 8 愛の面影(セテ・トワ) 9 ボーダーライン 10 ロング・ナイト
	BILLY JOEL	ナイロン・カーテン		1982	ポップス	レコード	日本	1982年に発表したアルバム。スタジオ・アルバムとしては8作目。全米アルバムチャートで7位を記録。 1982年4月15日、オートバイ事故で骨折して入院したビリーは、病室にあるナイロン製のカーテンを見て、本作のタイトルを決定した。 第1弾シングル「プレッシャー」は全米20位に達した。第2弾シングル「アレンタウン」は、ペンシルベニア州の工業都市アレンタウンの衰退と貧困問題、そして、それでも同地で真面目に生きていく人々を歌った曲で、全米17位。 第3弾シングル「グッドナイト・サイゴン～英雄達の鎮魂歌」は、ベトナム戦争に駆り出された兵士の視点で歌われた反戦歌で、全米56位。ローリング・ストーン誌は、同曲を「ベトナム戦争に対する、ポップ・ミュージックによる究極の碑文として記憶されるだろう」と評した。ビリーの自信作の一つで、発表当時「僕にとっての『サージェント・ペパーズ』」とコメントしていた[2]。	1.アレンタウン – 3:51 2.ローラ – 5:04 3.プレッシャー – 4:41 4.グッドナイト・サイゴン 7:03 5.シーズ・ライト・オン・タイム – 4:14	1.ふたりだけのルーム – 4:02 2.サプライズ – 3:26 3スカンジナヴィアン・スカイ – 5:58 4.オーケストラは何処へ? – 3:17
	BILLY JOEL	イノセント・マン		1982	ポップス	レコード	日本	『グラス・ハウス』以来のスタジオ・アルバム。ロックンローラーとして社会に訴えかけるプロテスト・ソングに彩られたアルバムであり、前作から引き続きハード・ロッカーとしての存在感もさらに強力に打ち出したもので、「グッドナイト・サイゴン」「アレンタウン」「プレッシャー」などシリアスで年齢的にも成熟した楽曲に彼のアイドル、ジョン・レノンを彷彿とさせる一枚。プラチナ・アルバム獲得。	01: アレンタウン 02: ローラ 03: プレッシャー 04: グッドナイト・サイゴン～英雄達の鎮魂歌 05: シーズ・ライト・オン・タイム	06: ふたりだけのルーム 07: サプライズ 08: スカンジナヴィアン・スカイ 09: オーケストラは何処へ？
	BILLY JOEL	ソングズ・イン・ジ・アティック		1981	ポップス	レコード	日本	スーパースターとなったビリーの初のライヴ・アルバム。収録曲は初期のものから選ばれておりそれらを屋根裏から取り出したという意味だろう。しかし名曲揃いで数ある彼のアルバムのベリー・ベストの一枚といっても過言ではない。「サマー・ハイランドフォールス」「ロスアンジェリーノス」「シーズ・ガット・ア・ウェイ」などは新しいアレンジを施され豊かで暖かな曲となっている。	1マイアミ2017 2夏、ハイランドフォールズにて 3街の吟遊詩人は... 4ロスアンジェルス紀行 5シーズ・ガット・ア・ウェイ 6エヴリバディ・ラヴズ・ユー・ナウ	7さよならハリウッド 8キャプテン・ジャック 9僕の故郷 10さすらいのビリー・ザ・キッド 11楽しかった日々
	BILLY JOEL	ビリー・ザ・ベスト		1985年	ポップス	レコード	日本	1971年のソロ・デビュー作『コールド・スプリング・ハーバー』から1983年の『イノセント・マン』まで、計10枚のアルバムからのセレクションと書き下ろし2曲を加えた、ビリー・ジョエル初めてのベスト・アルバム！2枚組25曲の中に優れたメロディや歌詞が散りばめられ、改めて彼が抜きん出たメロディ・メイカーであることを実感させられるアルバム。本作はそんな彼の定番ベスト。全米6位まで上昇。 また、CDとは曲順や選曲が違っており、日本で大ヒットした「オネスティ(Honesty)」が日本盤には収録されているが、米盤には収録されていない。	**DISC 1** **Side A** 1. ピアノ・マン 2. さよならハリウッド 3. ニューヨークの想い 4. ストレンジャー 5. 素顔のままで **Side B** 1. ムーヴィン・アウト 2. 若死にするのは善人だけ 3. シーズ・オールウェイズ・ア・ウーマン 4. マイライフ 5. ビッグ・ショット 6. オネスティ	**DISC 1** **Side A** 1. ガラスのニューヨーク 2. ロックンロールが最高さ 3. プレッシャー 4. アレンタウン 5. グッドナイト・サイゴン～英雄達の鎮魂歌 **Side B** 1. あの娘にアタック 2. アップダウン・ガール 3. ロンゲスト・タイム 4. オンリー・ヒューマン 5. ナイト・イズ・スティル・ヤング
	BLACKFOOT	真紅の砦		1979年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	サザン・ロックの雄、ブラックフットのアトコ・レーベル第一弾！ 自身のヒット曲「トレイン・トレイン」や「ハイウェイ・ソング」を擁し、フリーやブルース・イメージのカヴァー曲などを含むアメリカン・ハード・ロックの名盤とされる一枚！彼らの代表曲である「HIGHWAY SONG」(それにしてもFREE BIRD!)の流れのカッコ良さ、痺れまくり。Track2「I GOT A LINE ON YOU」(SPIRIT:ランディカリフォルニア)・Track4「PAY MY DUES」(BLUES IMAGE:マイクピネラ在籍してたんだ！)・Track6「WISHING WELL」(FREE:ポールコゾフ」・・・なかなかのカヴァーセンス！アルバム10曲約34分ながら、その充実度は半端ない。「ハード・ロック」好きな人は聴いて絶対に損はしない隠れ名盤！	**Side A** 1. ロード・フィーヴァー 2. アイ・ガット・ア・ライン・オン・ユー 3. レフト・ターン・オン・ア・レッド・ライト 4. ペイ・マイ・デューズ 5. ベイビー・ブルー	**Side B** 1. ウィッシング・ウェル 2. ラン・アンド・ハイド 3. トレイン・トレイン(プレリュード) 4. トレイン・トレイン 5. ハイウェイ・ソング
	BLACKFOOT	ハイウェイソング ライブ		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	ドイツ？	アメリカン・ハードの名バンド、ブラックフットのライヴ盤で**名盤！**「ハイウェイソング – ライブ」はもともとドイツの輸入品としてのみ1982年に発行され、それ以来コレクターアイテムを見つけるのは非常に困難でした。レーナード・スキナードと同じフロリダのジャクソンヴィル出身、またヴォーカリストのリック・メドロックとベーシストのグレッグ・T・ウォーカーは、レーナード・スキナードに在籍していた事もあり、このブラックフットは完全なるサザン・ロック・バンドとしてのイメージが強いのですが、メドロックのパワフルなヴォーカルを中心としたガッツ溢れるハード・ロックを聴かせてくれます。「Train, Train」は彼等の79年のスマッシュ・ヒット曲で、UFOが同時期にリリースした「ヘヴィ・メタル・エクスペリエンス No Place To Run」収録の、その名も「Mystery Train」にどことなく似ている気もするのですが、興味ある方は聴き比べてみるのも一興かもしれません。圧巻は代表曲となる「Highway Song」で、彼等にとっては「フリーバード」や「天国への階段」的なものとなる名曲です。		
	BLACK SABBASH	黒い安息日		1970年2月13日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	UK	ラック・サバスの70年作、デビュー・アルバム。本作こそがヘヴィ・メタル誕生の瞬間ともされてきましたが、彼等が誕生した時代背景、環境といった要因の他に、奇跡的とも言える偶然もあったからこそ衝撃的な作品にもなったのだと思います。彼等はけっして悪魔崇拝者ではなく、黒魔術に傾倒していたわけでもなかったわけで、元々は6人組であったポルカ・タークブルース・バンドから、4人組のアースへと発展したバンドで、ホラー映画の影響を受け、ブラック・サバスと改名します。人々にショックを与えるためホラーを題材とした事も、トニー・アイオミの指の怪我のせいで生まれた地を這う様な低くヘヴィなギターも、彼等自信が最初から狙っていた事ではなかったはずです。結果として本作は、ロックがドロドロとした形の無いものから、徐々に形を整えとてつもないモンスターに生まれ変わる経過が音としてパッケージされたものとなったのではないでしょうか。雨と雷のSEに続き、不気味な鐘の音、そしてたった3音で構成されたこの世のものとは思えないリフが、今も強烈な響きとなって流れる度、サバスの誕生がいかに奇跡的であったかを思い知らされます。そして彼等の初期の音楽性の奥の深さ、特にジャズ・ロック的なバンド・サウンドに、何度聴いても新鮮さを感じる事ができる不思議な1枚。	**Side A** 1. 黒い安息日 "Black Sabbath" – 6:16 2. 魔法使い "The Wizard" – 4:24 3. 眠りのとばりの後に "Behind the Wall of Sleep" – 3:38 4. N.I.B – 6:06	**Side B** 1. 魔女よ、誘惑するなかれ "Evil Woman – 3:25 2. 眠れる村 "Sleeping Village" – 3:46 3. 警告 "Warning – 10:32
	BLACK SABBASH	(ペーパースリーブ仕様) 黒い安息日		1970	ハードロック&ヘビーメタル	CD	日本			
	BLACK SABBASH	パラノイド		1970年9月18日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	70年作、ブラック・サバスのセカンド・アルバムとなった1枚です。 前作から僅か7ヵ月後にリリースされながら、格段のサウンド向上にまず驚かされます。 オカルトをモチーフにしながら、やりたい事を全部詰め込んだ感があったデビュー作に比べ、一層のヘヴィ・サウンドを重視しています。 キャッチーなリフが印象的なアルバム・タイトル曲や、初期の代表曲となった「アイアン・マン」ばかり目立っている様ですが、ストーナー/ドゥームの原点となった「Electric Funeral」や「Hand Of Doom」こそが本作を永遠に伝説化させているのだと思います。 地を這う様なリフ、とはまさにこれらの曲を言うわけで、スローでありながら重くでダークという革新的な音を生み出したのでした。 アルバム後半では彼等のジャズ指向がまだ残っていて、若きサバスが果敢にバンド・サウンドに幅を持たせようとしている姿が伝わってきます。 ジャケット・ワークもオカルトから一転、SFっぽい雰囲気がミステリアスで秀逸です。 時代の空気を取り込むセンスと、オジーの特異なキャラがすでに貫禄を持たせているのが奇跡的な1枚です。	**Side A** 1. ウォー・ピッグス – 7:58 2. パラノイド – 2:52 4. プラネット・キャラヴァン– 4:34 5. アイアン・マン – 5:58	**Side B** 1. エレクトリック・フューネラル – 4:52 2. ハンド・オブ・ドゥーム – 7:09 3. ラット・サラダ – 2:30 4. フェアリーズ・ウェア・ブーツ – 6:13
	BLACK SABBASH	パラノイド		1970年9月18日	ハードロック&ヘビーメタル	CD	日本			
	BLACK SABBASH	マスター・オブ・リアリティ		1971年7月21日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	ヨーロッパ	71年作、ブラック・サバスの3作目となったアルバムです。 前作、「パラノイド」が英米で大ヒットし、すでにビッグ・バンドとなった彼等が短いインターバルでアルバムを次々とリリースします。 僅か1年足らずで発表された本作も、けっしてやっつけ仕事ではありません。 ここでもクラシックとなる様なリフを続々と生み出す底力は、ドラッグの助けがあったのも事実だと思います。	**Side A** 1. スウィート・リーフ– 5:05 2. アフター・フォーエヴァー– 5:26 3. エンブリオ – 2:18 4. チルドレン・オブ・ザ・グレイヴ– 5:17	**Side B** 1. オーキッド – 1:31 2. ロード・オブ・ジス・ワールド – 5:26 3. ソリテュード– 5:12 4. イントゥ・ザ・ヴォイド– 6:12

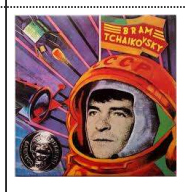
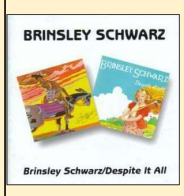
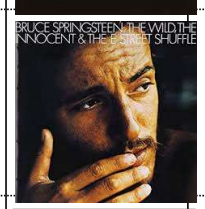
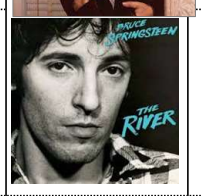
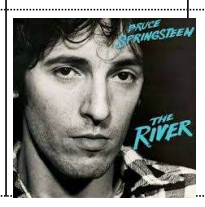
	BLACK SABBASH	(ペーパースリーブ仕様) マスター・オブ・リアリティ		1971年7月21日	ハードロック&ヘビーメタル	CD	日本	そのままずばりのオープニング・ナンバー、「Sweet Leaf」がそれを物語っています。 「愛しいヘッパ」と題されたこの曲のカッコ良さは言うまでありませんが、1曲目にこれを持ってくるクレイジーぶりがたまりません。 名曲揃いのアルバムですが、特筆すべきなのが、メタルの開祖とされている彼等が、「Orchid」という美しくせつないアコースティックのインスト・ナンバーを残しているのも見逃せません。 1分半の小曲ですが、この1曲だけ聴くためだけでも、全ロック・ファン必聴の1枚だと信じています。		
	BLACK SABBASH	ブラック・サバス4		1972年9月25日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	72年作、ブラック・サバスの通算4作目となったアルバムで、デビューから2年、怒涛の勢いでリリースされた過去3作から大きなサウンドの進化が見られた1枚です。 それまでのプロデューサー、ロジャー・ベインの手を離れ、初のセルフ・プロデュースとなった事が大きかった様で、トニー・アイオミの主導権によるバンドの新たな方向性が目立ちます。 オープニング・ナンバー、「WHEELS OF CONFUSION」のいきなりの官能的なギターが全体を象徴する響きを持ち、彼等がメロディアスなサウンドを以降展開していく事になりました。 後のオジーのソロ・キャリアにも通じる美しいピアノ・バラード、「Changes」や、アコースティック・ギター・インストの「Laguna Sunrise」等は、ドゥームの元祖、またはヘヴィ・ブルースやホラーといった彼等の初期のイメージを覆すものだったと思います。 その他にもシンセの導入を試みた「SE」での実験性も異色作となっていますが、その他での従来のサバス・サウンドが実に充実していて、派手なシングル・ヒットよりもアルバム全体の構成を考えた曲の並びも効果的になっています。 結果的には本作があったからこそ、サバスがワン・パターンに終わらず奥の深いキャリアを築く事になったと思うのですが、恐らくはツェッペリンの進化を彼等なりに意識していたのではないかと思います。 一介のブルース・バンドで留まらない音楽的センスと、やっぱり「Tomorrow's Dream」等で見られる半端ではないヘヴィネスに、改めて驚かされる1枚です。	**Side A** 1. ウィールズ・オブ・コンフュージョン/ザ・ストレイナー – 8:01 2. トゥモロウズ・ドリーム– 3:11 3. チェンジス – 4:44 4. FX – 1:43 5. スーパーナート – 4:49	**Side B** 1. スノウブラインド – 5:33 2. コーニュコピア– 3:54 3. ラグナ・サンライズ – 2:55 4. セント・ヴィタス・ダンス – 2:29 5. アンダー・ザ・サン/エヴリ・デイ・カムズ・アンド・ゴーズ – 5:52
	BLACK SABBASH	ブラック・サバス4		1972年9月25日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本			
	BLACK SABBASH	血まみれの安息日		1973年12月1日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	73年作、ブラック・サバスの通産5作目となったアルバムです。 原題と邦題、そしてジャケットから醸し出されるオカルト色は、確かにオープニング・ナンバーのアルバム・タイトル曲から伺えますが、全体の印象は実験性と意外とも思えるメロディアスな感触です。 サバスならではと言えるヘヴィなリフが2曲続くと、最早彼等のお得意芸とも言える美しいメロディが映えるインスト・ナンバー、「Fluff」へと続きます。	**Side A** 1. 血まみれの安息日 "Sabbath Bloody Sabbath" – 5:45 2. ナショナル・アクロバット – 6:15 3. フラッフ– 4:12 4. サブラ・カダブラ – 5:59	**Side B** 1. 生への自殺 "Killing Yourself to Live" – 5:42 2. お前は誰だ！ "Who Are You?" – 4:10 3. ルッキング・フォー・トゥデイ – 5:03 4. スパイラル・アーキテクト – 5:29
	BLACK SABBASH	血まみれの安息日		1973年12月1日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	ここではピアノ、ハープシコードが導入され、ドゥームでは終わらない彼等の進化を感じさせます。 更に驚くべきは、当時イエスのメンバーだったリック・ウェイクマンをゲストに迎えてのシンセの導入、「おまえは誰だ!!」ではメンバー自身がシンセ、メロトロンを導入。 またフルート、バグパイプも多用され、バンドのセルフ・プロデュースにより同時代のブリティッシュ・ハード勢の影響を受けながらも独自の路線を歩みだしたのが明確になっています。 思えば本作こそがオジー時代のバンドのピークとも思え、彼等はやりたい事をここで全て試してしまった様な感すらあります。		
	BLACK SABBASH	(ペーパースリーブ仕様) 血まみれの安息日		1973年12月1日	ハードロック&ヘビーメタル	CD	日本	オーケストラを大幅導入したラスト・ナンバーの壮大な展開は、脱退後のオジーのソロ活動にも繋がるサウンドだったと思います。 皮肉な事に当時シンプルはハード・ロック路線を提唱していたオジーが、バンドと溝を深めていった理由となったのは、サバスの幅広い音楽性と、トニー・アイオミのアイデア豊富なサウンド作りだったのでした。 70年代サバスの作品としては、最もキャッチーでメロディアスなアルバムだと思います。		
	BLACK SABBASH	サボタージュ		1975年7月28日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	75年作、サバスの6作目となったアルバムです。 それまで怒涛の勢いでリリースを続けていた印象が強かったのですが、本作はレコーディングに1年の歳月を費やし、これまでになく作り込まれたものとなっています。 英国王室合唱団をしたフィーチャーした「帝王序曲」は、荘厳さと美しさが劇的な盛り上がりを見せるインストとなり、ライヴのオープニングSEとして定着しています。 前作での実験性がそのまま流用されている部分もあるのですが、ドゥームメタルの元祖と言われてきた彼等が、ツェッペリンも真っ青のヘヴィさをここで展開しています。	**Side A** 1. ホール・イン・ザ・スカイ – 4:00 2. ドント・スタート – 0:49 3. 悪魔のしるし "Symptom Of The Universe" – 6:30 4. 誇大妄想狂 "Megalomania" – 9:43	**Side B** 1. スリル・オブ・イット・オール– 5:56 2. 帝王序曲 "Supertzar" – 3:44 3. 発狂 "Am I Going Insane (Radio)" – 4:17 4. リット～ブロウ・オン・ア・ジャグ "The Writ ~ Blow On A Jug" – 8:43
	BLACK SABBASH	ネヴァー・セイ・ダイ		1978年9月28日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	ブラック・サバスが1978年に発表した8作目のスタジオ・アルバム。1977年11月、オジー・オズボーンがバンドを一度脱退したため、ブラック・サバスは後任ボーカリストのデイヴ・ウォーカーを加えた編成で短期間ライヴ活動を行ったが、1978年1月にはオズボーンが復帰して、本作のレコーディングが行われた。「スウィンギング・ザ・チェイン」ではビル・ワードがリード・ボーカルを担当しており、「ハード・ロード」では、普段は歌わないトニー・アイオミとギーザー・バトラーがバックアップ・ボーカルを務めている。全体的にポップで明るめなハードロックで、初期の、その後Doom Metalに繋がるような ドロドロとした重苦しさはありません。らしくない作品としてサバスファンから敬遠されがちなアルバムですが、サバスという固定概念を捨て、Never Say Die!と言う単一のロックアルバムとして聴くとそれはそれは素晴らしい名盤で、確かにアメリカンナイズされた箇所が随所に聞き取れるが曲自体が良い曲が多くクオリティーが高い。	**Side A** 1. ネヴァー・セイ・ダイ – 3:49 2. ジョニー・ブレード – 6:28 3. ジュニアーズ・アイズ – 6:43 4. ハード・ロード – 6:06	**Side B** 1. ショック・ウェイヴ– 5:16 2. エアー・ダンス – 5:18 3. オーヴァー・トゥ・ユー – 5:24 4. ブレイクアウト – 2:35 5. スウィンギング・ザ・チェイン – 4:05
	BLACK SABBASH	ヘヴン&ヘル		1980年4月25日	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	80年作、ブラック・サバスの通産9作目にして、バンド史上最もドラスティックな変化をしたアルバムです。 オジー脱退後に迎えたヴォーカリストは、なんとレインボーを抜けた後の動向が注目されていたロニー・ジェイムス・ディオでした。 プロデュースはパープル、レインボーを支えてきたマーティン・バーチ。 これによりトニー・アイオミの巧みなリフと、ロニーの様式美が絡む新たなサバス・サウンドが生まれます。 メロディアスな曲展開と、オジーにはなかったスピード感、更にロニーの歌唱力によりレインボーと聴き間違えてしまう程のナンバーもありますが、重厚なギターが以降のサバスの生命線を確実に伸ばしたのでした。 「Neon Knights」ネオンの騎士」のカッコ良さには、全聴いても震えが走るほどです。	**Side A** 1. ネオンの騎士 – "Neon Knights" – 3:50 2. チルドレン・オブ・ザ・シー– 5:34 3. レディ・イーヴル – 4:24 4. ヘヴン&ヘル– 6:56	**Side B** 1. ウィッシング・ウェル – 4:05 2. ダイ・ヤング– 4:42 3. ウォーク・アウェイ – 4:21 4. 孤独の定め – "Lonely Is the Word" – 5:51
	BLIND FAUTH	スーパー・ジャイアンツ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	クリームのエリック・クラプトンとトラフィックのスティーブ・ウィンウッドは68年にリリースされたザ・バンドのデビュー作『ミュージック・フロム・ビッグ・ピンク』に大きな衝撃を受けて、クラプトンはクリームを解散、天才ウィンウッドと新グループを結成。ドラムにはクリームのジンジャー・ベイカー、ベースにファミリーのリック・グレッチが参加。スーパーグループとして騒がれアルバム『スーパー・ジャイアンツ』をリリースし、70年初頭に解散。実質の活動は半年ほどであったがロック史上に残る名グループ。収録曲は全6曲、うち「Well All Right」(バディ・ホリー作)と「Presence Of The Lord」(クラプトン作)の2曲がグレッチ抜き。あとはウィンウッドの曲が3曲、ジンジャー・ベイカーの曲が1曲という構成。 当時、クラプトンはヴォーカルに自信がなく、本作は全曲ウィンウッドが歌っているのだが、ウィンウッドはリードギターでも素晴らしいテクニックを披露している。キーボードはもちろん、ベースの腕前も文句なしである。これだけひとりが活躍すると、普通に考えればウィンウッドのワンマンバンド的な仕上がりになってもおかしくないのだが、クラプトンとベイカーの個性が強いだけにしっかりと存在を主張しているのはさすがだ。 収録されたナンバーはどれも良い曲ばかりだが、特に日本でシングルカットもされたクラプトンの「Presence Of The Lord」は名曲中の名曲である。この曲、ザ・バンドに影響されているのは明らかで、ウィンウッドのヴォーカル、ピアノ、クラプトンのギター、ベイカーのドラム(いつもの彼と違って少しおとなしい)、どれも名演である。間奏のリードギター部分はクリーム的な演奏で少し浮いているが悪くはない。 本作中、もっともよく知られたナンバーが「Can't Find My Way Home」。これは本編のアコースティックバージョンよりも、クラプトンとウィンウッドのツインリードギターが味わえる6分近くに及ぶエレクトリックバージョン(デラックス盤に収録)のほうが出来は良いから、本編にはこちらを収録してほしかった。この曲は多くのアーティストがカバー(ウィンウッドのセルフカバーもいくつかあり)しているので、聴き比べるのも一興だろう。	Side A 1. 泣きたい気持ちHad To Cry Today 9:46 2. マイ・ウェイ・ホーム 3:15 3. オール・ライト 4:25 4. プレゼンス・オブ・ザ・ロード 4:47	Side B 1. 歓喜の海 Sea Of Joy 5:22 2. 君の好きなように Do What You Like 15:18
	BLIND FAUTH	スーパー・ジャイアンツ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	BLITZ				パンク	レコード	UK			
	Blondie	妖女ブロンディ		1976	パンク	レコード	日本	70年代後半のパンク／ニューウェーブ・ムーヴメントから数多く登場したバンドの中で、その後、最もコマーシャルな成功をおさめることになる、ブロンディのデビュー作。 デビュー前からニューヨーク・パンク・シーンのセックス・シンボル的存在として注目を集めていたデボラ・ハリー。 このアルバムからはヒット曲こそ生まれなかったものの、名曲「Xオファンダー」に当時のCBGBの香りを充分感じることができる。60'sガールポップ風の可憐さとCBGBの時代を反映したニューヨーク・パンクの鋭さがミックスされた世界は今も新鮮。 個々の曲のポップなクオリティもさることながらデボラ・ハリーの際立った存在に改めて感じ入る。マドンナ以後の女性ポップスターに与えた影響の大きさは計り知れないほど偉大だ。	Side A 1. Xオファンダー 2. リトル・ガール・ライズ 3. 愛してほしい 4. ブルーな気持ちで 5. イン・ザ・サン 6. 暗闇のスリル	Side B 1. マン・オーバーボード 2. 汚れた天使 3. 射撃場の出来事 4. 戦え、カン・フー・ガールズ 5. 恐怖のアリ軍団
	Blondie	囁きのブロンディ		1978	パンク	レコード	日本	1978年リリース。本作は、ニューヨークのパンク・シーンから登場し、セックス・シンボル、デボラ・ハリーの妖艶な魅力とキャッチーなサウンドで世界的な成功を収めたブロンディのセカンド・アルバム。オリジナルタイトルはPlastic Letters 。ヒット曲「デニスに夢中」が60年代のドゥーワップグループ(ランディ&ザ・レインボウズ)のカヴァーである事が象徴するようにノスタルジックなポップスの甘美さとガレージパンクのワイルドなビートが同居した魅力。シンセサイザーの導入などファーストに比べ演奏も多彩化。デボラ・ハリーの歌声もさらに妖艶に響く。 アナログ・シンセがビュン！！ビュン！！うなりを上げたと思ったらキンコンカンとベルが鳴り響く1「恋する手紙」が絶妙。シングル・ヒットした2「デニスに夢中」のような50年代ポップス・サウンドは次作の布石。ポップだけどケバケバしくないのが魅力。4「恋の狙撃者」はパンクっぽい曲で次作以降はこのタイプの曲は急速になくなっていくので、このアルバムまでの初期の魅力を集約していると思う。一応はパンクの一派として登場したんだけど、現在ではオールディーズなポップスをパワー・ポップ調に演奏しているグループと見た方が自然かも。ただポップなだけじゃなくて品があるのがこのグループの特徴。	Side A 1. 恋する手紙 2. デニスに夢中 3. フライト45 4. 恋の狙撃者 5. 赤い広場の饗宴 6. 今が最高 7. Eに魅せられて	Side B 1. イヤと言わないで 2. 桟橋で愛が 3. ノー・イマジネーション 4. 夢みるキッドナッパー 5. 私のデトロイト 6. 妖しい唇
	Blondie	恋の平行線		1978	ニューウェイブ	レコード	日本	78年作。ブロンディのサード・アルバムで、全米6位 /全英1位。デボラ・ハリーとバンドがアンダーグラウンドから一気にポップ・フィールドへと勢力を伸ばした代表作。パンク・バンドとして認知されていながら、前作からシングル・カットされた「デニスに夢中」は60年代のドゥワップ・グループのカヴァーという大胆な戦略をとり、見事全英で2位というヒットを飛ばします。 ニューヨーク・パンクの重要なアイコンとしてバンドは成長していましたが、本作ではポップ・バンドとして昇華すべく、スージー・クアトロを育て上げたマイク・チャップマンをプロデューサーに迎えています。 現在では世界的アイドルとして名高いワン・ダイレクションがカヴァーした「One Way Or Another」や、伝説的バンド、ナーヴスのカヴァーとなった「Hanging On The Telephone」(DEF LEPPARDもカヴァー)等、パワー・ポップとしての側面が強調されています。そして当時のディスコ・ブームに見事乗っかり大ヒットした「Heart Of Glass」は、彼女達の代表曲となり、いよいよ時代の寵児として勢いに乗ることに成功。	Side A 1. ハンギング・オン・ザ・テレフォン 2. どうせ恋だから 3. のピクチャー 4. フェイド・アウェイ 5. プリティ・ベイビー 6. 知ってるかい?	Side B 1. 11:59 2. どうなるかしら? 3. サンデー・ガール 4. ハート・オブ・グラス 5. 好きになりそう 6. ジャスト・ゴー・アウェイ
	Blondie	恋のハートビート		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	79年作、ブロンディの通産4作目のアルバム。全米17位 /全英1位と彼等の人気絶頂期を象徴するガラフルなポップ・アルバム。 ニューヨーク・パンクの象徴、あるいは70年代のセックス・シンボル、そしてガールズ・ロックのポップ・アイコンとしての印象が確かに強いバンドですが、高性能パワー・ポッパーとしてのセンスを高評価。同時代のナック、カーズ、チープ・トリック等と、ハード・ロック低迷期においては、ロックの楽しさを教えてくれた大切な存在だった。デボラ・ハリーのセックス・シンボルとしての存在感が一人歩きしたイメージも大きい中、キャッチー極まりないメロディと、80年代ニュー・ウェイブに大きな影響を残した積極的なビートの開拓は、もっと再評価がされてもいいと思います。本作でもヒット・シングル数曲「ドリーミン」「銀河のアトミック」「素敵な時間をスローモーション」の他に、ダンス・ミュージックへの接近が露になっていく過程が見られ、やがて来る80'sのキラキラしたポップ感が満載の傑作。	Side A 1. ドリーミン 2. ハーデスト・パート 3. 涙のユニオン・シティ 4. シェイラ 5. 恋のハートビート 6. アクシデンツ・ネヴァー・ハプン	Side B 1. 青春のときめき 2. 素敵な時間をスローモーション 3. 銀河のアトミック 4. サウンド・ア・スリープ 5. ヴィクター 6. リアル・ワールド

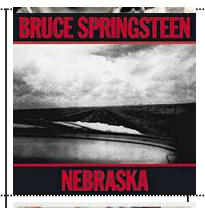
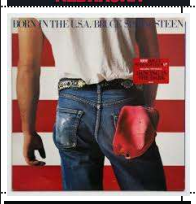
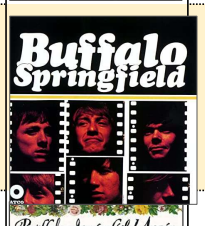
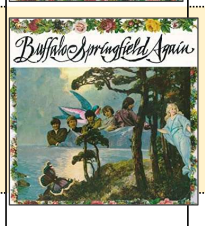
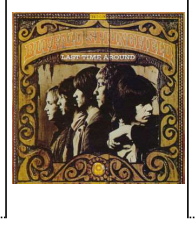
	Blondie	オートアメリカン		1980	ニューウェイブ	レコード	日本	80年作。ブロンディの通算5作目のアルバム。前々作からの大ヒットとなった「ハート・オブ・グラス」、そして本作リリース前にサントラ提供曲として英米で1位となったシングル、「コール・ミー」(ここではボーナス・トラックとしてロング・ヴァージョン収録)の延長線上として、バンドはディスコ路線、ダンス・ミュージックへの傾倒を更に深くしていきます。注目すべきは当時は最先端と思われるワールド・ミュージックのポップ・フィールドへの導入の試みが、彼等の個性によって消化されている事です。オープニングはまるでドヴォルザークを思わせる幻想的、退廃的なインストで始まり、期待感を煽ります。 ジャマイカのパラゴンズのカヴァー、「夢見るNo.1」はやはり英米でNo.1を記録したポップ・レゲエ、「貴方の瞳に恋してる」はデボラ・ハリーの妖しさが映えるジャズ・ナンバー、こちらもNo.1ヒットとなった「ラプチュアー」ではファンクとラップを導入と、カラフルなサウンドがとにかく眩しいくらいです。デビー単独作の「愛の面影」もジャズ・バラードの佳曲となり、彼女にまとわりつくモンローの分身を更に強く印象付ける事になったと思います。間に挟まれる、これまでのお得意芸であったパワー・ポップ・ナンバーの出来も素晴らしく、飽きさせる事をしません。こうした彼等のダンス・ミュージックとロックの融合は、まさにニュー・ウェイヴとしての方法論であったわけですが、残念ながら時代とのリンクはここがピークであった。 ガールズ・ポップの大量生産、80’sエレ・ポップの隆盛期の中にあっては、彼等の個性はパンク一派としてリスペクトされ続ける位置付けがされてしまったのかもしれません。いずれにしても以降のポップ・ミュージックに影響は、かなり大きかったと思います。全米7位 /全英3位	Side A 1. 遥かなるヨーロッパ 2. リヴ・イット・アップ 3. 貴方の瞳に恋してる 4. 夢みるNo.1 5. バルコニーのエンジェル 6. 恋はハイウェイ・ドライヴ	Side B 1. ドゥ・ザ・ダーク 2. ラプチュアー 3. 愛の面影 4. 憧れのサンダーバード 5. ウォーク・ライク・ミー 6. 渚のデート・ウォーク
	Blondie	軌跡! ザ・ベスト・オブ・ブロンディ		1981		CD		1981年リリース。ブロンディ初のベスト盤。映画『アメリカン・ジゴロ』のサントラとして全米No.1の大ヒットとなった「コール・ミー」や、同じく全米1位の 「ハート・オブ・グラス」ほかリミックス3曲の収録。	1ハート・オブ・グラス (スペシャル・ミックス) 2デニスに夢中 3夢みるNo.1 4愛して欲しい (スペシャル・ミックス) 5サンデー・ガール (スペシャル・ミックス) 6ドリーミン 7ハンギング・オン・ザ・テレフォン 8ラプチュアー 9恋のピクチャー 10涙のユニオン・シティ 11合衆最高	
	BLOOD, SWEAT&TEARS	(ペーパースリーブ仕様) 子供は人類の父である		1968	ロック	CD	日本	1968年作品。1967年、アル・クーパー(Vo, Key)を中心にNYで結成。バンド名はジョニ・ミッチェルの曲に由来する。このデビュー作は、ブルース、ジャズに加え、クラシックやソウルなどもブレンドした洗練されたサウンドが特徴で、ブラス・ロックというジャンルを確立した(誕生させた)名作と言われている。アル・クーパーが、白人による「ブルーズ」作品を世に送り出したかったので、ブルーズとR＆Bに不可欠なブラスを導入し、作品作りに専念した。モータウン・サウンドなどのように、ブラス部門を強化して世に送り出した作品を完成させ、アル・クーパーは満足し、グループを解散した。その後、メンバーは、デビット・クレイトン・トーマスという逸材を獲得し、セカンド・アルバム『BS&T』で大ブレークしグラミー賞を受賞するなど大成功を収めた。 本作は、ザ・バンドを手がけていたジョン・サイモンがプロデュースしたデビュー作。アル・クーパーの幅広い音楽的趣向を反映した、実験的でバラエティに富んだ内容になっており、作風としてはビートルズの『サージェント・ペパーズ』発表直後の録音のせいかトータルアルバム風に構成されており 『Overture』で始まりビートルズの『A Day In The Life』を連想させる作風の『Underture』で終わる構成になっている。 内容は、2「アイ・ラヴ・ユー・モア・ザン・ユール・エヴァー・ノウ」は、ブラス・サウンドの厚みを巧みに生かしたアレンジで、アル・クーパー時代のBS&Tの魅力をよく伝えている。また、トラック3はティム・バックリー、5はニルソン、6はランディ・ニューマン、12はキャロル・キングと後にソロ活動で歴史に名を残すソング・ライターの曲を既に取り上げているアル・クーパーの選曲眼の良さが凄い。白人による最高のソウル・ナンバーであるとアル自身も胸を張っているトラック7“I can't quit her”は正に最高、埋め草的なトラックも見当たらず、次作に比べれば何となくこじんまりした印象を除けば「マジック・サマー」の良曲も収められた名作。	1. Overture 2. I Love You More Than You'll Ever Know 3. Morning Glory 4. My Days Are Numbered 5. Without Her 6. Just One Smile 7. I Can't Quit Her 8. Meagan's Gypsy Eyes 9. Somethin' Goin' On 10. House In The Country 11. The Modern Adventures Of Plato, Diogenes And Freud 12. So Much Love/Underture	以下、CDボーナストラック 13. Refugee From Yuhupitz 14. I Love You More Than You'll Ever Know 15. The Modern Adventures Of Plato, Diogenes And Freud
	BLOOD, SWEAT&TEARS	血の汗と涙		1969	ロック	レコード	日本	ブラッド・スウェット＆ティアーズの1969年の2作目。アル・クーパーはブルース・プロジェクト時代の仲間だったギタリストのスティーブ・カッツと共に、ブラス・ロック・グループを結成を計画する。 アル・クーパーが目指したのは、ビッグ・バンド・スタイルのジャズとロックやブルース、クラシックを融合させたようなサウンドを持つバンドだった。具体的に言えば、ドン・エリスの率いるビッグ・バンドのようなサウンドを目指したのだろう。 そんな方向性から生まれたのがファースト・アルバムである『子供は人類の父である』。そこにはジャズあり、クラシックあり、ソウルあり、ロックありで、当時としてはかなり新しい実験的なスタイルだった。 しかしアレンジ重視で、ホーン・セクションを立たせた、ジャージーなサウンドを目指すメンバーたちとアル・クーパーの方法論はぶつかり、結局アルはバンドを去ることになる。 だからブラッド・スウェット＆ティアーズの本格的なデビュー・アルバムはアル・クーパー離脱後に収録された、本作とも言える。 サウンドはなかなか繊細で、70年代中盤から流行りだしたアダルト・オリエンテッド・ロックの先駆け的なアルバムとも言える。だからこれはガキが聴くアルバムではなく、そういう意味ではあまりロックっぽくないのは確かだ。同時代に活躍したブラス・ロック・バンド、シカゴと比べてみても、ブラッド・スウェット＆ティアーズの方がずっと大人っぽい。	Side A 1. エリック・サティの主題による変奏曲 (第1楽章、第2楽章) 2. 微笑みの研究 3. サムタイムズ・イン・ウィンター 4. モア・アンド・モア 5. アンド・ホエン・アイ・ダイ	Side B 1. 神よ祝福を 2. スピニング・ホイール 3. ユーヴ・メイド・ミー・ソー・ヴェリー・ハッピー 4. ブルース・パート2 5. エリック・サティの主題による変奏曲 (第1楽章)
	BLUEBELLS	シスターズ		1983	ネオアコ	レコード	UK			
	BLUEBELLS	セカンド		1992	ネオアコ	レコード	フランス			
	BLUE CHEER	ヴィンキュバス・イラプタム		1968	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	US	オリジナルは1968年リリース、メタルのルーツを探る時には絶対に見落とせないブルー・チアーのデビュー作。ブラック・サバスとも比較されましたが、サバスがドゥームとして認知されるのとは一方、このブルー・チアーはガレージ・パンク、サイケの潮流とを生み出したと言えるサウンドが目立ちます。アルバム中半数がカヴァーとなりますが、その中でもオープニングとなるエディ・コクランの「SUMMERTIME BLUES」はあまりにも有名。ブルースのアメリカン・ハード的解釈という味方もできるバンド・サウンドですが、楽しく盛り上がろうぜ的な高揚感よりもドス黒い塊の様な迫力は、とても常人とは思えない緊張感に溢れていると思います。 さすがにストーナー(ドラックキメキメ状態)と呼ばれるだけに、当時としては異様なハード・ロック・アルバムとして映ったに違いないのではないでしょうか。 元祖メタルと呼ぶには、パンク・ムーヴメントの強烈な荒廃感の方が目立つ気もしますが、得体の知れない破壊力と言う意味ではサバスやツェッペリンに匹敵するものは今聴いても十分感じ取れる大傑作です。	1サマータイム・ブルース 2ロック・ミー・ベイビー 3ドクター・ブリーズ 4アウト・オブ・フォーカス 5パーチメン・ファーム 6セカンド・タイム・アラウンド	
	BLUE CHEER	ヴィンキュバス・イラプタム		1968	ハードロック＆ヘヴィメタル	CD	US			
	BLUE OYSTER CULT	地獄の咆哮		1975	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	UK	75年リリース作、BOC初のライブ盤となったアルバムです。 3枚のスタジオ・アルバムをリリース後、マニアックな人気から全米を代表するハード・ロック・バンドへと変貌していった時期のバンドの乗りに乗った姿がパッケージされています。ニューヨークのアンダーグラウンド・シーンでも支持されたカルト的な香りが、それまでのアメリカン・ハードにはなかった知性を感じさせます。その一方でKISSにも通じるエンターテイナーぶりが目立ち、豪快なリフ&リル・ギターと、どこかとぼけたユーモアなキャラクターが同居する、かなり個性の強いバンドでもあったと思います。ただ彼等の本領はそうした新しいHR/HMセンスではなく、ライヴ・バンドとしての実力であったのが本作でも良くわかります。これでもかとばかりに繰り出されるハード・ロックのダイナミズムと、メロウなナンバーで目立つ繊細なバンド・サウンドは、ライヴならではの圧倒的な説得力を持っています。日本ではなかなか評価される事が無かったのが残念ですが、西洋的ホラー感覚と豪快さとサイケ感覚の入り混じったハード・ロックが馴染まなかったせいが強かったのが原因だと思われます。ブルー・オイスター・カルトというかなり特殊だったこのバンド、素晴らしさ、楽しさはライヴでこそ理解できるという事なのかもしれません。	1. Subhuman 2. Harvester Of Eyes 3. Hot Rails To Hell 4. The Red & The Black 5. Seven Screaming Dizbusters 6. Buck's Boogie	1. Last Days Of May 2. Cities On Flame 3. ME 262 4. Before The Kiss (A Redcap) 5. I Ain't Got You 6. Born To Be Wild
	BLUE OYSTER CULT	タロットの呪い		1976	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	US	76年作、ブルー・オイスター・カルトの通産4作目となったアルバムです。 ブラック・サバスへのアメリカからの返答、的な存在として知られていましたが、本作も手掛けているプロデューサー、サンディ・パールマンにより「ヘヴィ・メタル」とその音楽性を称された事でも一躍有名になりました。 彼等の場合、ニューヨークのアンダーグラウンド・シーンともリンクしていただけに、同時期のブリティッシュ・ハード勢とは違った受け入れられ方があったのだと思います。 オカルトをテーマに盛り込みながら、どこか知性を感じさせる歌詞世界と音楽性、またアメリカ人らしい陽気なオトボケ度もバンドのキャラを際立てていたと思われます。 彼等の代表曲となった「死神」におけるメロディ・センス、ハード・ロックとはかけ離れた可愛いポップ・センスは、バンドの器用すぎる程の個性を決定付けています。		
	BOBBIE GENTRY	オード・トゥ・ビリー・ジョー		1967	フォークロック	レコード	US	アメリカのシンガー・ソングライター「ボビー・ジェントリー」のデビューアルバム。4週連続して全米チャート1位を独走し、グラミー賞最優秀新人賞など3部門を獲得。日本では「ビリー・ジョーの唄」が60年代フォークのヒット曲として知られている程度だが、当時の排他的なアメリカ南部の生活を小説風に描く哲学的な歌と、女性の権利を勝ち取ろうとした生き様が、アメリカはもちろん、イギリスやヨーロッパでも高い人気を持っている。現在でも根強い支持があるが、1981年に引退している。 アメリカ南部の泥臭いフォーキー・サウンドやシュールなストリング・アレンジは、十二分にサイケだと感じる。スワンプ・ロックやカントリー・ロックの先駆けともいえる。なかでもアルバム・ラストの「オード・トゥ・ビリー・ジョー(邦題:ビリー・ジョーの唄)」のシングルが全米No.1ヒットの大ヒットになりボビー・ジェントリーの代名詞になった。また、アルバム中でも1曲目のブルーズ・ナンバー「ミシシッピ・デルタ」は素晴らしく、ファンキーでソウルフルなノリとサウンドを持っており、1967年時点での最新ブラック・ミュージックふうでありつつ、アメリカン・ルーツ志向(アメリカーナ)的でもあります。でも曲はポップなロック・ナンバー。	Side A 1. Mississippi Delta 2. I Saw an Angel Die 3. Chickasaw County Child 4. Sunday Best 5. Niki Hoeky	Side B 1. Papa, Won't You Let Me Go to Town with You? 2. Bugs 3. Hurry, Tuesday Child 4. Lazy Willie 5. Ode to Billie Joe
	BOB DYLAN	フリーホイーリン・ボブ・ディラン		1963	フォークロック	レコード	UK	ボブ・ディラン2作目のスタジオ・アルバム。ディランを一躍有名にした「風に吹かれて」をはじめ、「北国の少女」、「戦争の親玉」、「はげしい雨が降る」、「くよくよするなよ」他を収録している。出世作「風に吹かれて」をはじめ、「戦争の親玉」「第3次世界大戦を語るブルース」などのプロテスト・ソングによって、彼を「フォークの貴公子」として売り出すことに貢献したアルバムである。しかし、そういった時事的問題のみならず、恋愛における内面の矛盾を扱った「くよくよするなよ」や、混沌としたイメージに溢れる「はげしい雨が降る」などもある。 ジャケット写真に一緒に写っているのは、当時のガールフレンドだったスーズ・ロトロ。場所はニューヨークのグリニッジ・ヴィレッジ、ジョーンズ・ストリートが西4番ストリートに突き当たるあたり[3]で、ここから数ヤード離れたアパートに2人は一緒に住んでいた。 ビルボード・トップ LP's チャートで最高22位、全英アルバム・チャートで1位を記録した。RIAAによりプラチナ・ディスクに認定されている。	Side A 1. 風に吹かれて 2:48 2. 北国の少女 - 3:22 3. 戦争の親玉 - 4:34 4. ダウン・ザ・ハイウェイ - 3:27 5. ボブ・ディランのブルース - 2:23 6. はげしい雨が降る - 6:55 7. くよくよするなよ - 3:40	Side B 1. ボブ・ディランの夢 5:03 2. オックスフォード・タウン 1:50 3. 第3次世界大戦を語るブルース - 6:28 4. コリーナ、コリーナ - 2:44 5. トラディショナル 6. ワン・モア・チャンス - 2:01 7. アイ・シャル・ビー・フリー - 4:49
	BOB DYLAN	フリーホイーリン・ボブ・ディラン		1963	フォークロック	CD	日本			

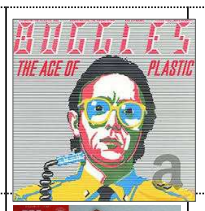
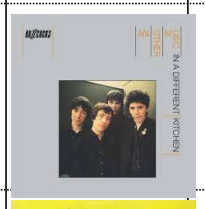
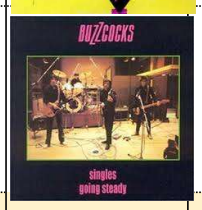
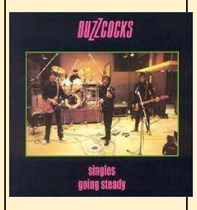
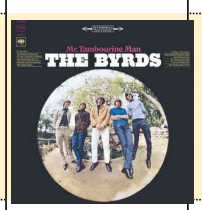
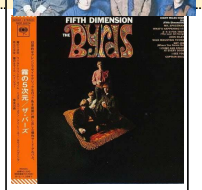
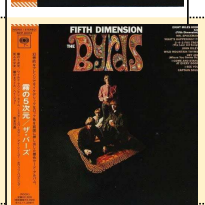
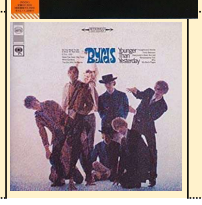
	BOB DYLAN	時代は変る		1964	フォークロック	レコード	日本	1964年にリリースされたボブ・ディラン3作目のスタジオ・アルバム。半数以上がプロテスト・ソングで、アルバム・タイトル曲や「神が味方」「ノース・カントリー・ブルース」「ハッティ・キャロルの寂しい死」など、プロテスト・ソングの代表作とされる曲が並び、この時期のディランのイメージを最もよく示す。一方、スーズ・ロトロとの関係が冷却化していた時期で「いつもの朝に」「スペイン革のブーツ」などにそれが反映しているという説もある。また、予言的な内容を持つ「船が入ってくるとき」や過去との決別を歌った「哀しい別れ」などは、その後のディランにつながる作品とされる。LP盤裏ジャケットには「11のあらましな墓碑銘」(11 Outlined Epitaphs)という長編の自由詩が掲載されており、裏ジャケットに掲載しきれない部分はインナースリーヴに封入された。 ビルボード・トップ LP's チャートで最高20位、全英アルバム・チャートで4位を記録した。RIAAによりゴールド・ディスクに認定されている。	**Side A** 1. 時代は変る ' – 3:15 2. ホリス・ブラウンのバラッド – 5:06 3. 神が味方 – 7:08 4. いつもの朝に – 2:41 5. ノース・カントリー・ブルース – 4:35	**Side B** 1. しがない歩兵 – 3:33 2. スペイン革のブーツ – 4:40 3. 船が入ってくるとき – 3:18 4. ハッティ・キャロルの寂しい死 – 5:48 5. 哀しい別れ – 5:32
	BOB DYLAN	アナザー・サイド・オブ・ボブ・ディラン		1964	フォークロック	レコード	UK	1964年にリリースされたボブ・ディラン4作目のスタジオ・アルバム。「黒いカラスのブルース」で初めてピアノ演奏を披露した以外、すべてアコースティック・ギターとハーモニカによる弾き語りであるという点ではそれまでのフォークソングのスタイルと変らないが、曲調の上では「アイ・ドント・ビリーヴ・ユウ」や「悲しきベイブ」などにすでにロックの影響が認められる。バーズは「オール・アイ・リアリー・ウォント」「スパニッシュ・ハーレム・インシデント」「自由の鐘」「マイ・バック・ページズ」をフォークロックのスタイルでカバーしており、トールズも「悲しきベイブ」をカバーしてヒットさせた。以上のことから、次作の『ブリンギング・イット・オール・バック・ホーム』(1965年)と共に、フォークロックの始発点に位置づけられるアルバムと言える。 歌詞の面では、「スパニッシュ・ハーレム・インシデント」「自由の鐘」「マイ・バック・ページズ」などで、特定の事柄を描かず、暗喩もしくはシュールなイメージによって性や内面心理・自由の問題などを象徴的に描く作詞法が目立つようになる。この作詞法も後のロックの歌詞に大きな影響を与えることになった。 LP盤裏ジャケットには前作同様、ディラン自身の長編詩が記載された。前作では読みやすい大きさの活字で、記載しきれない部分はインナースリーヴに封入されたが、本作ではそのサービスは止め、小さい活字で裏ジャケットに全編を無理矢理、押し込めていた。 ビルボード・トップ LP's チャートで最高43位、全英アルバム・チャートで8位を記録した。RIAAによりゴールド・ディスクに認定されている。	**Side A** 1. オール・アイ・リアリー・ウォント– 4:04 2. 黒いカラスのブルース – 3:14 3. スパニッシュ・ハーレム・インシデント– 2:24 4. 自由の鐘 – 7:10 5. アイ・シャル・ビー・フリー– 4:47 6. ラモーナに – 3:52	**Side B** 1. 悪夢のドライブ – 4:33 2. マイ・バック・ページズ – 4:22 3. アイ・ドント・ビリーヴ・ユウ – 4:22 4. Dのバラッド – 8:16 5. 悲しきベイブ – 3:33
	BOB DYLAN	ブリンギング・イット・オール・バック・ホーム		1965	フォークロック	レコード	US	1965年に発表した通算5枚目のアルバム。不滅の名盤・偉大なる音楽遺産を未来へ繋いでいく「レガシー・レコーディング・シリーズ」がスタート。あなたの人生を変えるかもしれない1枚がここにあるかもしれない。 1962年にフォーク・ソングの旗手としてデビューした彼が初めてエレクトリック・サウンドを取り入れた通算5作目。初めて全米トップ10入り(6位/全英1位)した作品であるとともに"フォーク・ロック"という新たなジャンルを確立した作品としてロック史における最重要作。代表曲のひとつである「ミスター・タンブリン・マン」はバーズによってカヴァーされ、全米チャートで1位を記録した。歴史を動かした必聴のアルバム。	**Side A** 1. サブタレニアン・ホームシック・ブルース 2. シー・ビロングズ・トゥ・ミー 3. マギーズ・ファーム 4. ラヴ・マイナス・ゼロ/ノー・リミット 5. アウトロー・ブルース 6. オン・ザ・ロード・アゲイン 7. ボブ・ディランの115番目の夢	**Side B** 1. ミスター・タンブリン・マン 2. エデンの門 3. イッツ・オールライト・マ 4. イッツ・オール・オーバー・ナウ、ベイビー・ブルー
	BOB DYLAN	追憶のハイウェイ61		1965	フォークロック	レコード	US	ボブ・ディランが1965年に発表した6作目のスタジオ・アルバム。本アルバムはディランが彼自身のサウンドを確立し、後のニュー・ミュージックの起点となった作品と言われる。初のトップ10ヒットとなった「ライク・ア・ローリング・ストーン」を含む9曲が収録されている。「ライク・ア・ローリング・ストーン」は1965年6月中旬に完成したが、残りの曲は1965年に行われた伝説的な「ニューポート・フォーク・フェスティバル」後間もない4日間に渡ったセッションで録音された。そのセッションでは次のシングル「寂しき4番街」も録音されたが本アルバムには収録されなかった。 サウンド的にはキーボードを導入して、前作より格段に厚みを増しており、歌詞に相応しい混沌とした音作りに成功している。バックで主要な貢献をしたのはマイク・ブルームフィールドとアル・クーパーである。ブルームフィールドは、彼の加入していたバタフィールド・ブルース・バンドがディランのマネージャーでもあったアルバート・グロスマンにマネジメントされていた関係で、セッションに参加することになった。彼はディランの初期のアルバムを聴いて、(それがあまりにひどいので)ディランにギターを教えてやるつもりだったという。彼のプレイはアルバム全体に複雑な彩りを添えており、特に「トゥームストーン・ブルース」で見事なソロを披露している。クーパーは飛び入り参加でギターをやるつもりだったが、ブルームフィールドのプレイに恐れをなして断念し、隅で見ていたところ、適当なオルガン奏者がいなかったので、彼自身もほとんどオルガンを弾いたことがなかったにも関わらず、強引に申し出たという。クーパーのプレイは「やせっぽちのバラッド」などでコントロールを失うところがあり、彼の話が必ずしも謙遜ではないことを示しているが、荒削りで力強い演奏がこのアルバムのサウンドに大きな迫力を与えている。 ビルボード・トップ LP's チャートで最高3位、全英アルバム・チャートで4位を記録した。RIAAによりプラチナ・ディスクに認定されている。2002年、グラミーの殿堂入りを果たした。	
	BOB DYLAN	追憶のハイウェイ61		1965	フォークロック	CD	日本			
	BOB DYLAN	ブロンド・オン・ブロンド		1966年	フォークロック	レコード	US	1966年リリース、通算7作目のスタジオ製作オリジナル・アルバム。 DISK1。2曲目はもろにブルースでまるでローリング・ストーンズ(No.2)。3曲目も似たような曲。ジョーン・バエズを指すとあるがディランは詩で表現するのが先決だと思う。4曲目はサビのメロディが独特の歌いまわしでサビの詩と併せてDYLANかっこいいな。6曲目は途中リズムが緩くなる所(ベース音)はジョージ・ハリスンの「This Song」みたいだ(ジョージずるいな)。尚、途中のreally beの所が「レリビー(let it be)」と聴こえる。7曲目はリードギターがハード。ディランが弾いているとあるが本当かなぁ？私見だが、その曲「ヒョウ皮・・・」とDISK2の「5人の信者達」のギターを聴いて発奮したポールは「タックスマン」等で、ジョージは「シー・セッド・・・」でリードを弾きまくったのではと思った。フォークの偉人にここまでやられて何するものぞといったような。先にも述べたがディランの歌は大体が叙情詩だ。ジョン・レノンは「イマジン」の映画で「ディランも言葉で遊んでいる。意味はあったりなかったりだ」と言った。これ程見事に言い当てた指摘はないだろう。 DISK2「我が道を行く」は独特のメロディと軽快なノリでかっこいい。「Absolutely・スイート・マリー」はドアーズの「ハートに灯をつけて」につながっているのではないかと思った。4曲目はビートルズの「ノルウェイの森」のパロディとあるが、シタール風でそうかと思ったがこれはディランの取り巻きがそうしていて当人は深く考えていないと思う。「ローランドの悲しい目の乙女」のsad-eyed・からは完全にビートルズのジョージの「ロング・ロング・ロング」。ご丁寧にキーボードまで同じ音色だ。	**Side 1** 1. 雨の日の女– 4:36 2. プレッジング・マイ・タイム – 3:50 3. ジョアンナのヴィジョン – 7:33 4. スーナー・オア・レイター– 4:54 **Side 2** 1. アイ・ウォント・ユー – 3:07 2. メンフィス・ブルース・アゲイン – 7:05 3. ヒョウ皮のふちなし帽 – 3:58 4. 女の如く– 4:52	**Side 3** 1. 我が道を行く – 3:30 2. 時にはアキレスのように – 5:02 3. アブソリュートリー・スイート・マリー – 4:57 4. フォース・タイム・アラウンド – 4:35 – Obviously 5 Believers – 3:35 **Side 4** 1. ローランドの悲しい目の乙女– 11:23
	BOB DYLAN	ナッシュヴィル・スカイライン		1969	フォークロック	レコード	UK	1967年に発表した8作目のスタジオ・アルバム。モーターサイクル事故後、隠遁生活を送っていたディランによる、久々のオリジナル・アルバムは、従来の攻撃的な音が影を潜めた渋いものとなった。伴奏も生ギターとハーモニカが中心というシンプルなもので、ディランのフォーク回帰も囁かれた。だが、以前のプロテストソングのような直接的な表現は見られず、ディラン自身がアメリカ先住民と共に立つアルバムのカバージャケットの写真も含め、一筋縄でいかない面がある。 アルバムタイトルの「ジョン・ウェズリー・ハーディング」は実在したアウトロー、ジョン・ウェズリー・ハーディンから採ったとされるが、米史上最悪の大統領の一人とされるウォレン・ハーディングのことを示しているとも言われている。 漂流者・移民・ペテン師・泥棒・ホーボーなど、疎外された者の立場から歌われる作品が多く、療養生活を契機とした原点回帰志向を示すものと考えられる。「見張塔からずっと」はディランの社会観を切り詰めた歌詞と冴えた旋律で集約したもので彼の代表作の一つとされる。多くのミュージシャンにカバーされ、特にジミ・ヘンドリックスの『エレクトリック・レディランド』(1968年)におけるバージョンが有名でディラン自身が以後の演奏ではこのバージョンを参考にしている。また、「あわれな移民」も哀調を帯びたワルツに乗せて疎外された内面の矛盾を深く描いた秀作である。 「聖オーガスチンを夢で見た」は隠遁中にザ・バンドとともに録音された「アカプルコに行こう」を基としている。原曲はアルバム『地下室(ザ・ベースメント・テープス)』(1975年)に収録。 拝啓地主様」はディランが遭遇した強欲な音楽関係者を諷したものと言われている。 「入り江に沿って」と「アイル・ビー・ユア・ベイビー・トゥナイト」はカントリー音楽の影響が強く、次作の『ナッシュヴィル・スカイライン』(1969年)の序奏ともいうべきものである。最高2位、全英1位を記録。	**Side A** 1. ジョン・ウェズリー・ハーディング – John Wesley Harding – 2:58 2. ある朝でかけると – As I Went Out One Morning – 2:49 3. 聖オーガスティンを夢でみた – I Dreamed I Saw St. Augustine – 3:53 4. 見張塔からずっと – All Along the Watchtower – 2:31 5. フランキー・リーとジュダス・プリーストのバラッド – The Ballad of Frankie Lee and Judas Priest – 5:35 6. 漂流者の逃亡 – Drifter's Escape – 2:52	**Side B** 1. 拝啓地主様 – Dear Landlord – 3:16 2. おれはさびしいホーボー – I Am a Lonesome Hobo – 3:19 3. あわれな移民 – I Pity the Poor Immigrant – 4:12 4. 悪意の使者 – The Wicked Messenger – 2:02 5. 入江にそって – Down Along the Cove – 2:23 6. アイル・ビー・ユア・ベイビー・トゥナイト – I'll Be Your Baby Tonight – 2:34
	BOB DYLAN	欲望		1976	フォークロック	レコード	日本	17作目のスタジオ・アルバム。このアルバムの制作開始にあたって、ディランはその当時、有名無名を問わずニューヨークにいたミュージシャンに片っ端から声をかけスタジオにつれていった。エリック・クラプトンの証言によると、スタジオは人であふれかえり混乱を極め、参加を見合わせざるをえなかった、とのことであった。レコーディングのやり方に対しては、エミルー・ハリスらがこう証言している。「ディランのレコーディングには楽譜もリードシートもない。キーはおろか、曲名さえ知らされない。それで私達はディランがおもむろにギターを弾き歌い始めると、彼の手元と唇の動きに最大限の注意を払い、合わせていかなければならない。なぜならそれが後にも先にも一回きりのレコーディングになるかもしれないからだ。」 結局、エリック・クラプトン、ココモ、ロジャー・マッギンといった有名どころは参加を見合わせ、残ったメンバーは、デビュー間もないエミルー・ハリス以外はすべて無名ミュージシャンばかりになった。しかし、残ったメンバーのロブ・ストーナー、スティーヴン・ソールズ、スカーレット・リヴェラらが醸し出す、ラグタイムとラテンミュージックを掛け合わせたような一種独特のサウンドは受け入れられ、アルバムはディラン最大のヒットを記録。メンバーにもそれぞれレコーディングの機会が与えられることとなった。 ビルボード5週連続1位、全英3位を記録。	**Side A** 1. ハリケーン – Hurricane – 8:33 2. イシス – Isis – 6:58 3. モザンビーク – Mozambique – 3:00 4. コーヒーもう一杯 – One More Cup of Coffee (Valley Below) – 3:43 5. オー，シスター – Oh, Sister – 4:05	**Side B** 1. ジョーイー – Joey – 11:05 2. ドゥランゴのロマンス – Romance in Durango – 5:50 3. ブラック・ダイアモンド湾 – Black Diamond Bay – 7:30 4. サラ – Sara – 5:29
	BOB WELCH	フレンチ・キッス		1977	ロック	レコード	日本			
	BOB WELCH	スリー・ハーツ		1979	ロック	レコード	日本			
	BOB MARLEY AND THE WAILERS	キャッチ・ア・ファイア		1972	レゲエ	レコード	ヨーロッパ	メジャーなレーベルでは初となるザ・ウェイラーズの1973年のアルバム。このアルバムにより、バンドは国際的な英雄となる。社会的な内容の歌詞と攻撃的な音は多くのリスナーに衝撃を与えた。また、他にもボブ・マーリーとピーター・トッシュという二人の曲の対決的な主題や、抑圧下での自由への楽観的な視点に惹き付けられた。全体をよりロック市場受けするものとするためにアルバム全体に改変を加えたのである。分かりやすい例としては、「コンクリート・ジャングル」にギターソロが追加されたり、曲の回転を高めスピードが速められたりした。ただし、マーリー自身はこのような改変を好意的に受け止めており、その後の音楽性にも取り込んでいる。「ハイ・タイド・オア・ロウ・タイド」と「オール・デイ・オール・ナイト」の2曲も同じ理由でアルバム未収録となった。2001年に発売された『キャッチ・ア・ファイア・デラックス・エディション』には、ブラックウェルが改変を加える前のオリジナル音源と、改変後の音源が2枚組で収録されている。	A面 1.Concrete Jungle – 4:13 2.Slave Driver – 2:53 3.400 Years – 2:45 4.Stop That Train – 3:55 5.Baby We've Got A Date – 3:57	B面 1.Stir It Up – 5:32 2.Kinky Reggae – 3:37 3.No More Trouble – 3:57 4.Midnight Ravers – 5:10
	BOB MARLEY AND THE WAILERS	ナッティ・ドレッド		1974	レゲエ	レコード	US	ナッティ・ドレッドは、ウイラーズのバンドメンバーからオートゥールへのボブ・マーリーの決定的な移行を捉え、彼の歌と執筆は現在フロントとセンターであり、改良されたバンドは彼の反抗的なラスタファリアンの世界観にしっかりと手を引いた。この1974年のリリースは、アル・アンダーソンのスパイダーギターフィル、Touterの電信キーボード、I-Threesの女性ボーカルコーラス、吸血鬼の角によって刻まれたラインナップのより新鮮なサウンドを反映しています。ジャマイカのトレンチタウンの怪しいゲットーの現実に関するポジションペーパーは、アルバムは一連の永続的なマーリーの古典を巻き起し、その陽気だが神秘的な話しフェードアウト(「あなたがダットバッグに入ったもの、デレ?」)で、ギディでセクシーなレゲエの国歌「Lively Up Yourself」で始まります。「ノー・ウーマン・ノー・クライ」の高揚ペップ・トーク、「ベリー・フル(しかし、私たちは空腹)」と「反乱軍の音楽(3時ロードブロック)」の厳しい派遣、タイトル曲と「革命」の強要を続けています。マーリー自身のドレッドヘアはまだその時に成長していましたが、これはそれにもかかわらず完全に成熟し、最も焦点を当て、善にかなっていて、リズミカルに魅力的では	**Side 1** 1.ライヴリー・アップ・ユアセルフ – 5:11 2.ノー・ウーマン、ノー・クライ – 3:46 3.ゼム・ベリー・フル – 3:13 4.レベル・ミュージック – 6:45	**Side 2** 1.ソー・ジャー・セイ – 4:28 2.ナッティ・ドレッド – 3:35 3.ベンド・ダウン・ロウ – 3:19 4.トーキン・ブルース – 4:07 5.レヴォリューション – 4:20
	BOB MARLEY AND THE WAILERS	ラスタマン・ヴァイブレーション		1976年4月30日	レゲエ	レコード	日本			

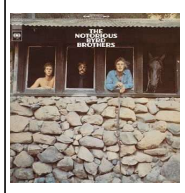
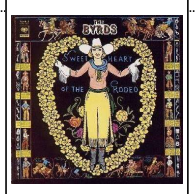
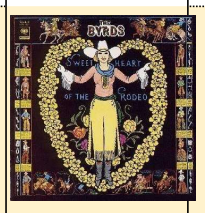
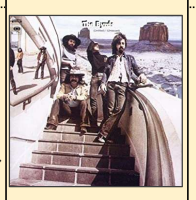
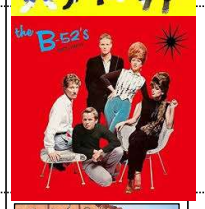
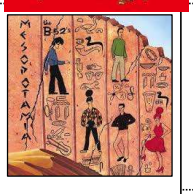
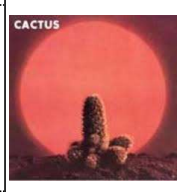
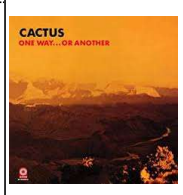
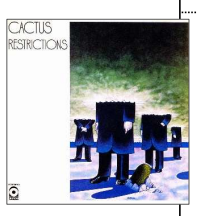
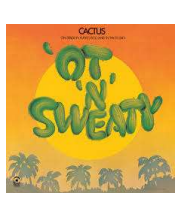
	BOB MARLEY AND THE WAILERS	ライヴ！		1975	レゲエ	レコード	日本	1975年に録音・発表したライヴ・アルバム。1975年7月のロンドン公演を収録。クレジット上はアイ・スリーズがバッキング・ボーカル担当となっているが、アイ・スリーズの3人のうち、ジュディ・モワットはこの時のツアーには参加していない[9]。録音は会場の外に停められたローリング・ストーンズ・モービル・スタジオ（モービル・ユニット）で行われた。レコーディング・エンジニアはスティーヴ・スミスが務めた。本作からは、「ノー・ウーマン、ノー・クライ」のライヴ・ヴァージョンが先行シングルとして発表されて、全英22位に達した。アメリカでは、総合アルバム・チャートのBillboard 200では90位、R&Bアルバム・チャートでは47位に達した。	**Side A** 1. トレンチタウン・ロック － 4:23 2. バーニン・アンド・ルーティン － 5:11 3. ゼム・ベリー・フル － 4:36 4. ライヴリー・アップ・ユアセルフ － 4:33	**Side B** 1. ノー・ウーマン、ノー・クライ － 7:07 2. アイ・ショット・ザ・シェリフ － 5:18 3. ゲット・アップ、スタンド・アップ － 6:28
	Boney M.	オーシャンズ・オブ・ファンタジー		1979年	ディスコ	レコード	日本	1979年にリリースされた4枚目のアルバム。70年代後半のディスコブームで一躍売れたドイツのユニット。ダンサブルなナンバーのなかにも、レゲエあり、カリプソありとバリエーションに富んでいてハズレの曲が無い傑作アルバム。メガ・ヒットは生まれなかったものの、アルバムの完成度は高く評価され、こちらもイギリスを含むヨーロッパ各国でナンバー・ワンを記録したほど売れたアルバム。中でもヨーロッパで1位を獲得した「ガッタ・ゴー・ホーム」や、アフロなドラムをフューチャーしたダンスチューン「No More Chain Gang」を収録。	**Side A** 1. 音楽が全て(Let It All Be Music) 4:50 2. ガッタ・ゴー・ホーム 3:45 3. バイ・バイ・ブルーバード 4:49 4. バハマ・ママ 3:17 5. ホールド・オン(Hold On I'm Coming) 3:36 6. トゥ・オブ・アス 3:16 7. 碧いリボン(Ribbons Of Blue) 1:04	**Side B** 1. オーシャンズ・オブ・ファンタジー 5:06 2. エルルーテの物語り(El Lute) 5:55 3. チェーン・ギャング(No More Chain Gang) 5:22 4. 生まれ変わった私(I' m Born Again) 4:08 5. ノータイム(No Time To Lose) 2:54 6. カレンダーソング 2:42
	Boney M.	マ・ーカー、サニー、ダディ・クール			ディスコ	レコード	日本			
	BON JOVI	夜明けのランナウェイ		1984	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	84年作、ボン・ジョヴィのデビュー・アルバム。当時はNWOBHMによる英国からのメタルの新風、そしてアメリカでのモトリー・クルー等の台頭、ナイト・レンジャー等の80年代ハード・ロックの登場の中で現われた新星として注目されました。「RUNAWAY」の鮮烈なイントロ、そしてジョンの端整なルックスがすぐさま人気を呼びましたが、本国ではブレイクしなかった。かなり欧州的な湿った陰りが。メロディアス・ハードと呼ばれたドラマティックな構成と、アメリカ的なパーティー・ロックの陽性がミックスされたユニークな音楽性をすでに見せていた事に改めて気づかされます。胸ときめくメロディ、計算し尽くされたアレンジは、やはり当時から優れていたと思います。「SHE DON'T KNOW ME」は、外部ライターのナンバーで、本作中では最もメロディアスでポップな佳曲。		
	BON JOVI	7800° ファーレンハイト		1985	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	85年リリース作、ボン・ジョヴィのセカンド・アルバム。日本では「夜明けのランナウェイ」の衝撃的なイントロと華麗なルックスにより、すでに次代のスターとしての地位を確立していましたが、本国アメリカにおいてはまだブレイクもしていないバンドの一つとしてこのアルバムも受け取られていました。次作のバラエティに富んだ内容に比べると、ここではメロディアス・ハード一色といった感が強い好盤になっています。当時の彼等はスコーピオンズやRATTとのツアーでかなり影響を受け、ハード・ロックを意識したそうですが、メロディの素晴らしさはすでに一級品と言えると思います。全曲が印象深いメロディで彩られているだけに、彼等のキャリアの中では地味な1枚とされている。		
	BON JOVI	スリッパリー・ホエン・ウェット		1986	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	US	86年作、ボン・ジョヴィのサード・アルバム。ジョヴィがハード・ロック、メタルのカテゴリで語られていたのは、本作をピークとするポップ・メタル、LAメタルのブームの中だったと思いますが、普段ロックを聴かない人達をも巻き込んだ現象が以降世界的ロック・バンドへのし上げていったのでした。ヴィジュアルが派手で、楽曲が覚えやすい、というバンドはなにも彼等が初めてだったわけではありません。このアルバムが非常に優れているは、ブルース・フェアバーン、デズモンド・チャイルドといったブレーンを採用し、80年代メタルの雛形とも言えるバラエティに富んだカラフルさを完成させた事だったと思います。圧倒的に完成されたスタジアム型アンセム、従来のアメリカン・ハードの伝統を引き継いだ土臭さ、甘くとろける様なハード・ポップ、バラード・ソングの上手さ、それらがバランス良く配置されています。けっして目新しい方法論ではないにせよ、ド派手なアレンジ、分厚いサウンド・プロダクションと共に、キラキラしていた時代を巧みに切り取ってみせたのだと思います。特に日本人にとっては、デビュー期から今一つ突き抜けない彼等の現状を悔しく思っていた人も多かったと思われ、本作で大ブレイク。新たな産業ロックのお手本となった事により、揶揄される事も確かに多いとは思いますが、80年代の音楽シーンが彼等を中心に回っていた時期が確かにあった		
	BON JOVI	夜明けのランナウェイ		1984	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本			
	BON JOVI	クロス・ロード		1994	ハードロック＆ヘヴィメタル	CD	日本	94年リリース、ボン・ジョヴィ初のオフィシャル・ベスト盤。結成10周年記念となった事もあり、選曲はバンド自身で行われたそうで、当然誰もが知るボン・ジョヴィ・ナンバーがズラリと並んでいます。 本作のために新曲として収録された2曲、「Someday I'll Be Saturday Night」、「Always」が大きな目玉となりました。前者は現在でもライヴの定番曲となっているナンバーで、ボン・ジョヴィがストレートで陽性なロック・バンドとして80'sメタル・シーンからいち早く脱却した事を象徴するものと言える1曲です。 また「Livin' On A Prayer」以降開花した、ストリート目線でのストーリー・テラーとしてもますます冴えわたる歌詞も魅力的で、ブルース・スプリングスティーン等のアメリカン・ロックの正当後継者としての先天性を露わにした曲でもあったと思います。そして彼等の究極のラヴ・ソングと言える「オールウェイズ」、元々映画のために用意された曲らしいのですが、バラード・メイカーとして最高峰のバンドである事を改めて再認識させてくれた名曲となりました。この2曲もシングル・ヒットを記録、アルバム自体も各国で軒並み1位となる大ヒットをしたが、本国アメリカでは意外にもチャートNo.1を逃した。	1リヴィン・オン・ア・プレイヤー (4:10) 2キープ・ザ・フェイス (5:44) 3サムデイ・アイル・ビー・サタデイ・ナイト (4:39) 4オールウェイズ (5:53) 5ウォンテッド・デッド・オア・アライヴ (5:07) 6レイ・ユア・ハンズ・オン・ミー (5:58) 7禁じられた愛 (3:44)	8ベッド・オブ・ローゼズ (6:33) 9ブレイズ・オブ・グローリー (5:39) 10TOKYO ロード (5:43) 11バッド・メディシン (5:16) 12アイル・ビー・ゼア・フォー・ユー (5:41) 13恋の切り札 (4:27) 14夜明けのランナウェイ (3:52) 15ネヴァー・セイ・グッドバイ (4:51)
	BONZO DOG BAND	仲良き事は美しき哉		1972	ロック	CD	日本	ボンゾ・ドッグ・バンドが一旦解散した後に出した,いわゆる再結成盤で,72年の作品。わりと力の抜けた感じ(?)のアルバムではあるが,もちろんクオリティは高いし,いい曲/面白い曲がたくさん入ってる。	1. ザ・ストレイン 2. ターキーズ 3. キング・オブ・スカーフ 4. ワードローブを待ちながら 5. ストレイト・フロム・マイ・ハート 6. ラスティ	7. ロウリンスン・エンド 8. ドント・ゲット・ミー・ロング 9. フレッシュ・ウーンド 10. バッド・ブラッド 11. スラッシュ 12. サスピション 13. ズボン・フリーク
	BONZO DOG BAND				ロック	レコード	UK			
	BONZO DOG BAND			1996	ロック	CD	UK	The Bonzo Dog Band の初期4枚、 「ゴリラ」(「Gorilla」)、「おばあちゃんの温室のドーナツ」(「The Doughnut In Granny's Greenhouse」)、「タッドポールズ」(「Tadpoles」)、「ケインシャム」(「Keynsham」)の4枚の紙ジャケットCDがCDサイズのボックスに収納。「おばあちゃんの温室のドーナツ」のみ見開きジャケット。		
	BOOM TOWN RATS	ブームタウンラッツ		1977	パンク	レコード	日本			
	BOOM TOWN RATS	ブームタウンラッツ		1977	パンク	レコード	UK			
	BOOM TOWN RATS	ブームタウンラッツ		1977	パンク	レコード	US			
	BOOM TOWN RATS	トニック・フォー・ザ・トゥループス		1978	パンク	レコード	日本			
	BOOM TOWN RATS	トニック・フォー・ザ・トゥループス		1979	パンク	レコード	UK			

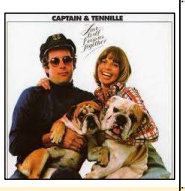
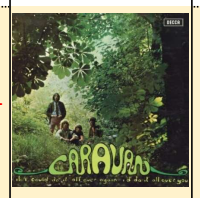
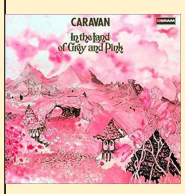
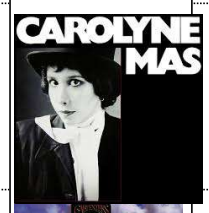
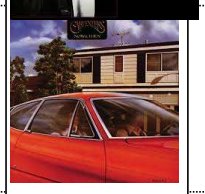
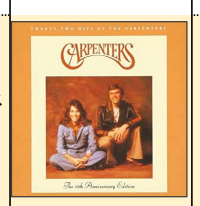
	BOOM TOWN RATS	哀愁のマンデイ		1979	パンク	レコード	日本			
	BOOM TOWN RATS	哀愁のマンデイ		1979	パンク	レコード	US			
	BOOM TOWN RATS	哀愁のマンデイ		1979	パンク	レコード	UK			
	BOOM TOWN RATS	モンドボンゴ		1981	パンク	レコード	日本			
	BOSTON	幻想飛行		1976	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	1976年に発表されたボストンのデビューアルバム。全米チャート3位まで上昇。ノリのいいエイトビートのバッキングにメロディアスなギターソロをフューチャーした厚いサウンド。エコーをきかせたハイトーンのヴォーカルと美しいコーラス。れらが多重録音によって厚いアンサンブルを奏でる。 生の音ではない、創られた音の完成形の一つのカタチというものをここにみることができる。 全体に、スペイシーな広がりのある厚いサウンドと美しくメロディアスで緩急の効いたテイストの楽曲で構成されているのがこの作品の特徴だ。		
	BOSTON	ドントルックバック		1978	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	1978年8月2日にリリースされたセカンドアルバム。アメリカンハード名盤中の名盤。様々な音源を一つ一つ重ね合わせて作り上げられた超重厚宇宙空間的サウンドは、世界中のリスナーの度肝を抜くこととなりアルバムセールスはついに全米チャート1位を獲得。 リズムボックスさえも使用しないというこだわり様は、天才を超えた変人の域に達する境地とも言えるでしょう。		
	BOW WOW WOW	ジャングルでファン・ファン・ファン			ニューウェイブ	レコード	日本			
	BOW WOW WOW	バウ・ワウ・ワウ			ニューウェイブ	レコード	日本			
	BOXER	痛いところを突く		1975	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	UK	伝説のイギリスのバンドによる1975年のデビュー・アルバム。カルトヒーローのパットの終焉から2年後に元PATTOの中心メンバーの2人のマイク・パトゥ(Vo)とオリー・ハルソール(G/Key)が75年に結成したグループ。バンドのラインナップは、ベーシストのキース・エリス(以前はファン・デル・グラーフ・ジェネレータ、ジューシー・ルーシー、不気味な歯)とドラマーのトニー・ニューマンによって完成しました。パトウの黒っぽい歌とオリーのジャジーでエネルギッシュなギターが炸裂するストレートなロックは爽快そのもの。 元メイ・ブリッツのトニー・ニューマンと元ジューシー・ルーシーのキース・エリスの重量級のリズム隊も迫力満点。過激なジャケットが話題になり、裏面に写る女性は無修正だったことからすぐに回収、アンダー・ヘアはベルトで隠されましたが、本作はそのベルトで隠されていないオリジナルのファースト・ジャケット。		
	BOYS	ボーイズ		1977	パンク	レコード	イタリア	70年代に英国ロンドンで結成された初期パンクを代表するバンド、ボーイズの1STアルバム。パンク・バンドとしては珍しいキーボード奏者を含む5人組、ボーイズが77年にリリースした名盤の誉れ高きファースト。パンクのみならず、グラム・ロックやパブ・ロックからの影響も高いスピーディーでポップなサウンドが魅力。 1曲目から疾走感のあるイントロと鋭いギターリフにブギウギ・ピアノでロックンロール「Sick On You」から始まって、ラストの「Living In The City」までキャッチーでポップな激走パンキッシュR&Rナンバーのオンパレードで息つく暇もないくらい勢いで初期衝動を感じる一枚。名曲がずらりと素晴らしの一言。	Side A 1. Sick On You 2. I Call Your Name 3. Tumble With Me 4. Tonight 5. I Don't Care 6. Soda Pressing 7. No Money	Side B 1. First Time 2. Box Number 3. Kiss Like A Nun 4. Cop Cars 5. Keep Running 6. Tenement Kids 7. Living In The City
	BOYS	ボーイズ		1977	パンク	レコード	UK		**以下、CDボーナストラック** 15. Watcha Gonna Do 16. Turning Grey 17. The First Time (Long Version) 18. Lonely Schooldays (Demo) 19. I Don't Care (Alternative Version) 20. Take A Heart (Demo) 21. Run Rudolph (The Yobs) 2. The Worm Song (The Yobs)	
	BOYS				パンク	レコード	UK			
	BOYS				パンク	レコード	イタリア			
	BOZ SCAGGS	シルク・ディグリーズ		1976	AOR	レコード	日本	ソロ・デヴューするもブルースに傾倒したスタイルで暫しヒットに恵まれなかったBOZ SCAGGSのターニングポイントとなるアルバム。76年の春にリリースされた通算7枚目のスタジオ・アルバムにして、A.O.R.という語源の発祥の道標となった最高傑作。このアルバムにアレンジメントと鍵盤で参加したスタジオミュージシャン・DAVID PAICHとドラムスのJEFF PORCAROは、この共演をきっかけにのTOTOを結成したのも有名な話であり、サンプリングソースとしても名高いシングル楽曲"Lowdown"(sample1)は勿論、LINUS LOVESによるリエディットもある"What Can I Say"(sample2)、ニューオーリンズ出身のピアニスト・ALLEN TOUSSAINTのカバー曲"What Do You Want The Girl To Do"や、当初"Lido Shuffle"(sample3)のB面の扱いであったが、RITA COOLIDGEによるカバーのヒットによって再評価されボズの代表曲となった感動フィナーレの大名曲"We're All Alone"など、全10曲		
	BOZ SCAGGS	ミドルマン		1980年	AOR	レコード	日本	新しく鮮烈なスピリットを感じさせるボズのAOR 三部作の掉尾を飾る名盤。プロデュースに新たにビル・シュネイを迎え、アレンジにデヴィッド・フォスターを起用。『シルク・ディグリーズ』『ダウン・トゥー・ゼン・レフト』、そして本作はAOR三部作と呼ばれ、ボズ・スキャッグスは人気の絶頂を迎える。プロデューサーのビル・シュネイ、デヴィッド・フォスターの指揮のもと、さらに洗練を極め、メリハリの効いたハイセンスなサウンドは、ジェフ・ポーカロ(ds)やデヴィッド・ハンゲイト(b)、スティーヴ・ルカサー(g)、レイ・パーカーJr(. g)らが参加。「ブレークダウン・デッド・アヘッド」(全米15位)、「ジョジョ」(全米17位)がシングル・カットされ、アルバムは全米8位にランキングされた。当時2 度目の来日公演もあり、テレビでもその公演が中継されアルバムもベスト・セラーとなった。カルロス・サンタナのパフォーマンスも聞きのがせない。	**Side A** 1. ジョジョ 2. ブレイクダウン・デッド・アヘッド 3. シモン (僕の心をもてあそぶ) 4. トワイライト・ハイウェイ	**Side B** 1. ミドル・マン 2. イン・ニューヨーク 3. エンジェル・ユー 4. イズント・イット・タイム 5. ユー・ガット・サム・イマジネイション
	BRAINS			1980	ニューウェーヴ	レコード	US	ザ・ブレインズは『ザ・ブレインズ』のデビュー・アルバム。1980年にリリースされ、3年後にリリースされたポップ歌手シンディ・ローパーの実質的なヒットシングルとなった「マネー・チェンジ・エヴリシング」のオリジナル・レコーディングが収録されている。		

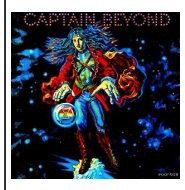
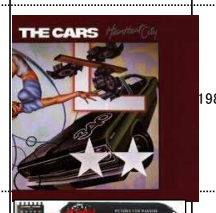
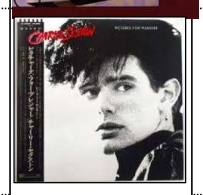
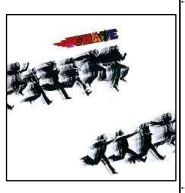
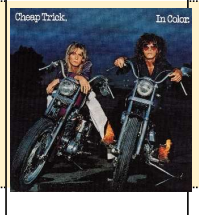
	BRAM TCHAIKOVSKY	ストレンジマン・チェンジマン		1979	パワーポップ	レコード	UK			
	BRAM TCHAIKOVSKY	ストレンジマン・チェンジマン		1979	パワーポップ	レコード	US			
	BRAM TCHAIKOVSKY	プレッシャー			パワーポップ	レコード	US			
	BRAM TCHAIKOVSKY	脅威の黒い影			パワーポップ	レコード	日本			
	Brian Eno	ヒア・カム・ザ・ウォーム・ジェッツ		1974年1月	ニューウェイブ	レコード	UK	1stソロ作品。本アルバムはROXYMUSICの2nd「For Your Pleasure」から脱退に至り、そこからほぼ間を空けず制作されたアルバムだ。さて1曲目の“Needles In the Camel's Eye ”は映画「ベルベット。ゴールドマイン」でもオープニングに使用された曲で、数多くのカバーを発生させた傑作だ。アルバムタイトルでもある“Here Come the Warm Jets”が本当に冒頭から格好良く鳥肌物だ。次作に含まれる“ Third Uncle”にも繋がるテーマであろう。 かなりエキセントリックなモダーン・ポップの傑作。我国のパンク・ニューウェーブ・シーンにも計り知れない影響を与えた作品のひとつだろう。願わくばこの1stを手に取ったなら2ndと3rdの「Another Green World」までは是非聴いて欲しい。 ROXYMUSIC時代から彼が好む音楽の密度や構成、空間は一貫しており、次第に整頓・洗練されてゆき、後にアンビエントに進んだことも理解が出来ると思う。	**Side A** 1. ニードルズ・イン・ザ・キャメルズ・アイ – 3:10 2. ザ・ボー・ポー・ニグロ・ブロウトーチ – 3:05 3. ベイビーズ・オン・ファイアー – 5:19 4. シンディ・テルズ・ミー – 3:25 5. ドライヴィング・ミー・バックワーズ – 5:12	**Side B** 1. オン・サム・ファーラウェイ・ビーチ – 4:36 2. ブランク・フランク – 3:37 3. デッド・フィンクス・ドント・トーク – 4:19 4. サム・オブ・ゼム・アー・オールド – 5:11 5. ヒア・カム・ザ・ウォーム・ジェッツ – 4:04
	BRINSLEY SCHWARZ	1st+2nd		1970	パブロック	CD	日本	1stの記念すべきブリンズリーの1stアルバム。全曲がニック・ロウの作品（1．のみロウを含めたメンバーの共作）で、既に優れたソング・ライテングを見せています。いきなりPOCOかよ？と思わせるコーラスが出てきてビックリしますが、元々このグループはウェスト・コースト・サウンドを目指していたらしく、その目論みはかなりいい線いっていると思います。4．なんかは完全にCSNです。そんなわけで全編にウェスト・コースト系のコーラスが聞かれますが、どこかがアメリカ勢とは違うぞ・・・という微妙な違いがあってそこがまた魅力になっています。まだアレンジに？？？の部分もあり（4．は7分超の長尺、7．は10分超だが短い曲がいくつか入っている）全体に荒削りではありますが、耳に心地が良い音なので、好き嫌いが分かれる音ではないと思います。とりあえずニック・ロウのファンは必聴でしょうね。ちなみにまだイアン・ゴムはいません。 2nd「ディスパイト・イット・オール」 70年11月にﾘﾘｰｽされた2作目。前作よりもﾆｯｸ・ﾛｳのｿﾝｸﾞﾗｲﾃｨﾝｸﾞに磨きが掛かり、ｱｰｼｰなｻｳﾝﾄﾞを強調したﾊﾞﾝﾄﾞ・ｻｳﾝﾄﾞも見事で成長が伺える。ﾌｫｰﾙﾄﾞを従えた#1はﾊﾞｰｽﾞで有名なDylanの”You Ain't Going Nowher”のﾒﾛﾃﾞｨｰをそのまんま借用したﾅﾝﾊﾞｰ。ﾌｨﾄﾞﾙと絡むﾌﾞﾘﾝｽﾞﾚｰのｷﾞﾀｰが絶品で、ｳｷｳｷと跳ねる感覚が聞き手の心も楽しくさせてくれる。#2のｵﾙｶﾞﾝとﾋﾟｱﾉを重ねたﾎﾞﾌﾞ・ｱﾝﾄﾞﾘｭｰｽのｾﾝｽも抜群だが、人懐っこいﾒﾛﾃﾞｨｰがいつまでも心に残る印象的なﾅﾝﾊﾞｰ。#3はこれｷﾞﾀｰ何本重ねてるんや？とﾌﾞﾘﾝｽﾞﾚｰのｷﾞﾀｰが大活躍するﾅﾝﾊﾞｰでｿﾛ部等、別のﾌﾚｰｽﾞを奏でるｷﾞﾀｰが重なって行く様は見事の一言。良く練られています。特筆すべきは#5のさりげない美しさでﾆｯｸ・ﾛｳって本当に良い曲を書くよなぁと誰もが思ってしまう筈！ｽﾃｨｰﾙｷﾞﾀｰを導入したｶﾝﾄﾘｰ#6,弾き語り調の#7 とｱﾚﾝｼﾞの幅も広がり英国のThe Bandとの言葉がﾋﾟｯﾀﾘ来る好盤	1ヒム・トゥ・ミー 2シャイニング・ブライトリー 3ロック・アンド・ロール・ウィメン 4レディ・コンスタント 5ホワット・ドゥ・ユー・サジェスト? 6メイフライ 7バラッド・オブ・ア・ハズ・ビーン・ビューティ・クイーン 8カントリー・ガール 9スロウ・ワン 10ファンク・エンジェル 11ピース・オブ・ホーム 12ラブ・ソング 13スター・シップ 14イブリー・ダウン 15オールド・ジャロウ	
	BRINSLEY SCHWARZ	シルヴァー・ピストル		1972	パブロック	レコード	UK	72年発表の3rd。ニック・ロウのソング・ライティングが冴えわたり、新加入のイアン・ゴムとの化学反応が理想的な形で結実した傑作の誉れ高いアルバム。英国カントリー・ロックのアルバムとしては重要、かつ楽しめる作品。リラックスした雰囲気を持ったこのアルバムは昼下がりに聴くにはもってこいだろう。カントリー路線とは言ってもビートルズの4thアルバムに似た雰囲気も持っている。ニック・ロウの曲はビートルズの影響は感じるものの、露骨にそれが出ているものは少ないのだけど、このアルバムでは結構その辺りが垣間見れて微笑ましい。ロウが6曲、イアン・ゴムが4曲、ジム・フォードの曲が2曲といった内容で、どちらのファンも納得か？4．はロウ作のカントリー・ワルツだが、近年のアコースティック路線の作風に非常に近い雰囲気を持っている佳曲。ギターの間奏が何となくビートルズの「If I Fell」を思わせる6．もカントリー路線の良い曲だ。7．ではモロに「Words Of Love」のフレーズが出て来て、「ああビートルズなんだな」と納得してしまう。グループの方向性がはっきりと分かる好盤である。ロウ作の佳作「ナイチンゲール」収録。4曲のボーナス・トラックを特別収録。	Side A 1. ドライ・ランド 2. メリー・ゴー・ラウンド 3. ワン・モア・デイ 4. ナイチンゲール 5. シルヴァー・ピストル 6. ザ・ラスト・タイム・アイ・ウォズ・フールド	Side B 1. アンノウン・ナンバー 2. レンジ・ウォー 3. エジプト 4. ニキ・ホーキー・スピードウェイ 5. ジュ・ジュ・マン 6. ロッキン・チェアー
	BRONSKI BEAT	トゥルースデア・ダブルデア		1986	エレクトロニクス	レコード	日本			
	BRUCE SPRINGSTEEN	アズベリー・パークからの挨拶		1973	ロック	レコード	日本			
	BRUCE SPRINGSTEEN	青春の叫び		1973	ロック	レコード	日本			
	BRUCE SPRINGSTEEN	明日なき暴走		1975	ロック	レコード	日本			
	BRUCE SPRINGSTEEN	闇に吠える街		1978	ロック	レコード	US			
	BRUCE SPRINGSTEEN	闇に吠える街		1978	ロック	レコード	日本	全米5位、全英16位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	ザ・リバー		1980	ロック	レコード	US			
	BRUCE SPRINGSTEEN	ザ・リバー		1980	ロック	レコード	日本			

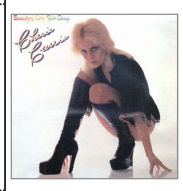
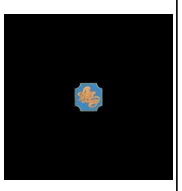
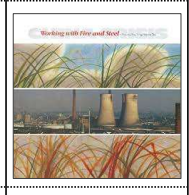
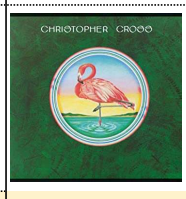
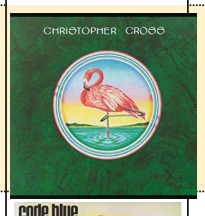
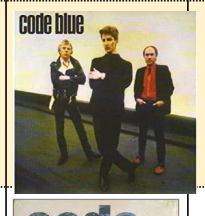
	BRUCE SPRINGSTEEN	ネブラスカ		1982	ロック	レコード	日本	全米3位、全英3位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	ボーン・イン・ザ・U.S.A.		1984	ロック	レコード	日本	全米1位、全英1位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	The "Live" 1975-1985		1986	ロック	レコード	日本	全米1位、全英4位獲得。		
	BRUCE SPRINGSTEEN	グレイテスト・ヒッツ		1995	ロック	CD	日本	1995年に発表。20余年の軌跡をたどる、彼自身の選曲による全18曲。もちろん、この18曲で彼の存在を語り尽くすことなどできない。けれどもデビュー以来貫いてきた姿勢は、ファンの心には十分伝わってくるハズだ。 70年代を駆け抜けた疾走感満点のサウンド、男の人生を歌ったストリート・ロック、労働者史観的に歌いあげたアメリカへの想いは、思わず拳を握りしめてしまうほどに熱く、ストレートでエネルギッシュな力強さが全面からあふれでる。グラミー賞受賞曲<14>も収録。彼のロック・スピリッツは、リスナーの心をとらえて離さない。	1明日なき暴走 2涙のサンダーロード 3バッドランド 4ザ・リバー 5ハングリー・ハート 6アトランティック・シティ 7ダンシン・イン・ザ・ダーク 8ボーン・イン・ザ・U.S.A. 9マイ・ホームタウン	10グローリィ・デイズ 11ブリリアント・ディスガイズ 12ヒューマン・タッチ 13ベター・デイズ 14ストリーツ・オブ・フィラデルフィア 15シークレット・ガーデン 16マーダー・インコーポレイテッド 17ブラッド・ブラザーズ 18ディス・ハード・ランド
	BRUCE SPRINGSTEEN				ロック	レコード	US			
	BRUCE WOOLLEY & THE CAMERA CLUB	イングリッシュ・ガーデン		1979	ニューウェーヴ	レコード	日本	バグルスの大名曲「ラジオスターの悲劇」の共作者として知られるブルース・ウーリー率いる英パワー・ポップ・バンドの1979年発売のデビューアルバム。ヒット曲「ラジオスターの悲劇」「クリン・クリン」を含む。		
	BRYAN ADAMS	ギブ・ミー・ユア・ラブ		1980年2月12日	ロック	レコード	日本	1980年リリース。ブライアンアダムスのデビュー・アルバム。このアルバムは、当然の事ながら、大ヒットした3rd「Cuts Like a Knife」、最高傑作と目されている4th「Reckless」等の作品の深み、完成度には及びません。しかし、私達の持つイメージよりも、やや高音でクリアーなボーカルから放たれるチューンは、非常にポップでシンプル且つ軽快な仕上がりとなっており、彼の後の成功を十分に予感させるクオリティとなっています。彼のヒストリーを知る上でもコアなファンにとって、是非ともチェックしておきたい作品。全9曲	**Side A** 1. 愛の隠れ家 (Hidin' From Love) 2. 時は去り行く(Win Some Lose Some) 3. 最後のチャンス(Wait And See) 4. ギブ・ミー・ユア・ラヴ 5. ウェイスティン・タイム	**Side B** 1. さよならいわなで(Don't Ya Say It) 2. リメンバー 3. ステイト・オブ・マイン 4. 夜が明けるまで(Try To See It My Way)
	BRYAN ADAMS	ジェラシー		1981年7月21日	ロック	レコード	日本	1981年に発表。ボブ・クリアーマウンテンをプロデューサーに起用、ブライアン・サウンドの基礎を確立した2ndアルバム。日本でのデビューアルバム。「フィッツ・ヤ・グッド」、「ロンリー・ナイツ」を収録。	**Side A** 1. ロンリー・ナイツ 2. ワン・グッド・リーズン 3. ドント・ルック・ナウ 4. カミング・ホーム 5. フィッツ・ヤ・グッド	**Side B** 1. ジェラシー 2. トゥナイト 3. ユー・ウォント・イット・ユー・ガット・イット 4. ラスト・チャンス 5. 君がすべて
	BRYAN ADAMS	カッツ・ライク・ア・ナイフ		1983年1月18日	ロック	レコード	日本	ブライアン・アダムスが1983年に発表したサードアルバムで、ロッカー、ブライアン・アダムスの名を決定的にした。全米最高位8位を記録した作品。ストレートで赤裸々な歌詞とロック・サウンドがまっすぐに放たれている名作。本作を発表する3年前にイアン・ロイドのために書かれた曲のセルフ・カバー「フロム・ザ・ハート」ほか、「ディス・タイム」「カッツ・ライク・ア・ナイフ」など、ロック・スピリッツあふれる楽曲をハスキーな声で歌い上げる10曲を収録。前作"You want it, you got it"以来, Bruce Springsteenのアルバムをミックスしていた Bob Clearmountainを共同プロデューサに迎え, 相棒Jim Vallanceと丹念につくった曲の数々が聴ける. オンタリオ出身の田舎者が, 何のひねりもつけず, ストレートにロックしている本作のような作品は, 今の作品ではもうめったにお目にかかれない。"This time"ではForeignerのヴォーカル, Lou Grammがバックで参加. 骨太ドラムスのMickey Curryは, この後Hall & Oatesのバンドで一躍トップドラマーになった. ギターのKeith Scott, ベースのDave Taylorあたりは, 今でも彼の作品に参加する仲間達だ。	**Side A** 1. オンリー・ワン 2. テイク・ミー・バック 3. ディス・タイム 4. フロム・ザ・ハート 5. カッツ・ライク・ア・ナイフ	**Side B** 1. アイム・レディ 2. 木の葉のように 3. ドント・リーヴ・ミー・ロンリー 4. レット・ヒム・ノウ 5. 明日を信じて
	BRYAN ADAMS	レックレス		1984年11月5日	ロック	レコード	日本	1984年に発表したブライアン・アダムスの4枚目のアルバム。間違いなくアダムスの最も成功したソロアルバムで世界中で大ヒットし、アメリカでは全米1位で500万枚以上売り上げ、世界では1200万枚売り上げた。「ラン・トゥ・ユー(米6位)」、「サムバディ(米11位)」、「ヘヴン(米1位)」、「想い出のサマー(米5位)」、「ワン・ナイト・ラヴ・アフェア(米13位)」、そしてティナ・ターナーとのデュエット曲「イッツ・オンリー・ラヴ(米15位)」6枚のシングルがアルバムからリリース。6枚のシングルすべてがUSビルボードでトップ15になった。これはそれまではマイケル・ジャクソンの『スリラー』とブルース・スプリングスティーンの『ボーン・イン・ザ・U.S.A.』だけしか達成できていなかった。当時はシンセ・ポップが音楽シーンを牛耳っていた中、ブライアンはライヴ・パフォーマンスのエネルギーがそのまま詰まったアルバム作りを目指し、ギターを中心に据えたロックンロールを全米チャートに蘇らせたアルバムだ。	**Side A** 1. ワン・ナイト・ラブ・アフェアー4:32 2. いかしたダンシンガール 3:14 She's Only Happy When She's Dancin' 3. ラン・トゥ・ユー 3:54 4. ヘヴン 4:03 5. サムバディ 4:44	Side B 1. 想い出のサマー Summer of '69 3:35 2. キッズ・ワナ・ロック 2:36 3. イッツ・オンリー・ラヴ(ティナ・ターナー)3:15 4. ロング・ゴーン 3:57 5. 涙をふきとばせ Ain't Gonna Cry 4:06
	BUCKINGHAM NICKS	BUCKINGHAM NICKS		1973年	ロック	レコード	日本	フリートウッド・マックのメンバーとして知られるリンジー・バッキンガムとスティーヴィー・ニックスが加入前に結成していたあの伝説のデュオ"バッキンガム・ニックス"によるが1973年に発表した唯一のアルバム『バッキンガム・ニックス』。のちのフリートウッド・マック黄金期のポップサウンドを予感させる本作は、『ファンタスティック・マック』収録の名曲"Crystal"も収録された隠れた名盤。商業的成功には至らず長く幻のアルバム扱いとなっていた。本作は、後にポップスからプログレ、ヘヴィ・メタルまで数多くのヒット作を手掛けるキース・オルセンがプロデュースした事もあり、アルバムとしての完成度も一級品だ。	**Side A** 1. クライング・イン・ザ・ナイト 2. ステファニー 3. ウィズアウト・ア・レッグ・トゥ・スタンド・オン 4. クリスタル 5. ロング・ディスタンス・ウイナー	**Side B** 1. ドント・レット・ミー・ダウン・アゲイン 2. ジャンゴ 3. レイセス・アー・ラン 4. ローラ(マイ・ラヴ) 5. フローズン・ラヴ
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド		1966	フォークロック	レコード	US	ニール・ヤング、スティーブン・スティルス、リッチー・フューレイ、ブルース・パーマー、デューイ・マーチンらを擁する『バッファロー・スプリングフィールド』の記念すべき1st.アルバム。1966年12月にリリースされたが、当初はあまり売れず。翌年全米7位まで上昇したシングル・ヒット「フォー・ホワット・イッツ・ワース」を入れ、当初B面の4曲目「ベイビー・ドント・スコールド・ミー」を外して再リリースし、全米チャートの80位にランクされた、という経緯を持っている。結局再リリース盤も含めるとこのアルバムには全部で13曲だが、その全ての楽曲がスティルス若しくはヤングの作品。A面がスティルスの作品中心で、B面がヤングの作品が中心となっている。ヒットした「フォー・ホワット・イッツ・ワース」はスティルスの作品で、独特の浮遊感のあるサウンドとスティルスの抑揚を抑えたヴォーカルが印象的だ。ヤングが書いた5曲のうち3曲はプロデューサーの意向でフューレイがヴォーカルを取っている。ヤングの作品では他に美しいバラード「アウト・オブ・マイ・マインド」が耳に残る。スティルスの作品では「君を愛していると思う」や軽快な「ベイ・ザ・プライス」などが素晴らしい出来。後にカーペンターズがカヴァーした「クランシーは歌わない(Nowadays Clancy Can't Even Sing)」はヤングの作品。 当時の他のフォーク・ロック・バンド、つまりバーズやタートルズなどとは一線を画し、どこか当時の時代の空気を含んだ独特のサウンドを構築していたと思う。このバンドのメンバー達が後に所属したバンドを考えると、クロスビー・スティルス・ナッシュ＆ヤング、ポコからイーグルスまで見えて来る。それだけこのバンドがアメリカのロックの歴史に与えた影響は大きいと言える。ヤング、スティルスの喧嘩による確執やメンバーの麻薬逮捕などなど…トラブル続きで約2年という僅かな活動期間ながら後世に語り継がれてきたまさに歴史的な名盤。	**Side A** 1. フォー・ホワット 2. ゴー・アンド・セイ・グッバイ 3. 君を愛していると思う /Sit Down I Think I Love You 4. クランシーは歌わない / Nowadays Clancy Can't Even Sing 5. ホット・ダスティ・ローズ / Hot Dusty Roads 6. みんな悪いのさ / Everybody's Wrong	**Side B** 1. 僕のそばに居ておくれ / Flying On The Ground Is Wrong 2. バーンド 3. いい娘になって / Do I Have To Come Right Out And Say It 4. リーヴ 5. アウト・オブ・マイ・マインド 6. ベイ・ザ・プライス
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド		1966	フォークロック	CD	日本			
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド・アゲイン		1967	フォークロック	レコード	日本	1967年にリリースした2ndアルバム。活動期間は2年と短かく商業的な成功も得られませんでしたが彼らの最高傑作。アルバム全体としては散漫な印象を受けるが、アメリカン・ロックの礎を作った見本市的なバラエティーに富んだ、個々のクオリティーが高い楽曲が挿入されている。 このアルバムでヤングはニッチェと行動を共にし実験的な曲作りを試み、スティルスも彼のキャリアを代表する「ブルーバード」「ロックン・ロール・ウーマン」を書き上げた。カントリー、フォーク、ブルースといったアメリカ音楽のルーツを基本にしながらも、ジャズ、ソウル、R&B、南米民族音楽、クラシックなどの要素を取り入れ、バンドを取り巻く状況が悪化する中にも関わらず、アイデアに溢れた実験的かつ幅広いサウンドに仕上げられている。また、メンバー間のバランスを配慮した曲順など、緊迫感とバンド崩壊の予兆めいたものも聞き取れ、バッファロー・スプリングフィールドの最高傑作と評されている	**Side A** 1. ミスター・ソウル 2. ア・チャイルズ・クレイム・トゥ・フェイム 3. エヴリデイズ 4. エクスペクティング・トゥ・フライ 5. ブルーバード	**Side B** 1. ハング・アップサイド・ダウン 2. 悲しみの想い出 3. グッド・タイム・ボーイ 4. ロックン・ロール・ウーマン 5. 折れた矢
	BUFFALO SPRINGFIELD	バッファロー・スプリングフィールド・アゲイン		1967	フォークロック	CD	日本			
	BUFFALO SPRINGFIELD	ラスト・タイム・アラウンド		1968	フォークロック	レコード	日本	68年発表の3rd。グループ解散後に発表されたラスト作だが、メンバーが新作として制作したものではなく、未発表曲にメンバーのソロ作品、そしてリッチー・フューレイと新たに加入したジム・メッシーナによって制作された新曲を加えてまとめられたものである。ラストの曲にはスティール・ギターでラスティ・ヤングが参加しており、彼とリッチー、ジムでポコが結成される。本作はそういう意味においてはバッファローとポコがクロス・フェイドする作品であり、新曲を中心に考えればポコの原形的なものと考えることも出来ると思う。 1. はブラスの入った西海岸風ソフト・ロックとも言うべき仕上がりで軽快で爽やかなコーラスとストリングスが絡むアレンジが秀逸。この一曲だけでも本作の魅力は伝わってくる。2. はカントリー・ブルース風の曲をアカデミックにアレンジしたかのような感じだが、溌溂としたヴォーカルそのものの魅力が楽曲に強力なカラーを加えている。3. は渋めのカントリー・ワルツ。中盤の短いギター・ソロは音色、フレーズ共にたまらないものがある。ニール・ヤングの名曲⑨、ポコで再演されるリッチー・フューレイの⑫あたりの佳曲が並んでますが、全体的にはややブルース色の強いカントリー・ロックといった楽曲が多く、後の彼らのイメージとはそれほど遠くない。ただ、よほどバッファローにのめりこんだ人、ファンの人以外にはお薦めできない。1、2枚目の歴史的な意義に比べると、かなり評価しずらい作品。	**Side A** 1. オン・ザ・ウェイ・ホーム 2. 待つのが辛くて 3. プリティ・ガール・ホワイ 4. フォー・デイズ・ゴーン 5. ケアフリー・カントリー・デイ 6. スペシャル・ケア	**Side B** 1. 雨なき頃 2. クエスチョンズ 3. アイ・アム・ア・チャイルド 4. メリー・ゴー・ラウンド 5. ウノ・ムンド 6. カインド・ウーマン

	BUGGLES	プラスティックの中の未来		1980	ニューウェイブ	レコード	日本			
	BUSTER	すてきなサンデー恋はOK!		1977	ロック	レコード	日本	ファースト・シングル「すてきなサンデー」やセカンド・シングル「恋はO.K.！」といったポップ・ナンバーはもちろん、ステッペン・ウルフのカヴァー「ワイルドで行こう」やメンバー作によるインスト曲「デイブレイク」など、ロック・テイストなナンバーも収録。	1. ウィ・ラブ・ガールズ 2. 恋のサタデイ・ナイト 3. キミを歌いたい 4. すてきな足にひと目ぼれ 5. デイブレイク 6. ワイルドで行こう	7. 恋はO.K.！ 8. 彼女をひとり占め 9. 恋はおバカさん 10. あの娘におせっかい 11. すてきなサンデー 12. ウィ・ラブ・ガールズ(リプライズ)
	BUTTERFIELD BLUES BAND	バターフィールド・ブルース・バンド		1965	ロック	レコード	ヨーロッパ	65年暮、雪の舞うシカゴから発表された衝撃のデビュー作。 ホワイト・ブルースの歴史が始まったことを天下に示めすマスターピース。 （1965年作品）		
	BUTTERFIELD BLUES BAND	イーストウェスト		1966	ロック	レコード	UK			
	BUTTERFIELD BLUES BAND	イーストウェスト		1966	ロック	レコード	日本			
	BUZZCOCKS	アナザー・ミュージック		1978	パンク	レコード	UK			
	BUZZCOCKS	ア・ディファレント・カインド・オブ・テンション		1979	パンク	レコード	US			
	BUZZCOCKS	シングルズ・ゴーイング・ステディ		1979	パンク	レコード	US	バズコックスは、衝撃的なバンド名と「Oh Shit?」「Orgasm Addict」（両曲ともこのシングル・コレクションに収録）といった曲名で、1970年代末のパンクロックの見事な代弁者となった。けれども、こうして今振り返ってみると、バズコックスがその他に成し遂げたことが手に取るようにわかる。そう、彼らはこの上なくキャッチーで挑発的なシングルを作り上げたのだ。そしてピート・シェリーは、ありきたりの甘ったるい恋に溺れることなく、胸が張り裂けそうな想いと挫折感をぶちまけた（最大のヒット曲のキャッチーなコーラスでは「恋してはいけない相手に恋したことはあるかい？」と歌っている）。1979年リリースのこの決定盤的コレクションは、マンチェスター出身の4人組による引き締まったメロディーと、無駄のないソングライティング、絶妙の速いテンポを心地よく聴かせてくれる。	1Orgasm Addict 2What Do I Get? 3I Don't Mind 4Love You More 5Ever Fallen In Love? 6Promises 7Everybody's Happy Nowadays 8Harmony In My Head	9What Ever Happened To? 10Oh Shit! 11Autonomy 12Noise Annoys 13Just Lust 14Lipstick 15Why Can't I Touch It? 16Something's Gone Wrong Again
	BUZZCOCKS	シングルズ・ゴーイング・ステディ (2001 Digital Remaster)		1979	パンク	CD	US	2001年リマスター音源。バズコックスは、アルバムのどれか一枚というより、このシングル集が一番いいと思います。突拍子もないピート・シェリーの声が曲にマッチし、良い曲が多い。1977年のデビューから1981年自動的に解散に追い込まれるまでのA面とB面のシングル曲のカップリング集で、特にB面には隠れた名曲があるので見逃せない。	1Orgasm Addict (Explicit) 2What Do I Get? 3I Don't Mind 4Love You More 5Ever Fallen In Love (With Someone You Shouldn't Have) 6Promises (2001 Remaster) 7Everybody's Happy Nowadays 8Harmony In My Head 9You Say You Don't Love Me 10Are Everything 11Strange Thing 12Running Free	13Whatever Happened To...? 14Oh Shit (Explicit) 15Autonomy 16Noise Annoys 17Just Lust 18Lipstick 19Why Can't I Touch It? 20Something's Gone Wrong Again 21Raison D'Etre 22Why She's A Girl From The Chainstore 23Airwaves Dream 24What Do You Know
	BYRDS	ミスター・タンブリン・マン		1965	フォークロック	レコード	US	1965年6月に発表した、フォーク・ロックのみならずロック史に燦然と輝く金字塔的名盤。世界的ヒット曲「ミスター・タンブリン・マン」(全米No.1)、「オール・アイ・リアリー・ウォント」他を収録。65年発表。フォーク・ロックの先駆けと言えるバンド、バーズのデビュー作『ミスター・タンブリン・マン』。ボブ・ディランのカバー曲であるタイトル曲は全米1位を記録し、 当時まさに人気の絶頂だったビートルズに対するアメリカからの対抗馬として大いに期待されました。 ジム・マッギンの弾く12弦ギターと彼のボブ・ディランとビートルズの中間のような独特のボーカルを軸とし、後にクロスビー、スティルス＆ナッシュを結成するデヴィッド・クロスビーなどの美しいコーラスを活かしたカントリー・ロック的なサウンドを聴かせます。 表題曲や「スパニッシュ・ハーレム・インシデント」など計4曲のボブ・ディランのカバー曲の他に、「すっきりしたぜ」「イッツ・ノー・ユース」などビートルズの影響を感じさせる曲も数多く収録されています。そんな中とくに目を引くのは、12弦ギターの名演が聴ける爽快なナンバー「リムニーのベル」です。この曲はジョージ・ハリスンにも影響を与えた名曲として知られています。 ただ、まだこの時点ではフォーク・ロックというスタイルが完全には出来上がっておらず、アルバム全体通した作りというよりはシングル曲を集めたものといった印象を受けます。しかし、表題曲など後の彼らを想わせる可能性を秘めた曲が多く、個々の楽曲も聴いていて心地良いものばかりです。	01. Mr. Tambourine Man 02. I'll Feel a Whole Lot Better 03. Spanish Harlem Incident 04. You Won't Have to Cry 05. Here Without You 06. Bells of Rhymney	07. All I Really Want to Do 08. I Knew I'd Want You 09. It's No Use 10. Don't Doubt Yourself, Babe 11. Chimes of Freedom 12. We'll Meet Again
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) ミスター・タンブリン・マン		1965	フォークロック	CD	日本			
	BYRDS	ターン・ターン・ターン		1965	フォークロック	レコード	US	ザ・バーズが1965年に発表したセカンド・アルバム。2枚目の全米No.1シングルとなったタイトル曲を含む、よりビート・ロック色を強めた。前作に続き、テリー・メルチャーのプロデュースのもと試行錯誤して制作された本作は、メンバーそれぞれの個性も主張され、より幅広い音楽性を提示して見せた作品。後のウエストコースト・サウンドの萌芽をも感じさせる充実作。2曲目のジーン・クラークのオリジナル曲、4. 9曲目のボブ・ディランの曲や、5. 11曲目トラッドなどの曲がカヴァー・センスも光りロック・クラシックとして認知されている佳曲が並んでいる。完成度の高さという点においてもデビュー作と甲乙付け難いものがあるが、どちらにしても彼らのイメージ通りの作品として楽しめる名盤の一枚。全米チャート第17位、全英第11位。	1.ターン・ターン・ターン　3:53 2.悪くはないぜ　2:01 3.セット・ユー・フリー　2:52 4.レイ・ダウン・ユア・ウィアリー・チューン　3:33 5.友だちだった彼　2:34	6.彼女は世界の中心　2:16 7.サティスファイド・マインド　2:30 8.イフ・ユー・ワー・ゴーン　2:49 9.時代は変わる　2:22 10.ウェイト・アンド・シー　2:22 11.おおスザンナ　3:13
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) ターン・ターン・ターン		1965	フォークロック	CD	日本			
	BYRDS	霧の5次元		1966	フォークロック	レコード	UK	英米でサイケデリアの到来をいち早く告げた傑作。66年発表の3rd。前作の後、ジーン・クラークが脱退して4人組となって初めて制作された作品。音楽的な志向も変化を見せ始めており、従来のフォーク・ロック的なスタイルに加えて時代を反映したかのようなサイケデリック／ラーガ・ロック的な要素を加味している。来るべきサマー・オブ・ラブの時代を予見させてみた。それまでのマッギンの緻密に音を散りばめるようなギターから、このアルバムではサイケデリックな音階の速さを意識したソロを披露している。7曲目は、そんなサイケデリック路線の代表曲の筆頭だが、それを置いておいても人気が高くたくさんのカヴァーを生んだ。珍しいところではEL＆Pなどでも有名なキース・エマーソンも“3”でカヴァーしており、幅広い人気を得ていたことが良く分かる。またロジャー・マッギン作のタイトル曲はディランにコーラス・ハーモニーを付けたかのような初期の集大成とも言うべき屈指の名曲。2曲目のストリングスの絡みも絶妙の味わいだ。 ヴァン・ダイク・パークスが、キーボードで参加しており、脱退したクラークもタンバリン、ハーモニカ、ヴォーカルでクレジットされている。当時はドラッグ・ソングだとして放送禁止となったサイケ名曲「霧の8マイル」(全米シングルチャート14位)収録。全米チャート第24位、全英第27位。本作なくして古今東西のサイケ・カルチャーは語れない。	CD以下、ボーナストラック 12何故(シングル・ヴァージョン) 13アイ・ノウ・マイ・ライダー 14サイコドラマ・シティ 15霧の8マイル(RCAスタジオ・ヴァージョン) 16何故(RCAスタジオ・ヴァージョン) 17ジョン・ライリー(インストゥルメンタル・ヴァージョン1)	
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) 霧の5次元		1966	フォークロック	CD	日本			
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) 昨日よりも若く		1967	フォークロック	CD	日本	1967年発表の4thアルバム。本アルバムから全てオリジナル曲で占められ特にDavid CrasbyとChris Hillmanはソングライティングに大活躍で前作まで殆ど曲を書かなかった事が嘘の様です。サウンド面でもギターの逆回転等実験的な部分がありよく巷で言われているビートルズの『Revolver』に影響を受けていると言うのは的確な表現だと思います。オープニングの『So You Want To Be A Rock'n'Roll Star』は後のT.Rexを彷彿させる楽曲で他にはDavid Crasbyの代表作の一つとなりえる『Renaissance Fair』や『Mind Gardens』等優れた楽曲が沢山あり質の高いアルバムになっています。それにしてもビートルズをしのぐわずか数年で才能を開花させたスピードには驚くばかりです。しかし残念ながらDavid Crasbyは次作のレコーディング最中にThe Byrdsを脱退してしまいます。	1ロックン・ロール・スター 2あの娘を見なかったかい 3C.T.A.-102 4ルネッサンス・フェア 5タイム・ビトウィーン 6燃えつくせ 7思想と言語 8マインド・ガーデンズ 9マイ・バック・ペイジズ 10名もない少女 11何故	

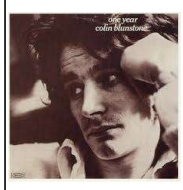
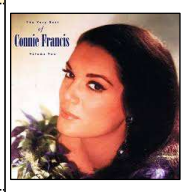
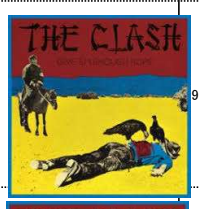
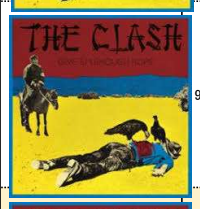
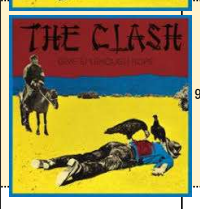
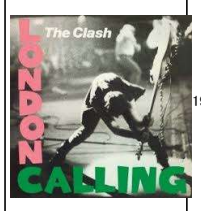
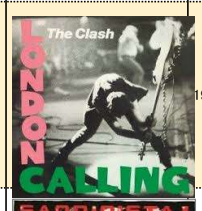
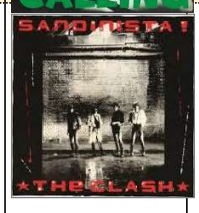
	BYRDS	名うてのバード兄弟		1968	フォークロック	レコード	不明	68年発表の5作目。制作途中にデヴィッド・クロスビーが脱退（CSNの結成へ）したため大半を残った3人で制作した作品。フォークやらカントリーやらサイケデリックやらの要素が渾然一体となったうえ個々の曲も切れ間なく続いて全体で一つの作品となっている印象。 1．は全面にブラスの入ったド派手なブラス・ロック。しかしながらメロディ・ラインはソフト・ロックのような雰囲気も持っており、やや微妙な仕上がり。2．はバロック的な装飾音を加えたソフト・ロックっぽい曲。前作の延長線上のサイケっぽさも少しだけ感じるが、それも雰囲気程度のものであり、それよりも楽曲の完成度の方が耳に残る。これは名曲。3．はインド的なメロディを聞かせるサイケ風味の曲。こちらもなかなかおもしろい仕上がりだ。4．もサイケ風味のフォーク・ロック。中盤のSEとブラスによる間奏はほぼ前作の延長線上と言える。5．はS＆Gを彷彿とさせるカントリー風味のフォーク・ロック。中盤はモロにインド風味になる。6．はソフト・ロック風の穏やかなカントリー・ワルツ。 前作のサイケ路線を整理してよりメロディアスな作風に昇華させた名作。弦やブラス、コーラスなどを駆使したソフト・ロック的なアレンジを聞かせる曲も多く、反面エキセントリックなリード・ギターが個性的なソロを聞かせるなど聴きどころは多い。全体的には穏やかな雰囲気で統一されており、幻想的で霧が掛かったかのような音像の中を印象的なメロディが駆け抜けていく。バーズらしからぬ部分もあるが、間違いなく代表作の一つだろう。名盤。	A面 1.人造エネルギー　2:18 2.ゴーイン・バック　3:25 3.自然なハーモニー　2:10 4.ドラフト・モーニング　2:42 5.ワズント・ボーン・トゥ・フォロー　2:04 6.ゲット・トゥ・ユー　2:39	B面 1.今が転機　3:21 2.年老いたジョン・ロバートソン　1:48 3.部族集会　2:02 4.ドルフィンズ・スマイル　2:00 5.スペース・オデッセイ　4:02
	BYRDS	ロデオの恋人		1968	フォークロック	レコード	不明	後にEagles等に影響を与えたカントリー・ロックのパイオニアの6作目。それまでのフォーク・ロック色からグラム・パーソンズが新加入し、彼の主導のもと作られた本作はカントリー・ロックというジャンルを極めたと言っていいほど、非常に完成度の高い作品に仕上がっています。耳当たりのいいアコースティック・ギターと絶妙なハーモニー、個々の楽曲も一つ一つのクオリティが高くまさに名盤。 スティール・ギターが印象的なボブ・ディランのカバー曲「ゴーイング・ノーホエア」にはじまり、バンジョーとフィドルがカントリー・ムードを高める「私は巡礼」「プリティ・ボーイ・フロイド」、こちらもスティール・ギターが美しい「ヒッコリー・ウィンド」、本作の中でも特にコーラスが心地よいグラム・パーソンズ作の「100年後の世界」。最後もやはりボブ・ディランのカバー曲「なにも送ってこない」で、この名盤のラストを飾ります。 全体的に落ち着いた雰囲気の作品で、曲自体はかなりキャッチーなものが多く、まさに時代を彩る名盤。	1.You Ain't Goin' Nowhere 2.I Am a Pilgrim 3.The Christian Life 4.You Don't Miss Your Water 5.You're Still On My Mind 6.Pretty Boy Floyd	【B面】 1.Hickory Wind 2.One Hundred Years from Now 3.Blue Canadian Rockies 4.Life in Prison 5.Nothing Was Delivered
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) ロデオの恋人		1968	フォークロック	CD	日本		CD以下、ボーナストラック 12レピュテイション 13けだるい日々 14かわいいボリー 15クリスチャン・ライフ（リハーサル・テイク11） 16監獄暮らし（リハーサル・テイク11） 17思い焦がれて（リハーサル・テイク43） 18100年後の世界（リハーサル・テイク2） 19すべては思い出（インストゥルメンタル）	
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) バーズ博士とハイド氏		1969	フォークロック	CD	日本	1969年発表通算7枚目のアルバム。前作「ロデオの恋人」発表後、ロジャーマッギン以外全員脱退し、クラレンス・ホワイト、ジーン・パーソンズ、ジョン・ヨークが加入。これはバーズの弱点でもある、それは、デビュー曲のミスタータンブリンマンが、ロジャー以外の演奏は全てスタジオミュージシャンによるものだったと言われるように、ライブ演奏の弱さでした。その弱点を補うためにメンバーがロックバンドらしいライブができるメンバー構成となり、若くして他界したギターのクラレンス・ホワイトを含めテクニシャン揃いで、ロックバンドにナッシュヴィル特有の超絶テクが入った形となる。いわゆるロック的なドライブ感は、この後期のユニットではじめて実現できており、そんな視点から前期と比べてみるのも面白い。 　そのメンバーで作られた本作は、前作がカントリー：ロック＝7：3だったのに対し、カントリー：ロック＝3：7といった感じ。それ以上に、ブルースの割合が（クラレンス・ホワイトのベンダーギターのおかげで表面的にはわからなくなっているとはいえ）高くなっており、次作以降につながる流れとしては特筆すべきと思います。といっても、次作がブルース色強いアルバムというわけじゃないですけど、いろんな要素が加わるという意味です。「ロデオ」以降、解散までカントリーロック路線が続きますが、一番（ライヴ以外で）ロック寄りなアルバムだと思います。本作に加え、ボーナストラック『火の車』の初期ヴァージョンを始めとして興味深いものとなっている。	1火の車 2オールド・ブルー 3ユア・ジェントル・ウェイ・オブ・ラヴィング・ミー 4チャイルド・オブ・ジ・ユニヴァース 5ナッシュビル・ウエスト 6ドラッグ・ストアー・トラック・ドライヴィン・マン 7キング・アパシーIII	8キャンディ 9バッド・ナイト・アット・ザ・ウイスキー 10メドレー <以下ボーナス・トラック> 11スタンレイズ・ソング 12レイ・レディ・レイ 13火の車 14メドレー（オルタネイト・ヴァージョン－テイク1） 15ナッシュビル・ウェスト（オルタネイト・ヴァージョン－ナッシュビル・レコーディング）
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) イージー・ライダー		1969	フォークロック	CD	日本	1969年発表通算8枚目のアルバム。『ロデオの恋人』から本格化したカントリーロック路線の延長線上にある作品です。映画『イージー・ライダー』のために書かれたタイトル曲がとにかく有名な作品。その効果もあってかアルバムも全米30位のヒットを記録している。美しいギターのアルペジオにストリングスが絡む、まさに映画の挿入歌というタイトル曲はファンならずとも必聴だろう。2．では乾いたギターを活かしたバーズらしい曲の中盤にラテン・パーカッションを盛り込むなど楽しいアレンジを聞かせている。3．はジーン・パーソンズとクラレンス・ホワイトによる伝承歌っぽい佳曲。とにかく印象的で味わい深いメロディに時折絡むコーラスが魅力だ。4．はトラッドのアレンジだが、マッギンが歌うとバーズのオリジナルのように聞こえるから不思議だ。9．はつま弾き風のエレガントなギター・アルペジオが印象的なやや洗練されたカントリー・ポップ。こちらもジーン・パーソンズの曲だが、本作のタイトル曲に匹敵する佳曲である。本作の特徴はロジャー・マッギンの曲がタイトル曲の一曲しかないという点だろう。したがって一般にはやる気のない作品という捉え方もされてはいるし、実際にマッギン自身もそうだったのかもしれないが、それを補うかのように他のメンバーが活躍しており、全体としての不足感は感じられない。半数以上を占めるカヴァーも出来が良く、作品としてのクオリティは悪くないと思う。	1イージー・ライダーのバラッド 2ファイド 3オイル・イン・マイ・ランプ 4タルサ・カウンティ 5船乗りジャック・ター 6ジーザス・イズ・ジャスト・オールライト 7イッツ・オール・オーヴァー・ナウ、ベイビー・ブルー 8ゼア・マスト・ビー・サムワン 9ガンガ・ディン 10ディポーティ 11アームストロング・オルドリン&コリンズ	**<ボーナス・トラック>** 12太陽の彼方 13メイ・ジーン・ゴーズ・トゥ・ハリウッド 14オイル・イン・マイ・ランプ（オルタネイト・ヴァージョン） 15タルサ・カウンティ（オルタネイト・ヴァージョン） 16フィドラー・ア・ドラム（ムーヴ・エクスペリメント） 17イージー・ライダーのバラッド（ロング・ヴァージョン） 18ビルド・イット・アップ（インストゥルメンタル）
	BYRDS	(ペーパースリーブ仕様) タイトルのないアルバム		1970	フォークロック	CD	日本	70年発表の9作目。ジョン・ヨークに替わってスキップ・バッティンがベーシストになった新編成での70年初頭に収録されたライヴ録音とそのメンバーで新録音されたスタジオ作を合わせて2枚組として発表された作品。バーズ初のライヴ盤となった一枚目には新曲に代表曲を加えた7曲、スタジオ作の方には9曲の新曲が収録されていた。スタジオ作ではリトル・フィートの「トラック・ストップ・ガール」を取り上げているのも話題だが、マッギンがミュージカル「ジーン・トリップ」用に書いた曲4曲と新加入のバッティンが中心に書いた4曲も魅力的である。バッティン作の「WELCOM BAXK HOME」ではお経の「ナンミョンホウレンゲキョウ」が登場しておもしろい。また00年の再発盤では元々2枚組だった作品を1枚に収録し、もう一枚の未発表曲集を付けた2枚組『(Untitled)/(Unissued)』として新装盤となっているので注意。こちらでは次作『バード・マニア』に収録される「キャスリンの歌」のオリジナル・バージョン他、未発表バージョン、リトル・フィートの「ウィリン」、ボブ・ディランの曲などスタジオ／ライヴ音源で14曲追加されているので、迷うことなくこちらを入手した方が良いだろう。	1バイユーの恋人 2積極的に4thストリート 3ナッシュビル西部 4だからあなたはロックンロールスターになりたい 5タンバリンさんの男 6ミスター・スペースマン 7高さ8マイル 8栗の牝馬 9トラック停止の女の子 10万有 11昨日の電車 12空腹の惑星 13ただの季節 14ささやく 15皆さんは皆、同じように見えます 16さて、家に帰って来なさい	**ディスク: 2** 1すべてのもの 2昨日の電車 3バイユーの恋人 4キャスリーンの歌 5白い稲妻 Pt.2 6ウィリン 7あなたはどこにも行かない 8オールドブルー 9大丈夫だよ(出血してるだけ) 10イージーライダーのバラード 11マイバックページ 12ウィフを取る(私に) 13イエスはちょうどいいです 14車輪が燃えている
	B-52'S	警告！THE B-52'S		1979	ニューウェイブ	レコード	日本			
	B-52'S	禁断の惑星		1980	ニューウェイブ	レコード	US			
	B-52'S	メソポタミア		1982年	ニューウェイブ	レコード	日本	トーキングヘッズのディヴィッド・バーンがプロデュースを担当。これまでのロッキン＆パンキッシュな音は影を潜め、どこか冷めたシニカルなNEW WAVE DISCO、エレポップなサウンドに。シンプルな音作りながら、ホーンやパーカッション、シンセサイザーなど多彩なオーヴァーダビングが施され、彼らの新境地を示す作品となったが、バーンとレコード会社の意見の違いにより制作が中断され、6曲収録のミニ・アルバムとしてリリースされた。	**Side A** 1. ラヴランド 2. ディープ・スリープ 3. メソポタミア	**Side B** 1. ケーキ 2. ビート・ビート・ビート ／throw that beat in the garbage can 3. 握りつぶせ／nip it in the bud
	CABARET VOLTAIRE	レッド・メカ		1981	ニューウェイブ	レコード	日本	キャバレー・ボルテールのサードアルバム。		
	CACTUS	カクタス ファースト・アルバム		1970	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	70年作デビュー作。。アメリカン・ハードの礎となった名盤！圧倒的なスピードと、火花が散る様なバンドの凄まじいバトルで押し切られ、当時のツェッペリンをもなぎ倒すかの如くの勢いが見事。HR/HM界で重鎮としての存在感を示し続けるカーマイン・アピスのドラムがとにかく凄いの一言で、まさに彼のパワー・スタイルはここが基本。古典的なブルースも交えながら、正統派ブリティッシュ・ハードとしてのサウンドが展開されているのですが、どこかカラッとした印象も残るのはやはりアメリカン。炸裂するハードなリフと、後半の強烈なドラム・ソロがあまりにもカッコいい「FEEL SO GOOD」こそ、HEAVY METALの原点であると言っても過言ではないかと思う	**Side A** 1. パーチマン・ファーム 2. レイディ・フロム・サウス・オブ・デトロイト 3. ブラザー・ビル 4. ユー・キャント・ジャッジ・ア・ブック・バイ・ザ・カヴァー	**Side B** 1. レット・ミー・スウィム 2. ノー・ニード・トゥ・ウォリー 3. オウリオウ 4. フィール・ソー・グッド
	CACTUS	セカンドアルバム		1971	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	オリジナルは71年作、アメリカン・ハード史において地味ながらも重鎮として伝説的な名を残したカクタスのセカンド・アルバムです。ヴァニラ・ファッジのティム・ボガートとカーマイン・アピス、そしてデトロイト・ロック・シーンのアンボイ・デュークスのラスティ・デイ、ミッチ・ライダー＆デトロイト・ホイールズのジム・マッカーティという、当時の凄腕達の集団だった彼等は、ポップ・シーンでのヒットこそなかったものの、多くのリスペクトを受けていました。特に強力なリズム隊はジョン・ボーナムにも影響を与えていたと言われています。 恐ろしく緊張感の漂うバンド・サウンドと、幅広い音楽性から生まれる独特のうねりは、後の70年代ハード・ロックの流れを完全に先導していたと思われます。商業的成功こそなかったものの、ツェッペリンにさえ勝る荒々しさ、男臭さは今聴いても十分説得力があると思います。オープニングからロック・クラシック、「のっぽのサリー」のメタル・ヴァージョンが聴けますが、彼等の本領発揮と言える部分は、ブルース、サイケ、カントリーを強烈なバネで破壊していく様なオリジナル・ナンバーにあったと思います。	**Side A** 1. のっぽのサリー 2. ロックアウト 3. ロックン・ロール・チルドレン 4. ビッグ・ママ・ブギ －パート1&2	**Side B** 1. フィール・ソー・バッド 2. エアリーズの歌 3. ホームタウン・バスト 4. ワン・ウェイ...オア・アナザー
	CACTUS	リストリクションズ		1971	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	US	カクタスの71年作のサード・アルバム。オリジナル・メンバーでの最終作となり、バンドのピークを象徴する1枚となりました。元々はジェフ・ベックがヴァニラ・ファッジのカーマイン・アピスとティム・ボガードの最強リズム隊に注目し、ヴォーカルにロッド・スチュワートを加えたスーパー・グループ結成を画策しますが、ベックの事故により流れてしまいます。残されたアピス・ボガード組は、デトロイト・ロック・シーンで活躍していたジム・マッカーティとラスティ・デイと共にカクタスを結成、イギリスのツェッペリンに対抗しうるテクニカルかつド迫力なバンドとして以降のハード・ロック・シーンに大きな影響を残します。本作でも凄まじいインスト・バトルと、バラエティに富んだナンバーが、これぞハード・ロックとばかりに展開されています。惜しむらくは大衆に媚びる愛想が足りなかった点でしょうか、シングル向けのキャッチーさがあればもっと大ヒットしていたかもしれません。逆に言えば男らしく図太いサウンドに徹した事により、バンドは伝説化するわけですが、意外とも思える幅広い音楽性も見られます。このバンドがこのままこの路線で続けていれば、キッスやエアロスミス、更にはヴァン・ヘイレンをも連ねるアメリカン・ハードの大ボス的存在になっていたと思うのですが、本作には十分その可能性が秘められている気がします。	**Side A** 1. リストリクションズ 2. トーケン・チョーキン 3. ギルトレス・グライダー 4. イーヴル	**Side B** 1. アラスカ 2. スウィート・シックスティーン 3. バッグ・ドラッグ 4. クリーヴランドの夜
	CACTUS	汗と熱気（カクタス・ライヴ）		1972	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	ドイツ	72年作、カクタスの通算4作目、オリジナル・カクタスとしては最後のアルバム。A面3曲がライヴ、B面5曲がスタジオ新曲という内容。結果的にはこのバンドのストロングでパワフルな個性を剥き出し、これぞアメリカン・ハードと言うべき傑作になった。本作から大きなメンバー・チェンジがあり、ラスティ・ディ、ジム・マッカーティーが脱退、代わりに元ATOMIC ROOSTERのヴォーカリスト、ピーター・フレンチ、キーボードのデュアン・ヒッチングス、ギターのワーナー・フレッチングスが加わり、5人編成となる。 ヴォーカリストはロッド・スチュワートっぽい激浪、ワイルド。尚、カクタスは本作を最後に解散（2006年には主要メンバーを中心に再結成）、当初から予定されていたジェフ・ベックとのバンド結成が実現され、BECK, GERT&APPICEが本作から1年後に唯一のアルバムをリリースする事になりますが、フレン	**Side A** 1. スイム 2. バッド・マザー・ブギー 3. オレたちのロックン・ロール 4. バッド・スタッフ	**Side B** 1. 堕落させないで 2. ベッドルーム・マズルカ 3. 教えてあげる 4. アーチの下で

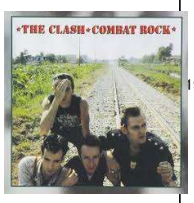
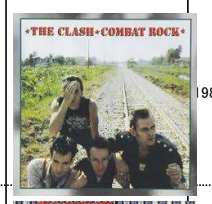
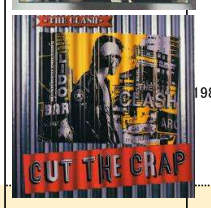
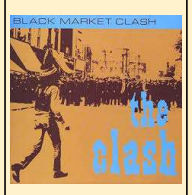
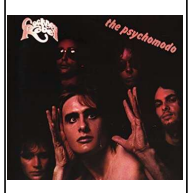
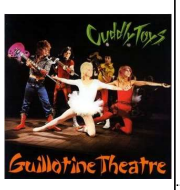
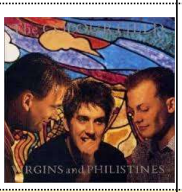
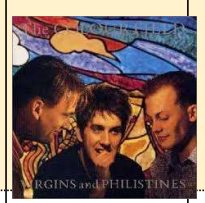
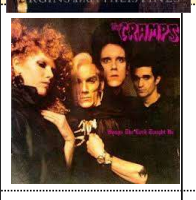
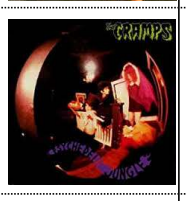
	CACTUS	汗と熱気（カクタス・ライヴ）		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	チとヒッチンクスは作曲面、ゲスト・プレイヤーとして参加をしています。そうした経緯を考えると、この当時のカクタスのメンバーの力量は最高峰とも思われ、曲の充実度にもそれは現れています。ライヴでは過去に発表した曲を改変してプレイされているのですが、ロックンロール、ブギの気持ち良さをハード・ロックとして豪快に呑み込んでしまうバンドのパワーに圧倒される事必至です。スタジオ・テイクも最後のお遊び的ナンバーを除けば、ヘヴィ・ブルース、パワー・バラード、ファンキーでポップなハード・ロックとバラエティに富んだ内容となっています。翳りや堅苦しさとは一切無縁、カラッカラの爽快ハード・ロック大会の醍醐味が満喫できる名盤です。		
	Captain & Tennille	愛ある限り		1975年	ポップス	レコード	日本	70年代ポップ・ミュージックを代表するおしどり夫婦デュオ、キャプテン&テニールの初アルバム。ニールセダカの「愛ある限り」をカバーし、全米ナンバー・ワンにして75年の年間シングル1位、そしてグラミー最優秀レコード賞に輝いた表題曲を筆頭に、トップ10ヒット「君こそすべて（The Way I Want Touch You）」も収録。もともとキャプテン（ダリル・ドラゴン）はビーチボーイズの一員（キーボード奏者であり、テニールは彼の後釜として入り、二人でデュオを結成）として活動していたこともあり「ディズニー・ガール」、「恋に夢中（Cuddle Up）」、「ゴッド・オンリー・ノウズ」と3曲のビーチボーイズのカバー曲を収録。またバニー・マニロウが後に大ヒットさせた「歌の贈り物（アイ・ライト・ソングス）」も実はこのアルバムが初出。そういう点で曲に恵まれており、いい感じのポップアルバムになっている。	**Side A** 1. 愛ある限り 2. ディズニー・ガール 3. 君こそすべて 4. 恋に夢中 5. グッド・ソングス	**Side B** 1. ゴッド・オンリー・ノウズ 2. ふたりだけの夜 3. フィール・ライク・ア・マン 4. プロディ・バウンス 5. ときめく心 6. 歌の贈り物（アイ・ライト・ソングス）
	CARAVAN	（ペーパースリーブ仕様） キャラバン登場		1970	プログレ	CD	日本	70年発表の2nd。のっけからほのぼのした歌声が聞こえてきて、デイヴによるあの歪ませたオルガンのソロが出てくると「やっぱりキャラバンはこうだよな」となってしまう。前作は多分に青臭く、彼ららしさが出ていなかったが、本作ではすでに彼ららしさが全開になっており、次作以降の作品と何ら遜色のないレベルになっている。2. にしても牧歌的な緩い雰囲気が漂っていてメロディの美しさと相成ってこのアルバムを印象的にしている。 演奏も楽曲も前作より格段に良くなっているが、それよりも大きいのは全体から感じられるサウンドの変化。この2ndでやっとカンタベリー・サウンドになったと言っても良いだろう。プロデューサーやエンジニアなどの裏方の力も大きいのだろうが、彼らなりの方向性がこの作品で明確になったのかもしれない。また長らくカンタベリー・サウンドの一つの顔になる歪ませたオルガンのソロは本作が初出であり、後のハットフィールズのデイヴ・スチュワートもデイヴ・シンクレアに影響を受けたと語っていることから、この作品はカンタベリー・サウンドの原点として重要な作品とも言えるだろう。中盤以降のデイヴのオルガン・ソロは鬼気迫るものがあり、オルガン・ソロを満喫したいのであれば、この作品が最も楽しめる。	1. 手遅れの愛 2. アンド・アイ・ウィッシュ・アイ・ワー・ストーンド|ドント・ウォーリー 3. アズ・アイ・フィール・アイ・ダイ 4. 聞く耳を持て|マーティニアン|オンリー・コックス|リプライズ 5. ハロー・ハロー 6. アスフォルテリ 7. キャント・ビー・ロング・ナウ|フランソワーズ|リチャードのために|ウォーロック 8. リミッツ	以下、CDボーナストラック 9. ア・デイ・イン・ザ・ライフ・オブ・モーリス・ヘイレット 10. ホワイ 11. クリッピング・ザ・エイス 12. アズ・アイ・フィール・アイ・ダイ
	CARAVAN	（ペーパースリーブ仕様） グレイとピンクの地		1971	プログレ	CD	日本	71年発表の3rd。のっけからリチャード・シンクレアのほのぼのとしたヴォーカルが登場する、これぞカンタベリー・サウンド！！と唸らずにはいられない名作。ハットフィールズにしてもそうだが、リチャードが歌っているだけでも名作だと思う。決してうまい歌手ではないが、この声だけで納得してしまうバブロフの犬状態の私にはうまい下手などどうでも良い。この声だけで全てO. K. この作品はそのリチャードを含めてカンタベリー・サウンドに無くてはならない人物が揃っている。キャラバンを以降もずっと支え続けるカンタベリーの一つの柱のようなパイ・ヘイスティング(dr)、カンタベリー・サウンドの特徴の一つであるファズで歪ませたオルガンの創始者、デイヴ・シンクレア(k)、カンタベリー系の作品には引っ張りだことなるジミー・ヘイスティング(fl、sax、pic）と地味に凄い。 このグループの作品の中では最も親しみやすく、曲の粒が揃っており、ポップスともジャズ・ロックとも言えない微妙なラインを持っているのが本作の魅力。これ以降、変にジャズ・ロックに走ったり、普通のポップスに走ったりしていくのも彼らの魅力ではあるが、この作品ほどの人を引き付ける魅力を持った作品は少ない。聞くたびに暖かく迎えてくれるかのような安堵感を与えてくれる作品だと思う。5. の大作は彼らの代表曲。カンタベリー系ジャズ・ロックの魅力にはまったらまっ先に聞いてほしい作品の一つだろう。	1. ゴルフ・ガール 2. ウインター・ワイン 3. ラヴ・トゥ・ラヴ・ユー 4. グレイとピンクの地 5. 9フィートのアンダーグラウンド	以下、CDボーナストラック 6. アイ・ドント・ノウ・イッツ・ネーム 7. 貴族 8. イッツ・ライクリー・トゥ・ハヴ・ネーム・ネクスト・ウィーク 9. グループ・ガール 10. 分離 <ボーナス・トラック>|100%プルーフ
	CARLY SIMON	アンティシペイション		1971	ポップス	レコード	日本	CAROLE KING、JONI MITCHELLと並び70年代アメリカン・ロックを代表する女性SSW、CARLY SIMON。デビューシングル"幸福のノクターン"の大ヒットを受けて同年にリリースされた早くも2ND。元YARDBIRDSのベーシストPAUL SAMWELL-SMITHのプロデュースで伸びのある瑞々しいヴォーカルを聴かせる名品。シンプルでリッチなフォーキーアコースティックな楽曲が並び、当時恋の噂のあったCAT STEVENSにインスパイアされたという"LEGEND IN YOUR OWN TIME（悲しい伝説）"やボサノバ・アレンジの"SUMMER'S COMING AROUND AGAIN"等、自身の可憐な持ち味を生かしたソングライティングの才能もさらにあふれ出た一枚。こちらもロマンスを感じるKRIS KRISTOFFERSONカヴァー "I'VE GOT TO HAVE YOU"収録。		
	CARLY SIMON	ノー・シークレッツ		1972	ポップス	レコード	US	初のチャート1位を獲得した出世作にして豪華ゲスト参加作。MICK JAGGERがコーラスを添えるスマッシュヒット"YOU'RE SO VAIN（うつろな愛）"をはじめ、LINDA & PAUL MCCARTNEY参加の"NIGHT OWL"など、もちろん当時の恋人"夫JAMES TAYLORまで参加のなんとも豪華な一枚。ゲスト陣に負けないCARLYのソフトなヴォーカルと70'S SSWを体現するソングライティングもたまりません。ポップ、ジャズ、フォーク、ブルースが入り混じる傑作。全米No.1ヒットとなった名曲「うつろな愛」を収録。リチャード・ペリーをプロデューサーに迎え、シンプルでエレガントなポップ・ロックに仕上げられた大ベスト・セラー・アルバム。 《1972年作品》		
	CAROLE KING	つづれおり		1971	ポップス	レコード	日本	1971年2月10日に発表。キャロル・キングの2枚目のソロ・アルバム。ロックの時代において神髄の作品であるという地位を得た。プロデュースはルー・アドラー。全米15週連続1位を獲得し、その後約6年（306週）に亘りチャートに登場。4つのグラミー賞（最優秀アルバム賞、最優秀女性ポップ・ヴォーカル、最優秀レコード賞「イッツ・トゥー・レイト」、最優秀楽曲賞「君の友だち」）も獲得。全ての曲を単独または共同で制作し、一部の曲は既に他のアーティストによってヒットしていた。アレサ・フランクリンの「ナチュラル・ウーマン」とシュレルズの「ウィル・ユー・ラヴ・ミー・トゥモロー」が挙げられる。収録曲のうち3曲は、彼女の元夫であるジェリー・ゴフィンと共同で制作。このアルバムに参加したジェームス・テイラーは、「君の友だち」をカバーし、全米1位の大ヒットを記録した。 『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』(2020年版)で、25位にランクイン。2002年にVH1は『つづれおり』をベストアルバムの39位に選ぶ。2003年、このアルバムはアメリカ議会図書館の全米録音資料登録簿(National Recording Registry)に選ばれた50の作品の1つになった。	Side A 空が落ちてくる – "I Feel the Earth Move" – 2:58 去りゆく恋人 – "So Far Away" – 3:55 イッツ・トゥー・レイト – "It's Too Late"（作詞はToni Stern) – 3:53 ホーム・アゲイン – "Home Again" – 2:29 ビューティフル – "Beautiful" – 3:08 幸福な人生 – "Way Over Yonder" – 4:44	Side B 君の友だち – "You've Got a Friend" – 5:09 地の果てまでも – "Where You Lead"（作詞はStern) – 3:20 ウィル・ユー・ラヴ・ミー・トゥモロー – "Will You Love Me Tomorrow?" (Gerry Goffin, King) – 4:12 スマックウォーター・ジャック – "Smackwater Jack" (Goffin, King) – 3:41 つづれおり – "Tapestry" – 3:13 ナチュラル・ウーマン – "(You Make Me Feel
	CAROLE KING	つづれおり		1971	ポップス	CD	日本		CD以下、ボーナストラック 13. アウト・イン・ザ・コールド（未発表曲） 14. スマックウォーター・ジャック（未発表ライヴ）	
	CAROLE KING	ファンタジー		1973年6月	ポップス	レコード	日本	キャロル・キングと言えば、「つづれおり」と言うくらい、そのアルバムはSSW（シンガーソングライター）の最高傑作アルバムとして彼女の代表作になっているが、自分としては彼女の最高傑作アルバムはこの「ファンタジー」だ！メリサ・マンチェスターの「DON'T CRY OUT LOUD」と並び、白人女性アーティストのニューソウル路線アルバムとして、自分の70年代名盤となっている。70年代のニューソウルを代表するアーティストのダニー・ハサウェイとリオン・ウェアーの二人が、この二つのアルバムに大いに影響を与えている事は言うまでもない！キャロルの「ファンタジー」はダニー・ハサウェイから大いに影響を受けていた時期に発表したアルバムだったし、メリサのアルバムの方はリオンがプロデュースしたアルバムだった。アルバム「ファンタジー」は、当時のキャロルの夫であったチャールズ・ラーキーのウッドベースとキャロルのピアノで始まる1曲目のジャズっぽいサウンドに、ハーヴェイ・メイソンのドラムと、これぞ！デヴィッド・T！と言う、デヴィッド・T・ウォーカーのギター、そして女性パーカッショニストのボビー・ホールのパーカッションが絡んで来てソウルフルな展開になって行く中で、このアルバムにどんどん引きずり込まれて行く！サウンドはソウルフルな洗練されたものなのだが、詞の内容は人間性をテーマにしたアルバムだけあって、人種問題や戦争、愛を取り上げたシリアスな作品ばかりであった。アルバム「ファンタジー」は全ての楽曲、アレンジ、そしてバック・ミュージシャンの演奏、どれをとってもみなとても素晴らしく、キャロルの声も活き活きしていた。トム・スコット、アーニー・ワッツ、チャック・フィンリー等のホーン・セクション陣のホーン・アレンジとストリングス・アレンジもキャロル自らしているが、トータル・アルバムとして、この「ファンタジー」はキャロルが最も力を注いだアルバムだと思うし、彼女もきっとこのアルバムが自分の最高傑作と思っているに違いないアルバムだと思う	**Side A** 1. ファンタジー・ビギニング – 1:03 2. 道 – You've Been Around Too Long – 3:42 3. 愛 – Being at War With Each Other – 3:27 4. ディレクションズ – 3:29 5. 愛の日々をもう一度 – That's How Things Go Down – 3:01 6. ウィークデイズ – 2:45	**Side B** 1. ヘイウッド 4:47 2. クワイエット・プレイス・トゥ・リヴ – 1:56 3. 悲しみのシンフォニー— 3:47 4. ユー・ライト・アップ・マイ・ライフ – 3:14 5. コラソン]– 4:06 6. ビリーヴ・イン・ヒューマニティ – 3:19 7. ファンタジー・エンド – 1:25
	CAROLYN MAS	ニューヨーク・ギャル		1979	ロック	レコード	日本	キャロライン・マスのデビュー・アルバム。そこからのシングルカット「スティルセイン」がスマッシュしてヒットする。1979年9月8日全米チャート最高位71位。この曲調がもろブルース・スプリングスティーンで最高にイカした曲で、そこから女性ブルース・スプリングスティーンと言われるようになったと思われる。アルバムもいくつかブルース・スプリングスティーンのサウンドを思わせる曲があり、こうした音作りが、キャロラインのタフではつらつとしたノリのヴォーカルに実にフィットしていて気持ちが良い。また、2曲目の「セイディー・セッズ」は、60年代前半のフィルスペクターのサウンドの影響も伺え、表情豊かな彼女のヴォーカルに充分な可能性が見える。詩情のにじむ佳曲には、キャロラインのソングライターとしての才能が発揮されている。	A面 1. スティル・セイン Stillsane 2:47 2. セイディー・セッズ Sadie Says 3:06 3. スノウ Snow 5:00 4. イッツ・ノー・シークレット It's No Secret 3:24 5. コール・ミー Call Me 5:07	B面 1. グッバイ・クオート Quote Goodbye Quote2:28 2. ウィズアウト・スリー Never Two Without Three 3:58 3. ドゥ・ユー・ビリーヴ Do You Believe I Love You 3:07 4. 暗闇に座って Sittin' In The Dark 4:38 5. ベイビー・プリーズ Baby Please 5:24
	CARPENTERS	ナウ・アンド・ゼン（今、そしてあのころ）		1973	ポップス	レコード	日本	5枚目のアルバム。『Now & Then』は、アメリカ、イギリス、カナダ、オランダのチャートでいずれも最高2位まで到達。アメリカでは200万枚、日本でも50万枚を売り上げた。こうしてカーペンターズは、「現在と過去のポップスを両方巧みにこなせるデュオ」という評価を不動のものにした。アルバム『Now & Then』はA面が「Now（現在）」、B面が「Then（過去）」という構成になっており、B面にはカーペンターズが若いころに聴いていたポップスやカントリーの懐かしのヒット曲のカヴァーが次々に演奏され、B面の1曲目は新曲が「Yesterday Once More」と、B面の冒頭にピッタリの内容だった。一方「Now」のA面は「Sing」で幕を開ける。これはテレビ番組『Sesame Street』の曲で音楽担当であったジョー・ラポゾが作った曲。シングルでは「Yesterday Once More」が全米2位、全英2位、日本でも5位となるヒット曲。		
	CARPENTERS	カーペンターズ		1973	ポップス	レコード	日本	カーペンターズのベスト盤。	Side A: 1) Yesterday Once More 2) Top Of The World 3) Mr. Guder 4) A Song For You 5) Help! 6) Ticket To Ride Side B: 1) Superstar 2) Jambalaya (On The Bayou) 3) For All Me Know 4) Hideaway 5) I'll Never Fall In Love Again 6) Another Song	Side C: 1) Sing 2) Eve 3) Hurting Each Other 4) Crescent Noon 5) Bless The Beasts And Children 6) Rainy Days And Mondays Side D: 1) (They Long To Be) Close To You 2) One Love 3) It's Going To Take Some Time 4) Someday 5) Bacharach / David Medley 6) We've Only Just Begun
	CARPENTERS	青春の輝き～ベスト・オブ・カーペンターズ		1995	ポップス	CD	日本	1995年に放送された日本のテレビドラマ『未成年』で「青春の輝き」「トップ・オブ・ザ・ワールド」[2] が起用され劇中でもカーペンターズの楽曲が使用されるなどしたため注目を集めた。オリコン集計で累計200万枚を突破した。 収録曲が、遙かなる影全米1位・全英6位、スーパースター全米2位、シング全米3位、イエスタデイ・ワンス・モア全米2位・全英2位、愛のプレリュード全米2位、オンリー・イエスタデイ全米4位、ふたりの誓い全米3位、雨の日と月曜日は全米2位、愛にさよならを全米7位・全英9位、小さな愛の願い全米12位、青春の輝き25位、トップ・オブ・ザ・ワールド等、永遠のヒット曲がズラリと並んだカーペンターズのベスト盤で功績が素晴らしい。	1青春の輝き 2愛のプレリュード 3スーパースター 4雨の日と月曜日は 5トップ・オブ・ザ・ワールド 6シング 7オンリー・イエスタデイ 8涙の乗車券 9愛にさよならを 10小さな愛の願い 11マスカレード	12スウィート・スマイル 13愛は夢の中に 14ソリテアー 15プリーズ・ミスター・ポストマン 16ハーティング・イーチ・アザー 17見つめあう恋 18ジャンバラヤ 19ふたりの誓い 20タッチ・ミー 21遙かなる影 22イエスタデイ・ワンス・モア
	CAPTAIN BEEFHEART	トラウト・マスク・レプリカ		1969	プログレ	レコード	US	キャプテン・ビーフハート&マジック・バンドの3rdアルバムにして、世界の前衛ロック屈指の名盤とされる2枚組。 上手い下手を超えて気紛れに鳴り続けるような演奏が、実際はすべてビーフハートが作曲したフレーズを書き起こした譜面を基に、過酷なリハーサルを重ねたうえでたった2日間で全曲レコーディングされたアルバム。	1 フロウンランド 2 ザ・ダスト・ブロウズ・フォワード・アンド・ザ・ダスト・ブロウズ・バック 3 ダッハウ・ブルース 4 エラ・グールー 5 ヘア・パイ: ベイク1 6 ムーンライト・オン・ヴァーモント 7 パチューコ・カデイヴァー 8 ビルズ・コーブス 9 スウィート・スウィート・バブルス 10 ネオン・ミート・ドリーム・オブ・ア・オブ・ア・オクタフィッシュ 11 チャイナ・ピッグ 12 マイ・ヒューマン・ゲッツ・ミー・ブルース 13 ダリズ・カー 14 ヘア・パイ: ベイク2	15 ベイナ 16 ウェル 17 ホウェン・ビッグ・ジョーン・セッツ・アップ 18 フォーリン・ディッチ 19 シュガー・アンド・スパイクス 20 アント・マン・ビー 21 オレンジ・クロウ・ハンマー 22 ワイルド・ライフ 23 シーズ・トゥー・マッチ・フォー・マイ・ミラー 24 ホー・ボー・チャング・バ 25 ブリンプ(マウストラプレプリカ) 26 スティール・ソフトリー・スルー・スノウ 27 オールド・ファート・アット・プレイ 28 ヴェテランズ・デイ・ポピー

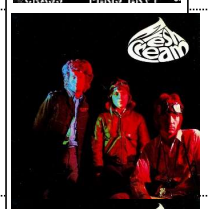
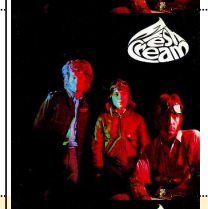
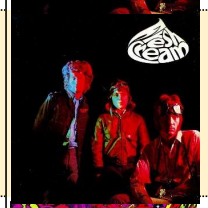
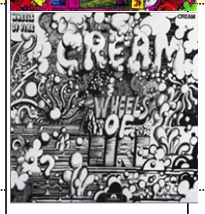
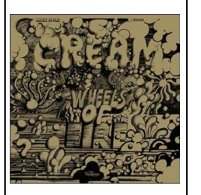
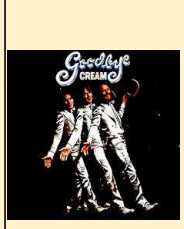
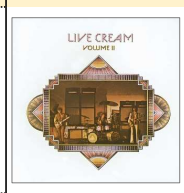
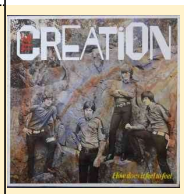
	CAPTAIN BEYOND	キャプテン・ビヨンド		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	72年作、ディープ・パープルのオリジナル・メンバーであるロッド・エヴァンスが中心に結成されたギャプテン・ビヨンドのファースト・アルバムです。エヴァンス、元アイアン・バタフライのメンバー、ラリー・リノ・ラインハルト（最近訃報が報じられました）とリー・ドルマン、更にジョニー・ウインターとの活動で有名なボビー・コールドウェル（アメリカのAORシンガーとは同姓同名の別人です）という構成により、スーパー・グループという側面もあったバンドです。パープルの初代ヴォーカリストとしては、かなり知名度、評価が低いと思われますが、このロッド・エヴァンスという人は80年代に偽ディープ・パープルでの興行で裁判沙汰になり、胡散臭さにまみれてしまったのが大きかったと思います。ただ実力的にはかなり注目する点が多く、ソング・ライティング・センスに加え、ソフトながらソウルフルな声質、個性は強くないですが幅広いメロディを歌いこなす器用さは、ユニークなハード・ロック・バンドには最適に人材であったと思われます。パープルよりはツェッペリン的アプローチが強い中、ジャズ、プログレにも通じる複雑な構成も見せ、かなりグルーヴ感があるサウンドは、当時のブリティッシュ・ハード勢の中でも最先端の音であったと思われます。時折垣間見れる、まるで初期エアロスミスを思わせるかの様なリフ、サバスをスピーディーにしたかの様なメタリックなリフ等、なかなか聴かせてくれるだけに、もっと再評価されていい1枚ではないでしょうか。		
	CARS	錯乱のドライブ		1978年5月	ニューウェイブ	レコード	日本	カーズのデビュー・アルバム。（全米18位）グラミー新人賞ノミネート作品。78年のデビュー・アルバムが絶賛され、それ以降も次々にアルバムを大ヒットさせた'80年代アメリカを代表するバンドとなったカーズ。シングル「燃える欲望」（全米27位）「ベスト・フレンズ・ガール」（同35位）「グッド・タイムズ・ロール」（同41位）がヒット。リック・オケイセックのトボケたボーカル、グレッグ・ホークスの浮遊感あるキーボード、デヴィッド・ロビンソンの素人ぽいドラム、逆に鋭いエリオット・イーストンのギター。しかし何よりベンジャミン・オールの瑞々しいボーカルをフィーチャーした「燃える欲望」「バイバイ・ラヴ」「オール・ミクスドアップ」が素晴らしい。	Side A 1. グッド・タイムズ・ロール – "Good Times Roll" – 3:44 2. ベスト・フレンズ・ガール – "My Best Friend's Girl" – 3:44 3. 燃える欲望 – "Just What I Needed" – 3:44 4. 狂気のふれあい – "I'm In Touch With Your World" – 3:31 5. ドント・チャ・ストップ – "Don't Cha Stop" – 3:01	Side B 1. 今夜は逃がさない – "You're All I've Got Tonight" – 4:13 2. バイ・バイ・ラブ – "Bye Bye Love" – 4:14 3. ムービング・イン・ステレオ – "Moving In Stereo" – 4:41（グレッグ・ホークス、オケイセック） 4. オール・ミックスト・アップ – "All Mixed Up" – 4:14
	CARS	錯乱のドライブ		1978年5月	ニューウェイブ	CD	US			
	CARS	キャンディー・オーに捧ぐ		979年6月13日	ニューウェイブ	レコード	日本	カーズのセカンド・アルバム。ジャケットのデザインはアルベルト・バルガスによるもの。全米3位。前作同様にロイ・トーマス・ベイカーがプロデュースを担当した作品。全体的には同時期のローラーズに近いパワー・ポップを聞かせているが、とにかくシンセで奏でられるリフがキャッチーで素晴しい。シンプルなバンド・サウンドをニュー・ウェイヴ経由のシャープな演奏で組み立て、ポイントとしてシンセサイザーを導入しているかのような感じであり、いわゆるテクノ的な雰囲気は皆無である。ディーヴォなども彼らと同様のサウンドを発信していたが、カーズの場合は音楽的な成熟度が高く、楽曲が安定しているため刺激はやや少ないものの完成度については雲泥の差があると言わざるを得ない。シンセサイザーの音色は今となっては古臭い印象を受ける人もいるかもしれないが、時代が二つ回りしてしまった現在ではレトロ的な意味合いも付加してかえって新鮮に聞こえると思う。センスそのものは現代の耳で聞いてもかなり良いと思う。パブ・ロックのルーモアも一時期に近いサウンドを目指していたように思うが、彼らには土臭さが付きまといカーズのような洗練された雰囲気は遠かった。パワー・ポップのファンならお薦め。シングル「レッツ・ゴー」（全米14位）「オール・アイ・キャン・ドゥ」（同41位）ハイライトは「ダブルライフ」～「シュビ・ドゥー」～「キャンディー・オー」の流れ淡々とした曲とハードな曲の間を、実験的なメロディで見事に繋いでいる。サビに入るギターがホリーズのバスストップを思わせる「いつまでも恋人」や「レッツ・ゴー」の次にシングルカットしていればヒットしただろう「ナイトスポット」も何度も聴き返したくなる良い曲だ。	Side A 1. レッツ・ゴー – "Let's Go" – 3:33 2. いつまでも恋人 – "Since I Held You" – 3:16 3. オール・アイ・キャン・ドゥ – "It's All I Can Do" – 3:44 4. ダブル・ライフ – "Double Life" – 4:14 5. シュー・ビー・ドゥ – "Shoo Be Doo" – 1:36	Side B 1. キャンディ・オーに捧ぐ – "Candy-O" – 2:36 2. ナイトスポッツ – "Nightspots" – 3:15 3. 燃えつきた恋 – "You Can't Hold On Too Long" – 2:46 4. ラスト・フォー・キックス – "Lust For Kicks" – 3:52 5. ガット・ア・ロット・オン・マイ・ヘッド – "Got A Lot On My Head" – 2:59 6. 危険がいっぱい – "Dangerous Type" – 4:28
	CARS	パノラマ		980年8月15日	ニューウェイブ	レコード	日本	カーズが1980年に発表したサード・アルバム。前作のポップ路線よりも、大きく実験的要素を含んだ近作は賛否両論を巻き起こした問題作でもある。一般的に知られたヒット曲が「Touch And Go」のみということもあり、やや地味な印象を与える一枚だが、このバンドの歴史においてはかなり重要な位置を占める作品。デビュー後立て続けにヒット・アルバムを出し、米国を代表する「ニュー・ウェイヴ・バンド」となった彼等が、あえてメジャー・レーベルのアーチストとして許されるギリギリの範囲まで実験的なサウンド作りを試みた意欲作。確かに一度聴いただけではその良さは分からないかもしれないが、「Gimme Some Slack」や「Down Boys」のクールなドライヴ感、「Misfit Kid」の歌詞に描かれる虚無的な世界観、そして（リックが敬愛するVUの歌詞を引用した）隠れた名曲「You Wear Those Eyes」で聴けるベンとリックの掛け合いヴォーカル等々、彼等の魅力があちこちに溢れていて、決してあなどれないアルバムに仕上がっている。キーボードのグレッグが大活躍しているのはモチロン、特筆すべきはエリオットのいぶし銀のようなギター・ワーク。デイヴィッドによるシャープな切れ味のドラミングも気持ち良い。リック自身が描いたサウンドのヴィジョンに加え、プロデューサーのロイ・トーマス・ベイカーが果たした役割も大きい。このアルバムがそれほど売れなかった結果、バンドは軌道修正を迫られ、次作以降はよりポップな路線を進むことになる。	Side A 1. パノラマ – "Panorama" – 5:42 2. タッチ・アンド・ゴー – "Touch And Go" – 4:55 3. ギミ・サム・スラック – "Gimme Some Slack" – 3:32 4. ドント・テル・ミー・ノー – "Don't Tell Me No" – 4:00 5. ゲッティング・スルー – "Getting Through" – 2:35	Side B 1. ミスフィット・キッド – "Misfit Kid" – 4:30 2. ダウン・ボーイズ – "Down Boys" – 3:09 3. ユー・ウェア・ゾーズ・アイズ – "You Wear Those Eyes" – 4:55（オケイセック／グレッグ・ホークス） 4. ランニング・トゥ・ユー – "Running To You" – 3:22 5. アップ・アンド・ダウン – "Up And Down" – 3:31
	CARS	シェイク・イット・アップ		1981年11月	ニューウェイブ	レコード	日本	カーズが1981年に発表した第4作アルバム。シンセサイザーの導入などにより、前作よりポップな曲調が目立つ。シングル「Shake It Up」もオリコン・チャートで4位にランクインしている。前作での冒険を経て、再度ポップ路線へと大きく揺り戻した作風が非常に印象的です。ただし、キャッチーではありつつも、それなりにロッキンな部分をも大いに内包していた初期2作品とは異なり、ここでのカーズは更にリズミックに、そしてダンサブルな方向性に舵を切ってきています。 シャープ＆エッジィな側面は大きく減退し、そのサウンド・スタイルはよりディスコ・ミュージックの影響を取り入れたものになったと言っていいでしょう。こうしたスタイルというのは、当時のニューウェイヴ系のアーティストたちにとっては、完全に時代のスタンダードとも呼ぶべき定番路線であり、これをやらない限り音楽シーンでの成功はあり得ないと言っても過言ではないものでありました。ダンス/ディスコ・ミュージックとニューウェイヴ/シンセポップというのは、最早不可分の共生関係にあったということ。	Side A 1. シンス・ユーアー・ゴーン – Since You're Gone (3:30) 2. シェイク・イット・アップ – Shake It Up (3:32) 3. アイム・ノット・ザ・ワン – I'm Not The One (4:12) 4. ビクテム・オブ・ラブ – Victim Of Love (4:24)	Side B 1. クルーザー – Cruiser (4:54) 2. ドリーム・アウェイ – A Dream Away (5:44) 3. ジス・クッド・ビー・ラブ – This Could Be Love (4:26)（オケイセック／グレッグ・ホークス） 4. シンク・イット・オーバー – Think It Over (4:56) 5. メイビー・ベイビー – Maybe Baby (5:04)
	CARS	ハートビート・シティ		1984年3月13日	ニューウェイブ	レコード	日本	カーズの第5作アルバム。同バンドのリリースしたアルバムの中で最も商業的成功を収めている。全米アルバム最高3位。当時、全米のみで200万枚突破。現在の全米累計セールスは400万枚突破。前々作『パノラマ』、前作『シェイク・イット・アップ』に比べ、全体的によりポップな仕上がりになっている。「ラジオ&レコーズ」の年間アルバムチャートでは1位を獲得している。シングルでも「Drive」「Hello Again」「Magic」「You Might Think」がTOP20に入るなど、ヒットを量産している。アルバム中、5曲がシングルヒットした事が表すようにキャッチーな粒揃いの曲が並ぶ。コミカルなプロモーションヴィデオが名高いYou Might Thinkを始め、Stranger EyesやIt's Not the Nightの様な初期を思わせるハードな曲までヴァラエティ豊か。名曲 Driveの正規ヴァージョンとデモトラックの余りの落差には驚くが、スタジオワークの裏面がうかがえ興味深い。収録されたアーリーヴァージョンは総じて出来が良く、特にタイトル曲の初期版 Jackiはよりメロディーの哀愁が際立つ。	Side A 1. ハロー・アゲイン – Hello Again (3:47) 2. ルッキン・フォー・ラヴ – Looking For Love (3:52) 3. マジック – Magic (3:57) 4. ドライヴ – Drive (3:55) 5. ストレンジャー・アイズ – Stranger Eyes (4:26)	Side B 1. ユー・マイト・シンク – You Might Think (3:04) 2. イッツ・ナット・ザ・ナイト – It's Not The Night (3:49)（グレッグ・ホークス／オケイセック） 3. ホワイ・キャント・アイ・ハヴ・ユー – Why Can't I Have You (4:04) 4. アイ・リフューズ – I Refuse (3:16) 5. ハートビート・シティ – Heartbeat City (4:31)
	CHARLIE SEXTON	ピクチャーズ・フォー・プレジャー		1985年	ロック	レコード	日本	'68年生まれの彼は、8歳でギターに触れ、13歳でバンドを結成し、14歳にしてボブ・ディランのレコーディングに参加する。その後も高名なロックミュージシャンたちとの競演を重ね、86年、17歳で彼は初のソロである本作を発表する。 疾走感のある〈2〉でさっそうと登場し、ギタリストとしての腕前だけでなく、やたら箔のあるヴォーカルも披露した。オールミュージックにおいて5点満点中4点を付け「この10代のギタリストは、出身地のテキサス州オースティンで、ブルースやルーツ・ロックの素養を身に着けていたが、当時の商業音楽界では、そうした音楽への需要は限られており、ドラムマシンやシンセサイザーを積み重ねた音作りにならざるを得なかった」「セクストンが後に発表した、より厳格なブルース指向の作品の多くと比較すると、より興味深く楽しめるレコードである」と評している。また、甘いルックスが人気となり、全米15位、日本では最高4位（14週トップ100入り）を記録し、「チャリ坊」などと呼ばれ、洋物アイドル好きの人たちに大ウケした。	Side A 1. インプレスト 2. ビーツ・ソー・ロンリー 3. レストレス 4. ホールド・ミー Side B 1. ピクチャーズ・フォー・プレジャー 2. テル・ミー 3. アトラクションズ 4. ユー・ドント・ビロング・ヒア 5. フォーム	
	CHASE	追跡		1971年	ロック	レコード	日本	1971年リリース。1970年代のブラスロックの双肩の「シカゴ」と「チェイス」。9人編成のブラス・ロック・バンド、チェイスのデビュー・アルバム。4本のトランペットが生み出すサウンド「RockとJazzの融合＋ブラス」は実にシャープでスリリング。その魅力が最大限に発揮されたシングルA面⑤Get It On「黒い炎」が大ヒットしアルバムも大ヒットした。Funky Grooveにのってオルガンとブラスが暴れるオープニング・インスト(1) "Open Up Wind"かなり黒いアップテンポなFunkyチューン(3) "Hello Groceries" ミドルテンポ・R&B風な(4)など、佳曲揃いな1枚。特筆すべきは、(5) "Get It On (邦題：黒い炎)"ホーンがインパクト満点。	**Side A** 1. オープン・アップ・ワイド 2. ジョージアの夏 3. いかした女 4. ハンドバッグと正装 5. Get It On（黒い炎）	**Side B** 1. ボーイズ・アンド・ガールズ 2. 組曲「炎の流れ」 トゥ・マインズ・ミート/ステイ/ ペイント・イット・サッド/リフレクションズ/ リバー
	CHEAP TRICK	チープ・トリック I		1977	ハードロック	レコード	日本	77年作、チープ・トリックのセカンド・アルバム。彼等の代表作は一般的には「at 武道館」が挙げられるのでしょうが、本作を一番愛している人も未だ多いのではないでしょうか。ジャック・ダグラスからトム・ワーマンにプロデュースが代わった事で、サウンドの感触がポップにまとめられ、パワー・ポップとしての側面が強くなっています。 日本ではアイドル的人気の盛り上がりとちょうどリンクしたキャッチーなメロディ集が、洋楽ロックの楽しさ、キラキラした輝きを当時の女子を中心に夢中させたわけです。とは言え、コンパクトなポップネス、ハード・ロック・ファンをも満足させるバンド・サウンド、彼等のユニークなキャラクターは、次世代のヒーロー像として男子の目にもカッコ良く映っていたはずです。ライヴでのハードなエッジが封印されてはいますが、それまでのアメリカン・ハードの土臭さや汗臭さが皆無の甘く洗練された音は、以降の80年代ロックへの影響も大きく残したと思います。シュガーコーティングがされていながら、歯応えはしっかりとしていて、時に辛味も感じさせてくれた上、満腹感も申し分ない、そんな感じでしょうか。ポップ・ロックでは終わらない、生粋のハード・ロッカーとしての血がソフトなサウンド・プロダクションの中でも隠しきれなかった結果だと思います。表裏のジャケットのカッコ良さに始まり、「甘い罠」、「今夜は帰さない」、「ハロー・ゼア」といった、彼等の永遠のテーマ曲とも言える名曲を含み、全曲がシングル・カット可能であった充実度は、ポンポンと矢継ぎ早に繰り出されるキレのいい速球の様で、何度手にしても胸ときめくものとなっています。		
	CHEAP TRICK	蒼ざめたハイウェイ		1978	ハードロック	レコード	日本			
	CHEAP TRICK	蒼ざめたハイウェイ		1978	ハードロック	CD	US			
	CHEAP TRICK	天国の罠		1978	ハードロック	レコード	日本	78年作、チープ・トリックのサード・アルバムとなった1枚で、日本では彼等の人気絶頂期を象徴するものとして今も愛される大名盤です。アメリカン・ハードの土臭い部分を全く匂わせない新しいスタイルを確立したデビュー作、ハード・ポップとしての甘くライトな側面を強化されたセカンドに続き、ここでは彼等の真骨頂と言えるワイルドなギターとキャッチーなメロディが絡む胸キュン疾走型ハード・ロックを完成させています。 今も多くのアーティストにカヴァーされる「サレンダー」は彼等の代表曲になったのと同時に、ティーンの心情を巧みに描いた青春ソングの定番ともなりました。 アンスラックス等が取り上げ、やはりカヴァー率の多い「サヨナラ・グッバイ Auf Wiedersehen」は、彼等流のポップ・メタル・ソング、珍しくダークな質感が目立つ重い哀愁バラードのアルバム・タイトル曲、「甘い罠」のスウィング・ヴァージョンとも言えるポップ・ナンバー、「How Are You?」等々、実に優れた曲が並びます。 当時の国内アナログ盤のライナーノーツには、「自転車に乗りながら鼻歌で歌えるハード・ロック」という様な表現がされていたと思いますが、まさに言い得て妙、全曲がポップ極まりないメロディを持ちながらハード・ロックとしてのダイナミズムを失っていません。 この辺のセンスが、当時は彼等をニュー・ウェイヴと見なした人が多かった原因だと思いますが、本作のキャッチーさはビートルズ以来の古典的なものであり、それはやがて80年代メタルへと受け継がれていったものだという事実により、後に再評価へと繋がっていったわけです。		

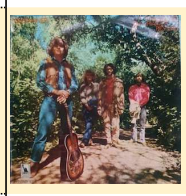
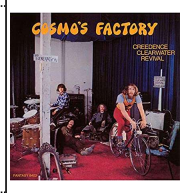
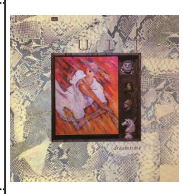
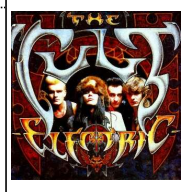
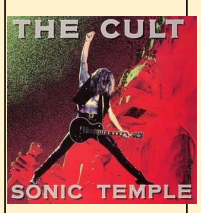
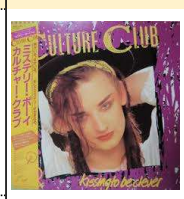
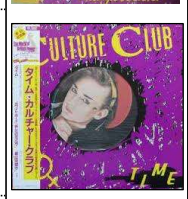
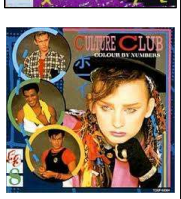
	CHEAP TRICK	チープ・トリック at武道館		1978	ハード ロック	レコード	日本	78年リリース作。チープ・トリックのライヴ盤。ビートルズやディープ・パープルがすでに来日公演を果たしてきましたが、武道館の名前を世界中に知らしめたのは、まさしく本作。スタジオ盤ではポップな面が強調される事が多かった彼等のナンバーは、ライヴ・バンドとしての実力とブリティッシュ・ハードの影響も強い性格から、一気にハード・ロックとしての側面が強まったのも特徴だと思います。ブルースを基調としない底抜けのメロディの良さ、黄色い大歓声にもけっして負けないバンドのダイナミズムが、アイドル・バンドだけでは終わらない新世代感覚のハード・ロックを聴かせてくれた、という意味でもかなり重要な1枚だと思います。数有るロック・ライヴ・アルバムの中でも、まず必聴すべきアルバム！		
	CHEAP TRICK	ドリーム・ポリス		1979	ハード ロック	レコード	日本	79年作。通算4作目のアルバムで、彼等の人気絶頂期を代表する1枚。実際には前年度に完成していた様ですが、武道館ライヴが本国アメリカでも大ヒットし、本作のリリースはあえて先延ばしされた結果、全米6位という彼等のキャリア中最高チャートを記録しています。彼等のポップ・センスはここでも冴えていて、更にメタリックな要素、そして凝ったアレンジが加わる事により、ハード・ポップ、ハード・ロックの名盤として色褪せていません。アルバム・タイトル曲はチープ・トリック流サイバーパンクとも言える歌詞がユニークで、実際ジョージ・オーウェルの名作、「1984」から影響を受けている様です。この曲もそうなのですが、「Way Of The World」でもストリングスが導入され、かなり大掛かりなサウンドになっているにも関わらず、フットワークが軽い印象があるのは、ポップ・センスが優れているからだと思います。彼等にしては珍しい長尺のナンバーで、ヘヴィかつダークな「 GONNA RAISE HELL」、「NEED YOUR LOVE」、トム・ピーターソンが独特の鼻声を初披露した「I KNOW WHAT I WANT」等、その後のライヴの重要レパートリーが目白押しとなった構成も見事。そしてハイライトはやはりスティーヴ・ルカサーがゲスト参加した珠玉のバラード、「VOICES」だと思われます。彼等のキャリアの中でも、1、2位を争うドリーミーでメロウなナンバー。		
	CHEAP TRICK	オール・シュック・アップ		1980	ハード ロック	レコード	US	80年作、チープ・トリックの通産5作目となったアルバム。彼等にとっては大きな転機作ともなった1枚。プロデュースは御大ジョージ・マーティン、ジャケット写真はモシャ・ブラカ、というそれまでのアイドル路線からは考えられない制作陣を起用しています。サウンドも甘いパワー・ポップから、ハード・ロック、メタリックなエッジの強い、まるでファースト・アルバムを更にハイパーにしたかの様な作風。本作後にトム・ピーターソンが脱退（トムの当時の奥方とのバンド活動が原因）。バラエティに富んだ実験作となった時点で、バンドはかなり消耗していた。AC/DCばりのロック・ソングから、インダストリアル・メタル風味わい、アフリカン・ビートの導入等、彼等のキャリアの中でも、かなり実験的となっていますが、あくまでキャッチー、痛快なハード・ロック・アルバムであるのは間違いありません。 現在では「Just Got Back」や「Stop This Game」のみがライヴでプレイされていますが、かなり名曲揃いの1枚で、もっと再評価がされていいと強く思います。		
	CHELSEA	チェルシー			パンク	レコード	イタリア		Side A	
	CHERIE CURRIE	ビューティー＆ワイルド		1978	ロック	レコード	日本	78年ソロ・ファースト。RUNAWAYSのオリジナル・リード・シンガーCHERIE CURRIEがバンド脱退後の78年にリリースしたヴァラエティに富んだソロ・アルバム。齢18歳がポップ・オリエンテッドにオトナの階段を上るポップ・ロック・アルバム。"LOVE AT FIRST SIGHT"では双子のMARIE CURRIEとデュエットしています。KIM FOWLEYのプロデュース。	Side A	
	CHERRY VANILLA	バッド・ガール		1978	パンク	レコード	UK	1978年作品。女パンク番長とも称されるNY生まれのシンガー(本名:ケイティ・ドリトル)。本作は彼女のデビュー作で、ストレートなロックンロールが中心。デビュー以前にはあのデヴィッド・ボウイの広報係として働いていたり、アンディ・ウォーホルの舞台に出演経験もあるという異色の経歴の持ち主。デヴィッド・ボウイの影響なのかグラムロックを基調に当時流行だったPUNKの要素を取り込んだサウンドで、そのルックスと存在感抜群の印象的なステージングにあのデボラ・ハリーも影響を受けたとか。ライヴではこれらの楽曲をよりスピーディかつラフに演奏していた。歌詞は常に実体験をモチーフにしている。	Side A 1. アイ・ノウ・ハウ・トゥ・フック 2. So 1950's 3. ノット・ソー・バッド 4. ザ・パンク 5. ノー・モア・カナリーズ	Side B 1. ハード・アズ・ア・ロック 2. リバプール 3. フォクシー・ビッチ 4. バッド・ガール 5. リトル・レッド・ルースター
	CHICKEN SHACK	(ペーパースリーブ仕様) 100トンの鶏		1969	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD	日本	チキン・シャックの69年3作目「100トン・チキン」。Christine Perfectが去りかわりにポール・レイモンドが加入。 栄光の英国ブルースロックの時代は去り、もうだめになるかと思いきや71年に目の覚めるようなハードな傑作"Imagination Lady"を出したりして、どうにもつかみどころのないイメージのバンドです。 本作もしょうもないコスプレジャケでとほほとなりそうですが、内容は素晴らしいです。ブルースロックを実にいいあんばいに進化させたといいますか、けっこうヴァラエティに富んだ内容にもかかわらず全編でかっこよさが爆裂しています。 やっぱギターがいいねえってのは当然としてオルガンがいい味を出しており、バトルもかっこいい。ラストは驚きのDavy Grahamのカヴァー"Anji"できっちりと締めます。	**Side A** 1. The Road of Love 3:30 2. Look Ma, I'm Cryin' 3:25 3. Evelyn 4:18 4. ReconSider Baby Lowell Fulson 3:25 5. Weekend Love 2:14	Side B 1. Midnight Hour Clarence Gatemouth Brown 2:55 2. Tears in the Wind 2:45 3. Horse and Cart 3:36 4. The Way It Is 4:29 5. Still Worried About My Woman 3:12 6. Anji Davey Graham 1:39
	CHICAGO	シカゴの軌跡		1969年4月28日	ロック	レコード	日本	1969年リリース。シカゴの最高傑作。新人バンドとしては異例の2枚組デビュー作。ブラス・ロックというバンド・スタイルと激動の60年代末を象徴するようなメッセージ色の濃い内容は後続のバンドに多大なる影響を与えた。録音はたったの10日間、1曲を除きすべてオリジナル曲。大胆かつ整然としたホーン・セクションはテリー・キャスのワイルドなギターとボーカルを決して邪魔することなく、美しく調和している。もう一つの聴きどころは、ジミヘンも認めた、テリー・キャスのワイルドなギターが太く荒削りで、歌心を感じるギターです。テリー・キャスはヴェンチャーズに最も影響を受け、貧しい家庭環境のなか、独学でギターを習得した。68年にロサンゼルスのウィスキー・ア・ゴーゴーでテリー・キャスの演奏を聴いたジミ・ヘンドリックスは、「自分のギターより良い」と言っていたそうです。 そしてこのデビュー作から3作連続で2枚組アルバムを発表すると言うからバンドの創造力がみなぎってきたことが伺える。全米アルバム・チャート:第17位。ヒット・シングル「いったい現実を把握している者はいるだろうか?」(全米第7位)と「ビギニングス」(全米第7位)を収録	**Side A** 1. イントロダクション 2. いったい現実を把握している者はいるだろうか? 3. ビギニングス **Side B** 1. クエスチョンズ67/68 2. リッスン 3. ポエム58	**Side C** 1. フリー・フォーム・ギター 2. サウス・カリフォルニア・パープルズ 3. アイム・ア・マン **Side D** 1. 1968年8月29日シカゴ、民主党大会 2. 流血の日(1968年8月29日) 3. 解放
	CHICAGO	シカゴII(シカゴと23の誓い)		1970年8月26日	ロック	レコード	日本	デビュー作"シカゴ・トランジット・オーソリティー"改め"シカゴ"と名乗った2作目にあたる本作。パワフルで荒削りなデビューアルバムも凄かったが、より洗練されたこのセカンドは本当に見事。余りにも手ごたえがありすぎる。パワフルさを残しつつも、スウィートなハーモニーがとっても素敵。この時代のロックが、既存の色々な音楽のﾌｨｰﾙﾄﾞに侵食していくさまが、手に取るようにわかる。あの時代の夢と幻滅、そこから立ち上がって何かを成し遂げようとする意欲がつめ込められている。シ注目して欲しいのは、ドラムスのダニー・セラフィンです。現在のシカゴのように(レコーディングでは)打ち込みなどでは無く、彼の卓越したドラミングが一作目同様堪能できます。「ぼくらは何処へ」から「約束の地」まで、迷走することなく一気に駆け抜けて到達してしまうころ、ウインディシティの風にゆらぐことはない確固たるバンドの生命力みなぎる強靭な躍動感を感じる。テリーキャスという稀代のギタリストがいた時代のロック色の強いシカゴが最高であり、テリーキャス、ピーターセテラの双頭ボーカルを聴くことのできる時代のアルバムこそシカゴだと思う。シカゴの最高傑作に間違いない。	**DISC 1** **Side A** 1. ぼくらは何処へ"Movin' In" – 4:06 2. ぼくらの道"The Road" – 3:10 3. ぼくらの詩"Poem for the People" – 5:31 4. ぼくらの国"In the Country" – 6:34 **Side B** 1. 朝日よ輝け "Wake Up Sunshine" – 2:29 2. バレエ・フォー・ア・ガール・イン・バキャノン – 12:55 3. ぼくらに微笑みを"Make Me Smile" – 3:16 4. 言いたいことが沢山"So Much to Say, So Much to Give"– 1:12 5. 不安の日々"Anxiety's Moment" – 1:01 6. ウェスト・ヴァージニアの幻想"West Virginia Fantasies"– 1:34 7. ぼくらの世界をバラ色に"Colour My World" – 3:01 8. 今こそ自由を"To Be Free" – 1:15	**DISC 2** **Side 3** 1. 空想の色 "Fancy Colours" – 5:10 2. 長い夜"25 or 6 to 4" – 4:50 3. 愛の記憶"Memories of Love" – 9:12 4. 夜明けのプレリュード"Prelude" – 1:10 5. 朝の祈り "A.M. Mourning" – 2:05 6. 午後の祈り"P.M. Mourning"– 1:58 7. 愛の記憶"Memories of Love"– 3:59 **Side 4** 1. 栄光への旅路"It Better End Soon" – 8:24 2. 第1楽章"1st Movement" – 2:33 3. 第2楽章 "2nd Movement" – 3:41 4. 第3楽章"3rd Movement" 3:19 5. 第4楽章"4th Movement"– 0:51 6. 約束の地へ"Where Do We Go From Here" – 2:49
	CHINA CRAISIS	ファイア・アンド・スティール		1983	エレクトロニクス	レコード	日本	全英20位。チャイナ・クライシスのセカンドアルバム。		
	CHRISTOPHER CROSS	南から来た男		1980	ポップス	レコード	日本	AORを代表する男性シンガー、クリストファー・クロスの記念すべきデビュー・アルバム。1980年度グラミー賞「アルバム・オブ・ザ・イヤー」に輝き、400万枚以上を売り上げたと言われている名盤中の名盤。全米アルバム・チャート:第6位。プロデューサーは、マイケル・オマーティアン。ゲスト・ミュージシャンで、ジェイ・グレイドン、マイケル・マクドナルド、ドン・ヘンリー、J.D.サウザー、ラリー・カールトンら豪華メンバーが参加している。 彗星のごとく現れたクリストファー・クロスの同アルバムとシングル「Sailing」は、1981年のグラミー賞で史上初の主要4部門の同時受賞を含む5部門を独占し、衝撃的なデビューとなった。 ビルボードでは、アルバムがUS6位、シングルは、「Sailing」がUS1位、「Ride Like The Wind(風立ちぬ)」が2位、「Never Be the Same(もう二度と)」が15位、「Say You'll Be Mine」が20位である。US 5xプラチナ・ディスク獲得。 日本で発売されたのは1980年に入ってからであるが、それ以前に、輸入盤が口コミで評判を呼び、都内の輸入盤店で売れまくったという伝説のアルバムでもある。「天使の声」と形容される、ソフトなハイトーン・ヴォイスは他の追随を許さず、1980年代のAOR界に一時代を築いた。AOR界を代表するシンガーの伝説的アルバムである。	**Side A** 1. セイ・ユール・ビー・マイン 2. 愛はまぼろし 3. スピニング 4. もう二度と 5. 哀れなシャーリー	**Side B** 1. 風立ちぬ 2. ライト・イズ・オン 3. セイリング 4. ジゴロの芸人
	CHRISTOPHER CROSS	南から来た男		1980	ポップス	CD	日本			
	CODE BLUE	コード・ブルー		1981	ニューウェイブ	レコード	US	コード・ブルーは、モーテルズの初期のギターリストであるディーン・チャンバーレンン(ヴォーカル)が結成したバンド。1980年にリリースされた偉大なニューウェーブ/パワーポップアルバムでした。このLAロックトリオの名声への最大の主張は、プリティ・イン・ピンクのサウンドトラックからの曲「ウィスパー/タッチ」。 甘いヴォーカルでソリッドの効いたパワーポップ、ニューウェーブサウンドは素晴らしく。殆ど捨て曲が無いくらい充実したアルバムで、ニューウェーブの最高傑作と言いたい内容。中々評価されていないバンドだが実力は他のバンドより遥かに素晴らしい。もっとも評価して欲しいアルバムの一つである。 特に、A1、B1はソリッドスピード感溢れる活かしたナンバーや、A4、B3といった硬質なギターと甘いヴォーカルのコントラストが印象的でポップなナンバーが揃ったアルバム。	**Side A** 1. Whisper/Touch 2. Modern Times 3. Hurt 4. Face to Face 5. Burning Bridges	**Side B** 1. Somebody Knows 2. Other End of Town 3. Where I Am 4. Settle for Less 5. The Need 6. Paint By Numbers
	CODE BLUE	コード・ブルー		1981	ニューウェイブ	CD	US		12曲目　以下、CDボーナストラック 12. Whisper/Touch (2003 Remix) 13. Hurt (2003 Remix) 14. Burning Down the House of Love 15. Where I Am (Demo) 16. Settle for Less (Live) 17. Other End of Town (Live) 18. Book of Job 19. Burning Bridges (Demo) 20. She Said Yeah (Live) 21. Letter from Lovesworth	
	CODE BLUE	トゥルー・ストーリー		1983	ニューウェイブ	レコード	US	コード・ブルーのセカンドアルバム。ファーストが売れなかったこともあるのか、ファーストの様なスピード感やソリッドなサウンドが鳴りを潜めてしまい、逆にこのグループの良い点が生かされていない感じで正直惜しいアルバム。もっとファーストの様な音を追及しヴォーカルや演奏をもっと生かした方が良かったのでは？本当に惜しいバンドです。		

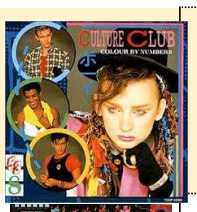
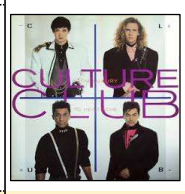
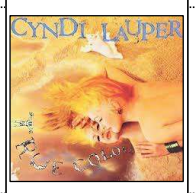
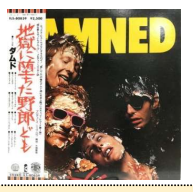
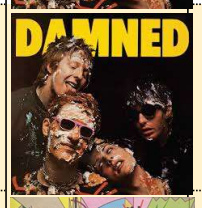
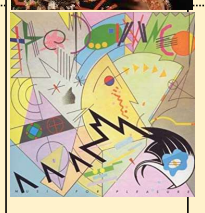
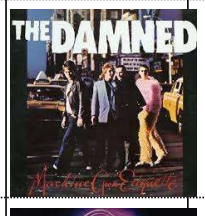
C

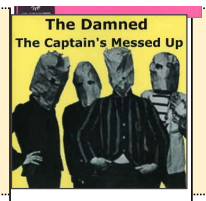
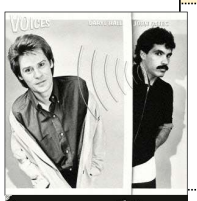
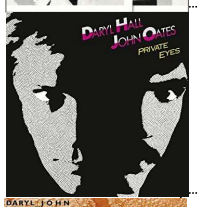
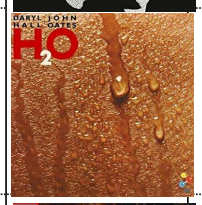
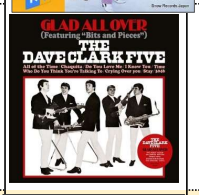
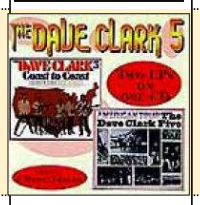
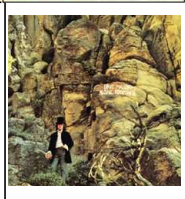
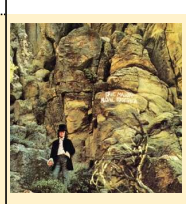
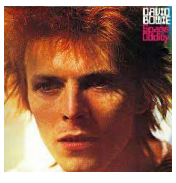
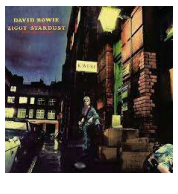
Colin Blunstone	ワン・イヤー		1971年	ロック	レコード		THE ZOMBIES解散後、初のソロ作で、盟友・Chris White & Rod Argentによるプロデュース。この作品は、"She Loves the Way They Love Her"の7月から、"Say You Don't Mind"の7月までの1年間のストーリーをアルバムにしたもので、1曲1曲が云々というより、1枚トータルで聴く名盤です。THE ZOMBIES時代に作られた(1)では、いかにもTHE ZOMBIESなPopで甘酸っぱい感じの佳曲を聴かせてくれます。 ただ、それは単なる始まりであって、本作の魅力は、その後に展開されていく、ストリングスをバックにした美しく儚い音世界。 優しく、甘く、切なく、メランコリックで、センチメンタル。何か思いつめたかのようなストイック感や、脆さと隣り合わせの純粋さには、思わず聴き入ってしまいます。(特に3,5) ストリングスをバックにした曲がほとんどで、普通のRockとは違いますが、「THE ZOMBIESファン」「60's・70'sのUK Rockファン」には、聴いてもらいたい作品です。自分の音楽の世界を、一つ広げてくれます。秋冬シーズン、夜、雨・曇りの日などに聴くと、より雰囲気が出てGood！です。	**One Year(1枚目)** **Side A** 1. She Loves The Way They Love Her 2. Misty Roses 3. Smokey Day 4. Caroline Goodbye 5. Though You Are Far Away **Side B** 1. Mary Won't You Warm My Bed 2. Her Song 3. I Can't Live Without You 4. Let Me Come Closer to You 5. Say You Don't Mind	**that same year(2枚目)** **Side C** 1. Are You Ready 2. I've Always Had You 3. Sing Your Own Song 4. Caroline Goodbye 5. I'd Like to Get to Know You Better 6. Though You Are Far Away 7. Too Much Too Soon Last Night **Side D** 1. I Wonder If You Know What You've Begun 2. I Won't Let You Down 3. You Gave Me a Reason 4. I'm Coming Home 5. I Really Do Love You 6. Let Me Come Closer 7. You Really Were a Surprise
COLIN HARE	(ペーパースリーブ仕様) マーチ・ヘア		1971	フォーク ロック	CD	日本	1971年リリース。英国が産んだフォーク・ロックの名盤。元ハニーバスのメンバーだった「コリン・ヘア」のソロアルバム。ハニーバス時代から受け継いがれたフォーキーで愛いのあるメロディーラインはUKシンガー・ソングライターの伝統を受け継いだ魅力に溢れている。 ハーモニカ、管弦鍵盤楽器、アコースティック・ギターの響きが効いてるサウンドで、フォーク・ロック的楽曲以外にも、カントリー風味だったり、ハードな楽曲もあるけど、なんといっても素晴らしきキラリ光るメロディで素晴らしい楽曲の数々。ビートルズなんかも思い起こさせる曲があったり、ディラン的なメロディと	1Get Up The Road 2Bloodshot Eyes 3For Where Have You Been 4Find Me 5Underground Girl 6To My Maker 7Alice	8Nothing To Write Home About 9New Day 10Cowboy Joe 11Just Like Me 12Charlie Brown's Time 13Grannie,Grannie(ボーナス・トラック) 14Fighting For Peace
CONNIE FRANCIS	ザ・ベリー・ベスト・オブ コニー・フランシス Vol2		1987年	ポップス	レコード	US	60年代のアメリカン・ポップス黄金時代に世界中のファンを魅了したアイドル、コニー・フランシスのベスト盤。	**Side A** 1. 恋のワルツ 2:47 2. ママ 4:00 3. ブルー・ウインター 2:29 4. トゥゲザー 2:58 5. ゴッド・ブレス・アメリカ 2:49 6. ビー・エニシング 2:12	**Side B** 1. ママのために 3:30 2. アルデイラ 3:22 3. マラゲーニャ 3:08 4. お馬鹿さんの私 2:49 5. あなたがにくい 2:27 6. タイム・アローン・ウィル・テル 2:44
CLASH	白い暴動		1977年4月8日	パンク	レコード	日本	1977年作。ザ・クラッシュのファースト・アルバム。プロデューサーは、ミッキー・フット。このクラッシュのファースト・アルバムは、普通のパンクバンドの音楽性とは違う、レゲエや初期ロックンロールの影響を明白に受けたものである。ジャケット表の写真は、バンドがリハーサルを重ねたカムデン・マーケットにあるビルの向かいの路地で撮られた。初期ドラマーのテリー・チャイムズは撮影時にはバンドを去ることを決意しており、写真には現れていない。	**Side A** 1. ジェニー・ジョーンズ (Janie Jones) – 2:08 2. リモート・コントロール (Remote Control) – 3:03 3. 反アメリカ (I'm So Bored with the USA) – 2:24 4. 白い暴動 (White Riot) – 1:56 5. 憎悪・戦争 (Hate and War) – 2:06 6. ワッツ・マイ・ネイム (What's My Name?) (ジョーンズ、キース・レヴィン、ストラマー) – 1:41 7. 否定 (Deny) – 3:06 8. ロンドンは燃えている! (London's Burning) – 2:12	**Side B** 1. 出世のチャンス (Career Opportunities) – 1:54 2. ペテン (Cheat) – 2:06 3. 反逆ブルー (Protex Blue) – 1:47 4. ポリスとコソ泥 (Police and Thieves) (ジュニア・マーヴィン、リー・ペリー) – 6:03 5. 48時間 (48 Hours) – 1:36 6. ガレージランド (Garageland) – 3:12 11曲目は、ジョーンズのボーカル。また、2曲目と5曲目は、ストラマーとジョーンズのツイン・ボーカルである。
CLASH	白い暴動		1977年4月8日	パンク	レコード	UK			
CLASH	動乱(獣を野に放て)		978年11月10日	パンク	レコード	日本	ザ・クラッシュのセカンドアルバム。アメリカでは『白い暴動』に先行した公式デビューアルバムである。このアルバムは評論家やファンに受け入れられ、全英では最高2位、全米で最高128位になった。プロデューサー、サンディ・パールマンはストラマーの声をあまり好んでおらず、ミックス時に全曲にわたりドラムスの音量をボーカルより大きくした。	**Side A** 1. セイフ・ヨーロピアン・ホーム (Safe European Home) – 3:50 2. イングリッシュ・シヴィル・ウォー(英国内乱) (English Civil War) – 2:35 3. トミー・ガン (Tommy Gun) – 3:17 4. ジュリーはドラッグ・スクワッドで働いている (Julie's in the Drug Squad) – 3:03 5. ラスト・ギャング・イン・タウン (Last Gang in Town) – 5:14	**Side B** 1. 屋根の上の殺し屋 (Guns on the Roof) (ストラマー、ジョーンズ、シムノン、ヒードン) – 3:15 2. ドラッグ・スタビング・タイム (Drug-Stabbing Time) – 3:43 3. ステイ・フリー (Stay Free) – 3:40 4. ケチな野郎のスーパー・スター (Cheapskates) – 3:25 5. すべての若きパンクスども (All the Young
CLASH	動乱(獣を野に放て)		978年11月10日	パンク	レコード	US			
CLASH	動乱(獣を野に放て)		978年11月10日	パンク	CD	日本			
CLASH	パール・ハーバー '79		1979年	パンク	レコード	日本	『白い暴動』USヴァージョンにシングルを付けた日本独自盤。UKヴァージョンの替わりに収録されたのは、シングルのみの発売で入手困難だった「クラッシュ・シティ・ロッカーズ」「ハマースミス宮殿の白人」「ジェイル・ギター・ドアーズ」「アイ・フォート・ザ・ロウ」等で、同じく最新シングルから「グルービー・タイムズ」「ゲイツ・オブ・ザ・ウェスト」の2曲を付録のシングルに収録し、その当時、最新曲が聞ける内容となっていた。またジャケットもアメリカ盤と同じだが、その外側に日本独自のアウター・スリーヴ(フル・サイズの帯)が付けられていた。	**Side A** 1. クラッシュ・シティ・ロッカーズ 03:49 2. 反アメリカ 02:25 3. リモート・コントロール 03:02 4. コンプリート・コントロール 03:14 5. 白い暴動 02:00 6. ハマースミス宮殿の白人 04:01 7. ロンドンは燃えている! 02:11 8. アイ・フォート・ザ・ロウ 02:41	**Side B** 1. ジェニー・ジョーンズ 02:07 2. 出世のチャンス 01:53 3. ワッツ・マイ・ネイム 01:41 4. 憎悪・戦争 02:05 5. ポリスとコソ泥 06:02 6. ジェイル・ギター・ドアーズ 03:05 7. ガレージランド 03:12 **[8cmCDシングル]** 1. ゲイツ・オブ・ザ・ウェスト 03:28 2. グルーヴィー・タイムズ 03:29
CLASH	ロンドンコーリング		1979年12月14日	パンク	レコード	日本	ザ・クラッシュの2枚組アルバム。イギリスでは1979年12月、アメリカでは1980年1月の第1週に発売された。このアルバムによってクラッシュはバンドとしての新境地を切り開き、それまで以上に高い評価と商業的成功を勝ち得た。クラッシュの初期の作品と比較すると直球勝負のパンク・ロックは鳴りを潜め、幅広い音楽スタイルを盛り込んだことが大きな特色である。「トレイン・イン・ヴェイン」、「クランプダウン」("Clampdown")、「スペイン戦争」、「ジミー・ジャズ」("Jimmy Jazz")、そして表題曲「ロンドン・コーリング」などの楽曲では、ロカビリーや1960年代風のポップ・ソング、ラウンジ・ミュージック、R&B、スカ、ロックステディ、ハードロック、レゲエなどの諸要素をふんだんに取り入れて、洗練されたソング・ランティングを展開している。	**Side A** 1. ロンドン・コーリング ("London Calling") – 3:19 2. 新型キャディラック ("Brand New Cadillac") ヴィンス・テイラー – 2:08 3. ジミー・ジャズ ("Jimmy Jazz") – 3:54 4. ヘイトフル ("Hateful") – 2:44 5. しくじるなよ、ルーディ ("Rudie Can't Fail") – 3:29 **Side B** 1. スペイン戦争 ("Spanish Bombs") – 3:18 2. ニューヨーク42番街 ("The Right Profile") – 3:54 3. ロスト・イン・ザ・スーパーマーケット ("Lost in the Supermarket") – 3:47	**Side C** 1. ロンゲム・ボヨ ("Wrong 'Em Boyo") C. Alphanso – 3:10 2. 死か栄光か ("Death or Glory") – 3:54 3. コカ・コーラ ("Koka Kola") – 1:47 4. いかさまカード師 ("The Card Cheat") ジョーンズ、ストラマー、シムノン、ヒードン – 3:49 **Side D** 1. ラヴァーズ・ロック ("Lover's Rock") – 4:03 2. 四人の騎士 ("Four Horsemen") – 2:55 3. アイム・ノット・ダウン ("I'm Not Down") – 3:06 4. リヴォリューション・ロック ("Revolution Rock" / Jackie Edwards, Danny Ray) – 5:33
CLASH	ロンドンコーリング		1979年12月14日	パンク	CD	日本			
CLASH	サンディニスタ		1980年12月12日	パンク	レコード	日本	ザ・クラッシュの4作目のスタジオ・アルバム。3枚組で発売され、各面に6曲ずつの計36曲収録。基本的には、ミックとジョー2人のセルフ・プロデュース。このアルバムで、バンドはパンクやレゲエのみならず、ダブ、R&B、カリプソ、ゴスペルなどへと拡がりを見せた[3]。ストレートなロックナンバーと同等の、濃密でエコーが効いたサウンドは、明らかにレゲエ、特にプロデューサーのリー・"スクラッチ"・ペリーの影響を顕す。ベースのポール・シムノンは映画出演で忙しく、イアン・デューリー&ザ・ブロックヘッズのノーマン・ワット＝ロイが代役で呼ばれた。また、4人全員がリード・ボーカルを執った唯一のアルバムである。ドラムのトッパー・ヒードンは「イワンがG.I.ジョーに会う時」で独特のリードボーカルを披露し、ベースのポール・シムノンも「歪んだビート」でリードを歌っている。「7人の偉人」はおそらく初のブリティッシュ・ラップ・シングルで白人バンドによる最初のラップシングルの一つであるという点において特筆に値する。このアルバムは、1980年代後半から1990年代前半のワールドミュージックの流行を予言する、文体上、時事問題上のポプリである。レゲエ、ジャズ、ゴスペル、ロカビリー、フォーク、ダブ、リズム・アンド・ブルース、カリプソ、クラッシュ流のロック、その他様々な要素が『サンディニスタ!』にある。アルバムには、当時まだその中心となる黒人にさえ耳新しかったラップを2曲取り入れている。	**Side 1** 1. 7人の偉人 (The Magnificent Seven) – 5:28 2. ヒッツヴィルU.K. (Hitsville UK) – 4:20 3. ボーカル: ミック・ジョーンズ/エレン・フォーリー 4. ジャンコ (Junco Partner) (作者不詳) – 4:53 5. イワンがG.I.ジョーに会う時 (Ivan Meets G.I. Joe) – 3:05 6. ボーカル: トッパー・ヒードン 7. 政府の指導者 (The Leader) – 1:41 8. 老いたイングランド (Something About England) – 3:42 **Side 2** 1. 叛乱ワルツ (Rebel Waltz) – 3:25 2. ルック・ヒア (Look Here) (モーズ・アリスン) – 2:44 3. 歪んだビート (The Crooked Beat) – 5:29 4. ボーカル: ポール・シムノン 5. 誰かが殺された (Somebody Got Murdered) – 3:34 6. ワン・モア・タイム (One More Time) (ザ・クラッシュ / マイキー・ドレッド) – 3:32 7. ワン・モア・ダブ (One More Dub) (ザ・クラッシュ / マイキー・ドレッド) – 3:34 8. 「ワン・モア・タイム」のダブヴァージョン **Side 3** 1. ライトニング・ストライクス(電光一閃!おんぼろニューヨークを直撃) (Lightning Strikes (Not Once But Twice)) – 4:51 2. ロンドン塔 (Up in Heaven (Not Only Here))	**Side 4** 1. ポリス・オン・マイ・バック (Police on My Back) (エディ・グラント) – 3:15 2. ミッドナイト・ログ (Midnight Log) – 2:11 3. 平等 (The Equaliser) – 5:47 4. ザ・コール・アップ (The Call Up) – 5:25 5. サンディニスタ!(ワシントンの銃弾) (Washington Bullets) – 3:51 6. ブロードウェイ (Broadway) – 5:45 曲の最後にマリア・ギャラガーが歌う「ブリクストンの銃」が挿入されている **Side 5** 1. ルーズ・ディス・スキン (Lose This Skin) (タイモン・ドッグ) – 5:07 2. ボーカル: タイモン・ドッグ 3. チャーリー・ドント・サーフ(ナパーム弾の星) (Charlie Don't Surf) – 4:55 4. メンズフォース・ヒル (Mensforth Hill) – 3:42 5. 「老いたイングランド」の逆回転 6. ジャンキー・スリップ (Junkie Slip) – 2:48 7. キングストン・アドヴァイス (Kingston Advice) – 2:36 8. ストリート・パレード (The Street Parade) – 3:26 **Side 6** 1. ヴァージョン・シティ列車 (Version City) – 4:23 2. リヴィング・イン・フェイム (Living in Fame) (ザ・クラッシュ / マイキー・ドレッド) – 4:36 3. 「もしも音楽が語ることができるなら」のダブヴァージョン、ボーカルはマイキー・ドレッド

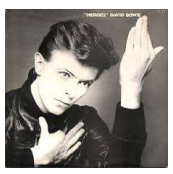
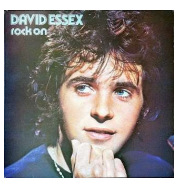
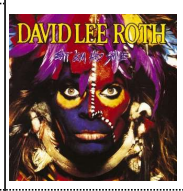
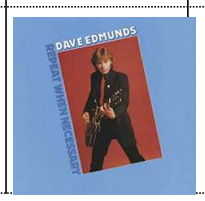
	CLASH	コンバットロック		1982年5月14日	パンク	レコード	日本	ザ・クラッシュの5作目。オリジナル・メンバーが揃っての最後のアルバム。『ロンドン・コーリング』から『サンディニスタ!』と続いた、多様なスタイルの音楽を取り入れる路線を継承している。イギリスではアルバムチャートに23週間ランクインし、最高位は2位。アメリカでは61週で最高7位となり、プラチナアルバムとなった。当初『ラット・パトロール・フロム・フォート・ブラッグ』というタイトルで2枚組アルバムとして計画されていた。しかしこの案はバンド内での議論により破棄された。最初のカットはミック・ジョーンズのプロデュースで制作されたが、他のメンバーはこの出来に不満で、プロデュースはグリン・ジョンズの手に委ねられた。この時点でアルバムが1枚組になることが決定した。オリジナルのアメリカ盤では「イノキュレイテッド・シティ」は2分43秒の完全版で、このヴァージョンにはテレビ・コマーシャルや水洗便所の音が「2000フラッシュ」として含まれている。メーカーからこれらの音の著作権に関するクレームがつき、2分11秒に編集された。初期ヴァージョンは特別デザインのラベルで10万枚プレスされたが、アルバム売上中のほとんどは、編集済みで変哲もないエピックのブルーラベルに変えられたヴァージョンである。この完全版は、シングル「ステイ・オア・ゴー」のアメリカ盤B面にも収録されている。	**Side A** 1. 権利主張 (Know Your Rights)(ストラマー/ジョーンズ) – 3:39 2. カー・ジャミング (Car Jamming) – 3:58 3. ステイ・オア・ゴー (Should I Stay or Should I Go?) – 3:06 4. ロック・ザ・カスバ (Rock the Casbah) – 3:44 5. レッド・エンジェル・ドラグネット (Red Angel Dragnet) – 3:48 6. ストレイト・トゥ・ヘル (Straight to Hell) – 5:30	**Side B** 1. オーヴァーパワード・バイ・ファンク (Overpowered by Funk) – 4:55 2. アトム・タン (Atom Tan) – 2:32 3. シーン・フリン (Sean Flynn) – 4:30 4. ゲットーの被告人 (Ghetto Defendant) – 4:45 5. イノキュレイテッド・シティ (Inoculated City) – 2:43(2分11秒に編集されているアルバムもある) 6. デス・イズ・ア・スター (Death Is a Star) – 3:08 ※Side Aの1,2,4,6曲目とサイド2の1,2,4,6曲目はジョー・ストラマーが歌う。Side Aの3曲目
	CLASH	コンバットロック		1982年5月14日	パンク	レコード	US			
	CLASH	カット・ザ・クラップ		1985年11月4日	パンク	レコード	US	ザ・クラッシュの最後のアルバム。1982年のトッパー・ヒードン解雇、1983年のミック・ジョーンズ脱退以降、はじめてのアルバムでもある。先行シングルの「ディス・イズ・イングランド」の売上以外は商業的に惨憺たるものであった。ミックの不在と、ヒードンの解雇により、『カット・ザ・クラップ』はジョーのソロ・アルバムとみなされている。このアルバムの最大の欠点は、ジョーがバンドに幻滅していたこと、そしてジョーの両親の相次ぐ死が彼を深く落ち込ませていたことである。ジョーは後に、このアルバムとの関連を否定した。1989年のインタビューで彼は新メンバーについてこう語った。「奴らのことは時々考えるよ。奴らの人生が台無しになっていなければいいけど」結局、このアルバムは旧メンバーも含めた純粋なクラッシュファンからはクラッシュ史に存在しないものとされており、ドキュメンタリー映画『ウェストウェイ・トゥ・ザ・ワールド』でも触れられていない。	**Side A** 1. ディクテイター– 3分0秒 2. ダーティ・パンク – 3分11秒 3. ウィ・アー・ザ・クラッシュ– 3分2秒 4. アー・ユー・レッド..Y– 3分1秒 5. クール・アンド・ヒート– 3分21秒 6. ムーヴァーズ・アンド・シェイカーズ – 3分1秒	**Side B** 1. ディス・イズ・イングランド – 3分49秒 2. スリー・カード・トリック – 3分9秒 3. プレイ・トウ・ウィン – 3分6秒 4. フィンガーポッピン – 3分25秒 5. ノース・アンド・サウス – 3分32秒 6. ライフ・イズ・ワイルド – 2分39秒
	CLASH	ブラック・マーケット・クラッシュ		1905年6月2日	パンク	CD	日本	『ロンドン・コーリング』と『サンディニスタ!』の間にアメリカのみで発売されたザ・クラッシュのミニアルバム。アメリカでは輸入版以外で入手できなかった曲を集めて編集したものである。 サイド1にはトゥーツ・アンド・ザ・メイタルズのカヴァー曲「プレッシャー・ドロップ」と「死の街」は1977年から1979年のB面曲で、「プレッシャー・ドロップ」についてはビル・プライスによるリミックスが施された。『白い暴動』からの「ペテン」はアメリカ盤ではカットされていた。『ブラック・マーケット・クラッシュ』リリース時にはブッカー・T&ザ・MG'sのインストルメンタル曲「タイム・イズ・タイト」を唯一収録したレコードであった。『キャピタル・レディオ EP』に収録されていた「キャピタル・レディオ・ワン」はイギリスでも非常に稀少で、このミニアルバムはイギリスのファンからも垂涎の的となった。後にバンドは新たなヴァージョンを録り直し、『コスト・オブ・リヴィングEP』に収録した。 サイド2は「バンクロバー」と「ハルマゲドン・タイム」の元曲とダブヴァージョンから成る。当初は12インチシングル用として用意された「バンクロバー」は「ロバー・ダブ」になり、「ロンドン・コーリング」輸入版12インチシングルのB面にのみ収録されていた「ハルマゲドン・タイム」は「ジャスティス・トゥナイト/キック・イット・オーヴァー」となった。	1. キャピタル・レディオ・ワン (Capital Radio One) – 2:09 2. ザ・プリズナー (The Prisoner) – 3:00 3. プレッシャー・ドロップ (Pressure Drop)(トゥーツ・ビバート) – 3:30 4. ペテン (Cheat) – 2:06 5. 死の街 (The City of the Dead) – 2:26 6. タイム・イズ・タイト (Time Is Tight)(ブッカー・T・ジョーンズ) – 4:05	※ここからレコード盤のB面 7. バンクロバー/ロバー・ダブ (Bankrobber/Robber Dub)(ストラマー、ジョーンズ、マイキー・ドレッド) – 6:16 8. ハルマゲドン・タイム (Armagideon Time)(ウィリアムス、ジャッキー・ミットゥ) – 3:50 9. ジャスティス・トゥナイト/キック・イット・オーヴァー (Justice Tonight/Kick It Over)"(ウィリアムス、ミットゥ) – 7:00
	CLASH	ソート・イット・アウ		1978	パンク	レコード	UK	クラッシュの初期のLIVE盤。 海賊盤。 1978年12月29日にロンドンのライセウムでの初期の貴重なライブ音源。 セカンドアルバムがリリースする前のライブで、「トミー・ガン」がニューシングルと記載されている。	**Side A** 1. Safe European Home 2. I Fought The Law 3. Durg Stabbing Time 4. Clash City Rockers 5. City Of The Dead 6. English Civil War 7. White Man In Hammersmith Palais?	**Side B** 1. Complete Control 2. Cheapskates 3. Guns On The Roof 4. Tommy Gun 5. Julie's Working For The Durg Squad 6. Capital Radio 7. London's Burning 8. White Riot
	CLASSIX NOUUVAUX	夜行人間		1981	ニューウェーブ	レコード	日本	1981年作のファーストアルバム。インスト「フォワード」で仰々しく幕を開け、ヒットシングル「ギルティ」(ロング・ヴァージョン)が始まる。「オア・ア・ムービー」のイントロはROXY MUSIC「Dance Away」他ならない。「ギルティ」にも使われている電子音はニュー・ロマンティック以前にもUltravox!やOMDが使っていたリフで、このアルバムでも多用されている。音楽的にはDavid BowieやROXY MUSICを身近なものとしたのがニュー・ロマンティックだったけど、クラシックス・ヌヴォーはサル・ソロが持つクラウス・ノミばりのカウンターテナーでその個性を発揮していた。	1 .Foreward (Instrumental) 2. Guilty 3. Run Away 4. No Sympathy, No Violins 5. InSide OutSide 6. 23 (Instrumental) 	ery Home Should Have One kyo A Movie ldier e Protector Of Night
	Cockney Rebel	さかしま		1974	ニューウェーブ	レコード	UK	オリジナルは74年作、ボウイとマーク・ボランが巻き起こしたグラム・ロック旋風の中で鈍い光を放っていたコックニー・レベルのセカンド・アルバムです。 奇才、スティーヴ・ハーレイ率いるこのバンドは、本作を最後に実質的に解散、以降はSteve Harley & Cockney Rebelとして活動していきますが、同時期のBE BOP DELUXE、あるいはDEAF SCHOOLといったバンドと共にモダン・ポップ勢として忘れ難い存在となっています。 ジャケットに映るハーレイは化粧をしている事もあり、グラム・バンドとして認知されてはいましたが、彼等の音楽性は実に多彩で、ヴォードヴィル調から、後のXTCにも影響を与えたであろうヒネクレ・ポップ・センス、プログレ的な幻想的なサウンドと、一言では言い尽くせない魅力がありました。 パンク、ニュー・ウェイヴへと繋がっていく自由な発想と、ハーレイのユーモア・センス溢れる文学性がいかにも英国的な味を出していて、それがグラムのケバケバした直接的な妖しさとは違う個性を出していたのかもしれません。 本作収録の大ヒット・シングル、「MR. SOFT」も実にすっとぼけた感覚が目立つヘンテコ・ソングで、ブリティッシュ・ロックの奥の深さを象徴するものとなっています。全英ヒット曲「ミスター・ソフト」を収録名盤。	A1Sweet Dreams2:03 A2Psychomodo4:02 A3Mr. Soft3:16 A4Singular Band2:56 A5Ritz7:11 	B1Cavaliers8:26 B2Bed In The Corner3:36 B3Sling It!2:35 B4Tumbling Down5:50
	COCTEAU TWINS	トレジャー – 神々が愛した女たち		1984	オルタナティブ	レコード	UK			
	CUDDLY TOYS	倒錯のギロチン・シアター		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	1977年初頭に結成されたレイプドから改名したのがカドリー・トイズ!メンバーはショーン・パーセル(Vo)、フェビアン・クウエスト(Gu)、トニー・バゲット(Ba)、パディー・フィールド(Dr)、ビリー・サージェナー(Syn/Sax etc)。本作は1981年にリリースされた1stアルバムのイギリス盤に、1979年に先行発売された日本盤のみに収録されていた曲と未発表曲をボーナス・トラックとして加えたスグれもの。(パディ在籍時全曲収録)しかも「狂った抱擁」はマーク・ボラン(Tレックス)とデヴィッド・ボウイの共作提供曲!!		
	COLOSSEUM Ⅱ	ストレンジ・ニュー・フレッシュ		1976	ハードロック・ヘヴィメタ	レコード	日本	76年作、ブリティッシュ・ハード史の中でも無視できないバンド、コロシアムⅡの第1弾アルバム。コロシアム、テンペストで名の知れたジャズ系ドラマー、ジョン・ハイズマンが、当時シン・リジィにも参加していたゲイリー・ムーアと合体。更にドン・エイリー、ニール・マーレイといった凄腕を迎え、本作限りとなった豪華なラインナップで濃厚なサウンドを聴かせます。ジャズ・ロック、プログレとされる事もある1枚ですが、ゲイリーのギターとファンキーなリズム隊が絡む様は、まさにハード・ロックとしてのダイナミズムに溢れています。後にユーライア・ヒープのジョン・ロートンが在籍していた名バンド、ルシファーズ・フレンドにも参加したマイク・スターズのヴォーカルも味わいがあります。ジョニ・ミッチェルのカヴァー、「Down To You」ではいかにもブリティッシュといったメロウさを出しています。ゲイリー作の7分を超える大バラード大会、「On Second Thoughts」がやはりハイライトで、泣きのギターと哀愁メロディがとろけさせてくれます。 明らかに当時のジェフ・ベックを意識していたと思いますが、二番煎じにならないだけの圧倒的な説得		
	COLOUR FIELD	ヴァージンズ・アンド・フィリスタインズ		1985	ニューウェイブ	レコード	UK	スペシャルズ、ファンボーイ3リー等の人気グループのリーダーでありヴォーカルのテリー・ホールが84年イギリス・ マンチェスターで結成した3人組バンド。アルバム・チャート全英12位 比類なきメロディー・メーカーとして才能を開花させた、カラー・フィールドのファーストアルバム。アコースティックでポップで爽やかなメロディーを醸す素晴らしい作品。 '84年1月ファースト・シングル⑪「カラー・フィールド」全英43位。'84年7月④「テイク」全英70位。 '85年1月①「シンキング・オブ・ユー」全英12位。'85年4月③「キャッスル・イン・ジ・エアー」全英51位。 '86年1月⑳「シングズ・クッド・ビー・ソー・ビューティフル」全英83位。 サウンドはエブリシング・バッド・ザ・ガール、スタイル・カウンシルなどに通じるアコースティックなもので、また一種ノスタルジックな60年代ポップなセンスが楽曲を漂わせている。つまり、アコースティック・	**Side A** 1. シンキング・オブ・ユー 2. フェイント・ハーツ 3. キャッスル・イン・ジ・エアー 4. テイク 5. クルエル・サーカス 6. ハモンド・ソング	**Side B** 1. ヴァージンズ・アンド・フィリスタインズ 2. ユアーズ・シンシアリー 3. アームチェアー・シアター 4. ソーリー 5. ザ・カラー・フィールド 6. 風のささやき 7. プッシング・アップ・ザ・デイジーズ
	COLOUR FIELD	ヴァージンズ・アンド・フィリスタインズ		1985	ニューウェイブ	CD	日本		以下、CDボーナストラック 14. シンキング・オブ・ユー(シングアロング・ヴァージョン) 15. マイ・ワイルド・フレイム 16. リトル・シングズ 17. キャッスル・イン・ジ・エアー(イクステンデッド・ヴァージョン) 18. ユア・ラヴ・ワズ・スマッシング 19. アイ・キャント・ゲット・イナフ・オブ・ユー・ベイビー 20. シングズ・クッド・ビー・ソー・ビューティフル	
	CRAMPS			1980	サイコビリー	レコード	UK			
	CRAMPS			1980	サイコビリー	レコード	UK			
	CRASS	ペニゼンピー		1981	パンク	レコード	日本			

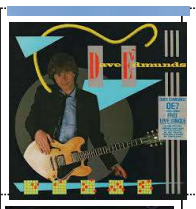
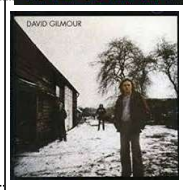
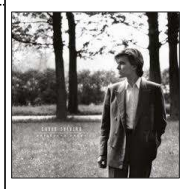
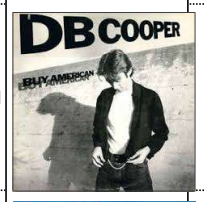
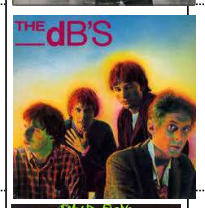
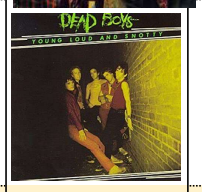
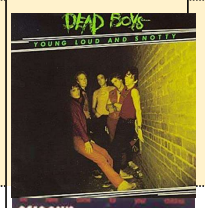
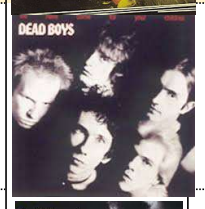
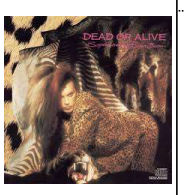
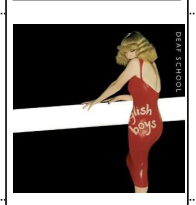
	CRASS			1982	パンク	レコード	UK		
	CREAM	フレッシュ・クリーム		1966	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK	66年作、記念すべきクリームのデビュー・アルバムで歴史的大名盤。彼等の登場がブルースの復権に繋がり、ライヴでの大音響でのプレイがハード・ロック、ヘヴィ・メタルへの礎となったのでした。 グレアム・ボンド・オーガニゼイションとジョン・メイオール&ブルースブレイカーズという二つの名門バンドの合体となったこの最強トリオは、最上、精粋という意味を持つクリームと名づけられます。 マディ・ウォーターズ、スキップ・ジェイムス、ウィリー・ディクスン等の古典的ブルースのカヴァーが含まれていますが、よくよく改めて聴いてみると純粋なブルース・バンドではなかった事がわかります。 サイケ、ニュー・ロックの夜明けとなった本作は、ブルースとジャズ的なインプロヴィゼイション、それもトリオによる強力な応酬が画期的で、以降のロック・シーンに与えた影響は計り知れないものがありました。	**Side A** 1. エヌ・エス・ユー (N.S.U.) 2:43 2. スリーピィ・タイム (Sleepy Time Time) 4:20 3. ドリーミング (Dreaming) 1:58 4. スウィート・ワイン (Sweet Wine) 3:17 5. スプーンフル (Spoonful) 6:30	**Side B** 1. 猫とリス (Cat's Squirrel) 3:03 2. フォー・アンティル・レイト (Four Until Late) 2:07 3. ローリン・アンド・タンブリン (Rollin' and Tumblin') 4:42 4. アイム・ソー・グラッド (I'm So Glad) 3:57 5. いやな奴 (Toad) 5:11
	CREAM	フレッシュ・クリーム		1966	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	追加収録されたデビュー・シングル、「包装紙(Wrapping Paper)」ではポップなロック・バンドとしての佇まいが感じられますが、アルバム全体に漂う新感覚はアメリカのサイケ・ムーヴメントに歓迎され、ジャズ的な要素は以降のプログレにも繋がり、ブルースの白人的解釈はブリティッシュ・ハードへと継承されていったわけです。 クラプトンは、この時点では作曲には関わらず、唯一リード・ヴォーカルを聴かせてくれるロバート・ジョンスン作の「Four Until Late」では、力の抜け具合が心地いいカントリ・ナンバーに仕上がっていて、なかなかの異色作だと思われます。		
	CREAM	(ペーパースリーブ仕様) フレッシュ・クリーム		1966	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	CREAM	カラフル・クリーム		1967	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK	67年作。説明不要のロック史に残る大名盤で、クリームのセカンド・アルバム。テクニシャン3人が繰り広げるバトルは、ブルースを土台に進化していったハード・ロックの礎となったのは言うまでもありません。 デビュー・アルバムがポップ市場狙いだったのに対し、本作ではロックのダイナミズムを追求しています。 キャッチーなヒット・シングルを含みながら、バラエティに富んだナンバーが揃い、何度聴いても飽きない構成も見事です。 即興ジャムが繰り広げられる緊迫感ばかりが語られる1枚だという感もありますが、本作以降の英国ロックが、ハード・ロック、アート・ロックやプログレと枝分かれしていく事になったのも興味深いところです。	**Side A** 1. ストレンジ・ブルー (Strange Brew) 2:46 2. サンシャイン・ラヴ (Sunshine of Your Love) 4:10 3. 苦しみの世界 (World of Pain) 3:03 4. 夜通し踊ろう (Dance the Night Away) 3:34 5. ブルー・コンディション (Blue Condition) 3:29	**Side B** 1. 英雄ユリシーズ (Tales of Brave Ulysses)」 2:46 2. スーラバー (SWLABR) 2:32 3. 間違いそうだ (We're Going Wrong) 3:26 4. アウトサイド・ウーマン・ブルース (OutSide Woman Blues) 2:24 5. テイク・イット・バック (Take It Back) 3:05 6. マザーズ・ラメント (Mother's Lament) 1:47
	CREAM	カラフル・クリーム		1967	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	CREAM	クリームの素晴らしき世界(銀) studio盤		1968	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	1972年3月にポリドール・レコード(アメリカではアトコ・レコード)からリリースされた、イギリスのロックバンド、クリームによるライヴ・アルバム。1968年3月9日から10月4日までのライヴから選ばれた6曲が収録	**Side A** 1. ホワイト・ルーム (White Room) 4:58 2. トップ・オブ・ザ・ワールド (Sitting on Top of the World) 4:58 3. 時は過ぎて (Passing the Time) 4:37 4. おまえの言うように (As You Said) 4:20	**Side B** 1. ねずみといのしし (Pressed Rat and Warthog) 3:13 2. 政治家 (Politician) 4:12 3. ゾーズ・ワー・ザ・デイズ (Those Were the Days) 2:53 4. 悪い星の下に (Born Under a Bad Sign) 3:09 5. 荒れ果てた街 (Deserted Cities of the Heart) 3:38
	CREAM	クリームの素晴らしき世界(金) LIVE盤		1968	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	1968年の2枚組アルバム。スタジオ録音とライブ盤の2枚から成る。本作はイギリスで最高3位、アメリカでは1位を獲得し、初めてプラチナディスクを獲得した2枚組アルバムとなった。。本作は Wheels of Fire (In the Studio)、Wheels of Fire (Live at the Fillmore) の2枚のLPとしてリリースされ、どちらもよく似たカバーアートである。イギリス盤のスタジオ・アルバムはアルミホイル地に黒のプリントがなされ、ライブ・アルバムはスタジオ盤の反転であった。日本盤のスタジオ・アルバムは金ホイル地に黒のプリント、ライブ・アルバムはアルミホイル地に黒のプリントが施されている。バンドのドラマー、ジンジャー・ベイカーはアルバムのためにピアニストのマイク・テイラーと共に3曲を、ベーシストのジャック・ブルースは詩人のピート・ブラウンと共に4曲を共同執筆した。ギタリストのエリック・クラプトンは、2つのカバー曲を選ぶことによって、アルバムに貢献した。 ディスク2にフェリックス・パパラルディはジャック・ブルースのハーモニカソロが含まれる「列車時刻」、ジンジャー・ベイカーのドラムがフィーチャーされた「いやな奴」、エリック・クラプトンのギター演奏が引き立つ「スプーンフル」「クロスロード」を選曲した	ディスク2:ライヴ・アット・ザ・フィルモア **Side C** 1. クロスロード (Crossroads) 4:13 1968年3月10日、サンフランシスコ、ウィンターランド 2. スプーンフル (Spoonful) 16:43 1968年3月10日、サンフランシスコ、ウィンターランド	**Side D** 1. 列車時刻 (Traintime) 7:01 1968年3月8日、サンフランシスコ、ウィンターランド 2. いやな奴 (Toad) 16:15 1968年3月7日、サンフランシスコ、フィルモア (2nd show)
	CREAM	(ペーパースリーブ仕様) クリームの素晴らしき世界		1968	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	CREAM	クリームの素晴らしき世界		1968	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本			
	CREAM	グッバイ・クリーム		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	69年作、クリームの68年11月の解散後にリリース。今更説明不要のロック史に残る大名盤ですが、聴く度に各曲について語りたくなってしまう魅力を持っています。 通算4作目となったアルバムですが、未発表のライヴ音源3曲、そして未発表スタジオ・テイク3曲という変則的内容、収録時間約30分という、言わばレコード会社の都合が見えてきそうな1枚ですが、イギリスでは初の1位を記録し、全米でも2位に輝くヒット作となりました。 アルバム前半3曲は収録日時、場所等のクレジットがないのですが、「クリームの素晴らしき世界」、「ライヴ・クリーム」同様、フィルモア・ウェストでの音源とされています。 特に「フレッシュ・クリーム」収録の「I'M SO GLAD」での凄まじいインプロヴィゼーション大会は圧巻で、このバンドの壮絶なリズム隊のバトルには鳥肌が立つ事請け合いです。 スタジオ・テイクのオリジナルとは全く違った印象が強く、ロック界最強トリオの凄みを改めて思い知らされます。前作収録の「POLITICIAN 政治家」にしても、余裕のハード・ロッカーぶりといったバンド・サウンドが見事で、ここで初披露されたのは歴史的にも非常に意味があった。 スタジオ・ナンバーは前作のセッション時のアウトテイクなのですが、これがまた聴き応えのあるものとなっています。「BUDGE」は彼等の代表曲にもなった名曲で、クラプトンとジョージ・ハリスンによる共作曲で、ジョージはルアンジェロ・ミステリオーソの名前でギターを披露しています。 「DOING THAT SCRAPYARD THING」は、ジャック・ブルース作で自身がヴォーカルを担当、ブリティッシュ・ポップ色の強い佳曲となっています。「WHAT A BRINGDOWN」はジンジャー・ベイカー作、やはり自身がヴォーカルを担当、こちらも哀愁テイスト漂うポップ・ナンバーもなっています。非常にコンパクトな内容ながら、ライヴ・バンドとしての凄まじさ、そして解散するにはもったいなかったメロディ・メイカーぶりを楽しめる1枚です。	**Side A** 1. アイム・ソー・グラッド 9:11 2. 政治家 Politician 6:19	**Side B** 1. トップ・オブ・ザ・ワールド 5:01 2. バッジ 2:45 3. スクラップヤード 3:14 4. ホワット・ア・ブリングダウン 3:56
	CREAM	ライヴ クリーム Ⅱ		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	本作は、クリームの1968年3月から10月までライブから選ばれた演奏が収録されています。ライブ・アルバムとしては第2弾にあたり、「White Room」や「Sunshine Of Your Love」などの人気曲が収録されていて、第1弾よりも聴きやすい。聴く側としてはそれが逆にスリリングに感じ、とても興奮します。ジャンルは違えど、やっている事はすごく "ジャズ" ですね。クリームがバンドとして短命だったのも、この演奏を聴けば納得してしまいます。これじゃ続く訳がない。	**Side A** 1. 荒れ果てた街 (Deserted Cities of the Heart) 4:33 2. ルーム (White Room) 5:40 3. 政治家 (Politician 5:08 4. 英雄ユリシーズ (Tales of Brave Ulysses) 4:46	**Side B** 1. サンシャイン・ラヴ (Sunshine of Your Love) 7:25 2. ステッピン・アウト (Steppin' Out) 13:38
	CREATION				ロック	CD	フランス	THE MARK FOURを前身にデビューを期にバンド名をCREATIONと改名。PLANETレーベルからのリリースが不運の始まりでドイツではそこそこの人気と評価を得たらしいが本国イギリスでは不発に終わり一部のミュージシャンの間では絶大な人気を誇るカルトバンドとして扱われている。そのサウンドは解りやすく言うとTHE WHOとYARDBIRDSを足した様なサウンドといえば解りやすいだろか？ 実際ギタリストのエディー・フィリップスはビート・タウンジェントに見初められTHE WHOのサイドギターに誘われる程であったとか、そしてジミーペイジでお馴染みのバイオリンの弓を使ったパフォーマンスもこのバンドが初である、そしてシンプルなビートを核に実験的な要素も加えPOPな面も合わせ持ちしかも全曲完成度が高く当時売れなかったのが不思議なくらい。	1. How Does It Feel To Feel [UK version] 2. Life Is Just Beginning 3. Through My Eyes 4. Ostrich Man 5. I Am The Walker 6. Tom Tom 7. The Girls Are Naked 8. Painter Man 9. Try And Stop Me 10. Biff-Bang-Pow	11. Making Time 12. Cool Jerk 13. For All That I Am 14. Nightmares 15. Midway Down 16. Can I Join Your Band? 17. Uncle Bert 18. Like A Rolling Stone 19. If I Stay Too Long 20. Hay Joe
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	バイヲー・カントリー		1969年1月5日	アメリカンロック	レコード	UK	1968年10月にハリウッドにあるRCAのレコーディング・スタジオにてセカンド・アルバム『Bayou Country』の制作に取り掛かった。シングル「Proud Mary」をリリース。月末になる頃には両面シングルが全米シングル・チャート入りを果たし、3月には3週間連続で最高2位にランクインした。一週間後にアルバム『Bayou Country』がリリースされた。シングルの勢いに後押しされ、『Bayou Country』は全米アルバム・チャートを着実に昇り続け、4月初旬にはTOP10入りを果たし、5月には7位にランクインした。 のちにアイク＆ティナ・ターナーもカバーする「プラウド・メアリー」が大ヒットし、それまで類を見ない彼らの強烈なギター・サウンドのロックが王道を歩むこととなった。ジョン＆トム・フォガティ兄弟を中心に、1967年、カリフォルニアで結成されたC. C. R.（クリーデンス・クリアウォーター・リヴァイヴァル）は、米国南部原産のブルース、R&B、カントリー、ゴスペルなどを吸収し自らの音楽として昇華させた。これがアメリカン・ロックの土台とも言われており、偉大な功績を残したバンドとの認識もある。	**Side A** 1. Born On The Bayou ボーン・オン・ザ・バイヨー 2. Bootleg ブートレッグ 3. Graveyard Train 墓場行きの列車	**Side B** 1. Good Golly Miss Molly グッド・ゴリー・ミス・モリー 2. Penthouse Pauper 天井小屋の乞食 3. Proud Mary プラウド・メアリー 4. Keep On Chooglin' キープ・オン・チューグリン
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	(ペーパースリーブ仕様) バイヲー・カントリー		1969年1月5日	アメリカンロック	CD	日本			

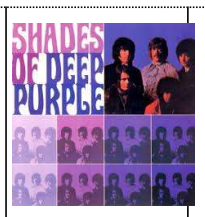
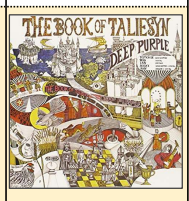
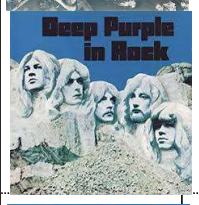
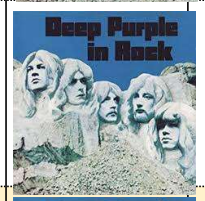
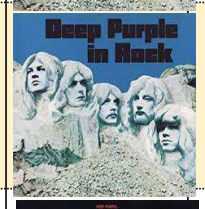
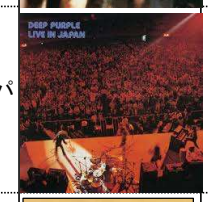
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	(ペーパースリーブ仕様) グリーン・リバー		1905年5月22日	アメリカンロック	CD	日本	イギリスのLPチャートでも初めてTOP20入りを果たし、ベスト・セラーになった3枚目のアルバム。このアルバムを聴けば、当時のCCRが絶好調だったこと、そして同世代のアメリカのミュージシャン/グループの中でも群を抜くブルース・ロックを生み出していたことがわかる。セールスも好調で、アメリカでは1970年にゴールド・ディスクに、1990年にはトリプル・プラチナ・ディスクに認定されている。そして1970年、いよいよイギリスでもクリーデンス・クリアウォーター・リヴァイヴァルの快進撃が始まった。この年、イギリスで彼らは4曲のヒット曲を放ち、内2曲「Travellin' Band」と「Up Around The Bend」はトップ10入りを果たしている。そして9月には『Cosmo's Factory』で遂にLPチャートの首位を射止めたのだった。 内容は、1. はアルバムと同時にシングルで発表された曲で彼らのイメージそのままの土臭いロック・ナンバー。シンプルな演奏ながら非常に濃厚な味を持った曲で、一度聞いたら絶対に忘れられない名曲である。2. はカントリー・ロックだが、そう呼ぶにはズッシリと重い仕上がりで大凡それらのイメージは感じられない。ベースのフレーズが印象的でまたその音色も素晴しい。3. は南部ブルースを下敷にしたロック・ナンバーでこちらも彼らのイメージ通りの佳曲。チョーキングで引っぱるギターがここまで続くのに飽きない・・・というよりもそれを意識させない演奏もジョンのヴォーカルあってのものか？4. はカントリー／ブルース系のバラードの名曲。農場でギターを掻きむしりながら歌っている姿が自然に思い浮かぶ。楽曲は前作以上に引き締まっており、全く無駄のない厳選されたものが詰まっている。おそらく本作を受け付けなければC.C.R. はダメだろうが、逆に言えば本作の良さが分からなければ青二才と断言することも可能な絶対的な名盤だと思う。	**Side A** 1. グリーン・リヴァー 2. コモーション 3. 墓石の影 4. すべての人に歌を	**Side B** 1. バッド・ムーン・ライジング 2. ローダイ 3. クロス・タイ・ウォーカー 4. 黒い陰謀 5. ザ・ナイト・タイム・イズ・ザ・ライト・タイム
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	(ペーパースリーブ仕様) グリーン・リバー		1905年5月22日	アメリカンロック	CD	日本		1. グリーン・リヴァー 2. コモーション 3. 墓石の影 4. すべての人に歌を 5. バッド・ムーン・ライジング 6. ローダイ 7. クロス・タイ・ウォーカー 8. 黒い陰謀 9. ザ・ナイト・タイム・イズ・ザ・ライト・タイム	
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	ウィリー・アンド・ザ・プアボーイズ		1969年11月2日	アメリカンロック	レコード	US	架空のバンド、“ウィリー・アンド・ザ・プアボーイズ”としてストーリーを展開するコンセプチュアルな作品となった4thアルバム。乾いた土臭い歌と演奏はスワンプやサザン系のロックの範疇に入るものかもしれませんが、エネルギッシュで力強いジョンのヴォーカルには本当に魅力的。なお「Before You Accuse Me」は後のエリック・クラプトンのアンプラグドなカバーが有名である。「My Baby Left Me」も“Arthur Crudup”のトラディショナルなR＆B・ポップだが、これも上手くアメリカン・ロック・テイストでアレンジ、更に“Motown”ミュージックでスモーキー・ロビンソン（＋ミラクルズ）のオリジナル・ナンバーの「I Heard It Through the Grapevine」（66年）も、CCRはロック・テイストでカバーしている。なお後者は後のマービン・ゲ イのフィーチャーが有名でスローな8ビートのR＆Bスタイルで、CCRは基本的にこのバージョンを踏襲し印象である。以上の4曲のR＆Bナンバーのカバーは何れもロック・テイストでこれら以外はCCRのオリジナルだが、ややハード・ロック・テイストの「Run Through the Jungle」、「Up Around the Bend」のほかは、前掲カバーに併せたようなトラディショナルなアメリカン・ロック・テイストがある。 個人的にはウエスト・コースト・サウンド感溢れる「Who'll Stop the Rain」がベスト・ナンバーである。商業的には最も成功したスタジオ・アルバムの1つ。大ヒット・シングル「ダウン・オン・ザ・コーナー」(全米3位)、「フォーチュネイト・サン」(全米14位)を送り出し、全米3位を記録。	**Side A** 1. ダウン・オン・ザ・コーナー 02:47 2. 青空の使者 02:56 3. コットン・フィールズ 02:53 4. プアボーイ・シャッフル 2:25 5. フィーリン・ブルー 05:03	**Side B** 1. フォーチュネイト・サン 02:20 2. ドント・ルック・ナウ 02:10 3. ザ・ミッドナイト・スペシャル 04:13 4. サイド・オー・ザ・ロード 03:24 5. エフィジー 06:31
	CREEDENCE CLEARWATER REVIVAL	コスモズ・ファクトリー		1970年7月25日	アメリカンロック	レコード	日本		**Side A** 1. ランブル・タンブル 2. ビフォア・ユー・アキューズ・ミー 3. トラヴェリン・バンド 4. ウービー・ドゥービー 5. ルッキン・アウト・マイ・バック・ドア 6. ジャングルを越えて	**Side B** 1. アップ・アラウンド・ザ・ベンド 2. マイ・ベイビー・レフト・ミー 3. フール・ストップ・ザ・レイン 4. 悲しいうわさ 5. 光りある限り
	CRETONES	激愛そしてモダン・ロマンス		1980	ニューウェーヴ	レコード	日本	クリトーンズはマーク・ゴールデンバーグ(g)、、ピーター・バーンスタイン(b)、スティーヴ・レオナード(kyd)、スティーヴ・ピアーズ(ds)の4人組。本盤のプロデュースも手掛けているピーター・バーンスタインがカーラ・ボノフ、ケニー・エドワーズが組んでいたブリンドルの周辺にいたことからリンダ・ロンシュタット「激愛」へのサポートとクリトーンズ（マーク）の楽曲提供で大ヒットしたことで注目されたバンド。このアルバムでは全曲が素晴らしく、ニューウェイヴなポップサウンドにチープなオルガンが乗っかって鮮烈なサウンドで最高傑作と言っても良いくらいにマークの才能が素晴らしいです。この後にセカンドアルバムを出しますがその後は売れず解散してしまうがもっと評価しても良いバンドです。その後、マークがソロアルバムを出し、日本の邦題「鞄を持った男」でサントリー・ロイヤルやペンギンズ・バー等々のCMに採用されることになり、やはり彼の才能は素晴らしいく改めて評価したい。	**Side A** 1. Real Love 3:13 2. Everybody's Mad At Katherine 3:21 3. I Can't Wait 2:50 4. Justine 4:05 5. Mad Love 3:40	**Side B** 1. Cost Of Love 2:55 2. Thin Red Line 3:09 3. Ways Of The Heart 3:59 4. Mrs Peel 3:06 5. Here Comes The Wave 3:52
	CROSBY,STILLS,NASH	クロスビー・スティルス・ナッシュ		1969	フォークロック	レコード	日本	元ザ・バーズのデヴィッド・クロスビー、元ホリーズのグラハム・ナッシュ、元バッファロー・スプリングフィールドのスティーヴン・スティルスにより1968年結成。69年1stアルバム『クロスビー、スティルス＆ナッシュ』を発表。見事なヴォーカル・ハーモニー、アコースティック・ギターと変則チューニングを多用したサウンドで新風を巻き起こした。変化に富んだアコースティック・サウンド！スケール溢れるコーラス！その後のカリフォルニア・サウンドを決定づける3人組、CSNの大旋風！ロック史の60年代に輝くスーパー・グループの大ヒット・デビュー・アルバム！	**Side A** 1. 1.組曲:青い眼のジュディ 7:24 2. マラケッシュ行急行 2:38 3. グウィニヴィア 4:39 4. 泣くことはないよ 2:44 5. プリ・ロード・ダウンズ 2:57	**Side B** 1. 木の舟 5:27 2. 島の女 2:38 3. どうにもならない望み 2:41 4. ロング・タイム・ゴーン 4:17 5. 49のバイ・バイズ 5:05
	CROSBY,STILLS,NASH&YAUNG	デジャブ		1970	フォークロック	レコード	US	汗と土の匂いがしてくるようなブルース、アコースティック・ギターのイノセントな響きと抜群のコーラス・ワークが印象的なフォーク・ソング、ハードなドライヴ感を押し出したロック・チューン、古く良きアメリカを想起させる牧歌的なカントリー・ナンバー。あまりにもバラエティに富んだサウンドは、まるでアメリカの音楽の歴史を1枚のレコードに凝縮したかのような、芳醇（ほうじゅん）な香りを放っている。デヴィッド・クロスビー（元バーズ）、スティヴン・スティルス（元バッファロー・スプリングフィールド）、グラハム・ナッシュ（元ホリーズ）の3人によるグループに、ニール・ヤングが加わって制作された2ndは、音楽的な完成度の高さはもちろん、1970年という時代の空気をはっきりと反映させた作品だ。 　このアルバムには、ヒッピー、ラブ＆ピース、ウッドストックといったフレーズとともに、体制から逃れ、ある種の理想郷を作り上げようとした60年代カウンター・カルチャーの幻想と現実が、美しくもはかないサウンド・イメージのなかで描かれている。本作の持つ夢のような美しさと素朴な力強さを見事にデザインしたジャケットもすばらしい。	**Side A** 1. キャリー・オン- 4:26 2. ティーチ・ユア・チルドレン - 2:53 3. カット・マイ・ヘア- 4:31 4. ヘルプレス - 3:33 5. ウッドストック - 3:54	**Side B** 1. デジャ・ヴ - 4:12 2. 僕達の家 - Our House - 2:59 3. 4+20 - 2:04 4. カントリー・ガール - 5:11 5. エブリバディ・アイ・ラヴ・ユー - 2:21
	CULT【Southern Death Cult】	サザン・デス・カルト		1983	パンク	レコード	UK	ポジティヴ・パンク御三家と称されたSouthern Death Cultは、81年にイギリスのブラッドフォードで結成されたバンドである。イアンの伸びのあるヴォーカルはまだ荒削りではあるものの、当時からその片鱗を充分に伺わせ、ポジティブ・パンクと呼ばれたバンド達の中でも頭一つ飛びぬけた印象を与える。そして、バックの土着的で呪術的なリズムにやや単調なギターが生み出すサイケデリックなサウンドは、今もなおその輝きを失っておらず、パンクの持っていた荒々しさの中にも新たなる要素に満ちている。残念ながら、Southern Death Cultの残された音源は、正確にはフル・アルバムではない。制作途中で解散をしたため、彼らの唯一のアルバムはシングルやライブ音源を寄せ集めたものしか存在しないのである。しかし、それでも彼らの持つ「勢い」が充分に感じ取られる傑作であることは間違いなく、ポジティブ・パンクといったカテゴライズの壁を打ち破る力がそこにはみなぎっている。	**Side A** 1. オール・グローリー All Glory 4:34 2. ファットマン Fatman 3:48 3. トゥデイ Today 2:44 4. ファルス・フェイセズ False Faces 3:49 5. ザ・クリプト The Crypt 3:05	**Side B** 1. クロウ Crow 1:46 2. フェイス Faith 4:11 3. ヴィヴィ・セクションVivisection 3:11 4. アパッチ Apache 2:41 5. モヤ Moya 4:43
	CULT	ドリームタイム		1984	パンク	レコード	UK	Southern Death Cult からバンド名改めての1984年発表アルバム。Cultの最高傑作と言う人が多いアルバム。特に1、は鳥肌ものです。2は今でもライブで演奏することもある人気曲。5もGOOD。どの曲を聴いてもカッコ良く、イアンの歌のうまさに感心する。このアルバムのビリーのギターがとても挑戦的というか、アイデアにあふれていて好きです。イアンの存在感溢れる声とビリーのノイジーに浮遊するギターが重なりあってでる独特のギリギリ感が好きだ。	**Side A** 1. Horse Nation3:45 2. Spiritwalker3:40 3. 83rd Dream3:40 4. Butterflies2:59 5. Go West (Crazy Spinning Circles)4:00	**Side B** 1. Gimmick3:36 2. A Flower In The Desert3:42 3. Dreamtime2:49 4. Rider In The Snow3:13 5. Bad Medicine Waltz5:57
	CULT	ラヴ		1985		レコード	UK	85年作。ザ・カルト名義としてはセカンド・アルバム。彼等のダークでミステリアスな魅力が詰まった本作は、ゴリゴリのメタル路線よりバンドの個性がはっきりとしている。彼等の進むべき方向性がすでに見え隠れしていますが、英国特有の陰りとイアン・アストベリーのねちっこいヴォーカルがゴス・パンクの名残りが感じられ、ビリー・ダフィーのギターもなめまかしい音色を前面に出しています。 80年代英国ニュー・ウェイヴ風のダークさが好みの方には、かなりおすすめの1枚です。シングルとなった「Rain」では、当時のカルトのその妖しさが堪能できると思います。	**Side A** 1. Nirvana 2. The Big Neon Glitter 3. Love 4. Brother Wolf; Sister Moon Rain	**Side B** 1. The Phoenix 2. The Hollow Man 3. Revolution 4. She Sells Sanctuary 5. Black Angel
	CULT	エレクトリック		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	87年作、ザ・カルト名義としては3作目。彼等がメインストリームの王道ハード・ロック・バンドとして認知された出世作。プロデュースのリック・ルービンは本作を機に、ヒップ・ホップからいよいよメタルへの接近を果たした。ツェッペリン、AC/DC直系のキャッチーなリフと、イアン・アストベリーの粘着性ヴォーカルが独特のノリを生み、80年代的メタルとして機能しています。今だから言えますが、当時ハード・ロック、メタル・ファンは、ポップ化した甘い世界から、元ゴス・バンドによって救済された、という面白い状況があったわけです。本作、そしてカルトの活躍により、AC/DCが再び待望されたのも事実だと思います。 英国産のタメと陰り、アメリカンのカラッとしたダイナミズムが理想的に融合した大名盤です。	**Side A** 1. Wild Flower 2. Peace Dog 3. Lil' Devil 4. Aphrodisiac Jacket 5. Electric Ocean 6. Bad Fun	**Side B** 1. King Contrary Man 2. Love Removal Machine 3. Born To Be Wild 4. Outlaw 5. Memphis Hip Shake
	CULT	(ペーパースリーブ仕様) ソニック・テンプル		1989	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	日本	89年作、ザ・カルトの通算4作目にして彼等の最も有名なアルバムとなった1枚です。 前作の「ELECTRIC」でのHR/HMバンドとしての覚醒から2年、更に研ぎ澄まされ、そして太くなった印象があります。プロデューサーはリック・ルービンからボブ・ロックに交替し、ここから一気に80年代メタルがヘヴィでグルーヴ感の強い質感を得ていくのに貢献をしたと言ってもいいのではないでしょうか。 MOTLEYCRUE、METALLICAの作品で大物プロデューサーとして大成する以前のボブ・ロックの分厚いサウンド・プロダクションは、すでにここで確立され、自身のキャリアを決定づけるアルバムとしてボブ本人も公言している様です。オープニングの「SUN KING」からカルト特有の妖しさが全開、速さよりも確実なインパクトを残すパンチ力に溢れたハード・ロックを展開してくれています。続く「FIRE WOMAN」、「AMERICAN HORSE」でアクセル全開となり、彼等が徹底したアメリカン・ハード指向に転じた事を思い知らされます。 同時期のガンズの大ブレイクも手伝い、本作が化粧と甘い香りに包まれたポップ・メタルの衰退を後押ししたのでした。イアン・アストベリーのヌメっとしたヴォーカルが僅かにブリティッシュ臭を残すものの、アルバム後半ではBON JOVIが持ち合わせる土臭さにも通じる側面を披露、アメリカのバンドと言われても全くおかしくないサウンドとなっています。初期の彼等の音を知る人にとっては別バンドの様に思えるのかもしれませんが、脳天気なパーティー・ロックになっているわけではけっしてなく、むしろ元々彼等が持っているシリアスな部分は強まっている気もします。	1. サン・キング 2. ファイアー・ウーマン 3. アメリカン・ホース 4. エディ(チャオ・ベイビー) 5. スウィート・ソウル・シスター 6. ソウル・アサイラム 7. ニューヨーク・シティ 8. オートマティック・ブルース 9. ソルジャー・ブルー 10. ウェイク・アップ・タイム・フォー・フリーダム 11. メディシン・トレイン	
	Culture Club	ミステリー・ボーイ		1982	ニューウェイブ	レコード	日本	ボーイ・ジョージの妖艶なルックスが話題を呼び、瞬く間にニュー・ロマンティックスを代表するグループとなった彼らのデビュー作。全米14位・全英5位をランク。特に、全世界で650万枚売り上げ全米1位・全英2位の大ヒットとなった「君は完璧さ」をはじめ、「タイム」（全米2位）、「君のためなら」（全米9位）の3枚のシングルを全米トップ10内にランクインさせ、ザ・ビートルズ以来となるデビュー・アルバムから3曲のトップ10ヒットを放った。アイドル的な人気の一方で、レゲエやソウルをベースにしたポップ・サウンドはポスト・パンク～ニュー・ウェイヴのファンからも支持された。ブラック・ミュージックのエッセンスを取り入れたポップなサウンドを聴かせるこのアルバムはボーイジョージの音楽センスが素晴らしく、人気とビジュアルだけで固唾けてしまうのが勿体ない程に素晴らしいアルバムだ。	**Side A** 1. ホワイト・ボーイ 2. 知っているくせに （ユー・ノウ・アイム・ノット・クレイジー） 3. 君のためなら （アイル・タンブル・4・ヤ） 4. お気い召すままに（テイク・コントロー） 5. ラヴ・トゥイスト	**Side B** 1. ミステリーボーイ 2. アイム・ザ・ボーイ 3. あしたのボクは？ （アイム・アフレイド・オブ・ミー） 3. 悲しきホワイト・ボーイズ（ホワイト・ボーイズ・キャント・コントロール・イット） 4. 君は完璧さ（当初→冷たくしないで）
	Culture Club	タイム		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	日本独自の企画の「ピッグラベル」ピクチャー。日本未発表シングル曲「タイム」とロングヴァージョン「ホワイトボーイ」「あしたのボクは？」、ダブヴァージョン「君は完璧さ」を4曲収録の12inchシングル。	**Side A** 1. タイム 2. ホワイトボーイ	**Side B** 1. あしたのボクは？ 2. 君は完璧さ
	Culture Club	カラー・バイ・ナンバーズ		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	83年作、カルチャー・クラブのセカンド・アルバム。UK NEW WAVE、更にはポップ・ミュージック史の中でもっと音楽的に語られ続けていい大名盤だ。ニューロマンティックという一過性のブームが残したのは、キラキラした衣装と化粧、グラマラスな虚像であった。彼等のヴィジュアルとキャラクターは、音楽性を正当評価する事がないまま、大衆の中で膨れ上がっていた。ただ本作を聴き直してみても、懐かしさというよりは常に新鮮な甘酸っぱさと心地良さを感じるのは本当に軌跡的。これはビートルズやクイーンとはまた違ったクラシック要素であると思われ、メロディの素晴らしさに加え、バンド・サウンドとアレンジが普遍性を持ったポップ・ミュージックのセオリーを守っていたからだと思います。同時期のニュー・ウェイヴがエレ・ポップ的要素がかなり強かったのに対し、本作ではストリングス、ピアノ、ホーン・セクション等の生楽器の温もりを前面に出していたのが大きな要因ではないでしょうか。加えてソウルフルなヴォーカル、そして見事としか言いようのないメロディ集。30年以上前のアルバムだが、真剣に本作を英国ロックの一つのピークとして語ってもいいと強く感じる作品だ。	**Side A** 1. カーマは気まぐれ 2. イッツ・ア・ミラクル 3. ブラック・マネー 4. チェンジング・エヴリ・デイ 5. ザッツ・ザ・ウェイ	**Side B** 1. チャーチ・オブ・ザ・ポイズン・マインド 2. ミス・ミー・ブラインド 3. ミスター・マン 4. ストームキーパー 5. ヴィクティムズ(いつもふたりで)

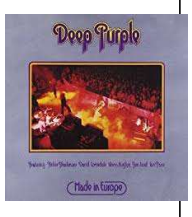
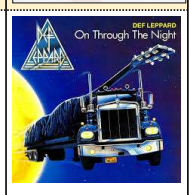
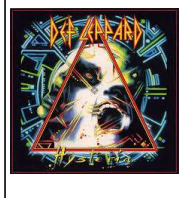
	Culture Club	カラー・バイ・ナンバーズ		1983	ニューウェイブ	CD	日本		
	Culture Club	ウェイキング・アップ・ウィズ・ハウス・オン・ファイアー		1984年10月	ニューウェイブ	レコード	日本	1984年リリース。最後に日本語で「センソウハンタイ」と歌われる「戦争のうた」（全米17位・全英2位）や、日本の化粧品のCMで使われた「ドント・トーク・アバウト・イット」を含むサード・アルバム。ボーイ・ジョージのソウルフルなヴォーカルに深みが増し、それを引き立てるコーラス隊の存在も光る。ポップな面は維持しつつも、スムースかつ洗練されたサウンドが、極上のブルー・アイド・ソウル・アルバムへと昇華させている。全米26位・全英2位を獲得。	**Side A** 1.デインジャラス・マン 4:13 2.戦争のうた(The War Song)4:11 3.僕、ついてない(Unfortunate Thing)3:08 4.夜は犯罪の時(Crime Time) 2:57 5.ミステイク・ナンバー 3 4:33	**Side B** 1.ザ・ダイヴ 3:46 2.メダル・ソング(The Medal Song) 4:13 3.ドント・トーク・アバウト・イット 3:17 4.マヌカン人形(Mannequin) 2:53 5.ハロー・グッドバイ 3:22
	Culture Club	ラグジャリー・トゥ・ハートエイク		1986年	ニューウェイブ	レコード	日本	1986年リリース。4thアルバム。デビュー作から手がけてきたスティーヴ・レヴィンから、名匠アリフ・マーディンにプロデュースをバトンタッチ。軽快なダンス・チューン「ムーヴ・アウェイ」をはじめ、ダンサンブルなサウンド指向が打ち出され、本作の前年にアリフが手がけたスクリッティ・ポリッティの『キューピッド＆サイケ85』との近似性を感じさせる。本作発表の1年後、バンドは解散を表明。ボーイ・ジョージはソロ活動をスタートさせる。	**Side A** 1. ムーヴ・アウェイ 2. 僕の祈り 3. ワーク・オン・ミー・ベイビー 4. ガスト―・ブラストー 5. ヘヴンズ・チルドレン	**Side B** 1. サンキュー・ウーマン 2. リーズン 3. 夢の国アメリカ 4. カム・クリーン 5. セクシュアリティ
	Culture Club	ディス・タイム		1995	ニューウェイブ	CD	日本	カルチャー・クラブのベスト盤。「カーマ・カメレオン」「君は完璧さ」といった代表曲に加え、サントラ『エレクトリック・ドリームズ』への提供曲「ラヴ・イズ・ラヴ」、「アイル・タンブル・フォー・ヤー」の12インチ・リミックスなどを含む全14曲収録を収録した1995年制作のベスト・アルバム。大傑作『カラー・バイ・ナンバーズ』からの曲が多いのだが、8曲目の「ムーヴ・アウェイ」などの後期の佳曲にも注目したい。また、隠れた名曲　10曲目の「ラヴ・イズ・ラヴ」が入っているという点で、また初心者にはヒット曲をまとめて聴けるという点で、このベスト盤の存在価値がある。	1. カーマ・カメレオン 2. チャーチ・オブ・ザ・ポイズン・マインド 3. ミス・ミー・ブラインド 4. タイム 5. イッツ・ア・ミラクル 6. ブラック・マネー 7. 君は完璧さ	8. ムーヴ・アウェイ 9. アイル・タンブル・フォー・ヤー 10. ラヴ・イズ・ラヴ 11. 戦争のうた 12. ヴィクティムズ 13. アイル・ダンブル・フォー・ヤー 14. イッツ・ア・ミラクル|ミス・ミー・ブラインド
	CURE	日本人の囁き		1983	ニューウェイブ	CD	日本	ザ・キュアーが「ポップ期」の1982～83年にリリースしたオリジナルアルバム未収録のシングル曲やカップリング曲を収録した日本特別企画編集盤。	1. レッツ・ゴー・トゥ・ベッド 2. ドリーム 3. ジャスト・ワン・キス 4. アップステアーズ・ルーム 5. ウォーク 6. スピーク・マイ・ランゲージ 7. ラ・メント 8. ラヴキャッツ	
	CURE	ザ・トップ		1984年	ニューウェイブ	レコード	日本	1984年にリリースした5枚目のアルバム。前作『ポルノグラフィー』からおよそ2年のブランクを挟み、5人編成で活動を再開した新生キュアーのアルバム。全英アルバム・チャートで10位。2nd「セブンティー・セコンズ」3rd「フェイス」を、キュアーの第一期の頂点と考えるファンは多い。音数の少ない構成で空間的に感じられる音像に、ロバートの喉を詰まらせたような高音Vo.が絡まっていくスタイルは、バンド・アンサンブルとして完成されていた。だが、大衆に強くアピールするポップ性という面では、決定的に押し出しの強さが欠けていた。いや、そもそも広く大衆に受け入れられようとしてはいないバンドだったのだろう。それが、メンバーの相次ぐ脱退によって、大きく路線変更をしていかざるを得なくなった。一つ大きな影響は、ロバート・スミスがスージー＆ザ・バンシィーズの正式ギタリストになったことによるものだろう。とにかく、キュアーは、メジャー街道へと転進した。これまでのキュアーとは別物と考えていい。第二期キュアーである。本作に収録されている「キャタピラー」は、MTVで何度も放映され、先のシングル「ラヴキャッツ」のプロモVと合わせ、ロバート・スミスというキャラクターまでブレイクさせた。	**Side A** 1. シェイク・ドッグ・シェイク 2. バードマッド・ガール 3. ウェイリング・ウォール 4. ギヴ・ミー・イット 5. ドレッシング・アップ	**Side B** 1. キャタピラー 2. ピッギー・イン・ザ・ミラー 3. エンプティー・ワールド 4. バナナフィッシュボーンズ 5. ザ・トップ
	CYNDI LAUPER	N.Y.ダンステリア		1983年10月14日	ポップス	レコード	日本	1983年リリースのソロ・デビューアルバム。グラミー賞で最優秀アルバム・パッケージ賞を受賞し、新しいものを求めていたアメリカの音楽ファンは彼女を受け入れ支持し、結果、女性ヴォーカルの新境地を開いたと言っても良い。アルバムは全米4位、カナダ1位と各国で大ヒットし、アルバムからシングルカットし、「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」全米2位、「タイム・アフター・タイム」全米1位、「シー・バップ」全米3位、「オール・スルー・ザ・ナイト」全米5位と4曲連続で5位以内を獲得した他、「マネー・チェンジズ・エヴリシング」が全米27位とヒット曲が出たモンスターアルバム。「タイム・アフター・タイム」はロックのスタンダードとして後世に残る名曲である。ファーストアルバムでこんな名曲を残してしまうのだから彼女は時代を作ったミュージシャンである。	**Side A** 1. マネー・チェンジズ・エヴリシング 5:05 2. ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン 3:58 3. ホエン・ユー・ワー・マイン 5:06 4. タイム・アフター・タイム 4:03	**Side B** 1. シー・バップ 3:51 2. オール・スルー・ザ・ナイト 4:32 3. ウィットネス 3:40 4. アイル・キス・ユー 4:12 5. ヒーズ・ソー・アンユージュアル 0:45 6. イェー、イェー 3:19
	CYNDI LAUPER	トゥルー・カラーズ		1986年9月	ポップス	レコード	日本	本作は、シンディ・ローパーが1986年の秋に発表したセカンド・アルバム。前作は映画「グーニーズ」のサントラで、これが第2弾になる。デビュー以来彼女の存在は確固たるものとなっており、「トゥルー・カラーズ」が全米No1、セカンド・シングル「チェンジ・オブ・ハート」3位、マーヴィン・ゲイのカヴァー「ホワッツ・ゴーイン・オン」12位とコンスタントにヒットを飛ばし進化をファンにアピールしている。「メイビー・ヒール・ノウ」は、かつてローパーが在籍していたバンド「ブルー・エンジェル」のアルバム『Blue Angel』（1980年）収録曲のリメイク。「ホワッツ・ゴーイン・オン」はマーヴィン・ゲイのカヴァー。「トゥルー・カラーズ」は、既にマドンナの「ライク・ア・ヴァージン」等を手がけたソングライター・コンビ、トム・ケリーとビリー・スタインバーグが書き下ろした曲で、本作が初出の曲としては唯一、ローパーがソングライティングに関与していない。全米最高4位を記録し、各国で大ヒットした。	**Side A** 1. チェンジ・オブ・ハート – 4:24 2. メイビー・ヒール・ノウ – 4:27 3. ボーイ・ブルー – 4:46 4. トゥルー・カラーズ – 3:47 5. 嵐の中の静けさ "Calm Inside the Storm" – 3:54	**Side B** 1. ホワッツ・ゴーイン・オン – 4:43 2. アイコ・アイコ – 2:04 3. ザ・ファラウェイ・ニアバイ – 2:59 4. 911 – 3:16 5. ワン・トラック・マインド – 3:42
	CYNDI LAUPER	グレイテスト・ヒッツ		1994	ポップス	CD	US	1994年に発表されたベスト・アルバム。1970年代後半、バンドのバックグラウンドシンガーやリードシンガーとして働き、喉を酷使し声帯に損傷を受け、暫く音楽活動を休止するも歌声を取り戻し、自身のバンド・ブルーエンジェル(Blue Angel)を結成するも2年程で解散。彼女は自己破産を申請し、小売店で働き始め、生活のためにまた歌い始める。 1983年アルバム『シーズ・ソー・アン・ユージュアル/N.Y.ダンステリア』でソロデビュー。先行シングル「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」全米2位となり、アルバムは全米4位、カナダでは1位、日本でも7位を記録する大ヒットとなり、その後シングル・カットされた「タイム・アフター・タイム」は1984年に1位を獲得し、「シー・バップ」は全米3位、「オール・スルー・ザ・ナイト」は全米5位、「マネー・チェンジズ・エヴリシング」は全米27位を記録しアルバムから5曲のヒットナンバーを叩き出した。当時彼女は30歳で遅咲きのスーパースターの始まりとなった。その他「アイム・ゴナ・ビー・ストロング」「ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン」他　全17曲を収録。	1アイム・ゴナ・ビー・ストロング 2ガールズ・ジャスト・ワナ・ハヴ・ファン 3マネー・チェンジズ・エヴリシング 4タイム・アフター・タイム 5シー・バップ 6オール・スルー・ザ・ナイト 7チェンジ・オブ・ハート 8トゥルー・カラーズ 9ホワッツ・ゴーイン・オン 10涙のオールナイト・ドライヴ 11ロール・ドゥ・ミー・トゥー	
	DAMNED	地獄に落ちら野郎ども		1977年1月	パンク	レコード	日本	デビュー・シングル「ニュー・ローズ」（1976年）に続いて発表された作品で、イギリスのパンク・ロック・シーンにおける初のアルバムとされている。プロデューサーはあのパブロックの大御所のニックロウが担当でダムドの勢いや本物感を出し切ったパンクロックまたはダムドアルバムの中でも最高傑作に挙げられる。これを聴かずにパンクは語れないほど価値がある。本作の発表と同時期に、「ニート・ニート・ニート」がバンドのセカンド・シングルとして発表された。本作の邦題は、グループ名「The Damned（ダムド）」と同じ題の映画『The Damned』の邦題『地獄に堕ちた勇者ども』に由来している。 1曲目の「Neat Neat Neat」は、スピード感ある、パンクというイメージにぴったりな曲。ちなみに、この曲の日本盤シングルの邦題は「嵐のロックン・ロール」だった。また、12曲目の「I Feel Alright」は、デトロイト・ロックを代表するThe Stoogesの2ndアルバム「Fan House」(1970年)収録の「1970」を改変したもので、イギー・ポップ、MC5、アリス・クーパーに代表されるデトロイト・ロックが、Damnedや、当時のロンドン・キッズ達に大きな影響を与えたと推察します。とにかく最初から最後まで一気にたたみかけるハチャメチャなサウンドは素晴らしいの一言！ このアルバムはUKパンクの第一波として歴史的な使命を果たした名盤で、UKパンクを知るには、欠かす事のできない1枚です。	Side A 1. ニート・ニート・ニート – "Neat Neat Neat" – 2:42 2. ファン・クラブ – "Fan Club" – 2:55 3. アイ・フォール – "I Fall" – 2:05 4. ボーン・トゥ・キル – "Born to Kill" – 2:37 5. スタップ・ユア・バック – "Stab Yor Back" (Rat Scabies) – 0:58 6. フィール・ザ・ペイン – "Feel the Pain" – 3:37	Side B 1. ニュー・ローズ – "New Rose" – 2:42 2. フィッシュ – "Fish" – 1:38 3. シー・ハー・トゥナイト – "See Her Tonite" – 2:28 4. ワン・オブ・ザ・ツー – "1 of the 2" – 3:07 5. ソー・メスト・アップ – "So Messed Up" – 1:51 6. アイ・フィール・オールライト – "I Feel Alright" (The Stooges) – 4:26 ※特記なき楽曲は作詞・作曲ともブランク・イヤー。
	DAMNED	地獄に落ちら野郎ども		1977年1月	パンク	レコード	UK		
	DAMNED	地獄に落ちら野郎ども		1977年1月	パンク	CD	日本		
	DAMNED			1977年11月	パンク	CD	日本	前作と同年に発表された2作目。プロデュースはピンク・フロイドのニック・メイスン。本作発表後、ラットが抜けてジョン・モス(ex.–ロンドン)が参加するけどブライアンも脱退してバンドは一時解散。ラウドな前作に比べてスカっとした音作りで、パンク・チューンが迫力にかけるためか比較的地味な扱いの本作。興味深いのは、メロディやギターの音色が既に初期パンクからはみ出しており、初期のワイヤーやラフ・トレード（これもあくまで初期ね）のアーティストみたいな曲も混じっているという、この人達のセンスと才能の幅を感じさせる1枚である。 　パンク・アルバムとして聴くと、彼等本来のメロディ・センスの良さが災いして余計、荒々しさが削がれるという結果に結び付いており、急いで作り過ぎちゃった感は否めず星は渋めに付けてある。本作で初期パンク・バンドとしてのダムドは一旦終焉を迎えるのだが、それは才能やエネルギーの枯渇ではなく、巷で「パンク」と定義される音の定義の狭さと彼等の才能の広さのアンマッチを巡る、リセット期間のようなものだった	1. Problem Child 2. Dont Cry Wolf 3. One Way Love 4. Politics 5. Stretcher Case 6. Idiot Box 7. You Take My Money 8. Alone 9. Your Eyes 10. Creep (You Cant Fool Me) 11. You Know	
	DAMNED	マシンガン・エチケット		1979	パンク	レコード	日本	ダムドが1979年に発表した3作目。ダムドの解散・再結成を経て発表された作品で、チジック・レコードへの移籍第1弾アルバム。ダムドは結果的に、イギリスのパンク・バンドとしては初めて再結成を果たしたバンドとなった。オリジナル・メンバーのうちブライアン・ジェイムスを除く3人と、新メンバーのアルジー・ワードによる編成でレコーディングされた。前作までベースを担当していたキャプテン・センシブルは、本作より主にギターを演奏するようになる。「ルッキング・アット・ユー」はMC5のカヴァー。「ラヴ・ソング」（全英20位[1]）、「スマッシュ・イット・アップ」（全英35位[1]）、「荒廃の街角」（全英46位[1]）がシングル・ヒットした。	Side A 1. ラヴ・ソング – 2:21 2. マシンガン・エチケット – 1:49 3. 荒廃の街角 (Dave Vanian, Captain Sensible, Algy Ward, Rat Scabies, Giovanni Dadomo) – 3:42 4. メロディ・リー – 2:07 5. アンチ・ポウプ (D. Vanian, C. Sensible, A. Ward, R. Scabies, Phillip Burns) – 3:19 6. ジーズ・ハンズ – 2:02	Side B 1. プラン9 チャンネル7 – 5:08 2. ノイズ・ノイズ・ノイズ (D. Vanian, C. Sensible, A. Ward, R. Scabies, Jennet Ward) – 3:09 3. ルッキング・アット・ユー (Wayne Kramer, Frederick Smith, Rob Tyner, Michael Davis, Dennis Thompson) – 5:07 4. ライアー– 2:44 5. スマッシュ・イット・アップ（パート1） – 1:59 6. スマッシュ・イット・アップ（パート2） – 2:53
	DAMNED	ブラックアルバム		1980	パンク	レコード	US	ダムドが1980年に発表した4作目。本作より加入したベーシストのポール・グレイは、元エディ&ザ・ホット・ロッズ（英語版）のメンバーとして知られていた。音楽的にはゴス・ロックの先駆けとなった作品として評価されており、キャプテン・センシブルは2011年のインタビューにおいて、当時のことを「俺はデイヴ（・ヴァニアン）のソングライティングが、違うレベル、そして違う領域、ダークな領域に進んでいたことに気付いた。これはより一層面白いアルバムになると思ったね」と振り返っている。本作からの先行シングル「ヒストリー・オブ・ザ・ワールド・パート1」は、全英シングルチャートで51位に達した[6]。そして、本作は全英アルバムチャートで3週トップ100入りし、最高29位を記録した	Side A 1. ウェイト・フォー・ザ・ブラックアウト (Dave Vanian, Captain Sensible, Paul Gray, Rat Scabies, Billy Karloff) – 3:56 2. ライヴリィ・アーツ– 3:00 3. シリー・キッズ・ゲームス – 2:35 4. ドリンキング・アバウト・マイ・ベイビー – 3:03 5. ツイステッド・ナーヴ – 4:39 6. ヒット・オア・ミス – 2:37	Side B 1. Dr.ジキル&Mr.ハイド (D. Vanian, C. Sensible, P. Gray, R. Scabies, Giovanni Dadomo) – 4:35 2. シック・オブ・ディス・アンド・ザット – 1:49 3. ヒストリー・オブ・ザ・ワールド（パート1） – 3:46 4. 13thフロアー・ヴェンデッタ – 5:05 5. テラピー (D. Vanian, C. Sensible, P. Gray, R. Scabies, Fay Hart) – 6:12
	DAMNED	ダムド・バット・ナット・フォーガットゥン		1985	パンク	CD	日本	ロンドンのパンク・バンド、ダムドが1980年代にブロンズ・レーベルに残したアルバム。	1ダズン・ガールズ 2ラヴリー・マネー 3アイム・ワンダフル 4ディスガイズ 5テイクザット 6トーチャー・ミー	7ディスコ・マン 8サンクス・フォー・ザ・ナイト 9テイク・ミー・アウェイ 10サム・ガールズ・アー・アグリー 11ナイス・カップ・オブ・ティー 12ビリー・バッド・ブレイクス

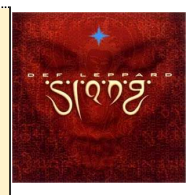
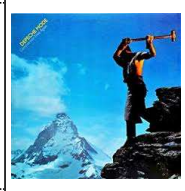
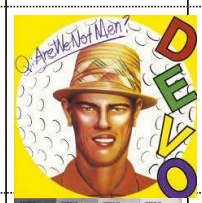
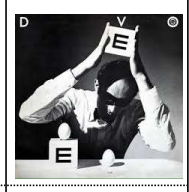
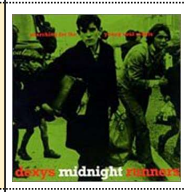
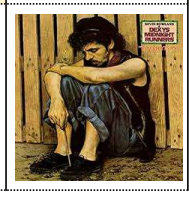
	DAMNED				パンク	CD	不明	1～12曲目までが1977年2月17日のバーミンガムRebecca'sでのライヴを収録。13～23曲目が1977年3月17日の同じくバーミンガムOdeonでのライヴ音源を収録。		
	Daryl Hall & John Oates	モダン・ヴォイス		1980	ロック	レコード	日本			
	Daryl Hall & John Oates	プライベート・アイズ		1981	ロック	レコード	US	不滅の名盤・偉大なる音楽遺産を未来へつなぐ「レガシー・レコーディング」第2弾は、80年代の名盤40タイトル。 R&Bテイストに裏打ちされフィラデルフィア・ソウルの洗練された味わい、一歩前を進むサウンド作りで人気グループとなった、ホール&オーツのRCAでの8作目、通算12枚目のアルバム『プライベート・アイズ』。前作に続きセルフ・プロデュース作品、全米シングル・チャート1位を獲得した「プライベート・アイズ」、「アイ・キャント・ゴー・フォー・ザット」など、全盛期を迎えた作品で、プラチナ・ディスクも獲得。今聴いても新鮮さを失わない永遠の傑作ポップ・クラシック・アルバム。		
	Daryl Hall & John Oates	H2O		1982	ロック	レコード	US	ホール&オーツRCAでの9作目、通算13枚目のアルバム『H2O』。TOP10入りしたシングルが計3曲収録されている、全米アルバム・チャートでも最高位3位を記録した名盤。		
	Daryl Hall & John Oates	H2O		1982	ロック	レコード	日本			
	Daryl Hall & John Oates	サラ・スマイル～ウェイト・フォー・ミー　ベスト			ロック	レコード	日本	ホール＆オーツのサラ・スマイル～ウェイト・フォー・ミーまでの初のベストアルバム。		
	DAVE CLARK FIVE	グラッド・オール・オーバー		1964	ブリティッシュビート	レコード	US	全英No.1大ヒット・ナンバーのタイトル・トラックを収録した彼らのデビュー・アルバム。ブリティッシュ・インヴェイジョンを代表するグループの一つ、デイヴ・クラーク・ファイヴ。シングル「Glad All Over」がザ・ビートルズの「I Wanna Hold Your Hand」を蹴落とし、全英No.1を獲得したことにより、彼らはザ・ビートルズの好敵手と目されるようになった。アメリカをツアーした初めてのブリティッシュ・バンドとなった彼らは、ザ・ビートルズについでカーネギー・ホールで公演を行い、また15曲連続でシングルを全米チャートのTOP20へ送り込み、エド・サリヴァン・ショウへの出演回数が最も多い英国のグループの一つ。	**Side A** 1. Glad All Over 2. All of the Time 3. STAY 4. CHAQUITA 5. DO YOU LOVE ME	**Side B** 1.BITS AND PIECES 2. I KNOW YOU 3. NO TIME TO LOSE 4. DOO DAH 5. TIME 6. SHE'S ALL MINE
	DAVE CLARK FIVE	コースト・トゥ・コースト＆アメリカン・ツアー			ブリティッシュビート	CD	日本	「アメリカン・ツアー」は、アメリカで通算3枚目アルバム(64年リリース)と、「コースト・トゥ・コースト」はアメリカで通算4枚目のアルバムのカップリング。両アルバムは、すべて彼らのオリジナル曲で構成された作成。	【アメリカン・ツアー】 01. Because 02. Who Does He Think He Is 03. Move On 04. Whenever You're Around 05. I Want You Still 06. Long Ago 07. Come On Over 08. Blue Monday 09. Somethimes 10. Any Time You Want Love	以下、CDボーナストラック 24. I Knew It All The Time（シングルB面） 25. Concentration Baby（シングルB面） 26. Man In A Pin-Stipped Suite（シングルB面） 27. Children（シングルB面） 28. Always Me（シングルB面） 29. Southern Man（シングル盤）
	DAVE MASON	アローン・トゥゲザー		1970	ロック	レコード	日本	スティーブ・ウィンウッドと結成したトラフィックを脱退したデイブ・メイソンが1970年に発表した最初のソロ・アルバム。1967年の春頃、デイヴ・メイスンはLA訪問時、グラム・パーソンズの紹介でデラニー＆ボニーと会います。1967年というとデイヴはトラフィック結成間際の頃。でも結局はスワンプへの憧憬は捨て切れなかったのか、デイヴは1969年、トラフィック脱退後に渡米し、デラニー&ボニー等の協力の下、ファーストアルバムを制作したこのアルバムが英国ミュージシャンとしては初のスワンプ・アルバムと云われている。また、同時期にアメリカに渡ったエリック・クラプトンのブルースの影響を多分にうけていると思われるが、デイブ・メイソン独特の歌とギターが楽しめるアルバムでもある。プロデューサーはトミーとデイヴ。 70年代のデイヴ・メイソンのアルバムはどれも素晴らしく、拙ブログでも過去「It's Like You Never Left」(1973)、「Split Coconut」(1975)といった名盤を紹介しておりますが、やっぱりこのファーストが一番しっくりくるかもしれません。	**Side A** 1. オンリー・ユー・ノウ・アンド・アイ・ノウ 04:06 2. キャント・ストップ・ウォリイング、キャント・ストップ・ラヴィング 03:02 3. ウェイティン・オン・ユー 03:03 4. シュドゥント・ハヴ・トゥック・モア・ザン・ユー・ゲイヴ 06:06	**Side B** 1. ワールド・イン・チェンジズ 04:31 2. サッド・アンド・ディープ・アズ・ユー 03:35 3. ジャスト・ア・ソング 03:00 4. ルック・アット・ユー・ルック・アット・ミー 07:37
	DAVE MASON	（ペーパースリーブ仕様） アローン・トゥゲザー		1970	ロック	CD	日本		1. オンリー・ユー・ノウ・アンド・アイ・ノウ 04:06 2. キャント・ストップ・ウォリイング、キャント・ストップ・ラヴィング 03:02 3. ウェイティン・オン・ユー 03:03 4. シュドゥント・ハヴ・トゥック・モア・ザン・ユー・ゲイヴ 06:06	5. ワールド・イン・チェンジズ 04:31 6. サッド・アンド・ディープ・アズ・ユー 03:35 7. ジャスト・ア・ソング 03:00 8. ルック・アット・ユー・ルック・アット・ミー 07:37
	DAVID BOWIE	（ペーパースリーブ仕様） デヴィッド・ボウイ		1967年6月1日	ロック	CD	日本	デヴィッド・ボウイの第1作アルバム。別名「Love You Till Tuesday（ラヴ・ユー・ティル・チューズデイ）」とも呼ばれる。デッカ・レコードが前衛的なロックの門戸として設立したデラム・レコードと新たに契約を結び、1966年12月にシングル「ラバー・バンド / ロンドン・ボーイズ」、1967年4月にセカンド・シングル「ラフィング・ノーム / ゴスペル・アコーディング・トゥ・トニー・デイ」、そしてその約2か月後に本作『デヴィッド・ボウイ』が発表された。 翌月にサード・シングル「愛は火曜日まで / ディドゥ・ユー・エヴァー・ハヴ・ア・ドリーム」も発表されたが、いずれも鳴かず飛ばずに終わり、当時の3枚出して駄目なら解雇という風潮にも遭い、ボウイのデラム・レコードの時代は終わった。 全体的に安定した作りだが、突出した部分も無く、発売当時は全く話題にならなかった。プロデューサーは、デッカ傘下にてバーダ・レーベルを主宰し、フリートウッド・マックやジョン・メイオールなどを手掛けていたマイク・ヴァーノンが担当。レコーディング・エンジニアは、マイクの助手であり後にエルトン・ジョンのプロデューサーとして知られるガス・ダッジョンが担当している。本作のためのセッションは1966年11月14日から1967年2月25日までの内の8回（8日）行われており、全17曲が録音されている。その内の6回分のセッションの14曲が本作に収録されており、残りの2回分はシングル用の音源として使用された。当時マネージャーのケネス・ピットのアイデアで、当時イギリスで話題だったボブ・ディランのようなフォークシンガーのイメージで売り出す事となり、シンガーソングライターのスタイルを求められた。全曲がボウイによる作詞・作曲となっており、マネージャーが意図していたボブ・ディランのイメージよりは、ポップなアプローチのサウンドとなっている。	11.ラバー・バンド（シングル・ヴァージョン） 2ロンドン・ボーイズ 3ラフィング・ノーム 4ゴスペル・アコーディング・トゥ・トニー・デイ 5アンクル・アーサー 6セル・ミー・ア・コート 7ラバー・バンド 8愛は火曜まで 9幸福の国 10ウィ・アー・ハングリー・メン 11僕の夢がかなう時 12哀れな砲撃手 13愚かな少年 14マーケット・スクエアの玩具売り 15仲間になれば 16勲章をもらった女 17ボンド・ストリートの娘達 18グレイヴディガー（墓掘り人）	19愛は火曜まで（シングル・ヴァージョン） 20ディド・ユー・エヴァー・ハヴ・ア・ドリーム 21カーマ・マン 22レット・ミー・スリープ・ビサイド・ユー 23イン・ザ・ヒート・オブ・ザ・モーニング 24チンガ・リング 25セル・ミー・ア・コート 26僕の夢がかなう時 27スペース・オディティ
	DAVID BOWIE	スペイス・オディティ		1969年11月4日	ロック	レコード	日本	69年作、デヴィッド・ボウイのセカンド・アルバム。彼の大出世作である。全英17位、全米16位。「2001年宇宙の旅」からヒントを得ながら、ドラッグによるトリップ体験を歌にしたとも言われたアルバム・タイトル曲は、アポロ11号の月面着陸という人類史上偉大な功績と共に見事リンクし、彼の初期の代表曲として知られるようになった。こうしてボウイのSF的イメージが固まり、やがてグラム・ロック時代へと突入していく自然な流れが出来上がって行く。本作でのサウンドはトラッド色を残しながらフォーク・ロック、サイケ・ロックとしてのメロディ・メイカーぶりが目立つものとなっている。また当時のボウイはプライベートに相当な問題を抱えていた様で、父親の死、兄弟の精神状態の悪化等、どこか暗く深い影が本作に漂っているのも事実です。前述のドラッグ体験、あるいは当時のヒッピー文化からの影響を受けた内省的な歌詞は、以降の彼のキラキラしたロック・スターぶりは想像できないものとなっていますが、ペンタングルのメンバー等を迎えた味わい深いバンド・サウンドをバックにアーシーなロックを歌うボウイの魅力もなかなかのもの。当初、フィリップスよりイギリスでは「DAVID BOWIE」、アメリカでは「MAN OF WORDS / MAN OF MUSIC」というタイトルで発売されたが、RCAより再発売され、その際ジャケットのリニューアル、そして「SPACE ODDITY」へと改題され、以後正式なタイトルとなった。	**Side A** 全作詞・作曲: デヴィッド・ボウイ。 1. スペイス・オディティ 5:14 2. 眩惑された魂(Unwashed and Somewhat Slightly Dazed) 6:10 3. ドント・シット・ダウン 0:39 4. ヘルミオーネへの手紙(Letter To Hermione) 2:30 5. シグネット・コミティー 9:30	**Side B** 1. ジャニーヌ 3:19 2. おりおりの夢(An Occasional Dream) 2:56 3. フリークラウドから来たワイルドな瞳の少年(Wild Eyed Boy From Freecloud)4:47 4. 神は知っている(God Knows I'm Good) 3:16 5. フリー・フェスティバルの思い出(Memory Of A Free Festival) 7:07
	DAVID BOWIE	世界を売った男		1970年11月4日	ロック	レコード	日本	第3作目のアルバム。「ハイプ」とシンセサイザー・プレイヤーのラルフ・メイスを迎えて本作の録音が開始された。プロデューサーでベース担当のトニー・ヴィスコンティは当時T・レックスの作品も手掛けており、作品全体として演奏の端々には新興を燻るグラムロックの影響が窺える。本来ｼﾝﾌﾟﾙかつ官能的なｻｳﾝﾄﾞを基調とするﾎﾞｳｲにあって、全体的に複雑な展開とﾌﾟﾛｸﾞﾚ・ﾊｰﾄﾞっぽい一聴するとブラックサバスにも聴こえるｽﾘﾘﾝｸﾞな演奏の本作は、もっと評価されてもいい。1曲目「The Width of a Circle」からすでに大作志向で、ﾌﾟﾛｸﾞﾚ的だが、こんなﾎﾞｳｲも面白いと思う。ｽﾄﾚｰﾄでﾘﾘｯﾄﾞなﾛｯｸﾝﾛｰﾙ「Black Country Rock」、「Running Gun Blues」も悪くない。「Saviour Machine」、「The Supermen」はHR/HM的とすらいえるﾍﾋﾞｨかつﾄﾞﾗﾏﾃｨｯｸな曲だし、ﾀﾞｰｸで官能的な「The Man Who Sold the World」はまさに代表曲の一つだ。思うに、本来のﾎﾞｳｲの特徴的かつ官能的な歌声をﾒｲﾝにすえているのに対して、本作は、演奏の比重も高い。ｷﾞﾀｰもﾄﾞﾗﾑも大検討している。ﾘﾌとﾘｽﾞﾑが素晴らしい。ｼﾝﾌﾟﾙなのにｶﾞﾂンとくる他の作品とは違った感触だが、ｸｵﾘﾃｨは非常に高い。全英アルバムチャート26位。	**Side A** 全作詞・作曲: デヴィッド・ボウイ。 1. 円軌道の幅(The Width of a Circle) 8:05 2. オール・ザ・マッドメン 5:38 3. ブラック・カントリー・ロック 3:32 4. アフター・オール 3:51	**Side B** 1. ランニング・ガン・ブルース 3:11 2. セイヴィア・マシン（救世の機械)(Saviour Machine) 4:25 3. シー・シュック・ミー・コールド 4:13 4. 世界を売った男(The Man Who Sold The World) 3:55 5. スーパーメン 3:38
	DAVID BOWIE	ハンキー・ドリー		1971年12月17日	ロック	レコード	日本	4枚目のアルバム。アルバム「ジギー・スターダスト」と同時進行で制作されたアルバム。注目すべきは1曲目の「チェンジス」で、この曲では自らの変容を予告するような歌詞になっている。また、息子の誕生への喜びを表した2曲目「ユー・プリティ・シングス」、フランク・シナトラの大ヒット曲「マイ・ウェイ」と全く同じコード進行で、マスメディアへの皮肉を歌った4曲目「火星の生活」など軽快な曲群の中にも、自らの無力さを綴った6曲目「流砂」や、精神病院に入れられてしまった実の兄を思う11曲目「ザ・ビューレイ・プラザース」など、狂気を感じさせる陰鬱な曲も収録されている。	**Side A** 1.チェンジス3:33 2.ユー・プリティー・シングス 3:11 3.8行詩(Eight Line Poem) 2:53 4.火星の生活(Life On Mars?) 3:48 5.クークス 2:49 6.流砂(Quicksand) 5:03	**Side B** 1.フィル・ユア・ハート 3:10 2.アンディ・ウォーホル 3:52 3.ボブ・ディランに捧げる歌(Song For Bob Dylan) 4:12 4.クイーン・ビッチ 3:13 5. ザ・ビューレイ・プラザース 5:21
	DAVID BOWIE	ジギー・スターダスト		1972年6月16日	グラムロック	レコード	日本	デヴィッド・ボウイの5作目。全英5位だが全米では75位と売れず。デヴィッド・ボウイの代表作の一つにして、ロックの歴史に重要な足跡を残したアルバム。1972年6月にオリジナル・リリースされたこの『ジギー・スターダスト』は、デヴィッド・ボウイの5枚目のアルバムで、ボウイ自身とケン・スコットが共同でプロデュース。架空のロック・スター"ジギー・スターダスト"をボウイが演じた11曲で構成されるコンセプト・アルバムで、「スターマン」「レディ・スターダスト」「ロックン・ロールの自殺者」などのヒット曲を生み、デヴィッド・ボウイの最高傑作であるだけでなく、70年代のロックで最も重要なアルバムと呼ばれる作品。このアルバムは多くのファンの心をつかみ、ツァイトガイスト（時代精神）となって次世代―特にミュージシャンやアーティスト、デザイナーなどパンク・ムーヴメントに関心を寄せる人々に多大な 影響を及ぼし、それは結果的にロックやポップスの再生へとつながりました。	**Side A** 1. 5年間(Five Years) 4:42 2. 魂の愛(Soul Love) 3:33 3. 月世界の白昼夢(Moonage Daydream) 4:37 4. スターマン(Starman) 4:16 5. イット・エイント・イージー ロン・デイヴィス 2:57	**Side B** 1. レディ・スターダスト 3:21 2. スター 2:47 3. 君の意志のままに(Hang Onto Yourself) 2:40 4. 屈折する星くず(Ziggy Stardust) 3:13 5. サフラジェット・シティ(Suffragette City) 3:25 6. ロックン・ロールの自殺者(Rock'N'Roll Suicide) 2:57

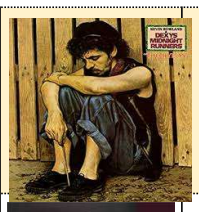
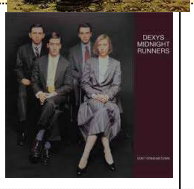
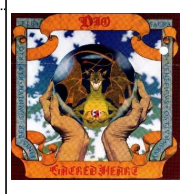
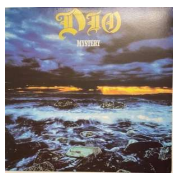
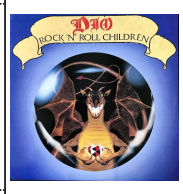
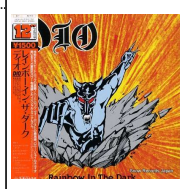
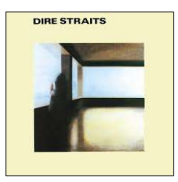
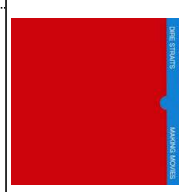
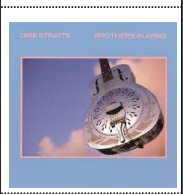
	DAVID BOWIE	アラジン・セイン		1973年4月13日	ロック	レコード	日本	1973年4月13日にRCAレコードよりリリースされたデヴィッド・ボウイの6枚目のアルバム。基本的なバック・ミュージシャンは、前2作と同様スパイダーズ・フロム・マーズ（ミック・ロンソン、トレヴァー・ボルダー、ウッディ・ウッドマンジー）だが、ジャズ畑のピアニスト、マイク・ガーソンの参加により、より退廃的な美学に満ちたサウンドを獲得。 前作『ジギー・スターダスト』のツアーで初めて本格的に乗り込んだアメリカの風土や文化からの刺激を多分に受けており、またイーヴリン・ウォーの長編小説『Vile Bodies』もコンセプトの一旦として据えられている。 アルバム・タイトルは、『A Lad In Vain（空虚な若者）』、『A Lad Insane（狂気の若者）』、『A Land Insane（狂気の国）』といったドラッグを思わせる候補に二転三転したと言われているが、最終的には隠語的でパントマイムの神秘性や混乱した精神という意味も含んだ『Aladdin Sane』に落ち着いた。 タイトル曲の副題(1913-1938-197?)は第一次、第二次世界大戦勃発のそれぞれ前年を指しており、最後はベトナム戦争から世界は破滅を辿るとの暗示だったという。 「プリティエスト・スター The Prettiest Star」は、以前シングルで発表された曲（この時のリード・ギターはマーク・ボランだった）のリメイク。先行シングル「ジーン・ジニー (The Jean Genie)」は全英2位の大ヒットとなるが、全米では71位止まりであった。しかしアルバムの方は、ボウイ初のワールド・ツアーの終了に合わせて発売されたこともあり、念願の全英1位を5週連続で記録。全米でも初のトップ20入り（最高17位）を果たした。ピエール・ラロシュによるジャケットの稲妻を思わせる独創的なメイクは、ナショナルの炊飯器に付いていたマークがモチーフである。	**Side A** 1. あの男を注意しろ(Watch That Man) 4:25 2. アラジン・セイン 5:07 3. ドライヴ・インの土曜日(Drive In Saturday) 4:28 4. デトロイトでのパニック(Panic In Detroit) 4:23 5. 気のふれた男優(Cracked Actor) 2:58	**Side B** 6. 時間(Time) 5:13 7. プリティエスト・スター 3:27 8. 夜をぶっとばせ」(Let's Spend the Night Together) 3:06 ※ローリングストーンズの曲 9. ジーン・ジニー 4:07 10. 薄笑いソウルの淑女(Lady Grinning Soul) 3:52
	DAVID BOWIE	ピンナップス		1973年10月19日	ロック	レコード	日本	デヴィッド・ボウイによるカバー・アルバム。ボウイのキャリア上において唯一の全曲カヴァー・アルバム。本作の制作背景には、肥大化した「ジギー・スターダスト」のキャラクターから脱却し、原点回帰を考えたことがあった。 全曲とも1960年代の作品のカヴァー。殆どは英国のバンドの曲だが、B1のオリジナルのイージービーツのみオーストラリアのバンド。内訳はプリティ・シングス（A1、B3）、ゼム（A2）、ヤードバーズ（A3、B4）、ピンク・フロイド（A4）、モージョズ（A5）、ザ・フー（A6、B5）、イージービーツ（B1）、マージーズ（B2）、キンクス（B6）。 バック・バンドのスパイダース・フロム・マースにメンバー・チェンジが生じ、ドラマーがウッディー・ウッドマンジーからエインズレー・ダンバー（後にジャーニーやホワイトスネイク等で活躍）に交替。また、ミック・ロンソンは本作を最後にボウイと一旦別れ、次に共演するのは1990年代のことであった。ジャケットでボウイと並んでいる女性は、有名モデルのツイッギー。全英1位、全米23位を記録。	**Side A** 1.ロザリン 2:22 2.ヒア・カムズ・ザ・ナイト(ゼム) 3:09 3.アイ・ウィッシュ・ユー・ウッド」(ヤードバーズ) 2:48 4.シー・エミリー・プレイ(ピンク・フロイド 4:12 5.エヴリシングス・オールライト 2:28 6.アイ・キャント・エクスプレイン(ザ・フー) 2:11	**Side B** 1. .我が心の金曜日(Friday On My Mind)イージービーツ 2:56 2. 愛の悲しみ(Sorrow) マージーズ 2:53 3. ドント・ブリング・ミー・ダウン(プリティ・シングス) 2:06 4. シェイプス・オブ・シングス」(ヤードバーズ) 2:53 5. エニウェイ、エニハウ、エニホエア」(ザ・フー) 3:08 6. ホエア・ハヴ・オール・ザ・グッド・タイムス・
	DAVID BOWIE	ダイアモンドの犬		1974年4月24日	ロック	レコード	日本	前2作『ジギー・スターダスト』『アラジン・セイン』において虚構のスターを演じるというコンセプト・アルバムを立て続けにヒットさせていたボウイは、パブリック・イメージからの脱却のために「引退」宣言を行い、次作のコンセプトの検討をしていた。この頃、スタッフやバックバンドとのトラブルに巻き込まれ、精神的に追い詰められていたボウイは、僅かな食事と薬に頼る生活をしており、心身ともに憔悴しきっていた。そんな最中、イギリスの作家であるジョージ・オーウェルの作品『1984年』に影響を受けたボウイは、同作品のミュージカル化を企画し、計画を進めようとしていたが、著者の未亡人に拒否されたため、自らが半人半獣の姿で退廃した未来を予言するというコンセプトへと変更を余儀なくされた。また、この頃にある雑誌記者の紹介で、アメリカの作家であるウィリアム・バロウズを紹介されたボウイは、彼の影響で本アルバムにおいて「カットアップ」という手法で歌詞を作成、こうして両名からの強い影響によって本アルバムはコンセプト・アルバムとして完成した。しかし、前2作において共演していたバックバンドのメンバーであり、盟友であったミック・ロンソンなどは参加しておらず、華々しいイメージから遠ざかった作品に、多くの評論家からは批判を受けることとなった。また、本アルバムリリース後に同タイトルのツアーを始めたボウイだったが、ツアーの途中で突然ソウルミュージックを取り入れた全く異なるステージングへと路線を変更し、その後のアルバム『ヤング・アメリカンズ』へと至ることとなる。	**Side A** 1.未来の伝説(Future Legend) 1:06 2.ダイアモンドの犬(Diamond Dogs) 5:56 3. 美しきもの(Sweet Thing) 3:32 4. キャンディデイト(Candidate) 2:40 5. 美しきもの(Sweet Thing(reprise)) 2:30 6. 愛しき反抗」(Rebel Rebel) 4:30	**Side B** 1.ロックン・ロール・ウィズ・ミー 3:59 2. 死者の世界(We Are the Dead) 4:58 3. 1984年(1984) 3:27 4. ビッグ・ブラザー 3:22 5. 永遠に周り続ける骸骨家族の歌(Chant of the Ever Circling Skeletal Family) 1:57
	DAVID BOWIE	ヤング・アメリカンズ		1975年3月7日	ロック	レコード	日本	デヴィッド・ボウイの8枚目のアルバム。数あるボウイ作品の中でも屈指の名作。フィラデルフィアに赴き、本格的にリズム＆ブルース/ソウルに取り組んだ、その後の英国ミュージシャンたちのホワイトソウル的作品のプロトタイプとなった重要作。録音当時すでに深刻なドラッグの問題を抱えていたボウイだが、現地ミュージシャン達との交流と新たな試みがそれを感じさせない躍動感を生んでいる。以後の白人ミュージシャンによるR&B～ソウル音楽の解釈の雛形となったマスターピース的作品といえる。後半の盛り上がる展開(SAXはデヴィッド・サンボーン)と「ニクソン大統領を憶えているかい？」というフレーズも格好いい(1)、ルーサー・ヴァンドロスとの共作の超ファンキーな(3)、ボッサ調の(4)、あまりに劇的なビートルズのカヴァー(6)、そしてジョン・レノンとの競演によるスライ風ファンク(8)と楽曲も粒揃いだ。全英2位、全米9位。第2弾シングル「フェイム」は、ボウイにとって初の全米1位となった。	**Side A** 1. ヤング・アメリカンズ 5:11 2. 愛の勝利 (Win) 4:44 3. ファスシネイション 5:45 4. ライト 4:16	**Side B** 1. 幸運の神」(Somebody Up There Likes Me) 6:33 2. アクロス・ザ・ユニヴァース（ビートルズ） 4:30 3. 恋のささやき (Can You Hear Me) 5:05 4. フェイム 4:16
	DAVID BOWIE	ステイション・トゥ・ステイション		1976年1月23日	ロック	レコード	日本	デヴィッド・ボウイの1976年に発表した9作目のアルバム。前作『ヤング・アメリカンズ』とは正反対の「白人である自分がいかに黒人音楽を取り入れるべきか」という結論に至り、それが本アルバムのテーマとなった。本作品は、ソウル・ミュージックを大胆に取り入れた前作から次作『ロウ』でのクラフトワークなどの影響による電子音楽への傾倒までの間に制作されており、その中間点とも呼べる作品である。ソウル・ミュージックへの傾倒が進むなか、ヨーロピアンとしてのアイデンティティのもとに生み出されたホワイト・ソウルの傑作。	**Side A** 1. ステイション・トゥ・ステイション 10:14 2. ゴールデン・イヤーズ 4:02 3. ワード・オン・ア・ウィング 6:01	**Side B** 1. TVC 15（ワン・ファイヴ ）5:34 2. ステイ 6:15 3. 野生の息吹き 5:59
	DAVID BOWIE	デヴィッド・ボウイ・ライブ		1974年10月29日	ロック	CD	日本	デヴィッド・ボウイによる最初のライブ・アルバム。このアルバムは、1974年7月にペンシルベニア州アッパー・ダービータワーシアターで録音され、10月にRCAからリリースされた。このアルバムは、『ジギー・スターダスト』『アラジン・セイン』に代表されるグラムロック期から、『ヤング・アメリカンズ』に始まるプラスチックソウル期への過渡期にあるボウイを捉えている。収録曲は主に当時の最新作『ダイアモンドの犬』『アラジン・セイン』と、『ジギースターダスト』以前の代表曲から選ばれている他、1972年にモット・ザ・フープルに提供した「すべての若き野郎ども」が収録されている。イギリス2位、カナダ5位、米国8位を記録。	**DISC-1** 1.1984年 2.愛しき反抗 3.月世界の白昼夢 4.美しきもの／キャンディデイト／美しきもの（リプライズ） 5.チェンジズ 6.サフラゲット・シティ 7.アラジン・セイン（1913 － 1938 － 197？） 8.すべての若き野郎ども 9.気のふれた男優	**DISC-2** 1.ノック・オン・ウッド 2.ヒア・トゥデイ、ゴーン・トゥモロウ 3.スペイス・オディティ 4.ダイアモンドの犬 5.デトロイトでのパニック 6.ビッグ・ブラザー 7.時間 8.円軌道の幅 9.ジーン・ジニー 10.ロックン・ロールの自殺者
	DAVID BOWIE	ロウ		1977年1月14日	ロック	レコード	日本	10枚目のアルバム。全英2位。ブライアン・イーノと共に創り上げた実験的作品。後半はすべてインストが占める。音楽的にはジャーマン・ロックからの影響が見られ、ボウイ自身も1979年のインタビューで、クラフトワークやタンジェリン・ドリームをよく聴いていたと語っている。先鋭的な内容のため、レコード会社の上層部は困惑したようだが、商業的にも全英2位、全米11位と成功を収めた。後に「ベルリン三部作」と呼ばれることになる作品群の第1弾であり、次作『英雄夢語り (ヒーローズ)』も、本作のコンセプトを踏襲して作られた。	**Side A** 1. スピード・オブ・ライフ 2:47 2. 壊れた鏡(Breaking Glass)1:52 3. ホワット・イン・ザ・ワールド 2:23 4. サウンド・アンド・ヴィジョン 3:03 5. いつも同じ車で(Always Crashing in the Same Car) 3:29 6. ビー・マイ・ワイフ 2:56 7. ニュー・キャリア・イン・ニュー・タウン 2:51	**Side B** 1. ワルシャワの幻想(Warszawa) 6:20 2. アートの時代(Art Decade) 3:44 3. 嘆きの壁(Weeping Wall) 3:26 4. サブテラニアンズ(Subterraneans) 5:39
	DAVID BOWIE	英雄夢語り（ヒーローズ）		1977年10月14日	ロック	レコード	EU	11枚目のオリジナルアルバム。全英3位。前作『ロウ』と制作時期が近く、参加ミュージシャンの多くが共通しており、同じくベルリンで録音され、構成も似ている（両者ともにインストゥルメンタル曲の比率が高い）為、姉妹作と言える（1979年発表の『ロジャー（間借人）』を含めて3部作とされるが、『ロウ』と今作の二つは特に作風が似ている）。前作に比べると、今作は内容がドラマチックでロック色が強い。ボウイを筆頭とした鬼才が結集し、創りあげた前衛かつ退廃的ロックの最高峰。アートの匂いがするから、通好みに好まれるのだろうし、程よくノイズ、シンセが散りばめられ、後のアンビエントミュージックに通じる実験的試みがあるから、今だに先駆者として賛美される。数あるボウイの作品の中でNo1に挙げるファンの方が多いのもうなづける。また、なんと言ってもシングルカットした名曲"Heroes"は色んな意味でも素晴らしい曲だ。	**Side A** 1. 美女と野獣(Beauty and the Beast)3:35 2. ライオンのジョー(Joe the Lion)3:06 3. ヒーローズ 6:07 4. 沈黙の時代の子供たち (Sons of the Silent Age) 3:18 5. ブラックアウト 3:47	**Side B** 1. V-2 シュナイダー 3:10 2. 疑惑 (Sense of Doubt) 3:56 3. モス・ガーデン 5:04 4. ノイケルン 4:33 5. アラビアの神秘 (The Secret Life of Arabia) 3:45
	DAVID BOWIE	ロジャー（間借人）		1979年5月18日	ロック	レコード	日本	デヴィッド・ボウイの12枚目のアルバム。ロウ』や『英雄夢語り (ヒーローズ)』に引き続いてブライアン・イーノが参加しているため、「ベルリン三部作」の最終章として語られるアルバム。後半がインスト曲中心だった前2作とは異なり、ポップな歌ものが並ぶ。ブライアン・イーノや、盟友とも言えるギタリスト、カルロス・アロマーに加え、前年のワールド・ツアーにも帯同したエイドリアン・ブリューやサイモン・ハウスといった個性派プレイヤーが参加。全英4位、全米20位を記録。	**Side A** 1. 素晴しき航海(Fantastic Voyage) 2:55 2. アフリカン・ナイト・フライト 2:55 3. ムーヴ・オン 3:18 4. ヤサシン 4:12 5. レッド・セイル 3:44	**Side B** 1. D.J. 4:00 2. 怒りをこめてふり返れ(Look Back in Anger) 3:06 3. ボーイズ・キープ・スウィンギング 3:18 4. レピティション 3:00 5. レッド・マネー 3:45
	DAVID BOWIE	レッツ・ダンス		1983年4月14日	ロック	レコード	日本	14枚目のアルバム。ナイル・ロジャースとの共同プロデュースで作られた、ダンサブルな楽曲を中心に構成されたアルバム。映画出演などの効果も相まって、全世界で爆発的なヒットを記録した。このヒットにより、それまで「メジャーなカルト」だったボウイが、メインストリームに押し上げられることとなった。また、シングルカットされた「レッツ・ダンス」や「チャイナ・ガール」も大ヒットを記録した。まだ無名だったブルース・ギタリスト、スティーヴィー・レイ・ヴォーンをリード・ギターに起用し、後の彼のブレイクのきっかけを作った。アルバム・リリース後、ヒットの勢いそのままに大規模なワールド・ツアー「シリアス・ムーンライト・ツアー」を展開した。英音楽誌NMEは、本作から「レッツ・ダンス」（6位）、「モダン・ラヴ」（8位）、「チャイナ・ガール」（27位）の3曲を「NMEが選ぶデヴィッド・ボウイの究極の名曲1～40位」に選んでいる	**Side A** 1. モダン・ラヴ 2. チャイナ・ガール 3. レッツ・ダンス 4. ウィズアウト・ユー	**Side B** 1. リコシェ 2. クリミナル・ワールド 3. キャット・ピープル 4. シェイク・イット
	DAVID BOWIE	トゥナイト		1984年9月24日	ロック	レコード	日本	1984年作のデヴィッド・ボウイの15枚目のアルバム。先行シングルとして大ヒットした「ブルー・ジーン」や、ティナ・ターナーとのデュエット曲「トゥナイト」を含む全9曲。音楽的には前作『レッツ・ダンス』の延長線上にあると言える。「神のみぞ知る」、「アイ・キープ・フォゲッティング」といったカヴァー曲や、ボウイとイギー・ポップが以前共作した曲のセルフ・カヴァーが目立ち、純粋なオリジナル新曲は少ない。イギリスではチャート1位を獲得し、『スケアリー・モンスターズ』から3作連続での首位獲得となった。アメリカでもプラチナ・ディスクに認定されるなど、前作の勢いそのままに世界各国でヒットを記録した。	**Side A** 1. ラヴィング・ジ・エイリアン 2. ドント・ルック・ダウン 3. ゴッド・オンリー・ノウズ(神のみぞ知る) 4. トゥナイト	**Side B** 1. ネイバーフッド・スレット 2. ブルー・ジーン 3. タンブル・アンド・トゥワール 4. アイ・キープ・フォーゲッティング 5. ダンシング・ウィズ・ザ・ビッグ・ボーイズ
	DAVID ESSE	ロックにすべてを		1973	ロック	レコード	日本	イヴ系のアーティストにも多大な影響を与えたイギリスのロック・アーティスト、デヴィッド・エセックスのファースト・アルバム。ヒット曲「ROCK ON」はデフ・レパードやブロンディなどにもカヴァーされた名曲。 デビッド・エセックスは1963年にデッカ・レコードからデビューし、2年ほど自分のバンドでツアーをし、1stアルバムを発表。"Gonna Make You a Star"と"Hold Me Close"の2曲で全英No.1を獲得し、全英のトップ・アイドルになった。その後、以前から映画に出ていたこともあり、本格的に映画俳優としても活動を始め、二束のわらじを履いた彼は、音楽と映画、次はミュージカルでも成功を収めている。現在でも彼は、しばしばアルバムを出してはツアーを行い、ミュージカルの舞台にも立っており、才能溢れるミュージシャンであり、エンターテイナーだ。このアルバムに収録されている「ROCK ON」がイギリスで1位となり、「魔法のランプ（Lamplight）」のヒット曲を含むアルバム。妖艶、グラマラスな雰囲気が漂っていて、歌い方も当時流行りのグラムロックの中心人物であったデヴィッド・ボウイやT・レックスのマーク・ボランを意識した感じで？アルバム全体が70年代前半のロンドンの雰囲気に包まれている感じだ。この独特のメロディとリズムの“タメ”は、良い悪いを超えて記憶に残るものになっている。とても新人の作った曲とは思えないほど、イマジネーションとオリジナリティに溢れていると思う。バラード系の"On and On"はバックのストリングスやサックスが効果的で、まるで映画のエンドロールに使われそうな曲である。もしくはラスベガスでのステージでも歌われそうな甘い歌になっている。こうやってみると彼は才能豊かなミュージシャンだったことがわかる。また、アルバム全11曲中、自作曲が7曲とミュージシャンとしての才能が垣間見える。		
	DAVID LEE ROTH	イート・エム・アンド・スマイル		1989	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	前年のミニ・アルバム、「クレイジー・フロム・ザ・ヒート」から一転、完全にパーティ・ロックの王者として復活したダイヤモンド・デイヴのソロ名義でのフル・アルバム第一弾です。正式にヴァン・ヘイレン脱退がアナウンスされ、両者の動向がかなり注目されていた中、デイヴは極彩色のメイクとド派手なナンバーで、80年代を再び席捲する事となります。アルバム・タイトルはヴァン・ヘイレンへの揶揄とされていますが、アルバム全体に溢れる陽性のパワーは確かにデイヴに分があったとも思われます。 そして本作の重要な意味として今も語られるのは、やはりスティーヴ・ヴァイとビリー・シーンの発掘であったと思います。テクニック主義だけでは終わらないのは、もちろんデイヴの個性が前面に出ているためですが、革新的なギター・サウンドを中心としたバンド・サウンドも何度聴いても飽きがきません。		
	DAVE EDMUNDS	リピート・ホエン・ネセサリー			ロック	レコード	US			

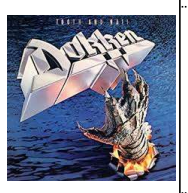
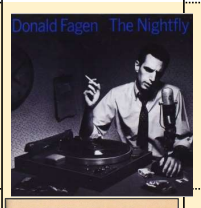
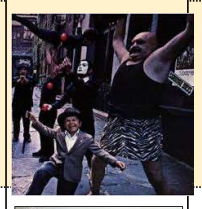
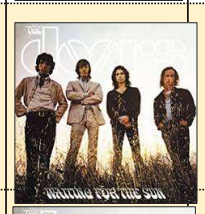
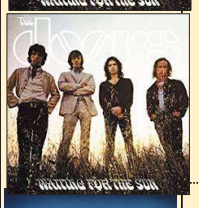
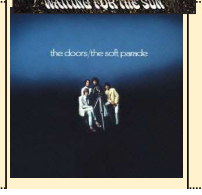
	DAVE EDMUNDS	ディー・イー・セブンス			ロック	レコード	日本			
	DAVID GILMOUR	デヴィッド・ギルモア		1978	プログレ	レコード	日本	1978年作品。デヴィッド・ギルモアの、そしてピンク・フロイドのメンバーとしても初のソロ・アルバム。大規模な『アニマルズ』ツアー後、1977年後半から旧友を集めて制作をスタート。フロイド参加前のジョーカーズ・ワイルドのメンバー、ベーシストのリック・ウィリスと、ジョーカーズ・ワイルド結成前のニュー・カマーズのメンバーだったドラマーのウィリー・ウィルソン、そしてギルモア(プロデュース、ギター、キーボード)の3人を中心にフランスで録音。フロイド作品からもったいぶった装飾の部分を取り払い、ブルースやフォークのテイストを強めたアルバム。 情感たっぷりのギターソロを聴かせる、優れた正統派ブリティッシュ・ロック・ギタリスト としてのギルモアの原点回帰作。		
	DAVID SYLVIAN	ブリリアント・トゥリーズ		1984	ニューウェイブ	レコード	UK			
	D B COOPER	BUY AMERICAN		1980	ニューウェイブ	レコード	US	小気味よいロックナンバーが満載！どちらかと言うとイギリスのニューウェーヴバンド風で、エルビスコステロや初期のジョージャクソンIを思わせる。		
	dB's	スタンズ・フォー・デシベルズ		1981	ニューウェイブ	レコード	UK			
	DEAD BOYS	デッド・ボーイズ登場！！ヤング・ラウド・アンド・スナッティ		1977	パンク	レコード	UK	ニューヨークのセックス・ピストルズと呼ばれ、僅か2枚のアルバムを残して解散してしまったデッド・ボーイズのパンク史に残る名盤1STアルバム。1970年代初期に活躍していたカルトバンド、ロケット・フロム・ザ・トゥームのチーター・クローム＆ジョニー・ブリッツに、スティヴ・ベイターズ、ジミー・ゼロ、ジェフ・マグナムが加わりデッド・ボーイズを結成。ニューヨークパンクの中心的ライヴハウス“CBGB”での熱演に火が着いて1977年にメジャーデビューを果たすものの、わずか2枚のアルバムを残して1978年に解散。　本作は、彼らの記念すべきデビューアルバム。スリリングなバンド演奏にダミ声ヴォーカルがさく裂する<1>、勢いバリバリのパンクロック<3>など、過激なパフォーマンスとパンクスピリットあふれる演奏を武器に「ニューヨークのセックス・ピストルズ」と称えられた、まさに絶頂期の名盤である。名曲「ソニック・リデューサー」や、CBGB' Sでライブ録音された「ヘイ・リトル・ガール」他を収録。爆発寸前の初期衝動がダイレクトにブチ込まれた奇跡の1枚。	Side A 1. ソニック・リデューサー 3:04 2. オール・ディス・アンド・モア 2:48 3. ホワット・ラヴ・イズ 2:06 4. ノット・エニモア 3:38 5. エイント・ナッシン・トゥ・ドゥ 3:35 Side B 1. コート・ウィズ・ザ・ミート・イン・ユア・マウス 2:04 2. ヘイ・リトル・ガール 3:01 3. アイム・マッド・ラン・モー 2:22	
	DEAD BOYS	デッド・ボーイズ登場！！ヤング・ラウド・アンド・スナッティ		1977	パンク	CD	日本		CDボーナストラック 11. ノット・エニモア/エイント・ナッシン・トゥ・ドゥ(メドレー)	
	DEAD BOYS	サード・ジェネレーション		1978	パンク	レコード	US	1978年リリースのデッド・ボーイズのセカンドアルバム。攻撃性を全面に押し出した1stに比べ、この2ndはどちらかというとバンドの持つポップな側面に比重を置いた作りになっています。 ラストのROCKET FROM THE TOMBS(Cheetah ChromeとJohnny Blitzが在籍し、PERU UBUのメンバーも在籍したクリーブランドの伝説的バンド)時代からの名曲「エイント・イット・ファン」はガンズなどもカバーしていますが、やはりこのDEAD BOYSバージョンはStiv Batorsのカリスマ的ボーカルと相俟って別格の格好良さです。 因みにAIN'T IT FUNの最後に聞こえる声は、Cheetahと共にこの曲を書き1977年6月に亡くなった、ROCKET FROM THE TOMBS～初期PERU UBUのギタリスト故Peter Laughnerの声だそうです。	Side A 1. 3rd Generation Nation 2:36 2. I Won't Look Back 2:15 3. (I Don't Wanna Be No) Catholic Boy 2:40 4. Flame Thrower Love 2:04 5. Son Of Sam 5:08 Side B 1. Tell Me 2:37 2. Big City 3:00 3. Calling On You 3:26 4. Dead And Alive 1:46	
	DEAD KENNEDYS	暗殺			パンク	レコード	日本			
	DEAD KENNEDYS	イン・ゴッド・ウィ・トラスト,INC.			パンク	レコード	US			
	DEAD OR ALIVE	美醜の館		1984	ダンスミュージック	レコード	US			
	DEAD OR ALIVE	ユースクエイク		1985	ダンスミュージック	レコード	日本			
	DEAF SCHOOL	セカンド・カミング		1970	ニューウェーブ	レコード	UK	デフ・スクール:1973年リヴァプールで結成。'75年に「メロディ・メーカー」誌主催のロック/フォーク・コンテストで優勝。レコード会社の争奪戦のうえでワーナー・ブラザーズと契約し、76年『セカンド・ハネムーン』でデビュー。続く77年には2作目『ドント・ストップ・ザ・ワールド』、78年には『イングリッシュ・ボーイズ/ワーキング・ガールズ』を発表したが、ほどなくして解散。商業的に大きな成功は納められなかったが、英国ならではのひねくれたポップ・センスで後進に与えた影響は計り知れない。解散から10年後の1988年6月21日、ロンドンのブル&ゲイトで行われた再結成コンサートの模様を収録のライヴ・アルバム。 オリジナル・メンバーに加えて、マッドネスのリー・トンプソン(g)、のちにデヴィッド・ボウイのパートナーとしても活躍するリーヴス・ゲイブレルス(g)らが参加。 オリジナル曲を始め、フレイミング・グルーヴィーズのカヴァーや映画『ブルー・ヴェルヴェット』のテーマも収録。	A面 1. What A Way To End It All 2. Shake Some Action 3. Hi Jo Hi 4. Nearly Moonlit Night Motel 5. Taxi! 6. Ronnie Zamora 7. Thunder & Lightning B面 1. Blue Velvet 2. Princess Princess	
	DEAF SCHOOL	イングリッシュ・ボーイ ワーキング・ガール		1978	ニューウェーブ	レコード	UK	オリジナルは78年作、リヴァプールから突如現れた伝説的バンド、デフ・スクールのサード・アルバムにして、ラスト作となった1枚です。80年代UKロックの職人的プロデューサー、クライヴ・ランガー率いた8人組で、そのユニークな音楽性は一言ではなかなか伝えきれません。場末のキャバレー・ミュージックをベースに、パブ・ロックの空気を漂わせ、幅広いメロディを自在に操る伝統的ブリティッシュ・ポップはカラフルでもあり、変態的でもあります。 以降のニュー・ウェイヴにも多大な影響を与え続けたスタイルは、すっとぼけながらも知的さが見えるという、いかにも英国的なバンドなのですが、本当に愛すべきバンドだったと思います。	Working Girls 2. Golden Showers 3. Thunder And Lightning 4. What A Week 5. Refugee 6. Ronnie Zamora (My Friend Ron) 7. English Boys (With Guns) 8. All Queued Up 9. I Wanna Be Your Boy 10. Morning After 11. Fire	
	DEBBIE HARRY	予感		1981年	ニューウェーブ	レコード	US	HRギガー作によるアルバムジャケットはデビーの顔面を4本の串が貫く衝撃的なものとなった。 この絵はまさに4つの話題を提供する本作を象徴的に示すものとなった。1つはデビー初のソロ、2つ目は大物ナイル・ロジャースによるプロデュース、3つ目は豪華なバックミュージシャン、4つ目はブロンディの行く末である。 話題作とはなったものの必ずしもヒットに繋がらなかったこと、発表の翌年にブロンディは解散となり快調とはいかなかったようだ。アルバムの中身については、軽快で煌めくポップさは影を潜め、ナイル・ロジャース流のファンクさシックさが前面に出ており、No.4,6など洗練された都会的なサウンドに仕上がっている。懐かしい80年代の定番サウンド満載である。ただこのアレンジにコーティングされてしまったデビーは、おとなしめでこれまでの弾けた感じが薄れ、アダルト路線に大きく舵をとった恣意的な変化が見て取れる。しかし沖縄民謡風のNo.3やアラビアンテイストのNo.10など実験的試みもあり、デビーの歌の巧さとあいまって、随所にファンを愉しませる仕掛けが施されているのはとても憎い。(この辺りはデビーとギターとして参加しているクリス・スタインの仕業もあるのではないか。デビーはかなり信をおいているのだろう、実はこの点は見逃せないかもと感じた) 私はこのアルバムを購入する際に、上記2,3のポイントに注目しつつも実際のところ出来はどの様なものかジャケットデザインより感じる不吉な予感!(アルバム邦題「予感」)を禁じえなかったのだが、80年代サウンド懐古と相まってデビーの初ソロ、話題作として楽しむことが出来た。	**Side A** 1. ジャンプ・ジャンプ 2. ジャム 3. クローム 4. サレンダー 5. インナー・シティ・スピルオーヴァー	**Side B** 1. バックファイアー 2. さよならの旋律 3. 恋の大捜査線 4. ミリタリー・ラップ 5. オアシス

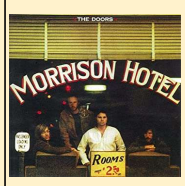
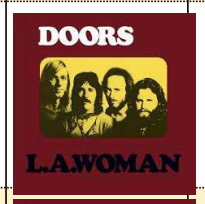
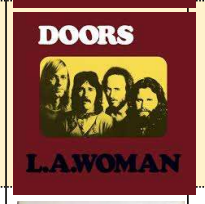
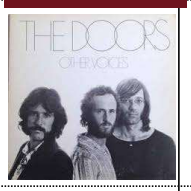
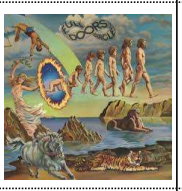
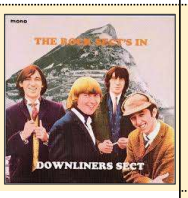
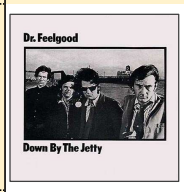
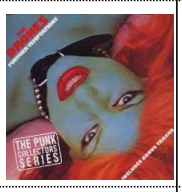
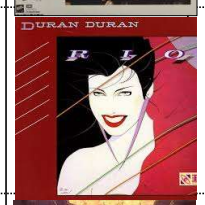
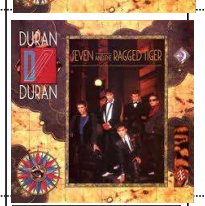
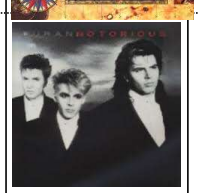
	DEEP PURPLE	ハッシュ		1968	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	68年作のデビュー作。アメリカではジョー・サクスのカバー、「HUSH」が4位というヒットとヒットとなり、日本でもアルバム・タイトルにこの曲が使用されましたが、本国イギリスではあまり注目されていなかったのが今となっては不思議です。元々は「Love Potion No.9」等のヒットで知られる人気バンド、サーチャーズのメンバーだったクリス・カーティスがラウンドアバウトなる新バンドの結成の為、フラワーポット・メンのジョン・ロード、アウトローズのリッチー・ブラックモアを参加させた事から伝説は始まりました。言い出しっぺのカーティスは早々といなくなり、互いの才能に惚れあったロード・ブラックモア・チームがニック・シンパー、ロッド・エヴァンス、そしてイアン・ペイスを集め、改名後に発表されたのが本作です。前述のシングルの他、ジミ・ヘンドリックスのカヴァーでも有名な「Hey Joe」、ビートルズの「Help」を取り上げながら、ジョン・ロードのハモンド・オルガンが全体を引っ張るサイケデリック・ロックが展開されています。 アメリカのヴァニラ・ファッジを意識していた様ですが、オープニングのインスト・ナンバー、「And The Address」では、プログレ的な幕開けの後に以降のハード・ロック期へと突入していくダイナミズムがすでに見てとれます。やはり特筆すべきはリッチー、そしてロード、ペイスのプレイで、歌メロがかなりキャッチーなナンバーが揃う中、「Mandrake Root」の様な殺気が漂うバンド・サウンドが耳を惹きます。当時の彼等は幅広い音楽性を持ったメンバーが、バンドの方向性に迷いながらもポップ・フィールドへと接近していた時期だっただけに、それが奇しくもユニークなサウンドを生んでしまったとも言える1枚ではないでしょうか。	1アンド・ジ・アドレス(インストゥルメンタル) 2ハッシュ 3ワン・モア・レイニー・デイ 4(a)プレリュード:ハッピネス(インストゥルメンタル)~(b)アイム・ソー・グラッド 5マンドレイク・ルート 6ヘルプ 7ラヴ・ヘルプ・ミー 8ヘイ・ジョー	
	DEEP PURPLE	(ペーパースリーブ仕様) 詩人タリエシンの世界		1968	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	日本	69年作、ディープ・パープルのセカンド・アルバムとなった1枚です。当時のパープルは初代ヴォーカリスト、ロッド・エヴァンスを擁したサイケデリック・ポップ・バンドとして認知されていたわけで、本作も注目すべき点がいくつもありながら、黄金の第二期と比べると、どうしても見劣りがしてしまうのは仕方のないところだと思います。 それでもビートルズのカヴァー、「恋を抱きしめよう」のユニークかつ斬新な解釈や、各メンバーのテクニックに裏打ちされた幅広い音楽性は聴き所満載となっています。特にリッチーの強引過ぎるとも言えるギター・プレイや、ジョン・ロードのクラシックのセンスは他のバンドには無い魅力があります。サイケからアート・ロック、そしてハード・ロックへと時代が流れていく中、パープルの正当な進化を見せられている気にもなるサウンドは、確かに興味深いものがあります。 本作がツェッペリン登場前にリリースされた事を考えると、やはり当時は衝撃的な1枚であったはずだと思います。	1リッスン 2リング・ザット・ネック 3ケンタッキー・ウーマン 4(a)エクスポジション (b)恋を抱きしめよう 5シールド 6聖なる歌 7リヴァー・ディープ・マウンテン・ハイ	
	DEEP PURPLE	ディープ・パープル III		1969	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	69年作。本格的なハード・ロック路線が開花される寸前の、ディープ・パープルの3作目のアルバム。邦題のセンスが時代を感じさせますが、当初はヴァニラ・ファッジ風のサイケ、アート・ロックと見なされていた様です。 バンド自体は、本作リリース前ににデビューしたレッド・ツェッペリンからの影響を強く受けていた様で、バンド・サウンドがかなり大音量となっています。 シングル向けのナンバーの不在、ジョン・ロードのクラシック指向が半面残っている点もあって、彼等のキャリアの中ではかなり印象の薄いアルバムとなっていますが、ユニークな1枚として楽しめるのも事実です。	1影を追って 2ブラインド 3ラレーニャ 4(a)フォールト・ライン(インストゥルメンタル)~(b)画家 5何故ローズマリーは 6小鳥は去った 74月の協奏曲	
	DEEP PURPLE	インロック		1970	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	UK		1スピード・キング. 04:20 2ブラッドサッカー. 04:11 3チャイルド・イン・タイム. 10:18 4フライト・オブ・ザ・ラット. 07:53 5イントゥ・ザ・ファイア. 03:30 6リヴィング・レック. 04:30 7ハード・ラヴィン・マン. 07:12	
	DEEP PURPLE	インロック		1970	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	70年作、第二期パープルの事実上の1作目であり、彼等のハード・ロック路線が開始された記念碑的なアルバムです。 ツェッペリン、サバスがブルースを基盤にブリティッシュ・ハードの歴史を大きく動かしていたのに対し、ここではクラシカルな要素を残しつつ、スピーディーでメロディアスな展開を壮絶なギターとオルガンのバトルにより、全く新しいハード・ロックを生み出しています。様式美と評されたこの路線は、多くのバンドにフォローされていくわけですが、まさに本作があってこそだったと思います。 ツェッペリンのサウンドがその圧倒的なリズムの爆発によるハードさによるものだとしたら、パープルはここでスピードとメロディの高揚感によるメタリックな質感を生み出したと思えます。もちろん全ロック・ファン必聴の1枚だと言えるでしょう。 本作は発売25周年記念盤としてリリースされたもので、貴重な写真を含むブックレット、サインがプリントされたプラ・ケース、更にリマスター化の上、ロジャー・グローヴァーのミックスによる未発表音源が追加収録されたものとなっています。		
	DEEP PURPLE	インロック		1970	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	日本			
	DEEP PURPLE	ファイヤーボール		1971	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	71年作、ディープ・パープルのハード・ロック展開第2弾となったアルバムで、本作により初の全英チャートを制覇しています。改めて聴き直すと、かなりバラエティに富んだ内容となっているのが意外で、あからさまなブルース・ナンバーこそないものの、かなり同時期のツェッペリンの勢いを意識していたのでは、と思われます。 カントリー・タッチの「Anyone's Daughter」や、プログレ風味の「Fools」で当時のバンドの意欲が感じられますが、やはり彼等の代名詞となったスピーディーなメタル・ソングのアルバム・タイトル曲で独自の個性を確立していると思います。 キャッチーさこそ次作には負けますが、ユニークな1枚として輝いています。	1ファイアーボール 2ノー・ノー・ノー 3ストレンジ・ウーマン 4誰かの娘 5ミュール 6フールズ 7誰もこない	
	DEEP PURPLE	(ペーパースリーブ仕様) ファイヤーボール		1971	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	日本			
	DEEP PURPLE	マシン・ヘッド		1972	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	72年作、言わずとしれたディープ・パープルの最高傑作として知られる歴史的大名盤。第二期と言われる70年代初頭の彼等のハード・ロック期のピークであり、テクニシャン集団がジャム・セッションでのスリリングなバトルから、練り上げたメロディ作りを目指した1枚と言えると思います。「IN ROCK」、「FIREBALL」、そして本作を三部作とするならば、クラシック指向からメタル指向へと転向した終着点がここだったのかもしれません。 誰もが知るロック・クラシックとなった「ハイウェイ・スター」、「スモーク・オン・ザ・ウォーター」はもちろん、どの曲にもキャッチーな感触を残しているのは、かなり計算され尽くした結果だと思います。 ツェッペリンを始めとするブリティッシュ・ハードが、ブルースの拡大解釈であったのに対し、パープルは各メンバーのアンサンブルを大事にしつつ、疾走感をどう表現するかにこだわっていたのではないでしょうか。 「NEVER BEFORE」で見られるメロディアスな展開、また「LAZY」におけるパープル流ブルースにこそ	1Highway Star ハイウェイ・スター 2Maybe I'm A Leo メイビー・アイム・ア・レオ 3Pictures Of Home ピクチャー・オブ・ホーム 4Never Before ネヴァー・ビフォア 5Smoke On The Water スモーク・オン・ザ・ウォーター 6Lazy レイジー 7Space Truckin' スペース・トラッキン	
	DEEP PURPLE	ライブインジャパン		1972	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	72年リリース作、ロック・ライヴ盤の頂点とも言える歴史的大傑作となったディープ・パープルの代表的な1枚です。当時はアナログ盤2枚組として発表されています。 日本の武道館を世界に知らしめたライヴ・アルバムとして、78年のボブ・ディラン、79年のチープ・トリックの来日公演を収録したものが有名ですが、いち早く武道館での音源を発表していたのはパープルだったわけです。 実際には大阪厚生年金会館での収録の音源が半数収録されているため、純然たる武道館ライヴではないのですが、音質、演奏共に高い品質を誇った1枚です。 それだけ彼等の人気があったと同時に、最大の個性である疾走感、ダイナミズムがわかりやすくコンパクトにレコーディングされていたからだと思います。特に20分にも及ぶ「Space Truckin'」でのリッチー大先生と、ジョン・ロードのトリッキーな掛け合いは必聴もの。	ディスク: 1 1ハイウェイ・スター 2チャイルド・イン・タイム 3スモーク・オン・ザ・ウォーター 4ミュール 5ストレンジ・ウーマン 6レイジー 7スペース・トラッキン	ディスク: 2 1ブラック・ナイト 2スピード・キング 3ブラック・ナイト 4ルシール 5ブラック・ナイト 6スピード・キング
	DEEP PURPLE	ライブインジャパン			ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	US	当初は日本でのみのリリース予定だったが「メイド・イン・ジャパン」の名前で世界リリースもされた盤。		
	DEEP PURPLE	紫の肖像		1973	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	UK	を知るにはやはり必聴盤と言えると思います。 「マシン・ヘッド」、そして「ライヴ・イン・ジャパン」と立て続けにヒット・アルバムを連発、大物バンドとしての風格と余裕が、本作をバラエティに富んだものとしているかもしれません。デヴィッド・カヴァーデイルが参加する直前のパープルのファンキーな要素や、パープル流ブルースへの挑戦、アメリカン・ロックへと接近したかの様なラのブログレ・ハード的アレンジ等、彼等のハード・ロックが更に進化している点がユニークです。第二期メンバー最後の作品ともあって、なかなか味わい深い傑作で、各曲をじっくり聴き直してみると本作の凄さが伝わってきます。 ポップな「ウーマン・フロム・トーキョー」ばかりが有名なのかもしれませんが、王道パープル節が聴ける「スムース・ダンサー」、ツェッペリンを意識した様な「ラット・バット・ブルー」、そしてビートルズ色も見られるミドル・バラード、「アワ・レディ」等、カラフルナンバーが飽きさせません。	1ウーマン・フロム・トーキョー 2マリー・ロング 3スーパー・トゥルーパー 4スムース・ダンサー 5ラット・バット・ブルー 6プレイス・イン・ライン 7アワ・レディ	
	DEEP PURPLE	紫の肖像		1973	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本			
	DEEP PURPLE	紫の炎		1974	ハードロック&ヘヴィーメタル	レコード	日本	74年作、第三期ディープ・パープルと呼ばれる時期の第1弾となり、デヴィッド・カヴァーデイル、グレン・ヒューズという強力ツイン・ヴォーカル体制が誕生した記念すべき1枚です。アルバム・タイトル曲のインパクトがあまりにも大きく、他のナンバーと比べるとあまりにもイメージが離れている曲調が目立ちますが、それこそが本作の魅力でもあると思います。 ファンキーかつソウルフルなサウンドは、パープルの新たな個性となり、彼等が今もリスペクトされ続けている要因の一つにもなっている感もあります。半面、その強いクセが、リッチーのバンドに対する不満をつのらせていくわけですが、結果レインボーが生まれていくきっかけになる事を考えれば、本作の意味もかなり大きかったのではないでしょうか。 そのリッチーが以降もずっと大切にした名曲、彼等のキャリアの中でも最重要曲と言える「Mistreated」の、ギターとヴォーカルの壮絶かつセクシーな絡みがハイライトとなっています。	1紫の炎 2テイク・ユア・ライフ 3レイ・ダウン・ステイ・ダウン 4セイル・アウェイ 5ユー・フール・ノー・ワン 6ホワッツ・ゴーイング・オン・ヒア 7ミストゥリーテッド 8“A” 200	
	DEEP PURPLE	(ペーパースリーブ仕様) 紫の炎		1974	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	日本			

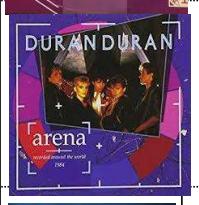
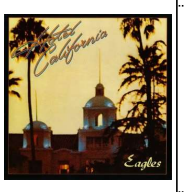
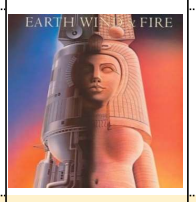
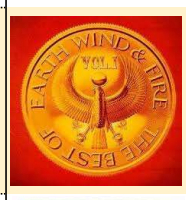
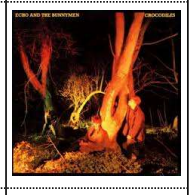
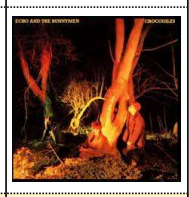
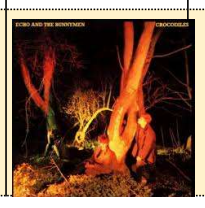
D	DEEP PURPLE	嵐の使者		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	UK	74年作、第三期パープルが前作、「紫の炎」から僅か1年足らずでリリースしたアルバムです。オープニングからいきなり鳴り出すシンセの音に驚かされます。デヴィッド・カヴァーデイルが後にホワイトスネイクで極めていく路線が続く、かなりアメリカ南部臭が強いサウンドは、好き嫌いが分かれるところでしょうが、メロディの充実ぶりは見事なものがあります。 パープル流サザン・ロックは確かにハード・ロック・ファン離れを起こしたのかもしれませんが、改めて聴くとバラエティに富んだ作風が飽きさせません。グレン・ヒューズの歌の上手さや、リッチーのスライド・ギター等、新たな方向性を模索する中、これはこれで味わいのある1枚となっています。思えばリッチーのアメリカナイズされたサウンドへの指向は、ここから始まっていたのかもしれません。	1嵐の使者 2愛は何よりも強く 3聖人 4ホールド・オン 5嵐の女 6ユー・キャント・ドゥー・イット・ライト 7ハイ・ボール・シューター 8ジプシー 9幸運な兵士	
	DEEP PURPLE	嵐の使者		1974	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本			
	DEEP PURPLE	カム・テイスト・ザ・バンド		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	75年作、ディープ・パープルの70年代の最終作となったアルバムで、当時は酷評された様ですが、改めて聴くとこれがなかなかカッコいい1枚です。デヴィッド・カヴァーデイル、グレン・ヒューズ主導によるファンキーなハード・ロック路線にとうとうリッチー大先生が耐え切れず脱退、バンドは解散かと思われましたが、アメリカ人のトミー・ボーリンを迎える事によってフレッシュさを取り戻しています。全くの別バンドと言ってもいい土臭いハード・ロック・バンドとなっているのですが、トミーの色気のあるギターと陽性の高揚感が、新たなパープルの魅力として根付くには、このラインナップであと2、3枚のアルバムが必要だったのかもしれません。ただポップでゴキゲンなノリは、以降のWHITESNAKEが受け継ぎ、リッチーはRAINBOWで様式美を追求する事となったという事実を考えれば、本作の意味もかなり大きかった気はします。 アメリカン・ハードのカラッとしたダイナミズムに溢れた「Gettin' Tighter」は、トミー抜きでは考えられラなかった名曲であったはずですし、「Love Child」ではそんなトミーに煽られる様にカヴァーデイル節が炸裂していて、かなりの名曲になっていると思われます。アメリカンなセンスが目立つ中、ジョン・ロードー人がブリティシュの芳醇な香りをキープしているのも特徴的で、ユニークな作風になっていたのも見逃せません。ご存知の様に本作リリース後、間もなくバンドは正式解散し、程なくしてトミー・ボーリンは帰らぬ人となってしまいました。	1カミン・ホーム 2レイディ・ラック 3ゲッティン・タイター 4ディーラー 5アイ・ニード・ラヴ 6ドリフター 7ラヴ・チャイルド 8a)ジス・タイム・アラウンド b)オウド・トゥ・‘G’ 9キープ・オン・ムーヴィング	
	DEEP PURPLE	ブラック・ナイト ＝ 24カラット		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	1975年発表の第二期ディープ・パープルの活動をまとめたベスト・アルバム。伝説のハード・ロック・バンド、ディープ・パープルのロックの古典的名曲とライヴ音源をセレクトした編集盤。	1ウーマン・フロム・トーキョー 2ファイア・ボール 3ストレンジ・ウーマン 4ネヴァー・ビフォア 5ブラック・ナイト 6スピード・キング 7スモーク・オン・ザ・ウォーター 8チャイルド・イン・タイム	
	DEEP PURPLE	メイド・イン・ヨーロッパ		1975	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	70年代パープルの2枚目となったライヴアルバムです。彼等のライヴ盤は、やはり「メイド・イン・ジャパン」に尽きるのでしょうが、本作を聴かずにおくのはあまりにももったいない話です。トミー・ボーリンを迎えた「COME TASTE THE BAND」リリース後、バンドは76年に解散表明をしています。本作はその数カ月後に発売される形となりましたが、重要なのは本作は彼等の当時のファイナル・ツアーを収録したものであった事です。つまりリッチー・ブラックモアが在籍した70年代パープルの最後のツアーであったという事になります。邦題はライヴ・イン・パリとされていますが、オーストリア、ドイツ、そしてフランスでの公演の音源から構成されています。デヴィッド・カヴァーデイルとグレン・ヒューズによるファンキーなハード・ロック指向、そしてリッチーがそれまで作り上げてきた大音量によるキャッチーなハード・ロック指向のぶつかり合いがパープル崩壊を招いたわけですが、本ライヴではそのギリギリのバランスが保たれたバンドのスリリングな状態が貴重な記録としてパッケージされています。カヴァーデイルの圧倒的歌唱力、またギランの絶頂期を思わせるシャウトとブンブン引っ張るベースが存在感を見せるヒューズは、実に見事なパフォーマンスだと思うのですが、特に耳を惹くのはやはりリッチーだと言えるでしょう。全曲が第三期パープルのナンバーとなるのですが、スタジオ・ヴァージョンでは聴けなかった凄まじいプレイの数々は、まさに燃え尽きようとしているリッチーの壮絶な姿そのものだと思います。 そのリッチーに必死に食い下がるかの様なバンド・サウンドも凄まじく、これが解散寸前のバンドであるとは到底思えません。すでにリッチーはレインボーへの布石とも思えるHR/HMスタイルを、この時期のツアーに見ていたかに凄い方以来です。	紫の炎 / Burn – 7:28 ミストゥリーテッド / Mistreated (Interpolating Rock Me Baby) – 11:43 嵐の女 / Lady Double Dealer – 4:18 ユー・フール・ノー・ワン / You Fool No One – 16:43 嵐の使者 / Stormbringer – 5:33 メンバー リッチー・ブラックモア – ギター デイヴィッド・カヴァデール – ボーカル グレン・ヒューズ – ベース、ボーカル ジョン・ロード – キーボード イアン・ペイス – ドラムス	
	DEEP PURPLE	パーフェクト・ストレンジャーズ		1984	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	UK	84年作、当時時代が最も望んだ黄金の第二期パープルの再結成第1弾となったアルバムです。 レインボーの消滅も、この劇的な復活によってファンは納得をしたのでした。リッチーとイアン・ギランの合流は、奇跡的とも思えるものであり、サバスにも参加していたギランが再びパープルに戻った瞬間は、リアルタイムで伝説を見れた若いファンをも取り込んでいったのでした。確かにレインボーの続編と思われても仕方ないのかもしれません。 アダルトなハード・ロック、という見方もされましたが、「Knocking At Your Back Door」という新たな代表曲を生み、「A Gypsy's Kiss」や「Hungry Daze」ではこのメンバーならではのマジックもあったと思います。 80年代という空気を読むベテランの職人技の凄みはもちろん、何よりもロック界全体を賑わす夢が詰まった1枚として純粋に楽しめた好盤です。	1ノッキング・アット・ユア・バック・ドア 2アンダー・ザ・ガン 3ノーバディーズ・ホーム 4ミーン・ストリーク 5パーフェクト・ストレンジャーズ 6ア・ジプシーズ・キッス 7ウェイステッド・サンセッツ 8ハングリー・デイズ 9ノット・レスポンシブル	
	DEEP PURPLE	ハウス・オブ・ブルー・ライト		1987年1月12日	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	第2期メンバーによる再結成後のセカンド・アルバム。再結成後の１枚目の「パーフェクト・ストレンジャー」があまりにも良かったためか、評価は低い部類に入ってしまったが、どうして、なかなか、そんじょそこらのヘヴィネスではない。 前作は、当時よく言われていたようにレインボーみたいな音にディープ・パープルらしさを絶妙にブレンドしたもの。リッチー主導で曲も前々から相当練られていたと思う。70年代パープルのパロディーとも思えるようなフレーズなんかも出てきて、確かに良くできた作品。が、今回は、このメンツで、顔を突き合わせて、あらためて曲を作っているんだと思う。2作続けてのリッチー主導を嫌うギラン、ここでのギランのボーカルは凄まじいデキ。おそらく彼のキャリアの中でも10本の指の中に入れてもおかしくないくらい。いつものシャウトだけでなく、様々な表現力を持っているところが凄い。あらためて、この人って単なる2期のボーカルだった人みたいに簡単に過去の人として葬り去られるような人じゃないんだと思う。ただ、リッチーのあのスリリングなギターが聴きたいという方にはウーン、あまり無い。でも、決して、半端な作品ではありませんよ。どの曲も良くできた曲。捨て曲なしと言ってもいいでしょう。	**Side A** 1.バッド・アティテュード 2.アンリトゥン・ロウ 3.コール・オブ・ワイルド 4.マッド・ドッグ 5.ブラック・アンド・ホワイト	**Side B** 1.ハード・ラヴィン・ウーマン 2.スパニッシュ・アーチャー 3.ストレンジ・ウェイズ 4.ミッティー・デュプレー 5.デッド・オア・アライヴ
	DEEP PURPLE	ノーバディーズ・パーフェクト		1988年6月28日	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	第2期メンバーによる再結成後の1988年に発表されたライブアルバム。ホワイトスネイク人気で、80年代の代表曲を数多く持つ彼等の地位を決定付けた名盤で、「紫の炎」で見事よみがえったパープルのライブ。絶対に良い。2期のハーフ・オフィシャルなんかをあさっているなら、まずこの期の盤を聴くべきと思う。 シャウトするギラン、リッチーのギターもスリリング、ジョンのオルガンも狂気。かといって何もかもがあの2期かと言えばそうではない。レインボーをはじめ、メンバーはいろんな経験をしている。今さら2期の音ををを出しても仕方がないのは、承知の上でのことである。どこか新しい。でも、しょせん自分たちに求められているのは、あの2期の音の再現かなどとも覚悟している。そういう微妙なスタンスである。 曲からして、再結成後のものと昔の2期のものと半々ぐらいで構成している。よく分かった人たちなのだ。このよく分かったところが、批判されるところでもあるのだけれど。 演奏も、あの「メイド・イン・ジャパン」の頃の様な凄まじい緊張感よりも、どこか余裕を見せつけるような迫力のある演奏。いろいろ批判があった前作の曲も異なった曲のようにドライヴしている。本当によく分かった人たちである。 ジョンも天国に召された現在。もう、このメンツは絶対にそろはない。このメンツが絶対とは言わないけれど、このメンツならではのロックがあったのも確か。 ロックファンなら、ぜひともの一枚。あの栄光の「ブリティッシュ・ロック」の刻印が押されています。	**Side 1** 1.Highway Star 2.Strange Kind Of Woman 3.Dead Or Alive **Side 2** 1.Perfect Strangers 2.Hard Lovin' Woman 3.Bad Attitude 4.Knocking At Your Back Door	**Side 3** 1Child In Time 2Lazy 3Space Trucking **Side 4** 1.Black Night 2.Woman From Tokyo 3.Smoke On The Water 4.Hush
	DEEP PURPLE	(ペーパースリーブ仕様) マシンヘッド・ライヴ～ライヴ・イン・デンマーク 1972		2008年07月23日	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	マシンヘッド発売直前に「ファイアーボール・ツアー」の流れのままセットリストを変えたばかり、という頃のライブのよう。やっている曲はマシンヘッドの曲が多いのですが、音はむしろファイアーボールに近い、という微妙なライブ。勿論「ライブインジャパン」のクオリティにはかないません。ライブ音源では貴重な、アンコールの「Fireball」に結構期待していたのですが、ギランの声の調子がイマイチ（かなり苦しそう）＆ロジャーのピンポイントベースソロも？ということで、唯一興味を引いたのが「Child in Time」のギターソロ＋キーボードソロ部分。	ディスク：1 1ハイウェイ・スター 2ストレンジ・ウーマン 3チャイルド・イン・タイム 4ザ・ミュール ディスク：2 1レイジー 2スペース・トラッキン 3ファイアーボール 4ルシール	
	DEF LEPPARD	オン・スルー・ザ・ナイト		1980	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	80年作。N.W.O.B.H.M.の夜明けとなった1枚で、デフ・レパードのデビューアルバム。当時平均年齢19歳という若き5人組は、アイアン・メイデン、サクソン、ガール等と共に、ヘヴィ・メタルの新たなヒーローとなった。ジューダス・プリーストやシン・リジィ、UFOの影響下にありながら、早くからアメリカン・マーケットを意識したサウンドは、同時代のバンドと比べると明らかにキャッチー さに長けていました。元々ツイン・リードの魅力よりもキャッチーなメロディをスピーディーなリフに乗せるのが個性だった様で、初期の彼等は荒々しさの中で光る歌メロの良さが特に目立ちます。パンキッシュにも思える疾走感は80年代初期の空気を感じさせ、ブルースに全く頼らず、グラマラスなコーラスを多用する点は、明らかに新世代と思われ、無限の可能性を確かに感じさせてくれました。次作で彼等はとんでもない進化を見せていくわけですが、本作では多少の青臭さも魅力となっていて、今聴いても胸がときめくメタル・アルバムだと思います。		
	DEF LEPPARD	ハイ&ドライ		1981	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	日本	81年作。デフ・レパードのセカンド・アルバム。僅か1年で格段の進化を見せた事で驚かせました。AC/DCの「地獄のハイウェイ」、「バック・イン・ブラック」を手掛けたプロデューサーのロバート・ジョン・マット・ランジと手を組む事を選択し、ジャケット・アートはピンク・フロイド、ツェッペリン、UFOとの仕事で有名なヒプノシスに依頼。 すでにN.W.O.B.H.M.勢とは一線を画したメロディの幅の広さ、スピードだけではないメロディの良さは、当時はアメリカ指向として本国では批判的に向きもあった様ですが、次作の「炎のターゲット」に繋がる下地はここで完成されています。フォリナーの「4」の制作が完了したばかりのマット・ランジの色合いも、彼等のメタリックかつキャッチーなサウンドへの移行にも影響した様で、この両者のタッグが時代を切り開こうとする勢いが全編に溢れています。脱退したピート・ウィリスの後任として、フィル・コリン（GIRL）が参加し、いよいよ彼等の黄金期が始まる。その後、84年にフィルを迎えてのリミックス・ヴァージョン、「ブリンギン・オン・ザ・ハートブレイク」、「ミー・アンド・マイ・ワイン」が収録されたアルバムが再リリースする。全英26位、		
	DEF LEPPARD	炎のターゲット		1983	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	US	83年作。デフ・レパードの3作目にして、80年代メタルを象徴する大名盤。思えば本作の世界的大ヒットにより、NWOBHMの一過性の熱は冷め、時代はアメリカを中心にLAメタル、ポップ・メタルを求めるようになる。バンドは本作より元GIRLのフィル・コリンを正式に迎え、ヴィジュアル的にもいよいよ充実ぶりを見せる。フォリナーやAC/DCを手掛けてきたロバート・ジョン・マット・ランジとのタッグが、ここでサウンドの完成度の極みを見せ、以降ブライアン・アダムス等がこのプロダクションを踏襲する事になります。 「フォトグラフ」での見事なポップ・メタル展開、「フーリン」での80年代型パワー・バラードの雛形とでも言うべき完成度等、奇跡的なメロディの呆れる程の見事さ。オープニングから最後まで、全く隙の無いメロディ構成は今聴いても震えがくる程で、ドラマティックかつポップ、パワー・バラードでは燃え上がる様な叙情性も見事で、これぞ80'sメタルというお手本的内容となっている。全ロック・ファン必聴の1枚と言える大名盤の一つ。全英18位、全米2位。		
	DEF LEPPARD	ヒステリア		1987	ハード ロック& ヘヴィー メタル	レコード	US	87年作。デフ・レパードのキャリア史上最大のセールス を誇る傑作で、彼等の地位を決定付けた大名盤です。前作、「炎のターゲット」のビッグ・セールスが、80年代のポップ・メタルの市場の拡大に伴う一過性のものではない事を証明し、独自のサウンドをここで完成させています。ドラマーのリック・アレンの悲劇的な事故は彼にとってもバンドにとっても致命的なものと思われましたが見事克服、ファンを感動させるという意味でも本作リリース時の歓迎ぶりは驚異的なものがあった。前作から4年という長いインターバルものともせず、サウンド・プロダクションが斬新でした。作り込まれた緻密なアレンジに乗るメロディはバラエティに富み、実際7曲ものシングル・カットがされたキャッチーさは完璧ではなかったでしょうか。 オープニングをスロー・チューンと言える「WOMAN」で飾ったのも、自信の現れなのか、80年代の中では、彼等しか成し得なかった意外性のある構成でした。メロディアスなハード・ポップ・チューン、哀愁パワー・バラード、プログレ・ハードに近い起伏のある展開を持つミステリアスなハード・ロック等々、持ち味の幅がグッと広がった事により、比類すべき存在がとうとういなくなってしまったと言っても過言ではないでしょう。 更にリズムにこだわり、コーラス・ワークやSEにより複雑かつ濃密な音の壁を作り上げる事に成功し、QUEENにも通じる普遍性と大衆性を獲得したわけです。前作が80年代メタル・ファン必需品だったとしたら、本作は全ロック・ファン必聴の大名盤と言えるのかもしれません。		
	DEF LEPPARD	アドレナライズ		1992	ハード ロック& ヘヴィー メタル	CD	日本	1992年リリース。前作から4年以上の間隔を空けリリースされた、デフ・レパードの通産5作目のアルバム。 ご存知の様に、当時のバンドは二度目と言える悲劇を迎えたばかりでした。スティーヴ・クラークを亡くし、追悼盤という意味も含め本作の制作を仕上げたのでした。バンド史上初となる4人体制で映るメンバーに悲壮感は無く、むしろ明るくキャッチ―なサウンドでまとめられた本作、そこにどこか寂しさを見て取れない事もありません。ただやはり彼等の人気は確立されたものがあり、揺るぎない地位を証明した事も間違いないと思われます。「ヒステリア」のパート2というべきデフ・レパード節と、90年代においても十分有効であったと思われるパーティー・ロック風の陽性ハード・ロックを展開し、またしても大ヒットを記録します。改めて聴き直すと、彼等のキャリアの中では、最もポップなアルバムなのかもしれません。	1レッツ・ゲット・ロック 2ヘヴン・イズ 3メイク・ラヴ・ライク・ア・マン 4トゥナイト 5ホワイト・ライトニング 6スタンド・アップ(キック・ラヴ・イントゥ・モーション) 7パーソナル・プロパティ 8ハヴ・ユー・エヴァー・ニーディッド・サムワン・ソー・バッド	

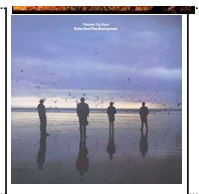
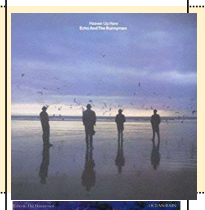
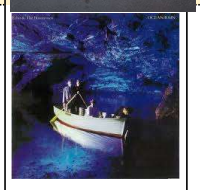
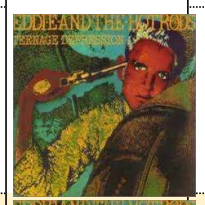
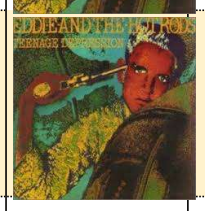
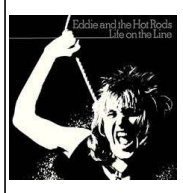
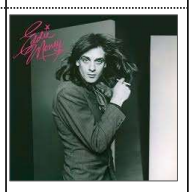
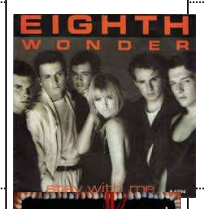
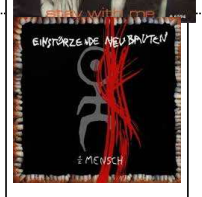
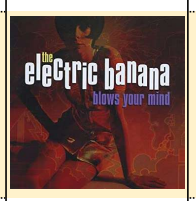
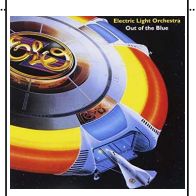
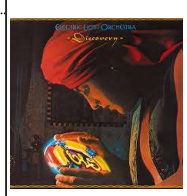
	DEF LEPPARD	スラング		1996	ハードロック&ヘヴィーメタル	CD	UK	1996年度グリーズのデフ・レパードの通産6作目、彼等の問題作どころでも知られている意欲作です。 前作から4年ぶりとなり、ヴィヴィアン・キャンベルが参加して初となったアルバムでもあり、新生レパードとしての実験的指向と、バンドにとって二度目の悲劇と言えるスティーヴ・クラークの喪失からのリハビリもあったのでしょうか。ヴィヴィアン単独作の「ワーク・イット・アウト」がリード・シングルとなりましたが、このあまりのサウンドの変化に戸惑った方も多いのではないでしょうか。DIOでかなりキャッチーなリフ・メイカーとして知られていた彼が、モダンなアプローチでのミドル・ナンバーの名手として全く別人と言えるセンスを開花させています。クールなメロディとポジティヴな歌詞、メタルからは遠のいたニュー・ウェイヴ的サウンドは、このバンドの並々ならぬ雑食性をいよいよ見せ始めた瞬間だったと思います。けっしてツイン・ギター・バンドとしてのブランドを捨てたわけではないのですが、サイケ、エスニック、ファンク、そして70年代ハード・ロックのエッセンスと、様々なスタイルを吸収ではなく、むしろ溜まっていたものを吐き出す様なナチュラルなスタンスで奏でています。 彼等特有のビッグ・サウンドも、個性的なバンド・ロゴも、ここでは惜しげもなく捨てられ、ニューモアな	1. トゥルース? 2. ターン・トゥ・ダスト 3. スラング 4. オール・アイウォント・イズ・エブリシング 5. ワーク・イット・アウト 6. プリーズ・ア・サイ 7. デリヴァー・ミー 8. ギフト・オブ・フレッシュ 9. ブラッド・ランズ・コールド 10. ホエア・ダズ・ラヴ・ゴー・ホエン・イット・ダイズ	
	DEODATO	デオダト2 ラプソディー・イン・ブルー		1973	フュージョン	レコード	日本	リオ・デ・ジャネイロ出身、60年代後期にアメリカに移住してからは数多くの名曲を手掛けたプロデューサー/キーボード奏者、Eumir Deodato！彼が名門【CTI】から73年にリリースしたアルバム。Fat Joeや9th Wonderネタの壮大なアレンジが効いたピアノ曲A2「Pavane For A Dead Princess」、数多くカヴァーもされたダンス・ジャズ・クラシックB1「Super Strut」、Black Sheep / Gimme The Fingaで使われた渋いB2「Rhapsody In Blue」等を収録した名作です！フュージョン~クロスオーバー~レアグルーヴ不屈の名盤エウミール・デオダートによる「Deodato 2」。ファンキーかつメロウでグルーヴィな演奏は何度聴いても飽きがこないクロスオーバー・クラシック!	A1.Nights In White Satin A2.Pavane For A Dead Princess A3.Skyscrapers B1.Super Strut B2.Rhapsody In Blue	
	Depeche Mode	ア・ブロークン・フレイム		1982年9月27日	エレクトロニクス	レコード	US	デッペシュモードのセカンドアルバム。バンドのソングライターとして活躍したヴィンス・クラークがヤズーを結成しバンドを脱退、3人組として生まれ変わったバンドの最初のアルバム。ソングライティングはマーティン・ゴアが担当し、それまでのポップな明るい曲調から陰影に富んだ叙情的な作風に変化し、以降のバンドの音楽性に影響を与えていく。ヴィンスは「マーティンは、僕よりも優れたソングライターだから大丈夫さ」との言葉を残してバンドの元を去るが、当のマーティンは「自分自身の曲を信じなければいけなくなったんだから、プレッシャーは凄かった」と眠れぬ日々が続いたことを告白している。	**Side A** 1. リーヴ・イン・サイレンス　- 4:51 2. マイ・シークレット・ガーデン　- 4:46 3. モニュメント　- 3:15 4. ナッシング・トゥ・フィア　- 4:18 5. シー・ユー　- 4:34	**Side B** 1. サテライト　- 4:44 2. ザ・ミーニング・オブ・ラヴ　- 4:44 3. マイ・シークレット・ガーデン　- 4:30 4. 君の写真　- 3:04 5. シュドゥント・ハヴ・ダン・ザッ　- 3:12 6. ザ・サン・アンド・ザ・レインフォール　- 5:02
	Depeche Mode			1983年8月22日	エレクトロニクス	レコード	日本	デッペシュモードのサードアルバム。前作リリース時に採用されたアラン・ワイルダーが正式メンバーとして参加したアルバム。アランは「トゥー・ミニット・ウォーニング」「変わりゆく風景」の2曲を提供した。マーティン・ゴアは自身が参加したアインシュテュルツェンデ・ノイバウテンのライヴに触発され、インダストリアル・ミュージックをポップ・ミュージックに織り交ぜるというアイデアを提案し、バンドは本作からサンプリングやメタル・パーカッションを導入。より硬質でヘヴィなサウンドへと変化した。全英最高6位を記録。	**Side A** 1. ラヴ・イン・イットセルフ　- 4:29 2. モア・ザン・ア・パーティ　- 4:45 3. パイプライン　- 5:54 4. エヴリシング・カウンツ　- 4:20	**Side B** 1. トゥー・ミニット・ウォーニング　- 4:13 2. シェイム　- 3:51 3. 変わりゆく風景 / The Landscape Is Changing - 4:49 4. トールド・ユー・ソー　- 4:26 5. アンド・ゼン…　- 5:39
	DEREK AND DOMINOS	いとしのレイラ		1970	ハードロック・ヘヴィメタ	レコード	US	クリームの解散後、クラプトンは新天地を求めてアメリカに渡り、アメリカ南部のミュージシャンとデレク・アンド・ザ・ドミノスを結成。デュアン・オールマンをゲストに迎えて「レイラ」を録音。プロデューサーはクリーム時代から腕利きのクラプトンを支えて来たトム・ダウト そして最大のハイライトはデレク・アンド・ザ・ドミノスのバンド外からギタリスト・デュアン・オールマンを迎えたことでしょう。そしてこのレイラはジョージ・ハリスンの妻のパティ・ボイドで、「レイラ」の名前の由来ロミオとジュリエットからロミオとジュリエットのアラビア版ともいうべき古典的な恋愛物語「ライラとマジュヌーン」という物語から、ライラ=ジュリエットからとった命名ということです。このライラを英語で表記するとLayla（レイラ）となる。またアルバムの14曲中の8曲をクラプトン自身の作品がしめており、このアルバムを境にギターと共に自らヴォーカルをとる現在のクラプトンのスタイルになったと思われる。	1アイ・ルックト・アウェイ 2ベル・ボトム・ブルース 3キープ・オン・グロウイング 4だれも知らない 5アイ・アム・ユアーズ 6エニイデイ 7ハイウェイへの関門 8テル・ザ・トゥルース 9恋は悲しきもの 10愛の経験	
	DEREK AND DOMINOS	(ペーパースリーブ仕様) いとしのレイラ		1970	ハードロック・ヘヴィメタ	CD	日本			
	DEREK AND DOMINOS	イン・コンサート		1970	ハードロック・ヘヴィメタ	レコード	日本	クラプトンがギタリストとしてピークにあった時期に、強力なメンバーにサポートされて披露したロック史上最高と言える素晴らしいライブ演奏が収録されています。ストラトの音色もソロの展開も繊細かつ表情豊かでベストだと思いますし、ライブとは信じられないほどリズムが鉄壁です。「恋は悲しきもの」や「レット・イット・レイン」におけるジム・ゴードンのドラミングは、彼がクラプトンをどれほど愛していたか、痛いほど伝わってきます。ドミノズのライブは「ライブ・アット・ザ・フィルモア」やその他ネットでも様々なテイクが聴けますし、その都度違う演奏に、インプロビゼーション色が強いバンドであったことに驚かされますが、このアルバムの演奏が最もまとまっている。若かりし頃の激しくも流麗なギタープレイを聴くことが出来ます。	**Disc1** **Side A** 1. 恋は悲しきもの 2. ゴット・トゥ・ゲット・ベター・イン・ア・リトル・ホワイル **Side B** 1. レット・イット・レイン 2. プレゼンス・オブ・ザ・ロード	**Disc2** **Side A** 1. テル・ザ・トゥルース 2. レッド・ワイン **Side B** 1. ロール・イット・オーヴァー 2. a)ブルース・パワー b)愛の経験
	DERRINGER	悪魔と拳銃			ハードロック・ヘヴィメタ	レコード	日本	メンバーはリッグ・デリンジャーの他、ドラムズはご存知DIOでロニー・ジェイムズ・ディオを支える事になるヴィニー・アピス、もう1人のギタリストはアリス・クーパーにも参加したダニー・ジョンソン（その後ALCATRAZZに合流）、そしてベースにはDUSTからニール・ショーンのプロジェクトにも名を連ねる名手ケニー・アーロンソンの四人組。改めてスーパーバンドと言える。アルバムはライヴを含めて4枚リリースしている。この作品はプロデュースが、当時人気の Jack Douglasによる彼らの最高傑作のセカンドアルバム。その四人が織り成す楽曲群はソリッドな質感のサウンドでありながらキャッチーさも有したハードロック。1stの煮え切らない雰囲気は一気に払拭される。一曲目のエンディングの余韻を待たずに切り込んでくるギターリフに卒倒しそうになる"Sittin' By The Pool"。この躍動感溢れるギタープレイのうねり感はリックの経歴の中でも屈指のものと断言できます。そしてアナログでいうB面2曲目にあたる表題曲"Sweet Evil"はもうひとつのハイライト。途中テンポチェンジ・パートでの二人のギタリストが交互に奔放なプレイを披露していて、何度聴いても総毛立ち。ダニエル単独作の"One Eyed Jack"と"Drivin'	**Side A** 1. Don't Stop Loving Me 2. Sittin' By The Pool 3. Keep On Makin' Love 4. One Eyed Jack	**Side B** 1. Let's Make It 2. Sweet Evil 3. Drivin' Sideways 4. I Didn't Ask To Be Born
	DETECTIVE	DETECTIVE		1977	ハードロック	レコード	US	元シルヴァーヘッドのマイケル・デ・バレスと元イエスのトニー・ケイが結成した、当時はスーパーバンドと言われたディテクティブのファーストアルバム。ジミー・ペイジに認められ、レッド・ツェッペリンのスワン・ソングからプリティ・シングス、バッド・カンパニーに次いで送り出されたハード・ロック・バンド。代表曲「レコグニション」を収めたファースト・アルバム。ジミー・ペイジも匿名でプロデュースに参加。そのステッペンウルフのギターリストだったマイケルモナークが奏でる、まるでプッシャーのフィードバックが蘇えってきたようなイントロから、このアルバムは始まる。そして、ベストフェイバリットの2曲目 「愛にみちたりて」元YESのトニーケイのロックオルガンとはこれだという音に、ロックバンドサウンドはこうだとメンバーが答える。とにかくジミー・ペイジが関わってることもあり、どの曲を聴いてもツェッペリンのサウンド（5，6枚目）に近く、それがこのグループの強味であり問題点。特にドラムの音の取り方や曲の出だしのフレーズはツェッペリンの音を借りてきたのではと思うくらい。コマーシャルなハードロックナンバーとブラスを入れたファンキーなナンバーが特徴。	**Side A** 1. レコニグション 2. 愛に満ち足りて（Got Enough Love） 3. グリムリパー（Grim Reaper） 4. ナイチンゲール（Nightingale）	**Side B** 1. ディテクティヴ・マン（Detective Man） 2. お前の出番じゃない（Ain't None Of Your）Business 3. ディープ・タウン（Deep Down） 4. 狂熱のサマー・ナイツ（Wild Hot Summer Nights） 5. ワン・モア・ハートエイク（One More Heartache）
	D.A.F.【DEUTSCH AMERIKANISCHE FREUNDSCHAFT】			1980	ニューウェーヴ	レコード	UK	独80sエクスペリメンタル・エレクトロニック・ミュージック界の傑作盤。グループ名の"独米友好協会"は、東独の独ソ友好協会（D.S.F）と西独の過激派ドイツ赤軍（R.A.F）を合わせたパロディ。1978年に結成。メンバーチェンジを経て、80年代にゲアルとロベスのユニット体制へ。81年の『アレス・イスト・グット』で独レコード大賞を受賞するなど黄金期を迎え、"エレクトロニック・ボディ・ミュージック"の黎明期を担い、アシッド・ハウスへも影響を与える。イギリスが誇るポスト・パンク/ニュー・ウェイヴ・レーベルMuteからのLP第一弾となる、ノイエ・ドイチェ・ヴェレを代表するドイツのバンドD.A.Fの80年2ndアルバム。Phewにも絶大な影響を与えた、後にLiaisons Dangereusesを結成するChrislo Haasが全面参加。A面～B面1曲目はConny's studio録音、B面2曲目以降はライブ音源を収録しており、Conny Plankと相性バッチリなChrislo Haasのセンスが発揮されたミニマル・シンセ・ビートによるスタジオ録音、B面のグチャグチャなギターも強烈なライブ録音と、両面素晴らしいD.A.Fの最高傑作に挙げられる一枚。ジャーマン・ニュー・ウェーヴはもちろんプロト・テクノ～ポスト・パンク・ファン必聴の1枚。天才コニーブランク	**Side A** 1. Osten Wahrt am Langsten 2. Essen Dann Schlafen 3. Co Co Pino 4. Kinderfunk 5. Nacht Arbeit 6. Ich Gebe dir ein Stuck Von Mir 7. De Panne	**Side B** 1. Gewalt 2. Gib's Mir 3. Auf Wiedersehen 4. Das Ist Liebe 5. Was Ist eine Welle 6. Anzufassen und Anzufassen 7. Volkstanz 8. Die Lustigen Stiefel 9. Die Kleinen ind die Bosen
	DEVO	頽廃的美学論			ニューウェイブ	レコード	日本			
	DEVO	生存学未来編			ニューウェイブ	レコード	日本			
	DEVO	ビー・スティック			ニューウェイブ	レコード	日本			
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	若き魂の反逆児を求めて		1980	ニューウェイブ	レコード	日本	英国バーミンガムのワーキング・クラス出身、この1980年の1stアルバム。「パンクは姿勢だ」を地で行く硬派パンクスのケヴィン・ローランド（ex:The Killjoys）率いる彼らDexy's Midnight Runnersのデビュー作。今となっては、ローランドがSex Pistols崩壊後にソウルやスカ、アイリッシュに傾倒したことで完成したこのサウンドも後の名曲"Come On Eileen"誕生を予言していたかのように聴こえます。ラジオのチューニングの彼方にDeep PurpleやSex Pistols、The Specialsの音楽が聞こえる【1】や全英1位を記録した【5】、本作きってのポップ・ナンバー【8】などまさに名曲揃いのこの一枚、同時期に発表されたThe Clashの歴史的傑作『Sandinista!』と同じく「真のパンク」を知るためには聴き逃せない傑作。『若き魂の反逆児を求めて』というタイトルといい、緊張感張りつめるジャケといい、本当に非の打ち所がないってのはこのこと。ケヴィン・ローランドは本当に天才だ！	1焼きはらえ 2青に変わる時 3カフスで出会ったバンド 4アイム・ジャスト・ルッキング 5ジーノ 67日間は長すぎる 7誰かいるなら 8どこも、かしこも 9キープ・イット 10ラヴ・パート1	
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	若き魂の反逆児を求めて		1980	ニューウェイブ	CD	UK			
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	女の泪はワザモンだ！！		1982	ニューウェイブ	レコード	UK	1982年リリース。デキシーズ・ミッドナイト・ランナーズのセカンドアルバム。1stアルバムのマスター・テープを人質にしたギャラの値上げ交渉、マスコミとの絶縁宣言、度重なるメンバーの離脱などグループの中心人物のケヴィン・ローランドはかなりに癖のある人物のようですが、そんな妥協しない姿勢が作品にも現れているのか、デキシーズの数枚の作品はどれも素晴しい出来です。取り組んでいる曲調とメンバーがどのアルバムも異なるため、アルバムごとに雰囲気が異なり甲乙付け難いのですが、名曲カモン・アイリーンを含んだこのアルバムが一番印象的ですね。ケルト色を打ち出したこの曲は何となくフォーク・ダンスみたいな雰囲気もあるのですが、そんな明るい曲調の中にちょっと泣きのスパイスを聞かせたような感じが絶妙。誰しもがオッ！！と思わされる名曲ですので未聴の方はとりあえず聴いてみることをおすすめいたします。捨て曲なしの好盤。ソウルをベースにしたメロディに特徴のある佳曲が多い中で、「カモン・アイリーン」は特別にソウルポップスです。	1ザ・ケルティック・ソウル・ブラザーズ 2レッツ・メイク・ジス・プレシャス 3オール・イン・オール 4ジャッキー・ウィルソン・セッド 5オールド 6プランB 7アイル・ショー・ユー 8ライアーズ A~E 9ビリーヴ・イン・マイ・ソウル 10カモン・アイリーン	

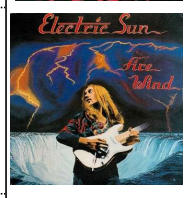
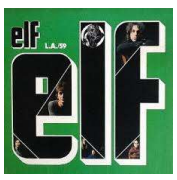
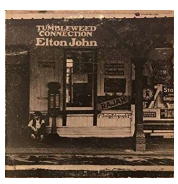
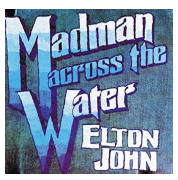
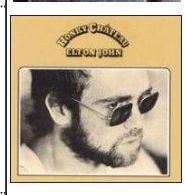
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	女の泪はワザモンだ！！		1982	ニューウェイブ	CD	日本			
	DEXYS MIDNIGHT RUNNERS	ドント・スタンド・ミー・ダウン		1985	ニューウェイブ	レコード	日本		1Kevin Rowland's 13th time 2Occasional flicker 3This is what she's like 4My national pride (formerly Knowledge of beauty) 5One of those things 6Reminisce (part 2) 7I love you (Listen to this) 8Waltz	
	DIAMOND HEAD	偽りの時		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作。ダイアモンド・ヘッドのメジャー・デビュー作となったアルバムです。 メタリカが「AM I EVIL? 悪魔のささやき」をカヴァーした事により、再評価もされたバンドですが、NWOBHMシーン勃発時には早くから注目されていた伝説的存在です。メガデスへの影響も大きかったとされていますが、このバンドの本来の魅力はスラッシュ的なスピードや複雑な曲構成ではなかったと思われます。いかにも英国的な煮え切らないヴォーカル、速さよりもタメの効いた味のあるギターは、むしろUFOが大事にしてきたツェッペリン以降のブリティッシュ・ハードの魅力を大事にしていたと考えられます。メイデンやサクソン、デフ・レパード等が競う様に攻撃的でスピーディーなリフを生み出していた時代、彼等はハード・ロックの古典的なダイナミズムを80年代風に再現してきたのではないでしょうか。 ジャケット・イメージといい、長尺のナンバーが多い点等、古くからのB級センスを愛するロック・マニアに特に愛され続けている1枚だと思います。	
	DIAMOND HEAD			1987	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	4つのEP盤別のバージョンやのデモであったり、ラジオセッションのために記録された物の編集盤。		
	DICKIES	インクレディブル・シュリンキング・ディッキーズ		1979	パンク	レコード	US	ロスアンゼルスにて 1977年に結成された「ディッキーズ」のファーストアルバム。ウェストコーストのニューウェーブシーンから飛び出したイキのいいバンド。活動当初から最初期ロスアンゼルスのPunkシーンで活動し、即 A&M とメジャー契約を果たし、一躍人気バンドへと駆け上った。躍動するパワーとハードでしたたかなポップセンスで人気アルバム。本作は名曲連打の大傑作。当時の中では高速パンクで有名で、1曲の時間も大体1分～2分程度の曲が主流で、正にパンクというに相応しいグループでアメリカのバンドとは思えない感じだったこともあり、彼らはアメリカのパンクバンドの中で初めてイギリスでチャートで上位ランクさせたバンドであった。また、シングル「BANANA SPLITS」がベスト10位以内のヒットさせイギリスで大いに支持され、新たな地平を切り拓いたバンドでもある。	Side A 1. Give It Back 2. Poodle Party 3. Paranoid 4. She 5. Shadow Man 6. Mental Ward 7. Eve Of Destruction Side B 1. You Drive Me Ape (You Big Gorilla) 2. Waterslide	
	DICKIES	インクレディブル・シュリンキング・ディッキーズ		1979	パンク	レコード	日本		Side A 1. ギヴ・イット・バック 2. プードル・パーティー 3. パラノイド 4. シー 5. シャドウ・マン 6. メタル・ワールド 7. 明日なき世界 Side B 1. ユー・ドライヴ・ミー・エイプ 2. ウォータースライド	
	DIO	情念の炎～ホーリー・ダイヴァー		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	83年作、今はどきロニー・ジェイムス・ディオが、レインボー、ブラック・サバスの世界観を更に濃縮したと思える程の音を生み出したディオの1stアルバムです。 超2大バンドの看板を務め、70年代、80年代と圧倒的な存在感を放っていたロニーのその後の動向が注目されていた中、誰もが望む様式美メタルの具現化の理想形として完成されていたのはもちろん、ある意味意外とも思えたポップ化が大きな収穫であったと思います。 ジミー・ベイン、ヴィニー・ムーアという超強力リズム隊に、当時無名であったヴィヴィアン・キャンベルを発掘し、タイトでヘヴィ、そしてサウンドはドラマティック、更にロニーが嫌った筈の後期レインボーを思わせる適度なキャッチーさが新鮮でした。	
	DIO	ラスト・イン・ライン		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	84年作。ロニー・ジェイムス・ディオの最も輝いていたキャリアとしても挙げられるべき1枚、ディオのセカンド・アルバム。前作でほぼ確立されていた様式ハード・ロック、そしてスピーディーかつドラマチックな美しいメタル・スタイルは更に強化されています。 特にヴィヴィアン・キャンベル、ジミー・ベインという優れたソング・ライターとしてのセンスが大きな貢献をしています。 クレジットにはロニーが全ての曲を作った事になっていますが、名手ジミー・ベインもいる事ですし、そんな事はないと思うのですが・・・ おそらくここら辺に大人の事情、ヴィヴィアン脱退の秘密があるのでしょう。 オープニングのハイ・スピード・アンセム、「We Rock」、ドラマチックなアルバム・タイトル曲、そしてジミー・ベインのハード・ポップ調の異色作「Mystery」等、優れたメロディがズラリと並んだ大名盤です。80年代メタルのお手本的な1枚でもあると思います。	
	DIO	セイクレッド・ハート		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	85年作、ディオのサード・アルバムにして、ヴィヴィアン・キャンベルが在籍した最後の1枚として有名な作品です。 サントラ提供曲となった「Hungry For Heaven」を始め、キャッチーで高揚感溢れるメロディに溢れ、ディオのキャリアの中では最もメロディアス・ハードのカラーが強いかもしれません。 ジミー・ベイン、そしてヴィヴィアンという優れたソング・ライターが、ロニーの元で最良の仕事をしていた頃のピーク時だったと思いますが、この路線がもうしばらく続いても本当に良かったと思えるだけに残念です。	
	DIO	ミステリー 12″、シングル		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本			
	DIO	ロックンロールチルドレン 12″、シングル		1985	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本			
	DIO	ディオ－レインボー・イン・ザ・ダーク 12″、シングル		1986	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本			
	DIRE STRAITS	悲しきサルタン		1978年10月7日	ロック	レコード	日本	グループ結成から1年後の78年にリリースされたのが本作『悲しきサルタン』。イギリス出身のダイアー・ストレイツはパンクでもテクノでもニューウェイヴでもなく、アメリカンロックのテイストを持ったルーツロックをプレイする地味な4人組としてデビューした。彼らは時代の要請や流行とはまったく無縁の音楽で世界を魅了した。アルバムはノップラーのトレードマークとも言えるフェンダー・ストラトキャスターの幻想的なハーフトーンのギターソロから始まり、一転してエッジの効いたロックに転化する。アルバム1曲目のナンバー「Down To The Waterline」のヴォーカルはボブ・ディランのような囁きスタイルであり、全編を彩るノップラーのギタープレイが素晴らしい。エイモス・ギャレットっぽいフレーズやペダルスティール・リックまで登場する。ほぼアメリカ的なサウンドであるだけに、これがイギリスのグループだとは当時は思いもしなかった。収録された全8曲はどれも佳曲揃いで、捨て曲は1曲もない。結局、本作はチャート上で全米2位、全英5位、ドイツ、フランス、オーストラリアで1位という輝かしい成績を収める。	全曲ともマーク・ノップラー作。 Side A 1. 水辺へ ″Down to the Waterline″ 4:03 2. ウォーター・オブ・ラヴ 5:26 3. セッティング・ミー・アップ 3:19 4. シックス・ブレイド・ナイフ 4:13 5. サウスバウンド・アゲイン 2:59 Side B 1. 悲しきサルタン ″Sultans of Swing″ 5:48 2. イン・ザ・ギャラリー 6:16 3. ワイルド・ウォーターズ 4:44	
	DIRE STRAITS	コミュニケ		1979年6月15日	ロック	レコード	日本	ダイアー・ストレイツが1979年に発表した2作目のスタジオ・アルバム。伝説のマッスル・ショールズ・スタジオでレコーディングされた2ndアルバム。遅咲きのギター・ヒーローが70年代に別れを告げて完成させたバンド史上“最もクールな”作品。この作品を最後にデヴィッド・ノップラー（g）がバンドを脱退。 全英5位、全米11位、スウェーデン、ドイツ、ニュージーランドでは1位を獲得し、全世界で700万枚のセールスを記録。	Side A 1. かつて西部で ″Once Upon a Time in the West″ – 5:25 2. ニュース – 4:14 3. 行かないで ″Where Do You Think You're Going?″ – 3:49 4. コミュニケ – 5:49 Side B 1. 翔んでる! レディ ″Lady Writer″ – 3:45 2. エンジェル・オブ・マーシー – 4:36 3. ポートベロの小女 ″Portobello Belle″ – 4:20	
	DIRE STRAITS	メイキング・ムーヴィーズ		1980年10月17日	ロック	レコード	US	1980年に発表の3作目。全英チャートで最高4位を記録。シングルヒットはメイキング・ムーヴィー（全米58位）、ロミオとジュリエット（全英8位）、トンネル・オブ・ラヴ（全英54位）、この作品はパティ・スミス等で有名なジミー・アイオヴィンのプロデュースで、かなりドラマティック、ロックの醍醐味を感じさせる仕上がりになっている。ゲスト参加しているロイ・ビタンのピアノも素晴らしい。屈指の名曲「トンネル・オブ・ラヴ」「ロミオとジュリエット」のような大曲と独特のクセはあるが「エクスプレッソ・ラヴ」「ソリッド・ロック」のようなコマーシャルな曲がバランス良く配置されている印象だ。ジャケットは地味だが、アルバムの内容は最高な1枚。ここで弟デヴッド・ノップラーがバンドを脱退。	Side A 1. トンネル・オブ・ラヴ 8:11 2. ロミオとジュリエット 6:01 3. メイキング・ムーヴィー 6:40 Side B 1. エクスプレッソ・ラヴ 5:12 2. ハンド・イン・ハンド 4:48 3. ソリッド・ロック 3:27 4. 男達は… ″Les Boys″ – 4:08	
	DIRE STRAITS	ブラザーズ・イン・アームス		1985年5月13日	ロック	レコード	US	1985年に発表した、5作目のアルバム。全米全英共にアルバム・チャート1位、全世界で3,000万枚を超えるセールスを記録。バンドは1988年9月に解散を発表しており、ラスト・アルバムとなっているが、この後、1991年に再結成しアルバムを出している。スティングをゲスト・ヴォーカルに迎えた大作「マネー・フォー・ナッシング」、マーク・ノップラーの軽快なヴォーカル＆ギターが冴える「ウォーク・オブ・ライフ」などヒット曲を数多く収録し、ダイアー・ストレイツ最大のヒット・アルバム。	**Side A** 1. 君にさよなら ″So Far Away″ – 5:12 2. マネー・フォー・ナッシング 8:26 3. ウォーク・オブ・ライフ 4:12 4. 愛のトリック ″Your Latest Trick″ – 6:33 5. ホワイ・ウォリィ 8:31	**Side B** 1. アクロス・ザ・リヴァー 6:58 2. ザ・マンズ・トゥー・ストロング 4:40 3. 真実の世界 ″One World″ – 3:41 4. ブラザーズ・イン・アームス 7:00

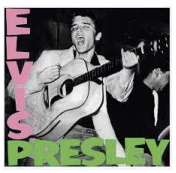
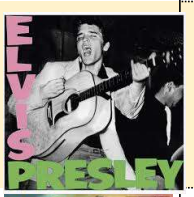
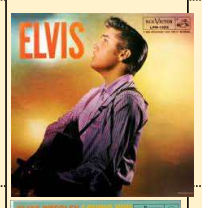
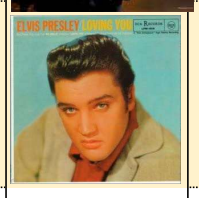
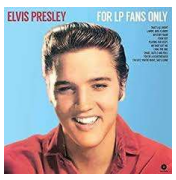
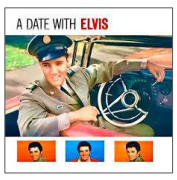
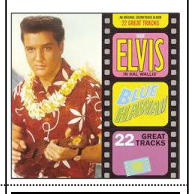
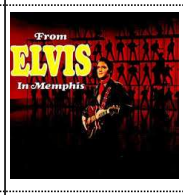
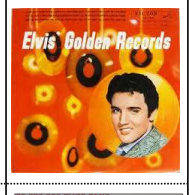
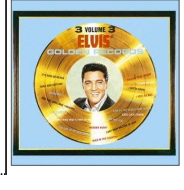
	DISCHRGE	ヒア・ナッシングシー・ナッシングセイ・ナッシング		1982	パンク	レコード	日本	ディスチャージの1stアルバム。ブリティッシュ・ハードコア・パンクを語るなら本作を避けては通れない必聴盤と言える超名盤。＜反戦＞＜反核＞＜反暴力＞＜反国家権力＞をテーマに短く切り詰められた歌詞を歌うのではなく、叫ぶ様なキャルのボーカルが、斬新で衝撃的、また激しいディストーションを多用したノイジーなギター、ベース、畳み掛ける様に突き進む2ビートの破壊的なサウンドはD－BEATと呼ばれ、シンプルな高速ビートながらも抜群の疾走感と攻撃性が強調される。ドラムス以外は不動のメンバー、本作は徹底的に重く、速く、激しくした極度にシンプルな構成の曲が、集中砲火の様に次々と繰り出され、爆風で怒涛で洪水である。全て低音域に固められたノイズが脅威と化し猛襲する暴力的なサウンドである。しかも、演奏時間は殆ど2分前後という短く凝縮された核弾頭の連射砲である。最小限のフレーズだけの歌詞を反復するかの如く、キャルのボーカルは、暴虐と殺戮、絶望的な光景の重圧に押し潰されそうな人間の悲痛な叫びである。	**Side A** 1. State Violence State Control2:43 2. Hear Nothing See Nothing Say Nothing 1:28 3. The Nightmare Continues 1:48 4. The Final Blood Bath 1:38 5. Protest And Survive 2:12 6. I Won't Subscribe 1:37 7. Drunk With Power 2:44 8. Meanwhile 1:26	**Side B** 1. Doom's Day 2:37 2. A Hell On Earth 3:53 3. Cries Of Help 1:04 4. The Possibility Of Life's Destructio 1:12 5. Q: And Children? A: And Children 1:45 6. The Blood Runs Red 1:34 7. Free Speech For The Dumb 2:14 8. The End 2:31
	DOKKEN	ブレーキング・ザ・チェインズ		1981年	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	ヴォーカリストであるドン・ドッケン率いるドッケンのデビュー・アルバム。当初1981年にヨーロッパでフランスのレーベルから先行リリースし、その後1983年に本国アメリカ仕様に再編集したアルバム。オリジナル・メンバーのフォアン・クルーシェ（ベース）が在籍（翌年ラットに加入）したアルバム。ポップな作風であるが翳りを持ったウェットなサウンドが持ち味で欧州をターゲットした作風でアップテンポなナンバーからメロウなナンバーまで、比較的にバラエティーに富んでいる。次作からバンドの目玉となるスピードメタルナンバーはここではまだ見られない。モトリークルーもそうだったが、ここではややマイナーバンド臭さが感じるサウンドではあるが、これがこのアルバムの捨てがたい味になっている。新しいメタルの時代を開いた衝撃のアルバム。	**Side A** 1. ブレーキング・ザ・チェインズ 2. イン・ザ・ミドル 3. フェロニィ 4. アイ・キャント・シー・ユー 5. リヴ・トゥ・ロック	**Side B** 1. ナイトライダー 2. セヴン・サンダーズ 3. ヤング・ガールズ 4. スティック・トゥ・ユア・ガンズ 5. パリス・イズ・バーニング（Live）
	DOKKEN	トゥース・アンド・ネイル		1984年9月	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	ドッケンが1984年に発表した2作目。本作よりジェフ・ピルソンが加入してラインナップが固定する。今作はチープ・トリック等の作品を手掛けたトム・ワーマン、更に、クイーンを多数手掛けたロイ・トーマス・ベイカーも共同プロデュース。80年代LAメタルの名盤。オールミュージックにおいて5点満点中4点を付け、ジョージ・リンチのギター・プレイを高く評価「野性的で創意に富み、稲妻の如き速さを誇る奏者で、アルバムを通じて聴くに値しないソロは一切ない」と評している。メタルらしい重厚感とカミソリのようなエッジの鋭さが同居したサウンドは壮観。タイトル曲の「Tooth And Nail」は、重厚で疾走感あふれるギターが最高。また、シングル・カットされた「Into the Fire」は、メロディアスで愁いを帯びたヴァースといい、ドラマティックなギター・ソロにコーラスが絡むサビが良く実に完成度の高いナンバー。秀逸は「Without Warning」で、美しいアルペジオの音色で幕を開け、幻想的で伸びやかなギター・ソロへと昇華するギター・インストが素晴らしい。	**Side A** 1. ウィズアウト・ウォーニング － 1:35 2. トゥース・アンド・ネイル － 3:39 3. ジャスト・ゴット・ラッキー － 4:34 4. ハートレス・ハート － 3:30 5. ドント・クローズ・ユア・アイズ － 4:10	**Side B** 1. ホエン・ヘヴン・カムズ・ダウン － 3:44 2. イントゥ・ザ・ファイア － 4:26 3. ブレッツ・トゥ・スペア － 3:36 4. アローン・アゲイン － 4:19 5. ターン・オン・ザ・アクション － 4:44
	DOKKEN	アンダー・ロック・アンド・キー		1985年	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	85年作、ドッケンのサード・アルバム。時代が完全に彼等に味方し始めたかの様に、勢いに乗ったナンバーが揃った大傑作です。ラットやモトリーといった花形達とは違い、テクニック、そしてメロディの差で彼等が支持を得ていたのは、LAメタルという一過性のブームの中では特殊なケースだった。オープニングの「UNCHAIN THE NIGHT」から一気にメロディの高波に襲われる様なインパクトは、今聴いても十分刺激的だと思われる。当時のポップ・メタル・バンドの多くがアンセム型のストロングなナンバーをアルバム1曲目に配していた事を考えると、本作の特殊性もわかろうと言うものです。ドン・ドッケンの欧州的なメロディ・センス、ジョージ・リンチの特徴的なギターという二大個性を軸に、これ程までに美しいHR/HMを力強く聴かせてくれたバンドがこの時点では他に皆無であった事を考慮すると、彼等は以降「メロディアス・ハード」という言葉でカテゴライズされていくバンドの初期モデルであったとするのが一番合っている。「IN MY DREAMS」や「WILL THE SUN RISE」の憎らしいほどのせつなさ、「LIGHTNIN' STRIKES AGAIN」や「IT'S NOT LOVE」のグクゾクする様な高揚感は、この時代にあっては確かに奇跡的な完成度。	**Side A** 1. アンチェイン・ザ・ナイト 2. ザ・ハンター 3. イン・マイ・ドリームス 4. スリッピン・アウェイ 5. ライトニング・ストライクス・アゲイン	**Side B** 1. イッツ・ノット・ラヴ 2. ジェイディッド・ハート 3. ドント・ライ・トゥ・ミー 4. ウィル・ザ・サン・ライズ 5. ティル・ザ・リヴィング・エンド
	DOKKEN	Unchained 1985		1985年	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	US	ドッケンが1985年12月にロングビーチ・アリーナにおいての名演をライヴ録音されたBootlegアルバム。かなりの高音質の録音なのでレア盤と言われており高額取引されている。	**Side A** 1. Unchain The Night 2. Tooth And Nail 3. When Heaven Comes Down 4. Bullets To Spare 5. Jaded Heart **Side B** 1. Will The Sun Rise 2. In My Dreams 3. Just Got Lucky 4. The Hunter	**Side C** 1. It's Not Love 2. Lightning Strikes Again 3. Alone Again **Side D** 1. Into The Fire 2. Til' The Living End 3. Breaking The Chains 4. George Lynch Solo 5. Paris Is Burning
	DONALD FAGEN	ナイトフライ		1982	AOR	レコード	日本	完璧主義を貫いてきたグループ、スティーリー・ダンの活動停止後、ドナルド・フェイゲンが発表した1stソロアルバムにして、1980年代を飾る名盤中の名盤！ ウエストコースト特有の乾いたロックンロール、ポップミュージックの心地よさをここまで追求した作品は希少、文句ナシの大傑作。AORを代表する超名曲「I.G.Y.」収録。	1. I.G.Y. 2. GREEN FLOWER STREET 3. RUBY BABY 4. MAXINE 5. NEW FRONTIER 6. THE NIGHTFLY 7. THE GOODBYE LOOK 8. WALK BETWEEN RAINDROPS	
	DONALD FAGEN	ナイトフライ		1982	AOR	CD	日本			
	DONOVAN	サンシャイン・スーパーマン		1966	フォークロック	CD	日本	1966年発表の3rdアルバム。「サンシャイン・スーパーマン」が、ビルボードの全米チャートで1位に輝いた。このアルバムを出すことによってイギリスだけでなくアメリカにも人気が広がる。またドノヴァンはビートルズの「リボルバー」セッションにもよく遊びにいってたらしく、このアルバムには、ビートルズの影響も強く受けており、サイケデリックが強くなった作品でもある。 スーパーマンやグリーンランタンなど、歌詞には架空のスーパーヒーローたちが登場するが、彼らへの敬意を払いつつも、大好きな女性への思いをつづるラヴ・ソングだ。ハープシコードを印象深く使い、エキゾチックでカラフルなそのサウンドは、文字通りのサイケデリック・サウンドで、ドノヴァンがフォーク・シンガーから抜け出し、ポップ・カルチャーそのものの真ん中に飛び込んだことを教えてくれるものでもあった。	1. サンシャイン・スーパーマン 2. 少女リンダの伝説 3. 3羽のかわせみ 4. 観覧車 5. バートのブルース 6. 魔女の季節 7. 夢の旅路 8. 王妃グィナヴィーア 9. 太った天使 10. シレスト	
	DOORS	ハートに火をつけて		1967	ロック	レコード	US	1967年1月発売のドアーズのデビュー・アルバム。後にロック文学ともいわれるよう革新的で難解な詩と、トリップしたような音楽の組み合わせが特徴。歌詞そのものは評論家の多くに「つかみどころがない」とされるも、音楽やルックスなどが、ベトナム戦時下当時のヒッピー層に熱狂的に受け入れられた。その結果、思わぬ事にバンドは反戦・反体制のシンボルとされ、政治的な発言を求められるようになり、ついにはアメリカ国内にて保守層の攻撃対象に至る発端となった。 やがてジム・モリソンの死を経て、90年代に彼らの映画が制作され、世界的にロックの歌詞が見直されるようになり、ドアーズは普遍的な評価を得るに至った。本作は彼らのデビュー作にして最高傑作であるといえるが、それは「バンドのデビューまでにジムが長年にわたり詩を書きためていたこと」「デビューまでにバンドが毎晩のように少ないギャラでバーのステージに出演し、演奏しながら曲を練り上げていった事」「政治やアル中などの影響が少ないこと」があげられる。 ジョン・デンスモアは後の著書で、このアルバムに関しては、レコーディングのトラック数が少なく、ドラムとベースとギターは同一トラックに一発録りしたと語っている。A面の1曲目「ブレイク・オン・スルー」は、バンドの方向性を示した曲であるとされ、A面のラストのハートに火をつけては、ドアーズ最大のヒット曲。また、ジ・エンドは問題作であり、ドアーズの代名詞とされ、ドアーズのアルバムの中でも最高傑作。	A面 1. ブレイク・オン・スルー – Break on Through (To the Other Side) 2. ソウル・キッチン – Soul Kitchen 3. 水晶の舟 – Crystal Ships 4. 20世紀の狐 – Twentieth Century Fox 5. アラバマ・ソング – Whisky bar(Alabama Song) 6. ハートに火をつけて – Light My Fire	B面 1. バック・ドア・マン – Back Door Man 2. 君を見つめて – I Looked at You 3. エンド・オブ・ザ・ナイト – End of the Night 4. チャンスはつかめ – Take it as it Comes 5. ジ・エンド – The End
	DOORS	（ペーパースリーブ仕様） ハートに火をつけて（デジタルリマスター）		1967	ロック	CD	日本			
	DOORS	まぼろしの世界		1967	ロック	レコード	日本	ドアーズの2枚目のアルバム。1967年10月発売。この年の1月に発売されたデビュー作の成功によって、バンドは自信を持ってレコーディングにのぞむことができ、より強く彼らの世界が表現されている。このアルバムに収められた曲は、華やかな曲は少ないものの、実験精神に富みながらも、アルバム全体の統一感が保たれている。ジャケットは、曲芸師の一団が街を練り歩くというもので、他のドアーズのアルバムがメンバーの写真なのに対して、異彩を放っている。ちなみに、ジャグリングしているのはカメラマンのアシスタント、トランペット奏者はタクシー運転手を5ドルで雇って出演させた。 エンジニアはブルース・ボトニック、プロデューサーはポール・A・ロスチャイルド。レーベルはエレクトラ。	A面 1. ストレンジ・デイズ Strange Days – 3:09 2. 迷子の少女 You're Lost,Little Girl – 3:03 3. ラヴ・ミー・トゥー・タイムス Love Me Two Times – 3:16 4. アンハッピー・ガール Unhappy Girl – 2:00 5. 放牧地帯 Horse Latitudes – 1:35 6. 月光のドライヴ Moonlight Drive – 3:04	B面 1. まぼろしの世界 People are Strange – 2:12 2. マイ・アイズ・ハヴ・シーン・ユー My Eyes Have Seen You – 2:29 3. おぼろな顔 I Can't See Your Face in My Mind – 3:26 4. 音楽が終わったら When the Music's Over – 10:59
	DOORS	（ペーパースリーブ仕様） まぼろしの世界（デジタルリマスター）		1967	ロック	CD	日本			
	DOORS	太陽を待ちながら		1968	ロック	レコード	US	1968年にリリースされたドアーズのサードアルバム。本作は彼らのアルバムで初の一位を獲得し、シングル・カットされた「ハロー・アイ・ラヴ・ユー」は二度目のナンバー・ワン・ヒットとなった。 「ハロー・アイ・ラヴ・ユー」はそのコード進行、メロディからキンクスの「オール・オブ・ザ・ナイト」の盗作と騒がれた。ジャケット内側に印刷された詩「セレブレーション・オブ・ザ・リザード」は「大地に触れずに」に一部使用されているが、完全版は後の『アブソルートリー・ライヴ』で日の目を見ることとなる。フラメンコ風の「スパニッシュ・キャラバン」にはスペインの作曲家、イサーク・アルベニスの作品「アストゥリアス」から一部が引用されている。 本作のタイトルとなった楽曲「太陽を待ちながら」は1970年の『モリソン・ホテル』に収録された。	Side 1 1. ハロー・アイ・ラヴ・ユー – Hello, I Love You 2:22 2. ラヴ・ストリート – Love Street 3:06 3. 大地に触れずに – Not to Touch the Earth 3:54 4. 夏は去りゆく – Summer's Almost Gone 3:20 5. ウインタータイム・ラヴ – Wintertime Love 1:52 6. 名もなき兵士 – The Unknown Soldier 3:10	Side 2 1. スパニッシュ・キャラバン – Spanish Caravan 2:58 2. マイ・ワイルド・ラヴ – My Wild Love 2:50 3. 一緒にいられたら – We Could Be So Good Together 2:20 4. 川は知っている – Yes, the River Knows 2:35 5. ファイヴ・トゥ・ワン – Five to One 4:22
	DOORS	（ペーパースリーブ仕様） 太陽を待ちながら（デジタルリマスター）		1968	ロック	CD	日本			
	DOORS	太陽を待ちながら		1968	ロック	CD	日本			
	DOORS	ソフト・パレード –		1969	ロック	CD	日本	1969年発表のドアーズ第4作目。ブラス・セクション、パーカッションを大胆に導入し、センセーションを巻き起こした注目作だが、全体的にポップな作風となったが以前の作品に比べて評価が低い作品となった。モリスンに代わり、作詞を主にロビー・クリーガーが担当した作品。全米No.1ヒット「タッチ・ミー」収録。全米6位。	1. テル・オール・ザ・ピープル – Tell All the People (Krieger) 3:21 2. タッチ・ミー – Touch Me (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 3:12 3. シャーマンズ・ブルース – Shaman's Blues (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:48 4. ドゥー・イット – Do It (Krieger, Morrison) 3:09 5. イージー・ライド – Easy Ride (Morrison) 2:43	6. ワイルド・チャイルド – Wild Child (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:36 7. ラニン・ブルー – Runnin' Blue (Krieger) 2:27 8. ウィッシュフル・シンフル – Wishful Sinful (Krieger) 2:58 9. ソフト・パレード – The Soft Parade (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 8:36

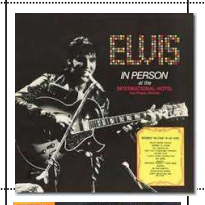
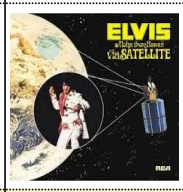
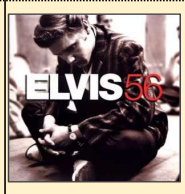
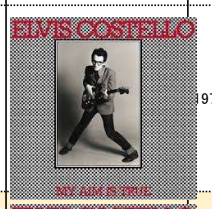
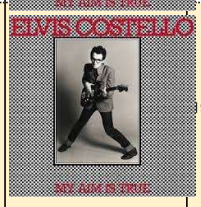
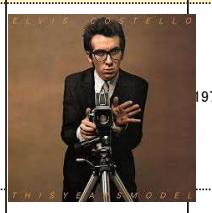
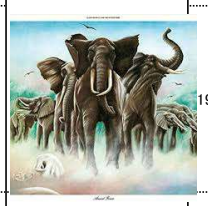
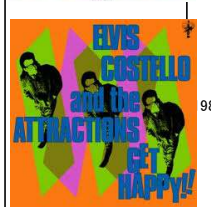
	DOORS	(ペーパースリーブ仕様) モリソン・ホテル		1970	ロック	CD	日本	1970年にリリースされたドアーズの5作目のアルバム。1969年3月のマイアミ事件以後、ステージから遠ざかっていた状況下で制作された本作は、衝動と反逆のスタイルを復活、前作よりもブルース色が濃く、自分たちの原点に立ち返った作品であると言える作品。インディアンの交通事故死を目撃したモリスンの幼児体験に触発された「ピース・フロッグ」他 アルバムのAB面はそれぞれ、HARDROCK CAFEサイド、MORRISON HOTELサイドと名付けられている。 ジャケット写真はロサンゼルスのダウンタウンに実在する同名のホテルを借りて撮影された。全米4位、全英12位。	**HARD ROCK CAFE** ロードハウス・ブルース – Roadhouse Blues (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:04 太陽を待ちながら – Waiting for the Sun (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 3:58 ユー・メイク・ミー・リアル – You Make Me Real (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:50 ピース・フロッグ – Peace Frog (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:52 ブルー・サンデイ – Blue Sunday (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:08 愚か者の船 – Ship of Fools (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 3:06	MORRISON HOTEL ランド・ホー – Land Ho! (Krieger, Morrison) 4:08 ザ・スパイ – The Spy (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:15 ハイウェイの女王 – Queen of the Highway (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 2:47 インディアン・サマー – Indian Summer (Krieger, Morrison) 2:33 マギー・マギル – Maggie McGill (Densmore, Krieger, Manzarek, Morrison) 4:24
	DOORS	L.A.ウーマン –		1971	ロック	レコード	US	1971年にリリースされたドアーズのアルバム。ジム・モリソンが参加した最後のアルバムとなった。ドアーズの作品の中でもブルース色の濃い作品の一方、「L.A.ウーマン」など、それまでのドアーズの作品には無い、スピード感溢れる軽快な曲も含まれている。一方、アルバムの最後を飾る「ライダーズ・オン・ザ・ストーム」は哀感に満ちた内容で、直後のジムの死を予感させる曲とも言われるが、レイ・マンザレクによれば「ヒッチハイクシリアルキラー」として知られるビリー・クック(英語版)をモデルにした曲であるという。また、歌詞中では哲学者マルティン・ハイデッガーの提唱した投企という概念に言及している。 アルバム制作に際しては、前作までのプロデューサー、ポール・A・ロスチャイルドと決別し、エンジニアのブルース・ボトニックとメンバーの共同プロデュースとなった。本作はベースにジェリー・シェフ、ギターにマーク・ベノをゲストに迎えている。 殆どの曲は、デビュー・アルバム同様に一発録りに近い形式で録音されており、またジムのボーカルは、浴室を使って収録されたと言う話もある。ジムは、本作の録音を終えるとパリに旅立ち、結局そこで死を迎える事となった。ジムは、バンドのボーカルとしての自分に嫌気が差していたと言われているが、メンバー曰く、本作の後もバンド名義によるアルバム制作に意欲を持っていたという。	A面 1. チェンジリング – The Changeling (The Doors) 4:21 2. ラブ・ハー・マッドリー – Love Her Madly (The Doors) 3:20 3. ビーン・ダウン・ソー・ロング – Been Down So Long (The Doors) 4:12 4. カーズ・ヒス・バイ・マイ・ウィンドウ – Cars Hiss by My Window (The Doors) 4:41 5. L.A.ウーマン – L.A. Woman (The Doors) 7:53	B面 1. ラメリカ – L'America (The Doors) 4:38 2. ヒヤシンスの家 – Hyacinth House (The Doors) 3:12 3. クローリング・キング・スネーク – Crawling King Snake (Hooker) 5:00 4. テキサス・ラジオ – The WASP (Texas Radio and the Big Beat) (The Doors) 4:15 5. ライダーズ・オン・ザ・ストーム – Riders on the Storm (The Doors) 7:15
	DOORS	L.A.ウーマン –		1971	ロック	CD	日本			
	DOORS	アザー・ヴォイセズ		1971	ロック	レコード	ドイツ	1971年にリリースされたドアーズのアルバム。ジム・モリソンの死後残りの三人によって製作された。レイ・マンザレクとロビー・クリーガーがモリソンの代わりのリード・ヴォーカルを務めた。ベーシストとしてジャック・コンラッドをゲストに迎えた。ジムモリソンに言及した「Tightrope Ride」を初め、ジムモリソンというカリスマ不在の中で作られたアルバムですが、バンド・サウンドを重視した作りは、THE BANDのようなアメリカン・サウンドに近いものを醸しだしており、ROBBY KRIGERのソロ・ギターが全開となる箇所があったりと音楽的には、果敢な成長を遂げた新生DOORSの姿がここにあります。当然ジムモリソン不在という事実を直視出来ないファンからは評価されなかった。ただし、ファンキーかつジャジーで知的かつ野蛮なDOORSサウンドの、最も進化した姿を垣間見た思いを新たにした力作。長らくCD化されず入手困難であった。	A面 1. イン・ジ・アイ・オブ・ザ・サン In the Eye of the Sun – 4:48 2. 激動の人生　Variety Is the Spice of Life – 2:50 3. 愛の船発ち　Ships w/ Sails – 7:38 4. タイトロープ・ライド　Tightrope Ride – 4:15	B面 1. ダウン・オン・ザ・ファーム　Down on the Farm – 4:15 2. アイム・ホーニー、アイム・スタンド　I'm Horny, I'm Stoned – 3:55 3. さすらうミュージシャン　Wandering Musician – 6:25 4. ハング・オン・トゥ・ユア・ライフ　Hang on to Your Life – 5:36
	DOORS	フル・サークル –		1972	ロック	レコード	日本	1972年にリリースされたドアーズのアルバム。ジム・モリソン死後に発表された二作目、および彼らのラスト・アルバム。シングル「蚊」がヒットしたが、アルバムは売れなかった。今までのサウンドから完全に離れジャズ系ミュージシャンをゲストに迎えて明るいナンバーを主流に新たな方向へと舵を切ったが結局はこれが最後になってしまった、前作同様メンバーがヴォーカルを取るが所詮ドアーズの看板をひっさげている以上ジムのイメージからは逃れられずドアーズの終焉を迎える事になる。内容は明るいジャズテイストのあるロックと言うよりポップナンバーで構成され新規一転を図ったサウンドで、ドアーズとは違うバンドと思えば内容的には流石にレイ・マンザレクの才能は凄くけっして内容が悪くはなかった。長らくCD化されず入手困難であった。	A面 1. Get Up and Dance (Krieger, Manzarek) – 2:25 2. 4 Billion Souls (Krieger) – 3:18 3. Verdilac (Krieger, Manzarek) – 5:40 4. Hardwood Floor (Krieger) – 3:38 5. Good Rockin (Brown) – 4:22	B面 1. The Mosquito (Densmore, Krieger, Manzarek) – 5:16 2. The Piano Bird (Conrad, Densmore) – 5:50 3. It Slipped My Mind (Krieger) – 3:11 4. The Peking King and the New York Queen (Manzarek) – 6:25
	DOORS	グレーテストヒッツ		1980	ロック	レコード	US	ジム・モリソン率いるドアーズのベストアルバム。名曲「ハートに火をつけて」やドアーズを代表するヒット曲「ハロー・アイ・ラヴ・ユー」「タッチ・ミー」を収録。	A面 1. ello, I Love You 2:16 2. Light My Fire 7:05 3. People Are Strange 2:10 4. Love Me Two Times 3:14 5. Riders On The Storm 7:11	B面 1. Break On Through 2:26 2. Roadhouse Blues 4:04 3. Not To Touch The Earth 3:55 4. Touch Me 3:11 5. L.A. Woman 7:49
	DOWNLINERS SECT	(ペーパースリーブ仕様) ザ・ロック・セクツ・イン		1966	ロック	CD	日本	1966年リリース。元祖ガレージ、元祖パンクと言われるワイルド・サウンド。"ブリティーシングス"と共にイギリスを代表するR&B BEAT PUNKグループ"ダウンライナーズセクト"の66年作のサードアルバム。UK的な"ガレージパンクサウンド"の元祖とも称される荒々しくWildなBeatサウンドが楽しめる。ファースト共に英60年代R&Bバンドの最高傑作と言われるアルバム。アルバム未収録のシングルを4曲収録。	A1Hang On Sloopy A2Fortune Teller A3Hey Hey Hey Hey A4Everything I've Got To Give A5OutSide A6I'm Hooked On You A7Comin' Home Baby	B1Why Don't You Smile Now B2Don't Lie To Me B3May The Bird Of Paradise Fly Up Your Nose B4He Was A Square B5I'm Looking For A Woman B6The Rock Sect's In Again B7Brand New Cadillac
	DR FEELGOOD	ダウン・バイ・ザ・ジェティー		1975	ロック	CD	UK	75年発表のデビュー・アルバム。パブ・ロックの雄、ドクター・フィールグッド。こちらは1975年に英国ロック界の隠れた名プロデューサー、ヴィック・メイルがプロデュースを担当した彼らのデビュー・アルバムで名作の誉れ高い一枚。ブルースやR&Bを下敷きにしながらも、ウィルコ・ジョンソンのカッコいいことこの上ないg.と味わい深いリー・ブリローのvo.が組み合わさって彼らにしか出せない、ストイックで緊張感溢れる演奏を聴かせる。 歯切れいいウィルコ・ジョンソンのギター、リー・ブリローの渋いヴォーカルなど既に完成したスタイルを築いているのはさすが。1曲目の「She Dose It Right」はウィルコのライヴでも演奏される人気曲の一つ。	1. シー・ダズ・イット・ライト 2. ブーン・ブーン 3. ザ・モアー・アイ・ギヴ 4. ログゼット 5. ワン・ウィークエンド 6. ザット・エイント・ザ・ウェイ・トゥ・ビヘイヴ 7. アイ・ドント・マインド	8. トウェンティー・ヤーズ・ビハインド 9. キープ・イット・アウト・オブ・サイト 10. オール・スルー・ザ・シティー 11. チェック・ブック 12. オーイェ! 13. テキーラ 14・ユーザーレビュー
	DR FEELGOOD	プリモ		1991	ロック	CD	日本	1991年リリースの17作目。ギターは5代目となるスティーヴ・ウォルソン。ニック・ロウの1. やミッキー・ジャップの8. などパブ・ロックのファンなら避けて通れない曲と同時にドアーズの9. という一見ミス・マッチな曲をカヴァーしている作品であり、ジャケットも彼らにしては明くるてポップな印象があるためそれなりに目立つ作品と言えるだろう。サウンド的には大差がない(w)と書いてしまうと実も蓋もないが、初期と比べると若干こじんまりとした分ライトにポップになった印象がある。ブラスが導入された3. にしても重さよりも聞きやすさに重点を置いた感じがするが、それも微調整程度か？オケは湿った音で初期とは違った雰囲気はあるものの、スカッとしたドラムのサウンドは本当に気持ちが良い。おまけにリー・ブリローのハープとヴォーカルは絶好調なので、代表作とは言わないものの必聴盤とは言いたい作品。何にしても1. はやっぱり定期的に聞きたくなる必殺の一曲。	1Heart Of The City 2My Sugar Turns To Alcohol 3Going Down 4No Time 5World In A Jug 6If My Baby Quit Me	7Primo Blues 8Standing At The Crossroads Again 9Been Down So Long 10Don't Worry Baby 11Down By The Jetty Blues 12Two Times Nine
	DRONES				パンク	レコード				
	DURAN DURAN	デュラン・デュラン		1981	ニューウェイブ	レコード	日本			
	DURAN DURAN	デュラン・デュラン		1981	ニューウェイブ	レコード	日本			
	DURAN DURAN	リオ		1982	ニューウェイブ	レコード	日本			
	DURAN DURAN	セブン・アンド・ザ・ラグド・タイガー		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	1983年発売　全英1位、米8位　デュラン・デュランのサードトアルバム。		
	DURAN DURAN	セブン・アンド・ザ・ラグド・タイガー		1983	ニューウェイブ	レコード	US	1983年発売　全英1位、米9位　デュラン・デュランのサードトアルバム		
	DURAN DURAN	ノトーリアス		1986年	ニューウェイブ	レコード	日本	デュラン・デュランの4枚目で1986年リリースのアルバム。プロデューサーにナイルロジャースを迎え、アンディー・テイラーの脱退で三人なった注目された作品。彼らが予想以上に、ブラックミュージックに傾倒してことがわかる楽曲が満載。「スキン・トレイド」や「アメリカン・サイエンス」など、ただのアイドル・バンドには出来ないであろう高度でテクニック的にもレベルの高い名曲が揃っている。ただし、当時の若いリスナーには求めているものがかけ離れていた為、またあまりにもアダルトな方向へと軌道修正した為、受け入れられなかったと言える。彼らのキャリアのなかでも、最高傑作！と断言しても過言ではない程の、出来栄えをもってミュージック・シーンの最前線へと舞い戻ってきてくれたという、驚嘆の事実があるファルセットがセクシーなヴォーカルと、アレンジ&コンポーズのテクニックを披露した「ノトーリアス」「ホールド・ミー」他、全10曲を収録。英16位・米12位	**Side A** 1. ノトーリアス 2. アメリカン・サイエンス 3. スキン・トレイド 4. ア・マター・オブ・フィーリング 5. ホールド・ミー	**Side B** 1. めまい(Vertigo) 2. ソー・ミスレッド 3. ミート・エル・プレシデンテ 4. ウインター・マーチズ・オン 15. プロポジション

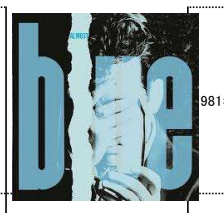
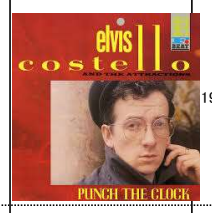
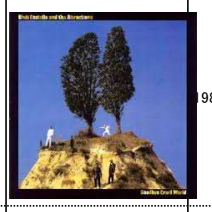
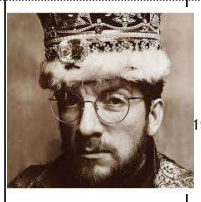
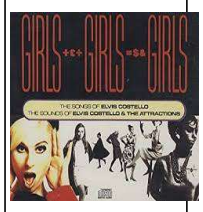
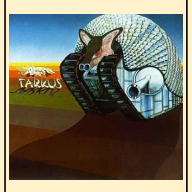
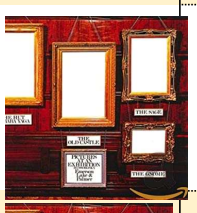
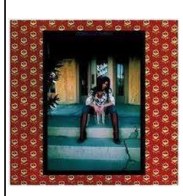
	DURAN DURAN	カーニバル		1982	ニューウェイブ	レコード	日本			
	DURAN DURAN	アリーナ		1984	ニューウェイブ	レコード	日本			
	DUSTY SPRINGFIELD	ダスティと呼ばれる少女		1964	ポップス	レコード	UK	ダスティ・スプリングフィールドのデビュー・アルバム『A Girl Called Dusty』。ソロ・デビュー曲「I Only Want To Be With You（邦題: 二人だけのデート）」が大ヒットとなり、続く「Stay Awhile」もヒットし、1964年の春に出したファースト・アルバム。いきなり全英6位となった記念碑的な作品。今や伝説的な歌手となっているダスティは『A Girl Called Dusty』で全英アルバム・チャートに初めて登場することになった。 最近は、ファースト・アルバムには最新のヒット曲をふたつ入れることが最優先となっているようだ。 1960年代の音楽業界では、既にヒットしていたシングル2曲はアルバムのタイミングでは鮮度を失った古新聞のようにみなされていた。このアルバムで、ダスティはシングルを収録する代わりに新曲を12曲吹き込んでいる。ここでのプロデューサーは、いつも組んでいたジョニー・フランツが務めた。	**Side A** 1. Mama Said 2. ou Don't Own Me 3. Do Rei Mi 4. When The Lovelight Starts Shining Thru His Eyes 5. My Colouring Book 6. Mockingbird	**Side B** 1. Twenty-Four Hour From Tulsa 2. Nothing 3. Anyone Who Had A Heart 4. Will You Love Me Tomorrow 5. Wishin' And Hopin' 6. Don't You Know
	DUSTY SPRINGFIELD	ダスティ・イン・メンフィス		1969	ポップス	レコード	US?	69年作が180グラム重量盤アナログ・リイシュー。メンフィスのAMERICAN SOUND STUDIOで録音が行われた5枚目は、ATLANTICがDUSTYのアイドルでもあるARETHA FRANKLINの白人版を狙った一枚として知られる作品。 プロデューサーにはJERRY WEXLER、ARIF MARDINにTOM DOWD、レコーディング・チームにはベーシストTOMMY COGBILLとギタリストREGGIE YOUNG率いるインスト・バンドMEMPHIS CATSにバッキング・ヴォーカルのTHE SWEET INSPIRATIONSなどが集い、ソングライターにはGERRY GOFFIN & CAROLE KING、BARRY MANN & CYNTHIA WEIL、MICHEL LEGRAND、RANDY NEWMANにBURT BACHARACH & HAL DAVIDとまさに一流の布陣。 憧れのソウル・ミュージック・ルーツとそれまでも挑戦してきたR&BにDUSTYならではのソフトな一面が混ざり合った一級のポップ・ミュージックに仕上がっています。英国アーティストのメンフィス詣でに先鞭をつけた名作です。	Side A 1. Just A Little Lovin' 2. So Much Love 3. Son Of A Preacher Man 4. I Don't Want To Hear It Anymore 5. Don't Forget About Me 6. Breakfast In Bed	Side B 1. Just One Smile 2. The Windmills Of Your Mind 3. In The Land Of Make Believe 4. No Easy Way Down 5. I Can't Make It Alone
	EAGLES	イーグルス・ファースト		1972年6月1日	アメリカンロック	レコード	日本	リンダ・ロンシュタットのバックバンドの編成のために、名うてのミュージシャンが集められた後、このバックバンドが独立しデビュー。このファーストでは「フォーク＆カントリー・ロック」のテイスト満載、西海岸ロックの代表的バンドの当初の姿をしっかりと留めている。米国ルーツ・ロックの好盤でイーグルスの最高傑作と言える。1曲目の「Take It Easy」は、ジャクソン・ブラウンとグレン・フライの共作。バーニー・レドンの奏でるバンジョーとスティール・ギターが絶妙なカントリー・テイストを醸し出し、この楽曲をカントリー・ロックの名曲たらしめている。2曲目の「Witchy Woman」から、ハードロックなテイストが入り込んでくる。3曲目の「Chug All Night」などは、ライトなハードロックという印象。イーグルスというバンド、活動初期から中盤までのヒット曲は「フォーク＆カントリー・ロック」のテイストを前面に押し出しているが、実は結構「ハードロック」な要素を好みとしている。	**Side A** 1. テイク・イット・イージー 2. 魔女のささやき 3. チャグ・オール・ナイト 4. 哀しみの我等 5. ナイチンゲールの歌	**Side B** 1. 今朝発つ列車 2. テイク・ザ・デヴィル 3. 早起き鳥 4. ピースフル・イージー・フィーリング 5. トライイン
	EAGLES	呪われた夜		1975年6月10日	アメリカンロック	レコード	日本	イーグルスが1975年6月に発表した4枚目のアルバム。元々カントリーロック調のイメージが強かったイーグルスは前作『オン・ザ・ボーダー』でよりロックへの志向をあらわしていたが、このアルバムではよりハードさ、ファンキーさが顕著になっている。これは、前作から加入したギタリストのドン・フェルダーと、プロデューサーのビル・シムジクに拠るところが大きい。また、前3作までは、アルバムの曲作りにJ.D.サウザーやジャクソン・ブラウンなどが参加していたが、全てヘンリー／フライのコンビを中心としたバンドのメンバーだけで曲作りを行った。アルバムは全米1位を記録し、「呪われた夜」（全米第1位）「いつわりの瞳」（同第2位）「テイク・イット・トゥ・ザ・リミット」（同8位）の3枚のビッグヒットを生み出した。一方、ギターのバーニー・レドンは、あまりに産業ロックにシフトしすぎていることや、ヘンリーとフライが独裁化したことへの不満で脱退する。	**Side A** 1. 呪われた夜 2. トゥー・メニイ・ハンズ 3. ハリウッド・ワルツ 4. 魔術師の旅	**Side B** 1. いつわりの瞳 2. テイク・イット・トゥ・ザ・リミット 3. ヴィジョンズ 4. アフター・ザ・スリル・イズ・ゴーン 5. 安らぎによせて
	EAGLES	ホテルカリフォルニア		1976	アメリカンロック	レコード	日本	美しいメロディーとハーモニーを展開するフォーク・ミュージックとロック・サウンドを見事融合した、5作目のオリジナル・アルバム(1976年発表)であり、全米アルバム・チャートNo.1に輝いたスーパー・アルバム。70年代を代表する不滅の最高傑作アルバム。本作よりバーニー・リードンに代わりジョー・ウォルシュが参加。よりパワフルかつ切れ味のよいサウンドがここに完成。	1.ホテル・カリフォルニア 2.ニュー・キッド・イン・タウン 3.駆け足の人生 4.時は流れて 5.時は流れて（リプライズ） 6.暗黙の日々 7.お前を夢みて 8.素晴らしい愛をもう一度 9.ラスト・リゾート	
	EAGLES	ザ・ロングラン		1979年	アメリカンロック	レコード	日本	イーグルスの1979年リリースした第6作目。本作より、ベーシストとしてティモシー・B・シュミットが参加。ダークな官能美に包まれた70年代最後のアメリカン・ドリームを体現する実質上のラスト・アルバム。 "Hotel California" がどんなに名盤だとしても、"Long Run" は、バンドとしての最高傑作と呼ぶに相応しい出来だと思う。2. I Can't Tell You Why がロック史上に残してもいい名バラードだと思っていて、ラストの 10.The Sad Cafe とともに本作の価値を大いに高めている。 今思えば、解散を予感させるかのような「もののあわれ」が全体に漂っているが、アルバムのまとまり、バランスも"Hotel California"をトータルで上回っている。EAGLESの有終の美を飾るに相応しい作品だ。 （全米アルバム・チャート：9週連続第1位）	**Side A** 1. ロング・ラン 2. 言いだせなくて 3. イン・ザ・シティ 4. ディスコ・ストラングラー 5. ハリウッドよ永遠に	**Side B** 1. ハートエイク・トゥナイト 2. ゾーズ・シューズ 3. ティーンエイジ・ジェイル 4. グリークスはフリークスお断り 5. サッド・カフェ
	EARTH WIND AND FIRE	天空の女神		1981	ソウル	レコード	日本	1981年作品。「セプテンバー」と並ぶEW＆Fのディスコ曲として名高い「レッツ・グルーヴ」(R＆B1位/ポップ3位)で勢いよく幕を開けるヒット作。タイトで整ったシンセとブラスの音色がブラック・コンテンポラリー感を高めるアルバムで、『地球最後の日』録音時のギタリストだったローランド・バウティスタがメンバーに復帰してルーツ回帰的な面を見せつつ、それをエレクトロニックなサウンドで再構築したようなアプローチが新鮮だ。特に「レッツ・グルーヴ」を書いたM・ホワイトとウェイン・ヴォーンのコンビによる曲が秀逸で、「マイ・ラヴ」「愛・ウォナ・ビー・ウィズ・ユー」はシカゴ・ソウル的なアーバン作法が粋な極上ミッド。グレッグ・フィリンゲインズが携わったアップ「果てしなき挑戦」は、マイケル・ジャクソンへの意識も窺える。	01レッツ・グルーヴ 02レディ・サン 03マイ・ラヴ 04エヴォリューション・オレンジ 05カリンバ・トゥリー 06偉大なる覇者 07果てしなき挑戦 08アイ・ウォナ・ビー・ウィズ・ユー 09ザ・チェンジング・タイムズ	
	EARTH WIND AND FIRE	ベスト・オブ・アース・ウィンド＆ファイアー		1978	ソウル	CD	日本	EW&F全盛期に発表された、栄光のベストアルバム。オリジナル・アルバム未収録の曲が収録されており、1曲目「ガット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ」)、当時新曲の4曲目の「ラブ・ミュージック」や、7曲目の「セプテンバー」を収録。その他7曲は全てヒットした代表曲ばかりという、素晴らしい内容です。2曲目は、洗練されまくりのビートルズ・カバーや、大ヒット曲の2曲目の「宇宙のファンタジー」と、7曲目の「セプテンバー」の2曲は音楽史に残る説明不要の名曲です。	1. ガット・トゥ・ゲット・ユー・イントゥ・マイ・ライフ 2. 宇宙のファンタジー 3. キャント・ハイド・ラヴ 4. ラヴ・ミュージック 5. ゲッタウェイ 6. 暗黒への挑戦 7. セプテンバー 8. シャイニング・スター 9. リーズンズ 10. シング・ア・ソング	
	EATER	夜をぶっ飛ばせ		1977	パンク	レコード	UK	「パンクでぶっ飛ばせ!」～衝撃の初期PUNKバンド、イーター。ロンドンパンク第一世代である彼等は、1976年のバンド結成時のメンバーは13～17歳!ザ・ダムドもシャム69もイーターのサポートアクトであった、そんな時代。セックス・ピストルズのエンジニアだったデイヴ・グッドマンのプロデュースで1977年の3月にはファーストシングル「Outside View」をリリース。全盛期のUKパンクムーブメントの中心にいた彼等も、わずか3年程の活動で解散(後に再結成し現在もライヴ活動中)となってしまい、残された作品はこのアルバム1枚のみ。1977年には『パンクでぶっ飛ばせ』という強烈な邦題でポリドールから国内盤LPも発売され話題に。ほとんどが2分程の疾走感あふれるパンクナンバー。 速いパッセージでランニングするベースに、もう待ちきれない!とエレキギターのカッティングがかぶさってくる1曲目「You」のイントロから、初期衝動のまま駆け抜ける、嘘偽りなしの演奏が痛快だ。ヴェルヴェットアンダーグラウンドの「Sweet Jane」からアリス・クーパーの「Fifteen」と原曲よりテンポアップされた性急なカバーも、これぞパンク感覚。	Side A 1. YOU 2. PUBLIC TOYS 3. ROOM FOR ONE 4. LOCK IT UP 5. SWEET JANE 6. FIFTEEN 7. I DON'T NEED IT 8. ANNE 9. GET RAPED	
	EATER	夜をぶっ飛ばせ		1977	パンク	レコード	UK		以下、CDボーナストラック 17. OUTSide VIEW 18. THINKIN' OF THE U.S.A. 19. MICHAEL'S MONETARY SYSTEM 20. SHE'S WEARING GREEN 21. NOTEBOOK 22. JEEPSTER 23. DEBUTANTES BALL 24. HOLLAND 25. WHAT SHE WANTS SHE NEEDS 26. REACH FOR THE SKY 27. POINT OF VIEW 28. TYPEWRITER BABIES	
	ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	レコード	日本	ポスト・パンク激動期、UKニュー・ウェイヴ・シーンにおいて異彩を放ち、ネオ・サイケデリアの旗手として決定付けたエコー＆ザ・バニーメン、デビュー・アルバム。 ドアーズやヴェルヴェット・アンダーグラウンドの濃厚な影響下にありながらマージービート以来の伝統を感じさせる確かなソングライティングの才気と英国的な翳りを帯びた演奏と歌唱。偉大なネオ・サイケデリアの出発点。 ウィル・サージェントのギタープレイとイアン・マックロウのヴォーカルはこの時点で既に完成されている。 （1980年作品）全英17位	A面 1. GOING UP / ゴーイング・アップ 2. STARS ARE STARS / スターズ・アー・スターズ 3. PRIDE / プライド 4. MONKEYS / モンキーズ 5. CROCODILES / クロコダイルズ	B面 1. RESCUE / レスキュー 2. VILLIERS TERRACE / ヴィリアーズ・テラス 3. PICTURES ON MY WALL / ピクチャーズ・オン・マイ・ウォール 4. ALL THAT JAZZ / オール・ザット・ジャズ 5. HAPPY DEATH MEN / ハッピー・デス・メン
	ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	レコード	US	イアン・マッカロクとウィル・サージャントの出会いにより78年リヴァプールにて結成されたエコー＆ザ・バニーメン。バンド名の「エコー」は、当時使用していたドラム・マシーン（ECHO）の名前から。1979年、彼らはZoo Recordsからバンド初のリリースとなる7インチ・アナログ・シングル『PICTURES OF MY WALL』（B面は「Read It In The Books」）を発表。そのデビュー・シングル曲は、1980年にリリースしたデビュー・アルバム『CROCODILES』にも収録された。ポスト・パンクの波が渦巻く中、NME誌から“ブリティッシュ・バンドによるアルバムの中で今年最高の作品”と絶賛されたこともあり、彼らはこのアルバムをもって“今いる最高のバンドの一つ”としての評判を確固たるものにした。最終的にはアルバムは全英チャートのTOP20にエントリーを果たし、多くの批評家たちから“最高のデビュー・アルバム”の一つとして挙げられることとなった。		
	ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	レコード	UK			
	ECHO AND THE BUNNYMEN	クロコダイル		1980	ニューウェイブ	CD	US			

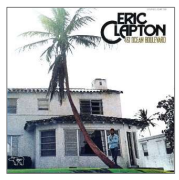
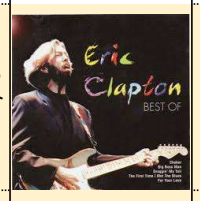
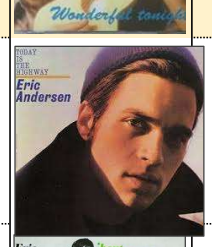
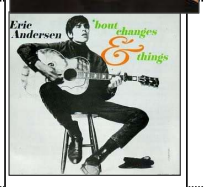
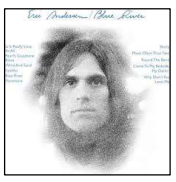
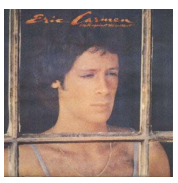
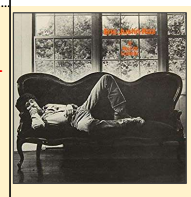
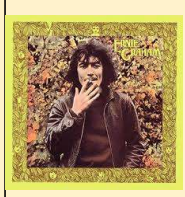
	ECHO AND THE BUNNYMEN	ヘヴン・アップ・ヒア		1981	ニューウェイブ	レコード	US	1981年にリリースされたセカンド・アルバム。これら全てが美しく幻想的で掴みどころのない冷たいサイケデリック世界が広がってゆく。冒頭3曲の音楽的レベルの高さがアルバム全体の完成度を決定付けたと言って良いだろう。気高いヴォーカル、シンプルなリズム・セクション、陰影に富んだメロディの絶妙な融合によりネオ・サイケデリアの境地に達したクールで繊細な問題作。(1981年作品)全英10位、全米184位	Side A 1. SHOW OF STRENGTH / ショウ・オブ・ストレングス 2. WITH A HIP / ウィズ・ア・ヒップ 3. OVER THE WALL / オーヴァー・ザ・ウォール 4. IT WAS A PLEASURE / イット・ワズ・ア・プレジャー 5. A PROMISE / プロミス	Side B 1. HEAVEN UP HERE / ヘヴン・アップ・ヒア 2. THE DISEASE / ザ・ディジーズ 3. ALL MY COLOURS / オール・マイ・カラーズ 4. NO DARK THINGS / ノー・ダーク・シングス 5. TURQUOISE DAYS / タークォイズ・デイズ 6. ALL I WANT / オール・アイ・ウォント
	ECHO AND THE BUNNYMEN	ヘヴン・アップ・ヒア		1981	ニューウェイブ	CD	日本			
	ECHO AND THE BUNNYMEN	オーシャン・レイン		1984	ニューウェイブ	レコード	日本	ストリングスをフィーチャーし、ヨーロッパ的な耽美感を漂わせたアコースティック色濃い4作目。氷のように冷たくて鋭くて透明度が高く、中世のヨーロッパ的な暗く静かで美しい世界がこれでもかと展開されていく。「キリング・ムーン」「シルヴァー」収録。(1984年作品)全英4位、全米87位	Side A 1. SILVER / シルヴァー 2. NOCTURNAL ME / ノックターナル・ミー 3. CRYSTAL DAYS / クリスタル・デイ 4. THE YO-YO MAN / ヨーヨー・マン 5. THORN OF CROWNS / ソーン・オブ・クラウン	Side B 1. THE KILLING MOON / キリング・ムーン 2. SEVEN SEAS / セヴン・シーズ 3. MY KINGDOM / マイ・キングダム 4. OCEAN RAIN / オーシャン・レイン
	EDDIE AND THE HOT RODOS	十代の暴走		1976	パンク	レコード	UK	76年に発表されたファースト・アルバム。パンクとパブ・ロックの中間的なイメージの付きまとうグループの代表格といったところだろうか？最初期にはルー・ルイスも在籍していたが、本作発表時はバリー・マスターズ(vo)、デイヴ・ヒグス(g)、ポール・グレイ(b)、スティーヴ・ニコル(dr) の4人組となっている。楽曲はメンバーの手によるオリジナル曲が中心で、ギタリストのヒグスのものの比重が高い。パブ・ロックからパンク・ムーヴメント勃発への橋渡し的な役割を果たしたロンドンのロックンロール・バンド、ホット・ロッズのファースト。改めて聴き直すと、76年の本作はまさに"橋渡し的役割"と言うにふさわしいサウンドで、シンプルでスピード感あふれる痛快なロックンロールは、四半世紀を過ぎた今でも驚くほど新鮮だ。1. はホップ目なパンクっぽい仕上がりで、パブ・ロックにありがちなおっさん臭さは薄い。決してフレッシュとは言わないが元気一杯の演奏は聞いていて清々しい。2. はポップなリフを中心に展開していくパワー・ポップで、高域を中心に躍りまくるメロディアスなベースもかなり印象的。3. も高域を中心に歌いまくるベースが印象的なロックンロールで、この種のグループにありがちな曲ながら、そのベースのプレイによってかなりポップに響く。基本はオールド・スタイルのロックンロールだと思う。4. はブキー・スタイルの曲だが、ブルース臭さは皆無のパブ／パンク・スタイルの曲になっている。確かにパンクとしても十分に聞けるトンガった雰囲気はあるものの、演奏面においてはパンクにありがちな単調さや平坦をほとんど感じないレベルであり、むしろ若々しいながら職人技のようなプレイを聞かせている。要するに彼らの持つパンクとパブ・ロックの中間というイメージ通りの内容だと思う。特に聞き物なのはベースで、ジョー・ジャクソンのバックに参加していたグラハム・メイビーに似た派手目の演奏は印象的である。	
	EDDIE AND THE HOT RODOS	十代の暴走		1976	パンク	CD	日本			
	EDDIE AND THE HOT RODOS	イチかバチか		1977	パンク	レコード	US	77年発表の2nd。彼らの代表作で10. が全英44位、1. が全英9位、2. が全英38位、アルバムも全英27位のヒットを記録している。この成績は前作発表後に元カーサル・フライヤーズのグレム・ダグラス(g) が参加(契約の問題でクレジットなし)して曲作りにも全面的に関わっていることが功を成したようだ。 1. はパブ風味のパワー・ポップで後のレコーズあたりにも通じるポップ・センスを感じさせる仕上がりで、このメロディ・ラインならベイ・シティ・ローラーズあたりにもタメを張れるほど。ハンド・クラップの導入も効果的である。2. もパワー・ポップで、高速かつシャープな演奏の中で甘いメロディが弾けている。バック・コーラスの入り方も最高である。3. はステイタス・クォーあたりにも通じるブギー・スタイルの曲。弾力性のある演奏は彼らの演奏面での実力の高さを示している。タテノリー辺倒ではないところが本作の魅力の一つになっている。4. はギンギンのギターも凄いが、バリバリと鳴り響くベースが強力。とにかくトーンそのものが生々しくてベース好きにはたまらないと思う。 シャープな職人技的な演奏はそのままにパブ・ロック／パンク系のサウンドから一気にパワー・ポップに脱皮した作品で曲は良い意味で売れ線のポップなものが多い。パワー・ポップ／パブ・ロック系のファンなら絶対に外せない一枚だと思う。このグループはベースが特に良いのでそこも聴きどころの一	Side A 1. 燃える叫び 2. クィット・ディス・タウン 3. テレフォン・ガール 4. ホワッツ・リアリー・ゴーイング・オン 5. イグノアー・ゼム(スティル・ライフ)	Side B 1. ライフ・オン・ザ・ライン 2. (アンド)ドント・ビリーヴ・ユア・アイズ 3. ウィ・シング…ザ・クロス 4. ビギニング・オブ・ジ・エンド
	EDDIE MONEY	噂のエディー・マネー		1977	ロック	レコード	日本	1977年発売のデビュー・アルバム。最高位37位。ダブルプラチナ。あの伝説のプロモーターBILL GRAHAMに見初められ、80年代のアメリカン・ロック・シーンに名を残すロッカーとして成功したEDDIE MONEY。DOORSなどの仕事で知られるBRUCE BOTNICKがプロデュースを担当し、ヒット曲"TWO TICKETS TO PARADISE"、"BABY HOLD ON"等を収録。ここ日本での知名度はいま一つなEDDIE MONEYだが、その歌唱力とサウンドの確かさから根強いファンが存在している。AOR/メロハー好きから骨太なロック/ブルーアイドなどの音楽が楽しめる。 このアルバムからカットしたデビューシングル「ベイビー・ホールド・オン～Baby Hold On」が78年春に最高位11位の大ヒット、また第2弾シングルの「天国行き超特急」Two Tickets To Paradise」が最高位22位のヒットとなった。	1. Two Tickets to Paradise 2. You've Really Got a Hold On Me 3. Wanna Be a Rock 'n' Roll Star 4. Save A Little Room In Your Heart 5. So Good To Be In Love Again 6. Baby Hold On 7. Don't Worry 8. Jealousys 9. Got To Get Another Girl 10. Gamblin Man	
	EIGHTE WONDER	ステイ・ウィズ・ミー		1985	ロック	レコード	日本			
	Einstürzende Neubauten	半分人間		1985	オルタナティブ	レコード	UK			
	ELECTRIC BANANA	ブロー・ユア・マインド			ロック	CD	日本	プリティシングスの変名バンド。彼らが'67～'68年にかけて、エレクトリック・バナナはプリティ・シングスが様々なトラブルにより徐々にシングルやアルバムが売れなくなっていったためバンドの活動資金を稼ぐため、映画音楽を担当する際、エレクトリックバナナという変名で製作されており、そのバンドでリースした数枚のアルバムから寄せ集められたのがこの作品。フィル・メイによるとボルノ小説を書くようなものらしいが、そこに残されたサウンドはヤッツケ仕事ではなく素晴らしい作品があります。1967年にこの編集盤がそのままプリティ・シングス名義のアルバムとして出しても何の違和感も無い。むしろこれが素晴らしく、曲としては「SFソロウ」以上といってもいいくらい、ヘビーサイケありサイケポップありの充実したアルバムとなっています。あのトゥインクが参加した曲も多数含まれています。時期的に「エモーションズ」「SFソロウ」と重なってますので、絶頂期の作品として無視できない作品です。	[1] Alexander [2] It'll Never Be Me [3] I Love You [4] Gray Skies [5] What's Good For The Goose [6] If I Needed Somebody [7] Street Girl	[8] Blow Your Mind [9] Eagle's Son [10] I See You [11] Love, Dance And Sing [12] Danger Signs [13] Walking Down The Street [14] A Thousand Ages From The Sun [15] Rave Up
	Electric Chairs (WAYNE COUNTY)	ザ・エレクトリック・チェアーズ		1978	パンク	レコード	UK	"ロックン・ロール・グレオパトラ"を自称するニューヨークの怪人、ウェインのグリッターでグラマラスな世界。ウェイン・カウンティ&ザ・エレクトリック・チェアーズは、1970年代のニューヨーク・シーンのパンク・バンドのオリジナル・ファースト・ウェーブの一部だった。バンドはジョージア州生まれのトランスセクシュアルが率いており、MC5の出身地であるミシガン州にちなんでウェイン郡と名乗ったが、後にジェーン郡に改名した。 ウェイン郡はもともとニューヨークで演奏を始めており、「バックストリート・ボーイズ」というバンドと共に、先駆的なパンク・クラブ、マックスのカンザスシティのマネージャーによって管理されていた。ニューヨークのシーンでカウンティとザ・ディセーターズの間でよく知られた、長く続いている確執が起こり、彼女はヘックリングされた後、マイクスタンドで物理的に報復した。ほとんど成功しなかった後、彼女はロンドンに移り、ギタリストのグレッグ・ヴァン・クック、ベーシストのヴァル・ハラー、ドラムのJJジョンソンを含む「エレクトリック・チェアズ」を結成。彼女の演技は、カンピーで口汚いバラード、基本的なパンクロッ	Side A 1. Eddie & Sheena4:27 2. Bad in Bed2:22 3. Hot Blood3:24 4. Worry Wart2:45 5. 28 Model T1:58 6. Out of Control3:37	Side B 1. Max's Kansas City3:53 2. On the Crest4:49 3. Plain of Nazca3:11 4. Big Black Window3:24 5. Take It2:29 6. Rock'n'Roll Resurrection 4:33
	Electric Chairs (WAYNE COUNTY)	ストーム・ザ・ゲイツ・オブ・ヘヴン		1978	パンク	レコード	UK	Wayne County & The Electric Chairs ~ 名義となってのアルバムで通算 2nd アルバム。元MOTT THE HOOPLEのモーガン・フィッシャー、CURVED AIRのダリル・ウェイら異色のゲストプレイヤーが参加し、1978年に製作されたセカンド・アルバム。	Side A 1. Storm The Gates Of Heaven 2. Cry Of Angels 3. Speed Demon 4. Mr. Normal	Side B 1. Man Enough To Be A Woman 2. Trying To Get On The Radio 3. I Had Too Much To Dream Last Night 4, Tomorrow Is Another Day
	ELECTRIC LIGHT ORCHESTRA	エルドラド		1974	ロック	レコード	日本	ELOのサードアルバムで初期の代表する作品。本作は夢の国「エルドラド」にて巻き起こる出来事を描いたコンセプト・アルバムである。本作よりストリングスアレンジに指揮者のルイス・クラークを迎え、ストリングスサウンドが洗練され、彼の指揮する本物のオーケストラが取り入れられることになった。このオーケストラの比率が徐々にアルバムを追って大きくなっていき、『ディスカバリー』(1979年)ではバンド内のストリングスメンバーが参加する機会がなくなるのだが、本作では比較的ELOのストリングスメンバーが参加する作品とオーケストラが参加する作品とのバランスが取れており、共演する作品もある。ジャケットは「オズの魔法使い」のワンシーンより。	Side A 1. エルドラド = 序曲 2. 見果てぬ想い 3. ボーイ・ブルーの帰還 4. ラレドの嵐 5. プア・ボーイ	Side B 1. 偉大なる支配者 2. ノーバディズ・チャイルド 3. ト長調の幻想 4. エルドラド 5. エルドラド = 終曲
	ELECTRIC LIGHT ORCHESTRA	アウト・オブ・ザ・ブルー		1977	ロック	レコード	日本	77年作、ELOの通算7作目となったアルバムで、アナログ・リリース時は2枚組となった大作です。全英4位、全米4位で400枚を売り上げゴールドディスクを獲得した。 長岡秀星によるスペーシーなジャケット、メドレー形式の曲が並ぶ等、コンセプト作品的なイメージも強いのですが、大掛かりなセットでのツアーでこそこの宇宙的なスタイルが象徴的に使用されましたが、実際には各曲が独立してシングル・カットが可能な完璧なポップ・アルバムです。現在まで全世界で1000万枚以上のセールスを誇るモンスター・アルバムであり、彼等がビートルス、クイーン、10ccと並んでブリティッシュ・ポップのクラシックとして語られる所以ともなっています。 前作の「オーロラの救世主」は、ストリングスとロックの融合を試みてきたELOの過渡期的な作品となり、プログレ・バンドとしても認知されていた彼等がそのパブリック・イメージを大きく変える事に成功しました。本作ではいよいよジェフ・リンのポップ・ワールドが完成され、実際ストリングス・メンバーを含む7人編成のバンドが本作を以って解体されています。 恐ろしいまでのメロディの充実度と、全体を貫くドリーミーでスペーシーなセンスは最早神業と思われます。ビートルズの使用はたくさんあるのですが、ラテン・ムードのメロディがとけ込んで宇宙的イ	RECORD 1 Side A 1. ターン・トゥ・ストーン 2. 哀愁の果て 3. スウィート・トーキン・ウーマン 4. 国境の彼方 Side B 1. ナイト・イン・ザ・シティ 2. スターライト 3. ジャングル 4. ビリーヴ・ミー・ナウ 5. ステッピン・アウト"雨の日のコンチェルト	RECORD 2 Side A 1. 雨にうたれて 2. ビッグ・ウィールズ 3. サマー・アンド・ライトニング 4. ミスター・ブルー・スカイ Side B 1. スウィート・イズ・ザ・ナイト 2. ザ・ホエール 3. バーミンガム・ブルース 4. ワイルド・ウエスト・ヒーロー
	ELECTRIC LIGHT ORCHESTRA	ディスカバリー		1979年	ロック	レコード	日本	1979年に発表されたエレクトリック・ライト・オーケストラ(ELO)の8枚目のアルバム。全英では初の1位となるが、全米では5位となり、セールス的にも前回を下回り200万枚となる。ゴールドディスクを獲得。 アルバム名は、メンバーのリチャード・タンディが「very disco」(すごくディスコ向き)という言葉を入れ替えて付けたものという逸話があるほど、ディスコ調の曲が目立つ。また、リーダーのジェフ・リンが再婚を控えた時期の製作だったこともあり、ラブソングが多いのも特徴。 これまでのELOの音楽性は、ストリングスを多用した壮大なスケールの作品が目立ったが、本作はグループからストリングス担当メンバーを解雇した上で、ストリングスはすべて大編成のオーケストラによるものになった。その上で、シンセサイザーをこれまで以上に利用し、楽曲自体もポップでコンパクトなものに変貌した。結果的には、そうした路線に変えたことが大きな成功へと繋がった。次作『タイム』ではストリングスを大幅に減らし、キーボードサウンドを主軸としたため、ストリングスによるELOサウンドを聴ける最後のオリジナルアルバムとなった。アルバムには「シャイン・ラヴ」「ロンドン行き最終列車」	Side A 1. シャイン・ラヴ 2. コンフュージョン 3. ニード・ハー・ラヴ 4. ホレスの日記	Side B 1. ロンドン行き最終列車 2. ミッドナイト・ブルー 3. オン・ザ・ラン 4. ウィッシング 5. ドント・ブリング・ミー・ダウン
	ELECTRIC PRUNES	今夜は眠れない		1966	ロック	レコード	US	1967年名作のデビューアルバム。カリフォルニアはサンフェルナンド・ヴァレーが生んだサイケ・ロック・バンドの雄、エレクトリック・プルーンズ。収録。前年全米11位のヒットを記録した不滅の名曲「今夜は眠れない I Had Too Much To Dream」(後年のStiv Batorsや、ダムドの変名バンド他のカヴァで有名)、同27位「Get Me To The World On Time」や、MODガレージ「Bangles」、幻想的ガレージ・サイケ「Are You Lovin' Me More」他、内容充実の全12曲。	Side A 1. 今夜は眠れない 2. バングルズ 3. オニー 4. アー・ユー・ラヴィング・ミー・モア 5. トレイン・フォー・トゥモロウ 6. ソールド・トゥ・ザ・ハイエスト・ビッダー	Side B 1. ゲット・ミー・トゥ・ザ・ワールド・オン・タイム 2. アバウト・ア・クォーター・トゥ・ナイン 3. ザ・キング・イズ・イン・ザ・カウンティング・ハウス 4. ラヴィン 5. トライ・ミー・オン・フォー・サイズ 6. ザ・トゥーナーヴィル・トロリー

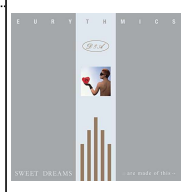
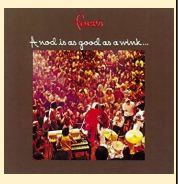
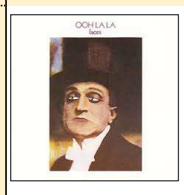
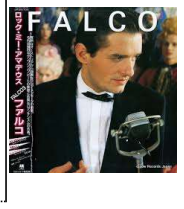
	ELECTRIC SUN	天地震動		1979	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	スコーピオンズを脱退したウリ・ジョン・ロートが、独特の世界観で自分のバンドのファーストアルバム。ヘンドリックスからの影響を強く感じる作品。ジミヘンがギターの革命児と言われるのは、従来のギタープレイの既成概念を破壊して、さらにギターという楽器の可能性を求めた点にあると思いますが、ウリはそんなジミヘンの遺志を継承しつつ、卓越したテクニックでさらに驚きの世界を私たちに見せてくれる。特に8曲目の「天地震動」あたりでは、実におどろおどろしい音のマグマが全身を襲ってくるようです。ただ、惜しむのはヴォーカルが弱いということ。声量がない点が難点で優秀なヴォーカリストを確保してギターに専念してほしかった。	Side A 1. Electric Sun5:21 2. Lilac2:47 3. Burning Wheels Turning6:41 4. Japanese Dream4:29	Side B 1. Sundown4:07 2. Winterdays1:25 3. Still So Many Lives Away4:39 4. Earthquake10:37
	ELECTRIC SUN	ファイヤー・ウィンド		1981	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	日本	81年作、スコーピオンズを脱退したウリ・ジョン・ロートが結成したエレクトリック・サンのセカンド・アルバムです。過小評価がされている人だとは思いますが、そのスピリチュアルな世界観がどうしても大衆化を邪魔しているのでしょうか。それでもこの人の作り出す音は美しく激しい甘美的なハード・ロックだと思います。スコーピオンズ時代からヴォーカルこそ今いちの気がしますが、メロディ、フレーズにはハッとさせられるものが多く、前作で完全にジミ・ヘンドリックスに傾倒していた作風も本作では完全に独自のものを作り上げています。初期スコーピオンズの妖しく色気のあるギターに加え、マイケル・シェンカー全盛期の様な情感溢れるメロディが加わった大名盤です。	Side A 1. Cast Away Your Chains 4:12 2. Indian Dawn 5:14 3. I'll Be Loving You Always 4:57 4. Fire Wind 5:00 5. Prelude In Space Minor 1:20	Side B 1. Just Another Rainbow 3:52 2. Children Of The Sea 3:22 3. Chaplin And I 5:45 4. Enola Gay 10:42
	THE ELEVATORS	フロントライン		1980年	ニューウェーブ	レコード	US	カーズに似た感じのエレクトリックなニューウェーブバンド。アルバム全体的には内容が良い。但し、似た感じのバンドが多いため独自の大きな特徴が無い。	**Side A** 1. Frontline 3:21 2. Girlfriend's Girlfriend 2:52 3. Stop The World 3:03 4. Stickball Kids 3:37 5. Lie Detector 2:32 6. Don't Let Me Die 3:29	**Side B** 1. Tropical Fish 3:09 2. Lies 3:22 3. Johnny Train Your Mind 2:56 4. Friends 3:16 5. On The Wire 3:57
	ELF					レコード		元レインボー～ブラック・サバス～ディオのロニー・ジェイムス・ディオが在籍していたバンド、エルフが74年にリリースしたセカンド・アルバム。ロジャー・グローバーがプロデュースを担当。英国ではパーブル・レコードから『キャロライナ・カウンティ・ボール』とタイトルを変えリリースされた。	**Side A** 1. カロライナカウンティボール 2. ロサンゼルス 59 3. エイント・イット・オール・アミュージング 4. ハッピー	**Side B** 1. アニー、ニューオーリンズ 2. ロッキング・チェアース・ロックンロール・ブルース 3. レインボー 4. ドウ・ザ・セイム・シング 5. ブランシュ
	ELF	バーン・ザ・サン		1975	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	US	元レインボーのボーカリスト、ロニー・ジェイムス・ディオが在籍していたことで知られるエルフのサード・アルバム（75年リリース）。ロジャー・グローバーがプロデュースを担当し、シークレットながらリッチー・ブラックモアもゲストで参加。本作リリース後、グループはリッチー・ブラックモアと合流、リッチー・ブラックモアズ・レインボーと名を変える。	**Side A** 1. Black Swampy Water 2. Prentice Wood 3. When She Smiles 4. Good Time Music	**Side B** 1. Liberty Road 2. Shotgun Boogie 3. Wonderworld 4. Streetwalker
	ELTON JOHN	僕の歌は君の歌		1970	ロック	レコード	日本	エルトン・ジョンのセカンド・アルバム。グラミー賞の最優秀アルバムと新人賞にノミネートされた。デビュー1年後の1970年にリリースした「僕の歌は君の歌（原題：Your Song）」が世界的に認められたアルバム。全英4位。全米11位と大ヒットした。ポール・バックマスターによる弦楽器のアレンジが、叙情性を際立たせている。「僕の歌は君の歌（Your Song）」収録。この曲は、作詞家バーニー・トーピンで、歌詞を渡して15分ほどで出来上がったという。	**Side A** 1. 僕の歌は君の歌 - Your Song 2. 君は護りの天使 - I Need You to Turn to 3. パイロットにつれていって - Take Me to the Pilot 4. ルイーズに靴紐はない - No Shoe Strings on Louise 5. ハイアントンの思い出 - First Episode at Hienton	**Side B** 1. 60才のとき - Sixty Years on 2. 人生の壁 - Border Song 3. 驚きのお話 - The Greatest Discovery 4. 檻の中に住みたくない - The Cage 5. 王は死ぬものだ - The King Must Die
	ELTON JOHN	エルトン・ジョン3		1970	ロック	レコード	US	1970年作。エルトンジョンのサードアルバム。エルトンらしい美しい佳曲「Come Down In Time」「My Father's Gun」やロッド・スチュワートがカヴァーした「Country Comfort」など素晴らしい楽曲を収録した隠れ名盤。前作に続いてガス・ダッジョンがプロデューサーを務めている。当時は、シングルとアルバムのマーケットが別個に考えられており、シングル曲が揃ったアルバムではなかったものの、魅力たっぷりの内容である。優しげな「Come Down In Time（邦題：遅れないでいらっしゃい）」もあるし、ドラマティックな「Where To Now St. Peter? （邦題：聖ペテロよ、私はこれから何処へ）」もある。そしてアルバムの最後は、「Burn Down The Mission（邦題：布教本部を焼き落とせ）」で締めくくられる。また「Love Song（邦題：愛の歌）」はイギリス人シンガー・ソングライターのレスリー・ダンカンが作った魅力的な曲で、アルバム中これだけがエルトン・ジョンとバーニー・トーピンの共作ではなかったが、それでも決して場違いではなかった。アルバム『Tumbleweed Connection』は発売当時全英チャートで最高6位を記録。のちに再びチャートで順位を上げ、最高2位にまで上がっている。またアメリカでは最高5位を記録し、プラチナ・ディスクになった。	**Side A** 1. 名高い盗賊の伝説 - Ballad of a Well-Known Gun 2. 遅れないでいらっしゃい - Come Down in Time 3. 故郷は心の慰め - Country Comfort 4. 君は君の親父の息子 - Son of Your Father 5. 父の銃 - My Father's Gun	**Side B** 1. 聖ペテロよ、私はこれから何処へ - Where to Now St. Peter? 2. 愛の歌 - Love Song 3. 過ぎし日のアモリーナ - Amoreena 4. 老兵の話 - Talking Old Soldiers 5. 布教本部を焼き落とせ - Burn Down the Mission
	ELTON JOHN	マッドマン		1971	ロック	レコード	日本	1971年度作『マッドマン』。元マグナ・カルタのデイヴィ・ジョンストンもバックに加わり、従来の壮大さとともにトラディショナルな側面も加味された4作目は、「可愛いダンサー（マキシンに捧ぐ）」「リーヴォンの生涯」他、ポール・バックマスターによるオーケストレーションを大胆に取り入れたメロディアスなバラード・アルバム。全米41位のM1、24位のM2といったシングルがヒットし、アルバム自体も最高位8位という好結果を残した。	**Side A** 1. 可愛いダンサー（マキシンに捧ぐ） 2. リーヴォンの生涯 3. .愛すべき男レーザー・フェイス 4. マッドマン	**Side B** 1. 黄昏のインディアン 2. ホリデイ・インのやすらぎ 3. 人生とは腐った桃のよう 4. 偽りの日々 5. グッドバイ
	ELTON JOHN	ホンキー・シャトー		1972年5月19日	ロック	レコード	日本	1972年に発表されたエルトン・ジョンの5枚目のアルバム。本アルバムが初めて全米第1位に輝き以降7作連続で全米チャート第1位となった。これまでのポール・バックマスターの叙情的なオーケストラアレンジに代わりシンセイサイザーを用いたことで、軽快なポップサウンドとなっており、シングルカットされた『Rocket Man』、軽快なポップソングの『Honky Cat』を始め秀逸な曲が目白押しで、これが文字通り全盛期の始まりになった記念碑的作品。 跳ねたピアノ演奏の「ホンキー・キャット」、当時話題となっていた宇宙飛行を「朝9時に家を出発し5日後に家に戻る」という一週間のサラリーマン生活の悲哀に掛けモチーフにした、リカット・シングル「ロケット・マン」がヒットした。ニューヨークに住む人々の生活を歌った「モナ・リザ・アンド・マッド・ハッター」は、アメリカ同時多発テロ事件後の追悼コンサートなどで披露された。	**Side A** 1. ホンキー・キャット 2. メロウ 3. 自殺の予感 - I Think I'm Going to Kill Myself 4. スージィ 5. ロケット・マン	**Side B** 1. サルヴェイション 2. スレイヴ 3. エイミー 4. モナ・リザ・アンド・マッド・ハッター 5. ハーキュリーズ
	ELTON JOHN	ピアニストを撃つな!		1973	ロック	レコード	日本	1973年に発表した6枚目のアルバムで最高傑作。全英、全米共に1位を獲得したアルバム！タイトルとジャケットデザインは、フランソワ・トリュフォー監督の1960年の映画『ピアニストを撃て』からインスパイアされたもの。オールディーズ風のロックンロール曲「クロコダイル・ロック」、オーケストラがドラマチックな「罪人にあわれみを」などが収録されている。「ダニエル」は兄弟愛を歌った曲だが、実際は3番まである歌詞の2番までしか歌われていないため、後にエルトンがバイセクシャルと判明した後はゲイリブの歌詞かと噂されたが、実際の3番はベトナム戦争からの兄弟の帰還という内容である。	**Side A** 1. ダニエル 2. 僕には先生が必要 - Teacher I Need You 3. にわとこのワイン - Elderberry Wine 4. ベイビーと僕のためのブルース - Blues for My Baby and Me 5. ミッドナイト・クリーパー	**Side B** 1. 罪人にあわれみを - Have Mercy on the Criminal 2. ティーン・エイジャーのアイドル - I'm Going to Be a Teenage Idol 3. テキサスのラヴ・ソング 4. クロコダイル・ロック 5. ハイ・フライング・バード
	ELTON JOHN	黄昏のレンガ路		1973	ロック	レコード	UK	1973年に発表された7枚目のアルバム。こちらも全英、全米共に1位を記録。この時期楽曲の製作が好調だったため、2枚組になった（アルバムに収録されずシングルB面となったものもある）。殆どの楽曲は1、2テイクで収録されたという。ブルー・アイド・ソウルの「ベニー&ジェッツ」は、白人として初めてR&Bチャートの1位を獲得した。エルトン本人は売れるわけがないと思っていたが、ラジオのリクエスト数が後押しとなり、シングル・カットされた。「ローリングストーン誌が選ぶオールタイム・ベスト・アルバム500」において第91位に選出された。邦題は「黄昏の～」とあるが、「イエロー・ブリック・ロード」とは、ジュディ・ガーランド主演のミュージカル映画『オズの魔法使い』の中の、オズへ続く「黄色いレンガの道」を指している。	**Side A** 1. 僕の歌は君の歌 - Your Song 2. 君は護りの天使 - I Need You to Turn to 3. パイロットにつれていって - Take Me to the Pilot 4. ルイーズに靴紐はない - No Shoe Strings on Louise 5. ハイアントンの思い出 - First Episode at Hienton **Side 2** 1. グッバイ・イエロー・ブリック・ロード 2. こんな歌にタイトルはいらない - This Song Has No Title 3. グレイ・シール 4. 碧の海、ジャマイカにおいで - Jamaica Jerk-Off 5. 僕もあの映画をみている - I've Seen That	**Side B** 1. 60才のとき - Sixty Years on 2. 人生の壁 - Border Song 3. 驚きのお話 - The Greatest Discovery 4. 檻の中に住みたくない - The Cage 5. 王は死ぬものだ - The King Must Die **Side 4** 1. ツイストは踊れない - Your Sister Can't Twist(But She Can Rock 'n Roll) 2. 土曜の夜は僕の生きがい - Saturday Night's Alright for Fighting 3. 歌うカウボーイ、ロイ・ロジャース - Roy Rogers
	ELTON JOHN	カリブ		1974年	ロック	レコード	日本	1974年に発表された8枚目のアルバム。ホーン・セクションにタワー・オブ・パワー、コーラスにビーチ・ボーイズのカール・ウィルソンとブルース・ジョンストンらが参加したスタジオ8作目で、初のアメリカ録音盤。「あばずれさんのお帰り」「僕の瞳に小さな太陽」といったクオリティの高い楽曲を収め、3作連続の全米・全英1位を記録。	**Side A** 1. あばずれさんのお帰り 2. ピンキー 3. グリムズビー(美しき故郷) 4. デキシー・リリー(ショーボートが川を行く) 5. ソラー・プレスティッジ・ア・ガモン （ぎらぎら太陽マークの特上ハム） 6. ニューヨークの尻軽女	**Side B** 1. 空飛ぶ円盤 2. スティンカー(虫けらのような男) 3. 僕の瞳に小さな太陽 4. ティッキング(母さんの言葉)
	ELTON JOHN	キャプテン・ファンタスティック		1975	ロック	レコード	UK	1975年に発表した9枚目。こちらは全米では初登場1位を獲得し史上初めてのアルバムとなるが、全英は2位となる。エルトンとバーニーが、デビューするまでの思い出をモチーフにしたコンセプトアルバム。タイトルの「キャプテン」がエルトンを、「カウボーイ」はバーニーを示している。『ローリング・ストーン誌が選ぶオールタイム・ベストアルバム500』において、158位にランクイン	**Side A** 1. キャプテン・ファンタスティックとブラウン・ダート・カウボーイ(エルトン、バーニーの華麗な夢) 2. バベルの塔 3. 苦しみの指先 4. 汽笛が鳴ったらおしえて 5. 僕を救ったプリマドンナ 6. ミール・チケット	**Side B** 1. 僕に迫る自殺の誘惑 2. ライティング(歓びの歌をつくる時) 3. 幼き恋の日々 4. ベールの中の遠い思い出 5. ルーシー・イン・ザ・スカイ・ウィズ・ダイアモンズ 6. ワン・デイ 7. フィラデルフィア・フリーダム
	ELTON JOHN	蒼い肖像		1976	ロック	レコード	日本	1976年に発表。アナログ二枚組のコンセプト・アルバムとして発売された。自身が立ち上げたレーベル「ロケット・レコード」からの第一作となる。静謐な印象を与える作品で、これをエルトンの契機とみるファンや評論家も多い。また作詞家バーニーとのコンビもこの作品で一旦終わりとなった。美しいバラード「トゥナイト」や切々と歌い上げる「悲しみのバラード」などバンドサウンドを排した曲が印象的だが、「ちっぽけな町」などのロックナンバーも挟まれている。ダンスナンバー「バイト・ユア・リップ」のフェードアウトで終わるアルバム。完全にジャズという珍しい楽曲「アイドル」もある。 ポップ・スター的なバンド・サウンドから距離を置き、聴く者に静かな印象を与える作品。本作後、バーニー・タウピンとの作曲コンビを一時解消。エルトンのターニング・ポイントとなった。	**ディスク:1 A面** 1. 序曲 - "Your Starter For" : インストゥルメンタル 2. トゥナイト 3. ちっぽけな町 - "One Horse Town" 4. カメレオン **B面** 1. ブギー・ピルグリム 2. かごの小鳥（エディット・ピアフに捧げる歌）- "Cage The Songbird" 3. クレージー・ウォーター 4. ショルダー・ホルスター	**ディスク:2 A面** 1. 悲しみのバラード - "Sorry Seems To Be The Hardest Word" 2. アウト・オブ・ザ・ブルー 3. 17才と20才の頃 - "Between Seventeen And Twenty" 4. 大きな瞳の陽気な娘 - "The Wide Eyed And Laughing" 5. ある男の終曲 - "Someone's Final Song" **B面** 1. 愛しのシュラー - "Where's The Shoorah?" 2. 神はいるの - "If There's A God In Heaven(What's He Waiting For?)" 3. アイドル 4. 架空のテレビ番組主題歌 - "Theme From A Non-Existent TV Series" 5. バイト・ユア・リップ
	ELTON JOHN	シングル・マン		1978	ロック	レコード	カナダ	1978年に発表した枚目のアルバム。メンバーはキキ・ディーのアルバム制作とほとんど同じ。プロデュースも共同とは言え自身が手がけている。作詞は盟友バーニーと離れ、全曲をゲイリー・オズボーンが担当。アルバムは静的な印象で、ピアノの音が綺麗に響くアルバムである。『蒼い肖像』と同様かつさらに静的な印象で、ピアノの音が綺麗に響くアルバムである。アップテンポな「パート・タイム・ラブ」はシングルとなった。「ソング・フォー・ガイ」は事故死した17歳のメッセンジャーボーイに捧げたインスト曲。今までのけばけばしい衣装から一転して、今回のジャケットはシルクハットにコートという姿でたたずむエルトン。眼鏡やサングラスも外し、帽子を愛用するようになったのもこの頃からである。 全英8位、全米15位。	**Side A** 1. 愛の輝き - Shine On Through 2. リターン・トゥ・パラダイス 3. 今・・・だから愛 - I Don't Care 4. ビッグ・ディッパー - Big Dipper 5. 浮気のゆくえ - It Ain't Gonna Be Easy	**Side B** 1. パート・タイム・ラヴ 2. ジョージア 3. シューティング・スター 4. マッドネス 5. 幻想 - Reverie :（インストゥルメンタル） 6. ソング・フォー・ガイ（インストゥルメンタル）

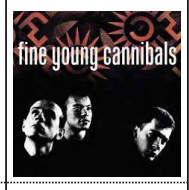
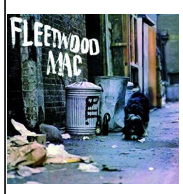
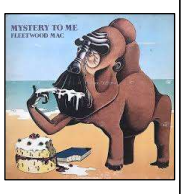
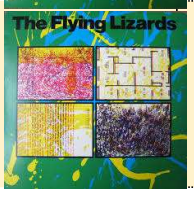
	ELVIS PRESLEY	エルビス登場！		1956	ロカビリー	レコード	US	エルヴィス・プレスリーのデビュー・アルバム。1956年3月発売。デビュー・シングルの『ハートブレイク・ホテル』が3月3日に68位で登場したばかりでまだヒットに至っておらず、アルバムヒットの保証が無かったため、サン・レコードで録音されていた5曲と、RCAでの第1回目のセッション（1月10日、11日）と、第2回目のセッション（1月30日、31日、2月3日）で録音されたカバー曲が5曲、その場で作られた新曲が2曲が収録された。しかし、蓋を開けてみると、10週連続1位を獲得し、発売からおよそ1年間チャート・イン。RCAのポップス・アルバムのうち、ソロ・アーティストとしては史上初の100万ドル以上の収益を記録し、RCAのポップス部門最大のヒット作となった。ジャケット写真は、1955年1月31日にフロリダ州タンパで撮影されたもの。エルヴィスの後ろにいるのは、ビル・ブラックである。	**Side A** 1.ブルー・スエード・シューズ 1:58 2.当てにしてるぜ（I'm Counting on You）2:24 3.アイ・ガット・ア・ウーマン 2:23 4.ワン・サイデッド・ラヴ・アフェア 2:09 5.アイ・ラヴ・ユー・ビコーズ 2:42 6.ジャスト・ビコーズ 2:32	**Side B** 1.トゥッティ・フルッティ 1:59 2.お前が欲しくて（Trying to Get to You）2:33 3.座って泣きたい（I'm Gonna Sit Right Down and Cry） 2:05 4.あなたを離さない（I'll Never Let You Go）2:25 5.ブルー・ムーン 2:43 6.マネー・ハニー 2:36
	ELVIS PRESLEY	エルビス登場！		1956	ロカビリー	CD	日本			
	ELVIS PRESLEY	セカンド		1956	ロカビリー	レコード	US	エルヴィス・プレスリーのセカンドアルバム。1956年10月発売。前作「エルヴィス・プレスリー登場!」のセッションからの「恋がかなった」を除く11曲が1956年9月1日から3日にかけてハリウッドのラジオ・レコーダーズで録音された。 「ハウンド・ドッグ」の大ヒットを受けてエルヴィスへの提供曲を一手に引き受けていたヒル＆レインジ音楽出版はジェリー・リーバー＆マイク・ストーラーに楽曲の提供を依頼。しかしリーバー、ストーラーはこの申し出を真剣に受け止めず、自分達の作った曲の中で最低の出来と評していたラヴ・ミーを提供。エルヴィスはこれを見事にアレンジし、リーバー、ストーラーもエルヴィスのバージョンを大変気に入り評価を改めた。「ファースト・イン・ライン」はエルヴィスが納得するまで27ものテイクが行われた。このアルバムではエルヴィス自身がピアノを弾きながら歌っている。エルヴィスが自分でピアノを弾きながらレコーディングするのはこれが初めてだったとされている。	**Side A** 1.陽気に行こうぜ（Rip It Up）1:50 2.ラヴ・ミー 2:41 3.ブルー・ムーンがまた輝けば（When My Blue Moon Turns to Gold Again）2:18 4.のっぽのサリー（Long Tall Sally）1:51 5.ファースト・イン・ライン 3:21 6.悩まされて（Paralyzed）2:18	**Side B** 1.恋がかなった（So Glad You're Mine）2:18 2.オールド・シェップ 4:10 3.レディ・テディ 1:55 4.どこでも天国（Anyplace Is Paradise）2:26 5.浮世の仕打ち（How's the World Treating You?）2:23 6.こんな気持ちがわかるかい（How Do You Think I Feel）2:1
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス（アップグレイド・ヴァージョン）		1956	ロカビリー	CD	日本	当時の未収録の大ヒットシングル 1. ハウンド・ドッグ2. 冷たくしないで、3. どちみち俺のもの 、16. トゥー・マッチ、17. プレイング・フォー・キープス、18ラヴ・ミー・テンダー の計6曲を追加収録したアップグレイド盤。	1ハウンド・ドッグ(ボーナス・トラック) 2冷たくしないで(ボーナス・トラック) 3どっちみち俺のもの(ボーナス・トラック) 4陽気に行こうぜ 5ラヴ・ミー 6ブルー・ムーンがまた輝けば 7のっぽのサリー 8ファースト・イン・ライン 9悩まされて	10恋がかなった 11オールド・シェップ 12レディ・テディ 13どこでも天国 14浮世の仕打ち 15こんな気持がわかるかい 16トゥー・マッチ(ボーナス・トラック) 17プレイング・フォー・キープス(ボーナス・トラック) 18ラヴ・ミー・テンダー(ボーナス・トラック)
	ELVIS PRESLEY	（ペーパースリーブ仕様） さまよう青春		1957	ロカビリー	CD	日本	56年の「LOVE ME TENDER（やさしく愛して）」に続くELVIS主演映画第2作目の57年作「LOVING YOU(さまよう青春)」のサウンドトラック盤としてリリースされた1957年作。初期の若さと活きの良さがパンパンの名作です。全米ナンバーワンシングル"TEDDY BEAR"収録。	1ミーン・ウーマン・ブルース 2テディ・ベア 3ラヴィング・ユー 4ゴット・ア・ロット・オブ・リヴィング 5ロンサム・カウボーイ 6ホット・ドッグ	7パーティ 8ブルーベリー・ヒル 9トゥルー・ラヴ 10ドント・リーヴ・ミー・ナウ 11愛していると言ったっけ 12アイ・ニード・ユー・ソー
	ELVIS PRESLEY	闇に響く声		1958	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	ザッツ・オールライト		1959	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	デイト・ウィズ・エルヴィス		1959	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イズ・バック		1960	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	（ペーパースリーブ仕様） G.I.ブルース		1960	ロカビリー	CD	日本	エルヴィス・プレスリー主演映画「G.I.ブルース」のサウンドトラック・アルバム。この映画はエルヴィスが陸軍を除隊した直後に製作され、実際に駐屯していたフランクフルトを舞台にしており、当時ファンはエルヴィスの軍隊生活をオーバーラップさせてこの映画を観ていた。このサウンドトラックは発売当時10週間連続で全米チャート第1位を記録、さらに111週間チャート・インを続けた超ロング・セラー・アルバム。テーマ曲「G.I.ブルース」を始めとして、ロックンロールだけではなく、ドイツ民謡や軍隊風マーチまでバラエティに富んだ楽曲が楽しい。尚「G.I.ブルース」は当時日本でのみシングル・カットされ各ラジオ・チャートNo.1を獲得した。		
	ELVIS PRESLEY	心のふるさと		1960	ロカビリー	レコード	US		01. His Hand In Mine 02. I' m Gonna Walk Dem Golden Stairs 03. In My Father' s House 04. Milky White Way 05. Known Only To Him 06. I Believe In The Man In The Sky	07. Joshua Fit The Battle 08. He Knows Just What I Need 09. Swing Down Sweet Chariot 10. Mansion Over The Hilltop 11. If We Never Meet Again 12. Working On The Building
	ELVIS PRESLEY	ブルー・ハワイ		1961	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イン・メンフィス		1969	ロカビリー	レコード	日本			
E	ELVIS PRESLEY	エルヴィスのゴールデンレコード第1集		1958	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィスのゴールデンレコード第2集		1959	ロカビリー	レコード	日本			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィスのゴールデンレコード第3集		1963	ロカビリー	レコード	US			

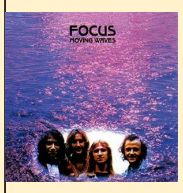
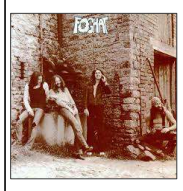
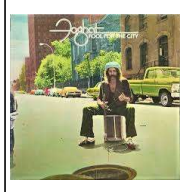
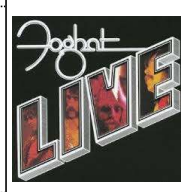
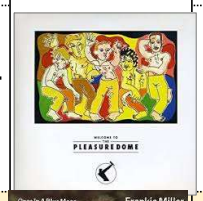
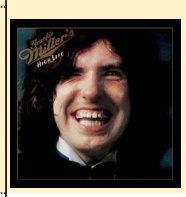
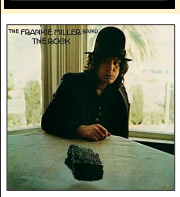
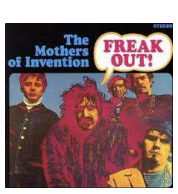
	ELVIS PRESLEY	メンフィス・テネシー		1965	ロカビリー	レコード	US			
	ELVIS PRESLEY	ラヴ・ソングス		1981	ロカビリー	レコード	US			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・オン・ステージ Vol.3		1970	ロカビリー	レコード	US			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イン・ニューヨーク		1972	ロカビリー	レコード	US			
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・イン・ハワイ		1973	ロカビリー	レコード	US			
	ELVIS PRESLEY	(デジパック) エルヴィス' 56			ロカビリー	CD	日本	RCAデビュー40周年(1996年)を記念して、デビューから1年の間にレコーディングされた中から22曲を選んでリリースしたアルバムの24bitデジタル・リマスター盤。コレクターズ・エディション輸入盤限定盤。24ページのオリジナルフォトブック付き。	1ハートブレイク・ホテル 2マイ・ベイビー・レフト・ミー 3ブルー・スエード・シューズ 4恋がかなった 5トゥッティ・フルッティ 6ワン・サイデッド・ラヴ・アフェア 7ラヴ・ミー 8どこでも天国 9悩まされて 10レディ・テディ 11トゥー・マッチ 12ハウンド・ドッグ	13どっちみち俺のもの 14冷たくしないで 15ローディ・ミス・クローディ 16シェイク・ラトル・アンド・ロール (オルタネイト・テイク8) 17アイ・ウォント・ユー、アイ・ニード・ユー、アイ・ラヴ・ユー 18陽気に行こうぜ 19ハートブレイク・ホテル (オルタネイト・テイク5) 20アイ・ガット・ア・ウーマン 21ただひとりの男
	ELVIS PRESLEY	エルヴィス・ザ・ファースト・イヤー			ロカビリー	レコード	US	盟友Scotty Moore、Bill Blackとともに行なった'55年3月ヒューストンでのライブ音源～インタビューを発掘収録。ギタリストのスコッティ・ムーアは、エルヴィス・プレスリーのツアーやレコーディングに最初期から60年代まで参加し、その鮮烈なギター・サウンドでエルヴィスとロックンロールを世界中に広めたといってもいい。	A面 1. First Meeting 2.Discovery Of Elvis By Sam Phillips 3.The First Recording Session 4.The Second Recording Session 5.Shows With The Starlite Wranglers 6.On Their Own 7.Stranded In Shreveport, Louisiana 8.Grand Ole Opry Appearance 9.Louisiana Hayride Appearance	B面 1.There's Good Rockin' Tonight 2.Baby, Let's Play House 3.Blue Moon Of Kentucky 4.I've Got A Woman 5.That's Alright Little Mama
	ELVIS PRESLEY			1984	ロカビリー	レコード	デンマーク		A1 I Forgot To Remember To Forget A2 I Got A Woman A3 One Sided Love Affair A4 So Glad You're Mine A5 I'm Gonna Sit Right Down & Cry Over You A6 Paralysed	B1 How Do You Think I Feel B2 We'Re Gonna Move B3 Poor Boy B4 Let Me B5 When My Blue Moon Turns To Gold Again B6 Long Tall Sally
	ELVIS COSTELLO	マイ・エイム・イズ・トゥルー		977年7月22日	ニューウェイブ	レコード	日本	Dr. フィールグッドのマネージャーにスカウトされ1977年に発表したコステロのデビューアルバム。全英14位、全米32位を記録。3月にデビュー・シングルとして先行発表されていた「レス・ザン・ゼロ」や、リンダ・ロンシュタット等にカヴァーされたコステロの代表曲「アリスン」を収録。プロデュースはデビュー前からコステロと親交のあったニック・ロウが務めている。UK出身のエルビス・コステロは、いわゆる70年代のUKにおけるプログレッシブ／ハード・ロックの勃興に対抗するシンプルな「パブ・ロック」のジャンルで語られるように広聞するが、本アルバムはそのコステロの1977年にリリースされた1stスタジオ・アルバムである。デビューからいきなりUK・USではヒット・チャート上位に登場。本アルバムのフィーチャー・ナンバーは全て彼自身の手に依るものだが、トラック13の「Watching the Detectives」は当初のUK版のLP（アナログ）レコードではフィーチャーされておらず、後れてリリースされたUS版から追加されたものである。フィーチャー・ナンバーでは、何と言ってもアルバムに先行してシングル・リリースされたバラード・ロックの「Alison」で、このナンバーはリンダ・ロンシュタットが79年の『 Living in the USA 』で、オリジナルをほぼ踏襲するしっとりしたバラードでカバーしている。この「Alison」より2ヶ月ほど先行したシングルが「Less Than Zero」で、「Sneaky Feelings」、「(The Angels Wanna Wear My) Red Shoes」、「I'm Not Angry」などと共にビートルズの中期頃を彷彿とさせるソフト・ロックの雰囲気があるが、他方アメリカン・ロック・テイストの「Mystery Dance」、「Watching the Detectives」なども窺える。	**Side A** 1. ウェルカム・トゥ・ザ・ワーキング・ウィーク 2. ミラクル・マン 3. ノー・ダンシング 4. ブレイム・イット・オン・ケイン 5. アリスン 6. スニーキー・フィーリングス	**Side B** 1. レッド・シューズ 2. レス・ザン・ゼロ 3. ミステリー・ダンス 4. ペイ・イット・バック 5. アイム・ノット・アングリー 6. ウェイティング・フォー・ジ・エンド・オブ・ザ・ワールド 7. ウォッチング・ザ・ディテクティヴス
	ELVIS COSTELLO	マイ・エイム・イズ・トゥルー		977年7月22日	ニューウェイブ	CD	日本		**以下、SCボーナストラック** 14. レディオ・スイートハート – Radio Sweetheart 15. ストレンジャー・イン・ザ・ハウス – Stranger in the House 16. イマジネイション – Imagination (Is a Powerful Deceiver) 17. メジャーデビュー前のバンドであるフリップ・シティによる録音（1974年～1975年頃）	18. ミステリー・ダンス – Mystery Dance (Demo version) 19. チープ・リウォード – Cheap Reward (Demo version) 20. ジャンプ・アップ – Jump Up (Demo version) 21. ウエイヴ・ア・ホワイト・フラッグ – Wave a White Flag (Demo version) 22. ブレイム・イット・オン・ケイン – Blame It on Cain (Demo version) 23. ポイズン・ムーン – Poison Moon (Demo version)
	ELVIS COSTELLO	ジス・イヤー・モデル		1978年3月17日	ニューウェイブ	レコード	日本	1978年発表。エルヴィス・コステロの2作目にして、自身のバンド=ジ・アトラクションズを率いての初アルバム。スピード感と緊張感に溢れる、パンキッシュで切れ味鋭いサウンドが光る初期の快作。全英4位を記録した。 全編に渡って小気味よくビートが効いたロックンロールを展開しています。シングル・カットされた3曲『(I Don't Want to Go to) Chelsea』『Pump It Up』『Radio Radio』を始めアルバムの最後から最後まで息をもつかず疾走している感じ。専門誌では本作品を最高傑作と評している事が多い。 当初、日本では契約の関係でこのレコードが先に発売され、ほぼ同時に「マイ・エイム・イズ・トゥルー」が別会社から出た。	**Side A** 1. ノー・アクション 2. ディス・イヤーズ・ガール 3. ザ・ビート 4. パンプ・イット・アップ 5. リトル・トリガーズ 6. ユー・ビロング・トゥ・ミー	**Side B** 1. ハンド・イン・ハンド 2. チェルシー 3. リップ・サービス 4. リヴィング・イン・パラダイス 5. リップスティック・ヴォーグ 6. ナイト・ラリ
	ELVIS COSTELLO	アームド・フォーセス		1979年1月5日	ニューウェイブ	レコード	日本	1979年発表。エルヴィス・コステロにとって3枚目のアルバム。プロデューサーはニック・ロウ。原題は「エモーショナル・ファシズム」だった。サウンドはかなりポップ寄り。歌詞はやはり辛口。コマーシャル的な側面ではかなり成功したアルバム。バックバンド＝アトラクションズ＝とのコンビネーションも絶妙。ソングライティングセンスがかなり光る。突っ走る怒りぶちまけソングはあまり見受けられないが、彼のポップス全般に対する精通ぶりがそこかしこに散見できる部分がすばらしい。内容的にもコマーシャル面でも満足のいく結果の出せたアルバム。初期コステロのピークをなす1枚で初期コステロのアルバムの中でも、曲の良さは際立っている。他アーティストによるカバーヴァージョンの多さも人気の高さを証明。 1.は氷室京介、3.はブラー、6.はリンダ・ロンシュタット、12.はトッド・ラングレンが歌っているし、同じセッションから シングルB面に収録された「ガールズ・トーク」はデイヴ・エドモンズによってカバーされてヒットする。この時期のコステロ先生がいかにノッていたのがわかるだろう。 尚、英国版のオリジナルLPに入っていた「サンデーズ・ベスト」は、内容が英国的すぎるという理由で米国版LPからは外され、代わりにニック・ロウのシングルのB面としてリリースされていた「ピース、ラヴ・アンド・アンダースタンディング」が収録された。また、初回版LPには"Live At Hollywood High"というタイトルの3曲入りライブEPが付属していた。	**Side A** 1. アクシデンツ・ウィル・ハプン 2. シニア・サービス 3. オリヴァーズ・アーミー 4. ビッグ・ボーイズ 5. グリーン・シャツ 6. パーティー・ガール	**Side B** 1. グーン・スクワッド 2. ビジー・ボディーズ 3. サンデイズ・ベスト 4. ムーズ・フォー・モダンズ 5. ケミストリー・クラス 6. トゥー・リトル・ヒットラーズ
	ELVIS COSTELLO	アームド・フォーセス		1979年1月5日	ニューウェイブ	レコード	UK			
	ELVIS COSTELLO	ゲット・ハッピー		980年2月15日	ニューウェイブ	レコード	日本	1980年発表。全英1位、全米11位獲得。エルヴィス・コステロにとって4枚目のアルバム。プロデューサーはニック・ロウ。全英1位を記録。R&B、ソウル、スカ、カントリー・ロックなど幅広い音楽性が見事。今作のコステロのポップセンスは更に洗練されて、おしゃれな印象すらあります。このアルバムでは見事なコステロ流ブルーアイドソ??ルが展開されている。モータウンやノーザンソウル、一部にスカの影響があったり、あいかわらず好奇心旺盛なところも見せています。ミュージシャンたちからの信頼はものすごいものがあり、たくさんの音楽家からプロデュースの依頼がこのひとにはあります。ポピュラー音楽のエキスパートとしての彼の側面を象徴しております。エモーショナルかつジャンピー＝ダンサブル＝似仕上がったこのアルバムは、バックバンド＝『アトラクションズ』とのコンビネーションもばつぐんであります。今年のフジロックを見ましたらばきちんとピートトーマス＝ドラムも演奏しておりました。メロディーメイカーとしても一流でありながらプロデューサーとしても一流、しゃれていて、一度聴いたら耳から離れないそんなメロディーを紡ぐことのできるポップな巨人これがコステロと言えるでありましょうか。楽曲は短いですが込められたテンションは高いのであります。	**Side A** 1. ラヴ・フォー・テンダー 2. オポチュニティー 3. ジ・インポスター 4. セカンダリィ・モダン 5. キング・ホース 6. ポゼッション 7. メン・コールド・アンクル 8. クラウンタイム・イズ・オーヴァー 9. ニュー・アムステルダム 10. ハイ・フィデリティ	**Side B** 1. アイ・キャント・スタンド・アップ・フォー・フォーリング・ダウン 2. ブラック&ホワイト・ワールド 3. ファイヴ・ギアズ・イン・リヴァース 4. ピー・ムーヴィー 5. モーテル・マッチズ 6. ヒューマン・タッチ 7. ビートゥン・トゥ・ザ・パンチ 8. テンプテーション 9. アイ・スタンド・アキューズド 10. ライオット・アクト
	ELVIS COSTELLO	トラスト		1981年1月	ニューウェイブ	レコード	日本	1981年リリースの5枚目のアルバム。プロデューサーはニック・ロウ。この時期はコステロのスランプ時期と言われていた頃の作品。ヒットシングル「Clubland」やSqueezeのグレン・ティルブルックがデュエットした「From A Whisper To A Scream」は、聴きごたえじゅうぶんで、これを聴くだけでもアルバムの価値がある。深みのあるややしゃがれたコステロの声と、ティルブルックのソフトな声の対比が実に絶妙で、アップテンポなジ・アトラクションズの演奏をバックに二人が楽しげに歌う姿が、目に浮かんできそう。	**Side A** 1. クラブランド 2. ラヴァーズ・ウォーク 3. ユール・ネヴァー・ビー・ア・マン 4. プリティ・ワーズ 5. ストリクト・タイム 6. ルクセンブルク 7. 足下に注意！ – Watch Your Step	**Side B** 1. ニュー・レース・スリーヴス 2. フロム・ア・ウィスパー・トゥ・ア・スクリーム 3. ディファレント・フィンガー 4. ホワイト・ナックルズ 5. ショット・ウィズ・ヒズ・オウン・ガン 6. フィッシュ・アンド・チップ・ペイパー 7. ピッグ・シスターズ・クローゼズ

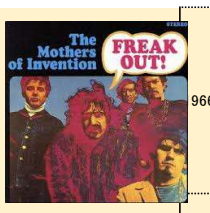
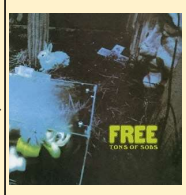
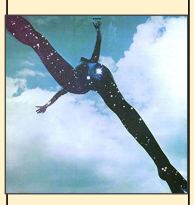
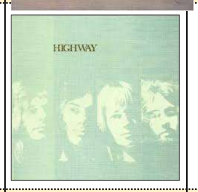
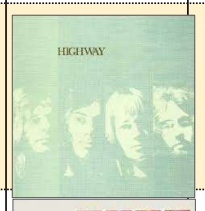
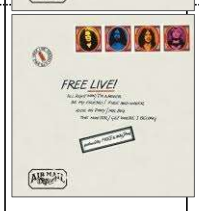
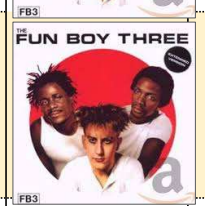
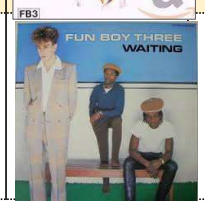
	ELVIS COSTELLO	オールモスト・ブルー		981年10月23日	ニューウェイブ	レコード	US	1981年発表。エルヴィス・コステロ&ジ・アトラクションズの7枚目のアルバム。全英7位を記録。プロデューサーはビリー・シェリル。このアルバムの収録曲はすべてカントリーソングのカバーで構成される。もともとはその当時のコステロ自身の憂鬱な気持ちを反映した「ブルー」な曲を集めたものにしようと考えていたが、次第にカントリーに惹かれていき、最終的にカントリーを集めた形となった、とコステロ自身が語っている。コステロの魅力の一つは、唯一無二のその声だと思うのですが、その声の魅力をたっぷりと味わえます。カバーアルバムでオリジナルの曲がないことに不満を感じる人もいるかもしれないが、誰の曲であろうと、コステロのあの声で歌われると、コステロの歌になってしまうのです。そのことを再認識させてくれる一枚でコステロの新たな魅力が発見できる作品。このアルバムからシングルカットした「グッド・イヤー・フォー・ザ・ローゼズ」が6位となる。	**Side A** 1. ホワイ・ドント・ユー・ラヴ・ミー(ライク・ユー・ユースト・トゥ・ドゥ) 2. スウィート・ドリームス 3. サクセス 4. アイム・ユア・トイ 5. トゥナイト・ザ・ボトル・レット・ミー・ダウン 6. ブラウン・トゥ・ブルー	**Side B** 1. グッド・イヤー・フォー・ザ・ローゼズ 2. シッティン・アンド・シンキン 3. カラー・オブ・ザ・ブルース 4. トゥー・ファー・ゴーン 5. ハニー・ハッシュ 6. ハウ・マッチ・アイ・ライド
	ELVIS COSTELLO	パンチ・ザ・クロック		1983年8月5日	ニューウェイブ	レコード	日本	1983年に発表。エルヴィス・コステロの8枚目のアルバム。全英1位、全米24位を記録。プロデューサーはクライヴ・ランガーとアラン・ウィンスタンリー。TKOホーンズをホーンセクションに迎えた全体的に派手なサウンドが特徴だが、コステロ自身は、表面的で深みがなく、また80年代的なサウンドであるという理由で、本アルバムには批判的な見解を述べている。ただクライヴに対しては、彼のおかげでレコードがヒットしたということで批判的というわけではない。前作以上にアレンジが大胆で、ホーンサウンドや女性コーラスを積極に取り入れた派手なナンバーが多い。今までのコステロにはない要素がたくさんちりばめられているのが特徴なのだが、結果的に「いかにも80年代」という時代を感じさせるサウンドになってしまった。 尚、このアルバムからシングルカットした「ピルズ・アンド・ソープ」はサッチャー政権に対するプロテストソングで「エルヴィス・コステロ」ではなく「ジ・インポスター」名義でリリースされ、イギリスのチャートで16位を獲得し、その他「エヴリデイ・アイ・ライト・ザ・ブック – Everyday I Write the Book」もイギリスで28位となりスマッシュヒットとなる。	**Side A** 1. レット・ゼム・オール・トーク 2. エヴリデイ・アイ・ライト・ザ・ブック 3. ザ・グレイテスト・シング 4. ジ・エレメント・ウィズイン・ハー 5. ラヴ・ウェント・マッド 6. シップビルディング	**Side B** 1. TKO(ボクシング・デイ) 2. チャーム・スクール 3. ジ・インヴィジブル・マン 4. マウス・オールマイティ 5. キング・オブ・シーヴズ 6. ピルズ・アンド・ソープ 7. ザ・ワールド・アンド・ヒズ・ワイフ
	ELVIS COSTELLO	グッバイ・クルエル・ワールド		1984年6月18日	ニューウェイブ	レコード	日本	84年発表のコステロ9作目のアルバム。前年のパンチ・ザ・クロックに続いてクライヴ・ランガー＆アラン・ウィンスタンレイのプロデュース。コステロ自ら失敗作と公言するだけあって、楽曲とプロデュースが噛み合っていないところが多いです。この頃コステロは、最初の奥さんとの離婚が間近な上にバックのアトラクションズとの関係も悪化し始めており、今作用の詞・曲は内省的で暗いものが多かった。しかし、前作「パンチ・ザ・クロック」でコステロをポップ・チャートに復活させたランガー＆ウィンスタンレイは元々歯切れの良いブリティッシュ・ポップ本道の音職人で、そういった原曲のムードとは相反する指向性だったが、とにかく何とかレコードにはしてくれと頼み込んで無理やり完成させた曰くつきのアルバム。セールス的にはそれなりの結果が出たが、完成直後から出来に不満の彼はキャリア初のソロ・ツアーに（Tボーン・バーネットだけを従えて）出かけ、楽曲そのものと向き合うという原点を見つめなおすことになる。また、アルバムからシングルカットした「ピース・イン・アワ・タイム 」はプロテストソングで「エルヴィス・コステロ」ではなく「ジ・インポスター」名義でリリースされる。	**Side A** 1. ジ・オンリー・フレイム・イン・タウン 2. ホーム・トゥルース 3. ルーム・ウィズ・ノー・ナンバー 4. インチ・バイ・インチ 5. ウォースレス・シング 6. ラヴ・フィールド	**Side B** 1. アイ・ワナ・ビー・ラヴド 2. ザ・コメディアンズ 3. ジョー・ポーターハウス 4. サワー・ミルク-カウ・ブルース 5. ザ・グレート・アンノウン 6. ザ・ディボーティーズ・クラブ 7. ピース・イン・アワ・タイム
	ELVIS COSTELLO	キング・オブ・アメリカ		1986年2月21日	ニューウェイブ	レコード	日本	1986年にザ・コステロ・ショウ名義で発売されたエルヴィス・コステロの10枚目のアルバム。プロデューサーはTボーン・バーネットとデクラン・マクマナス(エルヴィス・コステロ)とラリー・ヒルシュ。本来デクラン・パトリック・アロイシャス・マクマナスという本名で出したかったが、レコード会社の説得によりザ・コステロ・ショウとなった。また、本作では数曲を除き作曲クレジットはコステロの本名である「デクラン・マクマナス」名義となっている。 デビュー時からカントリーやリズム・アンド・ブルーズなど、アメリカ音楽に対する視線や影響をそこかしこに反映させてきたが、この作品でアメリカの腕利きのミュージシャンをバックに、アメリカン・ミュージックの、そしてこれも彼の根本的な影響にあるアイリッシュ・ミュージックの要素を全面展開した、彼にとって一大転機となった作品がこれである。“American Without Tears”、“Jack Of All Parades”など、彼の曲の中でも屈指の作品が揃っているという点でも、代表作に推せる。その中で、前作までコステロのバックを務めたアトラクションズは、本作では「スーツ・オブ・ライツ 」の1曲のみで参加している。もともとはアトラクションズとそれ以外のバンドの演奏を半分ずつ収録する構想だったが、アトラクションズがセッションに到着した頃にはすでに多くの曲を撮り終えていたことと、そのことによるバンドメンバーとの関係の悪化で1曲のみの参加となった。	**Side A** 1. ブリリアント・ミステイク 2. ラヴァブル 3. アワ・リトル・エンジェル 4. ドント・レット・ミー・ビー・ミスアンダストゥッド 5. グリッター・グルチ 6. インドア・ファイヤーワークス 7. リトル・パレス 8. アイル・ウェア・イット・プラウドリー	**Side B** 1. アメリカン・ウィズアウト・ティアーズ 2. アイゼンハワー・ブルース 3. ボイズンド・ローズ 4. ザ・ビッグ・ライト 5. ジャック・オブ・オール・パレーズ 6. スート・オブ・ライツ 7. スリープ・オブ・ザ・ジャスト
	ELVIS COSTELLO	スピイク		1989年2月14日	ニューウェイブ	レコード	US	1989年に発表されたエルヴィス・コステロのアルバム。プロデューサーはエルヴィス・コステロとTボーン・バーネットとケヴィン・キレン。本作では、ポール・マッカートニーとの共作・共演が話題となった。エルヴィスとポールは、本作の「ヴェロニカ」「バッズ・ボウズ・アンド・クロウズ」に加え、ポールのアルバム『フラワーズ・イン・ザ・ダート』収録曲4曲を共作。また、「...ディス・タウン」と「ヴェロニカ」では、ポールがベースを弾いている。 参加メンバーも超豪華。しかも最初の4曲の並び方が最高に良く、いきなりロジャー・マッギンの12弦とポール・マッカートニーのベースが共演する1. は「この街の誰もかれもがあんたを害毒だと思わないうちはあんたはいてもいなくても同じなんだ」というコステロらしい辛辣な歌詞が際立ったせつなさあふれるフォークロック。冤罪で絞首刑にされた男を歌った2. にはひりひりした緊張感が横溢。3. はダーティ・ダズン・ブラスバンドのホーンが感動的なバラード。テレビ番組のOPにも使われたポールとの珠玉の共作ナンバー「ヴェロニカ」が素晴らし。また、神様の視点を持ち出したおかしくも悲しげな5. もいい曲です。ダーティ・ダズン・ブラスバンドのパワフルなホーンを前面に出したインスト8. は87年来日公演での開演前のBGMに使われていて印象深かった。また、プリテンダーズのクリッシー・ハインドとのデュエット曲9もありで、流石にコステロは素晴らしいの一言。		
	ELVIS COSTELLO	ガールズ・ガールズ・ガールズ		1989	ニューウェイブ	レコード	日本	スティッブ˝ディーモン時代の10年間の録音をコステロ自身が選曲・編集した2枚組のアルバム。本人の解説によれば4つのパートに構成したそうで,たとえば2枚目後半には政治的なテーマの歌が並んでいる。彼の天才を改めて思い知らせてくれる重量級の回顧録だ。当然粗削りながら後のコステロを彷彿とさせる曲が多く、ファンとして持っていて悪くないアルバム。	**Side A** 1. Watching The Detectives 2. I Hope You're Happy Now 3. Pump It Up 4. Lover's Walk 5. Temptation 6. Lovable 7. (I Don't Want To Go To) Chelsea 8. High Fidelity 9. Lipstick Vogue **Side B** 1. Man Out Of Time 2. Brilliant Mistake 3. New Lace Sleeves 4. Accidents Will Happen 5. King Horse 6. Green Shirt 7. (The Angels Wanna Wear My) Red Shoes 8. Beyond Belief	**Side C** 1. Alison 2. Indoor Fireworks 3. Party Girl 4. Almost Blue 5. Riot Act 6. Poisoned Rose 7. I Want You (Single Version) 8. I'll Wear It Proudly **Side D** 1. Oliver's Army 2. Pills And Soap 3. Stranger In The House 4. Clubland 5. Tokyo Storm Warning 6. Shipbuilding
	EMERSON LAKE&PALMER	エマーソン、レイク＆パーマー		1970	プログレ	レコード	日本	1970年リリースのEL&Pのセンセーショナルなデビュー作となった1枚。 すでに「クリムゾン・キングの宮殿」が新たなロック・ムーヴメントを巻き起こしていた中、ナイス、キング・クリムゾン、アトミック・ルースターのメンバーが集まった事でスーパーグループとして注目され、以降の英国プログレの勢いに拍車をかける重要作となりました。 3人ともすでに知名度の高いミュージシャンであったわけですが、デビュー作にしてすでに個々の力量、個性が遺憾なく発揮された事により、同時代のプログレ作品の中でもかなり重厚、叙情性に富んだものとなっています。 シンセはごく僅かに留めながら、エマーソンのオルガンとピアノが曲の全体的なイメージを主導し、ディストーションがバリバリかかったベース、超絶ドラムが絡む様はまさに圧巻です。またこの時代のブームでもあったクラシックとロックの融合という意味でも理想的なモデルともなっていながら、「The Barbarian」や「Tank」ではキング・クリムゾンへの恐ろしいまでのライバル意識とでも言えそうなヘヴィかつ複雑なサウンドを展開しています。最終曲のアコースティック調のバラード、「Lucky Man」でのリリカルなメロディ・センスもいかにも英国的な美しさを誇り、全編を通して隙を見せない完璧なアルバムとなっています。	**Side A** 1. 未開人– The Barbarian 2. 石をとれ – Take A Pebble 3. ナイフとエッジ– Knife Edge	**Side B** 1. 運命の三人の女神– The Three Fates クローソー – Clotho ラキシス – Lachisis アトロポス– Atropos 2. タンク – Tank 3. ラッキー・マン– Lucky Man
	EMERSON LAKE&PALMER	（ペーパースリーブ仕様） タルカス		1971	プログレ	CD	日本	71年作、EL&Pのセカンド・アルバム。ジャケットに描かれたアルマジロと戦車の怪獣がタルカスなのですが、これは日本ではウルトラセブンで登場した恐竜戦車とソックリであるには有名な話だと思います。セブンの方が先にテレビ放映されているのですが、関連はあったのでしょうか。本作では当時アナログA面全てを使い、20分を越す組曲として、このタルカスにまつわる壮大なドラマが描かれています。火山から生まれた機械と野獣の化身で、戦闘獣タルカスと、人間と神獣が融合したマンティコアの戦いがあらすじとなっています。ハード・ロック的なダイナミズムを持った三人の凄まじいぶつかり合いが聴きものので、一瞬たりとも耳を離せないスリリングな展開が何度聴いても鳥肌ものとなっています。後半はポップな小曲が並び、彼等の音楽性の幅の広さを見せつける構成となっています。パイプ・オルガンの荘厳さが光るナンバーもありますが、むしろブギやジャズ・ロック的なアプローチをしている意外性に驚かされます。 ユニークなコンセプト作としても興味深いものがあるのですが、前半の凄まじいテクニック合戦から解き放たれる様な爽快感が味わえるのが本作の魅力です。	1. タルカス 2. ジェレミー・ベンター 3. ビッチズ・クリスタル 4. ジ・オンリーウェイ 5. 限りなき宇宙の果てに 6. タイム・アンド・ブレイス 7. アーユー・レディ・エディ	
	EMERSON LAKE&PALMER	展覧会の絵		1972	プログレ	レコード	日本	71年リリース作、EL&Pの三作目。彼等のイメージを決定付けた代表作となりました。元々ムソルグスキーの「展覧会の絵」はライヴ・レパートリーとして演奏されていた様で、キース・エマーソンは新作としてスタジオ・レコーディングを計画していた様です。それに反対したのがグレッグ・レイクだった様で、ライヴ収録なら問題ないという発案が本作に採用されたそうです。収録はパイプ・オルガンが設置してあるニューキャッスル・シティ・ホール。 オープニングではその地の利が存分に生かされています。ライヴとは思えない完璧なバンド・サウンドが、何度聴いても奇跡的に思えます。攻撃的なシンセとオルガン、カール・パーマーの超絶的な手数の多さ、そして叙情的なヴォーカル、生ギターが絡み、クラシックとロックの融合の理想的な完成型を生演奏で実現してしまっています。	**Side A** 1. プロムナード 2. こびと 3. プロムナード 4. 賢人 5. 古い城 6. ブルーズ・ヴァリエイション	**Side B** 1. プロムナード 2. バーバ・ヤーガの小屋 3. バーバ・ヤーガの呪い 4. バーバ・ヤーガの小屋 5. キエフの大門 THE END 6. ナットロッカー
	EMERSON LAKE&PALMER	（ペーパースリーブ仕様） 展覧会の絵		1972	プログレ	CD	日本	71年リリース作、EL&Pの三作目。彼等のイメージを決定付けた代表作となりました。元々ムソルグスキーの「展覧会の絵」はライヴ・レパートリーとして演奏されていた様で、キース・エマーソンは新作としてスタジオ・レコーディングを計画していた様です。それに反対したのがグレッグ・レイクだった様で、ライヴ収録なら問題ないという発案が本作に採用されたそうです。収録はパイプ・オルガンが設置してあるニューキャッスル・シティ・ホール。 オープニングではその地の利が存分に生かされています。ライヴとは思えない完璧なバンド・サウンドが、何度聴いても奇跡的に思えます。攻撃的なシンセとオルガン、カール・パーマーの超絶的な手数の多さ、そして叙情的なヴォーカル、生ギターが絡み、クラシックとロックの融合の理想的な完成型を生演奏で実現してしまっています。	1. プロムナード 2. こびと 3. プロムナード 4. 賢人 5. 古い城 6. ブルーズ・ヴァリエイション	7. プロムナード 8. バーバ・ヤーガの小屋 9. バーバ・ヤーガの呪い 10. バーバ・ヤーガの小屋 11. キエフの大門 THE END 12. ナットロッカー
	EMERSON LAKE&PALMER	恐怖の頭脳改革		1973年11月19日	プログレ	レコード	日本	『恐怖の頭脳改革』(Brain Salad Surgery)は、エマーソン・レイク・アンド・パーマー(ELP)が1973年に発表したアルバムである。本作はELPが1973年3月に設立したレコード・レーベル「マンティコア・レコード」から初めてリリースされたELPのアルバムである。1972年6月に発表された前作『トリロジー』に続く約1年半ぶりの新作として、1973年11月に発表された。ELPは1970年6月にデビューして以来、約半年ごとにアルバムを発表してきた。本作の制作は、レコーディングの途中でツアーが開始されたり、キース・エマーソンが音楽的に行き詰ったり、といった事態に相次いで見舞われ、これまでのアルバムの制作よりも時間がかかってしまった。最終的には、1973年11月の全米ツアーに間に合う形でようやく発売にこぎつけた。本作はELPの全盛期の最後のスタジオ・アルバムであり、代表作として高く評価されてきた。	**Side A** 1. 聖地エルサレム – Jerusalem 2. トッカータ – Toccata 3. スティル...ユー・ターン・ミー・オン – Still...You Turn Me On 4. 用心棒ベニー – Benny The Bouncer 5. 悪の教典#9 第1印象 パート1 – Karn Evil 9: 1st Impression–Part 1	**Side B** 1. 悪の教典#9 第1印象 パート2 – Karn Evil 9: 1st Impression–Part 2 2. 悪の教典#9 第2印象 – Karn Evil 9: 2nd Impression 3. 悪の教典#9 第3印象 – Karn Evil 9: 3rd Impression
	Luxury Liner	エリート・ホテル		1975年12月29日	ポップス	レコード	日本	1975年にリリースされたカントリー・ミュージック・アーティスト、エミルー・ハリスの3枚目のアルバムであり、幅広く評価された同年の前作『緑の天使』に続く作品である。『エリート・ホテル』はビルボードチャートで前作を上回り、ハリスの最初のナンバーワンカントリーアルバムとなった。アルバムからは「トゥギャザー・アゲイン」とパッツィー・クラインのヒット曲「スウィート・ドリームス」のカバーと言う2つのナンバーワンカントリーシングルを生み出し、「いつの日か」も3位となった。ビートルズの楽曲「ヒア・ゼア・アンド・エヴリウェア」ではポップチャートの65位に入った。引き続きトラディショナルな要素と現代的な要素を混ぜ合わせた。旧友グラム・パーソンズの書いた曲を再び取り上げているが、その3曲のうち「Sin City」「Wheels」の2曲はパーソンズのなかでも息の長い人気を誇るナンバーに数えられる。だがそれ以上に感動的なのは、カントリーで最も有名なスタンダード2曲のカバー――バック・オウエンズの「Together Again」とドン・ギブソンの「Sweet Dreams」(パッツィー・クラインが大ヒットさせた曲)――で、いずれもカントリー・チャートのトップに送りこんだ。 ビートルズのバラードとハンク・ウィリアムズのホンキー・トンクの両方を歌いこなせるアーティストはそう多くはないが――それにそんなことを望むアーティストもそう多くはないが――ハリスのダイアモンドのようにすてきな歌声は、美しく透明感を持つのも、鋭く歯切れよくなるのも思いのままだ。	**Side A** 1. アマリロ 3:05 2. トゥギャザー・アゲイン 3:56 3. フィーリン・シングル・シーイン・ダブ 2:34 4. シン・シティ 3:57 5. いつの日か – One of These Days 3:03 6. ティル・アイ・ゲイン・コントロール・アゲイン 5:40	**Side B** 1. ヒア・ゼア・アンド・エヴリウェア 3:59 2. ウー・ラス・ヴェガス 3:47 3. スウィート・ドリームス 4:03 4. ジャンバラヤ 3:05 5. サタンズ・ジュウェル・クラウン 3:13 6. ホィールズ 3:13
	Luxury Liner	真珠の舟		1977年	ポップス	レコード	US	1976年にリリースされたカントリー・ミュージック・アーティスト、エミルー・ハリスの4枚目のアルバム。このアルバムはハリスの2枚連続してビルボードチャートでNo.1となったカントリーアルバムだったが、前作『エリート・ホテル』とは異なりこのアルバムからのNo.1シングルヒットはなかった。シングルチャートでの最高位はチャック・ベリーのカバー曲「セ・ラ・ヴィ」の6位と、「メイキング・ビリーブ」(オリジナルはキティ・ウェルズのヒット曲)の8位だった。しかし、このアルバムはタウンズ・ヴァン・ザントの1972年の曲「パンチョと左ぎき」の最初のカバー版を含むことでよく知られている。 エミルー・ハリス率いるホット・バンドは1977年には、すでに迫力満点だった主要メンバーのリッキー・スキャッグス、グレン・D・ハーディン、ロドニー・クロウェル、ハンク・デヴィートに加え、エレキ・ギターの魔術師アルバート・リーを迎えたことでまさに脂が乗りきっていた。選曲もヴァラエティ豊かでありながら自信に満ち、カーター・ファミリーやルーヴィン・ブラザーズから、チャック・ベリーや見事な「Pancho & Lefty」を提供したタウンズ・ヴァン・ザントまでまでありとあらゆるアーティストを取り上げている。またハリスにとって不可欠なグラム・パーソンズのナンバーとともに、カントリーのスタンダード「Making Believe」にも気負うことなく取り組んでいる。	**Side A** 1. 真珠の舟 Luxurly Liner 3:41 2. パンチョと左ぎき Pancho and Lefty 4:50 3. メイキング・ビリーブ 3:37 4. かわらぬ想い You're Supposed to Be Feeling Good 4:01 5. サンアントンの薔薇 I'll Be Your San Antone Rose 3:43	**Side B** 1. プロムナード 2. バーバ・ヤーガの小屋 3. バーバ・ヤーガの呪い 4. バーバ・ヤーガの小屋 5. キエフの大門 THE END 6. ナットロッカー

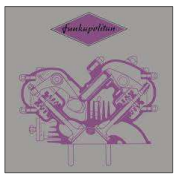
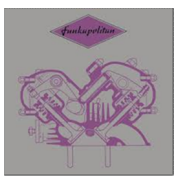
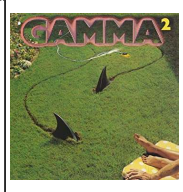
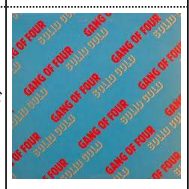
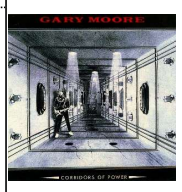
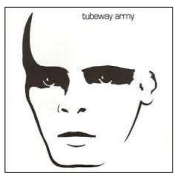
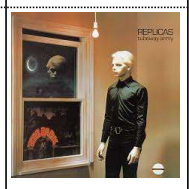
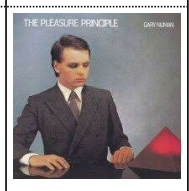
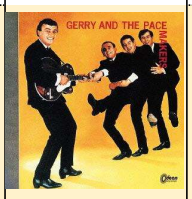
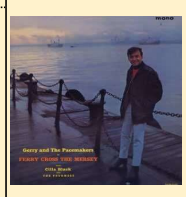
	ENGLISH BEAT			1981	ニューウェイブ	レコード	US	2トーンバンドのブームから出てきたグループ。セカンドアルバム。	**Side A** 1. Doors Of Your Heart 2. All Out To Get You 3. Monkey Murders 4. I Am Your Flag 5. French Toast (Soleil Trop Chaud) 6. Drowning	**Side B** 1. Dream Home In NZ 2. Walk Away 3. Over And Over 4. Cheated 5. Get-A-Job 6. The Limits We Set
	ERASURE	ワンダーランド		1986年	エレクトロニクス	レコード	日本	元ヤズーのヴィンス・クラークが結成したイレイジャーのデビューアルバム。オーディションで選ばれたアンディ・ベルが盟友ヴィンスと組む事になった記念作。タイトなエレクトロ・ビートとエモーショナルなヴォーカル、そして抜群のポップセンスの融合が生み出したイレイジャーサウンド。この独特の捻ったテクノと変調ビートは当時、センセーショナルだった。イギリスでヒットしたシングル曲の「フー・ニーズ・ラブ」「ヘヴンリィ・アクション」を含む。	**Side A** 1. フー・ニーズ・ラブ 2. リユニオン 3. クライ・ソー・イージ 4. センスリス 5. ヘヴンリィ・アクション	Side B 1. セイ・ホワット 2. ラヴ・イズ・アール・ア・ルーサー 3. マーチ・オン・ダウン・ザ・ライン 4. マイ・ハート・オン・ザ・ライン 5. オー・ラムール
	ERC CLAPTON	461 オーシャン・ブールヴァード		1974	ハードロック	レコード	日本	ドラッグと酒の依存症から復活した新生エリック・クラプトン・バンドによるクラプトンの復帰第1弾。録音に使われたスタジオの住所をそのままアルバムタイトルに使われました。「いとしのレイラ」と共に、エリック・クラプトンの最高傑作アルバムというだけではなく、ロック史上に燦然と輝く名盤中の名盤と言われる作品。 このアルバムと収録曲の、ボブ・マーリーのカヴァー曲「I Shot The Sheriff」がシングルが、共に全米1位を獲得する最大のヒットになり、ロック界にレゲエを知らしめる曲になった。その他、エルモア・ジェームス、ロバート・ジョンソン等の往年のブルース・マンのカヴァーしているが、どの曲もカラッと乾いた印象になっています。	**Side A** 1. マザーレス・チルドレン 2. ギヴ・ミー・ストレンクス 3. ウィリー・アンド・ザ・ハンド・ジャイヴ 4. ゲット・レディ 5. アイ・ショット・ザ・シェリフ	**Side B** 1. アイ・キャント・ホールド・アウト 2. プリーズ・ビー・ウィズ・ミー 3. レット・イット・グロウ 4. ステディ・ローリン・マン 5. メインライン・フロリダ
	ERC CLAPTON	ザ・ベスト・オブ・エリック・クラプトン		1990	ハードロック	CD	チェコ	エリック・クラプトンのベストアルバム。	1. Boom Boom (Out Goes The Light)2:23 2. Choker1:11 3. Snake Drive2:27 4. Freight Loader2:48 5. Draggin' My Tail3:03 6. Louise (Louise Blues)3:25 7. Early In The Morning3:34 8. Pound And Stomps2:16 9. The First Time I Met The Blues4:50 10. (They Call It) Stormy Monday Blues3:42	11. Big Boss Man3:47 12. Jeff's Blues2:59 13. Tribute To Elmore2:05 14. Highway 492:41 15. Wang-Dang-Doodle4:24 16. Five Long Years4:58 17. She's So Respectable5:41 18. For Your Love2:27 19. Respectable5:21 20. 23 Hours Too Long5:10
	ERC CLAPTON	ワンダフル・トゥナイト			ハードロック	CD	日本		1. ミス・ユー 2. ワンダフル・トゥナイト 3. ティアリング・アパート 4. バッヂ 5. クロス・ロード 6. ホワイト・ルーム 7. ファーザー・オン・アップ・ザ・ロード 8. いとしのレイラ 9. ハング・アップ・オン・ユア・ラヴ	
	ERIC ANDERSEN	トゥデイ・イズ・ザ・ハイウェイ		1965	フォーク	レコード	US	本作は1965年にリリースされた1stアルバムです。1943年ペンシルベニア州ピッツバーグ出身のエリック・アンダースン。ボブ・ディランやフィル・オクスらと並び、グリニッジ・ヴィレッジで活躍したフォーク・シンガーです。 ビッグ・ジョー・ウイリアムズ作、枯れた味わいの「Baby Please Don't Go」以外は全て自作曲で構成。淡く繊細な「Today Is The Highway」をはじめ、多くのフォーク・グループが取り上げた「Come To My Bedside」、荒涼とした情景が目に浮かぶ「Dusty Box Car Wall」、抒情的な「Looking Glass」、優しい歌声とおだやかなサウンドが郷愁を誘う「Everything Ain't Been Said」等を収録。 3曲で彼の最初の妻であったデビー・グリーンがセカンド・ギターで参加していますが、それ以外は自身のギターとたまに登場するハーモニカのみ。シンプルだからこそ聴く程に味わいが増す傑作です。	**Side A** 1. Today Is The Highway 2:22 2. Dusty Box Car Wall 2:22 3. Time For My Returning 3:19 4. Plains Of Nebrasky-o 3:29 5. Looking Glass 5:05 6. Never Coming Home 3:09	**Side B** 1. Come To My BedSide 3:56 2. Baby Please Don't Go 3:22 3. Everything Ain't Been Said 4:39 4. Bay Of Mexico 3:09 5. Song To J.C.B. 4:55 6. Bumblebee 3:20
	ERIC ANDERSEN	バウト・チェンジズ＆シングス		1966	フォーク	レコード	US	1966年リリース。エリック・アンダーソンのセカンドアルバム。アンダーソンは1943年2月14日ピッツバーグ生まれ。 1960年代からシンガー、ソング・ライターとして活躍。1965年、「Today Is the Highway」でデビュー。その後、いくつかのレーベルを移籍しながらも多くの作品を発表。エリック・アンダースンと言えばどうしても「Blue River」ばかりが露出してしまいがちだが、「夜明けのすみれ」や「サースティ・ブーツ」などの名曲を残したフォーク期の時代も忘れないで欲しいと思う。繊細さという部分は既に感じるけれど、恐らくこの代表作に残された歌唱は多くの人々にとって新鮮に映るはず。若き日のエリックのラヴソングやR&R、C&W風味のトラックまで入った充実の一作。	**Side A** 1. Violets Of Dawn 3:47 2. The Girl I Love 3:00 3. That's Alright Mama 2:27 4. Thirsty Boots 5:50 5. The Hustler 4:00 6. Cross Your Mind 4:50	**Side B** 1. I Shall Go Unbounded 6:10 2. Champion At Keepin' Them Rolling 2:40 3. Hey Babe, Have You Been Cheatin' 3:04 4. Blind Fiddler 5:05 5. Close The Door Lightly When You Go 3:27 6. My Land Is A Good Land 2:56
	ERIC ANDERSEN	ブルー・リヴァー		1972	フォーク	レコード	日本	70年代初頭、シンガー・ソングライターが脚光を浴びた中でも傑作として名高いエリック・アンダースンの8thアルバム。1972年にコロンビアに移籍して発売した名盤として名高い「ブルー・リヴァー」。ノバート・プットナムがプロデュースを担当したナッシュヴィル録音で、いぶし銀のバック・サウンドが淡々としながらも複雑な心象風景を描いていくエリックの歌を際立たせた名作に仕上げています。荘厳なタイトル曲や、爽やかな「リアリー・ラヴ・アット・オール」など、繊細なロマンティシズムを湛えた名曲揃い! 控え目な演奏も心に沁みる。	**Side A** 1. リアリー・ラヴ・アット・オール 2. パールズ・グッドタイム・ブルース （ジャニス・ジョプリンに捧げるブルース） 3. ウィンド・アンド・サンド 4. フェイスフル 5. ブルー・リヴァー	**Side B** 1. フロレンティン 2. シーラ 3. モア・オーフン・ザン・ノット 4. ラウンド・ザ・ベンド 5. おいでよ僕のベッドに 6. ホワイ・ドント・ユー・ラヴ・ミー
	ERIC CARMEN	サンライズ		1975	ロック	レコード	日本	ラズベリーズ解散後のデビュー作にして最高傑作。ラフマニノフのピアノコンチェルトを織り交ぜた美しいバラード「ALL BY MYSELF」や、「恋にノータッチ」の邦題でヒットした「NEVER GONNA FALL IN LOVE AGAIN」、のちに俳優に転ずるSHAUN CASSIDY（DAVID CASSIDYの弟）によってカバーされた「THAT'S ROCK'N ROLL」（すてきなロックンロール）など名曲ぞろい。	Side A 1. サンライズ[5:22] 2. すてきなロックン・ロール[3:11] 3. 恋にノー・タッチ[3:46] 4. オール・バイ・マイセルフ[7:10] 5. 悲しきラスト・ナイト[2:57] Side B 1. 愛しのマイ・ガール[3:03] 2. 野望[3:04] 3. エヴリシング[1:59] 4. ハンガー・フライ[5:20]	
	ERIC CARMEN	雄々しき翼		1977	ロック	レコード	日本	77年作、ソロ・ヴォーカリストとして大成功したデビュー作から2年ぶりにリリースされたエリック・カルメンのセカンド・アルバムです。「オール・バイ・マイセルフ」の大ヒットにより、元ポップ・バンドのメンバーというイメージを覆すメロディ・メイカーとして知られ、更なる音楽的高みを目指す意欲作となっています。当初はエルトン・ジョンの名プロデューサーであったガス・ダッジョンの指揮下で制作が進められていましたが、結局はセルフ・プロデュースとなりましたが、オーケストレーションを多用したサウンド・プロダクションはそのまま応用され、パワー・ポップでは留まらない普遍性を勝ち得ています。 後に名プロデューサーとしてHEARTやCHEAP TRICK等の再生屋とまで言われたリッチー・ズィトー、TOTOの名ドラマーであった故ジェフ・ポーカロ、BEACH BOYSのブルース・ジョンストン等、多くのゲストが迎えられ、ゴージャスなサウンドに華を添えています。彼のバラード・メイカーとしてのセンスを再認知させたアルバム・タイトル曲、ソウルフルなロック・ヴォーカリストである事も証明した「マラソン・マン」、ウキウキ・ポップとしてのメロディも健在な「愛をくれたあの娘 She Did It」等、名曲が多く含まれています。	Side A 1. 雄々しき翼[4:27] 2. マラソン・マン[3:59] 3. つらい別れ[5:02] 4. .恋はかけひき[4:00]	Side B 1. .恋のすべて[4:20] 2. 愛をくれたあの娘[3:49] 3. 自己をみつめて[4:24] 4. ラン・アウェイ[8:03]
	ERIC CARMEN	チェンジ・オブ・ハート		1978	ロック	レコード	日本	1978年作。3枚目のソロ・アルバム。1曲目の「Desperate Fools Overture」は、流麗なストリングスが印象的なインストゥルメンタル・ナンバー。ラストの「Desperate Fools」と対になっており、タイトル名や郷愁のあるメロディがEaglesの73年の名曲『Desperado / ならず者』を思わせる。続く「Haven't We Come a Long Way / 二人のラヴ・ウェイ」は瑞々しさ溢れるポップ・ロックで、甘酸っぱく爽やかなメロディはEricの真骨頂。グルーヴ感抜群のJeff Porcaroのドラムスも心地よい。「Heaven Can Wait」の甘美なメロディと切なげな歌声は、Ericを代表する名バラード「All By Myself」のよう。この曲は78年の同名映画『Heaven Can Wait / 天国から来たチャンピオン』のために書かれたが、事情があって使われなかったらしい。タイトル曲「Change Of Heart」はファースト・シングルとなり、Billboard Hot 100チャートの19位に到達。バック・ヴォーカルを担当した女性シンガーのSamantha Sangが、同年のデビュー作『Emotion』でこの曲を歌っている。本作の中で一番AORらしい爽やかなナンバーだ。軽快な「Hey Deanie」は男性ポップ・シンガーのShaun Cassidyに贈られ、77年にCassidyの歌で全米7位のヒットを記録した(Cassidyのアルバム『Born Late』に収録)。続くビーチ・ボーイズ風の「Someday」は、Ericの77年のヒット曲「She Did It / 愛をくれたあの娘」(米23位)のB面にカップリングされていた曲である。 ラストでは、ピアノを静かに弾きながら、Ericが「Desperate Fools」を情感豊かに歌う。それを包むストリングスが美しく、スケールの大きな映画を見た後のような、しっとりした後味が残る。ヒットこそしなかったが、Eric Carmenのポップな曲作りのセンス溢れる名盤だ。	Side A 1. デスペレート・フールズ・オーヴァーチュア - 2:05 2. 二人のラヴ・ウェイ - 3:17 3. エンド・オブ・ザ・ワールド - 3:29 4. ヘヴン・キャン・ウェイト - 3:33	Side B 1. 愛をもとめて - 3:17 2. チェンジ・オブ・ハート - 3:30 3. ヘイ・ディニー - 4:26 4. サムデイ - 2:52 5. デスペレート・フールズ - 3:07
	ERIC JUSTIN KAZ	(ペーパースリーブ仕様) イフ・ユアー・ロンリー		1972	フォークロック	CD	日本	1947年ニューヨーク、ブルックリン出身のシンガー・ソングライター。たぐい稀なる才能を持つソングライターエリック・カズの代表作。1972年に発表された『If You`re Lonely』は彼のデビュー作にして、代表作であり、数多くのシンガー・ソングライターの名作が誕生した70年代でも屈指の名盤と言われている。ソウルフルでクールなグルーヴ。そして感動のメロディー。洗練と素朴さのバランスが絶妙な歴史に残る名盤。 エリック・カズのルーズなヴォーカルスタイルは、楽曲の作風に良くマッチしている。あの、デオタードがストリングスアレンジで参加している事や、JAZZ畑の参加が全体的にソウルテイストを醸し出している。 また、エリックの曲は、ボニー・レイット、リンダ・ロンシュタット、アート・ガーファンクルなど多くのアーティストによって歌われ、彼らの心を捉えて離さなかった。	1クルーエル・ウィンド 2イフ・ユアー・ロンリー 3テンプテイション 4タイム・ハズ・カム 5トゥナイト、ザ・スカイズ・アバウト・トゥ・クライ	6クライ・ライク・ア・レインストーム 7マザー・アース 8ウェン・アイム・ゴーン 9サムデイ、マイ・ラヴ・メイ・グロウ 10クライスト、イッツ・マイティ・コールド・アウト サイド
	ERNIE GRAHM	(ペーパースリーブ仕様) アニー・グレアム		1971	ロック(スワンプ・ロック)	CD	日本	1971年作品。2001年にひっそりとこの世を去ったアーニー・グレアムがバブ・ロック・シーンを代表する2大グループ「ブリンズリー・シュウォーツ」と「ヘルプ・ユアセルフ」とのメンバーのサポートを得て完成させた唯一のソロ・アルバム。ボブ・ディラン、ザ・バンドといったアーティスト/グループの影響を滲ませたトラックから哀感を湛えたフォーク・タッチのナンバーまで聴くほどに味わいを増す8曲で構成。 ソロ作としては本作しか発表されていないのにも関わらず、極めて日本で人気が高いのはザ・ダウン・ホーム・リズム・キングスと称してブリンズリー・シュウォルツやヘルプ・ユアセルフのメンバーが全面参加しているためだろうか？ブリンズリーからはブリンズリー・シュウォルツ(g)、ニック・ロウ(b、vo)、イアン・ゴム(g、vo)、ボブ・アンドリュース(k)、ビリー・ランキン(dr)、ヘルプスからはマルコム・モーリー(g、p)、リチャード・トリィース(g)、ケン・ホエリー(b)、デイヴ・チャールズ(dr、vo)、そして彼らに加えてクリス・カニンガム(vln)、ジョン・エイチャラー(vo) らが参加している。楽曲はボブ・ディランをメロディアスにしたかのようなフォーク・ロックでヘルプ・ユアセルフに近いが、より純度が高い。こういう音楽はいつも側に置いておきたい。そう誰しもが思うであろう"間違いのない"名作。バブ・ロックと言うよりも純粋にカントリー／フォーク・ロックの要素が強いとは思うが、そんなジャンル分けなど不要の素晴しい楽曲がズラリと並んでいる。フランキー・ミラーの『Once In A Blue Moon』(こちらもバックはブリンズリー)を更に枯らしたような味わい深い作品である。 グレアムは本作発表後、ヘルプ・ユアセルフにメンバーとして参加、アルバム一枚を完成してから脱退し自らのバンド、クランシーを結成してアルバムを発表している。CD化に際してクランシー解散後の78年にスティッフから発表されたソロ名義のシングルの2曲が追加されている。	1. セベスティアン 2. ソー・ロンリー 3. シー・フィーヴァー 4. ザ・ガール・ザット・ターンド・ザ・レヴァー 5. フォー・ア・リトル・ホワイル	6. ブルース・トゥ・スノーウィー 7. ドント・ウォント・ミー・ラウンド・ユー 8. ベルファスト 9. ロメオ・アンド・ザ・ロンリー・ガール 10. オンリー・タイム・ウィル・テル
	EUROPE	ザ・ファイナル・カウントダウン		1986年発表	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	1986年発表。スウェーデン出身のロック・バンド「ヨーロッパ」の代表作となった3rdアルバム。80年代のポップ・メタルを代表する1枚として名高い大名盤です。北欧メタルという枠から一気に世界的人気バンドとなった。メロディアス・ハード、ヘア・メタルのイメージが本作により定着。全曲がシングル・カット可能なメロディの素晴らしさが目立ち、アルバム・タイトル曲でもあるヒット曲の「ザ・ファイナル・カウントダウン」の他、パワー・バラードの定番曲とも言える「Carrie」等、今聴いても胸ときめく1枚。	**Side A** 1. ザ・ファイナル・カウントダウン 2. ロック・ザ・ナイト 3. キャリー 4. デインジャー・オン・ザ・トラック 5. ニンジャ	**Side B** 1. チェロキー 2. タイム・ハズ・カム 3. ハート・オブ・ストーン 4. オン・ザ・ルース 5. ラヴ・チェイサー

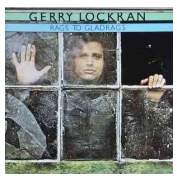
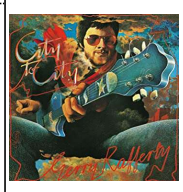
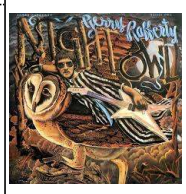
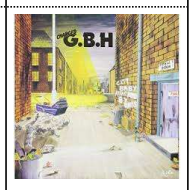
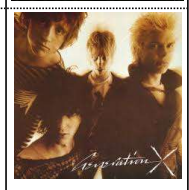
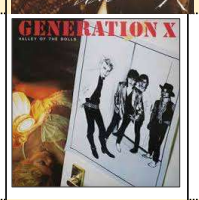
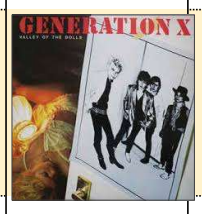
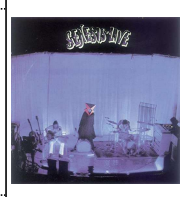
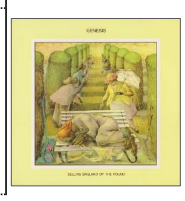
	Eurythmics	イン・ザ・ガーデン		1981	ニューウェイブ	レコード	日本	プロデューサーのコニー・ブランクは80年代テクノを語る上で欠かせない重要なプロデューサー＝エンジニアであり、彼の人脈で、ロバート・ゲール（DAF）やホルガー・シューカイ、ヤキ・リーベツァイト（いずれもCAN）といったゲストが参加している。2作目以後の世界的ヒットと比べると、本作は地味な印象があるが、なかなか聴き応えがある。 物憂げなメロディの上に街頭のざわめき、そして不吉なサイレンの音が重なってゆく＃1。高まりゆくメロディの頂点に、一吹きだけ、ホルガーによるホルンが重なる＃2。チープなシンセのシーケンスや、レジスターの音（＃3）、といった、おそらくはコニーの手による実験的なエフェクトが、アニー・レノックスの実にシンプルな歌詞とあいまって、絶妙な効果を上げている。バグルスの「ラジオスターの悲劇」と並び、ポピュラー音楽において音響や音色による表現が開花した時期の名盤であろう。曲自体はバンシーズ、更にその源流に位置するD.ボウイなんかの影響も感じられ、当時よくあったくぐもったギターサウンドに収まってます。アニーはソウルフルな力強い歌い方をまだ取り入れておらず、静かな透明感のあるボーカルに徹してるのですが、結果的に彼女の声のこの穏やかな透明感が本作品を凡百の「フォロワー」から脱しせしめています。		
	Eurythmics	スイート・ドリーム		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	１９８３年に発売されたユーリズミックスのセカンド・アルバム。「スィート・ドリームズ」はユーリズミックスを世間に知らしめた重要な位置づけを持つアルバムだ。当時のエレクトロポップ・グループの乱立する中、デイヴ・スチュワートの紡ぎだすエキセントリックな旋律とアン・レノックスの声域・声量ともに超弩級のボーカルがここに結実した。彼女のソウルフルなボーカルはまだ前面にフィーチャーされているというほどではないにしろ、収録曲のそこここに彼等の魅力が垣間見え、彼等の時代の幕開けを感じさせる作品だ。高まった緊張感をメロディで切って落とす落差が心地よい＃6「スウィート・ドリームス」の出来はもちろんだが、うめき声による不思議な効果が面白い＃1「ラヴ・イズ・ア・ストレンジャー」やサビの部分にアン・レノックスの魅力がきらめく。「スィート・ドリームズ」は全体に抑え気味の曲が多く、軽快なポップ・アルバムではないが、都会派アダルト指向とでもいうべき一枚だ。		
	Eurythmics	タッチ		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	80sUKエレポップ金字塔の１枚と呼ぶに相応しい傑作セカンドアルバムのSWEET DREAMSばかり常に高評価されがちですが（ファーストは巨匠＆今は亡きCONNY PLANKプロダクションの、セールス面では地味な結果となったアルバムTHE GARDEN）、サードの本作AQUAは音造りにさらなる実験的な要素を加え、サウンド面ではよりクリアな方向に磨きをかけたSWEET DREAMS同様再評価されるべきエレポップ作品なんです。SWEET DREAMS と本作2作品で聴ける独特なドラムマシンの音がとにかく好きです。UK大ヒットナンバーHERE COMES THE RAIN AGAIN(永遠の名曲！！)、RIGHT BY YOUR SIDE、WHO'S THAT GIRLがハイライト的なナンバーですが、アルバム全曲スキップせずにじっくり聴いてほしいです。ラストを飾るPAINT A ROMOURなんて最高にクールなナンバーだと思います。テクノの意志の下に造られたEUTYTHMICSのアルバムは基本的に本作がSWEET DREAMSに続いてラスト＋ANNIE LENOXの素晴らしい歌唱力（THERE MUST BE AN ANGELを聴いたウチの母までヒット当時大絶賛！？）が世界的に注目され始めるのも、より売れ筋ポップ路線に重点を置いて製作される本作以降の作品による様な気がします。取りあえずテクノポップマニアはフルエレクトロの時期の本作と前作SWEET DREAMSはコレクション内に有って当然の事とは思います		
	EVERYTHING BUT THE GIRL	ラヴ・ノット・マネー		1985		レコード	フランス	トレイシー・ソーンとベン・ワットのふたりからなるイギリスのエヴリシング・バット・ザ・ガール。ネオアコシーンに登場し、様々な変遷を経ることで都度変化を遂げながら進化していた素晴らしいバンドです。セカンドアルバムの本盤も良曲満載。"When All's Well"のこれぞネオアコと思える清々しさ。疾走感溢れる弾ける"Anytown"、エヴァーグリーンな良曲"Ballad Of The Times"、バンドの個性を感じられる音が癖になります。写真家ハンフリー・スペンダーの"Worktown People"の1枚を使用したジャケットも印象に残ります。	When All's Well3:00 Ugly Little Dreams2:54 Shoot Me Down4:12 Are You Trying To Be Funny3:16 Sean3:30	Ballad Of The Times3:27 Anytown3:26 This Love (Not For Sale)3:05 Trouble And Strife3:07 Angel5:35
	EXPLOITED	パンクス・ノット・デッド		1981年	パンク	レコード	UK	Oiから進化した音だけに破壊力,疾走感がクラシカルに映ってしまう1作目(81年)。しかし彼らの掲げたスローガン及び武装的服飾はハード・コアのスタイル確立に多大なる貢献を残した。入門者にとってD.チャージの『WHY』が必聴盤。 UKハードコアパンク御三家の他のバンド（ディスチャージ、G.B.H.）と比較すると、彼等が最もオリジナル・パンクの音を引き継いでいたことが良く分かる。ギターの音やリフ、スカスカな録音も初期パンクな味がある。遅れてきた世代にとっては、70'sUKパンクから80's ハードコアパンクがどのように生まれたかということを歴史的に検証できる一枚。「Punks Not Dead」と「I Believe In Anarchy」の2曲は、パンク/ハードコア好きの方には必聴最強ソング。	**Side A** 1. パンクス・ノット・デッド 2. マッキー・バップ 3. コップ・カーズ 4. フリー・フライト 5. アーミー・ライフ 6. ブロウン・トゥ・ビッツ 7. セックス・アンド・バイオレンス	**Side B** 1. S.P.G. 2. ロイアルティ 3. ドール・Q 4. エクスプロイデッド・パーミー・アーミー 5. リッパー 6. アウト・オブ・コントロール 7. サン・オブ・ア・コバー 8. アイ・ビリーヴ・イン・アナーキー
	EXPLOITED	トゥループス・オブ・トゥモロウ		1982年	パンク	レコード	UK	1982年発表2ndアルバム。スピード感、楽曲の完成度、演奏、ジャケットの完璧さなど、全ハードコア・パンク・ファン必聴級のTHE EXPLOITED最高傑作。 1stよりハードコア度は格段にアップした充実の楽曲群はVo/ワッティーの一切の迷いなき豪快な歌いっぷりと共に有無を言わさぬカッコよさである。特にEXPLOITED屈指の名曲「ALTERNATIVE」から、ワッティの赤いモホークで衝撃登場の初期UKハードコア・ドキュメンタリービデオ『UK/DK 』の冒頭を飾った「USA」への流れは完璧である。	**Side A** 1. ジミー・ボイル 2. デイリー・ニューズ 3. ディスオーダー 4. オルターナティヴ 5. U.S.A. 6. レイピスト 7. トゥループス・オブ・トゥモロー	**Side B** 1. U.K.82 2. シド・ヴィシャウス・ワズ・イノセント 3. ウォー 4. ゼイ・ウォント・ストップ 5. ソー・トラジック 6. ジャーム
F	FABULOUS POODLES	理由なき亀裂		1978年	ニューウェーブ	レコード	US	78年リリースのセカンド。スパークスやデフ・スクールと並ぶアート・スクール系バンド。その「UKニュー・ウェイヴの先駆者」。スパークスやミルク&クッキーズといったモダーン・ポップ・バンドのアルバムを手掛けたことで知られるマフ・ウィンウッドが6曲をプロデュース。ジャケットのアートワークはヒプノシスが担当。	**Side A** 1. Mirror Star 4:27 2. Work Shy 3:30 3. Chicago Boxcar 3:56 4. Oh Cheryl 3:25 5. Toy Town People 2:10	**Side B** 1. Mr. Mike 3:38 2. Roll Your Own 2:46 3. 'B' Movies 3:18 4. Tit Photographer Blues 2:48 5. Cherchez La Femme 3:38
	FACES	ファースト・ステップ（デジタルリマスター）		1970	ロック	CD	日本	1969年末ドラマーのケニー・ジョーンズ(vo,g)が中心となって、前身となる4人セールスクエアセスを結成。R&Bをベースにしたサウンドで人気を集めたが、69年にマリオットが脱退。後任としてのちにローリング・ストーンズで活躍するロン・ウッド(g)と、シンガーのロッド・スチュワート(vo)を迎え、バンド名も“フェイセズに改める。70年に『ファースト・ステップ』でデビューし、ロンとロッドが持っている華やかなエンタテインメント性を軸としたグループにシフト。他のメンバーはロニー・レイン(b)、ケニー・ジョーンズ(ds)、イアン・マクレガン(key)。マリオネットの代りに同じくスタイリッシュでR&B好きであったロン・ウッドとロッド・スチュワートが入ってきてくれたことは、ロニー・レーンにとってどれほど嬉しかったことか。さらにウッドとスチュワートがカントリー、英国トラッドの趣味を持っていたことで、ロニー・レーンは自分の色をバンドで出せることになります。 ボブ・ディランの1. Wicked Messenger を除いて、メンバーそれぞれが持ち寄った曲を演奏していながら、アルバムに不思議な統一感があります。5. Around The Plynth なんかは、カントリーの形をとっている割に、とてもプログレッシブな曲。（ツェッペリンもこういう曲をよくやります。）6. Flying も劇的な展開をもつ曲で、フェイセズの抜けるような楽しさとは違う風味を持っています。いろいろな意味でメンバーの創作意欲がうまく結実している作品。ジャケット写真でロン・ウッドが手にしているテキストに「ギターを弾くためのファースト・ステップ」の文字。ベースを無理やり弾かされていたジェフ・ベックへのあてつけ、	1. ウィキッド・メッセンジャー 2. デヴォーション 3. シェイク、シャダー 4. ストーン 5. アラウンド・ザ・プリンス 6. フライング 7. パイナップル＆ザ・モンキー 8. ノーバディ・ノウズ 9. ルッキング・アウト・ザ・ウィンドウ 10. 3つのボタン	
	FACES	ロング・プレイヤー		1971	ロック	レコード	日本	71年発表のフェイセズのセカンドアルバム。1stは実に土臭くて渋い作品だったが、本作ではその土臭さを残しつつも、フェイセスらしさを感じさせる明解さを開花させている。1. の土埃が舞いそうなサウンドもポップなメロディを聞かせているために実に聞きやすい。ロン・ウッドのモコモコ鳴るギターも、イアンのピアノやオルガンも実に味わい深いが、やはりロッドのヴォーカルがあってこそ光るものだと思う。2. はブルース風味のバラード。ロッドのソロにも通じる味わい深い歌唱を聞かせている。3. はトラッド的な美しいメロディを聞かせる穏やかな曲。ベダル・スティールが渋い。4. はロニーが歌う曲であり、スライドが印象的だが、もうすでに後のスリム・チャンスを感じさせる仕上がりになっている。5. はポール・マッカートニーの有名曲のカヴァーのライヴ録音。ロッドのヴォーカルはかなり荒いが、さすがに聞かせてしまう。6. はいかにもフェイセス！！って感じの弾けたロックンロール。9. はスライドのソロだ。 本作と前作は次作と比べるとかなり渋い仕上がりであり、次作で思いっきり弾けるのが不思議なくらい。でもド派手な彼らも魅力だが、本作くらいの渋目の演奏もまた良い。5. や8. のカヴァーあたりに次作への布石を感じる。	**Side A** 1. バッド・アンド・ルーイン 2. テル・エヴリワン 3. スウィート・レディ・メアリー 4. リッチモンド 5. 恋することのもどかしさ	**Side B** 1. リアル・グッド・タイム 2. オン・ザ・ビーチ 3. フィール・ソー・グッド 4. エルサレム
	FACES	馬の耳に念仏（デジタルリマスター）		1971	ロック	CD	日本	フェイセズの代表作であり、アメリカではビルボードで6位[2]、イギリスでは2位を記録した。最大のヒット曲「ステイ・ウィズ・ミー」が収録されている。ジャケットのアートワークはロン・ウッドが手がけ、英米の初回盤には色々な写真や絵をコラージュした特大ポスターが特典として付属した。長いアルバムタイトルはリーダー、ロニー・レーンがつけた。	ジュディズ・ファーム – "Miss Judy's Farm" (スチュワート、ウッド) – 3:42 ユアー・ソー・ルード – "You're So Rude" (レーン、マクレガン) – 3:46 ラヴ・リヴズ・ヒア – "Love Lives Here" (レーン、スチュワート、ウッド) – 3:09 ラスト・オーダー・プリーズ – "Last Orders Please" (レーン) – 2:38 ステイ・ウィズ・ミー – "Stay with Me" (スチュワート、ウッド) – 4:42	サイド 2 デブリ – "Debris" (レーン) – 4:39 メンフィス、テネシー – "Memphis, Tennessee" (チャック・ベリー) – 5:31 ひどいもんだよ – "Too Bad" (スチュワート、ウッド) – 3:16 ザッツ・オール・ユー・ニード – "That's All You Need" (スチュワート、ウッド) – 5:05 パーソネル
	FACES	ウー・ラ・ラ（デジタルリマスター）		1973	ロック	CD	日本	ファイセズ名義の最後のスタジオアルバム。バンド重視するか、ロッド・スチュワートのバックバンドと化すかの選択を突きつけられていた時期の作品。ロッドがメディアに発した「あれは失敗作」という声に失望したロニーレーンは脱退。残されたメンバーは、「あれはロニーレーンのアルバム」と評したといいます。 フェイセスのアルバムはその乾いた音の感触が耳に心地いい。ヒット曲の Cindy Incidentally を含めた全曲に漂う寂しさや殺伐感をあっけらかんとした演奏で通り過ぎていったかのような、良い意味での“やっつけ仕事”な名作です。スワンプ、カントリー風味というのはこのバンドの特徴でもありましたが、ロン・ウッドの歌うタイトル曲はその典型であり、その他の曲ではそこから離れていくような新境地を見せているのも新鮮でした。フェイセスならコレ。ロッドのヴォーカル曲は10曲中6曲（あとはロニー・レイン2曲、ロン・ウッド1曲、インスト1曲）	1シリコン・グロウン. 03:06 2いとしのシンディ. 02:37 3フラッグス・アンド・バナーズ. 02:00 4俺のせいだ. 03:05 5ボースタル・ボーイズ. 02:52 6フライ・イン・ジ・オイントメント. 03:49 7イフ・アイム・オン・ザ・レイト・サイド. 02:36 8グラッド・アンド・ソーリー. 03:04 9ジャスト・アナザー・ホンキー. 03:32 10ウー・ラ・ラ. 03:30	
	FAIRPORT CONVETION	（ペーパースリーブ仕様） フェアポート・コンベンション		1968	フォークロック	CD	日本	68年リリース。フェアポート・コンヴェンションのデビュー・アルバム。エレクトリック・フォークの代表的グループだが、この1stではまだ方向性が定まっておらず、散漫な印象がある。サンディ・デニーも参加しておらず、ヴォーカルはフェアポート脱退直後にクリムゾンの前身バンドへ経てトレイダー・ホーンなるグループで素晴しいアルバムを完成するジュディ・ダイブル、後にカントリー・ロックの路線で優れた作品をたくさん発表するイアン・マシューズなどを配していた。イアン・マシューズは当時はイアン・マクドナルドという名前だったが、クリムゾンのメンバーとの混同を避けるためにマシューズに改名したのは有名な話。他はお馴染みのリチャード・トンプソン、サイモン・ニコル、アシュリー・ハッチングス、マーティン・ランブル。 1. はCSNなどを彷彿とさせるカントリー・ロックだが、コーラスはすでにフェアポートらしさを持っている。2. はジュディの美しいヴォーカルが聴かれるサイケ・ポップ調の佳曲。（ジョニ・ミッチェル作）3. もカントリー調。4. はサイケ・ポップ調の佳曲だが、やはりCSNあたりの影響を感じさせる。5. はディランの曲。 グループの元々の指向が良く表れた作品であり、後に表れるトラッド的な要素は皆無だが、優れたソングライターがたくさん在籍しているだけにオリジナル曲の出来も素晴しく、一般のイメージは完全に払拭する内容だろうと思う。微妙なカントリー風味はあるものの、この時代のサイケ・ポップとしては上等品。	1. タイム・ウィル・ショウ・ザ・ワイザー 2. 私はどこにいるの 3. イフ 4. デカメロン 5. ジャック・オ・ダイアモンド 6. ポートフォリオ 7. チェルシーの朝 8. 太陽の影	9. ざりがに 10. それは魔法 11. ワン・シュアー・シング 12. 挫折 以下、CDボーナストラック 13. スザンヌ 14. イフ・アイ・ハド・ア・リボン・バウ 15. モーニング・グローリー 16. レノ、ネヴァダ
	FAIRPORT CONVETION	（ペーパースリーブ仕様） フル・ハウス		1970	フォークロック	CD	日本	70年発表の5作目。前作でサンディ・デニーとアシュレイ・ハッチングが脱退。デイヴ・ペグが新たに加わり、ずっとゲストととして参加していたデイヴ・スウォーブリックが正式にメンバーとして参加した。全7曲中4曲がトラッドになっており、彼らのイメージ通りの人気作である。初めて女性ヴォーカルがいなくなり、やや違った印象を受ける部分もあるものの、これはこれでなかなか魅力的な作品である。一聴して分かるのは演奏面でのスウォーブリックの活躍だろう。本作の後、リチャード・トンプソンも脱退してしまうが、何となくスウォーブリックの存在の大きさが彼を弾き出してしまったようにも思えてしまうほどだ。全編に流れる彼の滑らかなフィドルは、前作までにあった独特のクセのようなものを緩和しており、作品を非常に聴きやすくしている。このグループにトラッドを取り入れさせたのも彼の前歴からによるものらしく、フェアポートの魅力は彼が担っているとも言えると思う。そんな彼が全面に出たこの作品。サンディ・デニーはいないけれども個人的には最高傑作として挙げたいと思う。リチャードによるハードなエレクトリック・ギターも魅力。味わい深い楽曲が揃っています。	1ウォーク・アワイル 2ドクター・オブ・フィジック 3ダーティ・リネン 4スロウス 5サー・パトリック・スペンス 6フラットバック・ケイパー 7ブア・ウィル&ザ・ジョリー・ハングマン（ボーナス・トラック） 8フラワーズ・オブ・ザ・フォレスト 9ナウ・ビー・サンクフル（モノ）（ボーナス・トラック） 10サー・B.マッケンジー（ボーナス・トラック） 11ボーン・パンチ・オブ・ロッシズ（ボーナス・トラック）	
	FALCO	ロック・ミー・アマデウス		1985年		レコード	日本	オーストリア、ウィーン出身ながら「ロックミー・アマデウス」がアメリカで大ヒットして注目された作品。Falcoの最高傑作にしてポップス、ロックの歴史に残る名作で『ロック・ミー・アマデウス』を筆頭にノリのいい曲が揃っており全曲が最高。 大ヒットしたシングル「ロックミー・アマデウス」は刺激的なヒップホップのビートに乗せてモーツァルトの生涯をラップで歌い込んだ曲は、地元オーストリアをはじめカナダ、ニュージーランド、アイルランド、スウェーデン、ドイツの各国で1位を獲得した。内容は、あの独特の出だしから始まる『Rock Me Amadeus』をはじめとして、皮肉たっぷりの『America』、少女の誘拐を歌うシングルカットされた『Jeannie』や、遊園地テイストの同じくシングルカットされヒットした曲『ViennaCalling』、しみじみとラストを飾る『It's All Over Now Baby Blue』（最後のGosh!が笑わせてくれる）、『Tango The Night 』、『Munich Girls 』等、ハズレが無い。聞いて損はないと断言できる逸品だ。 なお、四作目のアルバム、「Emotional」の『The Sound Of Musik』もオススメ。	**Side A** 1. Rock Me Amadeus 8:22 2. America 3:57 3. Tango The Night 2:27 4. Munich Girls 4:17 5. Jeanny 5:54	**Side B** 1. Vienna Calling 7:39 2. Manner Des Westens'Any Kind Of Land 4:03 3. Nothin' Sweeter Than Arabia 4:47 4. Macho Macho 4:57 5. It's All Over Now, Baby Blue 4:41

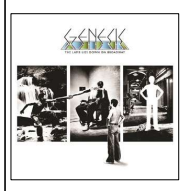
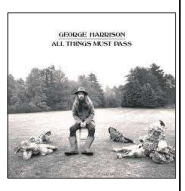
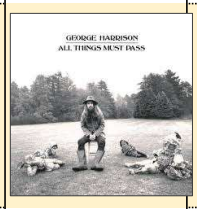
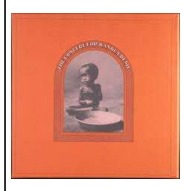
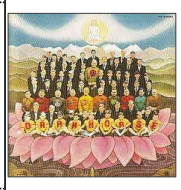
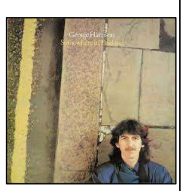
	FASTWAY	ファストウェイ		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	83年作、N.W.O.B.H.M.の名盤の一つとして今も名高いファストウェイのデビュー・アルバムです。MOTORHEADのエディ・ファスト・クラーク、UFOのピート・ウェイが合体した事で話題となり、新たなる名バンドの誕生を大きく期待されましたが、結局ピート・ウェイはWAYSTED結成のため脱退、バンド名にだけその足跡を残します。それでもこのバンドは、元HUMBLE PIEのベテラン・ドラマー、ジェリー・シャーリー、そして若きロバート・プラントと呼ばれた新人ヴォーカリスト、デイヴ・キングの力量がエディの手堅いギターと対等に渡り合い、極上のハード・ロックを聴かせてくれます。現在ではアイリッシュ・パンク・バンド、Flogging Mollyで活躍しているデイヴのヴォーカルは、確かにツェッペリンを強く思わせますが、80年代的なキャッチーを適度に散りばめた爽快、豪快なナンバーはAC/DC的な匂いも感じさせます。（元々はシングル・リリースのみで、CD化に際しボーナス・トラックとして収録された「Far Far From Home」のみ、もろツェッペリン風となっています。）モーターヘッド色は皆無と言っていい程の正統派HRとなったのが意外でしたが、それが逆に新鮮でもありました。彼等が登場した時代は、まだ本家ツェッペリンへの喪失感は強くあったものの、メタルがどんどん新しく洗練されていく過程にあったわけですから、この堂々たるオールド・ウェイヴ指向はなかなか勇気がいったと思われます。当時はツェッペリンの「Rock and Roll」にリフがソックリと言われていた「EASY LIVIN'」は、個人的には歌メロがURIAH HEEPの72年発表の同名異曲、「EASY LIVIN'」に似ている気がしてなりません。ジャケットのセンスの良さ、バンド名のカッコ良さ、リッチー・ブラックモアを美形化した様なエディのルックス、そしてデイヴの端正なヴィジュアルも見栄えが良く、そのサウンドの渋さとの対比がまたユニークでもあったバンドです。		
	FASTWAY	オール・クビク・アップ		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	UK	1984年発表の2ndアルバムで、内容のほうは、1st同様70年代HRスタイルのオールドブリティッシュハードをやっており、ツェッペリン等が好きな方にお勧めのアルバム。アルバム・タイトルにもなっているALL FIRED UP等、良い曲も収録されている。以降バンドはメロディアス・ハード・バンドとして知られる様になっていきます。		
	FEELIES	クレイジー・リズム		1980	ニューウェーブ	レコード	日本	80年代のUSインディロックを語る上では欠かせない名ギター・ポップ・バンド、ザ・フィーリーズのファースト・アルバム。ニュージャージー出身。グレン・マーサーを中心として1976年にバンド結成。当時はR.E.M.と並ぶ人気を獲得していた。また、ベル・ウブの初期ドラマーにして、ラウンジ・リザーズ、ゴールデン・パロミノスのメンバーでもあった「アントン・フィア」在籍時の80年の1stアルバムがこれ。テレヴィジョンのような淡々としていながらも内面では静かに燃えている感覚を1曲目を聴いたときに受けましたが、2曲目、3曲目と進んでいくうちにサイケデリック色、アート色が強まっていき、ラストのストーンズのカヴァーまでのめり込んで聴いてしまいました。繊細に絡み合う2本のギター、力強く独特の場を生み出すドラミングも聴き所です。 フィーリーズは4枚のアルバム『クレイジー・リズム』(1980)『ザ・グッド・アース』(1986)『オンリー・ライフ』(1988)『タイムス・フォー・ア・ウィットネス』(1991)をリリース後、1992年に解散。2008年に再結成し、ライヴ活動を開始。2011年には約20年ぶりとなる5枚目のアルバム『ヒア・ビフォア』をリリースした。	**Side A** 1. The Boy With the Perpetual Nervousness 2. Fa Ce-La 3. Loveless Love 4. Forces At Work	**Side B** 1. Original Love 2. Everybody's Got Something to Hide (Except Me and My Monkey) 3. Moscow Nights 4. Raised Eyebrows 5. Crazy Rhythms
	FINE YOUNG CANNIBALS	ファイン・ヤング・カーニバルズ		1984	ポップス	レコード	UK			
	FIRM	ファーム		1984	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	84年、ザ・ハニー・ドリッパーズという超ビッグ・プロジェクトにより、ツェッペリン伝説がまた更に動き出したかの様に思われましたが、ロバート・プラントはマイ・ペースを維持し、時代と向き合うかの様に果敢にハード・ロックのモダンな解釈を続けていました。一方のジミー・ペイジは85年、なんとロック界の名ヴォーカリスト、ポール・ロジャースと合体し、この二大巨頭によるザ・ファームを結成しました。ベースには後にBLUE MURDERへの参加で注目されるトニー・フランクリン、ドラムにはやはり後にAC/DCへの参加で名を上げるクリス・スレイドと、質実剛健と言えるリズム隊をバックにしています。ツェッペリン崩壊後、サントラとしての「ロサンゼルス」を発表したものの、その名声を自ら壊す様な中途半端な出来に不満を覚えていたロック・ファンは、本作により一時的に溜飲が下がる思いをしたのでした。この人独特の扇情的なリフが所々見られるのですが、基本はポール・ロジャース色が強いと思われ、古典的でありながら愛すべきブリティッシュ・ハードを展開してくれています。そのロジャース作の「Radioactive」は、NEW WAVE的な味わいを持つユニークなナンバーとなり、シングル・ヒットとなった事により、このOLD WAVEの代表格である二人がシーンを再び沸かす事に成功します。ライチャス・ブラザースの64年の大ヒット曲、「ふられた気持ち YOU'VE LOST THAT LOVIN' FEELING」のカヴァーや、BAD COMPANY再燃といったバラード、「MONEY CAN'T BUY」も、ロジャースの真骨頂といったところでしょう。個人的にはオープニングの「CLOSER」でのペイジ特有のリフと、ファンキーなノリを聴くと、どうしてもロバート・プラントのヴォーカルを思い出してしまうのですが、こうしたツェッペリン色をかなり意識的に控えているのが少しもどかしい気もします。		
	FLEETWOOD MAC	(ペーパースリーブ仕様) ピーターグリーンズ・フリートウッド・マック		1968	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	68年発表の1st。チキン・シャック、サヴォイ・ブラウンと共に3大英国ブルース・バンドの一つとして語られるマックのデビュー作。英国ではチャートの4位まで登った。メンバーはピーター・グリーン(vo、g)、ジェレミー・スペンサー(vo、g)、ジョン・マクヴィー(b)、ミック・フリートウッド(dr)の4人で3. のみ最初期のメンバー、ボブ・ランニングがベースを担当しているピーター、ジョン、ミック3人がジョン・メイオールのグループの出身である。 チューニングから始まる生々しくも荒々しい演奏が御機嫌であり、曲が始まるとゾクゾクくるほどだ。どっしりとしたリズム隊と自由奔放に唸りまくるギターの絡みは後のマックからは想像も付かないまた別の次元の素晴しい演奏であり、ヴォーカルもハープも唸ってしまうほど渋い。ブルース・ロックの代表的な一枚として絶対に押さえるべき名盤だと思う。輪郭のハッキリとしたクリアな録音もこの時代のものとしてはかなりのクオリティである。蛇足だがジャケットも秀逸。再発盤ではリハーサル音源を追加したものもある。	1My Heart Beat Like a Hammer 2Merry Go Round 3Long Grey Mare 4Hellhound on My Trail 5Shake Your Moneymaker 6Looking for Somebody 7No Place to Go 8My Baby´S Good to Me 9I Loved Another Woman 10Cold Black Night 11The World Keep on Turning 12Got to Move	
	FLEETWOOD MAC	英吉利の薔薇		1969	ハードロック	レコード	日本		**Side A** 1. Black Magic Woman 2:48 2. I've Lost My Baby 4:17 3. One Sunny Day 3:12 4. Without You 4:40 5. Coming Home 2:40 6. Albatross 3:09	**Side B** 1. Stop Messin' Round 2:22 2. Jigsaw Puzzle Blues 1:36 3. Doctor Brown 3:46 4. Something InSide Of Me 3:57 5. Evenin' Boogie 2:42 6. Love That Burns
	FLEETWOOD MAC	神秘の扉		1973年10月15日	ハードロック	レコード	日本	前作発表後、デイヴ・ウォーカー(vo) とスティーヴ・ナイ(k) が一枚きりで脱退。音楽性を整理して、またヤードバーズの出世作の11. を取り上げるなど売り上げを意識した作品作りが行なわれている。1. はブルース・ロックをベースにした曲で、クラプトン風のリード・ギターも聞き物だが、既に大ヒット時代のポップ性も感じられる仕上がりを見せており、楽曲としての完成度は貫禄すら感じさせるものがある。2. はクリスティンによる幻想的なピアノによるイントロを加えつつも一気にカントリー風味も感じさせるスピーディーなロックンロールとなる。こらもドゥービーズあたりに通じるヒット性の高い仕上がりを見せており、良い意味での売れ線を意識した楽曲と言えると思う。3. は骨太なベースとピアノ、スライド・ギターを導入したポップ・チューン。土臭さは残るものの、キャッチーなメロディはリンジー＆スティーヴィー参加後の作品と比べても全く見劣りはしない。佳曲の多いクリスティンの曲の中でもベストのものの一つであろう。5. はリズム・ボックスを導入したサンバ。楽曲はどれもかなり錬られた印象を受け、シングル・ヒットを狙ったかのようなキャッチーなものが多い。本作はリンジー＆スティーヴィー時代以前とは『枯れ木』の次に売れた作品とのことだが、そうした事実がそのまま裏付けられる隠れた名作である。本作発表後、ボブ・ウェストンが脱退する。ブルース・バンドからハイセンスなアメリカン・テイスト・バンドになってしまったフリートウッド・マックですが、ここに至る過渡期にボブ・ウエルチなる人物が絡みまして、実にユニークなアルバムを数枚出しております。アルバム中でも「シティ」と「サムバディ」がお気に入りです。特に「サムバディ」のバックコーラスがなんともいえません。ヤードバーズの「フォー・ユア・ラブ」のアレンジは意外とよくドラマチック。	**Side A** 1. エメラルドの瞳 2. ビリーヴ・ミー 3. ジャスト・クレイジー・ラヴ 4. ヒプノタイズド 5. フォーエヴァー 6. キープ・オン・ゴーイング	**Side B** 1. ザ・シティ 2. マイルス・アウェイ 3. サムバディ 4. 感じるままに 5. フォー・ユア・ラヴ 6. ホワイ
	FLEETWOOD MAC	クリスタルの謎		1974年9月13日	ハードロック	レコード	日本	グループにとって、フロントマンであったボブ・ウェルチ在籍の最後のアルバム。全11曲中、ボブウェルチの作品が7曲を占める。このアルバムは初めてビルボードのトップ40入りを果たした。過渡期のアルバムではありますが、ボブウェルチ独特の（ちょっと変わった）ポップセンスが炸裂した名盤。全体を通すと、ブルース、R＆B、カントリー、フュージョンなどバラエティー豊かな音が聴ける。ウェルチお得意のポップ路線の曲も良い。本当のロック好きは『クリスタルの謎』に行き着くはず。silver heelsはボブ・ウェルチの隠れた名曲。	**Side A** 1. ガラスのヒーロー（Heroes Are Hard to Find）– 3:35 2. カミング・ホーム– 3:52 3. エンジェル – 3:55 4. バーミューダ・トライアングル –4:08 5. リトル・ビット・クローサー（Come a Little Bit Closer）– 4:45	**Side B** 1. シーズ・チェンジング・ミー – 2:58 2. バッド・ルーザー– 3:25 3. シルヴァー・ヒールズ – 3:25 4. 私を見つめて（Prove Your Love）– 3:57 5. 魔法使い（Born Enchanter）– 2:54 6. 秘密の隠れ場所（Safe Harbour）– 2:32
	FLEETWOOD MAC	ファンタスティック・マック		1975年7月11日	ロック	レコード	日本	リンジー・バッキンガム&スティーヴィー・ニックス加入で黄金期に突入したフリートウッド・マック!クリスティン・マクヴィーと共に強力ウーマン・パワーで、センシティヴなフォーク・ロックを聞かせ、全米第1位を獲得の1975年作品。スマッシュ・ヒットの「マンデイ・モーニング」「リアノン」他、全11曲収録。 この当時、マックのメンバーは4人。キャリアはそれなりにあったとしても、コアなブルーズに向かおうとする「若さ」が最大の魅力。長いマックのキャリアのオープニングを飾るのは、意外にもジェレミー・スペンサーのMy Heart Beat Like a Hammer。もろエルモア・ジェイムズのギターと、わざと野蛮な歌い方をしているところが、微笑ましくもカッコよい。マックは不思議なグループで、リズム・セクションの二人の名前がバンド名のわりには、（交代する）フロントのギタリスト、ボーカリストの顔でグループの性格をコロコロ変化させていきます。貫いているのは、抑制されたリズムの味。実に手堅い仕事で、どんなタイプのギタリストが来ても盤石。ピーター・グリーンのギターと声がこの作品の最大に良いところだ	**Side A** 1. マンデイ・モーニング 2. ウォーム・ウェイズ 3. ブルー・レター 4. リアノン 5. オーヴァー・マイ・ヘッド 6. クリスタル	**Side B** 1. セイ・ユー・ラヴ・ミー 2. ランドスライド 3. ワールド・ターニング 4. シュガー・ダディ 5. アイム・ソー・アフレイド
	FLEETWOOD MAC	噂		1977	ロック	レコード	US	1967年にイギリスロンドンで結成。当初はブリティッシュ・ブルースロックとしてスタートし、1970年代半ばにソフトロック路線に転換して成功を収めた。「噂」は13枚目のスタジオ・アルバム。当時のライン・ナップで録音した2作目。全米1位を獲得し年間でも1位となり、全英でも最高1位、各国でも1位を記録し累計4,000万枚以上の売上を記録し、現在2020年10月に約42年ぶりに全米で再び7位までチャートインしている驚異のアルバム。1978年にグラミー賞の最優秀アルバム賞を獲得した。	**Side A** 1. セカンド・ハンド・ニュース（Lindsey Buckingham）– 2:43 2. ドリームス（Stevie Nicks）– 4:14 3. もう帰らない（Buckingham）– 2:14 4. ドント・ストップ(Christine McVie) – 3:11 5. オウン・ウェイ – Go Your Own Way (Buckingham) – 3:38 6. ソングバード（C. McVie）– 3:20	**Side B** 1. ザ・チェイン（Nicks, Buckingham, C. McVie, John McVie, Mick Fleetwood）– 4:28 2. ユー・メイク・ラヴィング・ファン（C. McVie）– 3:31 3. アイ・ドント・ウォント・トゥ・ノウ（Nicks）– 3:11 4. オー・ダディ（C. McVie）– 3:54 5. ゴールド・ダスト・ウーマン（Nicks）– 4:51
	FLYING LIZARDS	ミュージック・ファクトリー		1980	ニューウェーヴ	レコード	日本	80年発表の1st。フライング・リザーズことデヴィッド・カニンガムのデビュー作。パンク/ニュー・ウェイヴ時代のキワモノの一つとも言える作品だが、いわゆる実験音楽的なものではなく、セカンド・シングルの6. は全米34位、全英5位のヒットを記録するなどロック/ポップスの範疇に入るものである。ではどこがキワモノかというと演奏経験のほとんどないド素人が、空き缶やダンボールを叩いたりしたものを多重録音したりして有名曲のカヴァーを制作したり、テープの早回しのバック・トラックに素人の女性ヴォーカルを乗せてみたりとプロならやり得ない手法をあえて（何も考えずに）実践している点だと思う。発想としてはディーヴォあたりにも通じる部分もあるのだが、こちらは電子楽器をほとんど使っておらず、ガラクタがメインになっているため全く別物にしか聞こえない。アイデア中心でかなり稚拙な演奏はさすがにチープだが、その手作り的な質感は他の多くの作品の中でも新鮮だと思う。たった6ポンドで作ったという6. は金もない、技術もない、メンバーもいない人物が発想だけで作り上げた楽しい一曲である。技術至上主義の対極にある作品なだけにある意味で最もパンク的とも言える。曲はポップなものが多くダブ的な曲もあり。とにかくインパクトが凄まじい。	**Side A** 1. マンダレイ・ソング 2. ハー・ストーリー 3. TV 4. ロシア 5. サマータイム・ブルース	**Side B** 1. マネー 2. ザ・フラッド 3. トラブル 4. イベンツ・デュアリング・フラッド 5. ザ・ウィンドウ
	FLYING LIZARDS	ミュージック・ファクトリー		1980	ニューウェーヴ	CD	日本		以下、CDボーナストラック 11. ール・ギターズ(ボーナス・トラック) 12. チューブ(ボーナス・トラック) 13. マネー(シングル・エディット)	

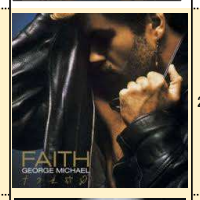
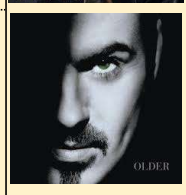
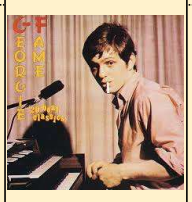
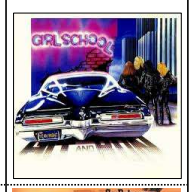
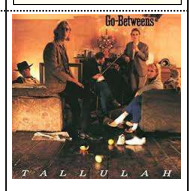
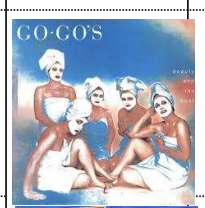
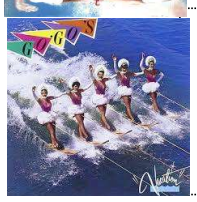
	FOCUS	(ペーパースリーブ仕様) ムーヴィング・ウェイヴズ		1971	プログレ	CD	日本	71年発表の2nd。前作発表後、リズム隊のチェンジなどを経て再編された新生フォーカスの第一弾。元々はブルース系のレーベルであった英国のブルー・ホライズンと契約してマイク・ヴァーノンのプロデュースで本作を制作／発表。本作からいきなりワールド・ワイドな活動を展開することとなる。もっともグループは本作発表後、ホリドールに移籍してそこから本作を再発。全英2位、全米8位の大ヒットを記録するが、大成功の影には演奏／楽曲の質の高さ以上のしたたかさという実力があったことも付け加えたい。アルバムはアナログ時代の片面全てを使った23分超の大作6. と小品5曲を収録した前半という構成になっており、正にプログレ仕様といった作品と言える。 1.は弾力のあるヘヴィなギターが引っ張るハード・ロック・チューンで、彼等の特徴でもあるヨーデルを取り入れたヴォーカルも印象的。路線としてはユーライア・ヒープにかなり近い曲だが、先のヴォーカルの珍妙な味わいによって個性も強く出ている。新加入のドラムスは主張も強いのかミックスも生々しく音も全面に出ており、曲に躍動感を与えている。何にしてもこの曲は彼等の代表曲の一つであることは間違いなく楽曲そのものは元より、構成を含めて完成度は極めて高い。アイディアを次から次へと放り込んで練り込んだかのような展開は聞き物である。2. はアコギとメロトロンを中心としたインストのプログレ・バラード。転調などを含めてクリムゾンの影響を強く感じるが、トリルを含めた美しいギターのプレイには強い個性を感じる。3. もフルートの旋律にはクリムゾンの影響を強く感じるが、ガッシリとしたロックよりのドラムスが土台をしっかり支え重さを加えている。何にしてもフルートの和声が美しい曲で、一聴で人の心を掴むであろう佳曲である。4. はエニドを思わせるクラシカルで美しいヴォーカル曲。6. にはEL＆Pの影も散らつく。 前作にあったくぐもった雰囲気は一掃されメジャーな雰囲気が一気に強まっている。弱かったヴォーカルもヨーデルなどを導入して強化されており、インスト中心の作品の中での聞き物にまで昇華されている。クリムゾンからの影響もかなり伺えるが、それはむしろプログレ・ファンにとっては魅力だろう。		
	FOGAHT	フォガット		1972	ハードロック	レコード	日本	72年作、ブリティッシュ・ハード史において見逃す事のできないハード・ブギ・バンド、フォガットの記念すべきデビュー・アルバムです。60年代から活躍する名バンド、サヴォイ・ブラウンのメンバーだったデイヴ・ペヴァレット、ロジャー・アール、トニー・スティーヴンズが、FREEに参加する前にポール・コゾフとサイモン・カークが在籍していたBLACK CAT BONESのギタリストであったロッド・プライスを加えて結成されたのが、このフォガットでした。ツイン・リードによる単純明快なリフの応酬と、ブルース臭さを感じさせないハード・ロック感覚は、同時代の英国ハード勢の中でも異色と言える存在だったと思います。バンドはトッド・ラングレンが所属していた事で有名なアメリカのレーベル、BEARSVILEからデビューを果たします。豪快なドライヴィング感覚と、キャッチーなメロディのせいもあり、彼等はアメリカでも人気を得る事に成功します。プロデューサーはパブ・ロック界のボス、デイヴ・エドモンズ。この人はパワー・ポップ的な軽快なロックンロールを得意としている職人ですが、本作ではフォガットのライヴ感覚溢れるバンド・サウンドを見事にパッケージしていると思います。マディ・ウォーターズの「I JUST WANT TO MAKE TO YOU」、チャック・ベリーの「MAYBELLINE」のカヴァーが、見事に70年代ハード・ロックとして成立していて、陽気なAC/DCとでも言えそうな痛快さがすでに確立されています。ブギ、ブルースといったキーワードで語られがちなバンドですが、実はかなり間口が広い人達で、「SARAH LEE」では大らかなアメリカン・ハード的センス、「A HOLE TO HIDE IN」ではガッツ溢れる哀愁ハード・ロック、「GOTTA GET TO KNOW YOU」ではメロウな泣き節も披露してくれています。	**Side A** 1. 君を愛したい I Just Want To Make Love To You 4:18 2. トラブル・トラブル Trouble, Trouble 3:16 3. リーヴィン・アゲイン Leavin' Again (Again) 3:34 4. 迷声の殿堂 Fool's Hall Of Fame 2:57 5. サラ・リー Sarah Lee 4:33	**Side B** 1. ハイウェイ Highway (Killing Me) 3:47 2. メイビリーン Maybelline 3:32 3. ホール・トゥ・ハイド・イン A Hole To Hide In 4:06 4. ゴッタ・ゲット・トゥ・ノウ・ユー Gotta Get To Know You 7:42
	FOGAHT	電撃のフォガット		1974	ハードロック	レコード	日本	フォガットのサードアルバム、1974年発表です！サヴォイ・ブラウンのメンバーがごっそり脱退して作られたフォガットがポップでロックなハード・ブギー・バンドとしての音楽性をはっきり確立したのは、このアルバムから。1曲目の「Train Kept a Rollin' 」（このアルバムだと「Honey Hush」というタイトルになってます）のアレンジが、ヤードバーズやオリジナルのビッグ・ジョー・ターナーとまるで違って、えらくハード！でもどこかポップ。つまり、フォガットな感じです(^^)。それは、バディ・ホリーの「That'll be The Day」も同じで、ギターがドライブしまくってロック、でも曲はポップ。グランド・ファンクがやった「Locomotion」みたいなもんですね。個人的に大好きなのが、超傑作アルバム『Foghat Live』にも入っていた「Home in My Hand」。スタジオ録音はホーンセクションが入ってさらにポップ、でもギターはギュインギュインいってしかもむっちゃくちゃうまいので、えらくロックでもある所がたまりません。フォガットは、リード・ギターにブラックキャット・ボーンズのロッド・プライスを連れてきたところが成功の原因だったんじゃないでしょうか。ロッド・プライスが図抜けてうまく、しかもロックなんですよね。同時期のロックでポップなバンドというと、AC/DC とかエアロスミスとか色々いますが、フォガットはさすがスタジオミュージシャンの集団だけあって演奏のレベルが違いました。また、イギリスのバンドだけあってアメリカのロックバンドの雑さやいなたさとは無縁で、洗練されてます。曲もいいし、ベアズヴィルというローカル・レーベルと契約しなければもっと売れていたバンドなのかも。	**Side A** 1. Honey Hush 4:19 2. Step OutSide 6:18 3. Golden Arrow 4:03 4. Home In My Hand 5:09	**Side B** 1. ild Cherry 5:27 2. That'll Be The Day 2:33 3. Fly By Night 4:47 4. Nothin' I Won't Do 6:54
	FOGAHT	シティ・ロックン・ロール		1975	ハードロック	レコード	日本	75年作、フォガットの通算5作目にして彼等最大のヒット作となった1枚です。 ステイタス・クォーと並び、英国の2大ハード・ブギ・バンドとして知られていますが、フォガットはアメリカで絶大な人気を誇る事からもカラッとしたハード・ロック感覚が個性となっていて、本作ではその醍醐味を余すところ無く発揮しています。 ウィリー・ディクスン作、ブレスリーやイアン・ギランやロジャー・グローヴァーが在籍していたエピソード・シックスがカヴァーした事でも有名なブルース・クラシックの「MY BABE」、デルタ・ブルースの父、ロバート・ジョンソンの「TERRAPLANE BLUES」のカヴァーも、湿り気を感じさせずにカラッとしたハード・ロックにしてしまうセンスこそがアメリカで受けたのだと思います。 シングル・ヒットした「SLOW RIDE」や、アルバム・タイトル曲等は、アメリカン・ハードとも言えそうな陽気さが心地良く、ツイン・リードの豪快さに思わず体が反応してしまいます。 ラスト・ナンバーの「TAKE IT OR LEAVE IT」では、洗練されたメロウなセンスも披露、これも初期ドゥービー・ブラザーズやサザン・ロック系のバンドが演っていてもおかしくないものとなっています。 ジャケットのすっとぼけた雰囲気はいかにも英国的ですが、70年代アメリカン・ハードとしても聴けてしまう実に爽快な1枚です。	**Side A** 1. シティ・ロックン・ロール 4:32 2. マイ・ベイブ 4:36 3. Sロー・ライド 8:13	**Side B** 1. テラプレーン・ブルース 5:44 2. セイブ・ユア・ラヴィング 3:31 3. ドラヴ・ミー・ホーム 3:54 4. テイク・イット・オア・リーヴ・イット 4:59
	FOGAHT			1977	ハードロック	レコード	日本	Foghatは、イギリスのグループながらアメリカンテイストが強く、ブギーやブルース色の強い3人組とは思えないハードなロックを聴かせてくれたグループ。このアルバムは77年の彼らの7枚目のアルバムにあたる初のライヴ盤。曲数は6曲と少ないですが、それまでのヒット、メジャーな曲が並んでおり、ベスト盤的なラインアップになっています。ロックのライヴ盤としては迫力、パワーとも有数の名盤。メンバーは、ロンサムデイヴビヴァレット（Vo／G）・ロッドプライス（G）・ロジャーアール（Dr）・クレイグマックレイガー（B）・・・今は亡き二人のギターの鳴りは最高。	**Side A** 1. フール・フォー・ザ・シティ 5:29 2. ホーム・イン・マイ・ハンド 4:54 3. アイ・ジャスト・ウォント・トゥ・メイク・ラヴ・トゥ・ユー 8:35	**Side B** 1. ロード・フィーヴァー 5:27 2. ハニー・ハッシュ 5:36 3. スロウ・ライド 8:49
	FOOLS	ソールド・アウト		1980	ニューウェーヴ	レコード	日本	ストン出身の4人組フールズ1980年作。彼らを一躍有名にしたのは何と言ってもトーキングヘッズ「サイコ・キラー」をパロディー化した「サイコ・チキン」。元々アルバムのおまけとして付いていたレコードの収録曲だったためUS盤には入っていなかったが、日本盤ではヒットに合わせて追加収録されている。	**Side A** 1. Night Out 3:04 2. Fine With Me 3:18 3. Don't Tell Me 3:36 4. Sold Out 3:22 5. Sad Story 4:26 6. Psycho Chicken (Beeped) 3:18	**Side B** 1. Mutual Of Omaha3:45 2. It's A Night For Beautiful Girls3:54 3. Spent The Rent2:46 4. Easy For You 3:35 5. I Won't Grow Up 2:06
	FOREIGNER	栄光の旅立ち		1977	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	77年作、フォリナーの記念すべきデビュー・アルバムとなった1枚です。 時代はパンクの夜明けが近づいていた頃ですが、元スプーキー・トゥースのミック・ジョーンズと元キング・クリムゾンのイアン・マクドナルドの合体がされたフォリナーはスーパー・グループと話題になりました。 そのイアン・マクドナルドのフルート、サックスが絡むキャッチーなハード・ロックと、ルー・グラムのソウルフルなヴォーカルは、当時ではかなりユニークであったと思います。 プログレ・ハードとされる事も多い彼等ですが、本作に限って言えば、間違いなく新世代のハード・ロック・バンドであり、80年代を予見していた先見性を持っていたと思います。 「衝撃のファースト・タイム」、「つめたいお前」等の初期の代表曲が、今も強烈なインパクトを誇っています。	**Side A** 1. 衝撃のファースト・タイム 2. つめたいお前 3. スターライダー 4. ヘッド・ノッカー 5. ダメージ・イズ・ダン	**Side B** 1. ロング、ロング・ウェイ・フロム・ホーム 2. ウーマン・オー・ウーマン 3. 人生は闘い 4. お前に夢中 5. アイ・ニード・ユー
	FOTOMAKER			1978	ニューウェイブ	レコード	US	元ラスカルズのジーン・コーニッシュ、ディノ・ダネリ、元ラズベリーズのウォーリー・ブライストンが結成した'78年最大のホープとして1978年に発表されたファーストアルバム。「輝ける未来を約束された彼らの名はフォト・メーカー」というタイトルで日本では売られていた通りにメロディーは確りとした素晴らしいアルバムだった。ジャケットも印象的で良かったが次のアルバムでは正反対のお爺さんがジャケットとなり正直怖くて買いたくない（笑）ジャケットの一つ。音はこの時代のパワーポップで美しいポップなメロディが素晴らしくロック色もしっかり出ている。全体的には平均以上の仕上がりだと思うが、インパクト的な部分で普通な印象になってしまっている感がいまひとつ抜き出すことが出来なかったのではないかと思う。メロディーも確りしているので売れなかったのはとてお惜しいグループだ。	**Side A** 1.どこにも行かないで 2.この愛に救いを 3.魅せられし瞳 4.愛の魔力 5.ジ・アザー・サイド	**Side B** 6.セイ・ザ・セイム・フォー・ユー 7.プレイシング 8.時の流れ 9.恋のつらさがわかるかい 10.ルーズ・アット・ラヴ
	FRANKIE GOES TO HOLLYWOOD	ウェルカム・トゥ・ザ・プレジャードーム		1984	ニューウェイブ	レコード	UK	1983年にZTTレーベルからデビューし、デビュー曲の「リラックス 」が全英、全米共に1位となるが放送禁止となってしまう。また、トゥ・トライブス全英で9週連続1位を記録。デビューアルバムも全英、全米共に1位となる。		
	FRANKIE MILLER	(ペーパースリーブ仕様) ワンス・イン・ア・ブルー・ムーン		1973	ロック（スワンプ・ロック）	CD	日本	ソウル・ミュージックの影響色濃いその歌声からロバート・パーマーらと並称されるフランキー・ミラーが、ニック・ロウが在籍したことで知られるパブ・ロックの雄、ブリンズレー・シュウォーツの全面的なバックアップを得てレコーディングした1973年のファースト・アルバム。同時代の米ポピュラー・ミュージックに対する憧憬も顕わな大らかなアンサンブルとミラーのざらついた歌声が絶妙に融和した傑作。	1. You Don't Need To Laugh（To Be Happy） / ユー・ドント・ニード・トゥ・ラフ 2. I Can't Change It / アイ・キャント・チェンジ・イット 3. Candlelight Sonata In 'F' Major / キャンドルライト・ソナタ・F長調 4. Ann Eliza Jane / アン・エリーザ・ジェイン 5. It's All Over / イッツ・オール・オーヴァー	6. In No Resistance / イン・ノー・レジスタンス 7. After All（I Live My Life） / アフター・オール 8. Just Like Tom Thumb's Blues / 親指トムのブルースのように 9. Mail Box / メイル・ボックス 10. I'm Ready / アイム・レディ
	FRANKIE MILLER	(ペーパースリーブ仕様) ハイ・ライフ		1974	ロック（スワンプ・ロック）	CD	日本	フランキー・ミラーが1974年にリリースしたセカンド・アルバム「ハイ・ライフ」。アラン・トゥーサンのプロデュースによって米国アトランタでレコーディングされたアルバムでアラン・トゥーサンがピアノ、オルガン、コンガで参加しています。米国南部風メロウ・ファンク・サウンドをバックにしたフランキー・ミラーの力強いボーカルが堪能できる名作。	1. High Life 2. Play Something Sweet (Brickyard Blues) 3. Trouble 4. A Fool 5. Little Angel 6. With You In Mind 7. The Devil Gun 8. I'll Take A Melody	9. Just A Song 10. Shoo-Rah 11. I'm Falling In Love Again 12. With You In Mind 以下、CDボーナストラック 13. Brickyard Blues (live) 14. The Devil Gun (live) 15. If You Need Me (live) 16. With You In Mind (demo)
	FRANKIE MILLER	ザ・ロック		1975	ロック（スワンプ・ロック）	レコード	日本	スコットランド出身のブルーアイド・ソウル・シンガー、フランキー・ミラーがフランキー・ミラー・バンド名義で1975年にリリースしたサード・アルバム「ザ・ロック」。エリオット・メイザーのプロデュース（ジャニス・ジョプリン（＆ピック・ブラザー）「Cheap Thrills」やニール・ヤング「Harvest」を手掛けた）によって米国サンフランシスコでレコーディング。英国スワンプを代表する名作！「フランキー・ミラー・バンド」名義でアルバムを発表したことからも察せられるが、バンド編成にこだわり、ロック色を強めたアルバムで、Grease Bandのヘンリー・マックローのギターが全曲で聴けるのが最高で、アーシーなスワンプ・ロック・サウンドをバックにしたフランキー・ミラーの黒く力強いボーカルが堪能できる名作。Henry McCullough の他、ワインダー・K・フロッグことミック・ウィーヴァーらのメンバーは米国南部サウンドに傾倒しており、アーシーさとスワンプ感を漂わせた骨太なもので、「米国憧憬の英国サウンド」もしくは「イギリスのアメリカ」の典型的なものでしょう。 捨て曲一切無し！リズムナンバー、バラード、アコースティックなフォーキーソングすべて文句なしの出来です。そしてなんといっても、アメリカの黒人ソウル・シンガーと間違えてしまいそうなミラーのヴォーカルは素晴らしいの一語に尽きます！ジョー・コッカーのバック・バンドとして有名なグリース・バンドやポール・マッカートニーのウイングス等のギターリストとして知られるヘンリー・マックローやワインダー・K・フロッグことミック・ウィーヴァーが参加。後にシェールやボブ・シーガーがカバーした「エイント・ガット・ノー・マネー」やフリーのベース奏者、アンディー・フレイザーと共作し、後にUFOがカバーした「ア・フール・イン・ラヴ」収録。	A面 1. A Fool in Love 3:02 2. The Heartbreak 4:01 3. The Rock 3:32 4. I Know Why the Sun Don't Shine 5:59 5. Hard on the Levee Miller 3:15	B面 1. Ain't Got No Money 2:53 2. All My Love to You 5:35 3. I'm Old Enough 4:50 4. Bridgeton 4:45 5. Drunken Nights in the City 3:51
	FRANK ZAPPA & THE MOTHERS OF INVENTION	フリック・アウト！		1966	オルタナティブ	レコード	US	当時相当の衝撃をもって迎えられたデビュー作にしてロック界初のダブル・アルバム。ジャケットにはザッパが影響を受けた179人の名前が書かれている。英国では初め3曲カットしたシングル・アルバムとしてリリースされたらしい。1966年、ビートルズはリボルバーで新たな段階へ入った頃だがこのアルバムは同時期の作品なれどさらに先へ行っている。しかもデビュー作！ビートルズの「Sgt. Peppers Lonely Hearts Club Band」にも影響を与えたロック史上最初と言われるコンセプト・アルバムは、マザーズ・オブ・インヴェンションの名を世に知らしめた。リーダーを務めるフランク・ザッパにとっても本作が記念すべきファースト・アルバム（2枚組）であり、偉大なる金字塔を打ち立てた。風刺的色合に加え、強い時代性を超えた先鋭的感覚などが同居、LP1枚め（M-1～M-11）のR&Bロック路線とLP2枚め（M-12～15）の前衛的な要素の対比も心憎い。	Side 1 1. ハングリー・フリークス、ダディ 2. アイ・エイント・ガット・ノー・ハート 3. フー・アー・ザ・ブレイン・ポリス? 4. ゴー・クライ・オン・サムバディ・エルスズ・ショルダー 5. マザリー・ラヴ 6. ハウ・クッド・アイ・ビー・サッチ・ア・フ Side 2 1. ウーウィー・ズーウィー	Side 3 1. トラブル・エヴリィ・デイ 2. ヘルプ、アイム・ア・ロック Side 4 1. イット・キャント・ハプン・ヒア 2. ザ・リターン・オン・ザ・サン・オン・モンスター・マグネット

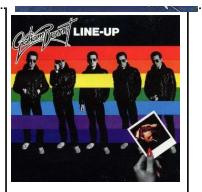
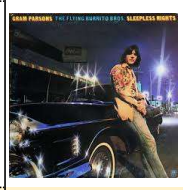
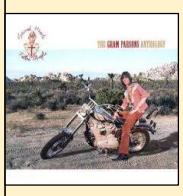
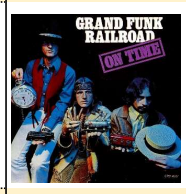
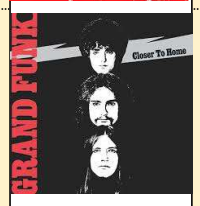
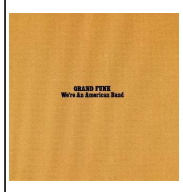
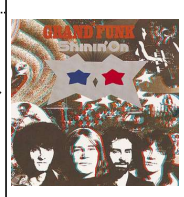
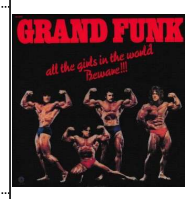
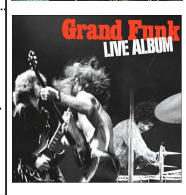
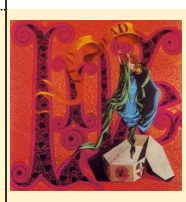
	FRANK ZAPPA & THE MOTHERS OF INVENTION	フリック・アウト！		966	オルタナティブ	CD	日本		2. エニィ・ウェイ・ザ・ウィンド・ブロウズ 3. エニィ・ウェイ・ザ・ウィンド・ブロウズ 4. アイム・ノット・サティスファイド 5. ユーアー・プロバブリィ・ワンダリング・ホワイ・アイム・ヒア	
	FREE	(ペーパースリーブ仕様) トンズ・オブ・ソブス		1969	ハードロック	CD	日本	69年作、記念すべきフリーのデビュー・アルバム。メンバーの平均年令が10代、そしてブリティッシュ・ブルース界の父、アレクシス・コーナーに認められ、バンド名まで頂戴した大型新人として注目されましたが、結果イギリスよりもアメリカでの人気が盛り上がっていたのが今となっては意外です。 先輩格のクリームやツェッペリンと比べると、かなり隙間だらけのバンド・サウンド、ハード・ロックとしてのダイナミズムよりも、荒削りなブルース感覚が大胆に生かされたサウンドが、当時のアメリカでは新鮮だったのかもしれません。 彼等の個性が確立されるのは「FIRE AND WATER」だったのかもしれませんが、ここでのタメの効いたいわゆるブリティッシュ・ハードとしての味わいはたまりません。アルバム・タイトルは「Lots Of Money」の通俗表現の様ですが、直訳すれば「すすり泣きの嵐」とでもなるのでしょうか。まさにその表現がピッタリなのは、ポール・ロジャースの酸いも甘いも知った早熟な哀愁ヴォーカル、そしてポール・コゾフの泣きまくるギターがあったからでしょう。 加えてアンディ・フレイザーとサイモン・カークのリズム隊の必要最小限の音が、余計に感情の起伏を的確に表現する事に成功しているのだと思います。 世界一有名だと思われるキャラクターのぬいぐるみが入った透明の棺桶が、無造作に置かれ、その後ろではウサギを狙うヒョウが、という不思議なジャケットは、アメリカから渡ったブルースを自ら葬り、新たに構築するという意味でもあったのでしょうか。 いずれにしてもブルース・ロックから発展したハード・ロックが、いよいよ次世代の手に渡った象徴的な1枚となったのは間違いないと思います。	1. オーヴァー・ザ・グリーン・ヒルズ～パート 00:51 2. ウォリー 03:28 3. ウォーク・イン・マイ・シャドウ 03:30 4. ワイルド・インディアン・ウーマン 03:40 5. ゴーイン・ダウン・スロウ 08:23 6. アイム・ア・ムーヴァー 02:57 7. ザ・ハンター 04:14 8. ムーンシャイン 05:05 9. スウィート・トゥース 04:54 10. オーヴァー・ザ・グリーン・ヒルズ～パート 02:08	以下、CDボーナス・トラック 11. アイム・ア・ムーヴァー (BBCセッション) 03:05 12. ウェイティン・オン・ユー (BBCセッション) 02:18 13. ガイ・スティーヴンス・ブルース (ブルース・ジャム) 04:44 14. ムーンシャイン (オルタナティヴ・ヴォーカル) 05:12 15. スウィート・トゥース (アーリー・テイク&オルタナティヴ・リリックス) 04:56 16. ヴィジョンズ・オブ・ヘル (未発表マスター・ミックス) 03:50 17. ウーマン・バイ・ザ・シー (オルタナティヴ・ヴァージョン) 03:23 18. オーバー・ザ・グリーン・ヒルズ (BBCセッション) 03:52
	FREE	(ペーパースリーブ仕様) フリー		1969	ハードロック	CD	日本	69年作、鮮烈なデビュー作から僅か7ヶ月程でリリースされたフリーのセカンド・アルバム。実際にはファーストは68年の内にレコーディングは終わってはいた様ですが、著しい成長が見られる内容となっています。まず全曲オリジナル・ナンバーで埋められ、60年代英国ブルースの流れを汲みながら、よりハード・ロック的なタイトさが強調されています。 そして当時メンバーの平均年齢が20歳前後という恐ろしさ。一体何を見て、何を聴いて、何を食べてきたら、こんなにも成熟したロックを奏でる事ができるのか、本当に不思議です。特にポール・ロジャース歌心、そしてアンディ・フレイザーの余裕をぶちかましながらフワフワ飛び回るベースは、若気の至りで突っ走る多くのロック・バンドとは明らかに異質のものとなっています。隙間だらけのバンド・サウンド、その中で各メンバーの役割がしっかりしていて、泣きのフレーズ、ファンキーなリズム、そして酸いも甘いも知っているソウルフルなヴォーカルが、実に見事なアンサンブルを成立させています。 それはまるで一見完成された美しい方程式の様にも思えますが、誰もが出せる音ではない様な気もします。 ツェッペリンが爆音級の音圧でブルースをハード・ロック化していったのに比べると、このアルバムのゆったりとしたスピードと空間の使い方はまるで対照的なのですが、ブリティッシュ・ハードの重要なピースであったのは間違いないと思います。	1アイル・ビー・クリーピン 2ソングス・オブ・イエスタデイ 3ライイング・イン・ザ・サンシャイン 4トラブル・オン・ダブル・タイム 5マウスフル・オブ・グラス 6ウーマン 7フリー・ミー 8ブロード・デイライト 9モーニング・サッド・モーニング 以下、CDボーナス・トラック 10ブロード・デイライト (シングル・ヴァージョン/モノ・ミックス) (MONO) 11ザ・ワーム (シングル・ヴァージョン/モノ・ミックス) (MONO) 12アイル・ビー・クリーピン (シングル・ヴァージョン/モノ・ミックス) (MONO)	13シュガー・フォー・ミスター・モリソン (シングル・ヴァージョン/モノ・ミックス) (MONO) 14ブロード・デイライト (BBCセッション) 15ソングス・オブ・イエスタデイ (BBCセッション) 16マウスフル・オブ・グラス (アンディ・フレイザーによるソロ・アコースティック・ヴァージョン) 17ウーマン (オルタナティヴ・ヴァージョン) 18トラブル・オン・ダブル・タイム (アーリー・ヴァージョン) 19モーニング・サッド・モーニング (オルタナティヴ・ヴァージョン)
	FREE	ファイアー・アンド・ウォーター		1970	ハードロック	レコード	US	70年作。フリーのサード・アルバムにして最大のヒット作、そして説明不要のクラシック・アルバムです。ブリティッシュ・ハードの歴史を語る上で欠かせない大名盤なだけに、最早語り尽くされた1枚とも言えます。まず粒揃いのメロディの素晴らしさが挙げられると思いますが、全7曲というコンパクトな内容ながら全曲シングル・カット可能であったろう完璧な構成が本当に見事です。何とも言えない哀愁感が漂うギター、シンプルながら味わい深いリズム隊、そして染み入るヴォーカルと、この若き4人組が完成させたサウンドは、そのまま英国ハードの美学として根付いていったわけです。ロック界のカヴァー率としてはおそらくNo.1と思われる「ALLRIGHT NOW」はもちろん、「HEAVY LOAD」や「DON'T SAY YOU LOVE ME」といったバラードのせつなさ、「MR. BIG」のゆったり感とカッコ良さが同居した絶妙さ等、まさに全曲が定番と言えるものとなっています。	Side B 1. ファイアー・アンド・ウォーター 04:03 2. オウ・アイ・ウェプト 04:30 3. リメンバー 04:26 4. ヘヴィ・ロード 05:22	Side B 1. ミスター・ビッグ 06:00 2. ドント・セイ・ユー・ラヴ・ミー 06:05 3. オール・ライト・ナウ 05:33
	FREE	ファイアー・アンド・ウォーター		1970	ハードロック	CD	日本			
	FREE	ハイウェイ		1970	ハードロック	レコード	US	1970年発表の4作目。グループ絶頂期のオリジナル・メンバーによるフリーの最終作。「ザ・ハイウェイ・ソング」「ザ・スティーラー」「オン・マイ・ウェイ」収録。ポール・ロジャースのヴォーカルもますます黒っぽさが増し、アーシーで粘っこい感覚が加わった重要作品。1曲目の“The Highway Song”はFREEには珍しいカントリーっぽい感じの曲。アンディ・フレーザーが弾いていると思われるピアノのサウンドが心地よい。2曲目の“The Stealer”はグループの効いたベースライン、それに対照的にからむメロディアスなギターが素敵に絡んでいます（シングル・カットされた曲ですが、なぜか売れず）。4曲目の“Be My Friend”はFREEの曲で屈指といっていいくらいのバラード・ソング。ポール・コソフの泣きのギターも堪能できます。	**SID A** 1. ハイウェイソング、 2. スティーラー 3. 私の道で 4. 友達になろう **SID B** 1. 晴れた日 2. ボニーに乗る 3. 愛してる 4. ボディー 5. もうオシまいだよいたくなる	
	FREE	(ペーパースリーブ仕様) ハイウェイ			ハードロック	CD	日本		1. ザ・ハイウェイ・ソング 2. ザ・スティーラー 3. オン・マイ・ウェイ 4. ビー・マイ・フレンド 5. サニー・デイ 6. ライド・オン・ボニー 7. ラヴ・ユー・ソー 8. ボディ 9. スーン・アイ・ウィル・ビー・ゴーン **CD以下、ボーナス・トラック** 10アイ・アム・ザ・ムーン (MONO)	
	FREE	フリー ライブ！		1971	ハードロック	レコード	UK	71年リリース作、ロック史上ライヴ・アルバムの名盤の一つとされているフリーの唯一のオフィシャル・ライヴ盤。彼等は突如解散してしまいます。結果的には後に再結成。 本作はその崩壊寸前の全英ツアー、サンダーランドとクロイドンの二ヶ所で収録。 当時メンバーの平均年齢は20歳、アンディ・フレイザーは18歳という若さが、到底信じられない様な感性されたバンド・サウンドを聴かせてくれます。解散に向けてツアーを消化しているという悲壮感や手抜き感も全くなく、4人のシンプルかつタイト、そして貫禄に満ちたブリティッシュ・ハードが堪能できます。 唯一スタジオ録音となった当時の新曲、「GET WHERE I BELONG」はアコースティック調のしっとりしたバラードとなっており、歌詞の内容と共に彼等の終焉を締めくくるのにピッタリなナンバーとなっています。ライヴ音源はベストと言える選曲で、フリーの入門編としても最適。	【A面】 1. Get Where I Belong 2. The Hunter 3. Mr. Big 4. ライド・オン・ボニー 【B面】 1. Fire And Water 2. Be My Friend 3. I'm A Mover 4. All Right Now	
	FREE	フリー ライブ！		1971	ハードロック	レコード	日本	71年リリース作、ロック史上ライヴ・アルバムの名盤の一つとされているフリーの唯一のオフィシャル・ライヴ盤。彼等は突如解散してしまいます。結果的には後に再結成。 本作はその崩壊寸前の全英ツアー、サンダーランドとクロイドンの二ヶ所で収録。 当時メンバーの平均年齢は20歳、アンディ・フレイザーは18歳という若さが、到底信じられない様な感性されたバンド・サウンドを聴かせてくれます。解散に向けてツアーを消化しているという悲壮感や手抜き感も全くなく、4人のシンプルかつタイト、そして貫禄に満ちたブリティッシュ・ハードが堪能できます。 唯一スタジオ録音となった当時の新曲、「GET WHERE I BELONG」はアコースティック調のしっとりしたバラードとなっており、歌詞の内容と共に彼等の終焉を締めくくるのにピッタリなナンバーとなっています。ライヴ音源はベストと言える選曲で、フリーの入門編としても最適。		
	FREE	ハートブレーカー		1972	ハードロック	レコード	日本	72年作、フリーの通算6作目バンドの最終章となった1枚。 この時期のフリーは不安定な状況下で、ボロボロになりながらも名曲を多く残す事になります。前作を最後に一度は解散をしていながら、薬物漬けになっていたポール・コゾフを救済すべく再結成を果たす。すでにピースというバンドで活動を始めていたポール・ロジャースは、「Heartbreaker」というミドル・ナンバーの名曲を手土産として本作に望みます。 そしてロック・クラシックの一つで、多くのカヴァーがされている「WISHING WELL」も、ここで誕生しました。ただやはり若くして大成功をした天才ミュージシャン集団の亀裂は大きかったのか、結束は長く続きませんでした。結局ポールとサイモン・カークのオリジナル・フリー組、そしてコゾフ・カーク・テツ・ラビットで話題を呼んだラビットと山内テツが合体した形で再生されました。途中までレコーディングに参加したポール・コゾフのギターは、「COME TOGETHER IN THE MORNING」、「TRAVELLIN IN STYLE」、「COMMON MORTAL MAN」、「SEVEN ANGELS」、そして前述のアルバム表題曲で、変わらぬ泣きっぷりを見せています。 枯れたメロディが多い構成もあり、寂しい影が見え隠れしているのですが、日本人の琴線に触れる1枚として愛されていると思いますが、純粋なフリーとして見なされていないのも事実だと思います。ただやはりポール・ロジャースは当時まだ23歳という若さで、説得力、味わい深さには何度聴いても素晴らしい。	1. ウィッシング・ウェル 2. カム・トゥゲザー・イン・ザ・モーニング 3. トラヴェリン・イン・スタイル 4. ハートブレイカー 5. マディ・ウォーター 6. コモン・モータル・マン 7. イージー・オン・マイ・ソウル 8. セヴン・エンジェルス	
	FREE	(ペーパースリーブ仕様) ハートブレーカー		1972	ハードロック	CD	日本		1. ウィッシング・ウェル 2. カム・トゥゲザー・イン・ザ・モーニング 3. トラヴェリン・イン・スタイル 4. ハートブレイカー 5. マディ・ウォーター 6. コモン・モータル・マン 7. イージー・オン・マイ・ソウル 8. セヴン・エンジェルス	以下、CDボーナス・トラック 9. ウィッシング・ウェル (USミックス) 10. レット・ミー・ショウ・ユー 11. マディ・ウォーター (オルタナティヴ・ヴォーカル) 12. ハンド・ミー・ダウン/ターン・ミー・ラウンド (プロスペクティヴ・アルバム・トラック) 13. ハートブレイカー (リハーサル・ヴァージョン) 14. イージー・オン・マイ・ソウル (リハーサル・ヴァージョン)
	FUN BOY THREE	ファン・ボーイ・スリーがやってくる / ファン、ファン、ファン！		1982	ニューウェイブ	レコード	UK	スペシャルズを脱退したテリーホールが黒人2人の盟友ネヴィル・ステイプルズ、リンヴァル・ゴールディングと結成した3人組のファンボーイスリーのファーストアルバム。全英7位・ゴールド・ディスク獲得。'81年結成～'83年解散と活動期間は短命だったが、商業的に成功し80年代において忘れられないバンド名の1つで、当時はテリー・ホールの人気とバナナラマとの共演等話題が多く、サウンドは実験的な楽曲が融合し、とにかく新しい音楽をやろうと言うテリーの感覚が色んな意味で実験的なサウンドになったが、当時のリスナーもこの音に魅了されたのは流石だし確かだ。 音はとにかくダークでスペシャルズのようなスカの朗らかさは皆無。デビュー曲の「ザ・ルナティックス」も、ロックファンにはジャニス・ジョプリンの熱唱で知られるガーシュウィンのスタンダード曲「サマータイム」のカバーも、アフリカン・ビートで凄い。また、「泡いっぱいの恋」は、テリー・ホールがゴーゴーズのジェーン・ウィードリンと共作したナンバーだが、彼女たちのバージョンが弾むようなポップソングであるのに対して、FB3のバージョンは憂鬱度200パーセントアレンジが凄く良い。	Side A 1. Sanctuary 2. Way to London 3. Lunatics, The (Have Taken over the Asylum) 4. Life in General 5. Faith, Hope and Charity 6. Funrama 2	Side B 1. Best of Luck Mate 2. 'Tain't What You Do (It's the Way That You Do It) 3. Telephone Always Rings, The 4. I Don't Believe It 5. Alone
	FUN BOY THREE	ファン・ボーイ・スリーがやってくる / ファン、ファン、ファン！		1982	ニューウェイブ	レコード	UK			
	FUN BOY THREE	ウェイティング		1983	ニューウェイブ	レコード	日本	ファンボーイスリーのセカンドアルバム。テリー・ホールの際立った作曲センスが浮き彫りになった記念すべき作品でもある。といってもカラーフィールド以降に見られるギタポ・テイストは薄めなニューウェーブ・サウンドでまとめられており、以降の活動しか知らない人は面食らうかもしれない。ただ、適度なエスノ趣味を持ち前のポップセンスで調理したこのアルバムが何とも言えない感じが病みつきになるサウンドは流石だ。 曲の1はミス・マープルが活躍する同名映画(61年公開)曲のカバー。先に発表されたGo-Go′sのバージョンでも知られる7はジェーン・ウィードリンとの共作。両者のバージョンを聞き比べると、アメリカ人とイギリス人の感性の違いがわかりとても面白い。	**Side A** 1. Murder She Said 2. The More I See (The Less I Believe) 3. Going Home 4. We're Having All The Fun 5. The Farmyard Connection	**Side B** 1. The Tunnel Of Love 2. Our Lips Are Sealed 3. Pressure Of Life, The (Takes The Weight Off The Body) 4. Things We Do 5. Well Fancy That

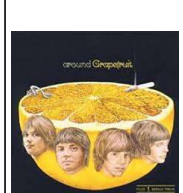
	FUNKAPOLITAN	ファンカポリタン		1982	ニューウェイブ	レコード	US	サヴァンナバンド直系のファンカラティーナ。ミュータントディスコの最重要人物サヴァンナバンド～キッド・クレオール＆ザ・ココナッツのオーガスタ・ダーネルがプロデュースを手掛けたファンカポリタン1982年唯一のアルバム。スティールパンのイントロから中盤のラップと味付けが最高な「If Only」ほかディスコをベースにしながら黒さは出さずニューウェイヴのひねくれた先鋭性やオールドスクールのパーティー感覚を押し出したところはやはりオーガスタ・ダーネル仕事。風通しの良いラティーノ感とひねくれたニューウェイヴ感が絶妙にミックスされた、スウィートなパーティー・チューン。中盤に挿入されるヘタウマなラップも最高。モダン・ロマンスとかヘアカット100とかブルー・ロンド・ア・ラ・タークとかの、80年代UKファンカラティーナの流れを汲むバンド。サヴァンナバンド関連作としても聴き逃すことのできない隠れた名盤です！	**Side A** 1. ラン・ラン・ラン 5:26 2. イリュージョンズ 5:24 3. ウォー 5:22 4. イフ・オンリー 4:50	**Side B** 1. イン・ザ・クライム・オブ・ライフ 5:50 2. ビホールド・ザ・スパー・エース 4:10 3. ゼア・イット・イズ・アゲイン 4:08 4. アズ・ザ・タイム・ゴーズ・バイ 4:58
	FUNKAPOLITAN	ファンカポリタン		1982	ニューウェイブ	レコード	日本		**Side A** 1. ラン・ラン・ラン 5:26 2. イリュージョンズ 5:24 3. ウォー 5:22 4. イフ・オンリー 4:50	**Side B** 1. イン・ザ・クライム・オブ・ライフ 5:50 2. ビホールド・ザ・スパー・エース 4:10 3. ゼア・イット・イズ・アゲイン 4:08 4. アズ・ザ・タイム・ゴーズ・バイ 4:58
	GAMMA／	ガンマ ２		1980	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	80年作、ロニー・モントローズ率いるガンマのセカンド・アルバムです。 本作からベーシストのグレン・レッチ、ドラムにデニー・カーマッシが加わり、新たな体制でよりタイト、キャッチーなアメリカン・ハードを聴かせてくれます。カーマッシが加わった事により、キーボードのジム・アルシヴァー、そしてロニーと、モントローズ組が3人揃った事になりました。印象的なジャケットを担当したのは、数々の名盤を手がけてきたデザイナー、ミック・ハガーティ。（デヴィッド・ボウイの「Let's Dance」、Styxの「Corner Stone」、Supertrampの「Breakfast in America」のジャケット担当で有名） そしてプロデューサーは、LONE STAR、FOREIGNER、AEROSMITH、TRILLION等、メロディアス・ハードの名盤を多く手掛けてきた事で有名なゲイリー・ライオンズがロニーと共同で務めています。キラキラした80年代ハード・ロックの到来を予見したかの様なキーボードの多様がありながら、デイヴィー・パティソンのガッツ溢れるパワフルなヴォーカルがグイグイ引っ張ってくれています。ロニーのプレイもメタリックなエッジとメロウな味わいのギャップが見事で、キャッチーな歌メロをより際立たせるものとなっています。中盤のアダルトなバラード、「VOAGER」を挟んで、プログレ・ハード風、VAN HALEN風、ハード・ポップ風と、実にバラエティに富んだ内容で一気に聴かせてくれます。70年代のハード・ロックが、一気に洗練されていくそのちょうど過渡期を象徴する様なサウンドと言えるかもしれません。全8曲というコンパクトな内容が名残惜しさを感じさせる程粒揃いの名曲が揃い、アメリカン・ハードの名盤の香りがプンプンする1枚です。	**Side A** 1. ミーン・ストリーク MEAN STREAK 2. フォー・ホースメン FOUR HORSEMEN 3. ダーティ・シティ DIRTY CITY 4. 船乗り VOYAGER	**Side B** 1. 空中の標的 SOMETHING IN THE AIR 2. つながれた猫 CAT ON A LEASH 3. スキン・アンド・ボーン SKIN AND BONE 4. メーデー MAYDAY
	GANG OF FOUR	エンターテインメント		1979	ニューウェイブ	レコード	日本			
	GANG OF FOUR	ソリット・ゴールド		1981	ニューウェイブ	レコード	UK			
	GARY MOORE	バック・オン・ザ・ストリーツ		1978	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	78年作、ゲイリー・ムーアの初のソロアルバム。当時コロシアムとシン・リジィでの活動を掛け持ち、本作でギタリスト、メロディ・メイカーとして大きな評価を得る事になる。 その代表曲と言えるのがやはり「パリの散歩道」で、それまでマシンガン・ピッキングと評された速弾きのイメージから、泣きのギタリストという新たな称号を手に入れる。 共作者のフィル・ライノットとは、シン・リジィのナンバー、「甘い言葉に気をつけろ」でヴォーカルの掛け合いも披露している。シンリジィよりはかなりスローなヴァージョンになっていて、全くの別曲として生まれ変わっています。 コロシアムⅡでのジャズ、フュージョン色もこの頃は強い時期だったと思いますが、ハード・ロックとプログレの両サイドが混ざっている点も、本作をユニークなものになっている。		
	GARY MOORE	大いなる野望		1982	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作、ゲイリー・ムーアの全盛期を代表するアルバムで、以降の80年代ハード・ロックのモデル・ケースとも成り得ていた大名盤です。それまで一定の評価を受けていながら、ソロ・キャリアでのセールスには恵まれていなかった彼がVIRGIN移籍後の第一弾としてリリースされ、ここ日本でも人気はピークに達しました。イアン・ペイス、ニール・マーレイ、ドン・エイリーという最強のメンバーをバックにして、メロディアス・ハードという言葉がまだ生まれていなかった時期に、泣けるハード・ロックの世界を完成させています。とにかくメロディ、ギター、そして味のあるヴォーカル、と完璧な構成となったアルバムで、ゲイリーのハード・ロック期を知るには最適な1枚です。		
	GARY MYRICK AND THE FIGURES	ゲイリー・マイリック＆ザ・フィギュア		1981	ニューウェイブ	レコード	US	このアルバムは、1980年にリリースされたゲイリー・マイリックのファーストアルバムこちらもB級ニューウェーブバンドで、かなりマイナーなバンドです。彼らは70年代後半から80年代初頭に確立されたポップロックの柱のひとつとして80年代初頭にロサンゼルスから出現した多くの有名なニューウェイブバンド（ナック、モーテルズ）よりもハードでかつエネルギッシュなサウンドを繰り広げます。同時にメロディーとキャッチーでインスタントなコーラスが最高のアルバムです。バックバンド、ザ・フィギュアズはエルビスコステロで言うとアトラクションズの的な存在で相性抜のサポートバンドです。中でも「She Talk In Stero」は注目を集めたマイナーヒットとなり、彼の代表曲ナンバーです。その他、強力なナンバーには、「Living Disaster」、「Ever Since The World Begin」、「Model」そしてアルバムのベストトラック「The Party」等、素晴らしい曲が粒ぞろいです	**Side A** 1. Living Disaster 2. Ever Since The World Began 3. She Talks In Stereo 4. Model 5. She's So Teenage	**Side B** 1. You 2. The Party 3. Meaningless 4. Who'll Be The Next In Line 5. Deep In The Heartland
	GARY NUMAN(TUBEWAY ARMY)	デビュー・アルバム		1978	ニューウェイブ	レコード	日本			
	GARY NUMAN(TUBEWAY ARMY)	幻想アンドロイド		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	ゲーリー・ニューマンのチューブウェイ・アーミーでのセカンドアルバム。		
	GARY NUMAN(TUBEWAY ARMY)	幻想アンドロイド		1980	ニューウェイブ	レコード	US	ゲーリー・ニューマンのチューブウェイ・アーミーでのセカンドアルバム。		
	GARY NUMAN(TUBEWAY ARMY)	エレクトリック・ショック！		1979	ニューウェイブ	レコード	日本			
	GARY NUMAN(TUBEWAY ARMY)	テレコン		1980年	ニューウェイブ	レコード	US	全英アルバム・チャートの1位を獲得。シングルのA1とA5が共に全英シングル・チャートの20位以内に入るヒットとなりました。A1は、日本語の歌詞が歌われていることでも有名な曲です。成功したことにより、本作ではより高価な機材を使用して制作することができ、巷の貧乏なシンセポップ・バンドやニューウェイヴ・バンドのサウンドに比べ音色のゴージャス感で一線を画しています。参加ミュージシャンはチューブウェイ・アーミー時代のメンバーを今回も招いているので、良い意味で期待を裏切らない安心感がありますが、悪く言えば既に出てきたマンネリ感が漂ってもいます。A2 でシンプル・マインズのメンバー3人がハンドクラッピングで参加しています。	**Side A** 1. This Wreckage 2. The Aircrash Bureau 3. Telekon 4. Remind Me To Smile 5. I Die : You Die	**Side B** 1. I'm An Agent 2. I Dream Of Wires 3. Remember I Was Vapour 4. Please Push No More 5. The Joy Circuit
	Gerry & The Pacemakers	(ペーパースリーブ仕様) ハウ・ドゥ・ユー・ライク・イット（恋のテクニック）		1963		CD	日本	1963年ファースト・アルバム。フロントマンGERRY MARSDENが率いるGEORGE MARTINが手がけたリヴァプール・サウンズ／マージービートの代名詞GERRY AND THE PACEMAKERS。ミッチ・マーレーの作＜恋のテクニック(How Do You Do It)＞は、イギリスでは1963年春に発表され1位になり、アメリカでは1964年夏「You' ll Never Walk Alone」とのカップリングでシングル発売され全米9位を獲得。リヴァプールでビートルズと人気を二分したトップ・ビート・グループ（メンバーは、ヴォーカルのジェリー・マースデン、を中心に"レスリー・マガイヤー、レス・チャドウィック、フレディ・マースデン、の4人組）。1962年6月に、グループはブライアン・エプスタインとマネージメント契約を交わし、更にそれから半年後に英コロンビア・レコードの専属アーティストとなりました・・・1963年春にデビュー・シングル「Hou D0 You Do It/Away From You」を発表し、全英第1位を記録。 BEATLESがレコーディングしたもののリリースしなかったという日くを持つ記念すべき1STシングル"HOW DO YOU DO IT?"、今も世界中のサッカー・スタジアムで愛唱される"YOU'LL NEVER WALK ALONE"キャッチーな英国ロックンロールが詰まった全28曲収録。	1.A Shot Of Rhythm And Blues 2.Jambalaya 3.Where Have You Been? 4.Here's Hoping 5.Pretend 6.Maybellene 7.You'll Never Walk Alone	8.The Wrong Yo Yo 9.You're The Reason 10.Chills 11.You Can't Fool Me 12.Don't You Ever 13.Summertime 14.Slow Down
	Gerry & The Pacemakers	(ペーパースリーブ仕様) フェリー・クロス・ザ・マージー（マージー河のフェリーボート）		1965		CD	日本	ブライアン・エプスタインがマネージャーを努めていたビートルズの弟分であるジェリー＆ペースメーカーズが「ヤア・ヤア・ヤア」に続けとばかりに作った彼ら主演の映画のサントラ盤。映画の為にジェリー・マースデン(vo)が9曲を書き下ろしたジェリー・マースデンの作曲力はもっと評価されてもいい。時代が彼らにアイドル性を求めたのだろうが、ポップな曲のメロディ・ラインなんか良く出来ているし、ビートが効いてる曲なんかもあり、当時のマージーサイドの雰囲気を伝える名曲揃い見逃せない傑作盤。主題歌「マージー河のフェリーボート」は大ヒット。	1イッツ・ゴナ・ビー・オール・ライト 2ホワイ・オー・ホワイ 3フォール・イン・ラヴ 4シンク・アバウト・ラヴ 5アイ・ラヴ・ユー・トゥー 6オール・クワイエット・オン・ザ・マージー・フロント 7ディス・シング・コールド・ラヴ 8ベイビー・ユア・ソー・グッド・トゥ・ミー 9アイル・ウェイト・フォー・ユー 10シーズ・ジ・オンリー・ガール・フォー・ミー 11イズ・イット・ラヴ 12フェリー・クロス・ザ・マージー（マージー河のフェリー・ボート）	section- 17ドリームズ -bonus section- 18ラ・ラ・ラ -bonus section- 19ウィザウト・ユー -bonus section- 20ガール・オン・ア・スウィング -bonus section- 21フール・トゥ・マイセルフ -bonus section- 22カム・バック・トゥ・ミー -bonus section- 23ハレルヤ・アイ・ラヴ・ハー・ソー -bonus section- 24イッツ・ゴナ・ビー・オール・ライト（ステレオ・ヴァージョン） -bonus section- 25ディス・シング・コールド・ラヴ（ステレオ・ヴァージョン） -bonus section- 26フェリー・クロス・ザ・マージー（マージー河の

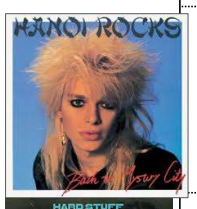
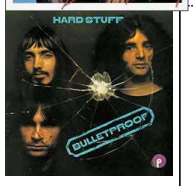
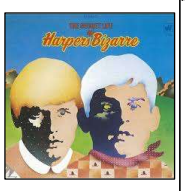
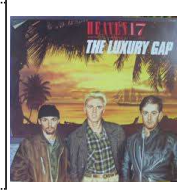
	GERRY LOCKRAN	ラグス・トゥー・グラッドラグス		1976	スワンプ・ロック	レコード	UK	76年リリース。7枚目のアルバム。英国ブルース／スワンプ系SSWを代表する名盤として確固たる地位を築いているジェリー・ロックランの「ラグス・トゥー・グラッドラグス」。バックにグリース・バンド、ココモのメンバーが参加。スワンピーなだけでなく、ラグタイム・ブルースあたりまで手掛けて味わい深い。アコースティック・ブルースを基調に、タイト＆グルーヴィーなスワンプ風味を加えたサウンドは、渋みや陰影と洗練とが絶妙にブレンドしていて旨味たっぷり。グリース・バンドやメルコリンズをバックに言うことのないスワンプロックを繰り広げます。2016年に逝去したヘンリー・マッカローの味のあるギターも聴ける。	Temptations (Always Winning Through)3:05 Can't Get The Fingerpickin'3:16 New York's My Home4:10 You Don't Know Me2:21 The Garden Of Life3:57 Jonas And The Whale3:02	Cane On The Brazos3:47 I'll Be Gone3:24 One Kind Favour2:50 My Brother3:24 Tired Of What's Bin' Goin' On3:39
	GERRY RAFFERTY	シティ・トゥ・シティ		1978	ロック	レコード	UK	スティーラーズ・ホイールを率いて73年に「Stuck In The Middle With You」をヒットさせたこともある、スコットランド出身のシンガー・ソングライター、ジェリー・ラファティがソロ2ndソロ・アルバムで大成功。全米No.1となった最大のヒット・アルバムであり最高傑作。英国トラディショナル・フォークをベースにした音楽性を持つ人だが、ここでの曲作りは洗練されており、もともと定評のある美しいメロディ・ラインに、より磨きをかけており名作といえるだろう。収録曲の"Baker Street"「霧のベーカー街」は、ビルボードチャートで同時期に1位を独走したアンディ・ギブの"Shadow Dancing"に阻まれ1位になれなかった。ギターのジェット音とサックスの絡みが抜群なイントロが目茶目茶格好いい。"Baker Street"だけでなく、続いてヒットした"Right Down The Lineライト・ダウン・ザ・ライン"や哀愁のサビがよくサックスがいい味出している"Island"アイランド、民謡風の"Ark"ジ・アーク、"Mattie's Rag"やタイトルトラックなど捨て曲のないとてもいい作品で、まさに最高傑作と言われるアルバム。	A面 1. 暁の方舟　The Ark 2. 霧のベーカー・ストリート　Baker Street 3. ライト・ダウン・ザ・ライン　Right Down the Line 4. シティ・トゥ・シティ　City to City 5. スティーリン・タイム　Stealin' Time	B面 1. マティーズ・ラグ　Mattie's Rag 2. あなたの心に　Whatever's Written in Your Heart 3. ホーム・アンド・ドライ　Home and Dry 4. アイランド　Island 5. その日を待って　Waiting for the Day
	GERRY RAFFERTY	ナイト・アウル		1979	ロック	レコード	UK	ジェリー・ラファティのソロ　サードアルバム。全米No.1となった前作「City To City」を受けて1年後に製作され、そこそこのヒットとなったアルバム。アルバムとしての統一感と平均的な曲のクオリティは、前作よりむしろ上ですが、「Baker Street」の様な傑出した曲が無いのが残念。アルバムは「Days Gone Down」で幕を開けるが、それは少し酸っぱい日々を過ぎ去った嘆きで、終末のジャクソン・ブラウンをあまり滑らかにすることなく、なんとかチャネリングすることに成功しているアルバムではあるがミュートだが鮮明なドラムサウンド、流れるようなベース、タイトなアレンジは、1979年の最先端を行くものだ。 「Days Gone Down」の落ち着いた憂鬱さがタイトルトラックにつまずき、ロック、調和のとれたベースとギターのリファージを備えたビートの後ろのグルーヴは、マイケル・マクドナルド・ドゥービーやスティーリー・ダンを彷彿とさせる。「Family Tree」のメロトロンレースのイントロなど、いくつかの瞬間を除いて、スネアが始まるまで以前のラファティの化身を思い出しますが、40年後、それはラファティのカタログへの重要なエントリであることを証明しています。そして、真の恩寵™のつかの間の瞬間は、スクラブな天才がしばしばまったく行為ではなかった憂鬱によって取り消されたことを示唆しています。	A面 1. Days Gone Down6:27 2. Night Owl6:09 3. The Way That You Do It5:06 4. Why Won't You Talk To Me3:56 5. Get It Right Next Time4:39	B面 1. Take The Money And Run5:48 2. Family Tree5:55 3. Already Gone4:52 4. The Tourist4:14 5. It's Gonna Be A Long Night4:22
	G.B.H	襲撃			パンク	レコード	日本			
	G.B.H	シティーベイビー			パンク	レコード	UK			
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	レコード	UK	1978年リリース。全英アルバムチャート29位。チェルシーからビリー・アイドルらが脱退して結成。ジェネレーションXというバンド名は、ジェーン・デヴァーソン著の社会学の本から命名。ビリー・アイドルはギターからボーカルにスイッチし、ボブ・アンドリュースがリード・ギターとして加入。最初のライヴを1976年12月21日にロキシーで行う。クリサリス・レコードと契約し、デビュー・シングル「ユア・ジェネレーション」を発表する。ジョン・タウがオルタナティヴTVに移り、元サブウェイ・セクトのマーク・ラフに交代。このメンバー構成で最初の2枚のアルバムを発表する。BBCの人気音楽番組『トップ・オブ・ザ・ポップス』に初めて出演したパンク・バンド。	Side A 1. フロム・ザ・ハート 2. 100パンクス 3. リッスン 4. レディ、ステディ、ゴー 5. クリネックス 6. プロミセス・プロミセス Side B 1. デイ・バイ・デイ 2. 透明人間 3. ホット・Romanticデッド人m	
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	レコード	日本			
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	レコード	US			
	GENERATION X	ジェネレーションX		1978	パンク	CD	日本			
	GENERATION X	人形の谷		1979	パンク	レコード	UK	1979年、全英51位。70年代パンクロックバンド、ジェネレーションXの2ndアルバム。 前作は荒削りなギターサウンド、シャウトするボーカル等、Sex Pistolsを始めとするパンクロックへの愛が感じられるアルバムだったが、今作はよりオリジナリティを出してきた印象。オススメはFriday's AngelとValley of the Dolls。 このバンドのこのアルバムでしか聴けないんじゃないかと思うくらい独特な、不思議な暖かみのあるギターサウンドを鳴らしてくれています。Billy Idolも相変らずスケール感のある良い歌声です。	Side A 1. ボス・サウンド 2. キャデラックの夜 3. パラダイス・ウエスト 4. フライデイズ・エンジェル 5. キング・ロッカー	Side B 1. 人形の谷 2. イングリッシュ・ドリーム 3. ラヴ・ライク・ファイアー 4. ケニー・シルヴァースの青春（パート1） 5. ケニー・シルヴァースの青春（パート2）
	GENERATION X	人形の谷		1979	パンク	CD	日本			
	Genesis	怪奇骨董音楽箱		1971	プログレ	レコード	UK	ジェネシスは1967年に結成され、ピーター・ゲイブリエルをはじめ創設時のメンバーは同じ学校に通っており、言わば部活の延長のような存在であった。彼らが変わったのは、メンバーの脱退で外からの補充が必要になった時だ。オーディションによってドラムのフィル・コリンズとギターのスティーブ・ハケットが加入し、リハーサルを繰り返すことで彼らの音楽は一気に進歩する。今回取り上げるのはコリンズとハケットが参加した最初のアルバム『怪奇骨董音楽箱（原題：Nursery Cryme）』（'71）で、通算3作目となる。本作はジェネシス独自の演劇や童話をモチーフにしたサウンドが確立されようとしていた途上にある。収録曲は全部で7曲。冒頭の10分半に及ぶ「The Musical Box」は牧歌的なイントロで始まり、徐々にドラマチックな展開になっていく。曲の途中で登場するハケットのギターソロは、驚くべきことにすでにタッピング（ライトハンド）奏法が使われていて、彼のプレイは当時のブリティッシュロックギタリストの多くに影響を与えた。 「The Return Of The Giant Hogweed」は植物が人間を襲うというSF的な内容のナンバーで、オペラ風で緻密な構成になっている。クイーンはジェネシスから多くの影響を受けていることがよく分かるナンバーだ。また、アルバム最後の「The Fountain Of Salmacis」ではコリンズの今も変わらない個性的なドラムが聴ける。アルバムの完成度という意味では4作目の『フォックストロット』（'72）に、ヒット作という意味では6作目『月影の騎士（原題：Selling England By The Pound）』（'73）に及ばないが、本作は全英チャートで39位となり、ジェネシスはようやく本国で認知されるようになる。ジェネシスはピーター・ゲイブリエルが在籍していた（1967～75）時代とフィル・コリンズがリードヴォーカルになった（1976～96）時代とでは、まったく違うグループだと言っても過言ではない。前者はどちらかと言えばマニアックなプログレバンドで、後者はポップなロックバンドである。	● Side-A 1.The Musical Box 2.For Absent Friends 3.The Return Of The Giant Hogweed	● Side-B 1.Seven Stones 2.Harold The Barrel 3.Harlequin 4.The Fountain Of Salmacis
	Genesis	フォックストロット		1972	プログレ	レコード	日本	7つのパートによって構成された約23分にも及ぶ大曲「サパーズ・レディ」を収録した通算4作目。1曲目のメロトロンも印象的な、まさに英国らしい寓話的な世界観を荘厳なサウンドで表現した所期の代表作。全英チャート12位を記録。プログレッシヴ・ロック・バンドとしての魅力を開花させ、一気にスターダムを駆け上がるきっかけとなった作品。	● Side-A 1.Watcher Of The Skies 2.Time Table 3.Get 'Em Out By Friday 4.Can-utility And The Coastliners	● Side-B 1.Horizons 2.Supper's Ready
	Genesis	ライヴ		1973	プログレ	レコード	日本	ジェネシス・ライブは、1973年7月にカリスマ・レコードでリリースされたイギリスのロックバンド、ジェネシスの最初のライブ・アルバム。当初はアメリカのロック番組「キング・ビスケット・フラワー・アワー」でラジオ放送のために録音されたこのアルバムは、アルバム『Foxtrot』をサポートするツアー中の番組の録音から形成されている。 ジェネシス・ライブはイギリスでトップ10入り、9位に入ったバンド初のアルバム。「Watcher Of The Skies」「The Return Of The Giant Hogweed」などの名曲を収録したジェネシス初のライブアルバム。 1973年Free Trade Hall、De Montfort Hallでのライブ録音。	A面 ウォッチャー・オブ・ザ・スカイズ ゲッテム・アウト・バイ・フライデイ ジャイアント・ホッグウィード	B面 ミュージカル・ボックス ナイフ
	Genesis	月影の騎士		1973	プログレ	レコード	UK	初のライヴ作を挟んで発表された通算5作目のオリジナル・アルバム。 高度なテクニックと緻密なサウンドで叙情的かつミステリアスな世界を表現。5人の個性がぶつかりあった緊張感溢れる内容は、収録曲のどれもが名曲という名盤にして全英チャート3位を記録した。初のシングル・ヒット「アイ・ノウ・ホワット・アイ・ライク」を収録。	● Side-A 1.Dancing With The Moonlit Knight 2.I Know What I Like (In Your Wardrobe) 3.Firth Of Fifth 4.More Fool Me	● Side-B 1.The Battle Of Epping Forest 2.After The Ordeal 3.The Cinema Show 4.Aisle Of Plenty

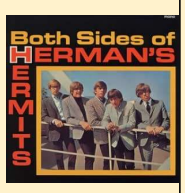
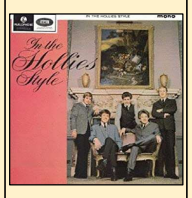
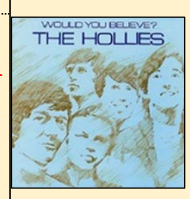
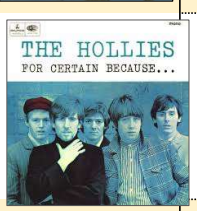
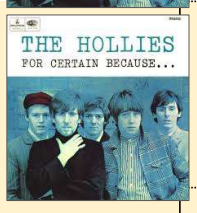
G	Genesis	眩惑のブロードウェイ		1974	プログレ	レコード	日本	ピーター・ガブリエルが在籍したジェネシス最後の作品にして、最高傑作と謳われる2枚組コンセプト・アルバム。ラエルという名の少年がさまざまな世界にワープしながら兄を探すというシュールで不思議な冒険物語を、抜群の構成力で支えた内容はプログレッシヴ・ロックの頂点を極めた作品として高い評価を得ている。全英チャート10位を記録。	ディスク1 「ザ・ラム・ライズ・ダウン・オン・ブロードウェイ」 – "The Lamb Lies Down on Broadway" – 4:55 「フライ・オン・ア・ウインドシールド」 – "Fly on a Windshield" – 2:47 「ブロードウェイ・メロディ・オブ・1974」 – "Broadway Melody of 1974" – 1:58 「カッコー・コクーン」 – "Cuckoo Cocoon" – 2:14 「イン・ザ・ケイジ」 – "In the Cage" – 8:15 「ザ・グランド・パレード・オブ・ライフレス・パッケージング」 – "The Grand Parade of Lifeless Packaging" – 4:07 「バック・イン・N.Y.C.」 – "Back in N.Y.C." – 5:49 「ヘアレス・ハート」 – "Hairless Heart" – 2:25 「カウンティング・アウト・タイム」 – "Counting Out Time" – 3:45 「カーペット・クローラーズ」 – "The Carpet Crawlers" – 5:16	ディスク2 「リリーホワイト・リリス」 – " Lilywhite Lilith" – 2:40 「ザ・ウェイティング・ルーム」 – "The Waiting Room" – 5:28 「エニウェイ」 – "Anyway" – 3:18 「ヒア・カムズ・ザ・スーパーナチュラル・アナスセイスト」 – "Here Comes the Supernatural Anaesthetist" – 2:50 「ザ・ラミア」 – "The Lamia" – 6:57 「サイレント・ソロウ・イン・エンプティ・ボーツ」 – "Silent Sorrow in Empty Boats" – 3:06 「ザ・コロニー・オブ・スリッパーメン」 – "The Colony of Slippermen" – 8:14 「ラヴィーン」 – "Ravine" – 2:05 「ザ・ライト・ダイズ・ダウン・オン・ブロードウェイ」 – "The Light Dies Down on Broadway" – 3:32 「ライディング・ザ・スクリー」 – "Riding the Scree" – 3:56
	Genesis	セカンズ・アウト 眩惑のスーパー・ライヴ		1977	プログレ	レコード	日本	77年リリース。ピーター・ガブリエル脱退後の初のライヴ盤。録音は77年のパリ公演の音源だが、1曲のみ76年のライヴで「The Cinema Show」が収録。レパートリーの半数以上がガブリエル在籍時のもの。当時の彼等は、初期の幻想性、童話性を緻密なポップ・プログレへと徐々に変遷していた過渡期で、ガブリエルの強烈なキャラが生み出していた独特の個性も残しており見事。フィル・コリンズのヴォーカリストとしての語り口が単純にメロディの良さを際立たせている点、バンドの演奏力の味わい深さが、スタジオ盤に劣らないジェネシス・ワールドを構築。	ディスク: 1 Side A 1. スコンク 2. カーペット・クローラーズ 3. ロベリー、アソールト&バッテリー 4. アフターグロウ Side B 1. ファース・オブ・フィフス 2. アイ・ノウ・ホワット・アイ・ライク 3. ザ・ラム・ライズ・ダウン・オン・ブロードウェイ 4. ザ・ミュージカル・ボックス	ディスク: 2 Side A 1. サパーズ・レディ Side B 1. ザ・シネマ・ショウ 2. ダンス・オン・ア・ヴォルケーノ 3. ロス・エンドス
	Genesis	デューク		1980	プログレ	レコード	US	3人によるグループとなり、ポップ感を強調した作風で成功を収めたジェネシス。1980年発表の本作はその路線を更に推し進めた一枚。ここではよりリズミカルなサウンドを展開しており、フィル・コリンズによる独特のドラムがクローズアップされるようになった。全米11位。	A面 1. ビハインド・ザ・ラインズ Behind The Lines (05:31) 2. ダッチス Duchess (06:40) 3. 導きの声 Guide Vocal (01:18) 4. マン・オブ・アワ・タイムズ Man Of Our Times (05:35) 5. 誤解 Misunderstanding (03:11) 6. ヒートヘイズ Heathaze (05:00)	B面 1. 君のTVショウ Turn It On Again (03:50) 2. アローン・トゥナイト Alone Tonight (03:54) 3. 窮地 Cul De Sac (05:02) 4. プリーズ・ドント・アスク Please Don't Ask (04:00) 5. デュークス・トラベルス Duke's Travels (08:41) 6. デュークス・エンド Duke's End (02:04)
	GEORGE HARRISON	オール・シングス・マスト・パス		1971	ロック	レコード	US	1970年11月27日に発売されたジョージ・ハリスンのスタジオ・アルバム。全英・全米ともに第1位を記録した彼のソロ・キャリアにおける代表作である。ビートルズ時代から温めていた楽曲なども含めて、彼のソングライターとしての実力が遺憾なく発揮されている。70年代の幕開けを飾るロックの金字塔とも評される。シングルでも「マイ・スウィート・ロード」(全英・全米1位、日本4位)、「美しき人生」(全米10位、日本19位)などのヒットを生み出した。アルバム全体を通して、ジョージが崇拝する神への念を素直に表現している。オリジナルLPのディスク3は"Apple Jam"と呼ばれ、ジョージを中心としたジャム・セッションの様子を収録。エリック・クラプトンを中心としたデレク・アンド・ザ・ドミノスの全メンバーや、リンゴ・スター、バッドフィンガー、ビリー・プレストンなどがレコーディングに参加している。プロデュースはジョージとフィル・スペクター。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは、7週連続第1位を獲得	**Disc 1 Side A** 1. アイド・ハヴ・ユー・エニータイム 2. マイ・スウィート・ロード 3. ワー・ワー 4. イズント・イット・ア・ピティー **Side B** 1. 美しき人生 – What is Life 2. イフ・ノット・フォー・ユー 3. ビハインド・ザット・ロックト・ドア 4. レット・イット・ダウン 5. ラン・オブ・ザ・ミル **Disc 2 Side A** 1. ビウェア・オブ・ダークネス 2. アップル・スクラップス 3. サー・フランキー・クリスプのバラード 4. アウェイティング・オン・ユー・オール 5. オール・シングス・マスト・パス	**Side B** 1. アイ・ディッグ・ラヴ 2. アート・オブ・ダイイング 3. イズント・イット・ア・ピティー 4. ヒア・ミー・ロード **Disc 3 Side A** 1. アウト・オブ・ザ・ブルー 2. ジョニーの誕生日 – It's Johnny's Birthday 3. プラグ・ミー・イン **Side B** 1. アイ・リメンバー・ジープ 2. サンクス・フォー・ザ・ペッパロニ
	GEORGE HARRISON	オール・シングス・マスト・パス		1971	ロック	CD	日本		**Disc 1** 1. アイド・ハヴ・ユー・エニータイム 2. マイ・スウィート・ロード 3. ワー・ワー 4. イズント・イット・ア・ピティー 5. 美しき人生 – What is Life 6. イフ・ノット・フォー・ユー 7. ビハインド・ザット・ロックト・ドア 8. レット・イット・ダウン 9. ラン・オブ・ザ・ミル	**Disc 2** 1. ビウェア・オブ・ダークネス 2. アップル・スクラップス 3. サー・フランキー・クリスプのバラード 4. アウェイティング・オン・ユー・オール 5. オール・シングス・マスト・パス 6. アイ・ディッグ・ラヴ 7. アート・オブ・ダイイング 8. イズント・イット・ア・ピティー 9. ヒア・ミー・ロード **Disc 3** 1. アウト・オブ・ザ・ブルー
	GEORGE HARRISON	バングラデシュ・コンサート		1971年12月20日	ロック	レコード	日本	1971年8月1日にニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンで行なわれたチャリティ・コンサートのライヴ盤。ジョージ・ハリスンの呼びかけに応じたロック・ミュージシャンによるバングラデッシュ難民救済を目的としたチャリティ・コンサートの夜の部を収めたライブ盤。チャリティ・コンサートとして先駆的であるほか、ジョージ・ハリスンのキャリアの一つの最高の瞬間を捉えたものでもある。ボブ・ディラン、エリック・クラプトン、リンゴ・スター、レオン・ラッセルなどが参加。レオンラッセル2曲、ビリープレストン1曲、ジョージは主催者だから6曲、リンゴ1曲、全員で主題のバングラディシュを歌った1曲、ラビシャンカール1曲(長いけど)そしてボブディラン5曲とジョージに次いでの曲数。全米で6週最高位第2位を獲得。	**Side 1** 1.イントロダクション / ジョージ、ラヴィ・シャンカール 2.バングラ・デューン / ラヴィ・シャンカール **Side 2** (1～3ジョージ) 1. ワー・ワー / ジョージ 2. マイ・スウィート・ロード / ジョージ 3. アウェイティング・オン・ユー・オール 4. ザッツ・ザ・ウェイ・ゴット・ブランド・イット (神の掟) / ビリー・プレストン **Side 3** 1. 明日への願い / リンゴ・スター 2. ビウェア・オブ・ダークネス / ジョージ・ハリスン&レオン・ラッセル 3. バンド・イントロダクション/ジョージ 4. ホワイル・マイ・ギター・ジェントリー・ウィープス/ジョージ	**Side 4** 1. ジャンピン・ジャック・フラッシュ/ジョージ 2. ヤングブラッド / レオン・ラッセル 3. ヒア・カムズ・ザ・サン / ジョージ **Side 5** (1～5 ボブディラン) 1. はげしい雨が降る 2. 悲しみは果てしなく 3. 風に吹かれて 4. ミスター・タンブリン・マン 5. 女の如く **Side 6** 1. サムシング / ジョージ 2. バングラデシュ / ジョージ
	GEORGE HARRISON	リヴィング・イン・ザ・マテリアル・ワールド		1973	ロック	レコード	US	1973年6月22日に発表されたジョージ・ハリスンのオリジナル・アルバム。日本では同年7月22日に東芝音楽工業(現:EMIミュージック・ジャパン)からリリースされた。ビルボード・アルバム・チャートで5週連続1位、1973年度年間ランキング第43位、『キャッシュボックス』誌では4週連続1位を獲得し、1973年度年間ランキング47位だった。全英では最高位第8位。また、「トライ・サム・バイ・サム」は、2003年に、デヴィッド・ボウイのアルバム『リアリティ』にてカヴァーされた。	**Side A** 1. ギヴ・ミー・ラヴ (3:36) 全米1位。 2. スー・ミー、スー・ユー・ブルース (4:48) 3. ザ・ライト・ザット・ハッド・ライテッド・ザ・ワールド (3:31) 4. ドント・レット・ミー・ウェイト・トゥー・ロング (2:57) 5. フー・キャン・シー・イット (3:52) 6. リヴィング・イン・ザ・マテリアル・ワールド (5:31)	**Side B** 1. ザ・ロード・ラヴス・ザ・ワン (4:34) 2. ビー・ヒア・ナウ (4:09) 3. トライ・サム・バイ・サム (4:08) 4. ザ・デイ・ザ・ワールド・ゲッツ・ラウンド (2:53) 5. ザット・イズ・オール (3:43)
	GEORGE HARRISON	ダークホース		1974	ロック	レコード	日本	1974年11月20日に発表される。日本では翌年2月5日に東芝EMIからリリースされた。全米4位、『キャッシュボックス』誌でも、最高位第4位を記録し、1975年度年間ランキングで69位を記録。イギリスではチャート・インを果たせなかった。多忙なスケジュールや妻パティと別居等、あったためか、このアルバムでのジョージの声は荒れてしゃがれており、他のアルバムと比べても別人のようである。「バイ・バイ・ラヴ」はエヴァリー・ブラザーズのカヴァー。パティと別れた悲しみを反映して取り上げたと言われている。	**Side A** 1.ハリズ・オン・トゥアー (4:44) 2.シンプリー・シェイディ (4:38) 3.ソー・サッド – So Sad (5:00) 4.バイ・バイ・ラヴ (4:08) 5.マヤ・ラヴ (4:24)	**Side B** 1. ディン・ドン (3:40) 2. ダーク・ホース (3:54) 3. ファー・イースト・マン (5:52) 4. イット・イズ・ヒー(ジェイ・スリ・クリシュナ) (4:50)
	GEORGE HARRISON	ジョージ・ハリスン帝国		1975	ロック	レコード	日本	1975年9月22日に発表。遅れてイギリスでは10月3日、日本では10月20日に東芝EMIからリリース。全米3週連続最高位8位を記録し、ゴールドディスクを獲得。『キャッシュボックス』誌では、2週連続最高位第9位を獲得し、1975年度年間ランキング89位。また、全英アルバムチャートでは最高位22位。ジョージがEMI/アップルに残した最後の作品で、オリジナル盤のレーベルには、芯だけになったリンゴの絵が描かれていた。A面1曲目の「二人はアイ・ラヴ・ユー – You」は、ロニー・スペクターのために1971年に書き下ろしたが、未発表に終わる。ジョージは、ロニーに提供されたベーシック・トラックのテープの回転数を変え、自分のリード・ボーカルと一部楽器のオーヴァーダブを加えて、本作に収録した。	**Side A** 1. 二人はアイ・ラヴ・ユー You (3:41) 2. 答は最後に The Answer's At The End (5:32) 3. ギターは泣いている This Guitar (Can't Keep From Crying) (4:10) 4. ウー・ベイビー、わかるかい (You Know That I Love You) (4:00) 5. 悲しみの世界 World Of Stone (4:40)	**Side B** 1. 君を抱きしめて A Bit More Of You (0:45) 2. つのる想い Can't Stop Thinking About You (4:30) 3. 哀しみのミッドナイト・ブルー Tired Of Midnight Blue (4:51) 4. 暗い偽り Gray Cloudy Lies (3:41) 5. 主人公レッグス His Name Is Legs (5:46)
	GEORGE HARRISON	サーティ・スリー・アンド・ワン・サード		1976	ロック	レコード	US	1976年発表。全米11位／全英35位。世界中のビートルズ・ファン、ジョージ・ハリスンを愛するひとびとにとって垂涎のプロダクツ。アメリカ・ナイズされたサウンドが新鮮な響きを放つソロ7作目はダーク・ホースからの第1弾。全米25位にランク・インした「ジス・ソング」、コール・ポーターの楽曲をとりあげた「トゥルー・ラヴ」、憧れの俳優だったロード・バックリーに捧げた「人生の夜明け」はプロモーション・ヴィデオも制作された。 アルバム・タイトルはレコードの回転数を意味するとともにジョージの当時の年齢をかけたもの。	**Side A** 1. 僕のために泣かないで Woman Don't you Cry For Me (3:18) 2. ディア・ワン (5:08) 3. ビューティフル・ガール (3:39) 4. ジス・ソング (4:13) 5. シー・ユアセルフ (2:51)	**Side B** 1. イッツ・ホワット・ユー・ヴァリュー (5:07) 2. トゥルー・ラヴ (2:45) 3. ピュア・スモーキー (3:56) 4. 人生の夜明け Crackerbox Palace (3:57) 5. 愛のてだて Learning How To Love You (4:13)
	GEORGE HARRISON	慈愛の輝き (じあいのかがやき)		1979年2月14日	ロック	レコード	日本	ダークホースレーベル期に出されたアルバムの中でも、地味ながら高い人気を誇るアルバムがこの「慈愛の輝き」。後の「クラウド・ナイン」よりもとっつきにくさがあるのかもしれないが(全体的にかなり甘いアレンジが施されているし)。けれど、ジョージが作る音楽を好きな方は、きっとこのアルバムの中に生涯のお気に入り楽曲を何曲か見つけると思う。 というより所謂「捨て曲」が一つもない。B面「Faster」は走行音で始まるキャッチーなタイトルで抑揚感UPの楽しいタイトル。全米14位、全英39位。	**Side A** 1. 愛はすべての人に(Love Comes to Everyone)4:36 2. ノット・ギルティ 3:35 3. ヒア・カムズ・ザ・ムーン 4:48 4. ソフト・ハーテッド・ハナ 4:03 5. ブロー・アウェイ 4:00	**Side B** 1. ファースター 4:46 2. ダーク・スウィート・レディ 3:32 3. 永遠の愛(Your Love Is Forever) 3:45 4. ソフト・タッチ 3:59 5. イフ・ユー・ビリーヴ 4:54
	GEORGE HARRISON	想いは果てなく～母なるイングランド		1979年2月20日	ロック	レコード	US	当初のオリジナルでは荒れないとの烙印をワーナー側に押され数曲を差し替えられた末に発売されたというエピソードのアルバム。ジョンへの追悼を歌にした「過ぎ去りし日々」は誰より早くジョンのことを歌いあげた曲でジョージのジョンへの思いが込められています。また、どういう皮肉か、差し替えられたオリジナル曲が没にするには余りに惜しい佳曲揃い。さらに言えば「サット・シンギング」「フライング・アワー」などはジョージ屈指の名曲だろう。だからと言って代わりに採用された曲の出来が悪いかと言えば、1.や4.などはアルバム中の骨格を形成し得る外せない曲と言える。1.はイントロからついにジョージもニューウェーブか？と思わせながら、ワーナーへの一矢を報いた痛快なメッセージのテンポ良いジョージらしい転調の小気味よいメロディで、やはりイントロでディスコか？と思わせた前々作のアメリカンテイストの「Thirty Three & 1/3」を意識したような使い方が面白い。ポール唯一の公式客演も話題だった4.もシングル・ヒット(全米2位)して、これがあるからアルバムも久しぶりに売れた(全米11位)とも言える訳であり、逆にこの2曲がお蔵入りだったならば、どうかと考えればやはり先の2曲同様に惜しまれるように思う。そう考えると、同じ作者のカバー曲を2曲を入れているが、オリジナル曲がこれ程高水準ならば取り敢えずこれらはお蔵入りでも良かったような気がする。そして、このアルバムでの揺るぎない核は10.なのだと思う。このアルバム・タイトルの如くイギリスの何処かで、ジョージは世界の趨勢を憂いているんだろうな、と思わされる。曲の作りが、大きなテーマに相応した仰々しく大げさなアレンジにはならず、何かお伽噺っぽいトーンの軽い音響のスカのテイストも感じるポップでわかり易いメロディだったのが、重々しくなく逆に思いが伝わってくる。前作辺りからスライド・ギターの線が極端に細くそれも不要に思える程手数が多いのだが、それが曲の印象を損ねているようにも思われ、今作では特に顕著なのが残念である。ただ、この時期のジョージはお蔵入りの曲も含めて、メロディメーカーとしての復調が見て取れ、特に前作ではもう一捻り足りない一本調子的メロディが残念だったのだが、多くの曲でジョージらしい展開に戻っている。 それにしてもこのアルバム、「惜しい！」という思いがいつもついて回る。もう少し選曲を熟考していれば、アルバム評価は格段に違っていたのかもしれない。また、特筆すべきは、ジョージはこのアルバムで母国ではボーカリストとしても評価されており、確かに2.を聞くとそれも頷ける。	**Side A** 1. ブラッド・フロム・ア・クローン4:03 2. 空白地帯(Unconciousness Rules) 3:35 3. ライフ・イットセルフ 4:25 4. 過ぎ去りし日々(All Those Years Ago) 3:45 5. バルチモア・オリオール 3:57	**Side B** 1. ティアードロップス 4:07 2. ザット・ホウィッチ・アイ・ハヴ・ロスト 3:47 3. 神のらくがき(Writing On The Wall) 4:00 4. ホンコン・ブルース 2:55 5. 世界を救え(Save the World) 4:54

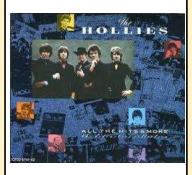
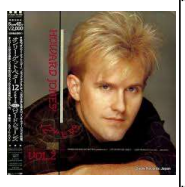
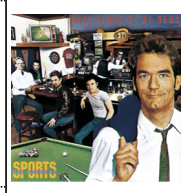
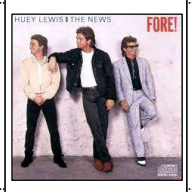
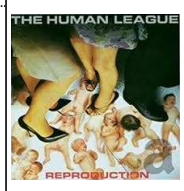
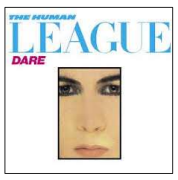
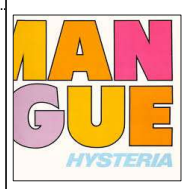
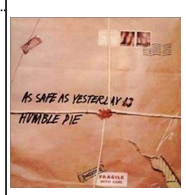
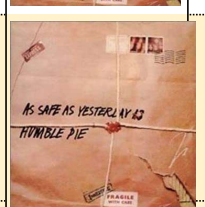
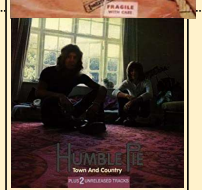
	GEORGE HARRISON	ザ・ベスト・オブ・ジョージ・ハリスン		1976	ロック	レコード	日本	1976年11月8日に発表されたジョージ・ハリスンのベスト・アルバムである。日本では同年12月20日にリリースされた。A面にビートルズ時代の彼のオリジナル曲7曲、B面にビートルズ解散後のシングルヒット曲6曲が収録されている。同時期にはマッカートニー以外のメンバーのベスト・アルバムが相次いでリリースされたが、レノンの『シェイヴド・フィッシュ』やスターの『想い出を映して』がどれもソロ時代のヒット曲から構成されていたのに対し、ハリスンのアルバムだけがビートルズ・ナンバーを交えた選曲となっていた。こういったソロ・アーティストとしてのキャリアを踏みにじるような選曲や、あたかもダーク・ホース・レーベルからの移籍第1弾アルバム『33 1/3』のセールスを妨害しようとしているかのような発売日設定にハリスンは当時、激怒したといわれている。『ビルボード』誌アルバム・チャートでは、最高位第31位を記録。『キャッシュボックス』誌では、最高位29位を記録	Side A 1. サムシング – Something (3:02) 2. 恋をするなら – If I Needed Someone (2:24) 3. ヒア・カムズ・ザ・サン – Here Comes The Sun (3:07) 4. タックスマン – Taxman (2:38) 5. 嘘つき女 – Think For Yourself (2:21) 6. フォー・ユー・ブルー – For You Blue (2:32) 7. ホワイル・マイ・ギター・ジェントリー・ウィープス – While My Guitar Gently Weeps (4:47) Side B...	
	GEORGE MICHAEL	フェイス		2013年7月24日	ポップス	CD	日本	本作は、ジョージ・マイケルがワム！を離れて制作したソロ・デビュー・アルバム。ポップな感覚、R&Bテイスト、アダルト・コンテンポラリーに通ずる内容などあらゆる音楽要素を包括し、彼が国際的なスーパー・スターとなった記念碑的な作品。白人アーティストとして史上初全米ブラックアルバム・チャートでNo.1を獲得! ビルボード年間アルバム、シングル1位!	1. フェイス 2. ファザー・フィギュア 3. アイ・ウォント・ユア・セックス (Part1 & 2) 4. ワン・モア・トライ 5. ハード・デイ	6. ハンド・トゥ・マウス 7. ルック・アット・ユア・ハンズ 8. モンキー 9. キッシング・ア・フール 10. ア・ラスト・リクエスト (アイ・ウォント・ユア・セックス Part3)
	GEORGE MICHAEL	オールダー		2004年3月15日	ポップス	CD	日本	ソアーシンス第1弾アルバム。長い間のレーベルとの確執を経ての作品で、"2nd Listen without Prejudice vol.1"から6年ぶりになります。 "Too Funky"など、ちょこちょこ楽曲をリリースしていたとは言え、やはり6年という期間は長い。この期間の苦悶や忍耐といった人生経験が、本作の音楽にも反映されいると感じます。 全体的に、2ndよりも深い内面を投影したような楽曲で、知的で美しい作風。 恐ろしいまでの集中力・ストイックさが、最初から最後まで貫かれており、超人的に思えます。 2ndにあった重く暗く崇高な雰囲気を湛えたバラード(1)"Jesus to a Child"から幕開け。 Funkyなダンスチューン(2)"Fastlove"は、本作の目玉といっていいでしょう。浮遊感のあるSaxにSIMPLY REDっぽい感触があります。 他、優雅さと憂鬱が溶け合ったJazz Vo風の逸品(3) "Older"、独特な妖艶さと官能が心地よいレゲエ(4) "Spinning the Wheel" ミステリアスな雰囲気に幻惑される(6) "The Strangest Thing"、Sade Aduが歌っても合いそうなほろ苦バラード(10) "You Have been Loved"。などなど、George Michaelでないと作れないよう佳曲が収録されています。	1ジーザス・トゥ・ア・チャイルド 2ファストラヴ 3オールダー 4スピニング・ザ・ウィール 5イット・ダズント・リアリー・マター	6ザ・ストレンジスト・シング 7トゥ・ビー・フォギヴン 8ムーヴ・オン 9スター・ピープル 10ユー・ハヴ・ビーン・ラヴド 11フリー
	GEORGIE FAME	イエー・イエー～20ビート・クラシクッス		1983	ロック	CD	日本	オリジナル・モッズの先駆者、ジョージー・フェイムが英ポリドール・レーベルに残した作品からセレクトされたベスト・セレクション。彼のセカンドとサードアルバムからのナンバーを中心にシングル盤を集めたモッド期のベスト盤。一曲目の「イェイェ」からモータウンやノーザン・ソウルのカバー曲まで、、、ジョージィ自らシークエンスしているとあって、演奏はもちろん、選曲が素晴らしい！全英1位シングル「イエー・イエー」や、テンプテーションズの「マイ・ガール」、ジェイムス・ブラウンの「パパのニューバック」、マーヴィン・ゲイの「プライド＆ジョイ」のカヴァーほか収録。モッズとは本来モダン・ソウルやクール・ジャズ的なサウンドで週末の夜にタバコの煙が充満するクラブで演奏し盛り上げていた人達を言う。 このアルバムにはGEORGIE FAMEのオリジナル曲はあまり収録されておらず、テンプテーションズやジェームス・ブラウンといったモータウン・スタックスを代表するソウルシンガーのカバーを中心にBOOKER T＆THE MG'SのGREEN ONIONSのインストナンバーもきっちり収録していて居ますが、ハモンドの音はそんなに前面に出ておらずボーカルを前面に出していて、決してソウルフルな歌い方ではなくソフトな感じで非常にガッツとソウル溢れる一枚！この奥の黒いセンスが分かれば凄い。	1イエー・イエー (MONO) 2ゲッタウェイ (MONO) 3ド・レ・ミ (MONO) 4マイ・ガール (MONO) 5スウィート・シングス (MONO) 6ポイント・オブ・ノー・リターン (MONO) 7ゲット・オン・ザ・ライト・トラック・ベイビー (MONO) 8ライド・ユア・ポニー (MONO) 9ムーディーズ・ムード・フォー・ラヴ (MONO) 10ファニー・ハウ・タイム・スリップ・アウェイ (MONO)	11サニー (MONO) 12シッティング・イン・ザ・パーク (MONO) 13グリーン・オニオン (MONO) 14イン・ザ・ミーンタイム (MONO) 15パパのニュー・バッグ (MONO) 16ブルー・マンデイ (MONO) 17プライド&ジョイ (MONO) 18ピンク・シャンペーン (MONO) 19レット・ザ・サンシャイン・イン (MONO) 20アイ・ラヴ・ザ・ライフ・アイ・リヴ (MONO)
	GILLAN	フューチャー・ショック		1981	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	UK	81年作、ギランの通算4作目となったアルバムで、彼等の最大のヒット作となった1枚です。 N.W.O.B.H.M.の煽りの中で、パープル・ファミリーであるRAINBOW、WHITESNAKEが躍進していた中、このGILLANの人気は本国イギリスでは最も高かったと言えると思います。 日本ではイアン・ギランのワイルドな風貌や歌唱がどうも相容れないものがあったのか、リッチーの様式美、デビカバのセクシーさ、ポップさの方が人気がありました。 ただ幅広い音楽性、プログレッシヴなバンド・サウンド、そして当時のメタルとして最もスピード感があったのは、実はこのギランであったというところが本当であったという気がします。奇妙なイラストがすごく気になる本作ですが、内容の方はかなり聴き応えのあるものとなっています。前作の「GLORY ROAD」が全英3位、本作が2位という人気の高さは、バーニー・トーメのクールなヴィジュアルとパラエティに富んだナンバーに合わせて的確なプレイをする器用さ、そしてスペーシーに駆け回るコリン・タウンズのキーボード、タフでタイトなジョン・マッコイとミック・アンダーウッドのリズム隊の貢献度もかなり大きかったと思います。各メンバーがそれぞれソング・ライティング能力に長け、イアンのロックンローラーとしてのセンスを生かすのが巧かった事も見逃せません。パープルを洗練させた様なパワフルなメタル・ナンバーとなったアルバム・タイトル曲、超スピード・ナンバーの「SACRE BLEU」等はギランの本領発揮となったもので、同時代の後続バンドに負けないメタル度を感じさせるのは、そうしたバンドの協調性の良さが生んだものだと思います。フィンガー5、あるいはキョンキョンの「学園天国」の元ネタとなったゲイリー・U.S.・ボンドのカヴァー、「NEW ORLEANS」はまさにイアンにうってつけのナンバーとなり、「NO LAUGHING IN HEAVEN」ではラップに近い唱法まで披露する等、このバンドならではのユニークさも聴きどころとなっています。オリジナル盤のラスト曲となるのは、アルバム中最もメロディアスな「FOR YOUR DREAMS」。ミステリアスな雰囲気を持ったナンバーですが、すでに80年代メタルを見越したモダンさを感じさせ、このバンドの奥深さを思い知らされます。	**Side A** 1. Future Shock 3:06 2. Nightride Out Of Phoenix 5:06 3. The Lucitania Express 3:10 4. No Laughing In Heaven 4:58 5. Sacre Bleu 3:03 6. New Orleans 2:37	**Side B** 1. Bite The Bullet4:50 2. If I Sing Softly6:10 3. Don't Want The Truth 5:40 4. For Your Dreams5:04
	G.I. ORANGE	サイキック・マジック		1985	ロック	レコード	日本	1984年当時、CBS・ソニーが独自に企画し売り出した和製洋楽アイドル・グループ。カール（ヴォーカル＆ギター）、マーク（キーボード）、サイモン（ベース）の3兄弟とギャリー・ホル(ドラム)の4人組。1985年にはCBS SONYよりシングル「涙でブレイク・アウェイ(Fight AwayThe Lover)」にて日本デビューを果たし、同年デビューアルバム「サイキック・マジック」とミニ・アルバム「ウィンター・ワンダーランド」をリリース。アルバムからセカンド・シングル「サイキック・マジック」は5週間1位を獲得し、人気番組「タやけニャンニャン」のテーマ曲としても使用された。当時、日本の音楽番組にも多数出演し、アルバムはトータル10万枚のセールスを記録したほど人気があった。1986年には5枚目のシングル「テイク・ミー・トゥ・ユア・リーダー」を発売。この曲はTV CMにも起用されたが、このシングルを最後に、各メンバーの方向性の違いでバンドは活動を休止。	**Side A** 1. トゥー・レイト 3:44 2. ツー・ハーツ・ビート・アンダー・ワン・ルーフ 3:25 3. ダンス・マイ・ソウル 4:55 4. ファイト・アウェイ・ザ・ラバー 3:28	**Side B** 1. サイキック・マジック 3:07 2. チャンス・オブ・サバイバル 4:13 3. ワン・グッド・キス 2:28 4. G.I.オレンジ 4:19 5. アイ・ドント・ウォント・ユア・イエスタディズ3:51
	GIRL	シアー・グリード		1980	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	80年作。N.W.O.B.H.Mを語る時には外せないガールのデビュー盤。同時期のメイデン、サクソン、デフ・レパード等と話題の中心核にいましたが、その音楽性とヴィジュアルは明らかに他のバンド勢とは毛色が違っていて、特にルックスで女子人気を高めました。 オープニングを飾る「HOLLYWOOD TEASE」の荒々しい疾走感とキャッチーなメロディだけは、誰もが無視できないインパクトを持っていた。フィリップ・ルイスとフィル・コリンの共作によるこの超名曲こそが彼等の伝説の源であり、結果的にはバンドのピークとなってしまった。KISSの「DO YOU LOVE ME 」という的確なカヴァーも光りますが、アルバム全体は当時のメタルの熱気とは違う素晴らしさがありました。プロデュースは、クリス・タンガリーディスとニック・タウバーで、この二人はTHIN LIZZYの名盤をプロデュースしている事で有名。本作収録の「TAKE ME DANCING」はまさにリジィ・ソングと言えるナンバーとなっています。レゲエ・ビートの大胆な導入がミステリアスな「PASSING CLOUDS」、パンキッシュな「LOVELY LORRAINE」、英国ニュー・ウェイヴ風の翳りが目立つ「STRAWBERRIES」等、かなりバラエティに富んだ曲調がユニーク。この辺はもう一人のギタリストであり、後にSHEER GREEDをバンド名にして活動するジェリー・ラフィーのセンスが強い様です。「MY NUMBER」や「HEARTBREAK AMERICA」といったメタリックな感触も当然有るのですが、とにかくハリウッド・ティーズの強烈な印象がずっと頭に残るのも事実です。改めて聴くとグラム・メタルという言葉が実に良く似合うアルバムで、ファッションだけでなくサウンドにも独特の妖しさがあったのがやはり個性的。デフ・レパード（フィルコリンズ）、LAガンズ（フィリップ・ルイス）のメンバーがいたバンド、といった語り口で終わらせるには実に忍びないアルバムで、1980年という激動の時代、何かわからないけど確実に新しいモノが登場してきた、という空気が痛い程突き刺さってくる傑作！	**Side A** 1. ハリウッド・ティーズ 2. ザ・シングズ・ユー・セイ 3. ラヴリー・ローレイン 4. ストロベリーズ 5. リトル・ミス・アン 6. ドクター・ドクター	**Side B** 1. ドゥ・ユー・ラヴ・ミー 2. テイク・ミー・ダンシング 3. ホワッツ・アップ 4. パッシング・クラウズ 5. マイ・ナンバー 6. ハートブレイク・アメリカ
	GIRL	ウェイステッド・ユース		1982	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	82年作。グラム・メタルの元祖と言える伝説的バンド、ガールのセカンド・アルバムにして最終作。前作の「SHEER GREED」は、男臭いN.W.O.B.H.M.シーンに女性ファンを取り込むヴィジュアルと妖しいポップ・センスで大ブレイク。しかし、ガールはプロダクション側と悪戦苦闘し最終的には崩壊してしまう。元々グラム、パンクからの影響が強い音楽性がバンドの大きな強みの一つであったたが、マーケットの制覇を狙ったJETはガールにメタル・アルバムを要求しており、バンド側は自らの個性を生かす選択をするが、結局プロデューサーにレーベル側から押し付けにより、GIRLの魅力を無難なサウンド・プロダクションでスポイルしてしまい、結果的にガールの魅力が薄れ中途半端なハードロックに仕上がってしまう。新加入のドラマー、ブライソン・グラハムが持ち込んだ「Ice In The Blood」では、初期のJAPANのファンクとハード・ロックが融合した様なグルーヴを見せているところが見逃せない。また「Old Dogs」では当時のNEW WAVE BANDを彷彿させる洒落っ気を展開していたり、スリージーな「Nice 'N' Nasty」、強烈なブギをかます「Overnight Angels」等、バラエティに富んだ内容が、当時としては革新的だと思われる。「Hollywood Tease」の様な強烈なフックはもう見当たらなかった。結局はフィル・コリンがDEF LEPPARDに引き抜かれた事により解散を余儀なくされ消滅してしまい、時代に散った徒花としての独特の儚さは、今聴いても胸がトキメクものがある。	**Side A** 1. Thru' the Twilite 2. Old Dogs 3. Ice in the Blood 4. Wasted Youth 5. Standard Romance	**Side B** 1. Nice 'N' Nasty 2. McKitty's Back 3. 19 4. Overnight Angels 5. Sweet Kids
	GIRLSCHOOL	暁のメタルクイーン（デモリッション）		1980	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	80年作、ガールスクールの記念すべきデビュー・アルバム。MOTORHEADの妹分としてもその実力を発揮し続けた。MOTORHEAD同様爆走型ロックンロールというイメージが強いが、初期の彼女達はよりパンキッシュ、ガレージ・ロック、あるいはパブ・ロック的なサウンド。プロデュースを務めたヴィック・メイルのシンプルかつパワフルにまとめる手腕がかなり貢献度大と思われ、ライヴ・バンドとしても優れていた彼女達の良い意味でのチープさソリッドに生かされている。「Race With The Devil」のみカヴァーとなり、残る全てのナンバーがメンバーによるオリジナル、一本調子にならないリフ・メイカーぶりも彼女らの優れているところでもある。また、リード・ヴォーカルが3人いたのも特徴的と言えますが、正直それぞれの声の区別がなかなかつきません。	**Side A** 1. Demolition Boys 2. Not For Sale 3. Race With The Devil 4. Take It All Away	**Side B** 1. Nothing To Lose 2. Breakdown 3. Midnight Ride 4. Emergency
	GIRLSCHOOL	ヒット・アンド・ラン		1981	ハードロック＆ヘヴィメタル	レコード	日本	アメリカでのデビュー・アルバムとなった、セカンド・アルバム。前作に引き続き、プロデュースはヴィック・メイルが担当。この人はモータヘッドを始め、DR. FEELGOOD等、ソリッドなギターをライヴ感覚溢れるサウンド・プロダクションでまとめる名手ですが、本作でも女性らしい線の細さを感じさせないゴリゴリ系メタルとしています。汗臭さと土埃が舞っていそうなZZ TOPの「TUSH」のカヴァーを収録しているのも、そんな狙いがあったのかもしれませんが、とにかくオリジナル曲がカッコ良すぎます。しっかりしたリフを持つ典型的NWOBHMソングと、パンクの荒々しさを残す疾走型ナンバーが両立しているのですが、リード・ヴォーカルを3人で担当していたため、それぞれの個性も生かされているんだと思う。キャッチーなリフとパンキッシュなバンド・サウンドが疾走する本作がシンプルで最も熱かったころで「THE HUNTER」やアルバム・タイトル曲等は、今聴いてもゾクゾクする程妖しい色気を放っている。	**Side A** 1. カモン・レッツ・ゴー 2. ハンター 3. (アイム・ユア)ヴィクティム 4. キック・イット・ダウン 5. フォロウイング・ザ・クラウド 6. タッシュ	**Side B** 1. ヒット・アンド・ラン 2. ウォッチ・ユア・ステップ 3. バック・トゥ・スタート 4. イェーイ・ライト 5. フューチャー・フラッシュ
	GO-BETWEENS			1987	ニューウェイブ	レコード	UK			
	GO GO'S	ビューティ・アンド・ザ・ビート		1981	ガールズバンド	レコード	日本	アメリカの女性ロック・バンド、GO-GO'Sの1981年リリースのデビュー・アルバム『BEAUTY & THE BEAT』がヴァイナル・リイシュー。"WE GOT THE BEAT"や、OUR LIPS ARE SEALED"を収録、200万枚を超えるセールスを記録した史上最も成功したデビュー・アルバムの一つと言われている。「アメリカのニューウェーブの礎となるアルバム」と評される歴史的作品。	1. 泡いっぱいの恋 2. ハウ・マッチ・モア 3. トゥナイト 4. ラスト・トゥ・ラヴ 5. この街のビート	6. ウィ・ガット・ザ・ビート 7. フェイディング・ファースト 8. 自動的意識 9. イン・ユア・スリープ 10. スキッドマークス・オン・マイ・ハート 11. キャント・ストップ・ザ・ワールド
	GO GO'S	ヴァケーション		1982	ガールズバンド	レコード	US	82年に発表された彼女たちにとって2枚目のｱﾙﾊﾞﾑ。前作にてｶﾞｰﾙｽﾞｸﾞﾙｰﾌﾟとして初めてのNo1を獲得した勢いをそのまま持ち込んだ意欲作で、この頃日本ではｽｽﾞｷ自動車のCMに出演来日公演も行う等彼女らの知名度・人気もｸﾞｯと上がった。前作でのPunkのﾌｨｰﾘﾝｸﾞでｵｰﾙﾃﾞｨｰｽﾞの影響を垣間見せる楽曲をｷｬｯﾁｰなﾒﾛﾃﾞｨｰ構成によってPopﾌｨｰﾙﾄﾞを引き寄せた感覚は希薄で、Pop寄りに大きく歩み寄った楽曲が賛否両論を呼んだ。それでも疾走感溢れるｽﾄﾚｰﾄなR&R #5やｼﾞｬﾝｸﾞﾙ･ﾋﾞｰﾄを彼女たちなりに昇華した#7,The Capitolsのｵｰﾙﾃﾞｨｰｽﾞｶﾊﾞｰ#9,ｽﾏｯｼｭ･ﾋｯﾄした#1と聞くべき所も多い。特に#1はそのﾀｲﾄﾙやｼﾞｬｹｯﾄ、曲調から夏を待ち焦がれる青春讃歌と思われがちだが、「あなたが行ってしまって私は一人 ヴァケーションなんて早く終われば良いのに」とﾋﾞﾀｰな歌詞を乗せている所が一筋縄では行かない彼女たちらしい所だ。	1. ヴァケーション 2. 不思議な恋のプリズナー 3. 私の好きな100のリスト 4. ウィ・ドント・ゲット・アロング 5. イッツ・ミー 6. パーティータイム	7. ゲット・アップ・アンド・ゴー 8. 素敵なオールド・フィーリング 9. クール・ジャーク 10. 恋はダンスで 11. ビートニック・ビーチ 12. ワールズ・アウェイ

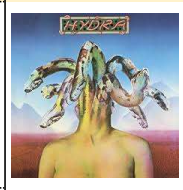
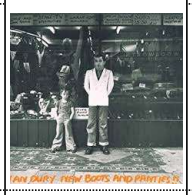
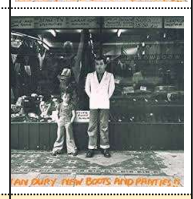
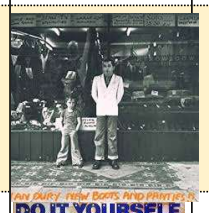
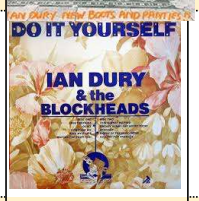
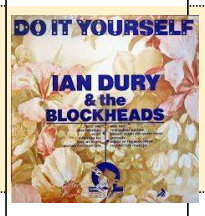
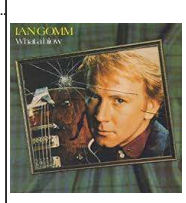
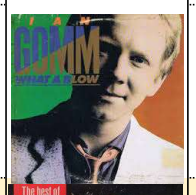
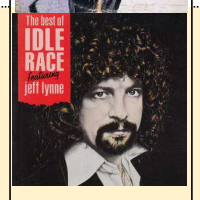
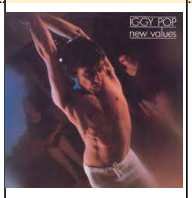
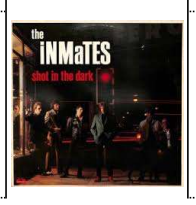
	GRAHAM BONNET	孤独のナイト・ゲームス		1981	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	81年作、レインボー脱退後のグラハム・ボネットが、その動向が注目される中発表したソロ作です。 バックにはコージー・パウエル、WHITESNAKEのミッキー・ムーディー、ジョン・ロードという布陣となっています。当時このメンバーでバンド結成の話もあった様ですが、ご存知の様にグラハムはコージーに誘われる様にしてMSGへ、コージー自身はWHITESNAKEへと参加する事になります。そのハード・ロック界激動の時代と言える狭間の中で、本作は宙に浮いた感もありますが、グラハムのヴォーカリストとしての資質を知るには見逃せない1枚です。ラス・バラード作のオリジナル曲、キングスやチャック・ベリー、ロネッツのカヴァーを含めながら、ハード・ポップ、ポップスまでもこなしてしまう上手さを改めて思い知らされます。日本では西城秀樹がカヴァーした事で有名な「ナイト・ゲームス」も、グラハムのキャリアの中では重要曲となりました。 アメリカン・プログレ・ハードを思わせる「S.O.S.」や、ミッキー・ムーディーとスティタス・クォーの作詞家として有名なボブ・ヤングの共作曲、「二人の絆」等、名曲が実に多く含まれている1枚です。		
	GRAM PARSONS（THE FLYING BURRITO BROS）			1976	ロック	レコード	US	60年代後半にグラム・パーソンズの参加したフライング・ブリトゥ・ブラザーズ（ある意味バーズより凄い！）と、70年代の傑作ソロ2枚の隙間を埋めるアンソロジー集。 70年初頭にフライング・バリット・ブラザースを離れる直前に録音した9曲と遺作『グリーヴァス・エンジェル』のアウトテイク3曲からなる編集盤。 アウトテイク3曲はいずれもエミルー・ハリスとのデュエットでミックスが終わる前にパーソンズが亡くなったため採用されなかった経緯がある。FBBとしての録音の方ではマール・ハガードやバック・オウエンスのカヴァーの他、盟友キース・リチャーズとミック・ジャガー作の「ホンキー・トンク・ウィメン」を取上げている。 グラムやエミルー・ハリスの黄金色のハーモニーが時代を越えて、今も胸に突き刺さります。グラム・パーソンズと初期のエミルー・ハリスのファンは必聴盤です。この盤でしか聴けないパフォーマンスがあります	**Side A** 1. Brand New Heartache 2. Tonight The Bottle Let Me Down 3. Sing Me Back Home 4. Your Angel Steps Out Of Heaven 5. Crazy Arms 6. Sleepless Nights	**Side B** 1. Close Up The Honkey 2. Together Again 3. Honky Tonky Woman 4. Green, Green, Grass Of Home 5. Dim Lights 6. The Angels Rejoiced Last Night
	GRAM PARSONS	(デジパック仕様BOX) アンソロジー		2001	ロック	CD	US	米ライノ・レーベルからのグラム・パーソンズの2枚組ベスト。65年に結成したインターナショナル・サブマリン・バンド、バーズ、フライング・バリット・ブラザーズ、フォールン・エンジェルズ、そしてソロと、73年に26歳の若さで亡くなるまでの音楽活動を集大成したものだ。カントリー・ロック、といえばすぐグラム・パーソンズの名前が出てくるほどで、短い生涯ながら彼が残した功績の大きさというのはとっくに自明の理となっている。たとえば表現力のあるヴォーカル、ソングライティングなどは、近年のカントリー・チャートで猛威をふるっているのとは比べものにならないほど個性的だ(ちょっと強引な比較か)。まあカントリーだのロックだのを超えて革新的だったのはもちろん、ルックスにもにじんでいる繊細さとかも魅力で、とにかくこの人の音楽には精神的にひかれる部分も多い。だから彼が見出したエミルー・ハリスも立派に育っている。 グラムはバーズの『ロデオの恋人』(‘68)に参加し、カントリーロックを創り上げた人物として紹介されることが多いが、彼の狙いはカントリーとソウルをミックスしたオルタナティブな音楽を生み出そうとしたところにある。	ディスク：1 1ブルー・アイズ 2真珠の舟 3僕の淋しさを知って 4お前の知ってる誰か 5ミラーズ・ケイヴ 6ニー・ディープ・イン・ザ・ブルーズ 7ヒッコリー・ウインド 8思い焦がれて 9クリスチャン・ライフ 10涙の涸れるまで 11100年後の世界 12悪女の歌 13シン・シティ 14ドゥ・ライト・ウーマン 15ダーク・エンド・オブ・ザ・ストリート 16ウィールズ 17ジュニアタ 18ホット・バリット#1 19ホット・バリット#2 20ハイ・ファッション・クイーン 21オールダー・ガイズ 22コディー、コディー 23ワイルド・ホーシズ	ディスク：2 1ラヴ・サムバディ 2スティル・フィーリング・ブルー 3ウィル・スウィープ・アウト・ジ・アッシェズ・イン・ザ・モーニング 4ア・ソング・フォー・ユー 5ストリーツ・オブ・バルティモア 6シー 7ニュー・ソフト・シュー 8キス・ザ・チルドレン 9ハウ・マッチ・アイヴ・ライド 10ドラッグ・ストアー・トラック・ドライヴィン・マン 11ザッツ・オール・イット・トゥック12カリフォルニア・コットン・フィールズ 13リターン・オブ・ザ・グリーヴァス・エンジェル 14ハーツ・オン・ファイヤー 15ブラス・ボタンズ 161000ダラー・ウェディング 17ラヴ・ハーツ 18ウー・ラスヴェガス 19イン・マイ・アワ・オブ・ダークネス 20ブランニュー・ハートエイク 21スリープレス・ナイツ 22エンジェルズ・リジョイスド・ラスト・ナイト
	GRAND FUNK RAILROAD	グランド・ファンク・レイルロード登場		1969	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	69年作。記念すべきG.F.R.のデビュー。69年というロック界にとっては黄金の年、イギリスで旋風を巻き起こしていたブリティッシュ・ハードの煽りを吹き飛ばすかの様な勢いを持っています。 荒削りながらゴツゴツした感触と、突き抜ける様なパワフルなサウンドは、間違い無く以降のアメリカン・ハードのお手本にもなっていたと思います。ディープ・パープルにも影響を与えたと言われている彼ヴァニラ・ファッジ、メタルだけではなくパンクの開祖ともされるブルー・チアーは、G.F.R.よりも一足先にデビューしていますが、陽性の爆発力をとことん突き詰めたという意味では本作の登場の意味も大きかったと思われます。 サイケ、ガレージの影響の強い前身バンド、テリー・ナイト&ザ・パックのメンバーを中心に結成されたこのパワー・トリオ、日本ではツェッペリンもぶっ飛んだ超大型新人バンド、として紹介されたそうです。確かに「T.N.U.C.」の壮絶なドラム・ソロを聴くと、ジョン・ボーナムを思い出す人も多いでしょう。	1.アー・ユー・レディ 2.エニーバディズ・アンサー 3.タイム・マシーン 4.ハイ・オン・ア・ホース 5.T.N.U.C.	6.イントゥ・ザ・サン 7.ハートブレイカー 8.コール・ユアセルフ・ア・マン 9.キャント・ビー・トゥー・ロング 10.アップス・アンド・ダウンズ
	GRAND FUNK RAILROAD	グランド・ファンク・レイルロード登場		1969	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD	日本	また彼等の「HEARTBREKER」は、ツェッペリンのそれとは違い、洗練されたメロディを持つヘヴィ・バラードであるのも面白いところかもしれません。 まだまだ以降のキャッチーさこそありませんが、デビュー・シングルの「TIME MACHINE」に代表される様に、ブリティッシュ・ハードからの影響を強く受けながらも、ギターの音色はカラッツカラに乾いているのが印象的で、感情面よりも肉体性が強調されたハード・ロックの誕生と言えたのかもしれません。		
	GRAND FUNK RAILROAD	グランド・ファンク		969年12月29日	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	US	1969年リリースしたグランド・ファンク・レイルロードのセカンドアルバム。ツェッペリンの前座を務め、そのド迫力ライヴで一気に名を広めた彼等が、前作から僅か4か月後にリリースしたセカンド・アルバムです。ビルボード最高位11位となった本作は、パワー・トリオとしてのタイトで分厚いバンド・サウンドを軸に、70年代を目前にした荒ぶる魂をそのまま音にした様な混沌としたインプロが時代を如実に現した力作となりました。 英国のアート・ロックの影響もあったのか、アルバム後半はほぼ全てが7分を超える大作ばかり、各パートがスリリングに展開していきます。その反面、歌メロはアメリカン・ハードらしい大らかなメロディが目立ち、当時のブリティッシュ・ハード勢のヘヴィ・ブルース大会とはまた違った魅力が新鮮だったと思われます。奇しくもブラック・サバスの初期代表曲と同名タイトルとなった「PARANOID」は、SEやトリップ感覚満載のギターが印象的なナンバーで、スピードに頼らない初期型メタルとも言えそうです。G.F.R.の方がサバスより数ヶ月先にリリースしているのですが、両者の「PARANOID」を比較する事と英米の空気感の差が感じ取れるのも興味深いところです。またライヴのハイライトの一つとなった「Inside Looking Out 孤独の叫び」は本作中唯一のカヴァー曲、元々はトラディショナル・フォークであった曲をアニマルズが66年に改作、ヒットさせたナンバーです。9分半に渡る大ハード・ロック大会となったこのカヴァー、アルバムのラストを飾るに相応しい強烈なフックを持っています。	**Side A** 1. ゴット・ディス・シング・オン・ザ・ムーヴ 2. ブリーズ・ドント・ウォーリー 3. ハイ・ファルーティン・ウーマン 4. ミスター・リムジン・ドライバー 5. イン・ニード	**Side B** 1. ウインター・アンド・マイ・ソウル 2. パラノイド 3. 孤独の叫び
	GRAND FUNK RAILROAD	グランド・ファンク		1969年12月29日	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD	日本		1. ゴット・ディス・シング・オン・ザ・ムーヴ 2. ブリーズ・ドント・ウォーリー 3. ハイ・ファルーティン・ウーマン 4. ミスター・リムジン・ドライバー 5. イン・ニード 6. ウインター・アンド・マイ・ソウル 7. パラノイド 8. 孤独の叫び	
	GRAND FUNK RAILROAD	クローサー・トゥ・ホーム		1970年7月	ハード ロック& ヘヴィメタル	CD	日本	グランド・ファンク・レイルロードの1970年発表のサード・アルバム。落ち着いたアコースティック・ギターのストロークから一転、歪みまくったギターに横面を張り飛ばすかの様な勢いをイントロ。1. Sin's A Good Man's Brother の出だしはブラック・サバスの「ウォー・ピッグズ」に匹敵すると思います。グランド・ファンク全史で最もヘビーなアルバムではないでしょうか。洒落たソロこそ弾けないけれどビンテージ感一杯のギター、地響きのようなメル・サッチャーのベースが文句を言わせません。 下腹を蹴り上げられる3曲が続いたあと、4. Mean Mistreater です。次の「ライブ・アルバム」でこの曲だけは特異な存在感があって、彼らの敬虔さに胸が締め付けられるようでした。マーク・ファーナーの弾く電気ピアノとコーラスだけで聴かせる曲です。ファーナーは教会の聖歌隊に属していたんじゃないかと勝手に推測しています。ハードロックのボーカルというよりゴスペルの歌い手のような雰囲気があります。8. I'm Your Captain/Closer To Home がよいのは言わずもがなです。通しで聴いてきて、このラストは最高のカタルシスです。	1. グッド・マンズ・ブラザー 2. エイムレス・レディ 3. ナッシング・イズ・ザ・セイム 4. . ミーン・ミストリーター 5. ゲット・イット・トゥゲザー	6. アイ・ドント・ハヴ・トゥ・シング・ザ・ブルース 7. フックト・オン・ラヴ 8. アイム・ユア・キャプテン 9. グッド・マンズ・ブラザー（シングルヴァージョン） 10. アイム・ユア・キャプテン（シングルヴァージョン）
	GRAND FUNK RAILROAD	アメリカン・バンド		1973	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	73年作。大爆音と豪快なステージで突っ走ったグランド・ファンク・レイルロードの通産7作目となったアルバム。 当時のブリティッシュ・ハードに対する、強くてマッチョなアメリカン・ハードを定着させた代表格ではないでしょうか。 ハードでダイナミックだけではなく、ポップなセンスも持ち合わせていたのが、いかにもアメリカンだったのだと思います。 プロデュースはすでに多彩なバンドを手掛けていたトッド・ラングレンで、彼のポップ・フィーリングがかなり強調されています。永遠のロック・アンセムとなった「アメリカン・バンド」に代表される明快さこそが、以降の80年代ハード・ロックの骨格にもなったと思われます。ヘヴィな曲調でも、隠せない陽気さが楽しいハード・ロック・アルバムです。	01.アメリカン・バンド 02.ストップ・ルッキン・バック 03.クリーピン 04.ブラック・リコリス 05.ザ・レイルロード 06.エイント・ガット・ノーバディ 07.ウォーク・ライク・ア・マン 08.ロンリエスト・ライダー	
	GRAND FUNK RAILROAD	輝くグランド・ファンク		1974	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	グランド・ファンクの8th アルバム。プロデュースを再びトッド・ラングレンが担当し、全米5位を記録した1974年発表のアルバム。全米NO.1シングル「ロコ・モーション」他を収録。LPジャケットは、ジャケット内に埋め込まれた赤と青のセロファンが付き眼鏡で見ると3Dになるデザインが採用されていた。	01.シャイニン・オン 02.ゲット・バック・イン 03.ロコ・モーション 04.キャリー・ミー・スルー 05.ブリーズ・ミー 06.ブリティー・ボーイ 07.ゲッティン・オーヴァー・ユー 08.リトル・ジョニー・フッカー	
	GRAND FUNK RAILROAD	ハード・ロック野郎（世界の女は御用心）		1974	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	プロデューサーにジミー・イエナーを起用し、よりポップ路線となった1974年発表作。全米15位。「SOME KIND OF WONDERFUL」や「BAD TIME」等収録しています。発売当時のチャートではシングル・カットされた「Some Kind of Wonderful 」（Soul Brothers Sixのカヴァー）が3位、「Bad Time」が4位を記録している。表ジャケットには古くからの友人であるアーノルド・シュワルツェネッガーやフランコ・コロンボらボディ・ビルダーがポーズを取り、頭部はメンバーの顔写真とすげ替えられた画像が使用された。	1 レスポンシビリティ 2 ランニン 3 ライフ 4 ルック・アット・グラニイ・ラン・ラン 5 メモリーズ 6 世界の女は御用心 7 ワイルド 8 グッド・アンド・イーヴル 9 バッド・タイム 10 オー・ワンダフル	
	GRAND FUNK RAILROAD	驚異の暴走列車		1976	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	「グランド・ファンク・レイルロード」の76年10thアルバム。前作『ハード・ロック野郎 (All the Girls in the World Beware!!!)』の路線を継承しハードロックに加えポップスも加味し多様な楽曲構成がされる。ヒット曲Bad Timeを彷彿させるSally、ブリューワーによる激しいTake Me、コーラスワーク、サックス、ピアノが印象的で叙情的なTalk to the Peopleなどの佳曲もあり内容的には決して劣るものではなかったがチャートアクションは芳しくなく、バンドが続けてきたゴールドディスク以上獲得の記録もとぎれることになった。従来のハードな曲はもちろん、ダークなナンバーからキャッチーなポップ・チューンまでバラエティ豊かな楽曲が詰まった作品。	1. Born to Die 5:29 2. Dues 5:27 3. Sally 3:12 4. I Fell for Your Love 4:06 5. Talk to the People 5:27 6. Take Me 5:00 7. Genevieve 6:12 8. Love Is Dyin' 4:07 9. Politician 3:51 10.Good Things 4:14	
	GRAND FUNK RAILROAD	ライヴ・アルバム		1970	ハード ロック& ヘヴィメタル	レコード	日本	初期のライヴ・パフォーマンスを収録した、1970年発表のライヴ・アルバムで最高傑作。後にクレイグ・フロスト(Key)を迎えた編成では『グランド・ファンク・ツアー ’75 (原題: Caught in the Act) 』が発売されるが、このアルバムでは3人による生々しい1970年7月のフロリダでのライブが収録されている。特にスタジオ・バージョンでも 9分31秒 とロック・バンドにしては長めの曲「Inside Looking Out」が、このライブでは 12分22秒 もの長尺になっていて聴き所になっている。プロデューサーはテリー・ナイトが担当。バンドにとっては RIAA Gold Disc に認定された4枚目のアルバム。アルバム・ジャケットに使用されている写真は、1970年7月に行われた「Atlanta International Pop Festival」へ出演した際の画像が使われている。	1. イントロダクション 2. アー・ユー・レディ 3. パラノイド 4. イン・ニード 5. ハートブレイカー 6. ワーズ・オブ・ウィズダム 7. ミーン・ミストリーター 8. マーク・セイズ・オールライト 9. T.N.U.C. 10. 孤独の叫び	
	GRATEFUL DEAD	ライブ/デッド		1969	アメリカンロック	CD	日本	1969年にリリース。バンドとしては最初の公式ライブ盤。ロックライブの名盤としても名高いアルバム。 メンバーは、Jerry Garcia (g, vo)、Bob Weir (g, vo)、Phil Lesh (b, vo)、Mickey Hart (ds)、Bill Kreutzmann (ds)、Ron "Pigpen" McKernan (key, vo)、Tom Constanten (key)という布陣。 数あるライブアルバムの中でもこのアルバムに比肩しうるアルバムはなかなかないと思う。全編インプロで編集されたサイケデリック、トリップ好きは感涙ものである。ただし、名盤とされているが、このアルバムではクライマックスでけを集めてしまったことで、「これはちょっとちがうな」という印象を与えてしまう。気軽にDEADのライブの良さを体験してもらいたい」という意気込みの現れなのですが、既に理解している僕達にとっては棺桶の身も蓋もないという印象です。できれば他のライブアルバムから入ってもらいたいと思います。それと初期のDEADは米国のJAZZ誌DOWN BEATでの評価が高かったのですが、実際サイケとかドラッグの概念を持ち出さなくともしっかりとリハーサルされたJAZZ演奏として正面から聴けば充分楽しめる純音楽でその意味ではポップとかサイケとは一線を画したもの。	1. Dark Star 2. St. Stephen 3. The Eleven 4. Turn On Your Love Light 5. Death Don't Have No Mercy 6. Feedback 7. And We Bid You Goodnight 8. Dark Star 9. WB Commercial for Live/Dead	

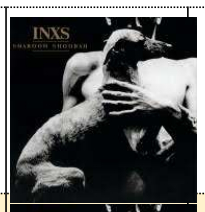
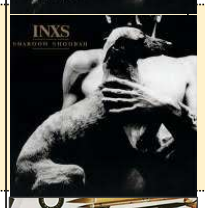
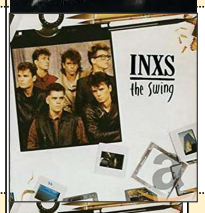
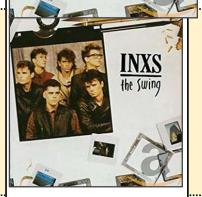
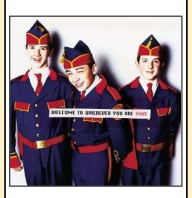
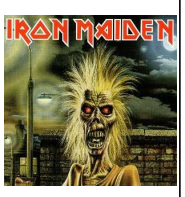
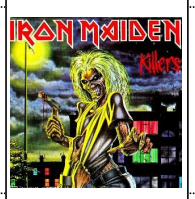
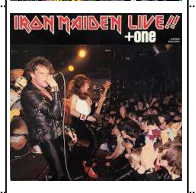
	GUESS WHO	アメリカン・ウーマン		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	70年代に一世を風靡したカナディアン・ロック・バンドTHE GUESS WHO。ギタリストRANDY BACHMANをフィーチャーした最後の作品。のちにLENNY KRAVITZもカヴァー、一躍スターダムに躍り出るきっかけとなった大ヒット・シングル"AMERICAN WOMAN"やピュア・フォークな"TALISMAN"、メロディアスな"NO TIME"等々ヴァラエティに富みながら、サイケデリックでブルースなハード・ロッキン・ギター・リフが満載の名盤です。		
	GUN	悪魔天国		1968	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	ドイツ	68年作、本作こそメタルの元祖どもうと騒がれていい筈のアルバムで、幻の名バンドと呼ぶにはあまりにも凄まじいキャリアを持つガンのデビュー・アルバムです。邦題の強烈なインパクトは、シングルとなった「Races With The Devil」、そしてあのロジャー・ディーンが初のアルバム・アートとして手掛けた地獄絵図から生まれたものだと思いますが、サウンドの鮮烈な印象は今聴いても色褪せていません。すでにこの時点でサバスとパープルが合体した様なメタリック・ナンバーを生み出しています。当時はまだカーティス名を名乗っていた兄弟、ポールとエイドリアンは、後にガーヴィッツ姓を名乗り、ブリティッシュ・ハード界の重要な存在として知れ渡っていきます。兄のポール・ガーヴィッツはベーシストでありながら、オーケストラを含むアレンジを担当している様で、その多彩な音楽センスが本作をユニークにしています。弟のエイドリアン・ガーヴィッツの華麗なギター、ソング・ライティング・セントも重要で、彼は後にAORシンガーとしても大成功し、90年代にはあの大ヒット映画、「ボディガード」のサントラに参加している事でも有名です。ガーヴィッツ兄弟はGUNで2枚のアルバムを残し、元スぷーキー・トゥースのマイク・ケリーとスリー・マン・アーミーを結成、その後ジンジャー・ベイカーと共にベイカー・ガーヴィッツ・アーミーへと発展していきます。 すでに本作で早すぎると言える程の才能を発揮していて、ハード・ロック、プログレ、ポップ・ソングと縦横無尽に駆け回る音は本当にカラフルで、ツェッペリンが世界を騒がせている影で、こんなバンドがデビューしていた事に驚かされます。 全体的には「悪魔」的なイメージが強いわけではありませんが、ほとばしる音楽的センスが当時のロック・ファンにはかなりまぶしすぎたのではないでしょうか。	A面 1. 悪魔天国　Race With The Devil　3:35 2. 悲しい物語　The Sad Saga Of The Boy And The Bee　4:51 3. ルーパーツ・トラヴェルス　Rupert's Travels　2:14 4. イエロー・キャブ・マン　Yellow Cab Man　4:17 5. イット・ウォント・ビー・ロング　It Won't Be Long (Heartbeat)　4:29	B面 1. サンシャイン　Sunshine　4:26 2. ラット・レース　Rat Race　3:56 3. テイク・オフ　Take Off　11:03
	GUN CLUB	マイアミ		1982	ニューウェイブ	レコード	US			
	GUNS N' ROSES	アペタイト・フォー・ディストラクション		1987	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	87年作、ガンズのデビュー・アルバム。全世界で3000万枚以上のセールスを誇り、HR/HMシーンに留まらず、全音楽ファンを虜にしたと言っても過言では無い1枚。当初ジャケットでレイプ・デザイ（イラスト）が問題となり直ぐに回収され発禁となったため初回盤は高額。 ロックが衝動的、暴力的、そして肉感的なものである事を、ヴィジュアル、サウンドで再び教えてくれたのでした。LAメタルという一過性のブームは、確かにケバケバしたロックの妖しさの爪痕を残していきましたが、耳馴染みの良さと商業性の香りが強調されていく中、いつの間にか大量生産ポップと化していきました。そんな中、アクセルの壊れる寸前のシャウトと、破壊衝動に包まれた攻撃的なサウンドは、ロック・バンドが本来持っていた初期衝動を思い出させたのです。かつてストーンズやピストルズ、ツェッペリンやエアロスミスが放っていたその何かを確実に撒き散らしていたんだと思います。ン今聴いても音のインパクトの方が語るべき重要性を持っているのではないでしょうか。	1. ウェルカム・トゥ・ザ・ジャングル 2. イッツ・ソー・イージー 3. ナイトレイン 4. アウト・タ・ゲット・ミー 5. ミスター・ブラウンストーン 6. パラダイス・シティ	7. マイ・ミシェル 8. シンク・アバウト・ユー 9. スウィート・チャイルド・オブ・マイン 10. ユー・アー・クレイジー 11. エニシング・ゴーズ 12. ロケット・クイーン
	GUNS N' ROSES	ユーズ・ユア・イリュージョン Ⅱ		1991	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	CD	同時リリースとなったⅠとⅡは、その売上の違いに微妙な差があったのもユニークでした。Ⅰはアメリカン・チャート第1週で約69万枚、対してⅡは77万枚。全世界ではⅠは1700万枚、Ⅱは1800万枚というモンスターぶりも、今更ながら驚異的です。シングルとなった「You Coulg Be Mine」が、大ヒット映画「ターミネーター2」に使用された事もあり、幾分キャッチーなイメージが本作の方が強いのかもしれません。またボブ・ディランのカヴァーで、やはり映画「デイズ・オブ・サンダー」に使用された「Knockin' On Heaven's Door 」も、確かにハイライトとなっています。その反面メッセージ色の強いナンバーも目立つのも特色で、彼等の反戦歌となった「Civil War」、そしてアクセルがリングに上がって来いと強烈な煽りを見せるジャーナリスト批判曲、「Get In The Ring」では実名を晒してヤジっています。この2曲こそがガンズがエアロスミスやツェッペリンと大きく違っていた部分であったのでは、と強く思われます。	1. シヴィル・ウォー 2. 14イヤーズ 3. イエスタデイズ 4. ノッキン・オン・ヘヴンズ・ドア 5. ゲット・イン・ザ・リング 6. ショットガン・ブルース 7. ブレイクダウン	8. プリティ・タイド・アップ 9. ロコモーティヴ 10. ソー・ファイン 11. イストレインジド 12. ユー・クッド・ビー・マイン 13. ドント・クライ（オルタナティヴ・リリックス） 14. マイ・ワールド
	GRAHAM PARKER	ステティック・トゥ・ミー		1977	ニューウェイブ	レコード	日本	1977年発表のサード・アルバム。再びプロデューサーにニック・ロウを迎え制作。イギリスNO.1ストリート・ロッカーによる、最もストリート・ロック色の濃いアルバムがこれ。ライヴ感の強い、ラフでソリッドな作品になったことが逆に、ジャーニーやボストンのようなサウンドが人気で時代にそぐわず、リリース当時メディアから酷評されたが、今ではそのラフでライヴ感の強い感じから最高傑作と評価する人が多い銘品。アルバムのオープニングからテンションが高い。そして2曲目のアン・ビーブルズのカヴァー「I'M GONNA TEAR YOUR PLAYHOUSE DOWN」は本当にかっこいい。他に「THUNDER AND RAIN」、「HEAT IN HARLEM」などは、彼が"英国のスプリングスティーン"と呼ばれたということもうなずける、独特の高揚感を与えてくれる。	**Side A** 1. スティック・トゥ・ミー 2. おもちゃの家をぶっ壊せ /I'm Gonna Tear Your Playhouse Down 3. プロブレム・チャイルド 4. ソウル・オン・アイス 5. クリアー・ヘッド	**Side B** 1. ニューヨーク・シャッフル 2. ウォッチ・ザ・ムーン 3. 雷雨 / Thunder And Rain 4. ヒート・イン・ハーレム 5. 侵略 / The Raid
	GRAHAM PARKER	スパークス		1979	ニューウェイブ	レコード	US	79年発表の5作目。プロデューサーとしてスペクター門下で、バッファロー・スプリングフィールド～ニール・ヤングのオーケストラ・アレンジなどで関わっていたジャック・ニッチェを迎えて制作された作品。1.はほんの少しだけAOR的な艶を加えているが、合いも変わらずシャープなギターを中心としたサウンドを聞かせている。ヴォーカルに絡む印象的なギター・リフはピカイチ。2. は一見普通のようでレゲエを消化したかのようなリズム・アレンジが聞かせる曲。こちらもギターのフレーズが耳に残る。3. はバック・コーラスがバッチリと決まる佳曲。グループとしてのまとまりの良さを強く感じさせる仕上がりであり、演奏は元よりコーラスのキマリ具合もカッコイイの一言。多くのパブ・ロック／パンク系のグループでもここまでのまとまりの良さを感じさせるグループは少ないだろう。楽曲も素晴しいものばかりであり、駄作の少ない彼の作品の中でも傑出したものの一つだと思う。ただジャック・ニッチェをイメージさせるものはほとんどなく例えば彼の得意なストリングスなどを期待するとガッカリするかもしれない。もちろん本作にオーケストラ・サウンドなど似合うはずもなく、彼は正しい判断で作品に貢献していることは間違いない。引きの美学のようなものを感じさせる作品である。	**Side A** 1. ディスカバリング・ジャパン 2. ローカル・ガールズ 3. ノーバディ・ハーツ・ユー 4. ユー・キャント・ビー・トゥー・ストロング 5. パッション	**Side B** 1. 土曜の夜は終わったぜ 2. ラブ・ゲッツ・ユー・トゥイステッド 3. プロテクション 4. UFO 5. ドント・ゲット・エキサイテッド
	GRAHAM PARKER	ジ・アップ・エスカレーター		1980年	ニューウェイブ	レコード	日本	80年発表の6作目。デビュー作から共に活動していたルーモアとは最後の共演となった作品。前作発表後にルーモアのボブ・アンドリュース（k)が脱退しており、また同年にはルーモア単独のアルバム『PURITY OF ESSENCE』もボブ抜きで制作／発表されているが、その後にはルーモアは解散している。本作にはルーモアのメンバーの他、ニッキー・ホプキンス(k)、ダニー・フェデリシ(k)、アル・スチュワートのセッションでの仕事でも知られるピーター・ウッド(syn)、ジミー・マエレン(per)、バッキング・ヴォーカルにブルース・スプリングスティーンが参加しており、なかなか豪華な布陣となっているが、これは次作以降の布石にもなっている。 1. はのんびりとした牧歌的な雰囲気も感じさせる曲で、初期を彷彿とさせる仕上がり。こういう曲でのルーモアの演奏はこれ以上の組み合わせはないほどにハマっている。2. は『トラスト』時代のコステロに通じる・・・というよりも典型的なタイプのパーカーの曲だが、ピアノが良いアクセントになっている。この低域から高域まで活かし切るプレイはおそらくはニッキーのものだろう。3. も1. と同じ路線の曲だが、ギターのフレーズがとにかく印象的。5. も乾いたギターが印象的なロカビリー的な風味も感じさせる曲。スクイーズに似た曲（パーカーが先）あるが、こちらも極めて完成度が高い。全体的に佳曲多しだが、今聴いてもまったく古さを感じさせないのがすごい。	**Side A** 1. No Holding Back3:18 2. Devil's Sidewalk3:14 3. Stupefaction3:30 4. Empty Lives5:06 5. The Beating Of Another Heart4:20	**Side B** 1. Endless Night　3:35 2. Paralysed3:12 3. Manoeuvres3:28 4. Jolie Jolie2:59 5. Love Without Greed3:24
	GROPEFRUIT	カモン・マリアンヌ グレープフルーツ・ファースト		1968	ブリティッシュビート	レコード	US	グレープフルーツは1968年に変じてオアシス」でデビュー。このシングルを含むファーストアルバム。ドニー・リヴァース&キャスタウェイズから分裂し結成された英国ポップサイケの代表格。1968年作のファーストです。ビーチ・ボーイズから影響を受け、独自の進化を遂げたフレッシュで美しいハーモニーとスピード感溢れるビート、美しいメロディが一体となった正に傑作です。制作は西海岸の名プロデューサーであるテリー・メルチャーが担当。GRAPEFRUIT は THE BEATLES の設立したアップルと音楽出版の契約を交わした第一号アーティストで、グループ名も John Lennon の提案によるもの。メンバー4人のうち3人が一時期 TONY RIVERS & THE CASTAWAYS に参加していただけあって、コーラスワークも完璧。曲も THE 4 SEASONS のカヴァー「C'mon Marianne」を除いて全てメンバーのオリジナル(1曲以外は全て George Alexander の作曲)で、ポップなメロディ全開の曲ばかり。中でも5枚目のシングルとしてリリースされた「Round Going Round」まさしく傑作です！60年代後半のちょっとサイケデリックでビートルズっぽくもあり、この時代を反映した、サイケデリックなポップグループといった感じの作品。因みに、ベースのジョージ・アレクサンダー、本名アレクサンダー・ヤングは、AC/DCのアンガス＆マルコム・ヤングの兄です。	**Side A** 1. Another Game　2:51 2. Yesterday's Sunshine　3:32 3. Elevator　2:05 4. Yes　2:20 5. C'mon Marianne　2:36 6. Lullaby　3:29	**Side B** 1. Round Going Round　3:00 2. Dear Delilah　2:36 3. This Little Man　2:26 4. Ain't It Cool　2:36 5. Them For Twiggy　3:15 6. Someday　3:02
	HAIRCUT ONE HUNDRED	ペリカン・ウェスト		1982	ニューウェイブ	レコード	日本	UKネオアコ・シーンを代表するHAIRCUT 100の名を知らしめた、ファンカラティーナ超名盤。世界中で大ヒットし、一躍ネオアコ'80'S ポップ・シーンの代表バンドに躍り出た、NICK HEYWARD率いるHAIRCUT 100の1982年リリース1ST。デビューシングルにしてクラシック"FAVOURITE SHIRTS (BOY MEETS GIRL)"をはじめ、"LOVE PLUS ONE"などを収録。 英国の男性SSW、Nick Heywardを擁するポップバン。ニューウェーブとラテンを絶妙のセンスでお洒落にミックスさせたサウンドが格好良いです。この曲がなければフリッパーズのあの名曲も生まれなかったであろう「A1. Favourite Shirts (Boy Meets Girl)」、サビ前のキャッチーなコーラスも耳に残る「B1. Love Plus One」など、名曲のオンパレード。	**Side A** 1. お気に入りのシャツ(ボーイミーツガール) / Favourite Shirts (Boy Meets Girl) 3:06 2. ラブプラスワン　3:34 3. レモン消防隊/Lemon Firebrigade 3:56 4. マリンボーイ　3:33 5. ミルクフィルム　2:53 6. キングサイズ　4:25	**Side B** 1. ファンタスティックデー　3:14 2. ベイクドビーン　4:03 3. スノーガール　2:56 4. Love's Got Me In Triangles 3:38 5. もう一度私を驚かせる / Surprise Me Again 3:19 6. キャプテン・オータムを呼ぶ / Calling Captain Autumn 4:06
	HAIRCUT ONE HUNDRED	ペリカン・ウェスト		1982	ニューウェイブ	レコード	UK			
	HAIRCUT ONE HUNDRED	ペリカン・ウェスト		1982	ニューウェイブ	CD	日本			
	HANOI ROCKS	白夜のバイオレンス		1981	ロック	レコード	日本	マイケル・モンロー、アンディ・マッコイ等によるハノイ・ロックスのデビュー・アルバム。メタルと言うよりグラム、パンク、パワーポップを上手く自分たちなりに解釈して作り上げたR&Rと言える。大体がビジュアル面でアイドル系の扱いの場合は大概がサウンドでの評価が落ちる場合が多く、このハノイ・ロックスも例外では無く音楽面での評価がされないのが残念なバンドだ。 サウンドは荒削りな所も、セルフプロデュース故の完成度の低さも含め、B級なところがなおカッコイイ。1曲目の「白夜のトラジディ」や4曲目「ネバー・リーブ・ミー」、B面の3曲目「11th ストリート・キッズ」などは今でも彼らの「名曲」としては有名。	**Side A** 1. 白夜のトラジディ 2. ヴィレッジ・ガール 3. 泣かないでセブンティーン 4. ネバー・リーブ・ミー 5. ロスト・イン・ザ・シティ	**Side B** 1. ファースト・タイマー 2. 涙のシャイアン 3. 11th ストリート・キッズ 4. ウォーキング・ウィズ・マイ・エンジェル 15. 誘惑のプリテンダー
	HANOI ROCKS	白夜のバイオレンス		1981	ロック	CD	日本			

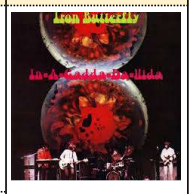
	HANOI ROCKS	オリエンタル・ビート		1982	ロック	レコード	日本	1982年に発表した傑作2ndアルバム。1曲目、MOTORVATIN`のキャッチーで疾走感が全開のイントロが強烈。アルバムは全てキャッチー、疾走感、トラディショナル感が全て詰まっています。第一期HANOI ROCKSは捨て曲なしで、アンディ・マッコイの才能を堪能出来ます。ギタープレイにしても、ちょっと他に見当たらない独特のアレンジで楽しませてくれます。製作当初レコーディングディレクターがハノイロックスの音楽性を理解しておらず、方向性がイマイチ定まっていないまま予算の関係もあり発売されてしまった曰く付きの作品で、ハノイロックスのメンバーも出来に全く納得していなかったらしい。	**Side A** 1. 炎のドライビン 2. ドント・フォロー・ミー 3. ヴィジター 4. ティーンエンジェル・アウトサイダー 5. シティ・ガール	**Side B** 1. モーター・サイクル・ベイビー 2. 無法の街 3. オリエンタル・ビート 4. デビル・ウーマン 5. ライトニン・バー・ブルース 6. フォーレン・スター
	HANOI ROCKS	ミステリー・シティ		1983	ロック	レコード	日本	ハノイ・ロックスの4作目。アンサンブルもよくプロダクションがしっかりしている。この作品は大概の曲が縦乗りなのでモットとは少し違いますが、アルバムを通じてのグリッターな感覚、男っぽさはモット譲りです。このアルバム以降、ギターの音創りがあまりカラフルでなくなり、割と普通のハードロック風になっていくのがちょっと残念。世界的に売るとなると意識してしまうんでしょうか。ドラムはラズルになってからは幾分かタイトになり、ドラムの音数も増えた分重厚になってます。彼は突っ込んだりタメたりと随所で柔軟なドラミングを披露しています。	**Side A** 1. Strange Boys Play Weird Openings ／オープニング 2. Malibu Beach Nightmare ／マリブ・ビーチの誘惑 3. メンタル・ビート 4. トゥーティング・ベク・レック 5. Until I Get You / 愛してほしい	**Side B** 1. Sailing Down The Tears / 瞳の中の影 2. リック・サマー・ラヴ 3. Beating Gets Faster / せつない気持 4. アイス・クリーム・サマー 5. ミステリー・シティ
	HARD STUFF	バレットプルーフ		1972	ハードロク&ヘヴィメタル	レコード	UK	アトミック・ルースターからの彼の無意識の発砲に続いてギタリストのジョン・デュ・カンによって形成されたハード・スタッフは、ディープパープルのパープルレーベルに署名される前にすでに2つの名前を通していました。デーモンは、いくつかのリハーサルを続けました。弾丸は単一を生き延びた。彼らは別の弾丸が彼らに法的苦情を発した後、ハードスタッフになり、防弾は彼らのリポストでした。重くて、大きな音がする。期間レビューはパープルの影響に混乱し、彼らはマークから遠くないが、オルガンはギター、ギター、およびより多くのギターに置き換えるために、ミックスから切除された場合にのみ。デュ・カンのショーボートは、時にははるかにブルージーなクリームやテイストを連想させる猛烈な攻撃ですが、仲間のルースターの同窓生ポール・ハモンド(ドラム)とベテランベーシストのジョン・グスタフソンは、ボリュームと同じくらい美徳で特徴づけられたアルバムを作成	**Side A** 1. Jay Time 2. Sinister Minister 3. No Witch At All 4. Taken Alive 5. Time Gambler (Rodney)	**Side B** 1. Millionaire 2. Monster In Paradise 3. Hobo 4. Mr. Longevity-RIP 5. The Provider-Part One
	Harpers Bizarre「The Secret Life Of Harpers Bizarre」	シークレット・ライフ		1968年	ロック	レコード	US	1967年リリースのハーパース・ビザールのセカンド・アルバムで超名盤。ソフトサウンディングなコンセプト・アルバム。プロデュースはレニー・ワロンカー。後にプロデューサーとして名をあげるテッド・テンプルマンが在籍していたグループとしても有名。 1967年に全米45位を記録した「チャタヌガ・チュー・チュー」と1968年に「全米95位を記録した「ニューオーリンズの闘い」、バート・バカラック作曲の「ミー・ジャパニーズ・ボーイ」を含んだハーパース・ビザールのサード・アルバム。まるで一編の映画のようなコンセプト・アルバムとなっている。中でもロジャー・ニコルス作品の「ザ・ドリフター」が素晴らしい。アレンジャーにニック・デカロ、ベリー・ボトキン・ジュニア、ロン・エリオット他が参加している。基本はソフト・ロックですが、より幻想性が高いと言うか、演劇性が強い気がします。適所に効果音なども導入されており、まさに映画そのまま。美しいメロディとコーラスも聞き物です。15．はロジャー・ニコルズ・アンド・スモール・サークル・オブ・フレンズの曲としても有名。	**Side A** 1．虹を見てごらん(「フィニアンの虹」より) 2．バトル・オブ・ニューオリンズ 3．ホエン・アイ・ワズ・ア・カウボーイ 4．センチメンタル・ジャーニー～間奏曲 5．センチメンタル・ジャーニー 6．ラス・マニャニータス 7．メドレー：バイ・バイ・バイ／ヴァイン・ストリート 8．ジャパニーズ・ボーイ	**Side B** 1．ステアウェイ・トゥ・パラダイス(天国への階段)～間奏曲 2．ステアウェイ・トゥ・パラダイス(天国への階段) 3．グリーン・アップル・トゥリー 4．シット・ダウン・ユーアー・ロッキング・ザ・ボート 5．アイ・ラヴ・ユー、ママ～間奏曲 6．アイ・ラヴ・ユー、ママ 7．ファニー・ハウ・ラヴ・キャン・ビー
	HAWKWIND	ドレミファソラシド		1972年	ハードロク&ヘヴィメタル	レコード	日本	1970年デビューのイギリスのバンドで、ハード・ロック、プログレッシヴ・ロック、グラム・ロックなど様々なジャンルに股をかけて活動。ホークウィンドの3rdアルバム。アルバム挿入曲の「シルバー・マシーン (Silver Machine)」が全英3位の大ヒットとなる。モーターヘッドの結成前に在籍レミー・キルミスターがが参加するはじめてのホークウィンドのアルバムでもある。定番「スペース・リチュアル」を除けば最も有名な作品。代表曲が満載で、この作品で地位を確率したとも言える。全編、宇宙の闇を突き抜けるような冷たく金属的なサウンドが刺激的で、このバンドらしい、素晴らしい内容になっています。吹きまくるサックスと上昇下降を繰り返すエレクトロニクス、ぶんぶんうなるベース、ザクザクとひたすらリズムを刻むギター・・・全てがホークウインドの世界。新たに加入した現モーターヘッドのレミーがぶっといベース・ラインで曲をリードしていくさまが心地よい。どこか安っぽい中にもプログレ、サイケデリック、ハード・ロックなどのブレンドが聴ける名盤だ。	**Side A** 1. シルバー・マシーン 2. ブレインストーム 3. スペース・イズ・ディープ 4. ワン・チェンジ	**Side B** 1. ロード・オブ・ライト 2. ダウン・スルー・ザ・ナイト 3. タイム・ウィ・レフト・ディス・ワールド・トゥデイ 4. ザ・ウォッチャー
	HAWKWIND	スペース・リチュアル（宇宙の祭典）		1973年	ハードロク&ヘヴィメタル	レコード	カナダ	73年5月にリリース。72年12月に行われたリヴァプールとロンドン公演から構成された2枚組ライヴ・アルバム。このアルバムで伺えるパワフルなステージを、2ヶ月間ほぼ1日おきで行ったホークウインド。その当時の勢い、精力的なステージの一端を垣間見ることができます。ここで繰り広げられるリズムとギター、サックス、フルート、電子音の洪水は宇宙空間を突き進むが如く怒濤の推進力で、既存のアルバム収録曲が霞むような迫力。合間に現れる浮遊感のある静の演奏と動の演奏が渾然一体となって圧倒的なトリップ感覚を生み出します。ホークスを代表する1枚であると共に、ロック史に残る名盤。アルバム冒頭の電子音とカルバートの朗読(Earth Calling)からレミーのドライブ感あるベースに引っ張られてスタートするBorn To Goなど新曲が多く含まれており、リリース直後のアルバムDOREMI FASOL LATIDOの拡大版という印象。	**Side1** 1. アース・コーリング 2. ボーン・トゥ・ゴー 3. ダウン・スルー・ザ・ナイト 4. 覚醒/The Awakening **Side2** 1. 光の神/Lord Of Light 2. 黒い回廊/The Black Corridor 3. 深淵なる宇宙/Space Is Deep 4. エレクトロニック No.1	**Side3** 1. オルゴン・アキュムレーター 2. アップサイド・ダウン 3. Brainstorm **Side4** 1. セブン・バイ・セブン 2. ソニック・アタック 3. 離陸の時/Time We Left This World Today 4. 宇宙の支配者/Master Of The Universe 5. 未来への誘い/Welcome To The Future
	HAZEL O'CONNOR	ブレイキング・グラス			ニューウェイブ	レコード	日本	ヘイゼル・オコーナーのデビューアルバム。ヘイゼル・オコーナーはモデルなどの仕事もしたが、ドイツで本格的に音楽に取り組み、レコード契約を結ぶ。1980年にロック映画「ブレイキング・グラス」の女優として主演し、映画サントラとして発表し一躍脚光を浴びる。		
	HEADBOYS	ヒーローへの道		1979	ニューウェイブ	レコード	US			
	HEADBOYS	ヒーローへの道		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	ヘッドボーイズのファストアルバム		
	HEART	ドリームボート・アニー		1976年	ハードロック	レコード	日本	1976年リリース作品。ハートの記念すべきデビュー・アルバム。Heartの最高傑作と言われる。全米アルバムチャートの第7位にランクイン。本作品では主にロック色とアコースティック色に分かれており両者が絶妙に絡み合って相乗効果を生み出し良い作品に仕上がっていると思います。ロック色ではギター・リフが印象的な楽曲『Magic Man』(全米第9位)、イントロのギターがかっこいいツェッペリン風のナンバー『Crazy on You』(全米第35位)、アコースティック色では爽やかさを感じさせる表題曲の『Dreamboat Annie』(全米第43位)、美しいバラードの楽曲『(Love Me Like Music) I'll Be Your Song』が澄んだ明るい光が親密に降り注ぐような感じで秀逸。アン・ウィルソンのあけっぴろげソウルテイストな高音ヴォイスが素晴らしい。 「マジック・マン」「クレイジー・オン・ユー」「夢みるアニー」などの大ヒット・シングルを多数収録。	**Side A** 1. マジック・マン 2. 夢みるアニー(ファンタジー・チャイルド) 3. クレイジー・オン・ユー 4. ソウル・オブ・ザ・シー 5. 夢みるアニー	**Side B** 1. ホワイト・ライトニング・アンド・ワイン 2. ラヴ・ミー・ライク・ミュージック 3. シング・チャイルド 4. ハウ・ディープ・イット・ゴーズ 5. 夢みるアニー(リプライズ)
	HEART	リトル・クイーン		1977	ハードロック	レコード	US	1977年発表。ハートのCBS移籍第1弾であり彼等のセカンド・アルバム。アルバム「ドリームボート・アニー」で一躍アメリカン・ロック・シーンへ登場。シアトルで結成されヴァンクーヴァーで活躍していたウィルソン姉妹を中心とした5人編成のロック・グループ。音楽性はロックンロール、ブルース、ソウル、フォークといった要素がサウンドに取り入れられブレンドしポップ色の濃い音に仕上げられている。本アルバムは全米アルバム・チャート9位まで上昇、ダブル・プラチナを獲得、初期ハートの代表作。ボーナス・トラックはなんとツェッペリンのカヴァー曲も収録されている。	**Side A** 1. バラクーダ 2. 愛を大切に 3. 森の詩 4. 狩人の夢 5. キック・イット・アウト	**Side B** 1. リトル・クイーン 2. やさしくして 3. セイ・ハロー 4. クライ・トゥ・ミー 5. ゴー・オン・クライ
	HEART	マガジン		1978年	ハードロック	レコード	US	『マガジン』(Magazine)は、アメリカのロックバンド、ハートの2枚目の78年リリースのスタジオアルバム。このアルバムは、当初1977年4月19日にバンドの承諾なしに未完成のままマッシュルーム・レコードから発売された。このアルバムの2回目の正式版は1978年4月22日に発売された。アメリカ合衆国とカナダの両方でプラチナアルバムとして認定されている。初期heartのロックを堪能できる名盤。just the wineではストリングスのアレンジが美しく、アンのフルートも聴ける。without youはカバーソング。絶品のバラードを熱唱している。B面のmagazine、73年録音のhere songは純粋に美しい曲。本作はライブ音源も含めて全ての曲がシンプルでピュア。音質は70年代らしく響きの少ない乾いた音。ナローレンジだが音圧が低めなので、楽曲のニュアンスがよくわかり聴きやすい。今ではほとんど聴けなくなったリアルロックを是非とも聴いていただきたい。	**Side A** 1. ハートレス 2. デヴィル・ディライト 3. ジャスト・ザ・ワイン 4. ウィズアウト・ユー	**Side B** 1. マガジン 2. ヒア・ソング 3. マザー・アース・ブルース (ライヴ) 4. アイヴ・ガット・ザ・ミュージック・イン・ミー (ライヴ)
	HEART	ベベ・ル・ストレンジ		1980	ハードロック	レコード	日本	ハードの通算5作目となる80年作。全米最高位5位を記録したアルバム。ヤード成績は素晴らしかったものの、時代がまだ爆発的なバブル期に入る前だったせいか、総売り上げはプラチナ・レコードを得る事は無く、彼女達のキャリアの中でもあまり目立たないアルバムになっている感があります。オリジナル・メンバーのロジャー・フィッシャーが脱退、(彼はその後元SHERIFFのメンバーが結成した名バンド、ALIASに参加)5人編成となったハートはこれまでのツェッペリン魂を受け継ぎながら若干のサウンド変換を試みています。サウンド・プロダクションには当時のNEW WAVEを意識したかの様な軽さ、華やかさがありますが、曲そのものは骨太なものばかりとなり、アンのヴォーカルもしっかりロバート・プラントしてくれているのが目立ちます。以降のポップ路線が信じられない位、ハートのメタリックなハード・ロッカーぶりが光っていたと言え、70年代バンドの最後のプライドが感じられるのではないでしょうか。 この辺は同時期のチープ・トリックにも同じ事が言えると思うのですが、ハード・ロックが出自のバンドがアメリカン・ニュー・ウェイヴとカテゴライズされてしまうのがいかにも時代を感じさせてくれる気がしま		
	HEAVEN 17	ペントハウス・＆ペイヴメント		1981	エレクトロニクス	レコード	UK	ヒューマン・リーグを脱退したマーティン・ウェアーとイアン・マーシュの2人にVoのグレン・グレゴリーを加えて結成したバンドのファーストアルバム。 小説「時計仕掛けのオレンジ」からバンド名がつけられました。		
	HEAVEN 17	ペントハウス・＆ペイヴメント		1981	エレクトロニクス	レコード	日本			
	HEAVEN 17	ザ・ラクシャリー・ギャップ		1982	エレクトロニクス	レコード	日本	ファンキーかつダンサブルでメロディも秀逸。どこを切ってもシングル級の曲が多く、実際に、＃1(全英17位、アイルランド10位)＃3(全英41位、全米74位)＃4(全英2位、アイルランド3位、ドイツ11位、ニュージーランド15位)＃6(全英5位、アイルランド7位)＃8(全米102位)とシングルがヒットし、アルバムチャートでも全英4位(プラチナ・アルバム)、ニュージーランド11位、スウェーデン17位、全米72位を記録した程に素晴らしい曲が並んでおり、巷ではHEAVEN17は1STの方が評価が高いのですが、個人的には2ndの方が好きです。1stのスカスカ感がなくなり、より重厚な電子音楽を聞かせてくれます。 AOR的といってもよいメロディアスな曲が印象に残る。大ヒットしたCome Live with Meはその代表曲。Let me goは今聴いても、美しいコーラスと、うねうねシンセベースにリンドラムの絶妙なマシンドラム、展開も感動的で鳥肌が立ってきます。ポップにソウル色を強めつつ、一皮向けた感があります。80'sエレポップの金字塔		

H	HEAVY METAL KIDS	ヘヴィ・メタル・キッズ登場		1974年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	イギリスのグラマーロックバンドの1974年発表1stアルバム。ポップでヘヴィなギター・リフ、エキセントリックなヴォーカル…AC/DCやピストルズなどにも影響を与えたブリティッシュ・ヘヴィ・ロックの伝説的名盤。ピュアでストレートなロックン・ロールをハードな音で体現していたGary Holton(Vo)を中心としたブリティッシュ・ハードロック・バンド。ヴォーカルのゲイリー・ボルトンのハスキーなヴォーカルとふてぶてしくもエキセントリックなパフォーマンス。「アナーキー～」をちょっと思わせるポップでヘヴィーなギター・リフからプログレッシヴに展開する。ストレートなロックン・ロール、そしてドラマティックなバラードなどとアーリー70’sのブリティッシュ・ロックの美味しいトコどりの名盤。	**Side A** 1. ハンギン・オン– 3:05 2. ハートで行こう(Ain`t It Hard)– 3:00 3. 同じことさ(It`s The Same)– 5:40 4. ラン・アラウンド・アイズ(Run Around Eyes)– 2:57 5. これでお別れ(We Gotta Go) – 4:55	**Side B** 1. プレンティ・オブ・ウィメン(Always Plenty Of Woman) – 3:25 2. ネイチュア・オブ・マイ・ゲイム(Nature Of My Game) – 3:35 3. カインド・ウーマン(Kind Woman) – 4:28 4. ロックン・ロール・マン(Rock`N`Roll Man) – 7:30 5. これでお別れ(We Gotta Go) – 1:20
	HERBIE HANCOCK	ヘッド・ハンターズ		1973年10月13日	フュージョン	レコード	日本	ハービー・ハンコックの本作は、彼がさらにもう一歩踏みだした、記念すべきアルバムである。電気楽器類はもう使い始めていたが、迷いもあった。それが吹っきれたこの1枚は、簡単にいうと、ファンク・R&Bの要素を取り入れ、ファンクのビート、16ビートでアドリブをとりまくった作品だ。ハーモニー的にはシンプルだが、それだけにハンコックのエレクトリックピアノによるソロは、手に汗握る激しさだ。さらに、バンドがー丸となってバシバシ決まる「キメ」も心地よい。本作を聴いた当時のジャズファンは、ハービーも堕落したと非難した。だが、ジャズファン以外へは記録的に売れた。ハービー・ハンコックはしばらくこの路線を続けるが、ジャズを忘れたわけではない。結局、カメレオン的に多彩な活動を平行して行っていく。70年代の、いわゆるフュージョン（当時はクロスオーバーと呼んだ）ブームを代表する名盤である。	**Side A** 1. カメレオン 2. ウォーターメロン・マン	**Side B** 1. スライ 2. ヴェイン・メルター
	HERMAN’S HERMITS	ミセス・ブラウンのお嬢さん		1965	ブリティッシュビート	レコード	日本	ハーマンズ・ハーミッツの1965年発表のアルバム。日本でのファーストアルバム。当時アイドル的な存在だったバンドだけに、オリジナル曲は本当にポップで上質。のちに10ccでも大活躍するグラハム・グールドマン、アイヴィー・リーグでも知られる作曲チームのカーター＝ルイスに加え、カヴァーではあるが、あのゴフィン＝キングの曲も収録。理屈抜きに60年代ビートを楽しめる1枚。「ミセス・ブラウンのお嬢さん」「朝からゴキゲン」「ハートがドキドキ」他収録。	1. ミセス・ブラウンのお嬢さん 2. ハートがドキドキ 3. この世の果てまで 4. ワンダフル・ワールド 5. ショウ・ミー・ガール 6. シー・クルーズ 7. フォー・ユア・ラヴ 8. 朝からゴキゲン 9. シルエット 10. アイ・アンダースタンド 11. ドリーム・ウォン	
	HERMAN’S HERMITS	(ペーパースリーブ仕様) ミセス・ブラウンのお嬢さん		1965	ブリティッシュビート	CD	日本			
	HERMAN’S HERMITS	(ペーパースリーブ仕様) ボス・サイズ・オブ・ハーマンズ・ハーミッツ		1966	ブリティッシュビート	CD	日本	1966年発表の2ndアルバム。”ブリティッシュ・インヴェイジョン”の時代にキャッチーなヒット曲を連発。アメリカで圧倒的な人気を誇ったハーマンズ・ハーミッツの2ndアルバム。	1リトル・ボーイ・サッド 2ストーリー・オブ・マイ・ライフ 3マイ・リザヴェーションズ・ビーン・コンファームド 4バス・ストップ 5フォー・ラヴ 6ホエア・ワー・ユー・ホエン・アイ・ニーディド・ユー（恋する君はどこに） 7オール・ザ・シングス・アイ・ドゥ・フォー・ユー・ベイビー（すべて君のため） 8リーニング・オン・ザ・ランプ・ポスト（恋のランプ・ポスト）（アルバム・ヴァージョン） 9ダイアル・マイ・ナンバー 10ウー・イー・ベイビー 11ジュ・スゥイ・アングレ（ぼくはイギリス人） 12リッスン・ピープル	13ユー・ウォント・ビー・リーヴィング（二人でいつまでも）–bonus section– 14ディス・ドア・スウィングズ・ボス・ウェイズ（ドアがスイング）–bonus section– 15ホールド・オン（アルバム・ヴァージョン）–bonus section– 16ザ・ジョージ・アンド・ドラゴン –bonus section– 17ワイルド・ラヴ –bonus section– 18ホワット・イズ・ロング・ホワット・イズ・ライト –bonus section– 19バイディン・マイ・タイム –bonus section– 20ガット・ア・フィーリング –bonus section– 21カンザス・シティ・ラヴィング –bonus section– 22ガッタ・ゲット・アウェイ –bonus section– 23メイク・ミー・ハッピー –bonus section–
	HERMAN’S HERMITS	(ペーパースリーブ仕様) ゼアズ・ア・カインド・オブ・ハッシュ・プラス		1967	ブリティッシュビート	CD	日本	ハーマンズ・ハーミッツのサードアルバム。ブリティッシュ・ポップスのメロウ・サウンドを代表する名盤。カーペンターズがヒットさせた「見つめあう恋」を筆頭に「イースト・ウエスト」「二人でいつまでも」「ノー・ミルク・トゥデイ」等、キャッチーなナンバー満載のアルバムにサントラ盤収録曲やシングル盤など15曲をプラスした全26曲。	1ゼアズ・ア・カインド・オブ・ハッシュ（見つめあう恋） 2サタデイズ・チャイルド 3イフ・ユア・シンキン・ホワット・アイム・シンキン 4ユー・ウォント・ビー・リーヴィング（二人でいつまでも） 5ダンディ 6ジェザベル 7ノー・ミルク・トゥデイ 8リトル・ミス・ソロウ・チャイルド・オブ・トゥモロウ 9ガスライト・ストリート 10ラトラー 11イースト・ウェスト 12ザ・フューチャー・ミセス・ホーキンズ –bonus section– 13オー・ミスター・ポーター –bonus section– 14トゥー・ラヴリー・ブラック・アイズ –bonus section– 15マイ・オールド・ダッチ –bonus section– 16アイ・キャン・テイク・オア・リーヴ・ユア・ラヴィング（恋は晴れのちくもり）–bonus section–	20ウー・シーズ・ダン・イット・アゲイン –bonus section– 21レモン・アンド・ライム –bonus section– 22ザ・モースト・ビューティフル・シング・イン・マイ・ライフ –bonus section– 23デイジー・チェイン PARTI –bonus section– 24デイジー・チェイン PARTII –bonus section– 25ザ・ワールド・イズ・フォー・ザ・ヤング –bonus section– 26ロンドン・ルック –bonus section– 02.サタデイズ・チャイルド 03.イフ・ユーアー・シンキング・ホワット・アイム・シンキング 04.いつまでも二人で 05.ダンディ 06.イゼベル 07.ノー・ミルク・トゥデイ 08.リトル・ミス・ソロウ、チャイルド・オブ・トゥモロウ 09.ガスライト・ストリート 10.ラトラー 11.イースト・ウエスト
	HOLLIESS	(ペーパースリーブ仕様) スティ・ウィズ・ザ・ホリーズ		1964	ブリティッシュビート	CD	日本	刺激的なコーラス・ワークとアグレッシヴなアンサンブルで熱狂的な支持を得た英国を代表するポップ・グループ、ホリーズの1stアルバム。63年にデビュー・シングル「ジャスト・ライク・ミー」、セカンド・シングル「サーチン」、サード・シングル「スティ」(7.)、4枚目のシングル「ジャスト・ワン・ルック」の発表に続いて発表されたデビュー・アルバム。先に発表されたシングル曲同様に13. のー曲以外はカヴァーとなっているが、時代を考えれば定番の作りといったところだろう。アルバム制作時のメンバーはグラハム・ナッシュ(g、vo)、アラン・クラーク(vo)、トニー・ヒックス(g、vo)、エリック・ヘイドック(b)、ボビー・エリオット(dr) の5人だが、初期のシングルではドン・ラスボーンがドラムスとして参加していた。 1. は彼らにしては黒っぽい仕上がりで、ファルセットとのユニゾンとなるハーモニー・スタイルが新鮮。ギターはベンチャーズ・スタイルに近いと思う。2. はビートルズでもお馴染みの曲。こちらの方がビート・ポップ風の仕上がりである。3. はストーンズのカヴァーでも有名。当然こちらの方がクセが少ない。4. は有名なR＆Bのスタンダード。7. も有名曲だが、おそらくはホリーズのバージョンが一番出来が良く間違いなく必殺の仕上がり。下手ウマのギター・ソロが印象的で、このタメはビートルズの「恋に落ちたら」に並ぶもの。 いわゆるブリティッシュ・ビートの典型的な作品で演奏技術も高いのだが、ビートルズやストーンズの知	1トーキン・バウト・ユー 2ミスター・ムーンライト 3ユー・ベター・ムーヴ・オン 4ルシール 5ベイビー・ドント・クライ 6メンフィス 7スティ 8ロッキン・ロビン 9ホワッチャ・ゴナ・ドゥ・バウト・イット 10ドゥ・ユー・ラヴ・ミー 11イッツ・オンリー・メイク・ビリーヴ(思わせぶり)	12ホワット・カインド・オブ・ガール・アー・ユー 13リトル・ラヴァー 14キャンディ・マン BONUS TRACKS: [15] (Ain't That) Just Like Me [16] Hey What's Wrong With Me [17] Searchin' [18] Whole World Over [19] Now's The Time [20] Zip-A-Dee-Doo-Dah [21] I Understand [22] Stay (stereo version) [23] Poison Ivy (take 10-12)
	HOLLIESS	(ペーパースリーブ仕様) イン・ザ・ホリーズ・スタイル（これがホリーズ・スタイル）		1964	ブリティッシュビート	CD	日本	自信に満ちた表題が示唆する通り、ホリーズのスタイルの確立を印象付けた1965年の2ndアルバム。前作のカヴァー中心の内容から一気にオリジナル曲中心に変化。半数以上の曲がオリジナルとなっており、本作からクラーク／ナッシュ／ヒックスによるソングライター・ネームの「L. ランスフォード」が登場している。オリジナルは2. 3. 5. 9. 10. 11. 12. の7曲で、チャック・ベリーの7. やメドレーの1. を含めて5曲がカヴァーとなっている。あえて当時のオリジナルでのヒット曲「We're Through」を外してあるのも含めて曲作りの面においても当初から実力が高かったことが伺える。また前作のカヴァー中心のアルバムと雰囲気的にはほぼ同じで、前作の多くのスタンダード曲が既にホリーズのスタイルに染まっていたことが逆説的に良く分かる作品でもある。本作はオリジナル中心だが、いわゆるブリティッシュ・ビートの枠から大きく離れないそのジャンルの典型的な作品として楽しめると思う。キンキンのギターと爽やかなコーラス・ワークはこの時代ならではのサウンドである。	1ニッティ・グリッティ サムシングズ・ガット・ア・ホールド・オン・ミー 2ドント・ユー・ノウ 3トゥ・ユー・マイ・ラヴ 4イッツ・イン・ハー・キス 5タイム・フォー・ラヴ 6ホワット・カインド・オブ・ボーイ 7トゥー・マッチ・モンキー・ビジネス 8アイ・ソート・オブ・ユー・ラスト・ナイト(ゆうべもきみを) 9プリーズ・ドント・フィール・トゥー・バッド(悪く思うなよ) 10カム・オン・ホーム 11ユール・ビー・マイン 12セット・ミー・フリー	BONUS TRACKS: [13] Just One Look [14] Keep Off That Friend Of Mine [15] Here I Go Again [16] Baby That's All [17] We're Through [18] Come On Back [19] What Kind Of Love [20] When I'm Not There [21] Yes I Will [22] Nobody [23] We're Through (alternate take) [24] Yes I Will (alternate version) [25] Yes I Will (stereo version)
	HOLLIESS	(ペーパースリーブ仕様) ホリーズ登場！		1965年	ブリティッシュビート	CD	日本	65年発表の3rd。オリジナルとカヴァーがほぼ均等に含まれる初期のスタイルを踏襲した内容だが、当時のヒット・シングルが含まれていないあたりにアルバムとしての完成度を高めようという意志と自信のようなものが伝わってくる。 1. は初期ビートルズ的な簡素なギター・ソロも印象的なマイナー調のマージー・ビート。2. もこの時代の典型的なマージー・ビートだが、短いハーモニカのソロや強力なコーラス・フレーズなど凄まじくポップ。3. もポップなマージー・ビート。4. はロイ・オービソンの曲。5. は穏やかなロッカ・バラード。10. には中期ビートルズ的な雰囲気もあり。オリジナルもカヴァーも彼らなりに消化さていて非常に統一感を感じさせる。いわゆる典型的なマージー・ビート作になっており、本家のビートルズよりもその雰囲気が強いくらいだ。カヴァーの選曲も凄まじくポップ寄りで黒っぽさが少ないのも特徴。	1ヴェリー・ラスト・デイ 2ユー・マスト・ビリーヴ・ミー 3プット・ユアセルフ・イン・マイ・プレイス 4ダウン・ザ・ライン 5ザッツ・マイ・デザイア 6トゥー・メニィ・ピープル 7ローディ・ミス・クローディBONUS TRACKS: 8ホエン・アイ・カム・ホーム・トゥ・ユー 9フォーチュン・テラー	10ソー・ロンリー 11アイヴ・ビーン・ロング 12ミッキーズ・モンキー[13] I'm Alive [14] You Know He Did [15] Look Through Any Window [16] Honey And Wine [17] If I Needed Someone [18] I Can't Get Nowhere With You [19] She Gives Me Everything I Want [20] You In My Arms [21] Look Through Any Window (french version)
	HOLLIESS	(ペーパースリーブ仕様) ウッド・ユー・ビリーヴ?		1966	ブリティッシュビート	CD	日本	グループのキャリアを代表する大ヒット曲のひとつ「アイ・キャント・レット・ゴー」を含む1966年の4thアルバム。本作発表後、エリック・ヘイドック(b)が脱退するためオリジナル・メンバーで制作された作品としては最後となる作品。全体的にやや黒っぽい雰囲気も感じられるが、それは選曲の変化ということもあるのだろう。チャック・ベリーの4. やバディ・ホリーの7. などのロック・クラシックに混じってS＆Gの6. などフォーク系のカヴァーやトラッドの10. オリジナルの2. や9. においてもアコギによるフォーク調の曲が含まれており音楽的な変化も見られる内容だが、シングルでも大ヒットを記録したビート・ポップ調の14. がやはり本作の白眉。この曲には彼らの初期のイメージが濃厚に感じられ、初期ホリーズの残り香のような名曲と言っても良いと思う。こういった新旧の内容が混在するあたりから彼らの歴史上は過渡期の作品とされることが多い本作だが、作品としての魅力は何ら問題はない。素晴しい仕上がりである。	1. アイ・テイク・ホワット・アイ・ウォント 2. ハード・ハード・イヤー 3. ザッツ・ハウ・ストロング・マイ・ラヴ・イズ 4. スウィート・リトル・シックスティーン 5. オリエンタル・サッドネス 6. アイ・アム・ア・ロック	7. テイク・ユア・タイム 8. ドント・ユー・イーヴン・ケア 9. フィフィ・ザ・フリー 10. ステゥーボール 11. アイヴ・ガット・ア・ウェイ・オブ・マイ・オウン 12. アイ・キャント・レット・ゴー
	HOLLIESS	フォー・サートゥン・ビコーズ		1966	ブリティッシュビート	レコード	UK	1966年発売　5枚目のアルバム。全曲オリジナルによりアルバムとしての統一感もしっかり保たれ破綻がない。後に米国のみでシングルカットされた「Pay you back with interest」や米国人シンガーKeithもカバーしシングルカットした「Tell me to my face」、さらに、このアルバム発売前に一足早くシングルとして発売され英米で大ヒットした「Stop stop stop」など、楽曲のクオリティも高い。1966年にリリースされたシングル曲"After The Fox"、同年にリリースされUKシングル・チャートで5位を記録したヒット曲"Bus Stop"」収録。バンジョーが何曲にも使われ、アメリカの雰囲気がある。12曲全曲がアラン・クラーク、グラハム・ナッシュ、トニー・ヒックスによって作曲されている。ホーン・セクションや木管楽器も使われ、サウンドが豪華だ。デビュー当時のビートグループのサウンドではなくなっている。「ハイ・クラスト」はママス&パパスのキャス・エリオットが歌うような曲。	A面 1. What's Wrong With The Way I Live 2. Pay You Back With Interest 3. Tell Me To My Face 4. Clown 5. Suspicious Look In Your Eyes 6. It's You	B面 1.High Classed 2.Peculiar Situation 3.What Went Wrong 4.Crusader 5..Don't Even Think About Changing 6. Stop Stop Stop (Or Honey I'll Be Gone)
	HOLLIESS	(ペーパースリーブ仕様) フォー・サートゥン・ビコーズ		1966	ブリティッシュビート	CD	日本			
	HOLLIESS	(ペーパースリーブ仕様) エヴォリューション		1967	ブリティッシュビート	CD	日本	ホリーズの”サイケデリック・イヤーズ”を代表する1967年の6thアルバム。ジャケット・デザインそのままのカラフルなサウンドと、グループ本来の持ち味であるシャープなポップ・センスが融和した人気作。アルバムとしての評価は、同年発表の次作「バタフライ」が本作をよりコンセプトを高めた形で認知されているものの、サイケデリック影響下にありながらホリーズ印のキャッチーな楽曲が並ぶという点では「エヴォリューション」に1日の長があり、決して引けを取らない傑作。このアルバムに収められたナンバーは、フォーク、ラーガ音楽、カリプソ音楽などの多様な要素を散りばめながら、美しいメロディーとハーモニーを聴かせてくれます。アコースティック・ギターのコードに導かれてディストーション・ギターがリフを響かせる瞬間からアルバムが終わるまで、カラフルで唯美主義的（＝サイケデリック）な刺激に溢れた世界を満喫出来ます。とびっきりポップでサイケデリックな名盤です!!	1.ゼン・ザ・ハートエイクス・ビギン 2.ストップ・ライト・ゼア 3.ウォーター・オン・ザ・ブレイン 4.ララバイ・トゥ・ティム 5.ハヴ・ユー・エヴァー・ラヴド・サムバディ 6.ユー・ニード・ラヴ 7.レイン・オン・ザ・ウィンドウ 8.ヘディング・フォー・ア・フォール 9.オールド・トフィ・ショップ 10.ホエン・ユア・ライツ・ターンド・オン 11.リーヴ・ミー 12.ゲイムズ・ウィ・プレイ 13.ゼン・ザ・ハートエイクス・ビギン（ステレオ・ヴァージョン） 14.ストップ・ライト・ゼア（ステレオ・ヴァージョン） 15.ウォーター・オン・ザ・ブレイン（ステレオ・ヴァージョン）	16.ララバイ・トゥ・ティム（ステレオ・ヴァージョン） 17.ハヴ・ユー・エヴァー・ラヴド・サムバディ（ステレオ・ヴァージョン） 18.ユー・ニード・ラヴ（ステレオ・ヴァージョン） 19.レイン・オン・ザ・ウィンドウ（ステレオ・ヴァージョン） 20.ヘディング・フォー・ア・フォール（ステレオ・ヴァージョン） 21.オールド・トフィ・ショップ（ステレオ・ヴァージョン） 22.ホエン・ユア・ライツ・ターンド・オン（ステレオ・ヴァージョン） 23.リーヴ・ミー（ステレオ・ヴァージョン） 24.ゲイムズ・ウィ・プレイ（ステレオ・ヴァージョン） 25.キル・ミー・クウィック 26.ウィ・アー・アライヴ 27.キル・ミー・クウィック（ステレオ・ヴァージョ

	HOLLIESS	(デジパック仕様) バタフライ		1967	ブリティッシュビート	CD	UK	1967年リリースのホリーズの7thアルバム。60年代後半のサイケデリックブームの時期のホリーズの傑作のバタフライ。このアルバムは、サイケデリック・ロックやフォーク・ロック等の要素をナッシュ独自のポップ・センスとオーケストレーションにより、美しく刺激的なものに仕上げています。 1曲目「Dear Eloise」の幻想的な導入からラストの「Butterfly」の悲しくさえ響く美しさまで、飽きる事無くメロディアスな60年代後期のロックンロール黄金期の世界に浸れます!! 商業的な成功はつかめず、このアルバム後にナッシュはバンドを去る事となってしまうし、このアルバム自体も一時は廃盤となってしまって入手不可能だった様ですが、内容は正に「名盤」と呼べるもの	1ディア・エロイース 2ウェイ・アウェイ・アウェイ 3メイカー 4ペガサス 5ウッド・ユー・ビリーヴ 6ウィッシュユーアウィッシュ	7ポストカード 8チャーリー・アンド・フレッド 9トライ・イット 10エレヴェイテッド・オブザヴェイション 11ステップ・インサイド(とび出せ初恋) 12バタフライ
	HOLLIESS	オール・ザ・ヒッツ・アンド・モア		1988/12/28	ブリティッシュビート	CD	日本	ホリーズの代表曲40曲を収録したベスト盤。	**DISC1** 1 .ジャスト・ライク・ミー 2 .サーチン 3 .ステイ 4 .ジャスト・ワン・ルック 5 .ヒア・アイ・ゴー・アゲイン 6 .ウィアー・スルー 7 .イエス・アイ・ウィル 8 .アイム・アライブ 9 .恋は窓から 10 .イフ・アイ・ニード・サムワン 11 .アイ・キャント・レット・ゴー 12 .バス・ストップ 13 .ストップ・ストップ・ストップ 14 .ベイ・ユー・バック・ウィズ・インタレスト 15 .恋のカルーセル 16 .キャリー・アン 17 .キング・マイダス 18 .ディア・エロイズ 19 .ジェニファー・エクルス 20 .リッスン・トゥ・ミー 21 .ごめんねスザンヌ 22 .兄弟の誓い	**DISC2** 1 .迷える僕 2 .懐しのガリソン・アレー 3 .ヘイ・ウィリー 4 .喪服の女 5 .ベイビー 6 .カーリー・ビリー 7 .安らぎの世界へ 8 .サンディ 9 .アイム・ダウン 10 .ダディ・ドント・マインド 11 .結婚しては早すぎる 12 .ソルジャーズ・ソング 13 .イフ・ザ・ライツ・ゴー・アウト 14 .テイク・マイ・ラブ・アンド・ラン 15 .ギブ・ミー・タイム 16 .ハートビート 17 .テル・ミー・ハウ 18 .ドント・レット・ミー・ダウン
	HOWARD JONES	かくれんぼ		1984	エレクトロニクス	レコード	日本			
	HOWARD JONES	オンリー・ゲット・ベター 12インチャーズ		1985	エレクトロニクス	レコード	日本			
	HUEY LEWIS AND THE NEWS	スポーツ		1983	ロック	レコード	日本	1983年リリース作品。ヒューイ・ルイス&ザ・ニュースの人気を決定づけたサード・アルバムで、全米チャートで長期間にわたり1位を記録している。「アイ・ウォント・ア・ニュー・ドラッグ」や「ハート・オブ・ロックン・ロール」などヒット・ナンバーが満載。	1 ハート・オブ・ロックン・ロール THE HEART OF ROCK AND ROLL 2 ハート・アンド・ソウル HEART AND SOUL 3 バッド・イズ・バッド BAD IS BAD 4 アイ・ウォント・ア・ニュー・ドラッグ I WANT A NEW DRUG 5 ウォーキング・オン・ア・シン・ライン WALKING ON A THIN LINE	6 君のもとへ FINALLY FOUND A HOME 7 いつも夢みて IF THIS IS IT 8 ユー・クランク・ミー・アップ YOU CRACK ME UP 9 ホンキー・トンク・ブルーズ HONKY TONK BLUES
	HUEY LEWIS AND THE NEWS			1983	ロック	レコード	日本	前作「SPORTS」に、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」から、「The Power of Love」「Back in Time」の大ヒットと、ノリにノッた状態で出された4作目。ゴルフ好きの彼らしく、「危ない！」を意味する掛け声、「FORE！」がタイトルに据えた、余裕の一枚。 中身はこれまでとまったく変わらないロックンロールがずらりなんだが、大ヒットの余裕からか、よりどっしり構えた感がある。これまで以上に“Tower of Power”によるホーン・セクションが目に付き、場末のロックバンドから、すっかりスタジアム・バンド然としたところがある。無理にスケールアップを狙ったって感じでもなく、違和感がない。 (1)(2)が全米1位、(4)(5)も大ヒット。得意のアカペラもあり、バラエティに富んだ内容で一気に聞かせる、ヒューイ達を語る上でこれも欠かせない。	1ジェイコブズ・ラダー 2スタック・ウィズ・ユー 3ホール・ロッタ・ラヴィン 4すべてを君に 5ヒップ・トゥ・ピー・スクェア	6アイ・ノウ・ホワット・アイ・ライク 7アイ・ネヴァー・ウォーク・アローン 8パワー・オブ・ラヴ 9愛しき人々 10ナチュラリー 11シンプル・アズ・ザット
	HUMAN LEAGUE	人類零年		1979	エレクトロニクス	レコード	UK			
	HUMAN LEAGUE	幻の果てに		1980	エレクトロニクス	レコード	ドイツ			
	HUMAN LEAGUE	ラヴ・アクション		1981	エレクトロニクス	レコード	US			
	HUMAN LEAGUE	ラヴ・アンド・ダンシング		1982	エレクトロニクス	レコード	UK			
	HUMAN LEAGUE	ヒステリア		1984	エレクトロニクス	レコード	US			
	HUMBLE PIE	アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	スモール・フェイセス解散後、スティーヴ・マリオットがザ・ハードのピーター・フランプトンらと結成したハンブル・パイの記念すべき1stアルバム。人気があった二人が結成したバンドと言う事でスーパーグループ誕生と言われ、メンバー各々がそれまでのヒット・ポップス・バンドから脱皮を狙って結成した当初の音楽的方向は”ダーティー・ロックンロール”と呼ばれるものであった。R&Bとロックンロール色の濃いアルバムとなっているが、一方でアコースティックな感覚も忍ばせるなど、マリオットとフランプトンの個性の違いを表した興味深い作品となっている。尚、収録曲の「デスペレイション」はステッペンウルフのカヴァーで、「グロウイング・クローサー」はスティーヴ・マリオットがかつて在籍していたスモール・フェイセスのメンバー、イアン・マクレガン作の曲。全英アルバムチャートで32位。デビュー・シングル「あいつ(Natural Born Bugie)」は、全英シングルチャートで最高4位を記録。	**Side A** 1. デスペレイション 2. スティック・シフト 3. バター・ミルク・ボーイ 4. グロウイング・クローサー 5. アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ	**Side B** 1. バン! 2. アラバマ’69 3. アイル・ゴー・アローン 4. ア・ニフティ・リトル・ナンバー・ライク・ユー 5. ホワット・ユー・ウィル
	HUMBLE PIE	(ペーパースリーブ仕様) アズ・セイフ・アズ・イエスタデイ・イズ		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本		以下、CDボーナス・トラック 11あいつ 12リスト・ジョブ	
	HUMBLE PIE	(ペーパースリーブ仕様) タウン・アンド・カントリー		1969年	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	ハンブル・パイのセカンド・アルバム。全体的にアコースティックでフォーキーない色合いを強めた作品。「アズ・セイフ・アズ・イエスデイ・イズ」とこの作品は、同じ時期のセッションから制作され、「アズ・セイフ～」に比較的ヘビーな曲を集めたため、アコースティック・セットが残ってしまった、というのも知られた話です。米国ルーツ音楽に近寄ろうとした気配も感じられますし、ボーカルが三人もいるためバッファーロー・スプリングフィールドやバーズあたりを意識していたのかもしれません。実に渋くて、いい曲が多いです。フランプトンがトラッド、フォークの味わいを持ち込んだと感じられるかもしれませんが、マリオットも半分曲を書いています。「タウン・アンド・カントリー」というタイトルとジャケットのコンセプトから、マリオット対フランプトンという色合いを感じられるかたがいらしたら、それは誤解。ファーストとセカンドは完成度はともかく、共にデモだったと思います。次作に「ハンブル・パイ」というタイトルをつけて、実質のスタートとしているのが根拠です。 3.はラーガ・ロック。4.はスティーヴの渋くて甘いナンバー。7.はカントリー。8.はポップ・ロック。10.はスプーキー・トゥースそっくり。9.と11.がアコースティックでスペーシーなピーターの曲。11.は素晴らしい。曲の粒が揃っているという点では意外とこのアルバムが最高なのではと思う。	1. テイク・ミー・バック 2. シェイキー・ジェイクの哀れな物語 3. ライト・オブ・ラヴ 4. コールド・レディー 5. ダウン・ホーム・アゲイン 6. オリー・オリー 7. エヴリ・マザーズ・サン 8. ハートビート 9. オンリー・ユー・キャン・シー 10. シルヴァー・タン 11. ホーム・アンド・アウェイ	以下、CDボーナス・トラック 12. 79TH ストリート・ブルース 13. グレッグス・ソング

	HUMBLE PIE	大地と海の歌		1970年	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	1970年リリースのA&M移籍後の心機一転第1弾アルバム・・・通算3作目。R&Bをルーツにしたラフなロックをやってます。スティーブマリオット・ピーターフランプトン・グレッグリドレー・ジェリーシャーリーの4人によるブリティッシュロックの良さを伝える1枚。ピーター・フランプトンが在籍し、メンバーそれぞれの思惑のはざまで成立していた、この時期も捨てがたい魅力です。ピアズレーの絵をを配したカバーのイメージとかなり違い、ヘビーロックのお手本のような作品です。オープニングを飾るLive With Meの地べたを這いずるごとき重さ、劇的展開は、ツェッペリンにも劣りません。そうしたヘビー曲が4曲。メンバーそれぞれが作曲しボーカルもとる4曲がその間に配置される構成です。メンバーそれぞれの曲は全てカントリーに根差していて、4人ともアメリカのルーツ・ミュージック好きだったことが判ります。それが共作になると別グループかと思うぐらいブルーズとハード・ブギの世界になるのが不思議。おそらくこの頃のパイのメンバーはお互いをリスペクトしていて、これでもか、これでもか、とセッションを重ねるうち、重い音になっていったのではないか、と。よく言われているように、フランプトンのみがアコースティック指向を持っていたわけではありません。それどころか、彼の歪んだギターこそが、前期パイの破壊的魅力の基本です。改めて聞くと、マリオット、フランプトン、ジェリー・シャーリー、グレッグ・ライドリーの演奏能力、歌の上手さに恐れ入ります。	**Side A** 1. リヴ・ウィズ・ミー 2. オンリー・ア・ローチ 3. スネイク・ルンバ 4. 大地と海の歌	**Side B** 1. アイム・レディー 2. スキントのテーマ 3. レッド・ライト・ママ,レッド・ホット! 4. スウィート・ヴァイン
	HUMBLE PIE	スモーキン		1972	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	日本	72年作。ハンブル・パイの通産5作目となったアルバム。ブリティッシュ・ハード史に残る名盤。 本作から音楽性の違いにより脱退したピーター・フランプトンに代わり、元コロシアムのクレム・クレムソンが参加しています。ポップ指向とスター性を備えていたフランプトンの脱退により、バンドはますますスティーブ・マリオット主導のものになっていきます。ソウル・ミュージックとハード・ロックの融合がここで完成し、唯一無比の個性を生み出していきます。 MR. BIGがカヴァーした事でも有名な「30 Days in the hole（ほら穴の30日間）」が本作からヒットし、バンドは人気絶頂期を迎えようとします。	1. ホット・アンド・ナースティ 2. フィクサー 3. ユア・ソー・グッド・フォー・ミー 4. カモン・エブリバディ 5. オールド・タイム・フィーリン 6. ほら穴の30日 7. ロード・ランナー/ロード・ランナー・G・ジャム 8. アイ・ワンダー 9. スイート・ピース・アンド・タイム	
	HYDRA	不死身のロック魂		1974年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	ヒプノシスによるジャケットが目を引くハイドラのデビューアルバムです。UKロックに通じるようなブリティッシュ風な曲展開に、サウンドはカラッと乾いたアメリカン・ハード・ロック!。オールマンズを擁したカプリコーンレーベルから1974年にデビューした実はサザンロックバンド。セカンドの「ランド・オブ・マネー」とレーベル移籍した後のサードの「ロック・ザ・ワールド」の方がよりブリティッシュ然としていますが、このファーストはまだアメリカン・ハードロック然としており、このテイストも悪くありません。	**Side A** 1. Glitter Queen 4:04 2. Keep You Around 5:20 3. It's So Hard 4:49 4. Going Down 3:06 5. Feel A Pain 6:25	**Side B** 1. Good Time Man 3:23 2. Let Me Down Easy 4:23 3. Warp 16 4:22 4. If You Care To Survive 2:59 5. Miriam 7:42
I	IAN DURY	ニュー・ブーツ・アンド・パンティーズ		1977	パブロック	レコード	日本	エルビスコステロやニック・ロウらとともにパブ・サーキットから飛び出したパブ・ロックの雄イアン・デューリーの記念すべきデビュー作にしてヒット作。 盟友CHAS JANKELのセンスと共にソウルやファンク、レゲエやワールドを消化した最高のロックンロールが詰まった永遠のパブ・ロック・クラシック。	**Side A** 1. ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラヴ・ウィズ・ミー 2. スウィート・ジーン・ヴィンセント 3. アブラカダブラ 4. マイ・オールド・マン 5. ビラリキー・ディッキー	**Side B** 1. クレヴァー・トレヴァー 2. イフ・アイ・ウォズ・ウィズ・ア・ウーマン 3. ブロックヘッズ 4. ブラーストウ・パトリシア 5. ブラックメール・マン
	IAN DURY	ニュー・ブーツ・アンド・パンティーズ		1977	パブロック	レコード	UK		Side A 1. ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラヴ・ウィズ・ミー 2. スウィート・ジーン・ヴィンセント 3. アブラカダブラ 4. マイ・オールド・マン 5. ビラリキー・ディッキー	Side B 1. クレヴァー・トレヴァー 2. イフ・アイ・ウォズ・ウィズ・ア・ウーマン 3. ブロックヘッズ 4. ブラーストウ・パトリシア 5. ブラックメール・マン
	IAN DURY	ニュー・ブーツ・アンド・パンティーズ		1977	パブロック	CD			1ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラヴ・ウィズ・ミー 2スウィート・ジーン・ヴィンセント 3アブラカダブラ 4マイ・オールド・マン 5ビラリキー・ディッキー 6クレヴァー・トレヴァー 7イフ・アイ・ウォズ・ウィズ・ア・ウーマン 8ブロックヘッズ 9ブラーストウ・パトリシア 10ブラックメール・マン	以下、CDボーナストラック 11. INTORO BY VINYL MOGUL 12. ウェイク・アップ・アンド・メイク・ラヴ・ウィズ・ミー 13. スウィート・ジーン・ヴィンセント 14. マイ・オールド・マン 15. ビラリキー・ディッキー 16. クレヴァー・トレヴァー 17. イフ・アイ・ウォズ・ウィズ・ア・ウーマン 18. ブロックヘッズ 19. ブラーストウ・パトリシア
	IAN DURY	ドゥ・イット・ユアセルフ		1979	パブロック	レコード	UK	1979年発表のセカンド・アルバム。今作からはブロック・ヘッズ名義になった。結果として演奏、アレンジ、楽曲にと前作を上回っている。ただ、ここにはアルバムに先だってリリースしたシングル曲たちが含まれて居らず、ファーストほどのキャッチーさはない。（「アルバムとシングルは別物」とイアン本人が断固切り捨てたらしい。）タイトに煮詰めた楽曲は現在聴いても知的で新しく、なるほどこの曲順にはこの楽曲とアレンジしかないよな、と思う。チャス・ジャンケルは今作でブロック・ヘッズを去りそれと共にイアンの人気も下降したが、それはそれ。アルバム3～4枚スターダムが続くのはメジャーの世界の話でイアンたちは大健闘だ。実際ここでイアン＋チャスのコンビは一度完結している。発売当時この音は「けつの青いガキ」であった私には衝撃的で、なにせ演奏が抜群に巧い。そしてファースト(イアン名義だからか？）で垣間見たブルービートの影が全くない。真正ブロック・ヘッズ、唯一ここにありき。	1インビトウィーニーズ 2クワイエット 3ドント・アスク・ミー 4シンク・マイ・ボート 5ウェイティング・フォー・ユア・タクシー 6ディス・イズ・ホワット・ウィ・ファインド 7アンイージー・サニー・デイ・ホッツィ・トッツィ 8ミスチーフ 9ダンス・オブ・ザ・スクリーマーズ 10ララバイ・フォー・フランシス	
	IAN DURY	（ペーパースリーブ仕様） ドゥ・イット・ユアセルフ		1979	パブロック	CD	日本			
	IAN DURY	ラーフター		1980	パブロック	レコード	US	1980年発表のサード・アルバム。80年発表の3rd。チャズ・ジャンケルの脱退に伴い、同時期にドクター・フィールグッドを脱退していたウィルコ・ジョンソンが参加した話題作。いわばパブ・ロックの両雄が揃った格好になっており、またプレイヤーとしてのみならずソングライターとしても有能なウィルコの参加はチャズの穴を埋めるにはもってこいの人材とも言えるが、典型的なタテノリの彼とこれまた典型的なヨコノリのブロックヘッズの演奏との噛み合いの悪さは聞く前から想像に難しくはない。しかしながらそのすぐに分かるギターとブロックヘッズ、そしてストリングスが加わった1．は見事なパブ／ファンクに仕上がっており、そんな不安は一気に消え失せる。本作でのウィルコの楽曲提供は11．のみとなっているが、先行シングルで発表された全米51位の「スーパー・マンズ・ビッグ・シスター」も彼の手によるものだった。またゲストとしてドン・チェリー(tp)、レイ・クーパー(per) なども参加しており、蓋を開けてみれば作品の出来栄は文句なし。こんなことは言うまでもないがパブ・ロック・ファン必聴の作品である。チャズはいないが本当に良い曲が集まっており、他のメンバーのソングライティングの実力の高さが伺える。特に12．は代表曲の一つと言ってよいと思う。今から思えばもったいないということに尽きるのだが、本作を最後にデュリーはブロックヘッズと袂を分かち、再度チャズ・ジャンケルと組む事となる。	01Sueperman Big Sister 02Pardon 03Delusions Of Grandeur 04Yes And No (Paula) 05Dance Of The Crackpots 06Over The Points 07(Take Your Elbow Out Of The Soup)You're Sitting On The Chicken	08Uncoolohol 09Hey、Hey Take Me Away 10Manic Depression (Jimi) 11Oh Mr Peanut 12F**king Ada 13I Want To Be Straight 14That's Not All 15You'll See Glimpses
	IAN GOMM	ホワット・ア・ブロウ			ニューウェイブ	レコード	US	ブリンズリー・シュウォーツにいたギタリスト、イアン・ゴムが解散後ソロになり、英アルビオンから1980年に発表した2nd。このアルバム、昔レコファンで輸入盤がよく売ってて、当時値段が2000円以上したので敬遠してたけど、あれから約20年、いいかげん安くなった中古盤を手に入れて聞いてみたら、いいじゃないですかこれ。内容は元同僚ニック・ロウに通じるシンプルで味わい深いR&Rにレゲエが入ったポップソング集で、 コステロ先生やグレアム・パーカーみたいなアクの強さは全然ないものの、地味ながら楽しい1枚。ブリンズリー時代にもあったパディ・ホリー風味の可愛らしい曲が入ってるのがいいね。この人もニック・ロウと同じく昔のR&Rが大好きでたまらないんだろうな…。あの時代特有のキラキラシンセ入りの軽めの音は作風の地味さもあって物足りなさもあるが、その分繰り返し聴きたくなる軽快さ。プロデュースはストラングラーズやバズコックス、ジェネレーションX等を手がけた職人マーティン・ラシェント。シャープなビートサウンドを録らせると上手い人なので本作もそれっぽい音作りです。		
	IAN GOMM	ホワット・ア・ブロウ			ニューウェイブ	レコード	US	元ブリンズレイ・シュワルツ。パブロックといやあブリンズレイの2ndギタリストにして2ndヴォーカル＆コンポーザーさん。 あのニック・ロウ氏の「恋する二人」の共作者。スティッフ・レーベルで唯一（たしか）全米TOP20内にHIT飛ばした男。ブリンズレイ解散後、パンクの世では音楽稼業やっていく自信がなく自主制作で1stアルバム「サマー・ホリデイ」を出した。凄いアルバムでした。「恋する二人」がチャートインし最高位12位。ホールド・オンは18位。作曲家として2曲ものチャート曲持ちだ。それで2ndアルバムは製作も同じマーティン・ラシェント氏。バズコックスでパンクでも直球POP職人かました方だ。ミュージシャンも純正英国布陣。ベースに名手ハービー・フラワーズ氏、スティール・ギターにはBJコール氏も。ハービーさんは1stの時も参加。		
	IDLE RACE featurring JEFF LINNE	ベスト・オブ・アイドル・レース		1990	ロック	CD	フランス	アイドル・レース（ジェフリン）のベスト盤。	The End Of The Road The Morning Sunshine The Lady Who Said She Could Fly Happy Birthday The Birthday Girl At The Window Big Chief Woolly Bosher Here We Go Round The Lemon Tree My Father's Son The Skeleton And The Roundabout Come With Me Going Home	Mr Crow And Sir Norman Please No More Sad Songs Follow Me Follow On With The Show Lucky Man Imposters Of Life's Magazine Days Of The Broken Arrows I Like My Toys Sea Of Dreams A Better Life (The Weatherman Knows) Warm Red Carpet Someone Knocking Hurry Up John
	IGGY POP	ニュー・ヴァリューズ		1979	ロック	レコード	US	ARISTAレーベル移籍後の第1弾アルバム。プロデュースはSTOOGESの盟友JAMES WILLIAMSON、ギター、キーボードでSCOTT THURSTON、ドラムスでTANGERINE DREAMのKLAUS KRUGERが参加。パンク・アンセム"I' M BORED"、"FIVE FOOT ONE"などなど、IGGYがソングライターとしての実力を覚醒させたコンパクトなロックンロール・ナンバーが並ぶキレの良い名盤。"DON' T LOOK DOWN"はのち84年にDAVID BOWIEが『TONIGHT』でカヴァー。 曲、アレンジともに無駄が全くない凄くタフなサウンド。当時のパンク・ニューウエイヴへの彼なりの回答として面白い。しかし幾多の若いパンクスと違うのはイギーを含めてバンドが非常に巧いことで、ミニマムな音でこれだけの重みと疾走感が出せるのは流石。お馴染みの才人スコット・サーストンはここでは主にギター担当している。バッキングも見事だが、全編、楽譜に起こせそうな素晴らしいラインのソロを聴かせている。特にタイトル曲の間奏は攻撃的だが美しい。プロデュースはJウイリアムソン。	1. Tell Me a Story 2:47 2. New Values 2:36 3. Girls 2:57 4. I'm Bored 2:45 5. Don't Look 3:35 6. The Endless Sea 4:47	7. Five Foot One 4:28 8. How Do Ya Fix a Broken Part 2:52 9. Angel 3:41 10. Curiosity 2:26 11. African Man 3:33 12. Billy Is a Runaway 2:26
	INMATES	ファースト・オフェンス		1979	ニューウェイブ	レコード	日本	インメイツのデビュー・アルバム『ファースト・オフェンス』は、1979年にリリースされたアメリカ・ナショナル・チャートで40位に達した。60年代のR＆Bを自分たちのオリジナルで貫き、まるで80年代のローリングストーンズな感じで、ヴォーカルがミックジャガーかと思わせる位に素晴らしい。楽曲は全てカッコ良い！		
	INMATES	ショット・イン・ザ・ダーク		1980	ニューウェイブ	レコード	日本			

	INXS	シャブー・シュバー		1980	ロック	レコード	日本	オーストラリア出身のロック・バンド。インエクセスのサードアルバム。本作は前2作に比べるとニューウェーブ色からビートの効いたロック・アルバムへ変化した作品になっている。 1.「THE ONE THING」が全米デビュー・シングルとなり30位を記録(オーストラリア14位) 10.のDON'T CHANGE」('82年全米80位、オーストラリア14位)GOO GOO DOLLSもカヴァー 2.「TO LOOK AT YOU」('83年オーストラリア36位) 6.「BLACK AND WHITE」('83年オーストラリア24位)と4枚のシングルがヒットした。アルバムもオーストラリア5位、全米46位とヒット。	1. The One Thing 2. To Look at You 3. Spy of Love 4. Soul Mistake 5. Here Comes	6. Black and White 7. Golden Playpen 8. Jan's Song 9. Old World New World 10. Don't Change
	INXS	シャブー・シュバー		1980	ロック	CD	日本			
	INXS	スウィング		1984	ロック	レコード	日本	インエクセスの通算4枚目のアルバム。洗練されたロック・サウンドが聴くことができる好盤。 1曲目の「ORIGINAL SIN」は、ナイル・ロジャースがプロデュースし、ダリル・ホールがコーラスで参加したこの曲は'83年 オーストラリアでNO.1、ニュージーランド6位、スイス23位、全米58位と大ヒット。その他、3曲目の「I SEND A MESSAGE」('84年オーストラリア2位、ニュージーランド18位、全米77位)、9曲目の「BURN FOR YOU」('84年オーストラリア3位、ニュージーランド29位)、4曲目の「DANCING ON THE JETTY」('84年オーストラリア39位)と4枚のシングルがヒットし、アルバムもオーストラリアNO.1、ニュージーランド6位、全米52位を記録。	Side A 1. オリジナル・シン 2. 太陽の誘惑 3. メッセージ 4. ダンシング・オン・Z・ジェティ 5. スウィング	Side B 1. ジョンソンの飛行機 2. ホワット・アイ・セイ 3. フェイス・ザ・チェンジ 4. バーン・フォー・ユー 5. オール・ザ・ヴォイス
	INXS	スウィング		1984	ロック	CD	日本		1. Original Sin 2. Melting In The Sun 3. I Send A Message 4. Dancing On The Jetty 5. The Swing	6. Johnson's Aeroplane 7. Love Is (What I Say) 8. Face The Change 9. Burn For You 10. All The Voices
	INXS	キック		1987	ロック	レコード	UK?	インエクセスの通算6枚目となるアルバム。60年代のソウル・ミュージックを隠し味にしながらも、臆することなく打ち込みを取り入れているため、いわゆるニュー・ウェーヴと呼ばれるサウンドのようでもあるが、全体のグルーヴ感はロック以外の何物でもなく、音楽ファンの新たなニーズに応えることとなった。初の全米No.1シングルとなった「ニード・ユー・トウナイト」をはじめ、トータル4曲ものトップ10シングルを叩き出し、彼らを世界トップ・クラスの座へと導いた出世作となった。	Side A 1. Guns In The Sky 2. New Sensation 3. Devil InSide 4. Need You Tonight 5. Mediate 6. The Loved One	Side B 1. Wild Life 2. Never Tear Us Apart 3. Mystify 4. Kick 5. Calling All Nations 6. Tiny Daggers
	INXS	キック		1987	ロック	CD	US			
	INXS	X		1990	ロック	CD	日本	前作の大ヒットした「KICK」に続き'90年にリリースされた7枚目のアルバム。本作は全米で200万枚のセールスを記録し、全米で最高2位の大ヒットを記録し、全英2位、本国オーストラリアでもNO.1を記録した。 ここから4枚のシングルがカットされヒット。1「SUICIDE BLONDE」全米9位、全英11位。2「DISAPPEAR」全米8、全英21位。9「BITTER TEARS」全英30位。5「BY MY SIDE」全英42位。前作よりノリがあり勢いのある楽曲が多い。	1. Suicide Blonde 2. Disappear 3. The Stairs 4. Faith In Each Other 5. By My Side 6. Lately	7. Who Pays The Price 8. Know The Difference 9. Bitter Tears 10. On My Way 11. Hear That Sound
	INXS	ホエアエヴァー・ユー・アー		1992	ロック	CD	日本	1992年にリリースされた8枚目のオリジナル・アルバム。全米16位(プラチナ・アルバム)、全英NO.1、スウェーデンNO.1、スイス2位、オーストラリア2位各国でも高セールスを記録した。今までのバンドのサウンドと異なり、前作あたりからでてきた、実験的な部分(ノイジーな雰囲気のあるダンス・ビート)も確立しつつも、音の厚みや迫力、そして聴きやすいメロディーから非常に良くできたアルバムと思います。個々の楽曲は正直に書いてしまうと出来不出来が激しく、特に後半はカップリング集のようなクオリティのまま終わってしまう印象は否めません。ただ試行錯誤が実を結んだシングル曲群は、いつ聴いても素晴らしいの一言。全身で飛び込めるスリルに満ちた"Heaven sent"、INXSのラヴ・ソング中で最もエレガントな"Not enough time"、切なく優しい哀歌"Beautiful girls"など素晴らしい曲も多く是非聴いて欲しいアルバムだ。 また、アルバムから5枚のシングルカットがされ、 2曲目「HEAVEN SENT」(オーストラリア14位、全英31位、スウェーデン35位) 4曲目「TASTE IT」(全英21位、ニュージーランド31位、オーストラリア37位) 5曲目「NOT ENOUGH TIME」(全米28位) 7曲目「BABY DON'T CRY」(全英20位、オーストラリア30位、ニュージーランド34位) 8曲目「BEAUTIFUL GIRL」(全英23位、オーストラリア34位、全米46位、ニュージーランド50位) と、まずまずのヒットとなった。	1. Questions 2. Heaven Sent 3. Communication 4. Taste It 5. Not Enough Time 6. All Around	7. Baby Don't Cry 8. Beautiful Girl 9. Wishing Well 10. Back On Line 11. Strange Desire 12. Men And Women
	IRON MAIDEN	鋼鉄の処女		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	80年作。記念すべきアイアン・メイデンのデビュー作となったアルバムです。NWOBHMシーンが爆発したのは、間違いなく本作をきっかけとしたと言っても過言ではないと思います。 その印象的なジャケットから、バンド名、そして飛び込んでくるスピーディーなナンバーは全てが新しく聴こえたものでした。ほぼ同時期にジューダス・プリーストが「BRITISH STEEL」をリリースし、メタル・ゴッドの愛称を自ら生み出していますが、まさに英国ハードの過渡期を作ったのはこの両者だったのは誰もが納得するところだと思います。言ってみればこの2枚のアルバムは、それまでのヘヴィ・メタルという大雑把なイメージを包括的にまとめてくれたわけで、当然の事として以降のシーンも両輪で牽引したのだと思います。 直線的、鋭角なリフを主体に、歌メロはかなり聴きやすいとも思えるキャッチーさがジューダスの新機軸だったとしたなら、メイデンの新しさはツイン・リードとベースのユニゾンを含む攻撃的な疾走感、低音ヴォーカルでのシャウトと吐き捨てる様な唱法が挙げられると思います。当時のパンク・ファンが、メイデンをすんなり受け入れていた事を考えると、この違いはかなり大きなものであったのではないでしょうか。確かに初代ヴォーカリストのポール・ディアノの情緒過多にならない、言わばクールとも言える声にはパンキッシュな魅力も有りましたが、メイデンの奥深い音楽性はそれだけでは語り尽くせません。すでにプログレからの影響を露わにしていて、複雑な曲、リズムの構成はそれまでの様式美ハード・ロックには見られなかったもので、クラシックやブルースを下敷きにしたブリティッシュ・ハードの歴史を見事塗り替えた感すらあります。スティーヴ・ハリスのドンシャリ感満載のベースも独特で、ギター3本に聴こえてしまうバンド・サウンドの分厚さも特筆すべき点でしょう。加えてこの時点のこの作品をツェッペリンやサバス、パープル、あるいはシン・リジィやUFOといったそれまでの大物バンドと似ても似つかない独創性を完成させていたのは、今改めて聴き直しても奇跡的な事であったと思います。	**Side A** 1. プローラー – Prowler (Harris) [3:52] 2. リメンバー・トゥモロー – Remember Tomorrow (DiAnno/Harris) [5:25] 3. ランニング・フリー – Running Free (DiAnno/Harris) [3:14] 4. オペラの怪人 – Phantom Of The Opera (Harris) [7:05]]	**Side B** 1. トランシルヴァニア – Transylvania (Harris) [4:06] 2. ストレンジ・ワールド – Strange World (Harris) [5:40] 3. 娼婦シャーロット – Charlotte The Harlot (Murray) [4:10] 4. 鋼鉄の処女 – Iron Maiden (Harris) [3:31
	IRON MAIDEN	キラーズ		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	81年作。アイアン・メイデンのセカンドアルバム。ますますパワー・アップ、楽曲の構成力も一気に向上。初代ヴォーカリストのポール・ディアノの最後の作品となる。スピード、メロディ、共に素晴らしく、本作の持つ熱と緊張感こそが当時の英国メタルそのものであったとする事もできるかもしれません。全メタル・ファン必聴の1枚です。ヴォーカリストのポール・ディアノはディアノというグループを結成し、どちらかとういとハードポップへと一時方向転換するが最終的にはヘヴィメタへ戻ってくる。	**Side A** 1. 3月15日 – The Ides Of March – 1:46 2. ラスチャイルド – Wrathchild – 2:54 3. モルグ街の殺人 – Murders In The Rue Morgue – 4:18 4. アナザー・ライフ – Another Life – 3:22 5. ジンギス・カン – Genghis Khan – 3:06	**Side B** 1. 無実の逃亡者 – Innocent Exile – 3:53 2. キラーズ – Killers (Di'Anno, Harris) – 5:01 3. 悪魔の魔法 – Prodigal Son – 6:11 4. パーガトリー – Purgatory – 3:20 5. ドリフター – Drifter – 4:48 6. 幻影のトワイライト・ゾーン – Twilight Zone (Harris, Murray) – 2:34
	IRON MAIDEN	ライヴ！！＋ワン		1980	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	●12インチシングル:「アイアン・メイデン・ライヴ!!+ワン」。本作のメンバーは、スティーヴ・ハリス(B)、ポール・ディアノ(Vo)、デイヴ・マーレイ(G)、クライヴ・バー(Dr)、デニス・ストラットン(G)。 1980年7月4日のロンドンのマーキークラブのライブ3曲と、スカイフックのカバー④を収録したミニLP。本作は当初日本でのみリリースされたレア・アイテム。 ①DRIFTER 本作でしか聞けずレア曲 ②シングル「Women in Uniform」B面曲 ③シングル「Sanctuary」B面曲。④スカイフックスの原曲をパンクテイストでカバー。	**Side A** 1. Sanctuary 2. Phantom Of The Opera	**Side B** 1. Drifter 2. Women In Uniform
	IRON MAIDEN	ヘヴィ・メタル・アーミー(ヘビーメタル軍 – 乙女日本ライブ!)		1981	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	●12インチシングル:「ヘヴィ・メタル・アーミー メイデン・イン・ジャパン!!」。メンバーは、スティーヴ・ハリス(B)、ポール・ディアノ(Vo)、デイヴ・マーレイ(G)、クライヴ・バー(Dr)、デニス・ストラットン(G)。 1981年5月23日、名古屋の高成ネンキンホールで録音された4曲の12インチミニアルバム。アナログはA面①、②、B面③、④で、アルバムタイトルはディープ・パープルの「Made in Japan」のパロディ。この公演がポール・ディアの在籍時の最後の録音物だそうです。	**Side A** 1. running free 2. .remember tomorrow	**Side B** 1. .killers 2. .innocent exile
	IRON MAIDEN	魔力の刻印		1982	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	US	82年作。アイアン・メイデンのサード・アルバム。ヴォーカルがサムソンのブルース・ディッキンソンが参加し、現在のメイデンの基礎が完成した大傑作。前任ヴォーカリストのポール・ディアノのパンキッシュな魅力を今だに愛する人も少なくないと思いますが、本作より現在に繋がる。NWOBHMの荒々しく疾走するイメージは、あのディアノ独特の歌唱方法が象徴していた。ただブルースの表現力が大きく楽曲の幅を広げ、特にメロディアスでドラマティックな構成が目立つ様になる事になり、メイデンこそ正統派メタルというイメージを定着させた。アルバム・タイトル曲や、「Run To The Hill」では、そして彼等の永遠のアンセムとして輝く「ハロウド・ビー・ザイ・ネーム 審判の日」等は、このバンド特有の高揚感が初めて披露され、以降のライヴでの定番曲となると共に、大合唱できるスタジアム型メタルがここから始まった気がします。同時期のNWOBHMバンド、そしてそれまでのブリティッシュ・ハードとは大きく違った個性を提示、そして彼等の王道スタイルが完成した。	Side A 1. 侵略者 – Invaders (Steve Harris) [3:24] 2. 吸血鬼伝説 – Children Of The Damned (Harris) [4:35] 3. ザ・プリズナー – Prisoner (Adrian Smith, Harris)[6:03] 4. アカシア・アベニュー22 – 22 Acacia Avenue (Harris, Smith) [6:37]	**Side B** 1. 魔力の刻印 – The Number Of The Beast (Harris) [4:51] 2. 誇り高き戦い – Run To The Hills (Harris) [3:53] 3. 暗黒の街 – Gangland (Smith, Clive Burr)[3:48] 4. 審判の日 – Hallowed Be Thy Name (Harris) [7:12]
	IRON MAIDEN	サムホエア・イン・タイム		1986年6月29日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	日本	前作より2年振りにリリースされた6thアルバム。ギター・シンセを取り入れつつも極上のメロディと最高のスピード感が同居するメタル・サウンドを展開、アイアン・メイデンの勢いを堂々と見せつけた傑作。全英3位、全米11位を記録。1986年作品。	**Side A** 1. サムホエア・イン・タイム [7:25] 2. ウエイステッド・イヤーズ [5:07] 3. 帰らざる航海 – Sea Of Madness [5:41] 4. ヘヴン・キャン・ウエイト [7:21]	**Side B** 1. 長距離ランナーの孤独 – The Loneliness Of The Long Distance Runner [6:31] 2. ストレンジャー・イン・ア・ストレンジ・ランド [5:44] 3. デジャ＝ヴ [4:56] 4. アレキサンダー・ザ・グレイト [8:35]

	IRON MAIDEN	ベスト・オブ・ザ・ビースト		1996	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	UK		1. 魔力の刻印　Number of the beast 2. キャン・アイ・プレイ・ウィズ・マッドネス 3. ファイア・ザ・ダーク (live) 4. 誇り高き戦い　Run to the hills 5. ブリング・ユア・ドーター 6. ジ・イーブル・ザット・メン・ドウ 7. 撃墜王の孤独　Aces high 8. ビー・クイック・オア・ビー・デッド 9. 悪夢の最終兵器（絶滅2分前）2 Minutes to midnight	10. マン・オン・ジ・エッジ 11. ヴァイラス 12. ランニング・フリー (live) 13. ウエイステッド・イヤーズ 14. 透視能力　Clairvoyant 15. 明日なき戦い　Trooper 16. 審判の日　Hallowed be thy name
	IRON BUTTERFLY	ガダ・ダ・ヴィダ		1968	ロック	レコード	US	Iron Butterflyが1968年にリリースした2ndアルバム。1960年代アトランティック・レーベルで唯一100万枚以上を売り上げ、現在全世界で累計3,000万枚?の売り上げを誇る大名盤。’60年代オルガン・ロック／サイケ・ロックの金字塔。彼らの演奏スタイルとしてはキーボード（オルガン）主体のサウンドでThe Doorsに影響を受けているかの様です。特に1曲目の楽曲『Most Anything You Want』はThe Doorsが1967年にリリースした楽曲『Light My Fire：ハートに火をつけて』にそっくりです。（特にオルガンのメロディーラインが）そして何と言ってもメインは17分を超える大作『In-A-Gadda-Da-Vida』ですね。永遠に続く耳馴染みのあるリフをメインにドラム・ソロを始め色々なスタイルの音色が組み込まれている様は素晴らしいの一言につきます。延々と繰り出される中盤の間奏はさておき、曲の骨格は、以後のブルーズ・ロックや、ハード・ロックと大して変わっていない。ロックの基本形はこの頃、既に出来上がっていた事が分かる。特に前半はポップで、意外と聴きやすい。	A面 1. Most Anything You Want　03:42 2. Flowers and Beads　03:06 3. My Mirage　04:53 4. Termination　02:51 5. Are You Happy　04:30	B面 1. In-A-Gadda-Da-Vida インナ・ガダ・ダ・ヴィダ　17:02
	It's a Beautiful Day	イッツ・ア・ビューティフル・デイ		1969年6月	ロック	レコード	日本	69年リリース。ジョージ・ハンターがデザインし、ケント・ホリスターが描いたジャケットで有名なイッツ・ア・ビューティフル・デイのファーストアルバム。"Bombay Calling"をディープ・パープルがパクって"Child In Time"をつくったことでも知られる。60年代後半に輩出したサンフランシスコのロックバンドで、クラッシク畑出身のヴァイオリニストのデヴィッド・ラフレイムと妻でキーボード担当のリンダ・ラフレイムとともに、ボーカリストのパティ・サントスをフィーチャーしたバンド。時には優しく、また時にはアヴァンギャルドに展開されるロックサウンドは、人期は異彩を放つものだった。かれらの代表作「ホワイト・バード」が収められたこのデビューアルバムは、シスコロックの名盤、輝きに満ちた頃のウエストコーストサウンド、サニー・カリフォルニアに吹く優しい風、ウッドストックから心を込めて伝わってくる味わい深いサウンド	**Side A** 1. ホワイト・バード 2. ホット・サマー・デイ 3. ウェイステッド・ユニオン・ブルース 4. ガール・ウィズ・ノー・アイズ	**Side B** 1. ボンベイ・コーリング 2. ブルガリア 3. タイム・イズ